

令和元年度 統一的な基準による財務書類に関する情報

総務省

- 目次 -

都道府県名

長野県

市区町村名 ページ

| | | | | | | | |
|------|----|------|----|------|-----|-------|-----|
| 長野市 | 2 | 川上村 | 42 | 高森町 | 82 | 山形村 | 122 |
| 松本市 | 4 | 南牧村 | 44 | 阿南町 | 84 | 朝日村 | 124 |
| 上田市 | 6 | 南相木村 | 46 | 阿智村 | 86 | 筑北村 | 126 |
| 岡谷市 | 8 | 北相木村 | 48 | 平谷村 | 88 | 池田町 | 128 |
| 飯田市 | 10 | 佐久穂町 | 50 | 根羽村 | 90 | 松川村 | 130 |
| 諏訪市 | 12 | 軽井沢町 | 52 | 下條村 | 92 | 白馬村 | 132 |
| 須坂市 | 14 | 御代田町 | 54 | 売木村 | 94 | 小谷村 | 134 |
| 小諸市 | 16 | 立科町 | 56 | 天龍村 | 96 | 坂城町 | 136 |
| 伊那市 | 18 | 青木村 | 58 | 泰阜村 | 98 | 小布施町 | 138 |
| 駒ヶ根市 | 20 | 長和町 | 60 | 喬木村 | 100 | 高山村 | 140 |
| 中野市 | 22 | 下諏訪町 | 62 | 豊丘村 | 102 | 山ノ内町 | 142 |
| 大町市 | 24 | 富士見町 | 64 | 大鹿村 | 104 | 木島平村 | 144 |
| 飯山市 | 26 | 原村 | 66 | 上松町 | 106 | 野沢温泉村 | 146 |
| 茅野市 | 28 | 辰野町 | 68 | 南木曾町 | 108 | 信濃町 | 148 |
| 塩尻市 | 30 | 箕輪町 | 70 | 木祖村 | 110 | 小川村 | 150 |
| 佐久市 | 32 | 飯島町 | 72 | 王滝村 | 112 | 飯綱町 | 152 |
| 千曲市 | 34 | 南箕輪村 | 74 | 大桑村 | 114 | 栄村 | 154 |
| 東御市 | 36 | 中川村 | 76 | 木曾町 | 116 | | |
| 安曇野市 | 38 | 宮田村 | 78 | 麻績村 | 118 | | |
| 小海町 | 40 | 松川町 | 80 | 生坂村 | 120 | | |

令和元年度 財務書類に関する情報①

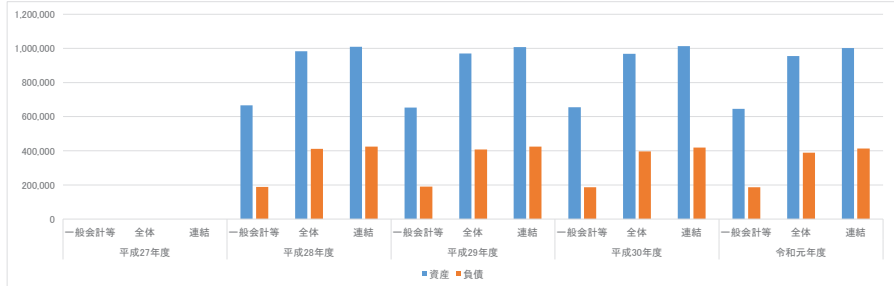
団体名 長野県長野市
団体コード 202011

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 375,884人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 2,527人 |
| 面積 | 834.81km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 87,609.247千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 中核市 | 実質公債比率 | 2.8% |
| | | 将来負担比率 | 50.7% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

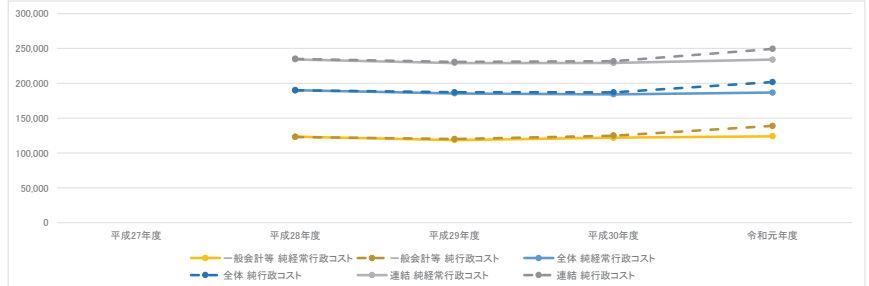
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 一般会計等 | 資産 | 667,184 | 667,184 | 653,232 | 654,879 | 646,074 |
| | 負債 | 188,744 | 188,744 | 189,480 | 185,989 | 187,427 |
| 全体 | 資産 | 983,576 | 983,576 | 970,398 | 968,700 | 954,421 |
| | 負債 | 410,658 | 410,658 | 406,980 | 396,009 | 388,358 |
| 連結 | 資産 | 1,010,473 | 1,010,473 | 1,007,522 | 1,014,196 | 1,001,373 |
| | 負債 | 424,083 | 424,083 | 424,495 | 419,811 | 413,718 |



分析:
本市は令和元年度東日本台風災害で被災したため、一般会計等では、資産総額が前年度から8,805百万円(1.3%)減少、負債総額が1,438百万円(0.8%)増加となった。負債の増加は、災害復旧事業債の発行に伴う市債残高の増加などによるもの。資産の減少については、減価償却費に加えて、災害復旧費及び災害関連経費の財源となる国庫補助金の一部が翌年度の収入となったことにより、その不足分を現金預金及び財政調整基金の取崩などで賄ったことなどによる。
水道事業会計、下水道事業会計を加えた全体会計では、総資産額が14,279百万円(1.5%)の減少、総負債額が7,651百万円(1.9%)の減少となり、資産・負債ともに減少した。
長野広域連合、長野市土地開発公社等を加えた連結会計でも、総資産額が12,823百万円(1.3%)の減少、負債総額が6,093百万円(1.5%)の減少となった。
類似団体と比較すると、合併の経過から市域が広く、資産、負債ともに上位であることから、引き続き、公共施設マネジメント指針の基本的な考え方に基づく中長期的な取組みを推進していく必要がある。

2. 行政コストの状況

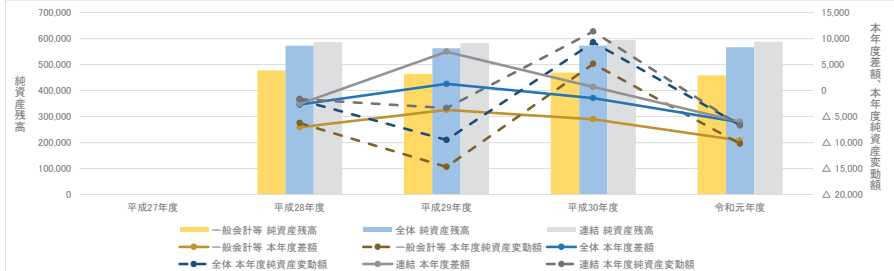
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 123,265 | 118,497 | 122,010 | 123,961 |
| | 純行政コスト | | 122,969 | 120,090 | 124,916 | 138,955 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 190,124 | 185,459 | 184,118 | 186,700 |
| | 純行政コスト | | 189,826 | 187,031 | 187,031 | 201,816 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 234,230 | 229,242 | 229,224 | 233,948 |
| | 純行政コスト | | 235,186 | 230,744 | 231,617 | 249,393 |



分析:
一般会計等、全体、連結、すべての会計で純経常行政コスト、純行政コストともに、前年度よりコストが増加した。
一般会計等においては、経常費用及び純経常行政コストが前年比1.6%増加に対して、臨時損失を含む純行政コストでは、14,039百万円(11.2%)の増加となった。これは東日本台風災害復旧事業のため、災害復旧事業費が前年より13,527百万円(91.4%)と大幅に増加したことによるものであり、以降の全体、連結会計の純行政コスト増加の理由も同様である。
全体会計では、経常費用が前年比1.0%増加、純経常行政コストが1.4%の増加に対し、純行政コストは、前年比14,792百万円(7.9%)の増加となった。
連結会計では、経常費用が前年比1.7%増加、純経常行政コストが2.1%の増加に対し、純行政コストは、前年比17,776百万円(7.7%)の増加となった。
本市が保有する資産が類似団体平均よりも多いことから、これに伴い発生する減価償却費が類似団体平均の約1.4倍となっているため、「公共施設等総合管理計画」に基づき、施設経費の縮減と適正配置や計画的な長寿寿命化を進める必要がある。

3. 純資産変動の状況

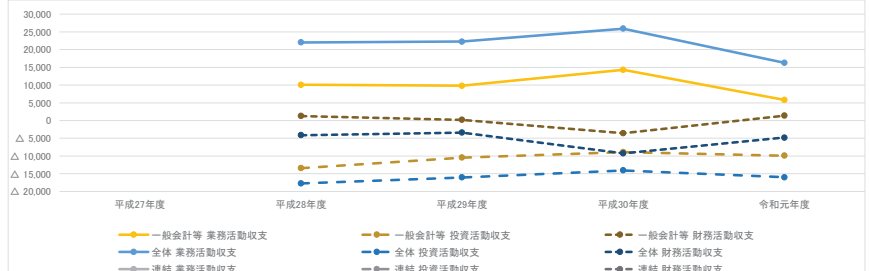
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △7,049 | △3,725 | △5,497 | △9,613 |
| | 本年度純資産変動額 | | △6,257 | △14,688 | 5,138 | △10,242 |
| | 純資産残高 | 478,440 | 463,752 | 468,890 | 458,648 | 458,648 |
| 全体 | 本年度差額 | | △2,724 | 1,291 | △1,456 | △6,097 |
| | 本年度純資産変動額 | | △1,840 | △9,500 | 9,272 | △6,628 |
| | 純資産残高 | 572,918 | 563,418 | 572,691 | 566,062 | 566,062 |
| 連結 | 本年度差額 | | △2,544 | 697 | 697 | △6,002 |
| | 本年度純資産変動額 | | △1,653 | △3,363 | 11,358 | △6,730 |
| | 純資産残高 | 586,390 | 583,027 | 594,385 | 587,655 | 587,655 |



分析:
一般会計等においては、収収等の財源(129,342百万円)が国県等補助金の増加等により8.3%増加したものの、純行政コスト(138,955百万円)も災害復旧事業費などで前年より11.2%増加したため、純行政コストが財源を上回った。本年度差額は△9,613百万円となり、前年よりも差が拡大した。このため、純資産残高は458,648百万円となり、前年より10,242百万円(2.2%)減少した。
全体会計では、収収等の財源が5.5%増加したが、純行政コストも7.9%増加し財源を上回ったため、本年度差額は△6,097百万円となり、差が拡大した。純資産残高は、前年から6,629百万円(1.2%)減少の566,062百万円となった。
連結会計では、収収等の財源が4.8%増加したが、純行政コストも7.7%増加し財源を上回ったため、本年度差額は△6,002百万円となり、前年プラスから大幅マイナスとなった。純資産残高は、前年度から6,730百万円(1.1%)減少の587,655百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 10,059 | 9,799 | 14,300 | 5,819 |
| | 投資活動収支 | | △13,425 | △10,429 | △8,896 | △9,923 |
| | 財務活動収支 | | 1,252 | 227 | △3,566 | 1,370 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 22,002 | 22,256 | 25,886 | 16,278 |
| | 投資活動収支 | | △17,723 | △16,060 | △14,074 | △15,990 |
| | 財務活動収支 | | △4,114 | △3,403 | △9,247 | △4,815 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | |
| | 投資活動収支 | | | | | |
| | 財務活動収支 | | | | | |



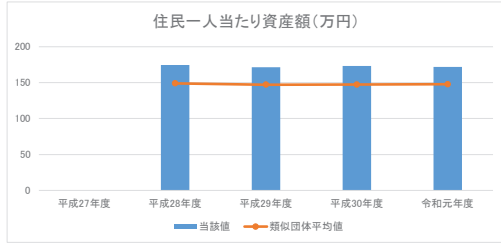
分析:
資金収支計算書の各収支の状況について、『業務・投資・財務』の順に一般会計等は、『+・+・+』、全体は、『+・+・+』である。
一般会計等においては、業務活動収支は5,819百万円となり、前年から8,481百万円(59.3%)減少した。投資活動収支では、第一中学校給食センター改修事業などの大規模工事が竣工し、公共施設等整備費支出が15,099百万円(63.5%)増加したため、収支は△9,923百万円となり、前年より1,027百万円(11.9%)減少した。財務活動収支は、災害対策債(東日本台風災害)や学校給食施設整備債等の地方債等発行収入が5,332百万円増加し、償還を上回ったためプラス1,370百万円となり、本年度末資金残高は前年度から2,733百万円(66.8%)減少の2,078百万円となった。
全体会計では、国民健康保険料や介護保険料が収収等に含まれること、水道料金等の使用料、手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より10,459百万円多い16,278百万円となっている。投資活動収支は、前年比1,916百万円減少の△15,990百万円となっている。財務活動収支は△4,815百万円となり、本年度末資金残高は前年度から4,527百万円(16.2%)減少し、23,458百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

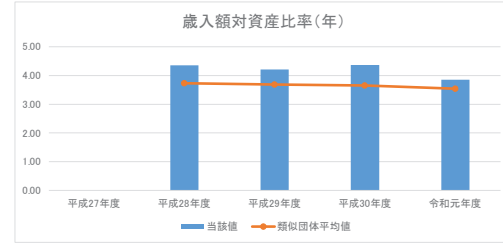
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | | 66,718,415 | 65,323,228 | 65,487,887 | 64,607,427 |
| 人口 | | 382,001 | 380,459 | 378,025 | 375,884 |
| 当該値 | | 174.7 | 171.7 | 173.2 | 171.9 |
| 類似団体平均値 | | 149.0 | 147.1 | 147.3 | 147.9 |



②歳入額対資産比率(年)

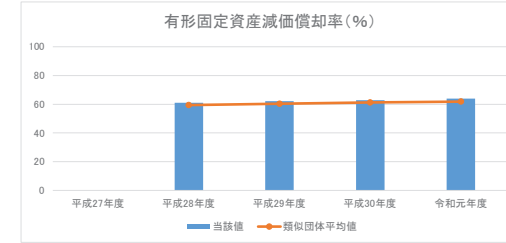
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 667,184 | 653,232 | 654,879 | 646,074 |
| 歳入総額 | | 153,259 | 155,205 | 150,368 | 167,881 |
| 当該値 | | 4.35 | 4.21 | 4.36 | 3.85 |
| 類似団体平均値 | | 3.73 | 3.68 | 3.65 | 3.54 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 544,300 | 550,008 | 566,482 | 583,447 |
| 有形固定資産 ※1 | | 891,708 | 885,839 | 900,613 | 912,261 |
| 当該値 | | 61.0 | 62.1 | 62.9 | 64.0 |
| 類似団体平均値 | | 59.4 | 60.3 | 61.2 | 61.8 |

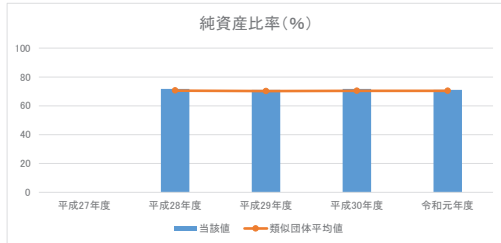
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

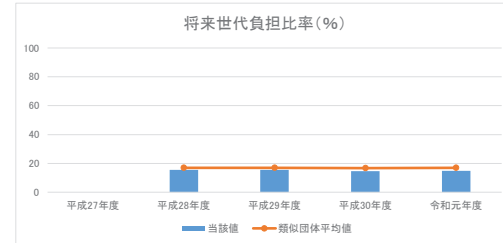
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | | 478,440 | 463,752 | 468,890 | 458,648 |
| 資産合計 | | 667,184 | 653,232 | 654,879 | 646,074 |
| 当該値 | | 71.7 | 71.0 | 71.6 | 71.0 |
| 類似団体平均値 | | 70.5 | 70.2 | 70.3 | 70.3 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 地方債残高 ※1 | | 93,399 | 92,103 | 86,946 | 88,398 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 607,774 | 595,841 | 595,454 | 591,343 |
| 当該値 | | 15.4 | 15.5 | 14.6 | 14.9 |
| 類似団体平均値 | | 16.9 | 16.9 | 16.7 | 16.9 |

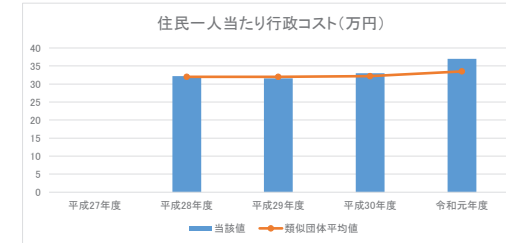
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

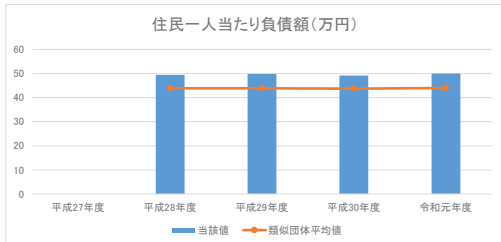
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 純行政コスト | | 12,296,897 | 12,008,962 | 12,491,612 | 13,895,493 |
| 人口 | | 382,001 | 380,459 | 378,025 | 375,884 |
| 当該値 | | 32.2 | 31.6 | 33.0 | 37.0 |
| 類似団体平均値 | | 32.0 | 32.0 | 32.2 | 33.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

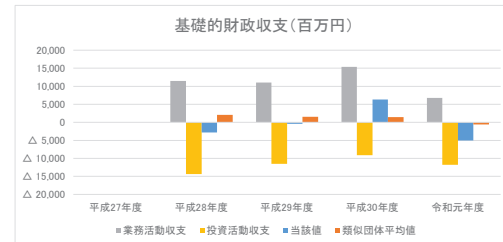
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 負債合計 | | 18,874,433 | 18,948,032 | 18,598,920 | 18,742,668 |
| 人口 | | 382,001 | 380,459 | 378,025 | 375,884 |
| 当該値 | | 49.4 | 49.8 | 49.2 | 49.9 |
| 類似団体平均値 | | 43.9 | 43.8 | 43.7 | 44.0 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|----------|----------|---------|----------|
| 業務活動収支 ※1 | | 11,476 | 11,044 | 15,419 | 6,805 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 14,325 | △ 11,491 | △ 9,091 | △ 11,800 |
| 当該値 | | △ 2,849 | △ 447 | 6,328 | △ 4,995 |
| 類似団体平均値 | | 2,055.9 | 1,549.9 | 1,405.3 | △ 614.2 |

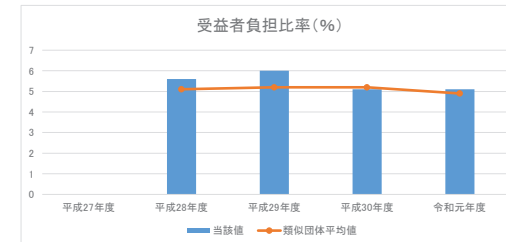
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 経常収益 | | 7,361 | 7,623 | 6,577 | 6,640 |
| 経常費用 | | 130,626 | 126,121 | 128,586 | 130,600 |
| 当該値 | | 5.6 | 6.0 | 5.1 | 5.1 |
| 類似団体平均値 | | 5.1 | 5.2 | 5.2 | 4.9 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は類似団体平均より16%(24万円)程度高く、多くの資産を保有していることが分かる。
令和元年度に歳入額対資産比率が減少したのは、災害により国・県からの補助金収入等が増加したことにより分母が増加したためであり、依然として類似団体平均より高い水準となっている。

有形固定資産減価償却率も平均を上回っていることに加え、値の上昇率も高いため、平均よりも老朽化が進んでいると考えられる。

本市では、平成29年3月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、施設全体の床面積を20年間で20%縮減することや計画的な点検・改修による長寿命化等に取り組んでいるが、平均よりも多くの古い資産を保有しているため、比率の減少につながりにくいと考えられる。引き続き、公共施設の量と質の最適化を図る必要がある。

2. 資産と負債の比率

住民一人当たり資産・負債ともに類似団体平均を上回っており、人口に対する資産・負債の保有量は大きい。資産と負債の比率は純資産比率により平均的であることがわかる。

将来世代負担比率は、地方債残高が増え有形無形固定資産が減少したため前年よりわずかに上昇した。
類似団体平均より低く抑えられているが、本市は資産を多く保有しているため、そのことを考慮しながら、資産の量と質の適正化に努める必要がある。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、例年、類似団体平均を上回っている。これは、資産保有量が他団体より多いことから、これにより発生する減価償却費や維持補修費が他団体より多いためである。
令和元年度は、災害のため、災害復旧事業費が前年より大幅に増加したことにより、行政コストが増加したため、前年比及び類似団体平均との比較でも大幅に上回るようになった。

4. 負債の状況

資産の多さに比例し、負債も平均値を上回っている。
負債総額のうち85%程度を占める地方債残高は、160,273百万円であるが、このうち70%程度は将来において交付税措置されるものである。
基礎的財政収支は、業務活動収支の黒字が圧縮し、投資活動収支の赤字が増加したため、△4,995百万円となり、類似団体平均を上回る赤字となった。

投資活動収支は、大規模工事の竣工があり、公共施設整備費支出が増加したため赤字が2,709百万円増加したものであり、業務活動収支は、災害復旧事業費支出が前年の10倍以上の支出となったため、黒字が8,614百万円減少したためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、経常収益、経常費用ともに増加したため、横ばいとなった。
類似団体平均が減少したため、令和元年度はわずかに上回るようになった。
引き続き行政サービスの利用者の負担に関する基準(「H20年7月」)に基づき、適正な利用者負担に努めていく必要がある。

令和元年度 財務書類に関する情報①

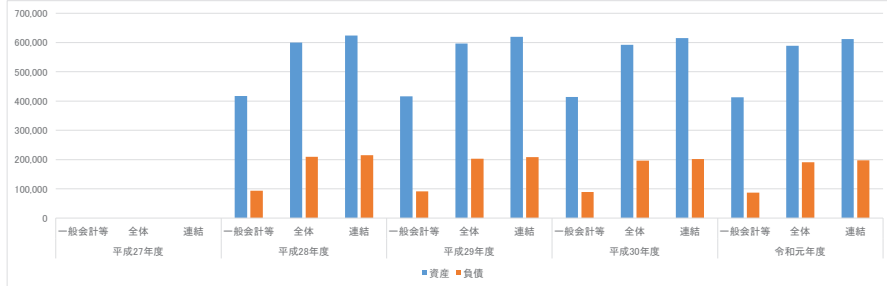
団体名 長野県松本市
団体コード 202029

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 238,737人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 1,569人 |
| 面積 | 978.47km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 56,742.662千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 旅行時特例市 | 実質公債費率 | 4.2% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

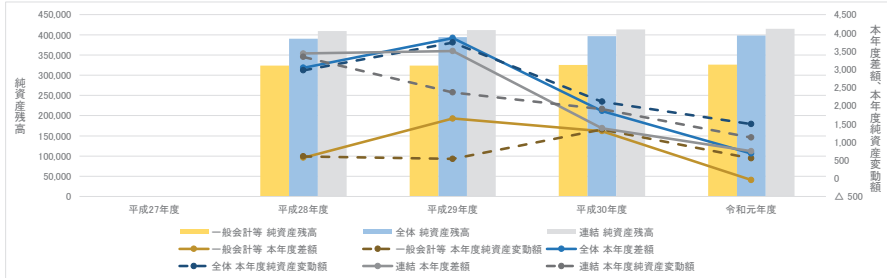
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|-------|
| 一般会計等 | 資産 | 417,448 | 415,671 | 414,148 | 413,358 | |
| | 負債 | 93,891 | 91,580 | 88,715 | 87,378 | |
| 全体 | 資産 | 599,387 | 596,599 | 592,236 | 588,875 | |
| | 負債 | 208,891 | 202,363 | 195,904 | 191,055 | |
| 連結 | 資産 | 623,691 | 619,682 | 614,929 | 612,197 | |
| | 負債 | 214,551 | 208,176 | 201,523 | 197,672 | |



分析:
一般会計等において、資産合計は413,358百万円となり、前年度末比790百万円の減(Δ0.19%)となった。これは減価償却の進行等による有形固定資産の減少(Δ182百万円)や、スポーツ施設の改修等に伴う基金取崩しによる基金の減少(Δ1,413百万円)などによる。一方、固定負債において、地方債が945百万円減少するなど、負債全体で1,338百万円の減少となった。資産の減少より、負債の減少が進み、差引きである純資産は、547百万円増加している。このことは、世代的負担が大きくなり、市債の借入を抑制する取組みの結果が反映されている。
全体会計における資産合計は前年度末比3,361百万円の減(Δ0.57%)、負債総額は前年度末比4,849百万円の減(Δ2.48%)となっている。一般会計等との比較では、特に、総資産に対する負債の割合が、一般会計等が21.1%に対し、全体会計では32.4%となっているのが特徴で、これは水道事業や下水道事業において、将来の使用料収入で資金の回収をすることを前提として市債を活用する仕組みとなっていることが要因と考えられる。
連結会計における資産合計は612,197百万円(Δ2,732百万円)で、一般会計等の1.48倍、負債総額は197,672百万円(Δ3,851百万円)で一般会計等の2.26倍となっている。

3. 純資産変動の状況

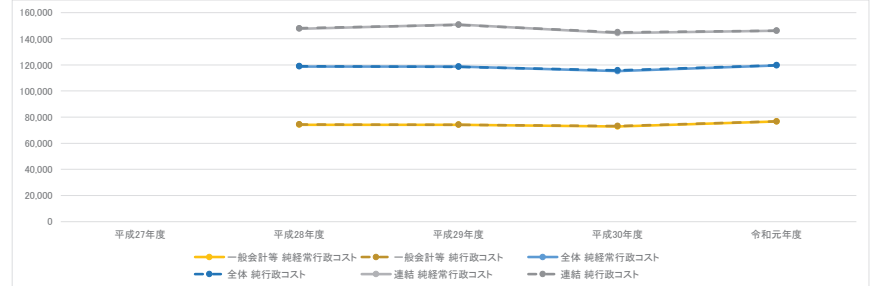
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 566 | 1,645 | 1,297 | △46 |
| | 本年度純資産変動額 | | 601 | 534 | 1,342 | 547 |
| 全体 | 本年度差額 | | 3,036 | 3,854 | 1,853 | 681 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2,967 | 3,730 | 2,105 | 1,489 |
| 連結 | 本年度差額 | | 3,430 | 3,498 | 1,374 | 745 |
| | 本年度純資産変動額 | | 3,334 | 2,363 | 1,903 | 1,119 |
| | 純資産残高 | | 409,140 | 411,504 | 413,407 | 414,525 |



分析:
一般会計等においては、純行政コスト76,789百万円に対する財源が76,743百万円で、本年度差額が△46百万円となり、昨年度の差額1,297百万円からマイナスに転じた。これは、財源の過半を占める税収等の増(798百万円)に対し、純行政コストの増(3,604百万円)が大きく上回っていることによる。なお、税収等のうち市税は37,324百万円(前年度比+1.7%)となり、前年度を上回っている。純資産変動額は、無償所管換等を差し引きした結果、547百万円の増(前年度比Δ795百万円)となっている。
全体会計では、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計等が含まれるため、一般会計等と比べて税収等が77,861百万円と18,428百万円多くなっており、本年度差額は681百万円となっている。
また、連結会計では、一般会計等と比べて税収等が31,592百万円多い91,025百万円となり、純資産残高は414,525百万円で、期首に比べて1,118百万円の増となっている。

2. 行政コストの状況

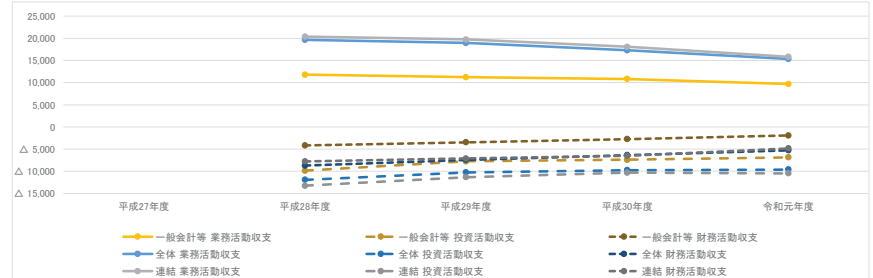
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 74,153 | 74,261 | 72,868 | 76,709 |
| | 純行政コスト | | 74,423 | 74,220 | 73,185 | 76,789 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 118,789 | 118,818 | 115,278 | 119,590 |
| | 純行政コスト | | 119,049 | 118,522 | 115,812 | 119,710 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 147,618 | 150,902 | 144,396 | 146,126 |
| | 純行政コスト | | 148,030 | 150,596 | 144,927 | 146,249 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は80,051百万円となり、前年度比3,803百万円の増(+5.0%)となった。そのうち、業務費用43,769百万円が移転費用36,283百万円を上回っており、最も大きいのは減価償却費を含む物件費等26,684百万円である。施設の老朽化に伴う減価償却が大きな要因の一つとなっているため、公共施設の統廃合といった適切な管理が求められている。
全体会計における経常費用は138,705百万円で一般会計等の1.73倍、行政サービスの対価として市民が負担する使用料及び手数料などの経常収益は19,115百万円となっている。この結果、純経常行政コストは119,590百万円、臨時損失・臨時利益を加味した純行政コストは119,710百万円となった。経常費用のうち割合が大きいものは補助金等構成比42.8%となっており、国民健康保険事業等における国民健康保険団体連合会への負担金支出が主な要因である。また、使用料及び手数料の額が一般会計等に比べ大きいのは、水道事業や下水道事業の使用料によるものである。
連結会計における経常費用は169,175百万円で、一般会計等の2.11倍となっている。純経常行政コストは146,126百万円、臨時損失・臨時利益を加味した純行政コストは146,249百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 11,811 | 11,224 | 10,840 | 9,695 |
| | 投資活動収支 | | △9,840 | △7,743 | △7,386 | △6,865 |
| 全体 | 業務活動収支 | | △4,158 | △3,477 | △2,733 | △1,905 |
| | 投資活動収支 | | 19,650 | 18,935 | 17,271 | 15,342 |
| 連結 | 業務活動収支 | | △11,926 | △10,247 | △9,742 | △9,616 |
| | 投資活動収支 | | △8,696 | △7,434 | △6,330 | △5,271 |
| | 業務活動収支 | | 20,380 | 19,740 | 18,071 | 15,825 |
| | 投資活動収支 | | △13,228 | △11,315 | △10,286 | △10,481 |
| | 財務活動収支 | | △7,763 | △7,098 | △6,482 | △4,844 |



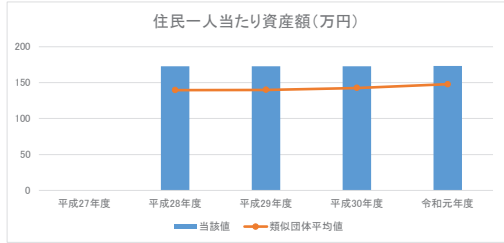
分析:
一般会計等における投資活動収支は前年度と比べ2,322百万円の増となっているものの、投資活動収支は前年度と比べ521百万円の減となっている。また、財務活動収支は△1,905百万円となっており、地方債の償還額以内での発行に努めていることから、マイナスとなっており、本市の市債残高を減少させる取組みが、色濃く反映されている。加えて、業務活動収支は9,695百万円でプラスとなっている。これらのことから、行政サービス等は税収等で賄うことができ、また、資産形成を伴う投資活動も行う一方で、地方債の償還を進めていることがわかる。
全体会計における業務活動収支は15,342百万円であり、投資活動収支は△9,616百万円、財務活動収支は△5,271百万円となった。財務活動収支の状況は、一般会計等と同様、市債償還が進んでいることを示している。
連結会計においても傾向は同じで、業務活動収支は15,825百万円、投資活動収支は△10,481百万円、財務活動収支△4,844百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

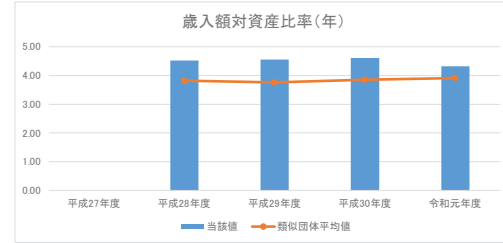
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 資産合計 | 41,744,798 | 41,567,067 | 41,414,819 | 41,335,805 | |
| 人口 | 241,272 | 240,342 | 239,635 | 238,737 | |
| 当該値 | 173.0 | 172.9 | 172.8 | 173.1 | |
| 類似団体平均値 | 139.6 | 139.9 | 142.7 | 147.9 | |



②歳入額対資産比率(年)

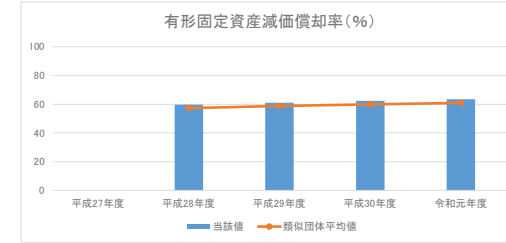
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 資産合計 | 417,448 | 415,671 | 414,148 | 413,358 | |
| 歳入総額 | 92,289 | 91,410 | 89,929 | 95,646 | |
| 当該値 | 4.52 | 4.55 | 4.61 | 4.32 | |
| 類似団体平均値 | 3.82 | 3.76 | 3.85 | 3.91 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 減価償却累計額 | 283,860 | 292,928 | 302,092 | 313,177 | |
| 有形固定資産 ※1 | 475,368 | 480,043 | 484,379 | 494,277 | |
| 当該値 | 59.7 | 61.0 | 62.4 | 63.4 | |
| 類似団体平均値 | 57.3 | 58.7 | 60.0 | 60.9 | |

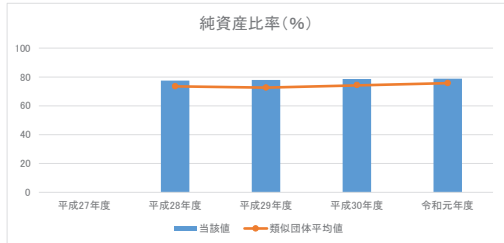
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

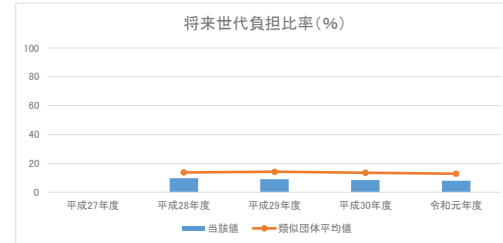
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 純資産 | 323,557 | 324,091 | 325,433 | 325,980 | |
| 資産合計 | 417,448 | 415,671 | 414,148 | 413,358 | |
| 当該値 | 77.5 | 78.0 | 78.6 | 78.9 | |
| 類似団体平均値 | 73.4 | 72.6 | 74.2 | 75.7 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 36,135 | 33,625 | 30,826 | 29,445 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 373,568 | 370,715 | 368,659 | 368,405 | |
| 当該値 | 9.7 | 9.1 | 8.4 | 8.0 | |
| 類似団体平均値 | 13.6 | 14.2 | 13.4 | 12.8 | |

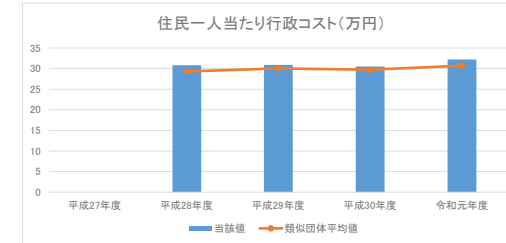
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

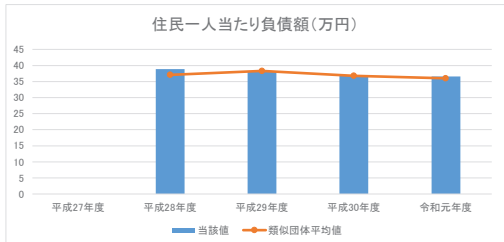
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 純行政コスト | 7,442,279 | 7,422,006 | 7,318,527 | 7,678,893 | |
| 人口 | 241,272 | 240,342 | 239,635 | 238,737 | |
| 当該値 | 30.8 | 30.9 | 30.5 | 32.2 | |
| 類似団体平均値 | 29.3 | 30.0 | 29.7 | 30.7 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

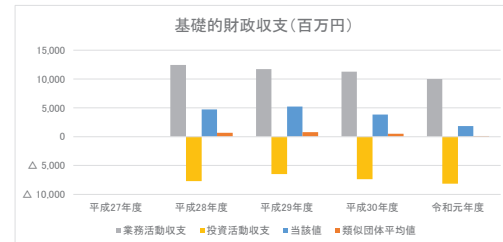
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 負債合計 | 9,389,136 | 9,157,975 | 8,871,526 | 8,737,771 | |
| 人口 | 241,272 | 240,342 | 239,635 | 238,737 | |
| 当該値 | 38.9 | 38.1 | 37.0 | 36.6 | |
| 類似団体平均値 | 37.1 | 38.3 | 36.8 | 36.0 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 12,422 | 11,735 | 11,254 | 10,028 | |
| 投資活動収支 ※2 | △7,688 | △6,491 | △7,381 | △8,159 | |
| 当該値 | 4,754 | 5,244 | 3,873 | 1,869 | |
| 類似団体平均値 | 7,101 | 805.8 | 5,140 | 117.8 | |

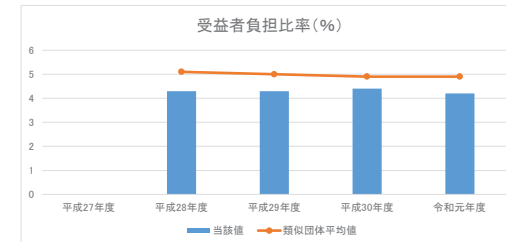
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 3,310 | 3,314 | 3,380 | 3,343 | |
| 経常費用 | 77,463 | 77,576 | 76,248 | 80,051 | |
| 当該値 | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.2 | |
| 類似団体平均値 | 5.1 | 5.0 | 4.9 | 4.9 | |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たりの資産額及び歳入額対資産比率が類似団体を上回っている状況である。これは、類似団体と比較して資産を多く保有しているということになり、合併による資産の増加の影響が考えられる。

その反面、有形固定資産減価償却率が類似団体を上回っていることから、類似団体と比較して施設の老朽化が進んでいることがわかる。

これらのことから、資産が多いとはいえその老朽化が進んでおり、将来世代の負担とならないよう、公共施設の統廃合を進めながら適切な管理に努めていくことが課題と言える。

2. 資産と負債の比率

純資産比率が、類似団体平均を上回っており、将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っている。また、純資産比率は増傾向、将来世代負担比率は減傾向にある。これらのことから、将来世代に過度の負担を残さず資産形成を進めることができていることがわかる。

3. 行政コストの状況

市民一人当たりの純行政コストは、類似団体平均を若干上回っており、前年度に比べても大きく増加している。

また、純行政コスト自体も前年度に比べ360,366万円増加している。これは、中核市移行(R3から)に向け件数が増えていることや、移転費用中、主に補助事業経費が増えたことなどの影響による。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は、類似団体平均を若干上回っているが、負債額自体は、前年度から133,755万円減少しており、これは、市債の発行額を償還元金の範囲内に収める取組みにより、市債残高を減少させている成果が表れたものである。

基礎的財政収支については、類似団体平均を大幅に上回る黒字となっているが、前年度と比較して2,004百万円の減となっている。これは、業務活動収支では補助金等支出の増などにより、226百万円の黒字減、投資活動収支では公共施設等整備支出の増などにより778百万円の赤字増となったことによる。しかし、業務活動収支の黒字が大きく、投資活動収支の赤字分を補っている状況は続いている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を下回っており、行政サービスの提供に対する直接的な住民の負担割合は低くなっている。

経常費用は前年度と比較して9,809百万円と増となっている一方で、経常収益は△37百万円と減となっている。受益者負担比率から、他団体と比較して、住民は低い負担割合で行政サービスを利用できる環境となっているとも言えるが、適正な負担割合となるよう使用料・手数料の見直しを検討するほか、経常費用の抑制に努めることが求められている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

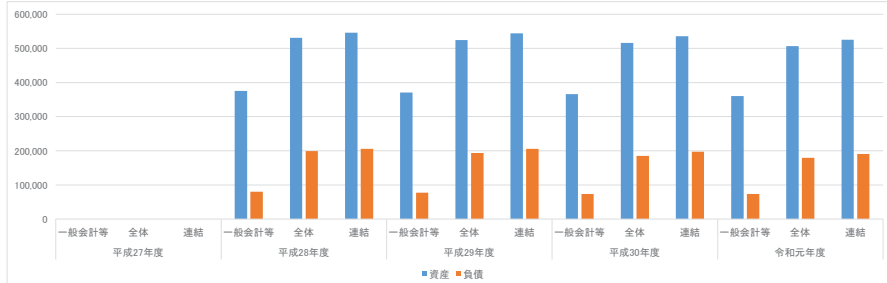
団体名 長野県上田市
団体コード 202037

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 156,810人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 1,099人 |
| 面積 | 552.04km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 39,792,241千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市IV-2 | 実質公債費率 | 5.4% |
| | | 将来負担比率 | 28.9% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

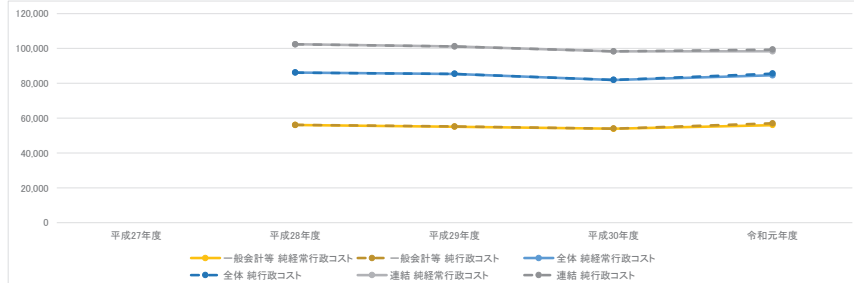
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 375,840 | 371,183 | 366,087 | 360,786 |
| | 負債 | | 80,227 | 77,413 | 74,007 | 73,195 |
| 全体 | 資産 | | 530,703 | 524,145 | 516,066 | 506,763 |
| | 負債 | | 199,253 | 193,453 | 185,406 | 179,545 |
| 連結 | 資産 | | 546,313 | 543,910 | 535,418 | 525,488 |
| | 負債 | | 205,613 | 205,403 | 197,124 | 190,664 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から5,301百万円の減少(▲1.4%)となった。金額の変動が大きいものはインフラ資産であり、減価償却による資産の減少が、資産の取得額(1,642百万円)を上回ったこと等から3,610百万円減少した。水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は、上水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等と比べて145,977百万円多くなるが、負債総額も下水道管の長寿命化対策事業に地方債(固定負債)を充当したこと等から、106,350百万円多くなっている。上田市土地開発公社、上田地域広域連合等を加えた連結では、資産総額は、土地開発公社が保有している公有地等に係る資産を計上していること等により、一般会計等よりも164,702百万円多くなるが、負債総額も土地開発公社の借入金等があること等から、117,469百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

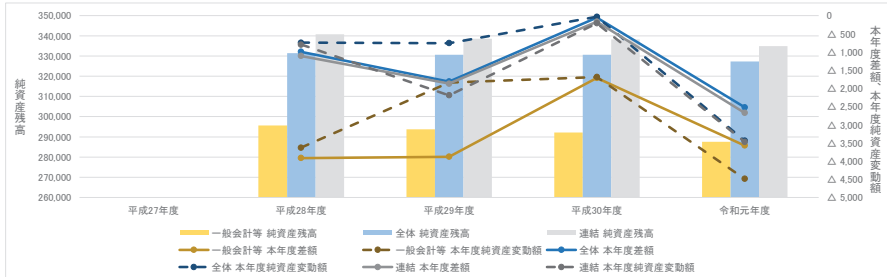
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 56,079 | 55,137 | 53,945 | 56,071 |
| | 純行政コスト | | 56,103 | 55,205 | 53,963 | 57,060 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 86,175 | 85,404 | 81,911 | 84,610 |
| | 純行政コスト | | 86,106 | 85,454 | 81,927 | 85,625 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 102,441 | 101,123 | 98,345 | 98,391 |
| | 純行政コスト | | 102,400 | 101,173 | 98,358 | 99,409 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は58,380百万円となり、前年度末と比べて1,821百万円の増加(3.2%)となった。業務費用が移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等(19,763百万円)であり、純行政コストの34.6%を占めている。公共施設等の適正管理により、経費の縮減に努める。全体では、一般会計等に対し、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が5,890百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が24,224百万円多くなり、純行政コストは28,565百万円多くなっている。連結では、一般会計等に対し、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が9,598百万円多くなっている一方、移転費用が34,020百万円多くなっているなど、経常費用が51,918百万円多くなり、純行政コストは42,349百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

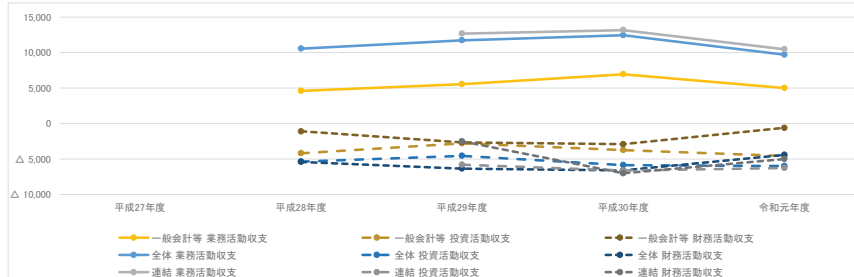
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 3,918 | △ 3,883 | △ 1,714 | △ 3,571 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 3,631 | △ 1,842 | △ 1,690 | △ 4,490 |
| | 純資産残高 | | 295,612 | 293,770 | 292,080 | 287,591 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 995 | △ 1,813 | △ 56 | △ 2,521 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 746 | △ 758 | △ 32 | △ 3,443 |
| | 純資産残高 | | 331,450 | 330,693 | 330,660 | 327,218 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 1,112 | △ 1,872 | △ 170 | △ 2,675 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 798 | △ 2,194 | △ 213 | △ 3,471 |
| | 純資産残高 | | 340,702 | 338,507 | 338,294 | 334,823 |



分析: 一般会計等においては、税金等の財源(53,489百万円)が純行政コスト(57,060百万円)を下回っており、本年度差額は▲3,571百万円となり、純資産残高は4,490百万円の減少となった。税金等の増加及び特定財源の確保に努める。全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等の財源が29,615百万円多くなっており、本年度差額は▲2,521百万円となり、純資産残高は3,443百万円の減少となった。連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が43,245百万円多くなっており、本年度差額は▲2,675百万円となり、純資産残高は3,471百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 4,599 | 5,563 | 6,943 | 5,004 |
| | 投資活動収支 | | △ 4,189 | △ 2,790 | △ 3,734 | △ 4,567 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,098 | △ 2,653 | △ 2,900 | △ 599 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 10,571 | 11,721 | 12,446 | 9,706 |
| | 投資活動収支 | | △ 5,364 | △ 4,558 | △ 5,854 | △ 5,987 |
| | 財務活動収支 | | △ 5,404 | △ 6,337 | △ 6,597 | △ 4,421 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 12,686 | 13,161 | 10,468 | 10,468 |
| | 投資活動収支 | | △ 5,800 | △ 6,615 | △ 6,245 | △ 6,245 |
| | 財務活動収支 | | △ 2,507 | △ 7,004 | △ 4,982 | △ 4,982 |



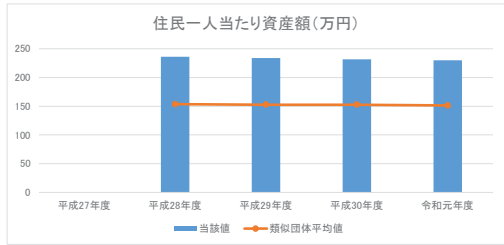
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は災害復旧事業の臨時支出が増加したことから5,004百万円であったが、学校空調設備や庁舎等の整備事業を行ったことから、投資活動収支については▲4,567百万円となっている。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲599百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から161百万円減少し、2,231百万円となった。全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より4,702百万円多い9,706百万円となっている。投資活動収支では、下水道管の更新事業等により、▲5,987百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲4,421百万円となり、本年度末資金残高は前年度から703百万円減少し、12,541百万円となった。連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫補助金等が業務収入に含まれることから、業務活動収支は一般会計等より10,468百万円となっている。投資活動収支では、長野大学の有価証券取得等により▲6,245百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲4,982百万円となり、本年度末資金残高は期首から724百万円減少し、17,325百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

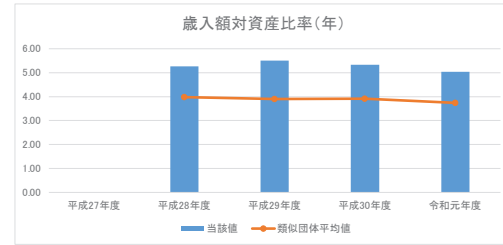
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | | 37,583,955 | 37,118,319 | 36,608,748 | 36,078,582 |
| 人口 | | 159,271 | 158,537 | 158,111 | 156,810 |
| 当該値 | | 236.0 | 234.1 | 231.5 | 230.1 |
| 類似団体平均値 | | 153.6 | 152.7 | 152.7 | 151.4 |



②歳入額対資産比率(年)

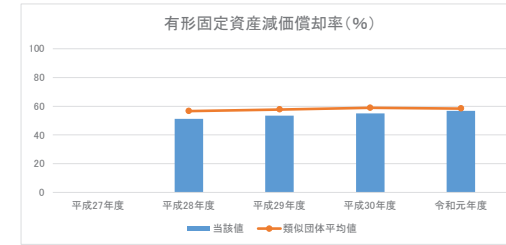
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 375,840 | 371,183 | 366,087 | 360,786 |
| 歳入総額 | | 71,323 | 67,501 | 68,744 | 71,533 |
| 当該値 | | 5.27 | 5.50 | 5.33 | 5.04 |
| 類似団体平均値 | | 3.98 | 3.90 | 3.91 | 3.74 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 212,885 | 222,162 | 231,507 | 239,352 |
| 有形固定資産 ※1 | | 414,677 | 416,420 | 420,592 | 421,637 |
| 当該値 | | 51.3 | 53.4 | 55.0 | 56.8 |
| 類似団体平均値 | | 56.6 | 57.7 | 58.9 | 58.4 |

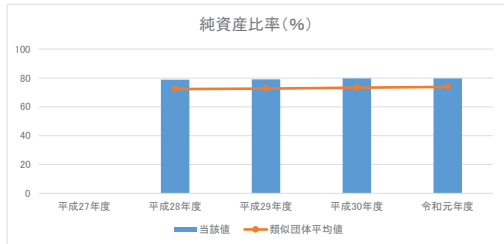
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

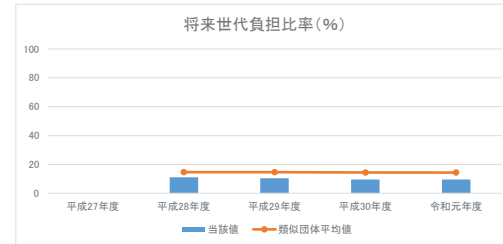
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | | 295,612 | 293,770 | 292,080 | 287,591 |
| 資産合計 | | 375,840 | 371,183 | 366,087 | 360,786 |
| 当該値 | | 78.7 | 79.1 | 79.8 | 79.7 |
| 類似団体平均値 | | 72.3 | 72.7 | 73.2 | 73.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 地方債残高 ※1 | | 38,312 | 35,179 | 31,975 | 31,709 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 348,292 | 341,480 | 335,708 | 330,906 |
| 当該値 | | 11.0 | 10.3 | 9.5 | 9.6 |
| 類似団体平均値 | | 14.6 | 14.5 | 14.4 | 14.3 |

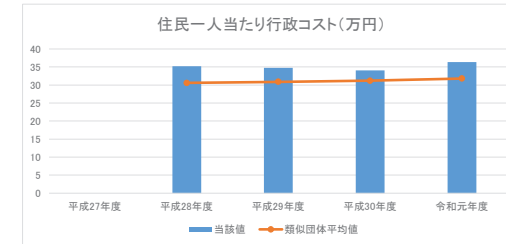
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

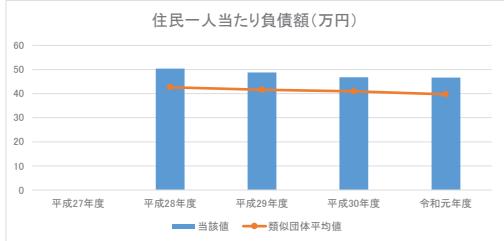
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 5,610,343 | 5,520,511 | 5,396,303 | 5,705,964 |
| 人口 | | 159,271 | 158,537 | 158,111 | 156,810 |
| 当該値 | | 35.2 | 34.8 | 34.1 | 36.4 |
| 類似団体平均値 | | 30.6 | 30.9 | 31.2 | 31.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

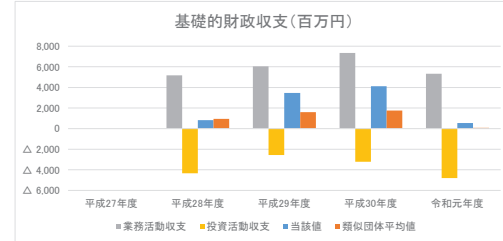
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 8,022,720 | 7,741,287 | 7,400,704 | 7,319,492 |
| 人口 | | 159,271 | 158,537 | 158,111 | 156,810 |
| 当該値 | | 50.4 | 48.8 | 46.8 | 46.7 |
| 類似団体平均値 | | 42.6 | 41.6 | 40.9 | 39.7 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 5,176 | 6,049 | 7,350 | 5,329 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 4,340 | △ 2,575 | △ 3,220 | △ 4,787 |
| 当該値 | | 836 | 3,474 | 4,130 | 542 |
| 類似団体平均値 | | 938.9 | 1,593.6 | 1,755.3 | 71.3 |

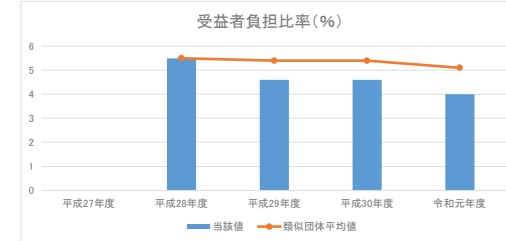
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 3,272 | 2,635 | 2,614 | 2,309 |
| 経常費用 | | 59,351 | 57,772 | 56,559 | 58,380 |
| 当該値 | | 5.5 | 4.6 | 4.6 | 4.0 |
| 類似団体平均値 | | 5.5 | 5.4 | 5.4 | 5.1 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、合併前に旧市町村ごとに整備した公共施設があることなどから、保有する施設数が非合併団体よりも多く、類似団体平均を上回っているが、老朽化した施設が多く、前年度末に比べて1.4百万円減少している。
歳入額対資産比率は、類似団体平均を上回っており、公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の適正管理に努める。
有形固定資産減価償却率は、類似団体平均を下回っているが、引き続き適切な資産形成を図るための投資活動に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回っている。なお、負債のうち、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債は、30,257百万円である。
将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っている。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、償還を進め、地方債残高を圧縮し、引き続き将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っており、また前年度に比べて増加している。東日本台風災害復旧事業に伴う臨時損失が生じたことに加えて、純行政コストのうち、補助金等が23.8%を占めており、補助金の見直し等の取り組みを通じて、コストを抑えるよう努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っているが、前年度から0.1百万円減少している。引き続き地方債の新規発行を抑制し、償還を進めることで、地方債残高の縮小に努める。
基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分を業務活動収支の黒字分が上回ったため、542百万円となっている。業務活動収支の数値が大幅に減少しているのは、臨時支出として災害復旧事業を行ったためである。また投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して学校空調設備整備や庁舎等整備事業など公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体を下回っており、また前年度から減少している。経常費用が1,821百万円増加している一方、経常収益は305百万円減少している。公共施設等の使用料の見直しを行うとともに、公共施設等の利用回数を上げるための取組を行うなどにより、受益者負担の適正化に努める。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県岡谷市
団体コード 202045

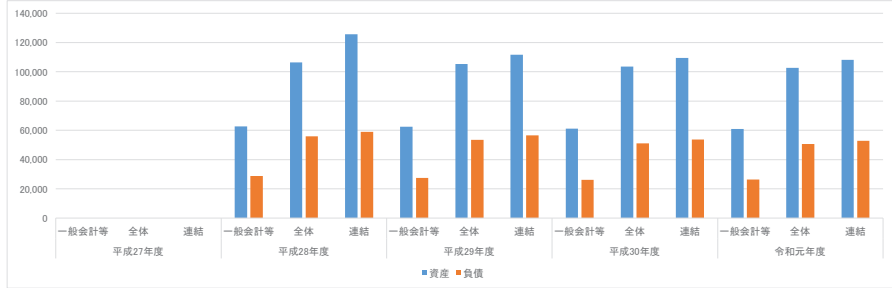
| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 49,413人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 394人 |
| 面積 | 85.10km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 11,750,683千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-2 | 実質公債費率 | 9.7% |
| | | 将来負担比率 | 76.9% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 62,585 | 62,438 | 61,192 | 61,007 |
| | 負債 | | 28,833 | 27,383 | 26,063 | 26,306 |
| 全体 | 資産 | | 106,415 | 105,268 | 103,543 | 102,694 |
| | 負債 | | 55,796 | 53,579 | 51,063 | 50,567 |
| 連結 | 資産 | | 125,768 | 111,653 | 109,550 | 108,214 |
| | 負債 | | 59,022 | 56,465 | 53,724 | 52,885 |



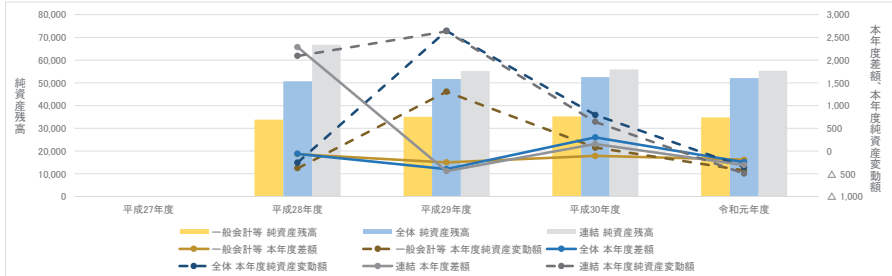
分析:
【一般会計等】
一般会計等においては、資産総額が前年度末から△185百万円(△0.3%)の減少となった。主な要因としては、事業資産及びインフラ資産における建物、工作物の減価償却累計額が資産の取得等による増加額を上回ったことによるものである。有形固定資産については減少傾向にあるものの、将来の維持修繕費等の支出を伴うものであることから、岡谷市公共施設等総合管理計画及び岡谷市公共施設個別施設計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど、引き続き公共施設等の適正管理に努めていく。
また、負債総額については前年度末から243百万円(0.9%)の増加となった。主な要因としては、地方債についてはキャップ制の徹底により、償還額が新規発行額を上回ったことに伴い減少したものの、退職手当引当金等が増となったことによるものである。

全体及び連結
資産総額については一般会計等と同様の傾向が見られる。公営企業会計のインフラ資産(上下水道管、下水道管及び病院施設に係る資産等)を計上していること等により、資産総額は一般会計等に比べて多くなっており、また、負債総額も地方債を充当していること等から多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 70 | △ 251 | △ 108 | △ 193 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 377 | 1,303 | 74 | △ 427 |
| 純資産残高 | | | 33,752 | 35,055 | 35,129 | 34,701 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 62 | △ 398 | 300 | △ 247 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 255 | 2,642 | 792 | △ 353 |
| 純資産残高 | | | 50,620 | 51,689 | 52,481 | 52,127 |
| 連結 | 本年度差額 | | 2,285 | △ 442 | 158 | △ 309 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2,092 | 2,631 | 639 | △ 497 |
| 純資産残高 | | | 66,746 | 55,187 | 55,826 | 55,330 |



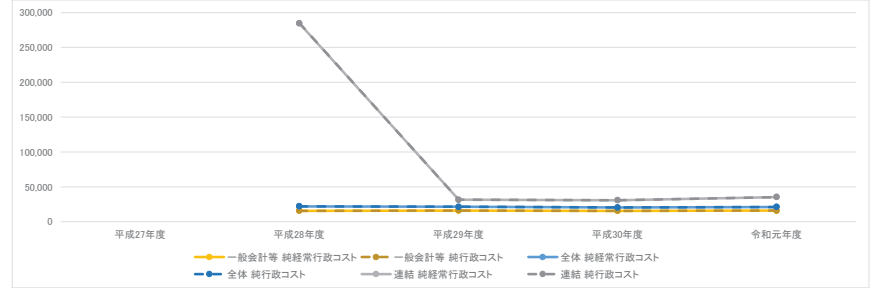
分析:
【一般会計等】
一般会計等においては、純行政コスト(15,862百万円)に対して、税収及び国県等補助金の財源(15,669百万円)が下回ったこと等により、年度末純資産残高は△427百万円の減少となった。財源の確保に向けて、今後も引き続き、税収等については市税徴収率の維持・向上により一層努めるとともに、国県等補助金については国や県の動向に注視し、補助事業を積極的に活用するなど、純資産額の適正な管理に努めていく。

全体及び連結
全体では、国民健康保険特別会計の国民健康保険税等が含まれることから、一般会計等と比べて税収等が1,657百万円多くくなっている。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が19,632百万円多くくなっている。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 15,608 | 15,877 | 15,429 | 15,850 |
| | 純行政コスト | | 15,670 | 15,961 | 15,472 | 15,862 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 21,925 | 21,349 | 20,401 | 21,190 |
| | 純行政コスト | | 21,987 | 21,434 | 20,444 | 21,202 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 284,562 | 31,363 | 30,709 | 35,309 |
| | 純行政コスト | | 284,954 | 31,446 | 30,752 | 35,320 |



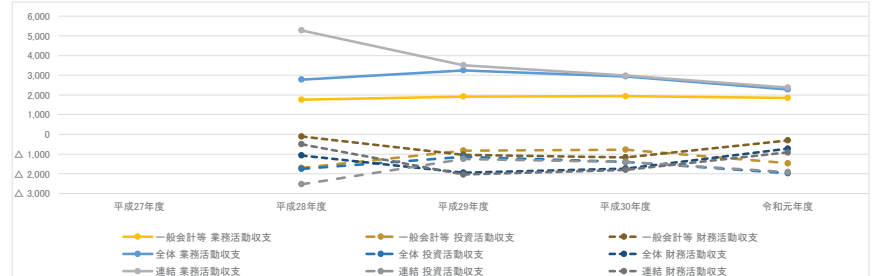
分析:
【一般会計等】
一般会計等において、純経常行政コストは前年度比421百万円(2.7%)増の15,850百万円、純行政コストは、前年度比390百万円(2.5%)増の15,862千円となった。主な要因は、経常費用において退職手当引当金の増に伴い人件費が増加したほか、各種委託料の増などに伴う物件費や公共施設等の維持修繕費が増加したことなどにより、前年度比562百万円(3.4%)増加したことによるものである。人口減少等により市税収入の確保が難しいなか、行政サービスの縮小も避けられない現状を踏まえ、コスト削減に向けた取組みが今後とも必要である。また、直営で行っている施設について、民間において実施可能な部分については、指定管理者制度を導入するなどにより、コスト削減に努める。

全体及び連結
全体及び連結については、前年度と比較し大きな増減はないものの、一般会計等と同様、コスト削減に努める必要がある。公営企業等においては、使用料や手数料、人件費等のコスト削減によりサービス低下に繋がるとも考えられることから、慎重に見直しを行う。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,760 | 1,918 | 1,940 | 1,848 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,700 | △ 829 | △ 777 | △ 1,466 |
| | 財務活動収支 | | △ 106 | △ 1,042 | △ 1,169 | △ 306 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 2,781 | 3,244 | 2,945 | 2,278 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,749 | △ 1,139 | △ 1,403 | △ 1,972 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,073 | △ 1,943 | △ 1,737 | △ 724 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 5,275 | 3,506 | 2,979 | 2,373 |
| | 投資活動収支 | | △ 2,534 | △ 1,251 | △ 1,397 | △ 1,911 |
| | 財務活動収支 | | △ 501 | △ 2,035 | △ 1,804 | △ 917 |



分析:
【一般会計等】
一般会計等は、業務活動は収入・支出ともに増となったものの、収支においては前年度比△92百万円の1,848百万円であった。投資活動収支は、新西堀保育園・発達支援施設整備事業や下水道維持修繕事業を始めとする公共施設等整備費支出の増により、△1,466百万円となった。財務活動収支は、地方債の償還支出額が地方債発行収入額を上回ったことから△306百万円となり、各活動収支の結果として、本年度末資金残高は前年度比75百万円増加し、622百万円となったものである。

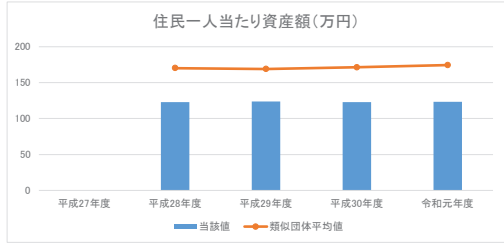
全体及び連結
全体では、国民健康保険税等が税収等収入に含まれること、また水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より430百万円多い2,278百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

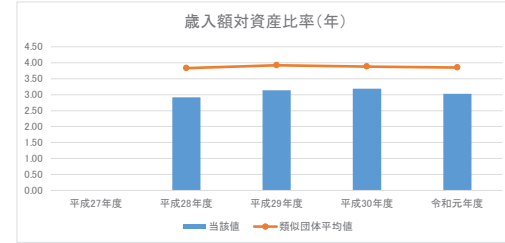
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 6,258,504 | 6,243,795 | 6,119,193 | 6,100,719 |
| 人口 | | 50,853 | 50,412 | 49,862 | 49,413 |
| 当該値 | | 123.1 | 123.9 | 122.7 | 123.5 |
| 類似団体平均値 | | 170.2 | 169.0 | 171.5 | 174.5 |



②歳入額対資産比率(年)

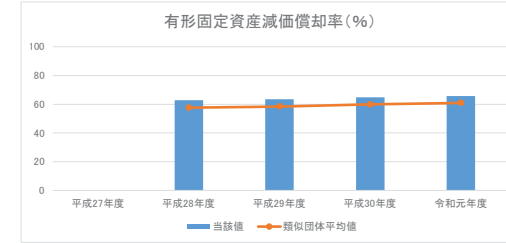
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 62,585 | 62,438 | 61,192 | 61,007 |
| 歳入総額 | | 21,430 | 19,886 | 19,179 | 20,104 |
| 当該値 | | 2.92 | 3.14 | 3.19 | 3.03 |
| 類似団体平均値 | | 3.83 | 3.92 | 3.88 | 3.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 55,040 | 55,925 | 57,257 | 58,689 |
| 有形固定資産 ※1 | | 87,529 | 88,222 | 88,420 | 89,337 |
| 当該値 | | 62.9 | 63.4 | 64.8 | 65.7 |
| 類似団体平均値 | | 57.6 | 58.4 | 59.9 | 60.9 |

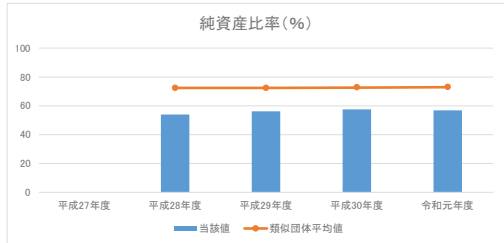
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

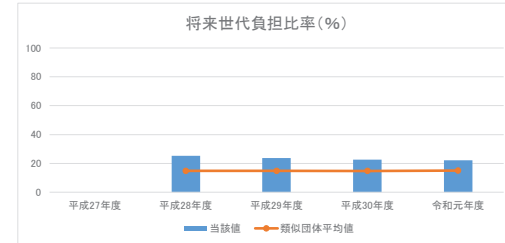
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 33,752 | 35,055 | 35,129 | 34,701 |
| 資産合計 | | 62,585 | 62,438 | 61,192 | 61,007 |
| 当該値 | | 53.9 | 56.1 | 57.4 | 56.9 |
| 類似団体平均値 | | 72.4 | 72.4 | 72.7 | 72.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 14,747 | 13,618 | 12,608 | 12,304 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 58,283 | 57,590 | 56,052 | 55,495 |
| 当該値 | | 25.3 | 23.6 | 22.5 | 22.2 |
| 類似団体平均値 | | 14.8 | 14.8 | 14.7 | 15.0 |

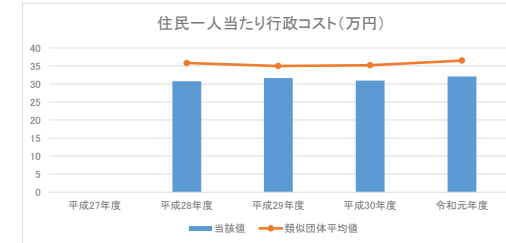
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

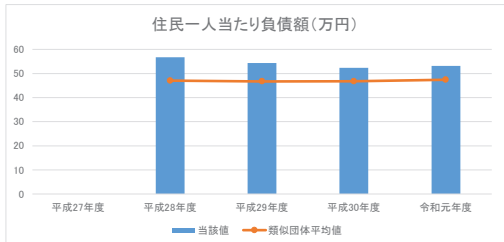
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,567,049 | 1,596,120 | 1,547,196 | 1,586,213 |
| 人口 | | 50,853 | 50,412 | 49,862 | 49,413 |
| 当該値 | | 30.8 | 31.7 | 31.0 | 32.1 |
| 類似団体平均値 | | 35.8 | 35.0 | 35.2 | 36.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

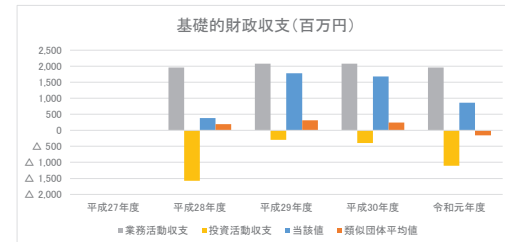
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,883,270 | 2,738,277 | 2,606,306 | 2,630,583 |
| 人口 | | 50,853 | 50,412 | 49,862 | 49,413 |
| 当該値 | | 56.7 | 54.3 | 52.3 | 53.2 |
| 類似団体平均値 | | 47.0 | 46.7 | 46.8 | 47.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|--------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,958 | 2,081 | 2,077 | 1,963 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 1,579 | △ 296 | △ 400 | △ 1,103 |
| 当該値 | | 379 | 1,785 | 1,677 | 860 |
| 類似団体平均値 | | 189.3 | 310.4 | 242.5 | △ 157.7 |

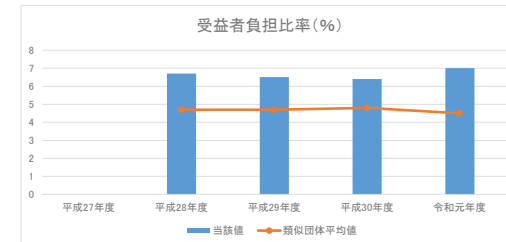
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 1,114 | 1,101 | 1,054 | 1,194 |
| 経常費用 | | 16,722 | 16,978 | 16,482 | 17,044 |
| 当該値 | | 6.7 | 6.5 | 6.4 | 7.0 |
| 類似団体平均値 | | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.5 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、前年度比で0.8万円増加となったものの、類似団体平均を下回っている。
有形固定資産減価償却率は、前年度比で0.9%増となり、類似団体平均を上回っている。当市の公共施設等は昭和40年代から50年代頃にかけて整備が進み、現在多くの施設において老朽化が進み、更新時期を迎えている状況である。
引き続き、岡谷市公共施設等総合管理計画及び岡谷市公共施設個別施設計画に基づき、人口動態や社会情勢を踏まえた、公共施設の最適な規模・機能等を検討するとともに、施設統合等の集約化や民間への移管により、将来財政負担の軽減に向けた資産総量の適正化を図る。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を下回っており、将来世代負担比率は、類似団体平均を上回っている状況である。
将来世代に負担を先送りすることがないよう、今後も引き続き、新規に発行する地方債の抑制により、地方債残高の圧縮と将来世代負担率の減少に努めていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、前年比では増加(1.1万円)となったものの、類似団体平均を下回っている。今後も人口減少が見込まれるなか、歳出においては社会保障関係費や公共施設の維持修繕費等の増加が見込まれることから、今後も引き続き、岡谷市行財政改革プログラムに基づき、歳出削減及び歳入確保に向け、より一層努めていく。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、前年度比で増加(0.9万円)となっており、類似団体平均を上回っている。
今後においても、公共施設等の朽化対策事業の増加が見込まれることから、負債のうち、地方債については、今後も引き続き、キャップ制の徹底により残高の縮減に努めていく。

5. 受益者負担の状況

受益者負担率は、前年度比で増加(0.6%)しており、類似団体平均を上回っている状況にある。今後も引き続き、岡谷市行財政改革プログラムに基づき、公共施設等の使用料・手数料の見直しを実施し、公共サービスの費用に対する受益者負担の公平性と適正化の確保に努めていく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県飯田市
団体コード 202053

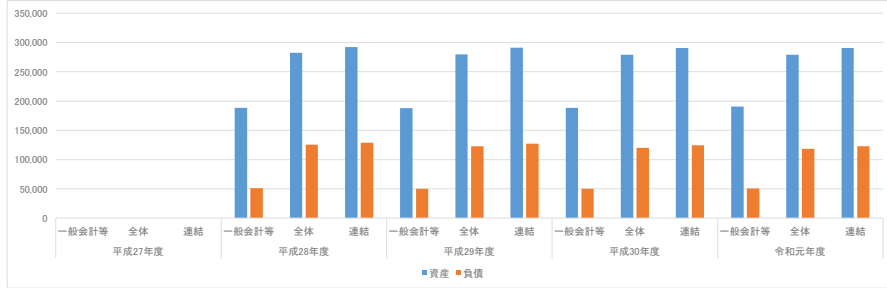
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 100,702人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 728人 |
| 面積 | 658.66km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 26,888.854千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅲ-1 | 実質公債費率 | 8.4% |
| | | 将来負担比率 | 26.6% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | △ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 188,330 | 187,715 | 188,549 | 190,549 |
| | 負債 | | 50,913 | 50,249 | 50,289 | 50,333 |
| 全体 | 資産 | | 282,388 | 279,908 | 278,981 | 279,241 |
| | 負債 | | 125,245 | 122,498 | 119,885 | 118,167 |
| 連結 | 資産 | | 292,285 | 291,255 | 290,646 | 290,540 |
| | 負債 | | 128,828 | 127,022 | 124,443 | 122,638 |

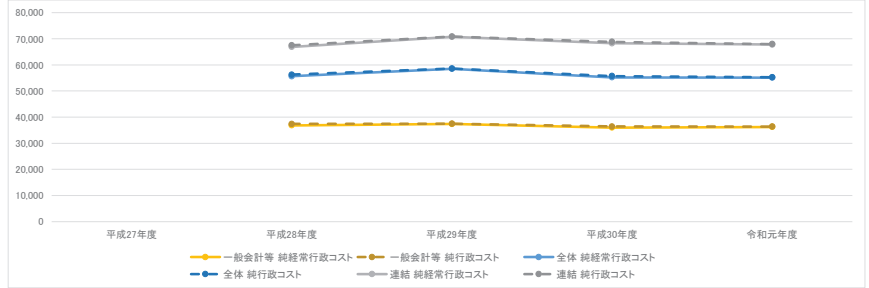


分析:
 ・一般会計等では、資産合計は190,549百万円で、前年度と比べ2,000百万円の増となりました。事業用資産は市内小中学校の空調設備や名勝天龍峡ガイド施設等の公共用資産の整備を行ったほか、産光寺スマートICの整備や国史跡恒川官街遺跡公園予定地の用地買収・移転補償などに伴いインフラ資産も増加しました。負債合計については50,333百万円で、前年度と比べ44百万円の増となりました。地方債についての償還が進んだ一方で、新たな事業における地方債の借入等により新たな負債が増加しました。今後は地方債の残高に留意しながら健全な財政運営を目指して、より一層行財政改革を推進していく必要があります。
 ・特別会計等を加えた全体では、資産合計は水道管、下水道管等のインフラ資産の計上により88,692百万円多く、負債合計も各事業の地方債等が加わり一般会計等に比べ67,834百万円多くなっています。前年度比では資産合計が事業用資産の増加等により260百万円の増、負債合計は地方債の償還が進んだことなどにより1,718百万円の減となりました。
 ・南信州広域連合等を加えた連結では、資産合計は一般会計等に比べて99,991百万円多く、負債合計も地方債等が加わり一般会計等に比べて72,305百万円多くなっています。前年度比では資産合計が106百万円の減、負債合計は1,805百万円の減と、資産の減価償却と地方債の償還が進み、いずれも減となりました。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 36,873 | 37,405 | 35,989 | 36,214 |
| | 純行政コスト | | 37,410 | 37,491 | 36,440 | 36,376 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 55,632 | 58,498 | 55,206 | 55,113 |
| | 純行政コスト | | 56,261 | 58,612 | 55,709 | 55,276 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 66,868 | 70,751 | 68,246 | 67,782 |
| | 純行政コスト | | 67,501 | 70,859 | 68,829 | 67,938 |

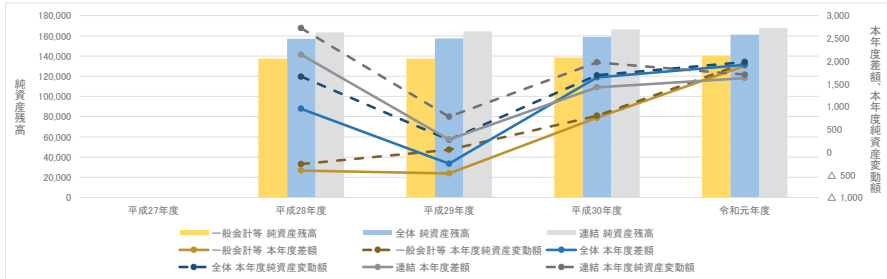


分析:
 ・一般会計等において、経常費用は38,062百万円で、主に公共施設に係る維持補修費の増、民間保育所等運営費負担金などの補助金等の増により前年度に比べ105百万円の増となりました。経常費用のうち人件費等の業務費用は18,485百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は19,578百万円で、移転費用の方が業務費用よりも多くなっています。一方、経常収益は1,848百万円で前年度に比べ120百万円の減となり、純経常行政コストは前年度に比べ225百万円増の36,214百万円となりました。
 ・全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が16,567百万円多い一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が15,642百万円多くなるなど、経常費用が35,465百万円多くなり、純行政コストは18,900百万円多くなっています。
 ・連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が17,319百万円多い一方、移転費用が26,162百万円多くなっているなど、経常費用が48,887百万円多くなり、純行政コストは31,562百万円多くなっています。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 406 | △ 472 | 750 | 1,895 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 265 | 49 | 794 | 1,956 |
| | 純資産残高 | | 137,416 | 137,466 | 138,259 | 140,216 |
| 全体 | 本年度差額 | | 951 | △ 256 | 1,642 | 1,917 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,658 | 267 | 1,686 | 1,978 |
| | 純資産残高 | | 157,143 | 157,410 | 159,096 | 161,074 |
| 連結 | 本年度差額 | | 2,141 | 274 | 1,423 | 1,628 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2,722 | 776 | 1,970 | 1,699 |
| | 純資産残高 | | 163,457 | 164,233 | 166,202 | 167,901 |

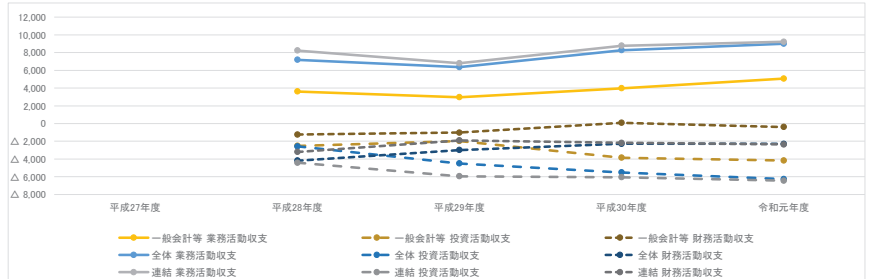


分析:
 ・一般会計等については、税収等の財源(38,270百万円)が純行政コスト(36,376百万円)を上回っており、本年度差額は1,895百万円となりました。今後も人口減少や経済状況の悪化による税の収減や、少子高齢化に伴う社会給付費や公共施設等の老朽化に伴う維持補修費などの経費の増が想定される中、引き続き地方税の収収等の確保に努めていくとともに、国・県の補助金の活用などを積極的に進めていく必要があります。純資産残高は前年度に比べ1,956百万円増の140,216百万円となりました。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれていることから、一般会計等比べて税収等が8,824百万円多くなっています。本年度差額は1,917百万円で、純資産残高は前年度に比べ1,978百万円増の161,074百万円となりました。
 ・連結では、長野後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が14,811百万円多くなっており、本年度差額は1,628百万円で、純資産残高は前年度に比べ1,699百万円増の167,901百万円となりました。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 3,623 | 2,963 | 3,965 | 5,069 |
| | 投資活動収支 | | △ 2,510 | △ 1,973 | △ 3,842 | △ 4,166 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,236 | △ 1,022 | 83 | △ 395 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 7,196 | 6,364 | 8,279 | 9,000 |
| | 投資活動収支 | | △ 2,569 | △ 4,493 | △ 5,517 | △ 6,263 |
| | 財務活動収支 | | △ 4,190 | △ 2,986 | △ 2,288 | △ 2,283 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 8,236 | 6,801 | 8,772 | 9,222 |
| | 投資活動収支 | | △ 4,412 | △ 5,944 | △ 6,053 | △ 6,436 |
| | 財務活動収支 | | △ 3,207 | △ 1,905 | △ 2,181 | △ 2,355 |

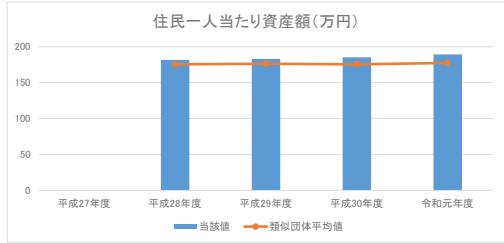


分析:
 ・一般会計等について、業務活動収支では、税収や国県等補助金等の収入が38,604百万円だったのに対して、企業会計等への補助金、社会保障給付等の支出が33,393百万円あり、収支は5,069百万円となりました。投資活動収支では、国県補助金収入、基金取崩等により収入が3,387百万円あったのに対して、公共施設等整備費支出や投資及び出資金支出等が7,553百万円あり、収支は△4,166百万円となりました。財務活動収支は、主に地方債の借入と償還の差額により、△395百万円となりました。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれること、水道料金等が使用料及び手数料収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より3,931百万円多い、9,000百万円となりました。投資活動収支は、△6,263百万円で、財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから△2,283百万円となりました。
 ・連結では、業務活動収支は一般会計等より4,153百万円多い9,222百万円となっており、投資活動収支は△6,436百万円、財務活動収支は、地方債の償還が地方債発行収入を上回ったことから、△2,355百万円となりました。

1. 資産の状況

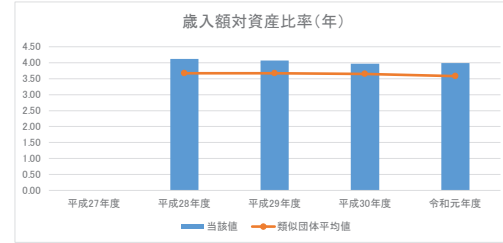
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 資産合計 | 18,832,954 | 18,771,482 | 18,854,868 | 19,054,874 | |
| 人口 | 103,507 | 102,628 | 101,848 | 100,702 | |
| 当該値 | 181.9 | 182.9 | 185.1 | 189.2 | |
| 類似団体平均値 | 175.5 | 176.4 | 175.7 | 177.5 | |



②歳入額対資産比率(年)

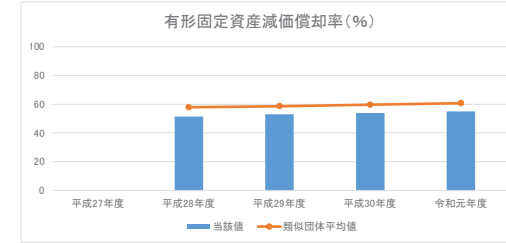
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 資産合計 | 188,330 | 187,715 | 188,549 | 190,549 | |
| 歳入総額 | 45,755 | 46,116 | 47,451 | 47,738 | |
| 当該値 | 4.12 | 4.07 | 3.97 | 3.99 | |
| 類似団体平均値 | 3.67 | 3.67 | 3.65 | 3.58 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 減価償却累計額 | 106,389 | 110,394 | 114,177 | 118,708 | |
| 有形固定資産 ※1 | 206,818 | 208,590 | 211,795 | 215,967 | |
| 当該値 | 51.4 | 52.9 | 53.9 | 55.0 | |
| 類似団体平均値 | 57.9 | 58.6 | 59.7 | 60.7 | |

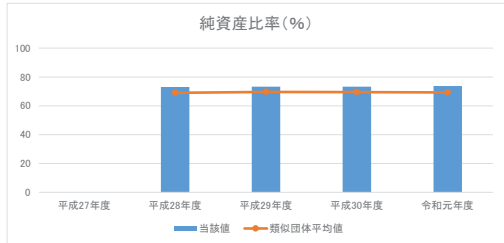
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

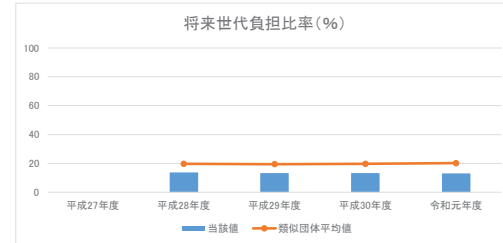
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 純資産 | 137,416 | 137,466 | 138,259 | 140,216 | |
| 資産合計 | 188,330 | 187,715 | 188,549 | 190,549 | |
| 当該値 | 73.0 | 73.2 | 73.3 | 73.6 | |
| 類似団体平均値 | 69.0 | 69.6 | 69.4 | 69.3 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 22,735 | 21,638 | 21,629 | 21,581 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 165,211 | 163,486 | 163,802 | 164,452 | |
| 当該値 | 13.8 | 13.2 | 13.2 | 13.1 | |
| 類似団体平均値 | 19.7 | 19.4 | 19.7 | 20.2 | |

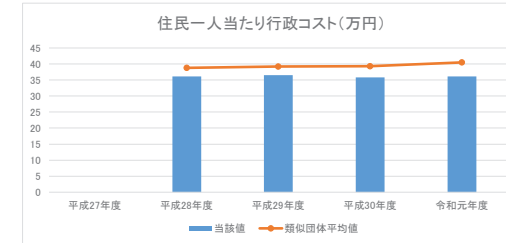
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

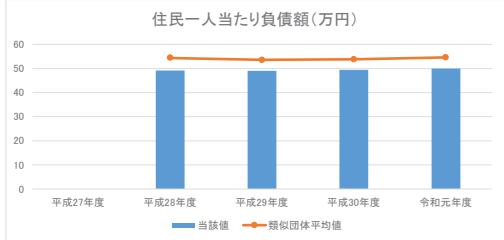
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 総行政コスト | 3,741,029 | 3,749,144 | 3,643,959 | 3,637,553 | |
| 人口 | 103,507 | 102,628 | 101,848 | 100,702 | |
| 当該値 | 36.1 | 36.5 | 35.8 | 36.1 | |
| 類似団体平均値 | 38.8 | 39.2 | 39.3 | 40.5 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

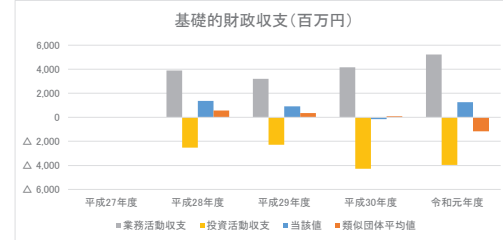
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 負債合計 | 5,091,336 | 5,024,920 | 5,028,927 | 5,033,309 | |
| 人口 | 103,507 | 102,628 | 101,848 | 100,702 | |
| 当該値 | 49.2 | 49.0 | 49.4 | 50.0 | |
| 類似団体平均値 | 54.4 | 53.6 | 53.8 | 54.6 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|----------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 3,895 | 3,191 | 4,153 | 5,227 | |
| 投資活動収支 ※2 | △2,533 | △2,282 | △4,292 | △3,963 | |
| 当該値 | 1,362 | 909 | △139 | 1,264 | |
| 類似団体平均値 | 561.2 | 360.1 | 85.6 | △1,159.8 | |

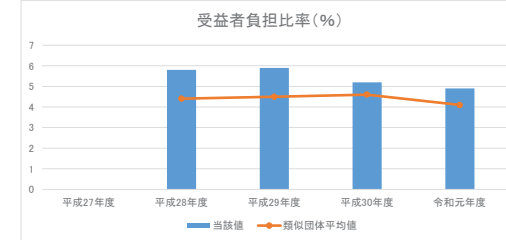
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 2,268 | 2,353 | 1,968 | 1,848 | |
| 経常費用 | 39,140 | 39,759 | 37,957 | 38,062 | |
| 当該値 | 5.8 | 5.9 | 5.2 | 4.9 | |
| 類似団体平均値 | 4.4 | 4.5 | 4.6 | 4.1 | |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額は189.2万円で、前年度に比べ4.1万円の増となりました。小中学校の空調設備などにより資産合計が増加し、併せて人口減少の影響で数値が増加する結果となりました。類似団体との比較では平均値よりも高い数値となっており、これは、道路用地等のインフラ資産が多いことが要因と考えられます。

・歳入額対資産比率については3.99年で、小中学校の空調設備などにより資産合計が増加したため前年度に比べプラス0.02年となりました。類似団体との比較では平均値よりも高く、引き続き歳入とのバランスに留意しながら公共資産の整備を進める必要があります。

・有形固定資産減価償却率は55.0%で、前年度に比べ1.1ポイント上昇しました。類似団体との比較では平均値よりも低い数値となっていますが、特に建物施設などについては合併後も旧町村の施設を残してきたため数多く、老朽化が進んでおり、長寿命化や統合・複合化を進めていく必要があります。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は73.6%で、前年度に比べ0.3ポイント上昇しました。類似団体との比較では平均値よりも高い数値となっており、保有資産に対する借金が少ない状態といえますが、50%を超えていることから、これまでの世代の負担が大きいことがわかります。今後は、将来世代と現世代との負担のバランスを考慮しつつ、地方債を有効に活用していく必要があります。

・将来世代負担比率は13.1%で、前年度に比べ0.1ポイント下降しました。類似団体との比較では平均値よりも低い数値となっており、将来世代の負担が少ない状態といえます。しかしながら、将来世代にも受益が及ぶ施設等の整備については、将来世代と現世代との負担のバランスに配慮した地方債の活用など、計画的に事業の実施及び財源の確保を行っていく必要があります。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは36.1万円で、前年度に比べ0.3万円の増となりました。計算上の分子となる総行政コストは減少したものの、分母となる人口の減少により、数値が増加する結果となりました。類似団体との比較では平均値を下回っており、行政サービスの効率が良いという結果になっていますが、今後も一層経常的な業務経費の見直しと構造的な改革を進め、コストを意識した行政活動に努めていく必要があります。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は50.0万円で、前年度に比べ0.6万円の増となりました。計算上の分子となる負債合計が地方債の借入により増となったことが主な原因です。類似団体との比較では平均値よりも低く、地方債残高を含む負債残高は比較的健全な状況にあるといえます。地方債については財政運営目標で、2028年度末時点の一般会計地方債残高(臨時財政対策債を除く)について「300億円以内に抑制する」としており、今後も目標達成に向けて着実な償還と、借入の抑制に努めていきます。

・基礎的財政収支は1,264百万円の黒字となりました。法人市民税、個人市民税を中心とする租税収入の増加により、業務活動収支がプラスとなったことが影響しています。類似団体との比較では平均値を上回っていますが、今後も税収等の自主財源の確保に加え、国県等補助金収入の有効活用を進め、健全な財政運営を維持していく必要があります。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は4.9%で、前年度に比べ0.3ポイント下降しました。類似団体との比較では平均値よりも高い割合となっています。今後、人口減少に伴う税収減と、公共施設等の老朽化に伴う維持補修費などの経費の増加が懸念される中、持続的な行政サービスの提供に必要な適正な受益者負担について検討し、計画性をもって財政運営を行っていく必要があります。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県諏訪市
団体コード 202061

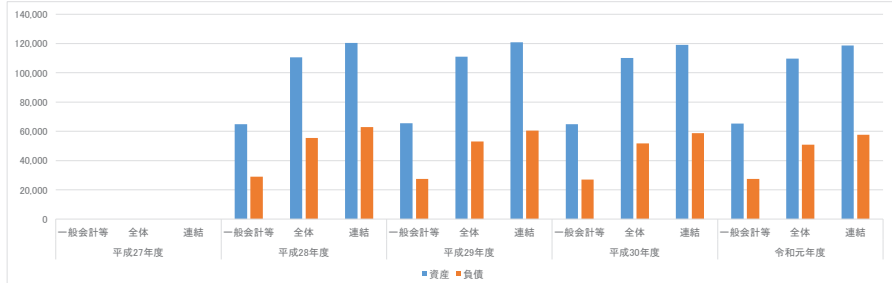
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 48,452人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 428人 |
| 面積 | 109.17km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 11,687,859千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-2 | 実質公債費率 | 4.3% |
| | | 将来負担比率 | 92.6% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 64,910 | 65,535 | 64,760 | 65,221 |
| | 負債 | | 29,006 | 27,420 | 26,929 | 27,478 |
| 全体 | 資産 | | 110,554 | 111,100 | 110,052 | 109,619 |
| | 負債 | | 55,441 | 53,146 | 51,824 | 50,883 |
| 連結 | 資産 | | 120,457 | 120,853 | 119,202 | 118,577 |
| | 負債 | | 62,974 | 60,470 | 58,715 | 57,553 |

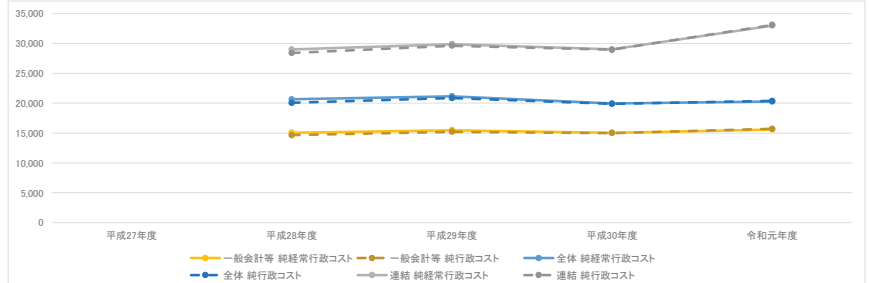


分析:
一般会計等については、資産総額が前年度末から461百万円(0.7%)増の65,221百万円となった。資産総額のうち有形固定資産が59,536百万円であり、資産総額の91.3%となっている。今後、公共施設等の老朽化により維持修繕費用の増加が予想されることから、諏訪市公共施設等総合管理計画に基づき、適正な公共施設の維持管理を進めるとともに、施設の集約化等を図ることで、資産の適正管理に努める。
負債総額は前年度末から549百万円(2.0%)増の27,478百万円となった。負債総額のうち最も大きいものは地方債(固定負債、流動負債 計20,561百万円)であり、損失補償引当金は諏訪市土地開発公社に関する将来負担額で3,753百万円である。
今後、地方債の借入を抑制していくとともに、諏訪市土地開発公社健全化計画に基づいて公社保有地の買取りを計画的に進めることで、負債の縮減に努める。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 15,056 | 15,495 | 15,068 | 15,588 |
| | 純行政コスト | | 14,662 | 15,212 | 15,008 | 15,725 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 20,661 | 21,155 | 19,958 | 20,272 |
| | 純行政コスト | | 20,068 | 20,867 | 19,896 | 20,384 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 29,008 | 29,905 | 29,017 | 32,987 |
| | 純行政コスト | | 28,415 | 29,618 | 28,955 | 33,099 |

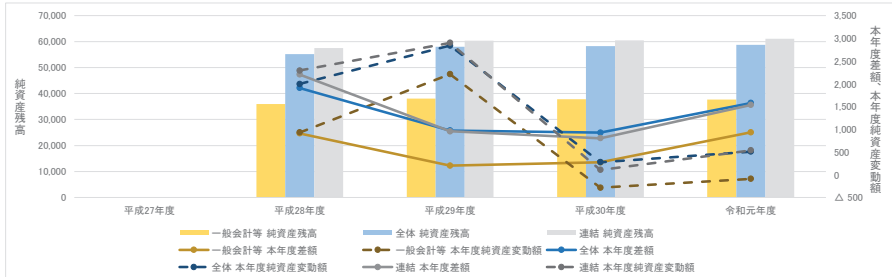


分析:
一般会計等において、経常費用は前年度末から401百万円(2.5%)増の16,298百万円となった。特に大きいものは、移転費用の補助金等3,814百万円であり、一部事務組合への負担金、下水道事業会計への補助金が主なものである。人件費に関しては4,022百万円のうち職員給与費が2,759百万円であり、公の施設への指定管理者制度の導入や、学校及び保育園の給食業務の委託化など、人件費の抑制等を図っていく必要がある。
また、経常費用の見直しに併せ、適正な受益者負担を求めることにより、純経常行政コストの縮減に努める。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 908 | 201 | 273 | 933 |
| | 本年度純資産変動額 | | 931 | 2,211 | △284 | △88 |
| | 純資産残高 | | 35,904 | 37,831 | 37,743 | 37,743 |
| 全体 | 本年度差額 | | 1,906 | 972 | 927 | 1,579 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,996 | 2,841 | 274 | 508 |
| | 純資産残高 | | 55,113 | 57,954 | 58,227 | 58,736 |
| 連結 | 本年度差額 | | 2,202 | 955 | 801 | 1,536 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2,292 | 2,899 | 105 | 537 |
| | 純資産残高 | | 57,484 | 60,382 | 60,487 | 61,024 |

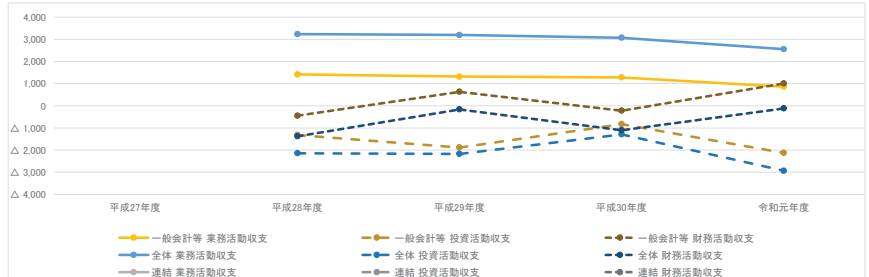


分析:
一般会計等においては、財源(16,658百万円)が純行政コスト(15,725百万円)を上回った。本年度末純資産残高が前年度末純資産残高より88百万円減の37,743百万円となった。
税金等については、市税の現年課税分の徴収強化等により引き続き市税徴収率の向上を図っていくこと、また、県等補助金については補助事業の情報収集・活用促進を図ることにより、財源を確保していくことで純資産額の適正な維持に努める。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,416 | 1,316 | 1,280 | 863 |
| | 投資活動収支 | | △1,316 | △1,883 | △831 | △2,124 |
| | 財務活動収支 | | △445 | 629 | △224 | 1,008 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 3,234 | 3,193 | 3,068 | 2,555 |
| | 投資活動収支 | | △2,137 | △2,168 | △1,290 | △2,928 |
| | 財務活動収支 | | △1,377 | △161 | △1,105 | △119 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | |
| | 投資活動収支 | | | | | |
| | 財務活動収支 | | | | | |



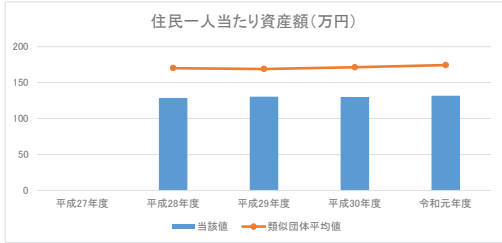
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は下水道事業会計補助金など補助金等の増(315百万円)により、前年度末から417百万円(32.6%)減の863百万円であり、投資活動収支については、柳並線道路整備事業や駅前公共スペース等整備事業等の大型建設事業に伴う公共施設等整備費支出の影響で、1,293百万円減の△2,124百万円となった。財務活動収支については、駅前公共スペース等整備事業等の借入に伴い、地方債発行収入は地方債償還支出を上回り、1,008百万円となった。
結果、本年度資金収支額は△253百万円となり、本年度末資金残高は790百万円となった。
今後も大型建設事業を控えている状況であり、投資活動収支については、公共施設等整備費支出と基金取崩収入の抑制、財務活動収支については、地方債発行収入が地方債償還支出を上回らないよう留意するとともに、貸借対照表の基金残高と地方債残高にも注意をしておく必要がある。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

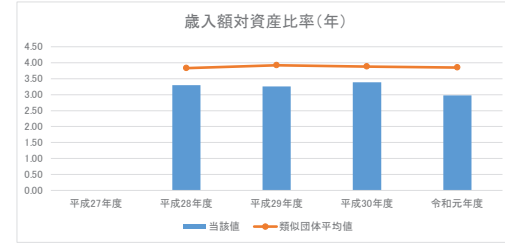
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 6,491,000 | 6,553,900 | 6,476,000 | 6,522,099 |
| 人口 | | 50,428 | 50,164 | 49,829 | 49,452 |
| 当該値 | | 128.7 | 130.6 | 130.0 | 131.9 |
| 類似団体平均値 | | 170.2 | 169.0 | 171.5 | 174.5 |



②歳入額対資産比率(年)

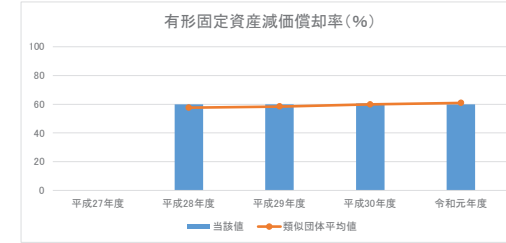
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 64,910 | 65,535 | 64,760 | 65,221 |
| 歳入総額 | | 19,686 | 20,129 | 19,127 | 21,856 |
| 当該値 | | 3.30 | 3.26 | 3.39 | 2.98 |
| 類似団体平均値 | | 3.83 | 3.92 | 3.88 | 3.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 44,521 | 45,640 | 46,762 | 47,683 |
| 有形固定資産 ※1 | | 74,436 | 76,259 | 77,216 | 79,500 |
| 当該値 | | 59.8 | 59.8 | 60.6 | 60.0 |
| 類似団体平均値 | | 57.6 | 58.4 | 59.9 | 60.9 |

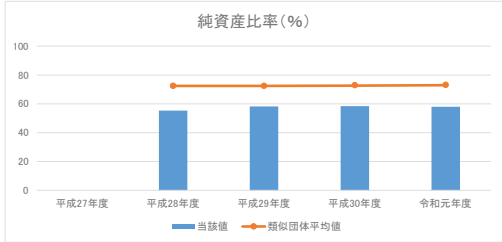
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

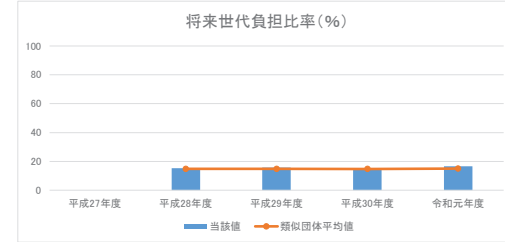
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 35,904 | 38,115 | 37,831 | 37,743 |
| 資産合計 | | 64,910 | 65,535 | 64,760 | 65,221 |
| 当該値 | | 55.3 | 58.2 | 58.4 | 57.9 |
| 類似団体平均値 | | 72.4 | 72.4 | 72.7 | 72.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 8,901 | 9,309 | 8,875 | 9,954 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 58,688 | 59,325 | 58,531 | 59,562 |
| 当該値 | | 15.2 | 15.7 | 15.2 | 16.7 |
| 類似団体平均値 | | 14.8 | 14.8 | 14.7 | 15.0 |

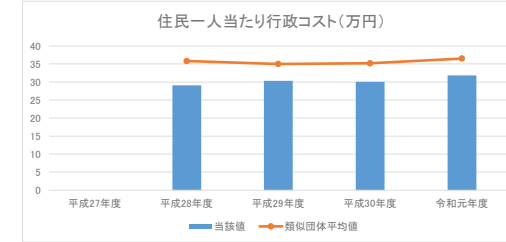
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

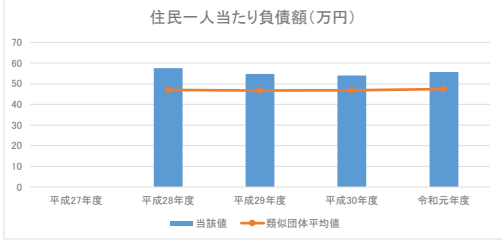
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,466,200 | 1,521,200 | 1,500,800 | 1,572,463 |
| 人口 | | 50,428 | 50,164 | 49,829 | 49,452 |
| 当該値 | | 29.1 | 30.3 | 30.1 | 31.8 |
| 類似団体平均値 | | 35.8 | 35.0 | 35.2 | 36.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

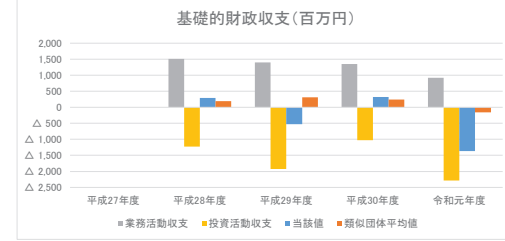
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,900,600 | 2,742,000 | 2,692,900 | 2,747,832 |
| 人口 | | 50,428 | 50,164 | 49,829 | 49,452 |
| 当該値 | | 57.5 | 54.7 | 54.0 | 55.6 |
| 類似団体平均値 | | 47.0 | 46.7 | 46.8 | 47.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,515 | 1,399 | 1,346 | 918 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 1,224 | △ 1,926 | △ 1,022 | △ 2,286 |
| 当該値 | | 291 | △ 527 | 324 | △ 1,368 |
| 類似団体平均値 | | 189.3 | 310.4 | 242.5 | △ 157.7 |

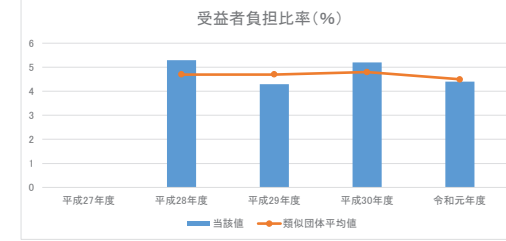
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 848 | 694 | 828 | 710 |
| 経常費用 | | 15,904 | 16,189 | 15,897 | 16,298 |
| 当該値 | | 5.3 | 4.3 | 5.2 | 4.4 |
| 類似団体平均値 | | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.5 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たりの資産額は、大型建設事業の影響などもあり前年度末から1.9万円増の131.9万円であるが、類似団体平均を下回っている。
有形固定資産減価償却率は60.0%となっており、類似団体平均を下回っている。
資産額のうち91.3%を占める有形固定資産については、適正な資産管理が課題であり、特に公共施設等においては市民文化施設、庁舎、市営住宅等で老朽化が進んでいる状況である。
今後、諏訪市公共施設等総合管理計画に基づき、適正な公共施設の維持管理を進めるとともに、施設の集約化を図ることで、資産規模の適正化に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は57.9%であり、類似団体平均を下回っている。
将来世代負担比率は16.7%で、類似団体平均を上回っている。
負債について、地方債に次いで大きいものは、損失補償引当金である。これは諏訪市土地開発公社に関する将来負担額である。
今後、地方債の借入を抑制していくとともに、諏訪市土地開発公社健全化計画に基づいて公社保有地の買取を計画的に進めることで、負債の縮減に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは、前年度末1.7万円増の31.8万円であり、類似団体平均を下回っている。
今後も費用面においては、予算編成段階における一般財源の枠配分、行政評価を活用した事務事業の見直し等により歳出削減を図るとともに、収益面においては、諏訪市広告掲載取扱要綱に基づき、広告料収入等、自主財源を確保していくことで、純行政コストの抑制に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は55.6万円であり、類似団体平均を上回っている。
負債のうち、地方債については借入の抑制を図るとともに、損失補償引当金については、諏訪市土地開発公社の健全化を進めることで、負債の縮減に努める。
基礎的財政収支は、業務活動収支の黒字分が投資活動収支の赤字分を下回ったため、△1,368百万円となっている。
今後も大型建設事業を控えていることから、投資活動収支については補助事業活用による国県等補助金等の収入確保を図ることで、赤字額の縮減に取り組むとともに、経常的な業務活動支出の抑制による業務活動収支の改善により、基礎的財政収支の黒字化を図る。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は4.4%で、類似団体平均を下回っている。
特に経常収益については前年度より118百万円(△14.3%)の減となっており、今後公共施設等の使用料の見直しや利用回数上げるための取組を行うことで、受益者負担の適正化を図る必要がある。
また、公共施設の老朽化に伴い維持管理に係る経常費用の増加が見込まれることから、施設の集約化や長寿命化を行うことで、経常費用の削減に努める。

令和元年度 財務書類に関する情報①

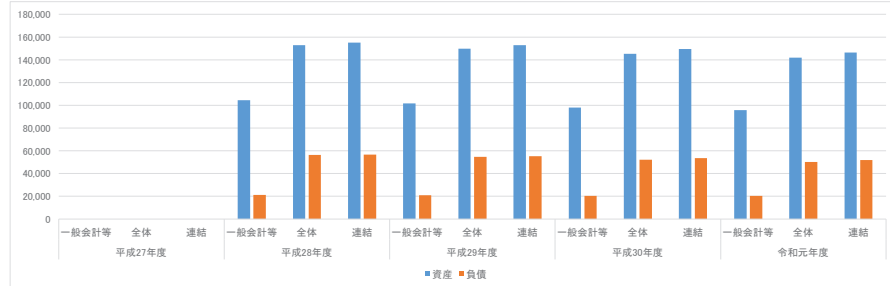
団体名 長野県須坂市
団体コード 202070

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 50,524人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 418人 |
| 面積 | 149.67km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 12,007,368千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-1 | 実質公費率 | 9.5% |
| | | 将来負担比率 | 20.1% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

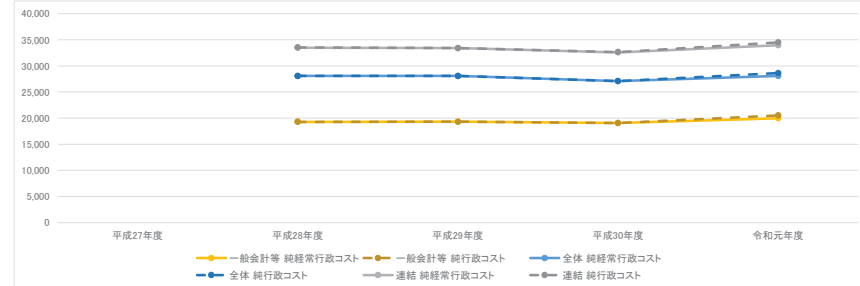
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 104,598 | 101,667 | 98,037 | 95,720 |
| | 負債 | | 21,382 | 21,067 | 20,398 | 20,492 |
| 全体 | 資産 | | 152,932 | 149,691 | 145,216 | 141,991 |
| | 負債 | | 56,329 | 54,596 | 52,154 | 50,317 |
| 連結 | 資産 | | 155,053 | 152,907 | 149,452 | 146,416 |
| | 負債 | | 56,606 | 55,336 | 53,623 | 51,827 |



分析:
 ・一般会計等においては、負債総額が前年度末から94百万円増となった。金額の変動が最も大きいものは地方債(固定負債)であり、令和元年度は中小学校の空調設備整備や令和元年度東日本台風による災害復旧事業に地方債を活用したことなどから、地方債発行額が償還額を上回り、172百万円増加した。
 ・特別会計及び企業会計を加えた全体では、資産・負債ともに減少した。負債総額は水道事業会計及び下水道事業会計において上・下水道管の布設が一段落し、地方債償還額が増えている状態が続いていることなどから、1,837百万円減少した。
 ・一部事務組合・第三セクター等を加えた連結では、資産・負債とも前年度よりも減少しているが、比例連結している長野広域連合において広域ごみ処理施設を建設しているため、資産・負債ともに増加していることから、全体と比べると資産・負債の減少額は少ない。

2. 行政コストの状況

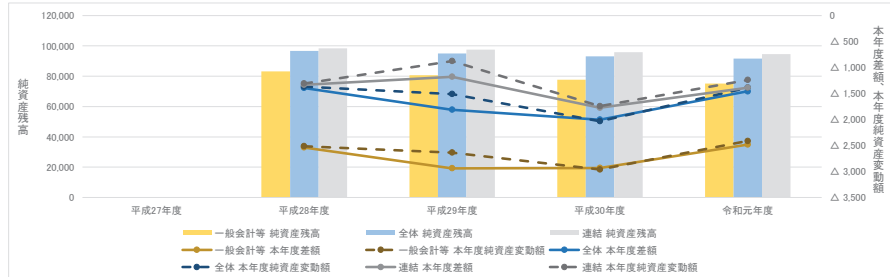
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 19,303 | 19,319 | 19,074 | 19,977 |
| | 純行政コスト | | 19,303 | 19,313 | 19,070 | 20,523 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 28,059 | 28,082 | 27,088 | 28,085 |
| | 純行政コスト | | 28,060 | 28,075 | 27,085 | 28,632 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 33,507 | 33,398 | 32,575 | 33,955 |
| | 純行政コスト | | 33,508 | 33,391 | 32,632 | 34,501 |



分析:
 ・一般会計等において経常費用は21,346百万円となり、前年度から1,069百万円増加した。内訳では業務費用のほうに移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等(9,686百万円、前年度比+734百万円)であり、純行政コストの47.1%を占めている。極力、新たな施設を作らず公共施設等の適正管理に努め、民間でも実施可能な部分について指定管理者制度を導入するなどにより、コストの削減に努める。
 ・全体の純行政コストは介護保険特別会計で前年度比33百万円増加したことなどにより、前年度比1,547百万円の増加となった。
 ・連結においては、長野広域連合において純行政コストが前年より大幅に増加したことなどから、前年度比1,869百万円と全体よりも増加額が拡大した。

3. 純資産変動の状況

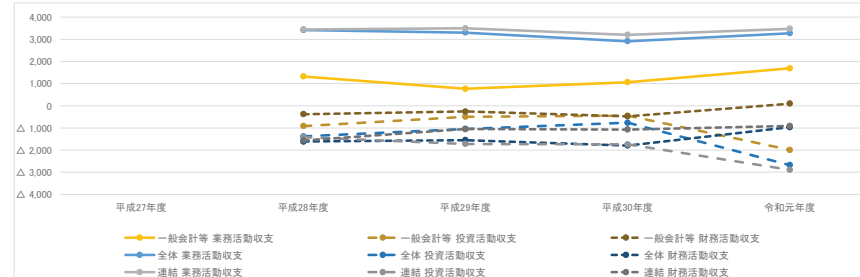
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 2,540 | △ 2,940 | △ 2,932 | △ 2,482 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 2,513 | △ 2,637 | △ 2,961 | △ 2,411 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 1,394 | △ 1,811 | △ 2,004 | △ 1,457 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,367 | △ 1,508 | △ 2,033 | △ 1,387 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 1,332 | △ 1,178 | △ 1,773 | △ 1,387 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,305 | △ 876 | △ 1,742 | △ 1,240 |



分析:
 ・一般会計等においては、財源(18,041百万円)が純行政コスト(20,523百万円)を下回ったことから、本年度差額は△2,482百万円(前年度比450百万円増)となり、純資産残高は2,411百万円の減少となった。引き続き地方税の徴収業務の強化や企業立地の促進強化等により収収等の増加に努めている。
 ・全体においては、純資産残高は前年度から1,388百万円の減額となったが、水道事業会計で261百万円、下水道事業会計で373百万円それぞれ純資産残高が増えたことなどから、一般会計等よりも純資産残高の減少額は縮小した。
 ・連結においても、純資産残高は前年度から1,240百万円の減額となったが、長野広域連合で45百万円純資産が増えたことなどから、全体よりも純資産残高の減少額は縮小した。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,324 | 769 | 1,066 | 1,691 |
| | 投資活動収支 | | △ 910 | △ 491 | △ 443 | △ 1,987 |
| | 財務活動収支 | | △ 375 | △ 256 | △ 476 | 95 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 3,416 | 3,301 | 2,908 | 3,274 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,383 | △ 1,044 | △ 760 | △ 2,676 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,614 | △ 1,551 | △ 1,794 | △ 962 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 3,447 | 3,497 | 3,199 | 3,474 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,415 | △ 1,724 | △ 1,741 | △ 2,887 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,564 | △ 1,051 | △ 1,076 | △ 906 |



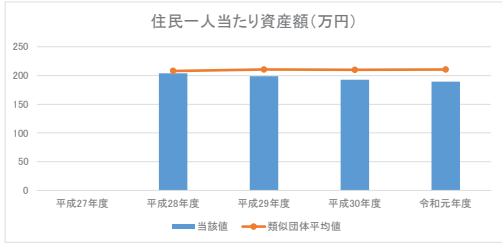
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は1,691百万円であったが、投資活動収支については公共施設等整備費に1,819百万円支出があったことなどから、△1,987百万円となっている。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債償還支出を上回っていることから、95百万円となり、本年度末資金残高は201百万円減少した。
 ・全体においては、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,563百万円多い3,274百万円となっている。財務活動収支は、地方債償還支出が地方債発行収入を上回っていることから、△962百万円となり、本年度末資金残高は前年度より364百万円減の4,815百万円となった。
 ・連結においては、本年度資金収支額が△319百万円となり、比例連結割合変更に伴う差額を調整した本年度末資金残高は前年度より314百万円減の5,423百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

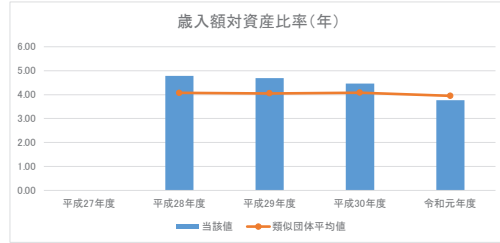
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 10,459,810 | 10,166,740 | 9,803,725 | 9,571,996 |
| 人口 | | 51,368 | 51,132 | 50,849 | 50,524 |
| 当該値 | | 203.6 | 198.8 | 192.8 | 189.5 |
| 類似団体平均値 | | 207.8 | 210.2 | 209.7 | 210.4 |



②歳入額対資産比率(年)

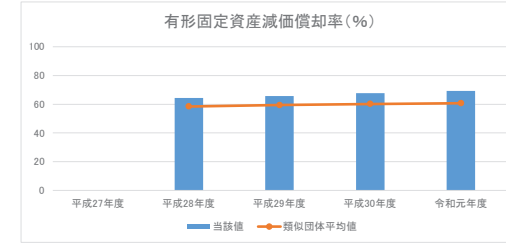
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 資産合計 | | 104,598 | 101,667 | 98,037 | 95,720 |
| 歳入総額 | | 21,814 | 21,660 | 21,963 | 25,371 |
| 当該値 | | 4.79 | 4.69 | 4.46 | 3.77 |
| 類似団体平均値 | | 4.07 | 4.05 | 4.08 | 3.95 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 135,992 | 140,146 | 144,351 | 148,607 |
| 有形固定資産 ※1 | | 211,500 | 212,831 | 213,642 | 214,320 |
| 当該値 | | 64.3 | 65.8 | 67.6 | 69.3 |
| 類似団体平均値 | | 58.4 | 59.4 | 60.2 | 60.7 |

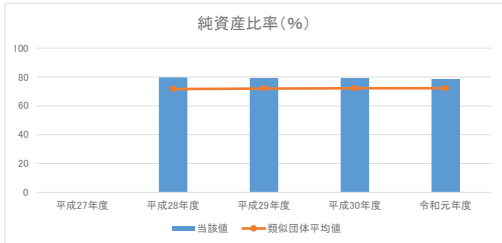
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

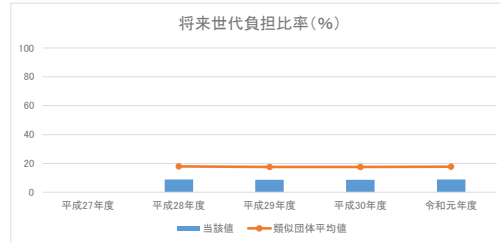
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 純資産 | | 83,237 | 80,600 | 77,639 | 75,228 |
| 資産合計 | | 104,598 | 101,667 | 98,037 | 95,720 |
| 当該値 | | 79.6 | 79.3 | 79.2 | 78.6 |
| 類似団体平均値 | | 71.6 | 72.0 | 72.1 | 72.2 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 8,542 | 8,224 | 7,688 | 7,873 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 96,748 | 94,202 | 90,640 | 88,029 |
| 当該値 | | 8.8 | 8.7 | 8.5 | 8.9 |
| 類似団体平均値 | | 17.9 | 17.5 | 17.5 | 17.7 |

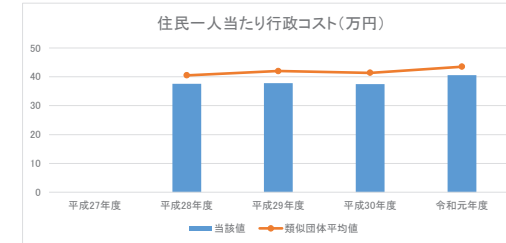
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

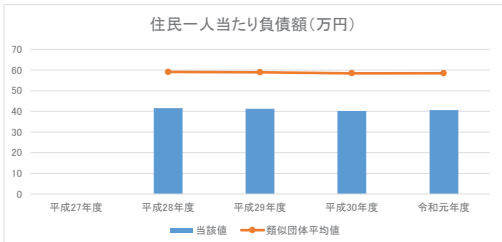
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,930,328 | 1,931,250 | 1,907,015 | 2,052,317 |
| 人口 | | 51,368 | 51,132 | 50,849 | 50,524 |
| 当該値 | | 37.6 | 37.8 | 37.5 | 40.6 |
| 類似団体平均値 | | 40.5 | 42.0 | 41.4 | 43.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

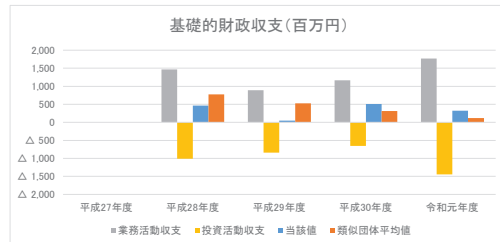
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,136,156 | 2,106,748 | 2,039,803 | 2,049,196 |
| 人口 | | 51,368 | 51,132 | 50,849 | 50,524 |
| 当該値 | | 41.6 | 41.2 | 40.1 | 40.6 |
| 類似団体平均値 | | 59.1 | 58.9 | 58.4 | 58.5 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|--------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,468 | 887 | 1,162 | 1,767 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 1,005 | △ 840 | △ 656 | △ 1,447 |
| 当該値 | | 463 | 47 | 506 | 320 |
| 類似団体平均値 | | 773.2 | 526.2 | 310.5 | 114.7 |

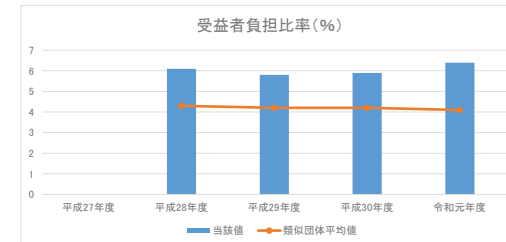
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 1,251 | 1,194 | 1,203 | 1,370 |
| 経常費用 | | 20,554 | 20,514 | 20,277 | 21,346 |
| 当該値 | | 6.1 | 5.8 | 5.9 | 6.4 |
| 類似団体平均値 | | 4.3 | 4.2 | 4.2 | 4.1 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額は、新たな施設を作らず今ある施設を有効利用しているため、類似団体平均を下回っている。しかし、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回っており、老朽化した施設も多いことから、将来の公共施設等の修繕や更新等に依る財政負担を軽減・平準化するため、公共施設等総合管理計画等に基づき施設の長寿命化を計画的に進めている。

2. 資産と負債の比率

・これまで交付税措置のない起債をあまり借りてこなかったことから、純資産比率は類似団体平均を上回り、将来世代負担比率も類似団体平均を下回っている。今後は大型公共施設の長寿命化に伴う大規模改修を予定していることから、資産・負債ともに増加していく見込みである。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均より少ないが、令和元年度は令和元年東日本台風による災害復旧費などにより行政コストが増加したため、前年度よりも3.1万円増加した。高齢化等による社会保障給付が年々上昇しているが、行財政改革の取組みを進め、行政コストの削減を図る。

4. 負債の状況

・これまで交付税措置のない起債をあまり借りてこなかったことから、住民一人当たり負債額は類似団体平均より少ない。今後は起債を活用し、大型公共施設の長寿命化に伴う大規模改修を予定していることから、住民一人当たり負債は増加していく見込みである。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均を上回っており、前年度から0.5%上昇している。今後も公共施設使用料の見直し定期的に行うなど、受益者負担の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県小諸市
団体コード 202088

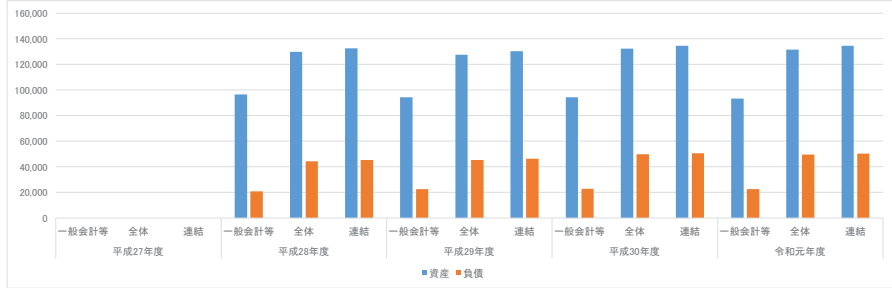
| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 42,230人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 284人 |
| 面積 | 98.55km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 9,824.315千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市I-1 | 実質公債比率 | 7.9% |
| | | 将来負担比率 | 23.3% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | 96,570 | 94,486 | 94,284 | 94,284 | 93,414 |
| | 負債 | 20,958 | 22,514 | 22,883 | 22,883 | 22,639 |
| 全体 | 資産 | 129,886 | 127,624 | 127,624 | 132,326 | 131,722 |
| | 負債 | 44,302 | 45,262 | 49,777 | 49,777 | 49,560 |
| 連結 | 資産 | 132,566 | 130,329 | 134,707 | 134,707 | 134,534 |
| | 負債 | 45,456 | 46,310 | 50,655 | 50,655 | 50,446 |

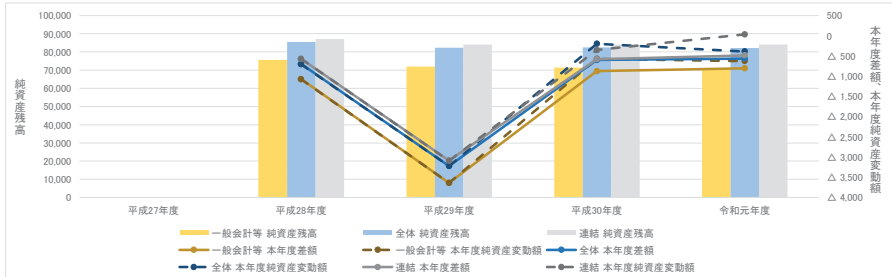


分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から870百万円の減少(-0.9%)となった。金額の変動が大きいものはインフラ資産と基金であり、インフラ資産は、主に工物等の減価償却累計額の減少が資産取得の増加を上回ったことから499百万円の減少し、基金は、基金取り崩しに頼らざるを得ない執行状況のために、基金(固定資産)が214百万円減少した。一層の歳出削減に努め、基金取り崩しに歯止めをかける必要がある。
 ・資産総額のうち有形固定資産の割合は89%となっており、これらの資産は将来、維持管理・更新等の支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
 ・一般会計等においては、負債総額が前年度末から244百万円の減少(-1.1%)となった。
 ・水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から604百万円減少(-0.5%)し、負債総額は前年度末から217百万円減少(-0.4%)した。資産総額は、上水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等に比べて38,308百万円多くなるが、負債総額も下水道管の耐震補強、上水道の送配水管敷設等に地方債(固定負債)を充当したこと等から、26,921百万円多くなっている

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △1,072 | △3,639 | △876 | △805 |
| | 本年度純資産変動額 | | △1,078 | △3,639 | △572 | △626 |
| 全体 | 純資産残高 | 75,612 | 71,972 | 71,401 | 70,775 | 70,775 |
| | 本年度差額 | | △698 | △3,221 | △598 | △565 |
| 連結 | 本年度差額 | | △573 | △3,085 | △579 | △486 |
| | 本年度純資産変動額 | | △575 | △3,092 | △353 | 36 |
| | 純資産残高 | 87,111 | 84,019 | 84,052 | 84,052 | 84,088 |

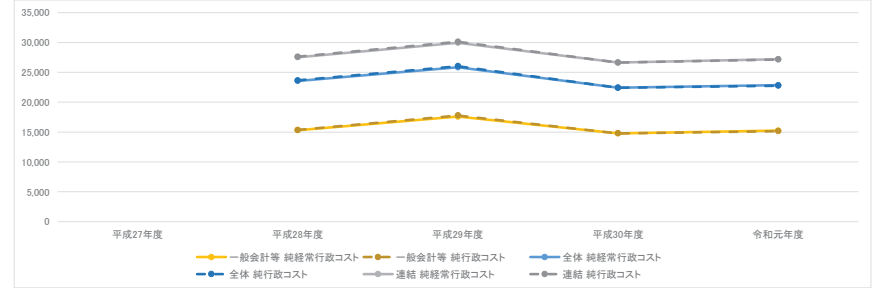


分析:
 ・一般会計等においては、前年度に比べ変動額の差が改善されたが、税収等の財源(11,116百万円)が純行政コスト(15,152百万円)を下回っており、本年度差額は▲805百万円となり、純資産残高は626百万円の減少となった。徴収業務の改善や事業見直しによる歳出削減等により、純行政コストの減少および税収等の増加に努める。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が3,419百万円多くなっているものの、本年度差額は▲565百万円となり、純資産残高は37百万円の減少となった。
 ・連結では、佐久広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が12,336百万円多くなり、本年度差額は▲486百万円となり、純資産残高は36百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 15,314 | 17,603 | 14,780 | 15,235 |
| | 純行政コスト | | 15,346 | 17,774 | 14,771 | 15,152 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 23,578 | 25,855 | 22,432 | 22,845 |
| | 純行政コスト | | 23,654 | 26,024 | 22,424 | 22,764 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 27,533 | 29,954 | 26,648 | 27,180 |
| | 純行政コスト | | 27,608 | 30,125 | 26,641 | 27,170 |

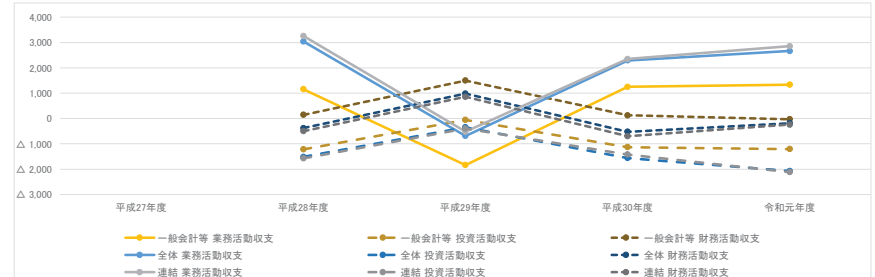


分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は15,711百万円となり、前年度比421百万円の増加(+2.8%)となった。そのうち、人件費等の業務費用は8,897百万円、補助金や社会保険給付等の移転費用は6,813百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等(6,197百万円、前年度比+3.0%)であり、純行政コストの40.9%を占めている。施設の集約化・複合化事業に着手するなど、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費削減に努める。
 ・全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,533百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が6,546百万円多くなり、純行政コストは7,612百万円多くなっている。
 ・連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の移転費用を計上し、経常費用が14,003百万円多くなり、純行政コストは12,018百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,157 | △1,840 | 1,246 | 1,333 |
| | 投資活動収支 | | △1,219 | △57 | △1,134 | △1,212 |
| 全体 | 財務活動収支 | | 143 | 1,494 | 123 | △32 |
| | 業務活動収支 | | 3,040 | △690 | 2,290 | 2,661 |
| 連結 | 投資活動収支 | | △1,516 | △349 | △1,560 | △2,073 |
| | 財務活動収支 | | △379 | 982 | △528 | △182 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 3,256 | △518 | 2,345 | 2,853 |
| | 投資活動収支 | | △1,570 | △398 | △1,421 | △2,119 |
| | 財務活動収支 | | △500 | 857 | △700 | △240 |



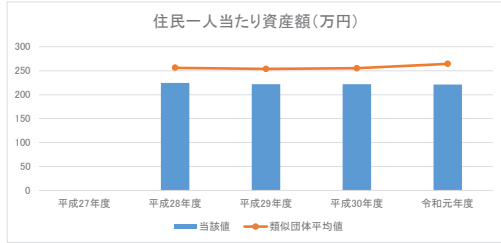
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は1,333百万円であったが、投資活動収支については、社会資本整備事業等を行ったことから、▲1,212百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲32百万円となり、本年度末資金残高は前年度から89百万円増加し、969百万円となった。しかし、行政活動に必要な資金を基金の取崩しと地方債の発行収入によって確保している状況であり、財政健全化に向けた政策を行う必要がある。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,328百万円多い2,661百万円となっている。投資活動収支では、下水道の耐震化、上水道の敷設等を実施したため、▲2,073百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲182百万円となったが、本年度末資金残高は前年度から406百万円増加し、4,984百万円となった。
 ・連結では、土地開発公社における公有地取得事業等の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,520百万円多い2,853百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

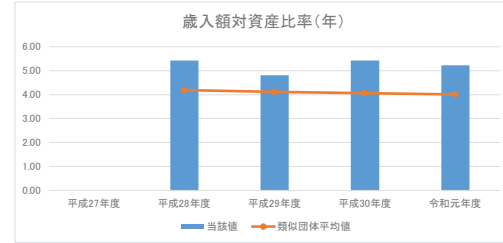
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 資産合計 | 9,656,970 | 9,448,629 | 9,428,355 | 9,341,421 | |
| 人口 | 42,954 | 42,648 | 42,471 | 42,230 | |
| 当該値 | 224.8 | 221.5 | 222.0 | 221.2 | |
| 類似団体平均値 | 256.2 | 253.7 | 254.9 | 264.2 | |



②歳入額対資産比率(年)

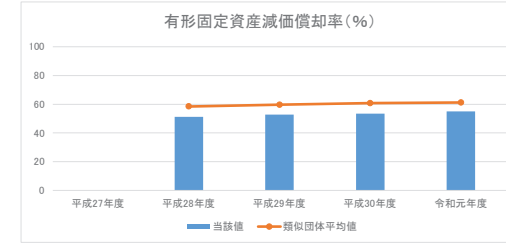
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 資産合計 | 96,570 | 94,486 | 94,284 | 93,414 | |
| 歳入総額 | 17,805 | 19,661 | 17,370 | 17,883 | |
| 当該値 | 5.42 | 4.81 | 5.43 | 5.22 | |
| 類似団体平均値 | 4.19 | 4.11 | 4.06 | 4.01 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 減価償却累計額 | 63,445 | 65,851 | 67,796 | 70,342 | |
| 有形固定資産 ※1 | 123,555 | 124,688 | 126,874 | 128,036 | |
| 当該値 | 51.3 | 52.8 | 53.4 | 54.9 | |
| 類似団体平均値 | 58.4 | 59.6 | 60.7 | 61.2 | |

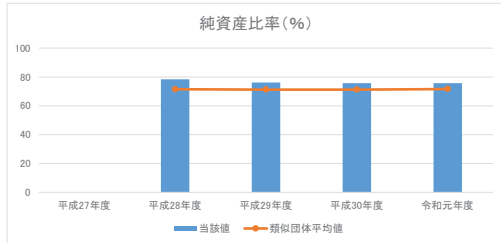
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

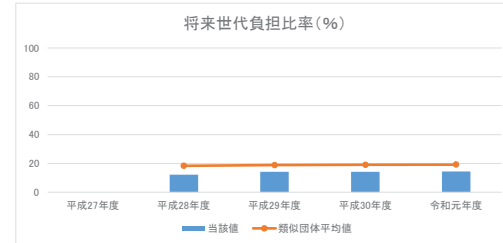
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 純資産 | 75,612 | 71,972 | 71,401 | 70,775 | |
| 資産合計 | 96,570 | 94,486 | 94,284 | 93,414 | |
| 当該値 | 78.3 | 76.2 | 75.7 | 75.8 | |
| 類似団体平均値 | 71.5 | 71.2 | 71.2 | 71.6 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 10,449 | 11,906 | 11,921 | 11,886 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 85,510 | 84,251 | 83,817 | 83,328 | |
| 当該値 | 12.2 | 14.1 | 14.2 | 14.3 | |
| 類似団体平均値 | 18.3 | 18.7 | 19.0 | 19.1 | |

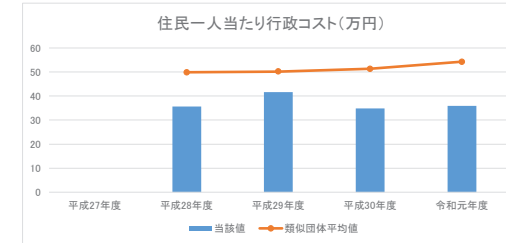
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

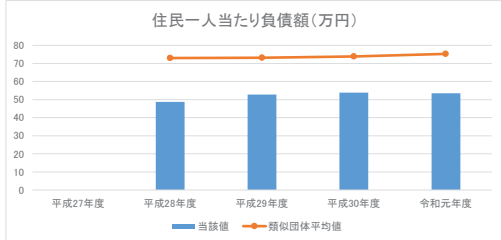
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 純行政コスト | 1,534,583 | 1,777,357 | 1,477,068 | 1,515,243 | |
| 人口 | 42,954 | 42,648 | 42,471 | 42,230 | |
| 当該値 | 35.7 | 41.7 | 34.8 | 35.9 | |
| 類似団体平均値 | 49.9 | 50.2 | 51.3 | 54.3 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

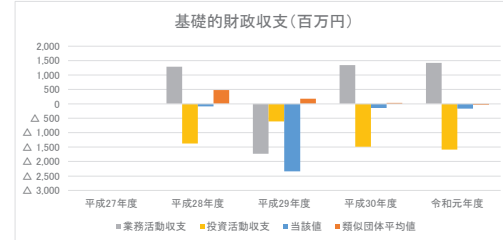
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 負債合計 | 2,095,792 | 2,251,385 | 2,288,288 | 2,263,943 | |
| 人口 | 42,954 | 42,648 | 42,471 | 42,230 | |
| 当該値 | 48.8 | 52.8 | 53.9 | 53.6 | |
| 類似団体平均値 | 73.0 | 73.2 | 73.8 | 75.3 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 1,287 | △1,729 | 1,344 | 1,418 | |
| 投資活動収支 ※2 | △1,376 | △612 | △1,487 | △1,584 | |
| 当該値 | △89 | △2,341 | △143 | △166 | |
| 類似団体平均値 | 476.6 | 177.5 | 36.5 | △35.0 | |

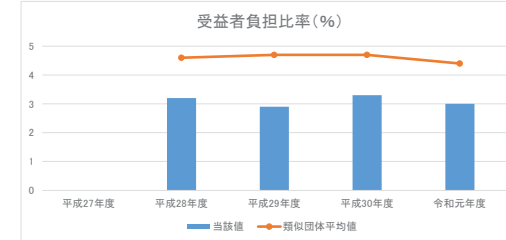
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 509 | 533 | 510 | 476 | |
| 経常費用 | 15,823 | 18,137 | 15,290 | 15,711 | |
| 当該値 | 3.2 | 2.9 | 3.3 | 3.0 | |
| 類似団体平均値 | 4.6 | 4.7 | 4.7 | 4.4 | |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるため、備忘価額1円で評価しているものが大半を占めているためと考えられる。
・ほほ横ばいで推移しているが、更なる人口減少、超高齢化社会に備え、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、純行政コストが税収等の財源を上回ったことから純資産が減少し、昨年度から0.9%減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が費消して便益を享受したことを意味するため、行政コストの削減に努めていく。
・(社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す)将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っているものの、年々増加傾向である。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換え、繰上償還を行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っているが、社会保障給付は増加傾向にあるため、資格審査等の適正化や各種手当への独自加算等の見直しを進め、増加傾向に歯止めをかけるよう努める。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回っているが、地方債に依存する予算編成からの脱却を目指し、地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努める。
地方債の大半を占める臨時財政対策債については、平成14年度から発行し続けており、残高が7,091百万円(地方債残高の97%)となっている。なお、臨時財政対策債以外の起債は、前年度より65百万円減少している。
・基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が支払利息支出を除いた業務活動収支の黒字分を上回ったため、▲166百万円となっている。類似団体平均値を下回っているが、投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、公共施設等の整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率はほほ横ばいで推移し、類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低くなっている。また、昨年度から減少しており、特に、経常収益が昨年度より34百万円減少している。公共施設等の使用料の見直しを行うとともに、公共施設等の利用回数上げるための取組を行うなどにより、受益者負担の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県伊那市
団体コード 202096

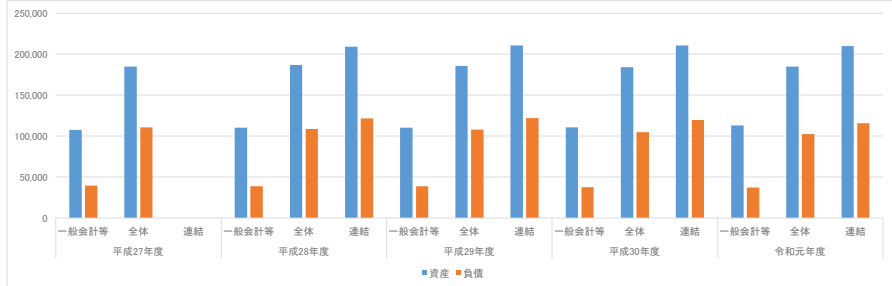
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 67,724人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 536人 |
| 面積 | 667.93km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 20,637.800千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 8.6% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | 107,423 | 110,153 | 110,537 | 110,928 | 113,056 |
| | 負債 | 39,539 | 39,056 | 38,819 | 37,838 | 37,217 |
| 全体 | 資産 | 185,136 | 186,771 | 185,584 | 184,231 | 184,913 |
| | 負債 | 110,673 | 108,802 | 108,152 | 104,923 | 102,421 |
| 連結 | 資産 | | 209,196 | 210,694 | 210,919 | 210,085 |
| | 負債 | | 121,664 | 122,251 | 119,661 | 115,853 |

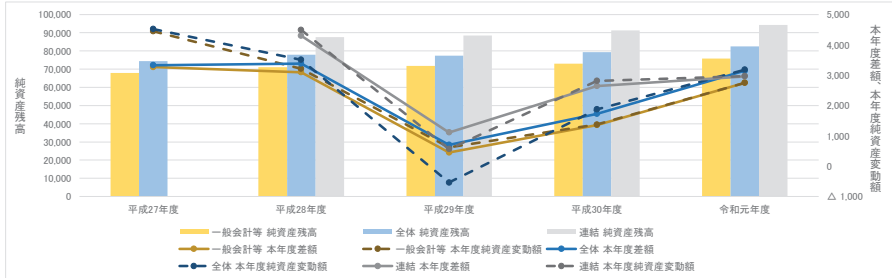


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から2,128百万円の増加(+1.9%)となった。金額の変動が大きいものは、基金(209百万円増: +3.9%)、有形固定資産(1,565百万円増: +1.8%)、投資その他の資産(267百万円増: +1.6%)である。基金は、財政調整基金の積立による増加、有形固定資産は、産業拠点施設や学校設備、インフラ資産の整備による増加、投資その他の資産は、特定目的基金の積立による増加、負債総額は、前年度末から82,1百万円(△1.6%)の減少となった。金額の変動が大きいものは、固定負債の地方債(361百万円減: △1.3%)及び退職手当引当金(226百万円減: △3.7%)である。地方債は「返すより多く借りない」の徹底により年々減少してきている。退職手当引当金は職員数の減に伴う減少。
水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体では、一般会計等と比較して資産総額が71,857百万円多くなり、負債総額が65,204百万円多くなった。資産総額は、下水道管や下水道管等のインフラ資産により増加、負債総額は、資産形成等に伴う地方債により増加した。
上伊那広域連合や伊那中央行政組合を加えた連結では、全体と比較して資産総額が25,172百万円多くなり、負債総額が13,432百万円多くなった。資産総額は、上伊那広域連合や伊那中央行政組合の事業用資産等により増加、負債総額は、地方債により増加した。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | 3,271 | 3,101 | 451 | 1,355 | 2,749 |
| | 本年度純資産変動額 | 4,449 | 3,213 | 621 | 1,373 | 2,749 |
| | 純資産残高 | 67,883 | 71,097 | 71,718 | 73,090 | 75,839 |
| 全体 | 本年度差額 | 3,330 | 3,383 | 702 | 1,723 | 3,145 |
| | 本年度純資産変動額 | 4,521 | 3,506 | △537 | 1,876 | 3,184 |
| | 純資産残高 | 74,463 | 77,968 | 77,432 | 79,308 | 82,492 |
| 連結 | 本年度差額 | 4,301 | 4,301 | 1,110 | 2,641 | 2,957 |
| | 本年度純資産変動額 | 4,494 | 4,494 | 563 | 2,815 | 2,971 |
| | 純資産残高 | 87,531 | 87,531 | 88,442 | 91,258 | 94,232 |

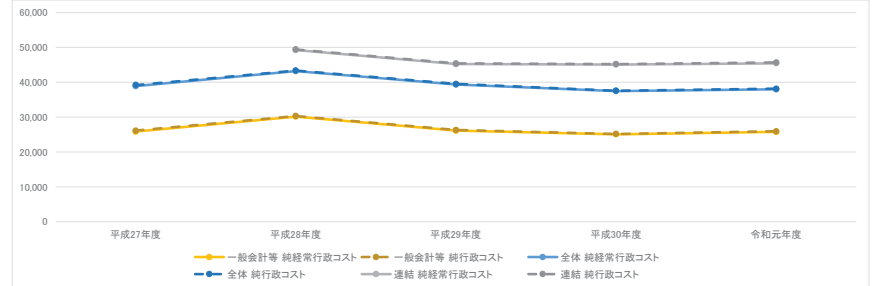


分析:
一般会計等においては、税収等の財源(28,692百万円)が純行政コスト(25,943百万円)を上回ったことから、本年度差額は2,749百万円(前年度比+1,394百万円)となり、純資産残高は2,749百万円の増加となった。前年度に比べてふるさと納税(寄附)が増加したため、財源及び純行政コストの規模も大きくなっている。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が5,249百万円多くなっている。税収等の財源が大きくなったことにより、純資産残高は前年度と比較して3,184百万円の増加となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金により、全体と比較して国庫等補助金が9,868百万円多くなっており、本年度差額は2,957百万円となり、純資産残高は全体と比較して11,740百万円多くなった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 25,842 | 30,153 | 26,113 | 25,064 | 25,758 |
| | 純行政コスト | 26,131 | 30,320 | 26,299 | 25,167 | 25,943 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 38,903 | 43,227 | 39,372 | 37,480 | 37,985 |
| | 純行政コスト | 39,216 | 43,379 | 39,555 | 37,574 | 38,164 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 49,273 | 45,250 | 45,091 | 45,485 |
| | 純行政コスト | | 49,430 | 45,433 | 45,220 | 45,686 |

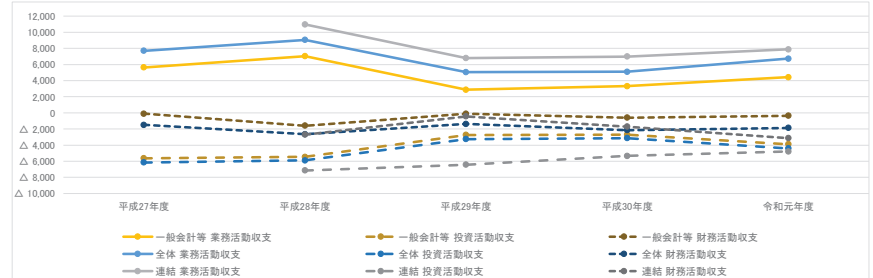


分析:
一般会計等においては、経常費用は26,785百万円となり、前年度比831百万円の増加(+3.2%)となった。金額の変動が大きいものは、物件費等(+1,022百万円)と人件費(+182百万円)である。物件費等は、ふるさと納税者に対する返礼品費用の増加により、前年度比+12.7%となった。
全体では、一般会計等と比較して経常費用が15,073百万円多くなっているが、これは国民健康保険特別会計や介護保険特別会計の給付費が補助金等に含まれることによる。また、水道料金や下水道使用料が使用料及び手数料に含まれるため、経常収益が2,846百万円多くなっている。以上から、純行政コストは、12,221百万円多くなった。
連結では、全体と比較して、人件費が多くなったことなどにより経常費用が16,633百万円多くなった。また、病院事業の収益等により経常収益が9,134百万円多くなり、純行政コストは、7,522百万円多くなった。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 5,625 | 7,029 | 2,879 | 3,313 | 4,418 |
| | 投資活動収支 | △5,637 | △5,456 | △2,740 | △2,704 | △3,897 |
| | 財務活動収支 | △1,05 | △1,603 | △1,03 | △593 | △372 |
| 全体 | 業務活動収支 | 7,695 | 9,045 | 5,055 | 5,095 | 6,718 |
| | 投資活動収支 | △6,162 | △5,890 | △3,251 | △3,141 | △4,415 |
| | 財務活動収支 | △1,486 | △2,642 | △1,365 | △2,150 | △1,862 |
| 連結 | 業務活動収支 | 10,970 | 10,970 | 6,795 | 6,981 | 7,870 |
| | 投資活動収支 | △7,150 | △6,435 | △5,341 | △4,784 | △4,378 |
| | 財務活動収支 | △2,707 | △445 | △1,714 | △3,138 | △3,138 |



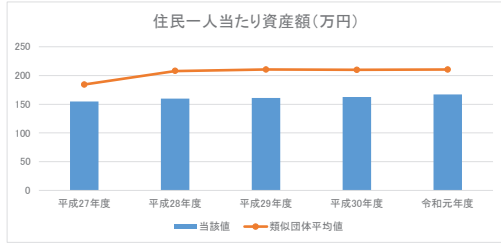
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は4,418百万円であったが、投資活動収支は、公共施設等整備費などの投資活動支出が投資活動収入を上回ったことにより、△3,897百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が発行額を上回ったことにより、△372百万円となり、本年度末資金残高は、前年度から149百万円増加し、1,300百万円となった。地方債の償還は進んでおり、経常的な活動に係る経費は税収等の収入で賄われている状況である。
全体では、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計が税収等に含まれること、水道料金や下水道使用料が使用料及び手数料に含まれることにより、業務活動収支が一般会計等より2,300百万円多い6,718百万円となっている。また、下水道事業の地方債の償還額が多いため、財務活動収支が一般会計等より1,490百万円少ない△1,862百万円となっている。本年度末資金残高は前年度より441百万円多い4,219百万円となった。
連結では、伊那中央病院の外来・入院収益等の収入が業務収入に含まれることから、業務活動収支が全体と比較して1,152百万円多い7,870百万円となっている。投資活動収支は、前年度計上のあった伊那中央病院の施設等整備費支出が減少したことにより、前年より557百万円多い△4,784百万円となっている。本年度末資金残高は、前年度より66百万円少ない6,465百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

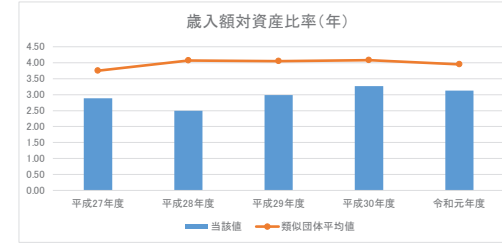
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | 10,742,278 | 11,015,277 | 11,053,705 | 11,092,821 | 11,305,556 |
| 人口 | 69,479 | 69,059 | 68,652 | 68,310 | 67,724 |
| 当該値 | 154.6 | 159.5 | 161.0 | 162.4 | 166.9 |
| 類似団体平均値 | 184.3 | 207.8 | 210.2 | 209.7 | 210.4 |



②歳入額対資産比率(年)

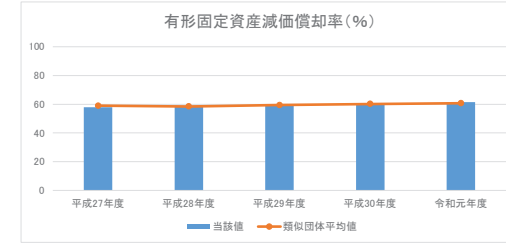
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | 107,423 | 110,153 | 110,537 | 110,928 | 113,056 |
| 歳入総額 | 37,177 | 43,988 | 37,000 | 33,944 | 36,170 |
| 当該値 | 2.89 | 2.50 | 2.99 | 3.27 | 3.13 |
| 類似団体平均値 | 3.75 | 4.07 | 4.05 | 4.08 | 3.95 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | 85,499 | 87,616 | 90,216 | 92,540 | 95,162 |
| 有形固定資産 ※1 | 147,363 | 148,476 | 150,963 | 153,237 | 154,879 |
| 当該値 | 58.0 | 59.0 | 59.8 | 60.4 | 61.4 |
| 類似団体平均値 | 58.9 | 58.4 | 59.4 | 60.2 | 60.7 |

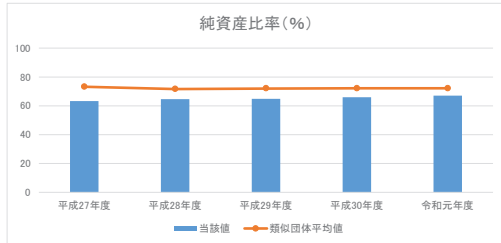
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

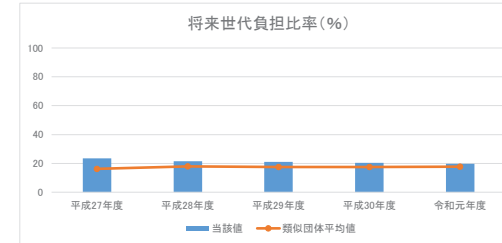
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | 67,883 | 71,097 | 71,718 | 73,090 | 75,839 |
| 資産合計 | 107,423 | 110,153 | 110,537 | 110,928 | 113,056 |
| 当該値 | 63.2 | 64.5 | 64.9 | 65.9 | 67.1 |
| 類似団体平均値 | 73.2 | 71.6 | 72.0 | 72.1 | 72.2 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 20,775 | 18,844 | 18,442 | 17,821 | 17,657 |
| 有形・無形固定資産合計 | 88,810 | 87,786 | 87,374 | 87,737 | 89,279 |
| 当該値 | 23.4 | 21.5 | 21.1 | 20.3 | 19.8 |
| 類似団体平均値 | 16.2 | 17.9 | 17.5 | 17.5 | 17.7 |

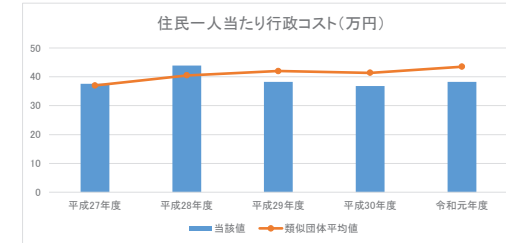
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

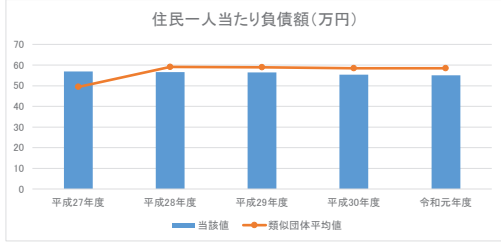
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | 2,613,098 | 3,031,957 | 2,629,889 | 2,516,734 | 2,594,255 |
| 人口 | 69,479 | 69,059 | 68,652 | 68,310 | 67,724 |
| 当該値 | 37.6 | 43.9 | 38.3 | 36.8 | 38.3 |
| 類似団体平均値 | 37.0 | 40.5 | 42.0 | 41.4 | 43.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

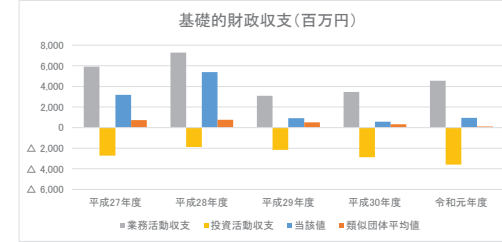
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | 3,953,934 | 3,905,606 | 3,881,949 | 3,783,773 | 3,721,660 |
| 人口 | 69,479 | 69,059 | 68,652 | 68,310 | 67,724 |
| 当該値 | 56.9 | 56.6 | 56.5 | 55.4 | 55.0 |
| 類似団体平均値 | 49.4 | 59.1 | 58.9 | 58.4 | 58.5 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 5,916 | 7,273 | 3,075 | 3,473 | 4,551 |
| 投資活動収支 ※2 | △2,734 | △1,871 | △2,161 | △2,888 | △3,594 |
| 当該値 | 3,182 | 5,402 | 914 | 585 | 957 |
| 類似団体平均値 | 741.0 | 773.2 | 526.2 | 310.5 | 114.7 |

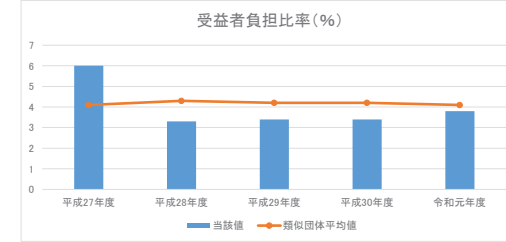
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 1,652 | 1,027 | 929 | 891 | 1,027 |
| 経常費用 | 27,493 | 31,180 | 27,042 | 25,954 | 26,785 |
| 当該値 | 6.0 | 3.3 | 3.4 | 3.4 | 3.8 |
| 類似団体平均値 | 4.1 | 4.3 | 4.2 | 4.2 | 4.1 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額及び歳入額対資産比率が類似団体平均を下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地について、取得価額が不明であるために、備忘簿1円内で評価しているものが大半を占めているためである。
有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回っており、前年度と比較して、1.0%増加した。小中学校等の老朽化が進んでいることが要因の一つである。「伊那市公共施設等総合管理計画」では事業用資産の総量15%減と長寿命化による更新費用の25%削減を目標としており、個別施設計画を策定し、施設の統廃合、長寿命化を進めるなど、公共施設等の適正管理に努める。

※本市作成の財務4表に掲載されている住民一人当たり資産額との差額は、算出人口の違いによる
※本市作成の財務4表に掲載されている有形固定資産減価償却率との差額は、物品を非償却資産として計算していることによる。

2. 資産と負債の比率

純資産比率が類似団体平均を下回っており、将来世代負担比率は類似団体平均を上回っているが、これは資産が類似団体平均を下回っており、かつ、有形・無形固定資産に対して地方債残高が多いことが要因と考えられる。
このことについては、「返すより多く借りない」方針の徹底により、年々地方債残高は減少してきており、指標も前年度よりも改善されている。
「返すより多く借りない」方針は、地方債残高が減少してきたことにより、償還額も減少しているため、年々厳しくなっているが、繰上償還を行うなど、今後も引き続き方針の堅持に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストについては、前年度に比べて1.5万円増加し、類似団体平均を下回っている。これは、ふるさと納税の返礼品費用が増加したことから、純行政コストが前年度に比べて775万円増加したことが主な要因である。

※本市作成の財務4表に掲載されている住民一人当たり行政コストとの差額は、算出人口の違いによる。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額について、前年度と同様、類似団体平均を下回っている。引き続き、地方債の「返すより多く借りない」の徹底により、更なる地方債残高の減少に努める。
基礎的財政収支については、前年度に比べて372百万円増加し、納税が増加したことから、前年度に比べて372百万円増加し、類似団体平均は依然上回っている状況である。

※本市作成の財務4表に掲載されている住民一人当たり負債額との差額は、算出人口の違いによる。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率について、前年度と同様、類似団体平均を下回っている。経常収益、経常費用ともに増加しており、比率についても前年度より増加している。それぞれが増加した理由は、ふるさと納税(寄附)に係る返礼品を経常費用に計上しているが、ふるさと納税(寄附)が増加したことによるものだと考えられる。
引き続き、類似団体平均等を参考に受益者負担の適正化や経常費用の削減に努めていく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県駒ヶ根市
団体コード 202100

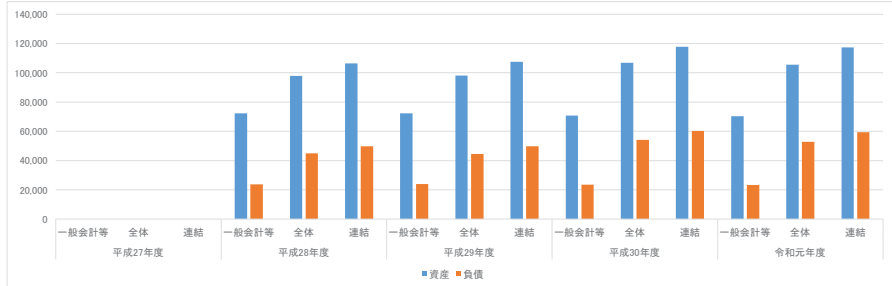
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 32,736人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 244人 |
| 面積 | 165.86km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 8,899,554千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市I-2 | 実質公債費率 | 12.7% |
| | | 将来負担比率 | 178.5% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 72,237 | 72,343 | 70,702 | 70,368 |
| | 負債 | | 23,819 | 23,895 | 23,413 | 23,334 |
| 全体 | 資産 | | 97,961 | 97,997 | 106,901 | 105,648 |
| | 負債 | | 44,934 | 44,581 | 54,197 | 52,832 |
| 連結 | 資産 | | 106,432 | 107,574 | 117,781 | 117,333 |
| | 負債 | | 49,684 | 49,724 | 60,266 | 59,435 |

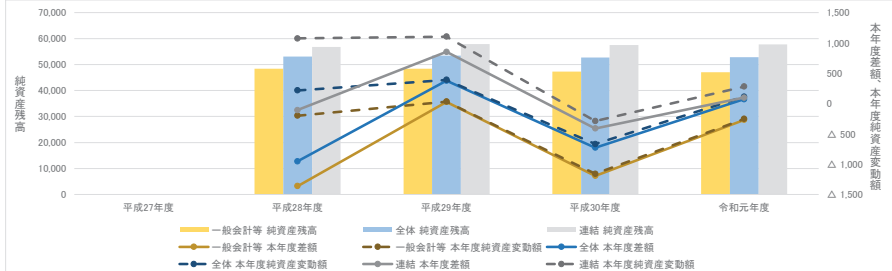


分析:
一般会計等の資産総額は前年度から334百万円(対前年比▲0.5%)の減少となった。社会資本整備総合交付金を活用した令和2年度竣工予定の地域交流センター等整備事業(総経費497百万円、駒ヶ根駅前広場整備事業248百万円、都市計画街路中継線線事業144百万円)や令和元年度国の補正予算を活用した小中学校等空調設備整備事業(総経費538百万円)等を計上したことが主な要因である。また、負債総額は前年度から80百万円(対前年比▲0.3%)の減少となった。市債の新規発行額1,515百万円を上回る償還額1,738百万円を計上したことにより、市債残高が減少したことが主な要因である。
水道・公共下水道・農業集排水事業会計等を加えた全体会計は、資産総額1,252百万円(対前年比▲1.2%)、負債総額1,365百万円(対前年比▲2.5%)減少した。資産総額は下水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等と比べて35,280百万円多く、負債総額は地方債(固定負債)を充当したこと等から、29,498百万円多くなっている。
一部事務組合、第三セクター等を加えた連結会計は、資産総額448百万円(対前年比▲0.4%)、負債総額331百万円(対前年比▲1.4%)減少した。資産総額は駒ヶ根市土地開発公社が保有している公有用地等に係る資産や病院施設に係る資産を計上していること等により、一般会計等と比べて46,965百万円多くなるが、負債総額は駒ヶ根市土地開発公社や病院事業会計の借入金があること等から、36,102百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △1,363 | 26 | △1,192 | △269 |
| | 本年度純資産変動額 | | △202 | 30 | △1,158 | △254 |
| 全体 | 本年度差額 | | 48,418 | 48,448 | 47,289 | 47,035 |
| | 本年度純資産変動額 | | △952 | 377 | △728 | 72 |
| 連結 | 本年度差額 | | 53,027 | 53,416 | 52,703 | 52,816 |
| | 本年度純資産変動額 | | △108 | 853 | △412 | 98 |
| 連結 | 本年度差額 | | 1,073 | 1,102 | △289 | 278 |
| | 本年度純資産変動額 | | 56,748 | 57,850 | 57,514 | 57,792 |

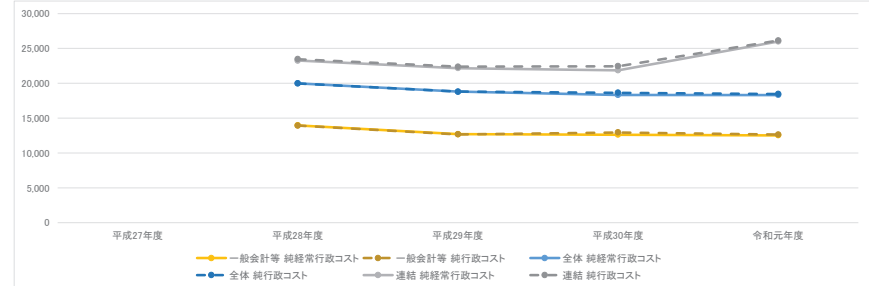


分析:
一般会計等において、純行政コスト12,650百万円(対前年比▲294百万円)が収税等の財源12,381百万円(対前年比+630百万円)を上回ったことが、純資産残高を減少させる要因となった。市債の償還が進み、新規の借入は抑制されているものの、減価償却による資産の減少の方が大きくなってきている。経常費用の見直しによる純行政コストの削減に努め、安定した財政基盤の構築を図っていかねばならない。
全体会計では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収税等に含まれることから、一般会計等と比べて収税等が5,861百万円多くなっており、本年度差額は72百万円となり、純資産残高は113百万円の増加となった。
連結会計では、後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が13,861百万円多くなっており、本年度差額は93百万円となり、純資産残高は180百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 13,958 | 12,687 | 12,632 | 12,523 |
| | 純行政コスト | | 13,938 | 12,677 | 12,943 | 12,650 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 19,990 | 18,803 | 18,328 | 18,330 |
| | 純行政コスト | | 19,979 | 18,797 | 18,642 | 18,462 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 23,258 | 22,167 | 21,863 | 26,002 |
| | 純行政コスト | | 23,456 | 22,393 | 22,444 | 26,144 |

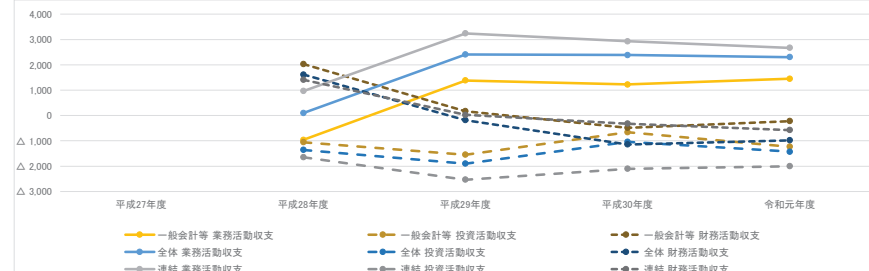


分析:
一般会計等の純経常行政コストは、人件費や物費等を含む業務費用の減少(対前年比▲44百万円)や、補助金や社会保障給付等を含む移転費用の減少(対前年比▲56百万円)などに由来し、110百万円の減少となった。今後、老朽化した施設に要する経費等が増加していく見込みのため、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減を図っていかねばならない。
純行政コストは294百万円の減となったが、主な要因は、資産除売却損の減(対前年比▲195百万円)等によるものである。
全体会計では、一般会計等と比べて水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,315百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、純経常費用が4,750百万円多くなり、純行政コストは5,812百万円多くなっている。
連結会計では、一般会計等と比べて連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が6,292百万円多くなっている一方、経常費用が19,772百万円多くなり、純行政コストは13,494百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | △960 | 1,383 | 1,224 | 1,451 |
| | 投資活動収支 | | △1,052 | △1,550 | △661 | △1,229 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 2,028 | 170 | △488 | △223 |
| | 投資活動収支 | | 98 | 2,407 | 2,383 | 2,304 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,616 | △182 | △1,146 | △979 |
| | 投資活動収支 | | 963 | 3,237 | 2,926 | 2,668 |
| 連結 | 業務活動収支 | | △1,649 | △2,537 | △2,106 | △2,004 |
| | 投資活動収支 | | 1,407 | 22 | △326 | △578 |



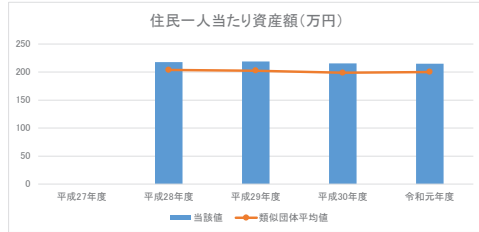
分析:
一般会計等の業務活動収支は、人件費支出や社会保障給付支出の増加により1,451百万円(対前年比+227百万円)、投資活動収支は、地域交流センター等整備や駒ヶ根駅前広場整備、都市計画街路中継線線関連等の大型事業により公共施設等整備費支出2,013百万円(対前年比+731百万円)計上したこと等▲1,229百万円(対前年比▲568百万円)、財務活動収支は、地方債償還支出が地方債の発行額を上回ったことから▲223百万円(対前年比+265百万円)、本年度末資金残高は前年度から1百万円減少し、403百万円となった。
全体会計では、国民健康保険税や介護保険料が収税等に含まれることなどから、業務活動収支は2,304百万円、投資活動収支は水道事業会計で中沢新宮川岸の基幹管路耐震化工事を実施したこと等により▲1,430百万円、財務活動収支は地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから▲979百万円となり、本年度末資金残高は前年度から105百万円減少し、3,061百万円となった。
連結会計では、伊南行政組合病院事業における入院・外来収益等の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は2,668百万円、投資活動収支は上伊那広域連合の新こみ中間処理施設関連事業等により▲2,004百万円、財務活動収支は地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから▲578百万円となり、本年度末資金残高は前年度から46百万円増加し、6,043百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

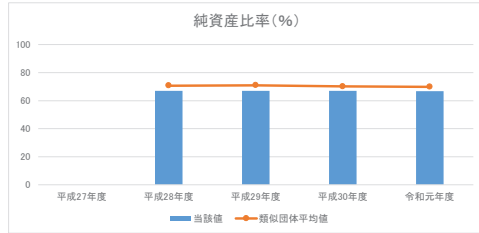
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 7,223,694 | 7,234,273 | 7,070,230 | 7,036,838 |
| 人口 | | 33,207 | 33,080 | 32,828 | 32,736 |
| 当該値 | | 217.5 | 218.7 | 215.4 | 215.0 |
| 類似団体平均値 | | 203.8 | 202.5 | 198.8 | 200.3 |



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

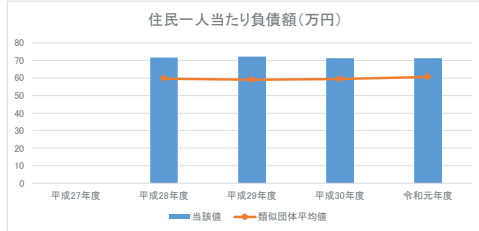
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 46,418 | 46,448 | 47,289 | 47,035 |
| 資産合計 | | 72,237 | 72,343 | 70,702 | 70,388 |
| 当該値 | | 67.0 | 67.0 | 66.9 | 66.8 |
| 類似団体平均値 | | 70.7 | 70.9 | 70.1 | 69.8 |



4. 負債の状況

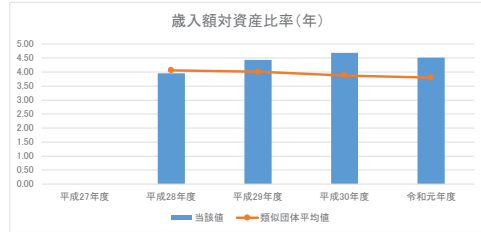
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,381,898 | 2,389,517 | 2,341,314 | 2,333,360 |
| 人口 | | 33,207 | 33,080 | 32,828 | 32,736 |
| 当該値 | | 71.7 | 72.2 | 71.3 | 71.3 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | 59.0 | 59.4 | 60.6 |



②歳入額対資産比率(年)

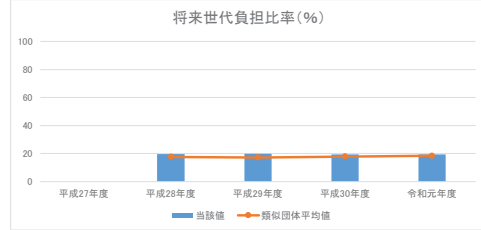
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 72,237 | 72,343 | 70,702 | 70,388 |
| 歳入総額 | | 18,286 | 16,324 | 15,062 | 15,557 |
| 当該値 | | 3.95 | 4.43 | 4.69 | 4.52 |
| 類似団体平均値 | | 4.06 | 4.01 | 3.88 | 3.80 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 13,543 | 13,623 | 13,084 | 12,946 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 68,744 | 68,675 | 66,955 | 66,477 |
| 当該値 | | 19.7 | 19.8 | 19.5 | 19.5 |
| 類似団体平均値 | | 17.6 | 17.2 | 17.9 | 18.5 |

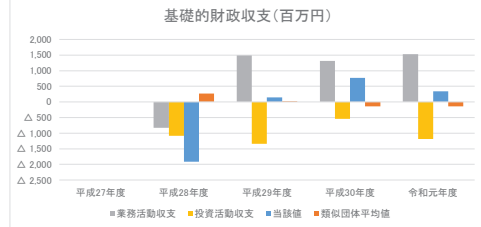
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | △ 833 | 1,489 | 1,312 | 1,523 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 1,086 | △ 1,345 | △ 544 | △ 1,187 |
| 当該値 | | △ 1,919 | 144 | 768 | 336 |
| 類似団体平均値 | | 263.8 | 23.2 | △ 142.3 | △ 139.2 |

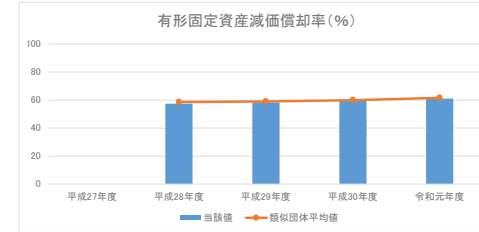
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩入を除く。



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 65,603 | 68,080 | 69,598 | 72,098 |
| 有形固定資産 ※1 | | 114,510 | 116,716 | 116,383 | 118,042 |
| 当該値 | | 57.3 | 58.3 | 59.8 | 61.1 |
| 類似団体平均値 | | 58.6 | 59.0 | 59.9 | 61.6 |

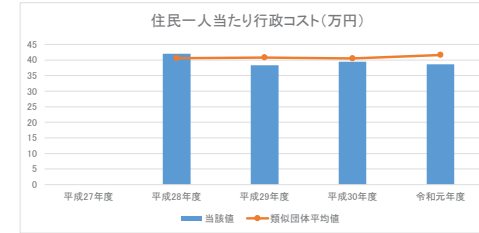
※1 有形固定資産合計一土地等の非償却資産+減価償却累計額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

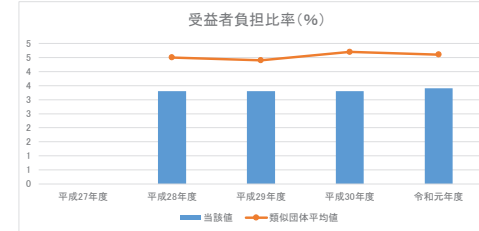
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 総行政コスト | | 1,393,803 | 1,267,668 | 1,294,331 | 1,264,979 |
| 人口 | | 33,207 | 33,080 | 32,828 | 32,736 |
| 当該値 | | 42.0 | 38.3 | 39.4 | 38.6 |
| 類似団体平均値 | | 40.6 | 40.8 | 40.5 | 41.6 |



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 481 | 431 | 435 | 446 |
| 経常費用 | | 14,439 | 13,118 | 13,068 | 12,969 |
| 当該値 | | 3.3 | 3.3 | 3.3 | 3.4 |
| 類似団体平均値 | | 4.5 | 4.4 | 4.7 | 4.6 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たりの資産額は、類似団体平均値を上回っている。これは、過去に実施した大型建設事業(伊南バイパス関連整備、南田市場地区整理、公共下水道事業)や学校施設の耐震化など、積極的に投資をしてきたことによるものである。しかし、老朽化した施設が多いため、将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、公共施設等総合管理計画に基づき、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

歳入対資産比率は4.52年、類似団体平均値を上回っているが、地方債の発行総額の減少により0.17年減少することとなった。

有形固定資産減価償却率については、類似団体平均値を下回っている。しかし、個別で分析すると老朽化が進んでいる施設が多いため、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均値を下回っているが、負債の大半を占めているのは、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債である。このため、臨時財政対策債等の特例的な地方債を除いた地方債残高分を分子として、社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す将来世代負担比率は、類似団体平均値18.5%(対前年+0.6%)を1.0%上回る19.5%(対前年比)となっている。なお、仮に臨時財政対策債の残高を負債額から除いた場合、純資産比率は76.8%である。

新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担減少を図っていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは前年度と比較して0.8万円減少し、類似団体平均値を下回っている。平成28年度は第三セクターの抜本的改革による影響で類似団体平均値を上回ったが、それ以降行政改革プラン2016への取り組みを通じた人員削減や事業見直し等の効果から総行政コストは抑えられている。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は71.3万円(対前年比)に抑制することができたが、類似団体平均値を大きく上回っている。

これは、第三セクター等改革推進債や大型建設事業等に関する地方債を発行してきたためである。返済期間が長期に及ぶため、繰上償還などを積極的にに行い、負債残高の縮減に努めている。

基礎的財政収支は、336百万円となり、前年度と比較して432百万円の減少となったが、類似団体平均値を大きく上回っている。今後は投資活動による収支を改善していく。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均値を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低下している。今後は、施設の大規模改修時などの機会に公共施設等の使用料の見直しを行うとともに、公共施設等の利用回数を上げるための取り組みを行うなどにより、受益者負担の適正化に努めていく。

なお、類似団体平均値まで受益者負担比率を引き上げるためには、仮に経常収益を一定とする場合は、3,273百万円経常費用を削減する必要があり、経常費用を一定とする場合は、151百万円経常収益を増加させる必要がある。このため、公共施設等の使用料の見直し等を行うとともに、経費の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

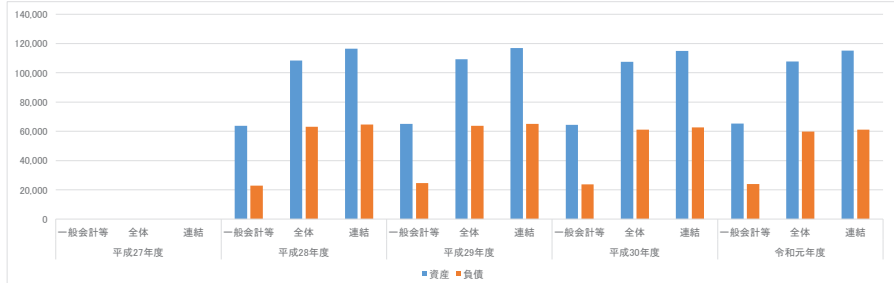
団体名 長野県中野市
団体コード 202118

| | | | |
|--------|------------------------|------------|------|
| 人口 | 44,344人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 383人 |
| 面積 | 112.18 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 12,152.978千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市I-O | 実質公債費率 | 6.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

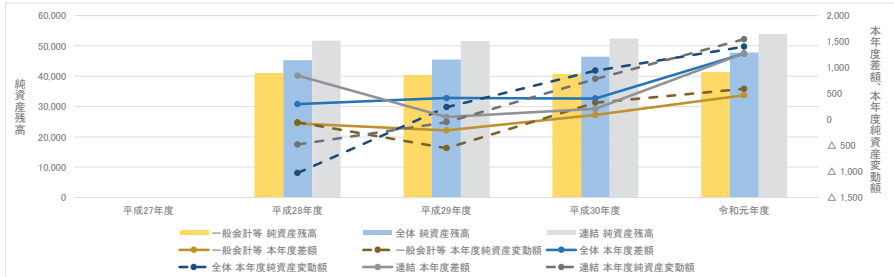
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 63,857 | 65,123 | 64,504 | 65,319 |
| | 負債 | | 22,840 | 24,657 | 23,715 | 23,939 |
| 全体 | 資産 | | 108,382 | 109,153 | 107,521 | 107,647 |
| | 負債 | | 63,146 | 63,679 | 61,109 | 59,834 |
| 連結 | 資産 | | 116,392 | 116,828 | 115,021 | 115,189 |
| | 負債 | | 64,686 | 65,172 | 62,586 | 61,209 |



分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から815百万円の増加(+1.3%)となった。金額の増減が大きいものは、有形固定資産の増加(+618百万円)、投資その他の資産の減少(△733百万円)、現金預金の増加(+816百万円)、未収金の増加(+881百万円)、基金の減少(△755百万円)である。一方、負債総額については、前年度末から224百万円の増加(+0.9%)となった。増加の要因は、人件費関連の引当金(+63百万円)及び預り金の増加(+171百万円)によるものである。
 ・水道事業会計、下水道事業会計、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計を加えた全体会計では、資産総額は前年度末から126百万円増加(+0.1%)でほぼ変動がなく、負債総額は前年度末から1,275百万円の減少(△2.1%)となった。負債総額減少の主な要因は、下水道事業会計での地方債等(固定負債)の減少(△777百万円)である。
 ・岳南広域消防組合、北信保健衛生施設組合、北信広域連合、中野市土地開発公社、第三セクター等を加えた連結会計では、資産総額は前年度末から168百万円の増加(+0.1%)し、負債総額は1,377百万円減少(△2.2%)した。資産総額は、特別養護老人ホーム、ごみ処理施設、斎場等の資産を計上していること等により、一般会計等に比べて49,870百万円多くなっているが、負債総額も一般廃棄物処理事業等に地方債(固定負債)を充当したこと等から、37,270百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

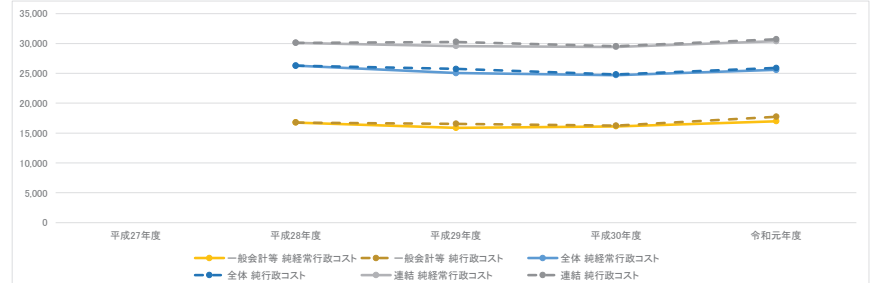
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 76 | △ 209 | 86 | 468 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 55 | △ 552 | 324 | 591 |
| 全体 | 本年度差額 | | 297 | 414 | 405 | 1,269 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,028 | 237 | 938 | 1,402 |
| 連結 | 本年度差額 | | 845 | 49 | 204 | 1,275 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 480 | △ 50 | 778 | 1,546 |
| | 純資産残高 | | 51,707 | 51,656 | 52,434 | 53,980 |



分析:
 ・一般会計等においては、税金等及び国県等補助金の財源(18,197百万円)が純行政コスト(17,729百万円)を上回ったことから、本年度差額は468百万円となり、純資産残高は41,381百万円となっている。今後も地方税の徴収業務の強化等により、税金等財源の増加に努める。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が3,471百万円多くなり、本年度差額は1,269百万円となり、純資産残高は1,402百万円の増加となった。
 ・連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が6,051百万円多くなり、本年度差額は1,275百万円となり、純資産残高は1,546百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

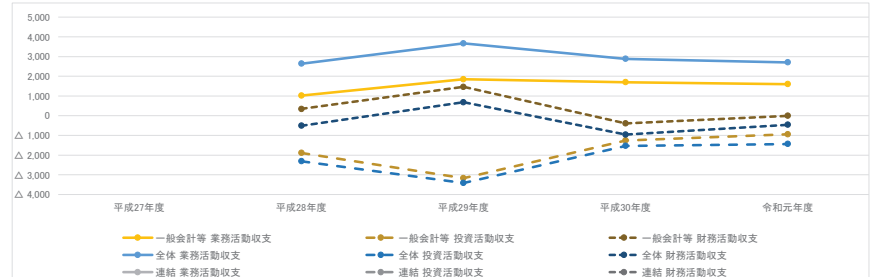
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 16,773 | 15,879 | 16,129 | 16,974 |
| | 純行政コスト | | 16,759 | 16,567 | 16,251 | 17,729 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 26,293 | 25,054 | 24,693 | 25,575 |
| | 純行政コスト | | 26,287 | 25,745 | 24,818 | 25,895 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 30,100 | 29,579 | 29,419 | 30,395 |
| | 純行政コスト | | 30,100 | 30,270 | 29,547 | 30,714 |



分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は17,964百万円となり、前年度比961百万円の増加(+5.7%)となった。増加の多くを占めるのは物件費で、ふるさと寄附金返礼品のための消耗品等のほか、電算システム導入・改修・保守委託料などが増加している。
 ・全体では、一般会計等に比べて、水道料金、下水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,627百万円多くなっている。一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用は7,072百万円、純行政コストは8,166百万円多くなっている。
 ・連結では、一般会計等に比べて、連結対象団体の事業収益を計上しているため、経常収益が2,622百万円多くなっている。一方、人件費が1,949百万円、物件費が1,174百万円多くなっているなど、経常費用が16,044百万円多くなり、純行政コストは12,985百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,019 | 1,849 | 1,695 | 1,598 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,888 | △ 3,171 | △ 1,262 | △ 944 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 344 | 1,464 | △ 393 | △ 9 |
| | 投資活動収支 | | 2,634 | 3,669 | 2,881 | 2,701 |
| 連結 | 業務活動収支 | | △ 506 | 683 | △ 958 | △ 462 |
| | 投資活動収支 | | | | | |



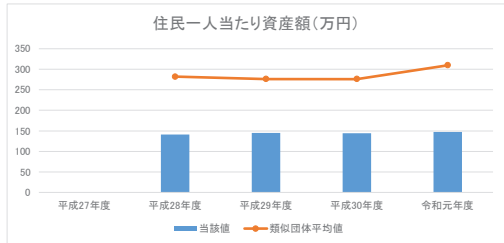
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は1,598百万円であったが、投資活動収支については、公共施設整備等(統合小学校整備工事、ひらおか保育園建設工事等)を実施したこと、△944百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を下回ったことから、△9百万円となった。来年度は、統合小学校、ひらおか保育園建設工事関連の地方債発行額が減額となるため、財務活動収支は大幅なマイナスになると考えられる。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があること等から、業務活動収支は一般会計等より1,103百万円多い2,701百万円となっている。投資活動収支では、下水道事業会計、下水道事業会計の公共施設等整備費が加算され1,441百万円となった。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△462百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

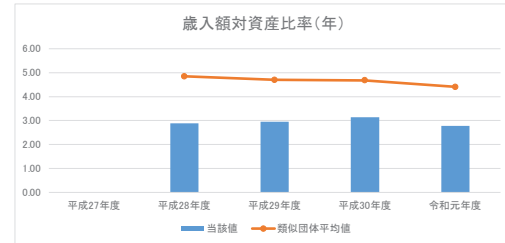
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 6,385,742 | 6,512,317 | 6,450,440 | 6,531,916 |
| 人口 | | 45,361 | 44,984 | 44,683 | 44,344 |
| 当該値 | | 140.8 | 144.8 | 144.4 | 147.3 |
| 類似団体平均値 | | 282.2 | 276.1 | 276.2 | 309.6 |



②歳入額対資産比率(年)

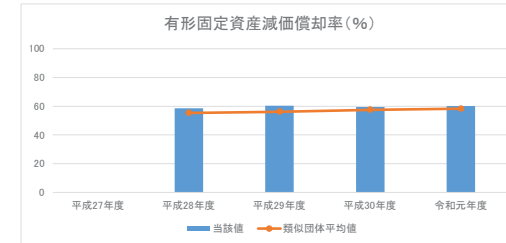
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 63,857 | 65,123 | 64,504 | 65,319 |
| 歳入総額 | | 22,170 | 22,071 | 20,531 | 23,455 |
| 当該値 | | 2.88 | 2.95 | 3.14 | 2.78 |
| 類似団体平均値 | | 4.85 | 4.70 | 4.68 | 4.41 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 40,723 | 42,040 | 43,703 | 45,102 |
| 有形固定資産 ※1 | | 69,616 | 69,622 | 73,532 | 75,099 |
| 当該値 | | 58.5 | 60.4 | 59.4 | 60.1 |
| 類似団体平均値 | | 55.3 | 56.2 | 57.5 | 58.3 |

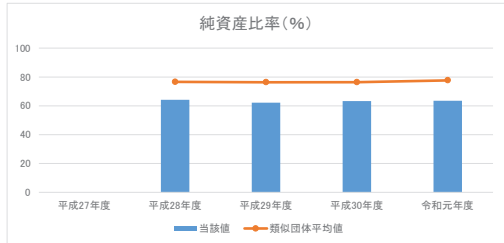
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

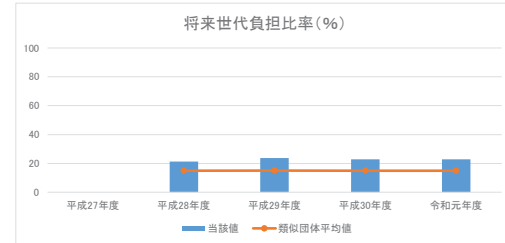
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 41,018 | 40,466 | 40,790 | 41,381 |
| 資産合計 | | 63,857 | 65,123 | 64,504 | 65,319 |
| 当該値 | | 64.2 | 62.1 | 63.2 | 63.4 |
| 類似団体平均値 | | 76.6 | 76.3 | 76.4 | 77.6 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 10,812 | 12,206 | 11,793 | 11,912 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 50,777 | 51,543 | 51,733 | 52,351 |
| 当該値 | | 21.3 | 23.7 | 22.8 | 22.8 |
| 類似団体平均値 | | 14.9 | 15.0 | 14.9 | 14.9 |

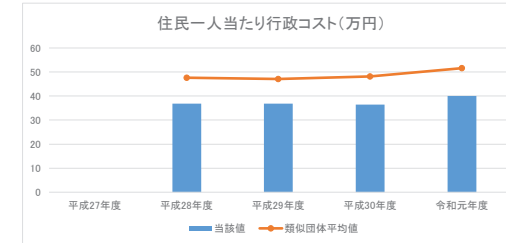
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

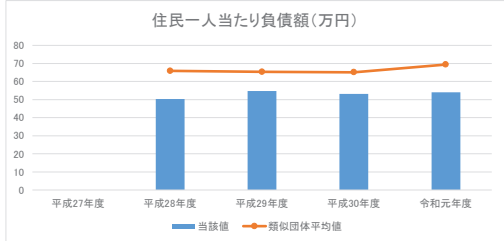
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,675,885 | 1,656,678 | 1,625,131 | 1,772,891 |
| 人口 | | 45,361 | 44,984 | 44,683 | 44,344 |
| 当該値 | | 36.9 | 36.8 | 36.4 | 40.0 |
| 類似団体平均値 | | 47.6 | 47.1 | 48.1 | 51.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

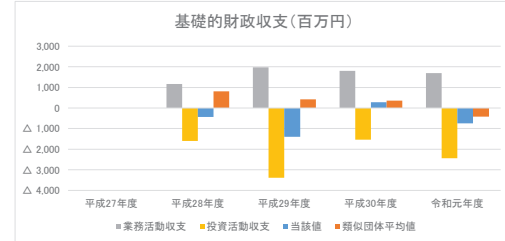
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,283,991 | 2,465,749 | 2,371,455 | 2,393,853 |
| 人口 | | 45,361 | 44,984 | 44,683 | 44,344 |
| 当該値 | | 50.4 | 54.8 | 53.1 | 54.0 |
| 類似団体平均値 | | 65.9 | 65.4 | 65.1 | 69.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,171 | 1,979 | 1,808 | 1,694 |
| 投資活動収支 ※2 | | △1,598 | △3,378 | △1,533 | △2,435 |
| 当該値 | | △427 | △1,399 | 275 | △741 |
| 類似団体平均値 | | 813.6 | 423.6 | 352.5 | △413.7 |

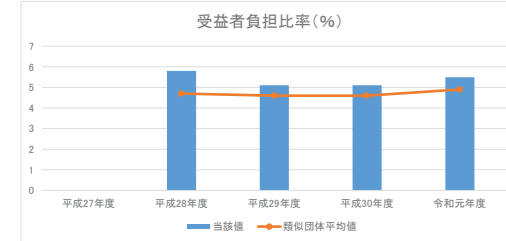
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 1,028 | 851 | 874 | 990 |
| 経常費用 | | 17,801 | 16,729 | 17,003 | 17,964 |
| 当該値 | | 5.8 | 5.1 | 5.1 | 5.5 |
| 類似団体平均値 | | 4.7 | 4.6 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当市では、道路や河川の敷地のうち、取得価格が不明であるものについて、備忘価格を1円で評価しており、それが大半を占めていることが大きな要因である。
・歳入額対資産比率についても、類似団体平均を下回る結果となったが、これは上記と同様の理由で資産額が低く評価されているためであり、来年度以降も大きな変化はなな同水準が見込まれる。

・有形固定資産減価償却率は、類似団体平均と同程度である。有形固定資産減価償却率が高ければそれだけ年数も経過している事になるので、資産も古くなり、資産が古くなると効率性の低下や修繕コストの増加といった問題が出てくる。現在、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めているなど公共施設等の適正管理に努めているところである。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均を下回っている。比率が低いことは、現世代が将来世代に比べても利用可能であった財産を使ってサービスを享受する一方で、将来世代に負担が先送りされていることを意味するため、将来世代への負担増加とならないよう行政コストの削減に努める。
・将来世代負担比率は、類似団体平均を上回っているが、要因は「1.資産の状況」で説明したように、資産額が低く評価されているためである。しかしながら、統合小学校整備、ひらおか保育園建設、新庁舎整備等の大きな事業による地方債の借入により残高が増加傾向にあることから、新規に発行する地方債の抑制を行うことなどで地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っている。今後公共施設の維持管理に係る経費等の削減に努めていく。
・住民一人当たり行政コストは前年度から増加(+3.6万円)しているが、主な要因は災害復旧事業費等の臨時損失が増加したことにより、純行政コストが増加(+1,478百万円)したためである。

4. 負債の状況

・住民一人当たりの負債額は類似団体平均を下回っているが、統合小学校整備、ひらおか保育園建設等の大型建設事業に係る地方債の借入れ等により増加(+0.9万円)した。
・基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を上回ったため、△741百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、大規模な公共施設整備等(統合小学校整備、ひらおか保育園建設等)を実施したためである。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均を若干上回っており、前年度からも増加(+0.4%)しているが、経常収益、経常費用はともに平成29年から増加傾向である。公共施設等総合管理計画に基づく施設の廃止等を行い、引き続き経常費用の削減に努める。
・なお、受益者負担の水準については、「受益者負担の適正化に関する指針」(平成31年2月制定)において、公共サービスの費用に対する受益者負担の考え方を明らかにするとともに、税負担の公平性・公正性や透明性の確保に努めている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県大町市
団体コード 202126

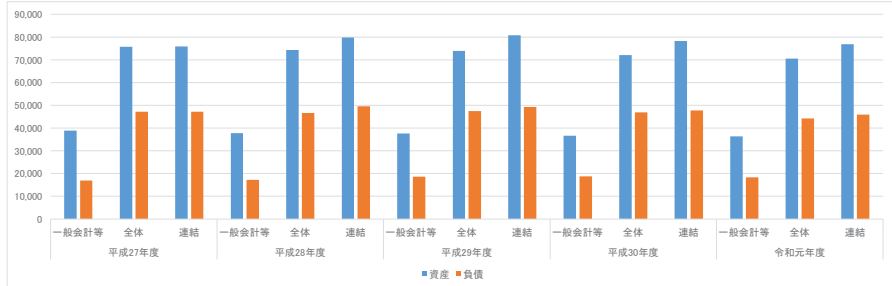
| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 27,249人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 306人 |
| 面積 | 565.15 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 10,126.191千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市I-1 | 実質公債比率 | 7.1% |
| | | 将来負担比率 | 48.8% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 38,921 | 37,760 | 37,684 | 36,642 | 36,305 |
| | 負債 | 16,892 | 17,238 | 18,649 | 18,732 | 18,346 |
| 全体 | 資産 | 75,656 | 74,308 | 73,932 | 72,114 | 70,452 |
| | 負債 | 47,119 | 46,612 | 47,400 | 46,828 | 44,226 |
| 連結 | 資産 | 75,821 | 79,755 | 80,803 | 78,199 | 76,804 |
| | 負債 | 47,119 | 49,611 | 49,241 | 47,696 | 45,959 |

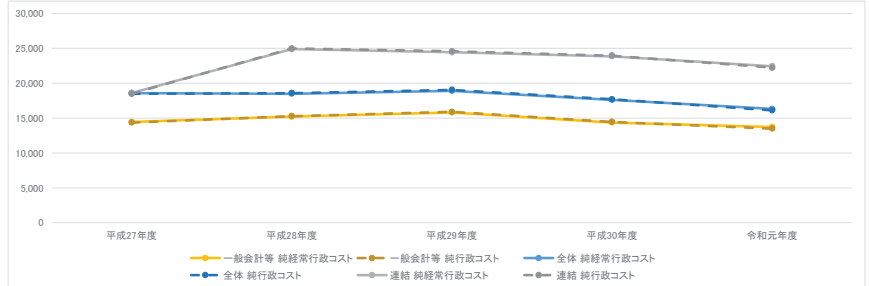


分析:
一般会計等においては、負債総額が前年度末より386百万円の減少(-2%)となった。中でも、固定負債については、前年度末より461百万円の減少であり、金額の変動が最も大きいものは、退職手当引当金である。また、地方債(固定負債)については、平成28年度から本格着工となった広域ごみ処理施設建設事業に借入が発生し、平成29年度は1,640百万円、平成30年度は1,228百万円と当市の財政規模では大型の借入を実施し、令和元年度には学校施設等空調設備設置事業などの借入を行い、47百万円の減少と横ばいとなった。
水道事業会計や病院事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から1,662百万円減少し、負債総額は前年度末から2,602百万円減少したが、水道管や病院施設をインフラ資産として計上していることや施設改修に伴う地方債(固定負債)の充当があったことから、依然として規模が大きくなっている。
北アルプス広域連合を加えた連結では、資産総額は前年度末から1,395百万円減少し、負債総額は前年度末から1,737百万円減少した。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 14,440 | 15,226 | 15,816 | 14,383 | 13,729 |
| | 純行政コスト | 14,364 | 15,293 | 15,912 | 14,473 | 13,493 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 18,607 | 18,506 | 18,920 | 17,629 | 16,330 |
| | 純行政コスト | 18,510 | 18,601 | 19,053 | 17,707 | 16,120 |
| 連結 | 純経常行政コスト | 18,608 | 24,918 | 24,451 | 23,882 | 22,458 |
| | 純行政コスト | 18,511 | 25,013 | 24,584 | 23,960 | 22,248 |

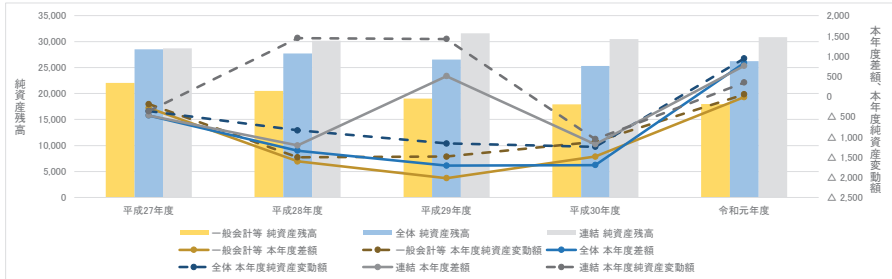


分析:
一般会計等において、経常費用は14,814百万円となり、前年度と比較すると518百万円の減少となった。この要因としては、退職手当引当金繰入額及び職員給与の減少に伴い人件費が256百万円減少したことにより業務費用が減少したためである。移転費用については、広域ごみ処理施設建設事業に伴う北アルプス広域連合への負担金が平成28年度から増加していたが、平成ベースとなったことにより、補助金等が減少傾向となっている。今後とも施設の長寿命化や集約化事業に着手するなど、公共施設等の適正管理に努めるとともに、補助金交付基準の見直し、他会計への繰出金の精査などに取り組むことでコスト削減を実現していきたい。全体においては、前年度末と比較すると減少しているが、病院事業会計における職員給与等は増加傾向となっており懸念材料となっている。連結では、北アルプス広域連合の純行政コストの減少に伴い連結関係団体で減少となっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 285 | △ 1,608 | △ 2,023 | △ 1,488 | △ 16 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 191 | △ 1,506 | △ 1,468 | △ 1,125 | 49 |
| | 純資産残高 | 22,029 | 20,523 | 19,035 | 17,910 | 17,959 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 471 | △ 1,344 | △ 1,711 | △ 1,696 | 828 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 364 | △ 841 | △ 1,164 | △ 1,247 | 940 |
| | 純資産残高 | 28,537 | 27,696 | 26,532 | 25,285 | 26,226 |
| 連結 | 本年度差額 | △ 472 | △ 1,211 | 504 | △ 1,184 | 758 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 365 | 1,442 | 1,418 | △ 1,059 | 342 |
| | 純資産残高 | 28,702 | 30,144 | 31,561 | 30,503 | 30,845 |

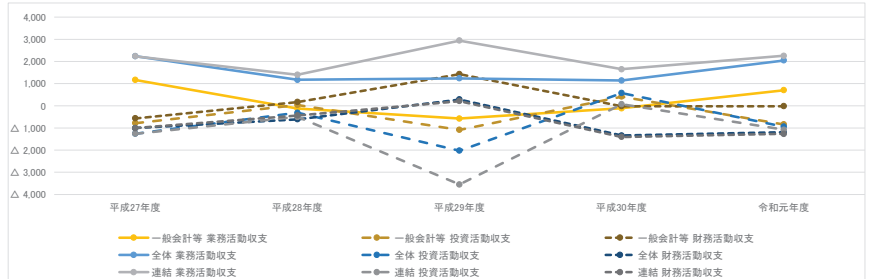


分析:
一般会計等においては、税収等の財源(13,477百万円)が純行政コスト(13,493百万円)を依然下回っており、本年度差額は▲16百万円、純資産残高は49百万円の増加となった。純行政コストの削減と税収等の増加対策を両輪で行っていく必要があることを認識し、課題解決に努める。
全体については、病院事業会計で338百万円の純資産増となっていることから一般会計等に比べ、純資産残高が増加となっている。
連結については、北アルプス広域連合において、広域ごみ処理施設建設事業に係る構成市町村からの負担金が減少したことによる財源の減少が生じたことから、変動額が小さくなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 1,166 | △ 116 | △ 573 | △ 111 | 699 |
| | 投資活動収支 | △ 783 | 38 | △ 1,087 | 410 | △ 845 |
| | 財務活動収支 | △ 571 | 166 | 1,427 | △ 19 | △ 17 |
| 全体 | 業務活動収支 | 2,238 | 1,172 | 1,235 | 1,143 | 2,041 |
| | 投資活動収支 | △ 1,261 | △ 316 | △ 2,025 | 574 | △ 938 |
| | 財務活動収支 | △ 1,007 | △ 613 | 281 | △ 1,337 | △ 1,194 |
| 連結 | 業務活動収支 | 1,400 | 2,938 | 2,938 | 1,647 | 2,253 |
| | 投資活動収支 | △ 1,261 | △ 501 | △ 3,544 | 71 | △ 1,081 |
| | 財務活動収支 | △ 1,007 | △ 437 | 208 | △ 1,408 | △ 1,267 |



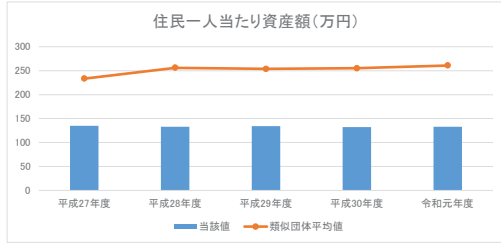
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は、人件費支出・補助金等支出が減少したことに加え、国県等補助金収入など業務活動収入が増加したことにより、699百万円であった。投資活動収支については、学校施設等空調設備設置事業など公共施設等整備費支出が増加したことから、▲845百万円となっている。財務活動収支では、地方債の償還額などの財務活動支出が地方債の発行額を上回ったことから、▲17百万円となっている。
全体においては、業務活動収支では、国民健康保険特別会計で▲39百万円、後期高齢者医療特別会計で▲7百万円を計上しているものの、水道事業会計や公共下水道事業会計などで補填しており、全体で2,041百万円となっている。
連結においては、北アルプス広域連合での広域ごみ処理施設建設事業に伴う工事費減や構成市町村からの負担金減により、平成ベースの数値となったが、この業務活動収支・投資活動収支の増減が財務書類に大きな影響を及ぼしている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

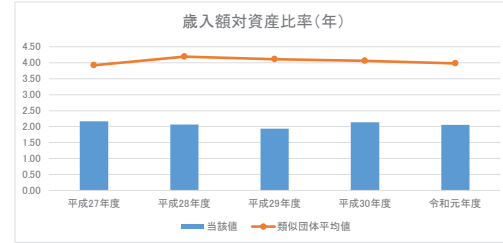
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 3,892,136 | 3,776,041 | 3,768,407 | 3,664,177 | 3,630,502 |
| 人口 | 28,901 | 28,476 | 28,047 | 27,672 | 27,249 |
| 当該値 | 134.7 | 132.6 | 134.4 | 132.4 | 133.2 |
| 類似団体平均値 | 233.4 | 256.2 | 253.7 | 254.9 | 260.8 |



②歳入額対資産比率(年)

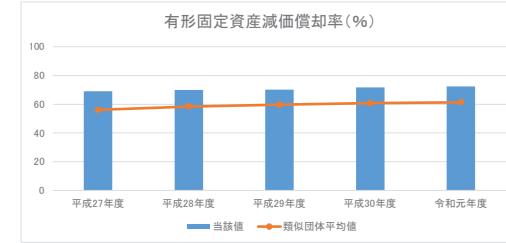
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 38,921 | 37,760 | 37,684 | 36,642 | 36,305 |
| 歳入総額 | 18,057 | 18,300 | 19,475 | 17,241 | 17,672 |
| 当該値 | 2.16 | 2.06 | 1.93 | 2.13 | 2.05 |
| 類似団体平均値 | 3.92 | 4.19 | 4.11 | 4.06 | 3.98 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 49,508 | 50,611 | 51,276 | 52,609 | 53,873 |
| 有形固定資産 ※1 | 71,758 | 72,296 | 73,031 | 73,447 | 74,542 |
| 当該値 | 69.0 | 70.0 | 70.2 | 71.6 | 72.3 |
| 類似団体平均値 | 56.1 | 58.4 | 59.6 | 60.7 | 61.3 |

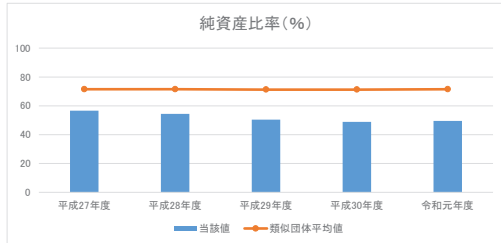
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

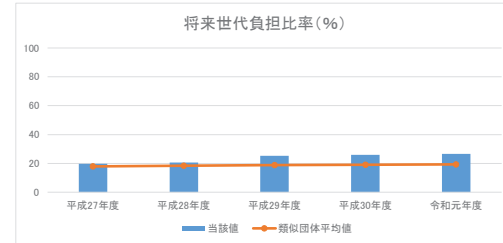
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 22,029 | 20,523 | 19,035 | 17,910 | 17,959 |
| 資産合計 | 38,921 | 37,760 | 37,684 | 36,642 | 36,305 |
| 当該値 | 56.6 | 54.4 | 50.5 | 48.9 | 49.5 |
| 類似団体平均値 | 71.4 | 71.5 | 71.2 | 71.2 | 71.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 6,240 | 6,349 | 7,752 | 7,755 | 7,928 |
| 有形・無形固定資産合計 | 31,440 | 30,826 | 30,749 | 29,963 | 29,896 |
| 当該値 | 19.8 | 20.6 | 25.2 | 25.9 | 26.5 |
| 類似団体平均値 | 17.9 | 18.3 | 18.7 | 19.0 | 19.3 |

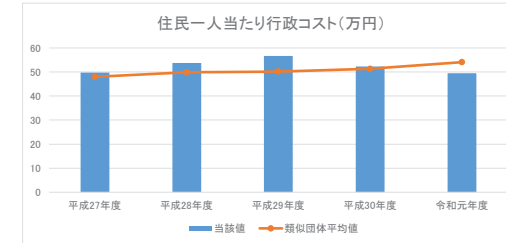
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

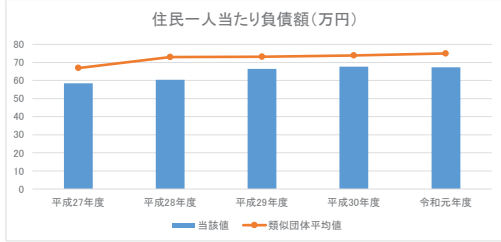
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | 1,436,403 | 1,529,277 | 1,591,188 | 1,447,268 | 1,349,323 |
| 人口 | 28,901 | 28,476 | 28,047 | 27,672 | 27,249 |
| 当該値 | 49.7 | 53.7 | 56.7 | 52.3 | 49.5 |
| 類似団体平均値 | 48.0 | 49.9 | 50.2 | 51.3 | 54.1 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

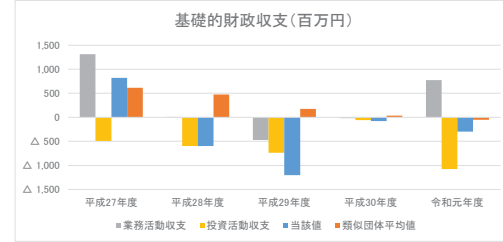
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | 1,689,200 | 1,723,767 | 1,864,948 | 1,873,221 | 1,834,616 |
| 人口 | 28,901 | 28,476 | 28,047 | 27,672 | 27,249 |
| 当該値 | 58.4 | 60.5 | 66.5 | 67.7 | 67.3 |
| 類似団体平均値 | 66.9 | 73.0 | 73.2 | 73.8 | 75.0 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 1,311 | 6 | △471 | △19 | 777 |
| 投資活動収支 ※2 | △492 | △600 | △735 | △58 | △1,077 |
| 当該値 | 819 | △594 | △1,206 | △77 | △300 |
| 類似団体平均値 | 616.8 | 476.6 | 177.5 | 36.5 | △48.6 |

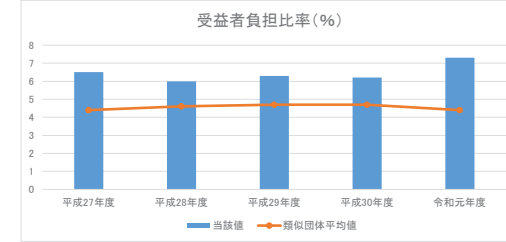
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 1,003 | 979 | 1,060 | 950 | 1,086 |
| 経常費用 | 15,442 | 16,205 | 16,876 | 15,333 | 14,815 |
| 当該値 | 6.5 | 6.0 | 6.3 | 6.2 | 7.3 |
| 類似団体平均値 | 4.4 | 4.6 | 4.7 | 4.7 | 4.4 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当市では過去に整備された道路など取得額が不明なものが多くことや老朽化した施設が多いことが挙げられる。また、老朽化した施設が多いことは、有形固定資産減価償却率が類似団体平均と比較し、高い水準であることから伺うことができる。今後は公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、適正な公共施設等の管理・運営を行っていく必要がある。

2. 資産と負債の比率

純資産比率が類似団体平均より大幅下回っている中で、将来世代負担比率は類似団体比率より高くなっている。また、純資産の減少に対し、地方債残高と資産合計は横ばいであることが将来世代負担比率の増加に大きく影響している。将来世代負担比率は大型事業の借入を行ったことを主な要因とし、平成29年度から数値が大幅に増加している。今後の財政運営を行う中で、新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担をできる限り減少することに努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストについては、類似団体平均を下回り、大幅に減少したが、さらにコスト意識を持った財政運営が求められている。特に、少子高齢化に歯止めがからない一方で、公共施設の維持補修や補助金等、他会計への繰出金の増加が見込まれ、これまでに以上で事業の選択と集中を進める必要に迫られている。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均値を下回っている。今後とも起債に頼りすぎない財政運営方針を継続していきたい。基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を上回ったため、▲300百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、学校施設等空調設備設置事業など公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を上回っており、今後の公共サービスの費用負担の在り方を検討する時期になっていることから、市としての考え方を明らかにしながら、順次見直しを図ることに努める。

令和元年度 財務書類に関する情報①

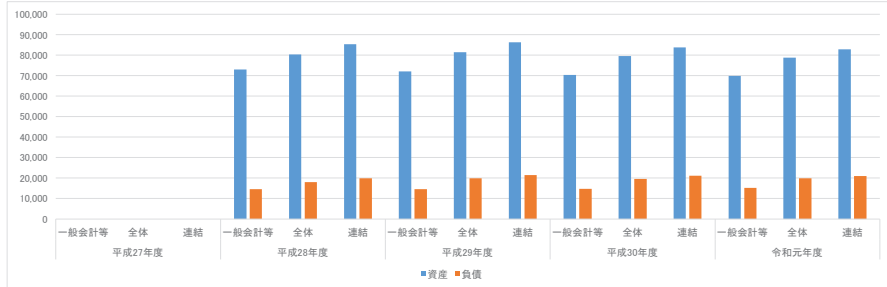
団体名 長野県飯山市
団体コード 202134

| | | | |
|--------|------------------------|------------|--------|
| 人口 | 20,750 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 200 人 |
| 面積 | 202.43 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 7,894.261 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 都市 I-1 | 実質公債費率 | 12.2 % |
| | | 得率負担比率 | 17.2 % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

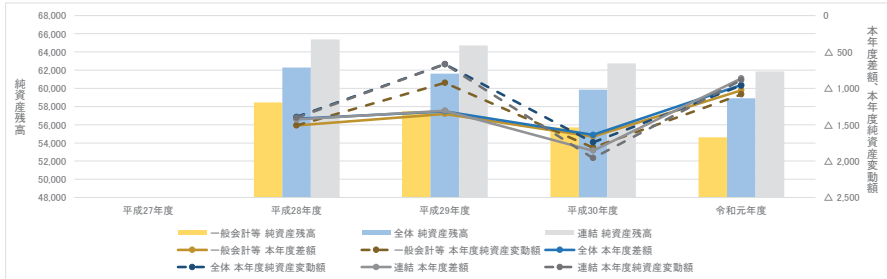
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 73,010 | 72,174 | 70,449 | 69,927 |
| | 負債 | | 14,567 | 14,656 | 14,745 | 15,305 |
| 全体 | 資産 | | 80,323 | 81,546 | 79,542 | 78,803 |
| | 負債 | | 18,047 | 19,939 | 19,677 | 19,900 |
| 連結 | 資産 | | 85,331 | 86,254 | 83,862 | 82,933 |
| | 負債 | | 19,962 | 21,553 | 21,119 | 21,077 |



分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度から522百万の減少(-0.7%)となった。金額の変動が大きいものはインフラ資産であり、道路関係の減価償却による資産の減少が主な要因となっている。負債総額については560百万の増加(+3.8%)しているが、金額の変動が大きいものは地方債(固定負債)であり、過疎債を活用した各種事業の実施による借入の影響が主な要因となっている。
 ・全体では資産総額が前年度から739百万の減少(-0.9%)となった。主にインフラ資産の減価償却等の影響から減少となっている。
 ・岳北広域行政組合、北信広域連合等を加えた連結では、資産総額は北信広域連合が保有している基金や岳北広域行政組合の各種施設等に係る資産を計上していること等により全体会計と比較して4,130百万多くなるが、負債総額も岳北広域行政組合の地方債(固定負債)等により1,177百万多くなっている。

3. 純資産変動の状況

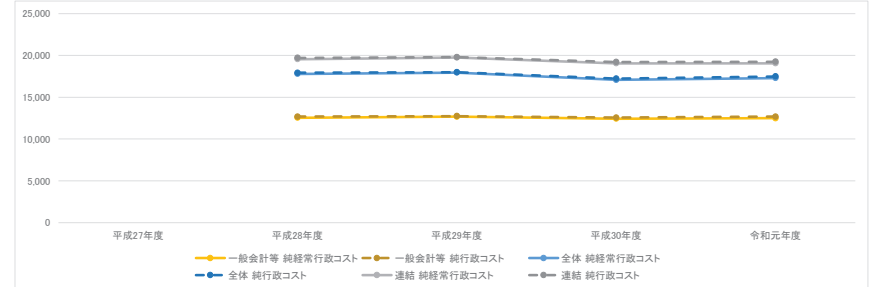
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 1,509 | △ 1,352 | △ 1,663 | △ 1,027 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,509 | △ 924 | △ 1,814 | △ 1,083 |
| | 純資産残高 | | 58,442 | 57,518 | 55,704 | 54,621 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 1,418 | △ 1,315 | △ 1,639 | △ 954 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,393 | △ 668 | △ 1,743 | △ 962 |
| | 純資産残高 | | 62,276 | 61,608 | 59,865 | 58,903 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 1,428 | △ 1,307 | △ 1,858 | △ 863 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,403 | △ 667 | △ 1,959 | △ 886 |
| | 純資産残高 | | 65,368 | 64,701 | 62,742 | 61,856 |



分析:
 ・一般会計等においては、税金等の財源(9,978百万)が純行政コスト(12,690百万)を下回ったことから、純資産残高は1,083百万の減少となった。未収金徴収業務の強化や国県等補助金の活用等により、財源の増加に努める。
 ・全体では、国民健康保険特別会計・介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が1,973百万多くなっているが、純行政コストも4,795百万多くなっているため、結果純行政コストを下回り、純資産残高は962百万の減少となった。
 ・連結では、県卸後期高齢者医療広域連合の税金等が多く、その影響により一般会計等と比べて税金等が3,356百万多くなっているが、純行政コストも6,557百万多くなっているため、結果純行政コストを下回り、純資産残高は886百万の減少となった。

2. 行政コストの状況

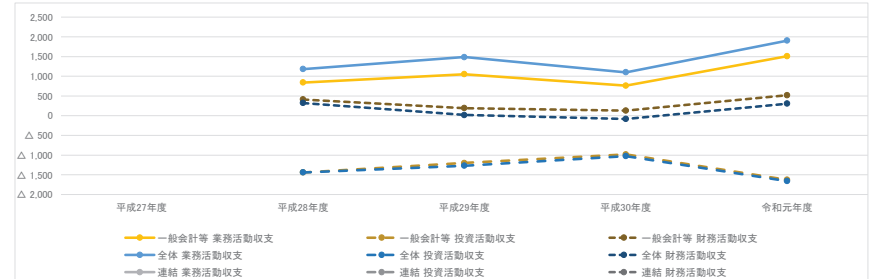
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 12,547 | 12,885 | 12,429 | 12,499 |
| | 純行政コスト | | 12,690 | 12,738 | 12,575 | 12,690 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 17,794 | 17,942 | 17,085 | 17,294 |
| | 純行政コスト | | 17,936 | 17,994 | 17,231 | 17,485 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 19,562 | 19,750 | 19,065 | 19,055 |
| | 純行政コスト | | 19,710 | 19,801 | 19,210 | 19,247 |



分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は13,094百万となり、そのうち物件費等の業務費用は6,339百万、補助金や社会保障給付等の移転費用は4,811百万であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。業務費用が多い主な要因としては、物件費(3,385百万)及び減価償却費(2,735百万)であり、純行政コストの48.2%を占めている。物件費については、ふるさと納税に要する経費分によるところが大きく、今後も寄付状況によっては大幅な増減の要因となりうる。減価償却については、施設の集約化・複合化事業に着手するなど、公共施設の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。
 ・全体では、一般会計等と比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が555百万多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が4,483百万多くなり、純行政コストは4,795百万多くなっている。
 ・連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が1,010百万多くなっている一方、人件費が887百万多くなっているなど、経常費用が7,566百万多くなり、純行政コストは6,557百万多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 838 | 1,052 | 762 | 1,509 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,443 | △ 1,201 | △ 982 | △ 1,628 |
| | 財務活動収支 | | 412 | 191 | 128 | 519 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,182 | 1,486 | 1,098 | 1,903 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,438 | △ 1,271 | △ 1,027 | △ 1,661 |
| | 財務活動収支 | | 320 | 17 | △ 84 | 302 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | |
| | 投資活動収支 | | | | | |
| | 財務活動収支 | | | | | |



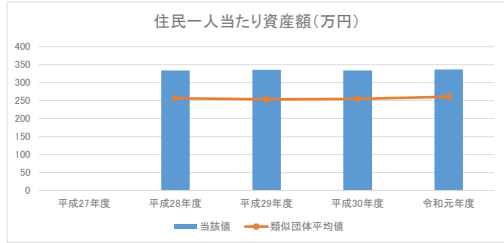
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は1,509百万であったが、投資活動収支については、駅西線整備事業や、若者住宅整備事業の実施により、△1,628百万となった。財務活動収支については、地方債の発行収入が償還額を上回ったことから、519百万となっており、本年度資金残高は前年度から400百万増加し、1,159百万となった。行政活動に必要な資金を基金の取り崩しと地方債の発行により確保している状況であり、行財政改革を更に推進する必要がある。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料があることなどから、業務活動収支は一般会計等より394百万多い903百万となっている。投資活動収支では基金取崩収入の影響等により、△1,661百万となっている。財務活動収支については、地方債の発行収入が償還額を上回ったことから、302百万となっており、本年度資金残高は当該年度の期首時点から544百万多くなり、2,370百万となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

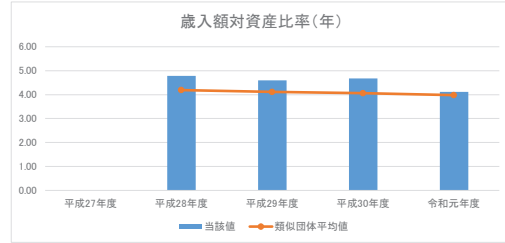
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 7,300,988 | 7,217,444 | 7,044,902 | 6,992,656 |
| 人口 | | 21,847 | 21,484 | 21,114 | 20,750 |
| 当該値 | | 334.2 | 335.9 | 333.7 | 337.0 |
| 類似団体平均値 | | 256.2 | 253.7 | 254.9 | 260.8 |



②歳入額対資産比率(年)

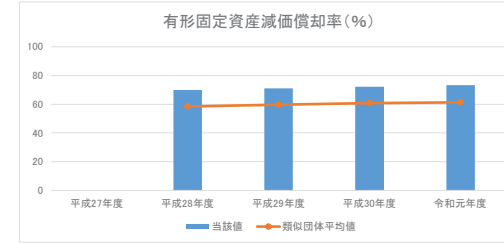
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 73,010 | 72,174 | 70,449 | 69,927 |
| 歳入総額 | | 15,278 | 15,681 | 15,062 | 16,995 |
| 当該値 | | 4.78 | 4.60 | 4.68 | 4.11 |
| 類似団体平均値 | | 4.19 | 4.11 | 4.06 | 3.98 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 118,712 | 121,241 | 123,466 | 126,063 |
| 有形固定資産 ※1 | | 169,784 | 170,550 | 170,971 | 172,174 |
| 当該値 | | 69.9 | 71.1 | 72.2 | 73.2 |
| 類似団体平均値 | | 58.4 | 59.6 | 60.7 | 61.3 |

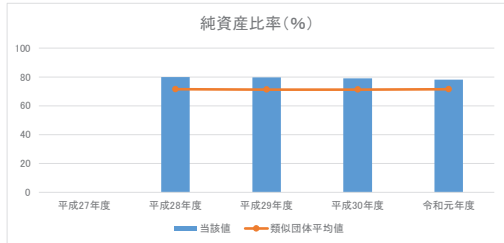
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

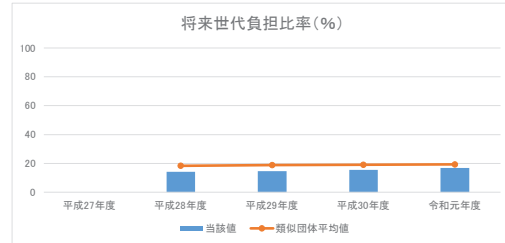
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 58,442 | 57,518 | 55,704 | 54,621 |
| 資産合計 | | 73,010 | 72,174 | 70,449 | 69,927 |
| 当該値 | | 80.0 | 79.7 | 79.1 | 78.1 |
| 類似団体平均値 | | 71.5 | 71.2 | 71.2 | 71.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 9,379 | 9,663 | 9,870 | 10,537 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 66,731 | 65,658 | 63,875 | 62,804 |
| 当該値 | | 14.1 | 14.7 | 15.5 | 16.8 |
| 類似団体平均値 | | 18.3 | 18.7 | 19.0 | 19.3 |

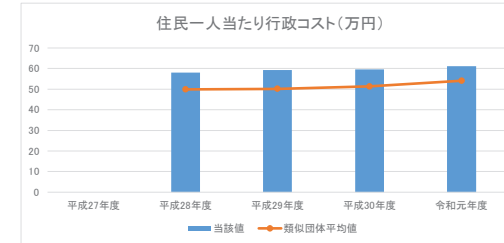
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

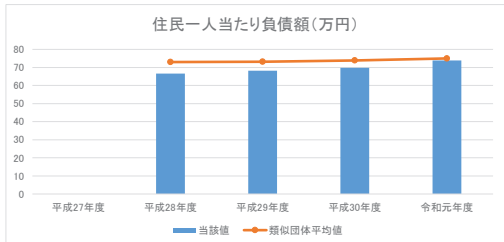
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,268,971 | 1,273,649 | 1,257,487 | 1,269,018 |
| 人口 | | 21,847 | 21,484 | 21,114 | 20,750 |
| 当該値 | | 58.1 | 59.3 | 59.6 | 61.2 |
| 類似団体平均値 | | 49.9 | 50.2 | 51.3 | 54.1 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

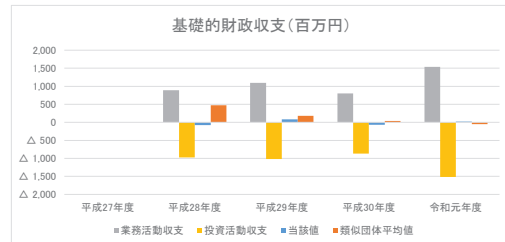
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 1,456,742 | 1,465,614 | 1,474,491 | 1,530,520 |
| 人口 | | 21,847 | 21,484 | 21,114 | 20,750 |
| 当該値 | | 66.7 | 68.2 | 69.8 | 73.8 |
| 類似団体平均値 | | 73.0 | 73.2 | 73.8 | 75.0 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 891 | 1,096 | 800 | 1,542 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 970 | △ 1,016 | △ 866 | △ 1,519 |
| 当該値 | | △ 79 | 80 | △ 66 | 23 |
| 類似団体平均値 | | 476.6 | 177.5 | 36.5 | △ 48.6 |

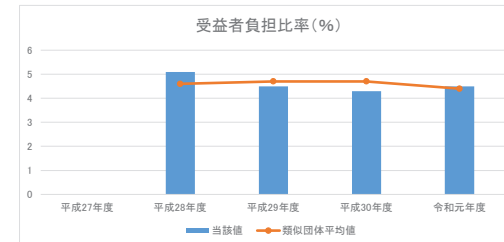
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 673 | 595 | 559 | 595 |
| 経常費用 | | 13,220 | 13,279 | 12,988 | 13,094 |
| 当該値 | | 5.1 | 4.5 | 4.3 | 4.5 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 4.7 | 4.7 | 4.4 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たりの資産額は類似団体平均を上回っているが、当市は日本有数の豪雪地帯であることから、消融資施設等の整備により道路(インフラ)資産が多くなっていることや、平成28年度末の北陸新幹線福井駅開業に合わせた、各種大型事業による駅周辺整備によることなどが、主な要因である。
・歳入額対資産比率については、類似団体平均を上回っており、社会資本整備が進んでいるが、これは近年の駅周辺整備による影響が大きい。

・有形固定資産減価償却率については、公共施設のうち建築後30年以上経過している施設が半数近くあること等により類似団体平均より高い水準にある。公共施設等総合管理計画及び個別施設計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は類似団体平均より高いが、純行政コストが税金等の財源を上回ったことから、純資産が減少し、昨年度から約1.9%減少している。純資産の減少は将来世代が利用可能な資源を過去及び現代が費消して便益を享受したことを意味するため、「第6次行政改革大綱」に基づき、行政コストの削減に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは、類似団体平均を上回っているが、主な要因として、経常費用の物件費の影響が大きい。物件費については、ふるさと納税に要する経費分によるところが大きく、今後も寄付状況によっては大幅な増減の要因となりうる。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は、類似団体平均を下回っているが、近年過疎債を活用した各種事業を数多く実施していることから、地方債残高については今後増加が見込まれる。しかし、将来世代への負担も考慮し、「飯山市第5次総合計画」に基づき、事業精査を行うなど負債額の減少に努める。

・基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が、業務活動収支の黒字分を下回ったため、23百万となっている。投資活動収支の赤字分は地方債に依存する形となっているため、新規事業については優先度の高いものに限定するなど、地方債発行の抑制に努める。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均を若干上回っているが、その要因としては、一般会計等に含まれるケーブル事業特別会計のCATV使用料が多いことなどが挙げられる。なお、受益者負担の水準については、「第6次行政改革大綱」において公共サービス費用に対する受益者負担の考え方を明らかにするとともに、税負担の公平性・公正性や透明性の確保に努めている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

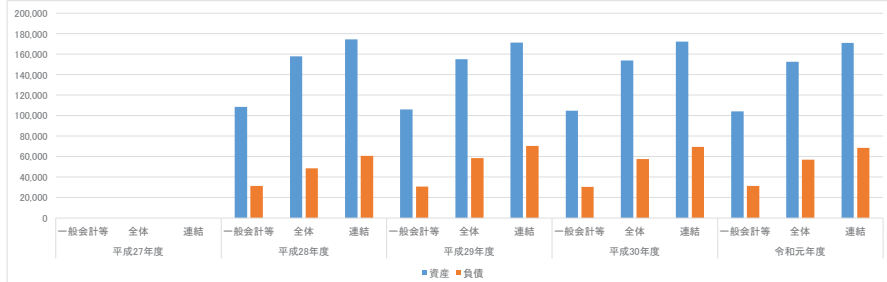
団体名 長野県茅野市
団体コード 202142

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 55,672人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 471人 |
| 面積 | 266.59km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 16,172.116千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-2 | 実質公債費率 | 7.3% |
| | | 将来負担比率 | 60.1% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | △ | ○ |

1. 資産・負債の状況

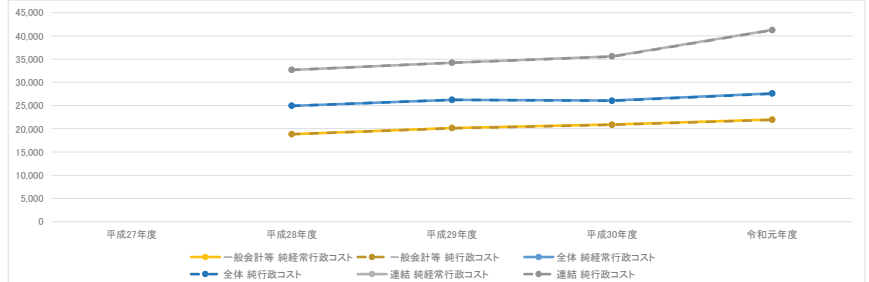
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 108,513 | 106,169 | 104,683 | 104,126 |
| | 負債 | | 31,336 | 30,814 | 30,468 | 31,343 |
| 全体 | 資産 | | 158,011 | 155,298 | 154,036 | 152,646 |
| | 負債 | | 48,616 | 58,451 | 57,634 | 57,139 |
| 連結 | 資産 | | 174,591 | 171,294 | 172,195 | 171,096 |
| | 負債 | | 60,685 | 70,501 | 69,442 | 68,711 |



分析:
一般会計等においては、市内2保育園の大規模改修や教育施設(保育園、小・中学校、学童クラブ)への空調設備設置等、今後を見据えた施設維持や教育環境の改善に対し積極的な投資を行い、この資産取得にともなう地方債発行により負債総額は対前年比で875百万円の増加となった。
一方で、資産は、建物及び工作物における減価償却が進んだことによる有形固定資産総額の減少に加え、財政調整基金3億円の取り崩しを行ったことにより対前年比で557百万円の減少となった。
市内の公共施設は、老朽化が進み、引き続き大規模改修や更新が必要となることから、今後も負債総額が一時的に増加することが予想されるが、公共施設等総合管理計画に基づいた計画的な長寿命化や集約化、複合化に取り組んでいく。
全体及び連結においては、資産形成上大きな増減要因は無く、現有資産の減価償却が進んだこと、債務の償還が進んだことにより、資産、負債いずれも対前年比で減少する結果となった。

2. 行政コストの状況

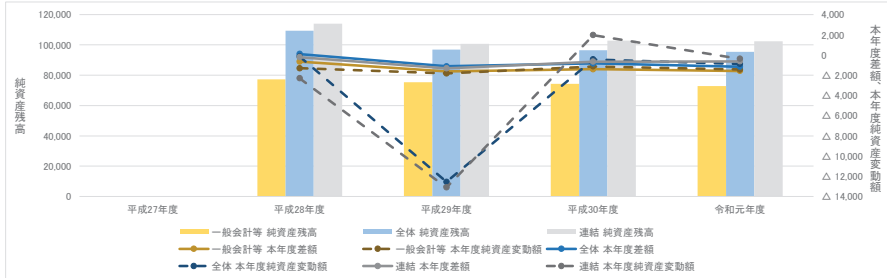
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 18,834 | 20,164 | 20,910 | 21,988 |
| | 純行政コスト | | 18,830 | 20,109 | 20,844 | 21,913 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 24,926 | 26,261 | 26,067 | 27,620 |
| | 純行政コスト | | 24,922 | 26,205 | 26,001 | 27,545 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 32,657 | 34,219 | 35,592 | 41,291 |
| | 純行政コスト | | 32,661 | 34,185 | 35,539 | 41,230 |



分析:
一般会計等、全体、連結ともに、民間における賃金の引き上げを因る動きを反映し給与等が引き上げられたことによる人件費の増加により経常費用が増加したことで、純行政コストは増加となっている。
特に、連結においては、多くの職員や医師等も抱える諏訪中央病院組合の影響により、大幅な増加となっている。
一般会計等においては、上記の人員費の増加に加え、学生数の増加に伴う諏訪広域公立大学事務組合に関する負担金(補助金等)の増加等のように、茅野市が関係する一部事務組合や広域連合への負担金支出が増加した影響も大きく、経常費用は対前年比で1,131百万円の増加となった。
一方で、経常収益や市が所有する資産の売却が進んだこと等で収益や利益が増加したことにより、純行政コストは1,069百万円の増加となった。
純経常行政コストの中で大きな割合を占める物件費等の中には施設等の減価償却費や維持補修費が含まれているため、施設の集約化・複合化を踏まえ、公共施設等の適正管理を図り、経費の縮減に努める。

3. 純資産変動の状況

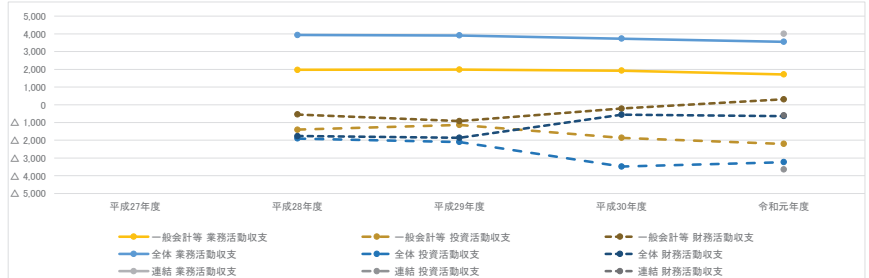
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|----------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 656 | △ 1,625 | △ 1,407 | △ 1,588 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,315 | △ 1,822 | △ 1,140 | △ 1,433 |
| | 純資産残高 | | 77,177 | 75,355 | 74,215 | 72,782 |
| 全体 | 本年度差額 | | 88 | △ 1,119 | △ 833 | △ 1,163 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 158 | △ 12,548 | △ 445 | △ 894 |
| | 純資産残高 | | 109,395 | 96,847 | 96,401 | 95,507 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 217 | △ 1,323 | △ 669 | △ 636 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 2,314 | △ 13,113 | 1,960 | △ 368 |
| | 純資産残高 | | 113,906 | 100,793 | 102,753 | 102,385 |



分析:
一般会計等において、令和元年度は市内2保育園の大規模改修や教育施設(保育園、小・中学校、学童クラブ)への空調設備設置など、積極的な投資を行ったが、その主な財源は市債により賄われたこと、建物及び工作物の減価償却が進んだこと、財政調整基金3億円の取り崩しを行ったことにより、純資産の動きは小幅なものとなった。
令和元年度の活動は、影響が将来に渡るものが大きく、純資産への影響は少ないものとなったが、引き続き施設の維持管理や将来負担とのバランスを考慮しながら、計画的な財政運営を行っている。
全体及び連結においては、資産や負債の形成に大きな増減要因が無かったため、いずれも一般会計等と同様に小幅な動きとなった。
なお、平成29年度の全体及び連結の大幅な変動は、総務省による計上方法の見直しにより、水道会計における長期前受金(△11,397百万円)等を計上したことによる。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,971 | 1,986 | 1,920 | 1,711 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,402 | △ 1,134 | △ 1,858 | △ 2,207 |
| | 財務活動収支 | | △ 544 | △ 915 | △ 210 | 313 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 3,937 | 3,915 | 3,728 | 3,551 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,904 | △ 2,097 | △ 3,479 | △ 3,231 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,762 | △ 1,859 | △ 556 | △ 634 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | 4,006 |
| | 投資活動収支 | | | | | △ 3,646 |
| | 財務活動収支 | | | | | △ 590 |



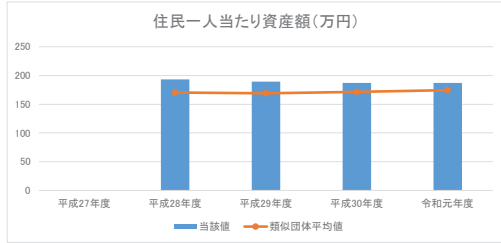
分析:
一般会計等においては、令和元年度は市内2保育園の大規模改修や教育施設(保育園、小・中学校、学童クラブ)への空調設備設置など、積極的な投資を行った結果、投資活動収支は対前年比で349百万円の増加となった。
また、これらの投資活動の主な財源は市債により賄われたことで地方債の発行が増加し、地方債の償還額を上回ることとなった。市内の公共施設は老朽化が進んでいることから、今後も引き続き大規模改修や更新が必要となり、地方債の発行が増加する年が発生することが予想されるが、計画的な市債の償還に努めている。
全体においては、公営企業が黒字経営を続けていることや、投資的な活動が前年と比べ抑えられたことから、一般会計等では赤字となっていた基礎的財政収支は黒字へと転換しており、財務活動収支においても、地方債の償還額が発行収入を上回り、地方債の償還が進んでいる結果となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

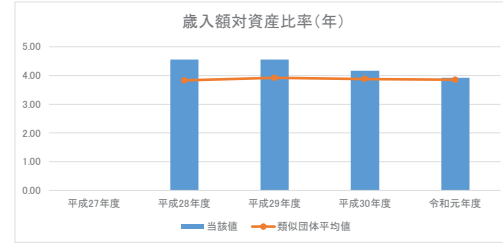
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | | 10,851,284 | 10,616,927 | 10,468,344 | 10,412,555 |
| 人口 | | 56,101 | 56,107 | 56,011 | 55,672 |
| 当該値 | | 193.4 | 189.2 | 186.9 | 187.0 |
| 類似団体平均値 | | 170.2 | 169.0 | 171.5 | 174.5 |



②歳入額対資産比率(年)

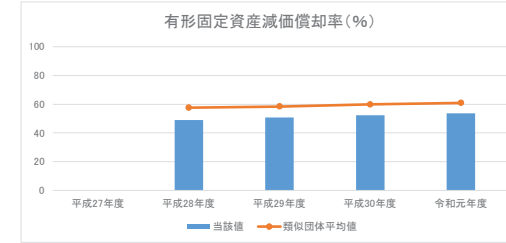
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 108,513 | 106,169 | 104,683 | 104,126 |
| 歳入総額 | | 23,865 | 23,334 | 25,142 | 26,596 |
| 当該値 | | 4.55 | 4.55 | 4.16 | 3.92 |
| 類似団体平均値 | | 3.83 | 3.92 | 3.88 | 3.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 79,944 | 83,519 | 87,308 | 90,938 |
| 有形固定資産 ※1 | | 163,172 | 164,622 | 166,734 | 169,265 |
| 当該値 | | 49.0 | 50.7 | 52.4 | 53.7 |
| 類似団体平均値 | | 57.6 | 58.4 | 59.9 | 60.9 |

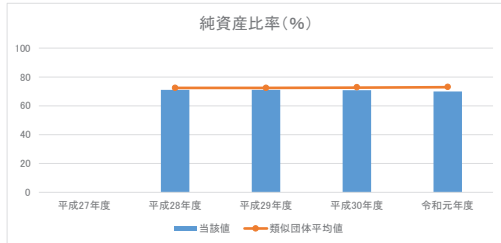
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

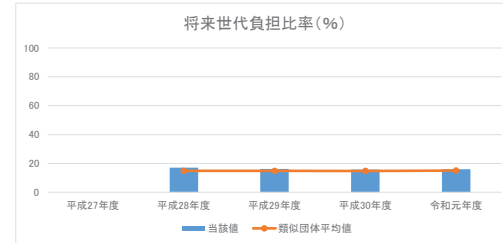
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | | 77,177 | 75,355 | 74,215 | 72,782 |
| 資産合計 | | 108,513 | 106,169 | 104,683 | 104,126 |
| 当該値 | | 71.1 | 71.0 | 70.9 | 69.9 |
| 類似団体平均値 | | 72.4 | 72.4 | 72.7 | 72.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 17,275 | 16,123 | 15,439 | 15,606 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 101,572 | 99,248 | 97,758 | 97,584 |
| 当該値 | | 17.0 | 16.2 | 15.8 | 16.0 |
| 類似団体平均値 | | 14.8 | 14.8 | 14.7 | 15.0 |

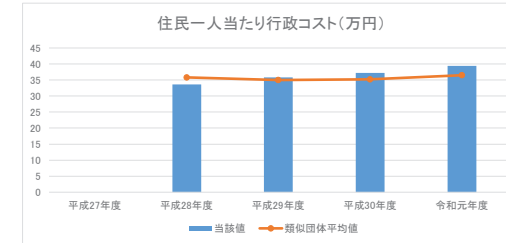
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

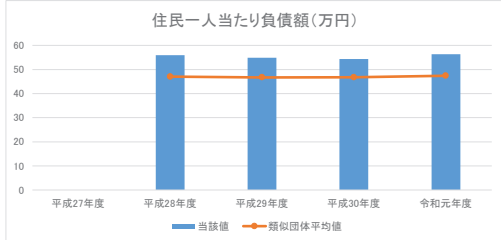
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 総行政コスト | | 1,883,035 | 2,010,913 | 2,084,432 | 2,191,299 |
| 人口 | | 56,101 | 56,107 | 56,011 | 55,672 |
| 当該値 | | 33.6 | 35.8 | 37.2 | 39.4 |
| 類似団体平均値 | | 35.8 | 35.0 | 35.2 | 36.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

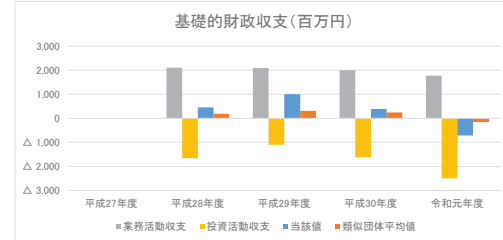
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 3,133,608 | 3,081,420 | 3,046,834 | 3,134,341 |
| 人口 | | 56,101 | 56,107 | 56,011 | 55,672 |
| 当該値 | | 55.9 | 54.9 | 54.4 | 56.3 |
| 類似団体平均値 | | 47.0 | 46.7 | 46.8 | 47.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 2,111 | 2,095 | 2,005 | 1,778 |
| 投資活動収支 ※2 | | △1,657 | △1,097 | △1,621 | △2,499 |
| 当該値 | | 454 | 998 | 384 | △721 |
| 類似団体平均値 | | 189.3 | 310.4 | 242.5 | △157.7 |

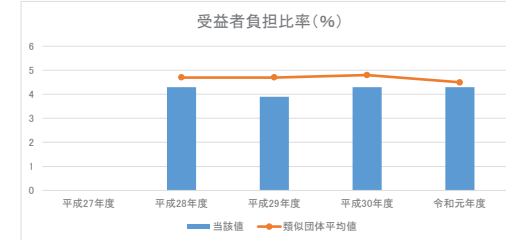
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 852 | 819 | 930 | 982 |
| 経常費用 | | 19,686 | 20,983 | 21,840 | 22,971 |
| 当該値 | | 4.3 | 3.9 | 4.3 | 4.3 |
| 類似団体平均値 | | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.5 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額、歳入額対資産比率ともに類似団体平均を上回っているが、これは各地区ごとにコミュニティセンターを設置するなど公共施設が多いことに加え、市の面積が広いことにより道路等のインフラ資産も多いことによると考えられる。これらの資産は、今後維持補修費や更新費の増加が見込まれるため、公共施設等総合管理計画に基づいた長寿命化や集約化・複合化に努める。

なお、歳入額対資産比率が平成30年度から大幅に減少しているが、これは建物や工作物の減価償却が進んだことに加え、市内に所在していた諏訪東京理科大学が公立化されたことに伴い発生した一部事務組合への負担金(補助金等)の拠出を茅野市が一括して行っていることにより、公立大学分の地方交付税が増加し、歳入総額が増加していることによる影響が大きいものとなっている。

2. 資産と負債の比率

純資産比率、将来世代負担比率ともに類似団体平均値と同程度となっている。

令和元年度は教育施設等への投資活動を積極的に行い、その財源として地方債の発行を行った結果、将来世代負担比率は若干の増となっている。

茅野市では、多くの公共施設で建替え時期を迎えており、今後も地方債の発行を行いながらの改修や更新が必要になることから、さらなる比率の上昇が予想される。

そのため、公共施設等総合管理計画に基づいた長寿命化や集約化・複合化に努めることで、将来への負担を抑え、計画的な財政運営に努めていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは前年度比で2.2ポイントの増加となり、類似団体平均を上回っている。

これは、諏訪広域公立大学事務組合に関する負担金(補助金等)が大学の学生数の増加にともない増加している影響が大きい。この影響を除くと類似団体平均並みとなる。

行政コストは今後も高齢化の進展などにより、補助金等や社会保険給付の増加が続くと見込まれるほか、人件費も増加の傾向が続いていることから、現在の水準を維持していけるよう努める。

4. 負債の状況

令和元年度は教育施設等への投資活動を積極的に行った結果、基礎的財政収支は赤字となり、その財源として地方債の発行が多行われた結果、地方債残高が増加し、住民一人当たり負債額は上昇することとなった。

全国的に国の補助制度を活用した学校施設等への空調設備設置などが積極的に行われた結果、類似団体平均も同様の動きを見せているが、茅野市では、公共施設の建替え等への財源として、今後も地方債残高が増加すると予想されるため、施設の改修や更新、地方債の発行について、計画的に実施していく。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、平成30年度の施設使用料改定により上昇してからは同水準を維持している。

施設は老朽化等により維持補修費の増加が見込まれるため、長寿命化や集約化・複合化を踏まえた経常費用の削減や、適正な受益者負担の設定に努める。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県塩尻市
団体コード 202151

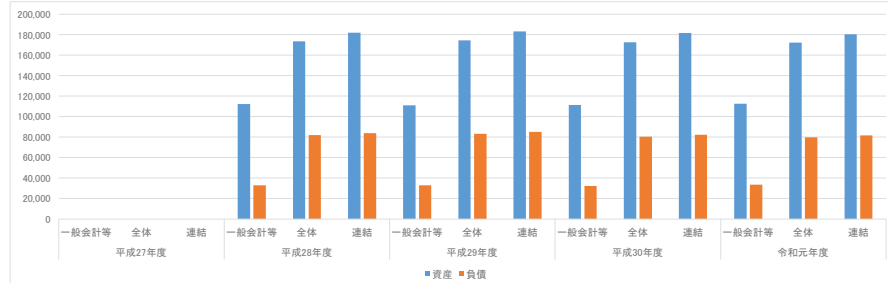
| | | | |
|--------|------------------------|------------|--------|
| 人口 | 67,035 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 516 人 |
| 面積 | 289.98 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 17,003.167 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-2 | 実質公債比率 | 6.2 % |
| | | 将来負担比率 | 25.7 % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 112,210 | 111,121 | 111,325 | 112,649 |
| | 負債 | | 33,092 | 32,827 | 32,384 | 33,608 |
| 全体 | 資産 | | 173,435 | 174,617 | 172,698 | 172,418 |
| | 負債 | | 81,927 | 83,304 | 80,499 | 79,696 |
| 連結 | 資産 | | 182,113 | 183,362 | 181,627 | 180,589 |
| | 負債 | | 83,932 | 85,257 | 82,188 | 81,602 |

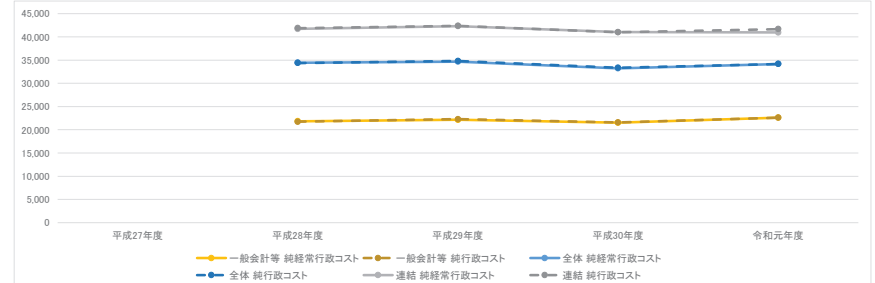


分析:
一般会計等においては、資産総額が112,649百万円となり、前年度比1,324百万円の増加(+1.2%)となった。これは、北部交流センター建設や保育園、児童館・児童クラブ及び小中学校への空調設備整備などで有形固定資産のうち事業用資産が1,550百万円増加(+2.6%)したことによるものである。
また、負債総額は33,608百万円で、前年度比1,224百万円の増加(+3.8%)となったが、北部交流センター建設などの財源として地方債を借り入れたことにより、固定負債が1,064百万円増加(+3.7%)したことによるものである。
水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、減価償却などに伴い資産総額が前年度比280百万円減少(△0.2%)した。第三セクターなどを加えた連結では、減価償却や比例連結割合の変更に伴い、前年度比1,038百万円減少(△0.6%)した。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 21,824 | 22,140 | 21,532 | 22,605 |
| | 純行政コスト | | 21,737 | 22,268 | 21,579 | 22,606 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 34,439 | 34,662 | 33,222 | 34,168 |
| | 純行政コスト | | 34,355 | 34,813 | 33,349 | 34,176 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 41,713 | 42,304 | 41,009 | 40,957 |
| | 純行政コスト | | 41,883 | 42,371 | 40,991 | 41,661 |

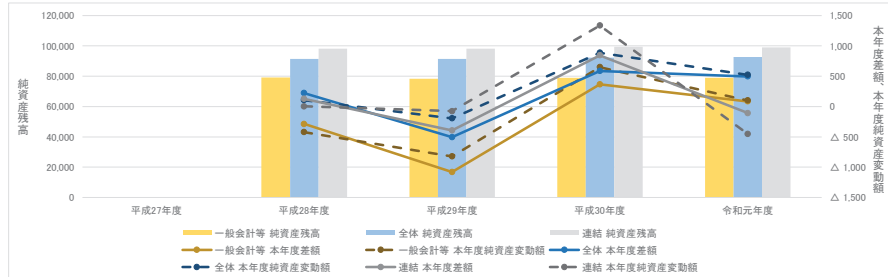


分析:
一般会計等においては、純行政コストが22,606百万円となり、前年度比1,027百万円の増加(+4.8%)となった。これは、令和元年7月にオープンした北部交流センターの管理運営費の増などに伴い業務費用が前年度対比230百万円増加(+1.7%)したことや、10月からの園の幼児教育無償化に対応し3歳以上児の保育料を無償化するため認定こども園及び認可外保育園に負担金等を交付したことに伴い移転費用が前年度対比697百万円増加(+7.5%)したことなどによるものである。
また、令和元年10月からの幼児教育無償化に伴う保育料収入の減少により、経常収益が前年度対比145百万円減少(△9.5%)し、令和2年度以降はさらに減少するため、純行政コストは増加する見込みであることから、RPAなどのICTツールを活用した業務効率化などにより、コストの縮減に努める。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 287 | △ 1,080 | 366 | 86 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 422 | △ 823 | 648 | 99 |
| | 純資産残高 | | 79,118 | 78,294 | 78,942 | 79,041 |
| 全体 | 本年度差額 | | 223 | △ 505 | 586 | 495 |
| | 本年度純資産変動額 | | 106 | △ 196 | 886 | 524 |
| | 純資産残高 | | 91,508 | 91,313 | 92,198 | 92,723 |
| 連結 | 本年度差額 | | 125 | △ 394 | 843 | △ 108 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2 | △ 76 | 1,335 | △ 452 |
| | 純資産残高 | | 98,181 | 98,105 | 99,439 | 98,987 |

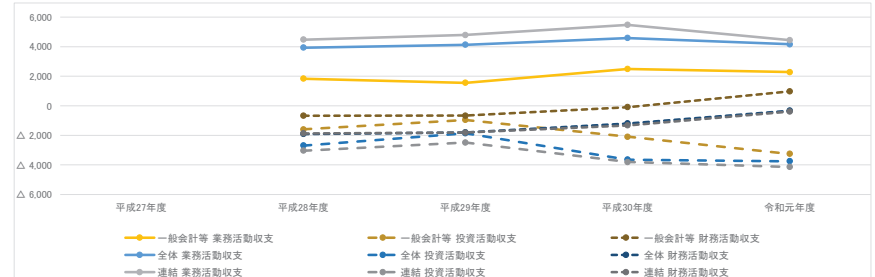


分析:
一般会計等においては、純行政コストが前年度比1,027百万円増加(+4.8%)した一方で、財源も前年度比746百万円増加(+4.8%)したことから、本年度の差額は86百万円となった。
本年度差額に寄付受納などによる変動分である無償所管換等を加えた本年度純資産変動額は99百万円となり、純資産残高は前年度より若干増えて79,041百万円となった。
第三セクター等を加えた連結では、減価償却や比例連結割合の変更に伴い純資産残高が前年度比452百万円減少(△0.5%)した。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,836 | 1,551 | 2,492 | 2,281 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,594 | △ 959 | △ 2,094 | △ 3,259 |
| | 財務活動収支 | | △ 672 | △ 663 | △ 92 | 978 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 3,928 | 4,129 | 4,582 | 4,160 |
| | 投資活動収支 | | △ 2,688 | △ 1,858 | △ 3,646 | △ 3,757 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,911 | △ 1,805 | △ 1,192 | △ 333 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 4,476 | 4,792 | 5,474 | 4,442 |
| | 投資活動収支 | | △ 3,041 | △ 2,483 | △ 3,805 | △ 4,140 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,872 | △ 1,811 | △ 1,321 | △ 389 |



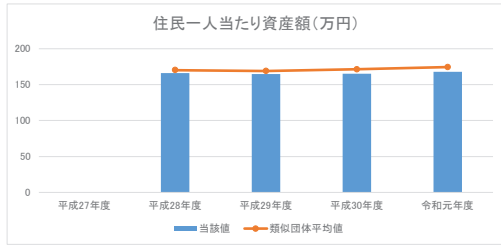
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は2,281百万円であったが、投資活動収支については北部交流センター整備や小中学校などへの空調設備整備などを行ったことから、△3,259百万円となった。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債の償還額を上回ったことから978百万円となっており、本年度末資金残高は前年度とほぼ同額であった。
水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体及び第三セクターなどを加えた連結においても、一般会計等と同様に公共施設等の整備に伴い投資活動収支がマイナスとなっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

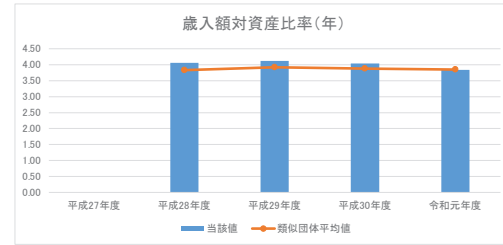
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 資産合計 | 11,220,986 | 11,112,082 | 11,132,547 | 11,264,949 | |
| 人口 | 67,534 | 67,459 | 67,379 | 67,035 | |
| 当該値 | 166.2 | 164.7 | 165.2 | 168.0 | |
| 類似団体平均値 | 170.2 | 169.0 | 171.5 | 174.5 | |



②歳入額対資産比率(年)

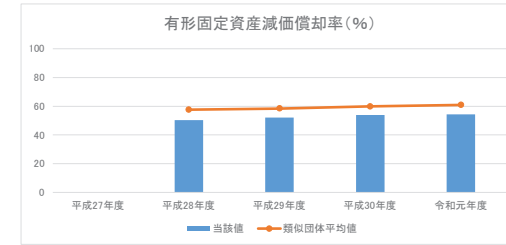
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|------------|------------|------------|------------|-------|
| 資産合計 | 11,220,986 | 11,112,082 | 11,132,547 | 11,264,949 | |
| 歳入総額 | 27,670 | 26,980 | 27,535 | 29,372 | |
| 当該値 | 4.06 | 4.12 | 4.04 | 3.84 | |
| 類似団体平均値 | 3.83 | 3.92 | 3.88 | 3.85 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 減価償却累計額 | 67,478 | 70,252 | 73,219 | 75,471 | |
| 有形固定資産 ※1 | 134,128 | 135,163 | 136,191 | 139,070 | |
| 当該値 | 50.3 | 52.0 | 53.8 | 54.3 | |
| 類似団体平均値 | 57.6 | 58.4 | 59.9 | 60.9 | |

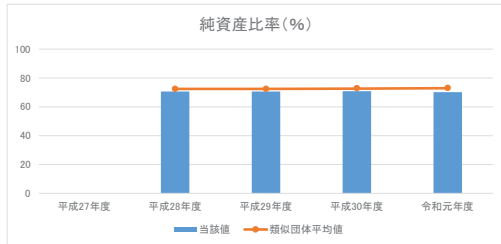
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

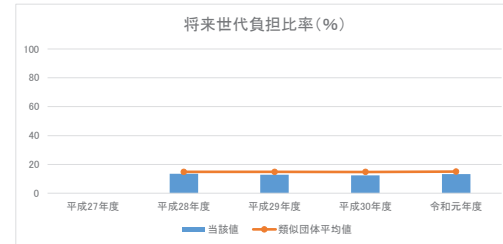
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 純資産 | 79,118 | 78,294 | 78,942 | 79,041 | |
| 資産合計 | 112,210 | 111,121 | 111,325 | 112,649 | |
| 当該値 | 70.5 | 70.5 | 70.9 | 70.2 | |
| 類似団体平均値 | 72.4 | 72.4 | 72.7 | 72.9 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 14,013 | 13,177 | 12,700 | 13,751 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 103,572 | 102,742 | 102,175 | 103,152 | |
| 当該値 | 13.5 | 12.8 | 12.4 | 13.3 | |
| 類似団体平均値 | 14.8 | 14.8 | 14.7 | 15.0 | |

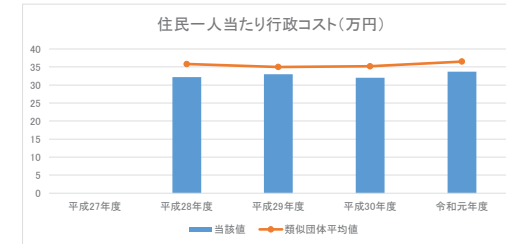
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

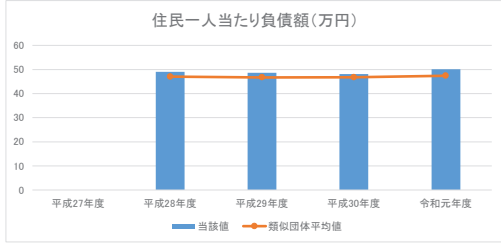
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 純行政コスト | 2,173,748 | 2,226,808 | 2,157,946 | 2,260,594 | |
| 人口 | 67,534 | 67,459 | 67,379 | 67,035 | |
| 当該値 | 32.2 | 33.0 | 32.0 | 33.7 | |
| 類似団体平均値 | 35.8 | 35.0 | 35.2 | 36.5 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

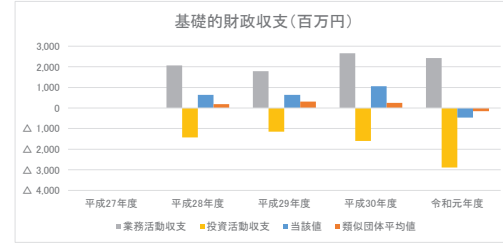
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 負債合計 | 3,309,234 | 3,282,672 | 3,238,354 | 3,360,837 | |
| 人口 | 67,534 | 67,459 | 67,379 | 67,035 | |
| 当該値 | 49.0 | 48.7 | 48.1 | 50.1 | |
| 類似団体平均値 | 47.0 | 46.7 | 46.8 | 47.4 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 2,072 | 1,790 | 2,657 | 2,417 | |
| 投資活動収支 ※2 | △1,435 | △1,154 | △1,594 | △2,885 | |
| 当該値 | 637 | 636 | 1,063 | △468 | |
| 類似団体平均値 | 189.3 | 310.4 | 242.5 | △157.7 | |

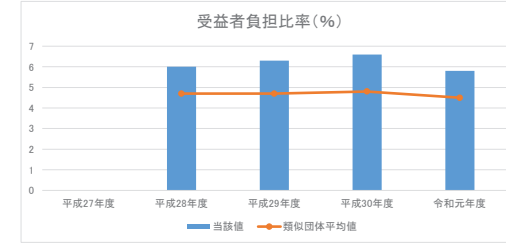
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 1,401 | 1,498 | 1,526 | 1,381 | |
| 経常費用 | 23,225 | 23,638 | 23,058 | 23,985 | |
| 当該値 | 6.0 | 6.3 | 6.6 | 5.8 | |
| 類似団体平均値 | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.5 | |



分析欄:

1. 資産の状況

北部交流センターの整備などにより住民一人当たり資産額は増加したが、依然として類似団体平均値を下回る水準で推移している。
また、歳入額対資産比率は類似団体平均と同水準で推移しており、有形固定資産減価償却率についても類似団体平均値を下回る水準であることから、本市の資産の状況は適正な水準にあると考えられる。
しかし、有形固定資産減価償却率が増加傾向で推移していることから、公共施設等総合管理計画に基づき、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均値を若干下回っているが、特別地方債の残高を控除した将来世代負担比率も類似団体平均値を下回っていることから、本市の資産と負債の比率は適正な水準にあると考えられる。
今後も、世代間公平性に配慮した財政運営に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは前年度より増加しているものの、類似団体平均値を下回る水準で推移している。
ただし、今後は新設した総合体育館の維持管理運営コストの純増などにより行政コストの増加が見込まれることから、ICTツールを活用した業務改善の推進などで全庁的な生産性の向上に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、類似団体平均値を若干上回る水準で推移しているが、これは地方交付税の不足を補うために発行する臨時財政対策債が地方債残高の大半を占めているためであり、臨時財政対策債を除く地方債残高については、減少傾向で推移している。
また、令和元年度の基礎的財政収支は△468百万円となっているが、これは北部交流センター整備などの大型公共事業を実施したためである。
なお、本市では総合計画や実施計画などの計画期間中における基礎的財政収支をトータルで黒字に保つよう努めていることから、引き続き計画的な財政運営に努める。

5. 受益者負担の状況

令和元年度の受益者負担比率は、幼児教育無償化に伴い前年度比0.8ポイント減の5.8%となったが、依然として類似団体平均値を上回る水準にある。
その要因としては、3年毎にすべての使用料・手数料の見直しを実施し、サービス提供コストに対する受益者負担の割合を明らかにし、受益者負担の公平性・公正性や透明性の確保に努めていることが挙げられる。
今後も適正な受益者負担となるよう、定期的な見直しを継続する。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

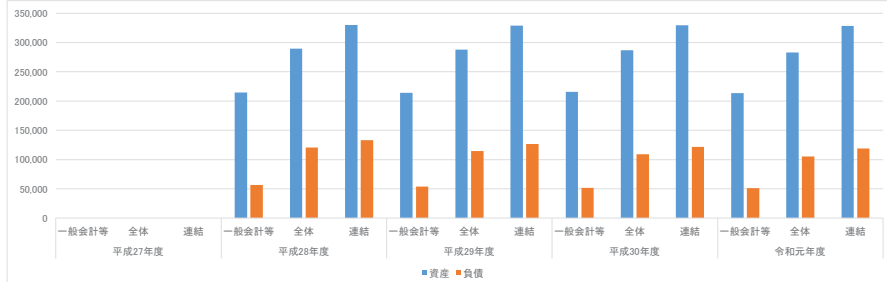
団体名 長野県佐久市
団体コード 202177

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 98,921人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 730人 |
| 面積 | 423.51km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 27,532,846千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-1 | 実質公債費率 | △0.6% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

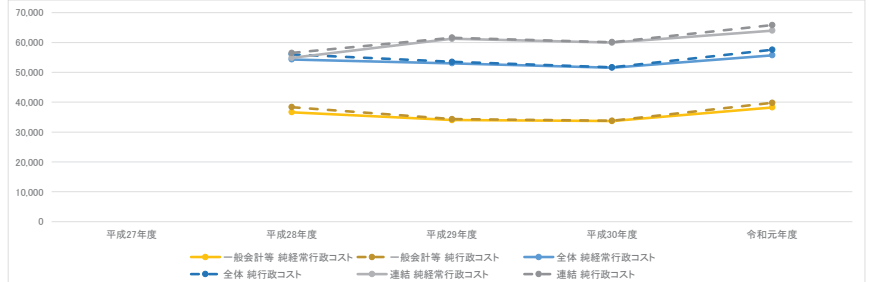
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 214,438 | 214,007 | 215,655 | 213,763 |
| | 負債 | | 56,642 | 54,094 | 51,660 | 51,102 |
| 全体 | 資産 | | 289,772 | 287,968 | 286,773 | 282,893 |
| | 負債 | | 120,448 | 114,530 | 109,002 | 105,374 |
| 連結 | 資産 | | 330,209 | 329,191 | 329,202 | 328,545 |
| | 負債 | | 132,900 | 126,504 | 121,410 | 118,793 |



分析:
一般会計等の令和元年度末時点で資産合計は2,137億63百万円、負債合計は511億2百万円、純資産合計は、1,626億61百万円となっております。そのうち純資産である1,626億61百万円については、過去の世代や国・県の負担で支払いが済んでおり、負債である511億2百万円については、将来の世代が負担していくこととなります。
佐久市の資産のほとんどは公共施設・インフラ資産などの有形固定資産です。令和元年度中の有形固定資産は「小中学校空調設備設置工事」、「佐久市総合体育館アリーナ照明設備等改修工事」などの固定資産計上により増(+39億74百万円)となる一方で、減価償却等の減額(△70億88百万円)の影響により約△31億13百万円(資産増加分等39億74百万円-減価償却減少額等70億88百万円-△31億13百万円)の減となりました。
また、純資産の割合が高いということは、資産について、現在までの世代による負担で形成し、将来の世代へ引き継ぐものが多いことを意味しています。対して、地方債などの負債は、資産総額の4分の1程度と小さめです。

2. 行政コストの状況

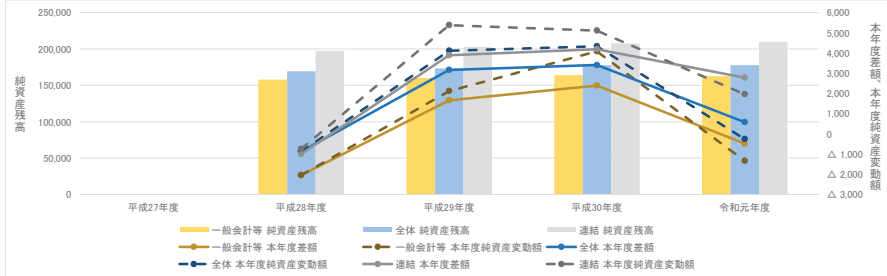
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 36,647 | 34,019 | 33,703 | 38,245 |
| | 純行政コスト | | 38,339 | 34,332 | 33,809 | 39,817 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 54,321 | 53,039 | 51,555 | 55,699 |
| | 純行政コスト | | 56,009 | 53,509 | 51,700 | 57,575 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 54,867 | 61,217 | 59,959 | 63,964 |
| | 純行政コスト | | 56,528 | 61,635 | 60,083 | 65,840 |



分析:
一般会計等の令和元年度の経常費用は397億69百万円で、行政サービス利用に対する対価として、住民の皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は15億14百万円となり、経常収益に臨時利益を加え、経常費用-臨時損失を引いた純行政コストは△398億17百万円となり、不足が生じています。この不足については、市税や地方交付税などの一般財源や国県補助金などで賄っています。
佐久市のコストの大部分は、物にかかるコスト(物件費・維持補修費・減価償却費等)と移転支的的なコスト(社会保障給付費・補助金・繰出金等)が占めています。また、性質別に分析してみると、最も割合が高いのは、物件費で経常費用合計の22.2%を占めています。
今後の行政改革にあたっての大きな課題は、少子高齢化(補助金等・社会保障給付費の増大)、公共施設等の老朽化(減価償却費・維持補修費の増大)であることとみてとることができます。
これらの項目の支出に対する精査を行っていくことで、より充実した行政サービスの実施とコストの減少への道筋を検討していくことになります。

3. 純資産変動の状況

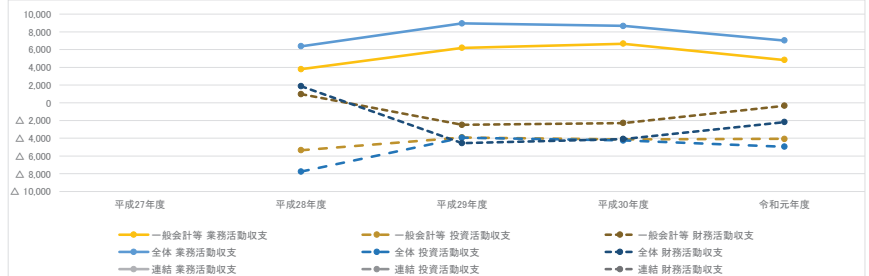
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △2,041 | 1,659 | 2,389 | △489 |
| | 本年度純資産変動額 | | △2,045 | 2,117 | 4,081 | △1,333 |
| | 純資産残高 | | 157,796 | 159,911 | 163,994 | 162,661 |
| 全体 | 本年度差額 | | △875 | 3,164 | 3,409 | 581 |
| | 本年度純資産変動額 | | △872 | 4,114 | 4,334 | △253 |
| | 純資産残高 | | 169,323 | 173,438 | 177,772 | 177,519 |
| 連結 | 本年度差額 | | △994 | 3,890 | 4,187 | 2,779 |
| | 本年度純資産変動額 | | △745 | 5,377 | 5,106 | 1,960 |
| | 純資産残高 | | 197,309 | 202,687 | 207,792 | 209,752 |



分析:
一般会計等においては、純行政コスト398億17百万円に対して、地方税などの一般財源が393億28百万円で本年度差額は4億89百万円のマイナスとなっております。この4億89百万円やその他の純資産増減43百万円により、令和元年度の純資産は、13億33百万円減少し、純資産残高は1,626億61百万円となりました。
令和元年度の本年度差額は4億89百万円のマイナスとなっております。当年度の財源(税収、地方交付税等)以上に行政サービス提供にかかったコスト(純行政コスト)が発生したことをあらわしています。
純資産の減少は将来世代にその分の負担が先送りされたことを意味します。逆に純資産の増加は現役世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資産を蓄積したことを意味し、将来世代の負担は軽減されたこととなります。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 3,791 | 6,207 | 6,654 | 4,831 |
| | 投資活動収支 | | △5,349 | △3,913 | △4,131 | △4,067 |
| | 財務活動収支 | | 983 | △2,477 | △2,290 | △345 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 6,365 | 8,957 | 8,662 | 7,022 |
| | 投資活動収支 | | △7,755 | △3,934 | △4,248 | △4,951 |
| | 財務活動収支 | | 1,873 | △4,546 | △4,087 | △2,169 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | |
| | 投資活動収支 | | | | | |
| | 財務活動収支 | | | | | |

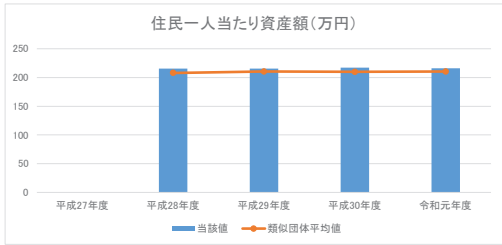


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は48億31百万円のプラス、投資活動収支は40億67百万円のマイナス、財務活動収支は3億45百万円のマイナスとなっております。
結果として、令和元年度末資金残高は16億3百万円となり、同年度末繰計外現金残高を含めると16億53百万円となりました。
また、令和元年度収支としては4億19百万円のプラスとなりました。これは、業務活動収支のプラスが要因です。
基礎的財政収支は、公債費の元利償還額を除いた歳出と公債発行収入を除いた歳入のバランスを見るものです。これがプラスになっている場合は持続可能な財政運営であると言えます。
基礎的財政収支は、プラス12億37百万円となりました。
そのため、令和元年度時点の状況では持続可能な財政運営ができていると考えられますが、前期である平成30年度の基礎的財政収支15億15百万円より減少していることを鑑み、来年度以降の動向に注意する必要があります。

1. 資産の状況

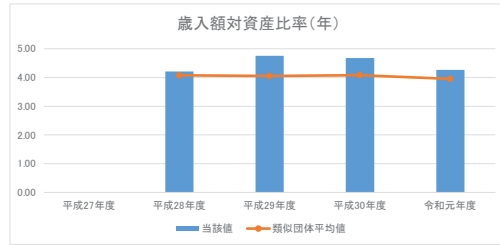
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | | 21,443,791 | 21,400,749 | 21,565,450 | 21,376,304 |
| 人口 | | 99,497 | 99,341 | 99,219 | 98,921 |
| 当該値 | | 215.5 | 215.4 | 217.4 | 216.1 |
| 類似団体平均値 | | 207.8 | 210.2 | 209.7 | 210.4 |



②歳入額対資産比率(年)

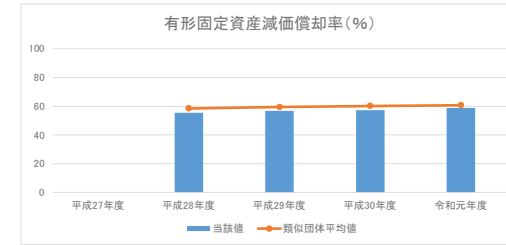
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 214,438 | 214,007 | 215,655 | 213,763 |
| 歳入総額 | | 50,916 | 45,047 | 46,098 | 50,110 |
| 当該値 | | 4.21 | 4.75 | 4.68 | 4.27 |
| 類似団体平均値 | | 4.07 | 4.05 | 4.08 | 3.95 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 153,618 | 159,493 | 165,087 | 170,565 |
| 有形固定資産 ※1 | | 276,657 | 281,213 | 288,168 | 290,471 |
| 当該値 | | 55.5 | 56.7 | 57.3 | 58.7 |
| 類似団体平均値 | | 58.4 | 59.4 | 60.2 | 60.7 |

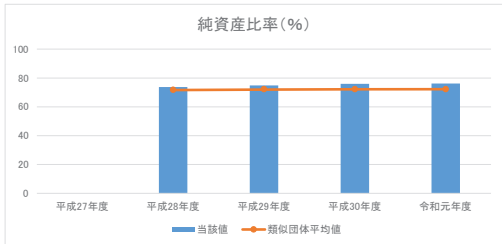
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

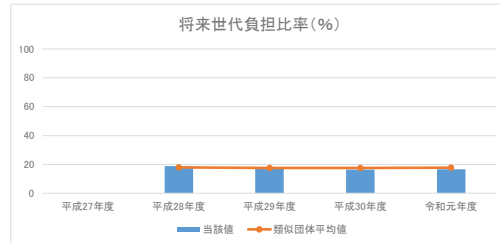
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | | 157,796 | 159,911 | 163,994 | 162,661 |
| 資産合計 | | 214,438 | 214,007 | 215,655 | 213,763 |
| 当該値 | | 73.6 | 74.7 | 76.0 | 76.1 |
| 類似団体平均値 | | 71.6 | 72.0 | 72.1 | 72.2 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 地方債残高 ※1 | | 32,701 | 29,936 | 28,295 | 28,070 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 173,775 | 172,889 | 173,740 | 170,617 |
| 当該値 | | 18.8 | 17.3 | 16.3 | 16.5 |
| 類似団体平均値 | | 17.9 | 17.5 | 17.5 | 17.7 |

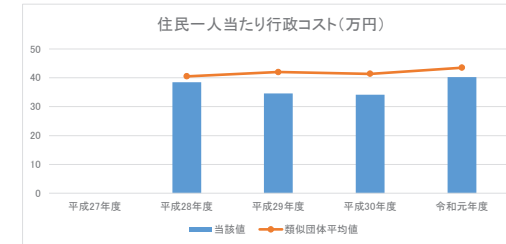
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

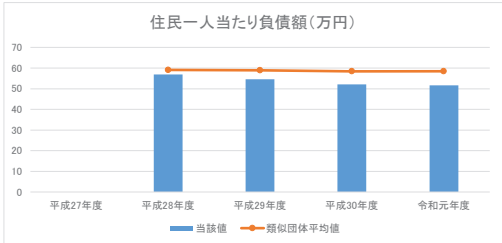
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 3,833,893 | 3,433,212 | 3,380,856 | 3,981,696 |
| 人口 | | 99,497 | 99,341 | 99,219 | 98,921 |
| 当該値 | | 38.5 | 34.6 | 34.1 | 40.3 |
| 類似団体平均値 | | 40.5 | 42.0 | 41.4 | 43.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

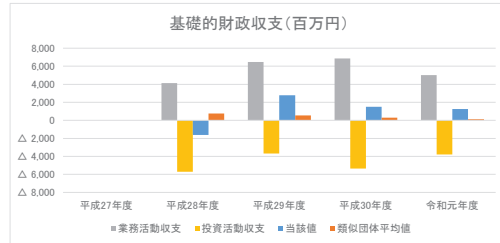
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 5,664,159 | 5,409,395 | 5,166,036 | 5,110,157 |
| 人口 | | 99,497 | 99,341 | 99,219 | 98,921 |
| 当該値 | | 56.9 | 54.5 | 52.1 | 51.7 |
| 類似団体平均値 | | 59.1 | 58.9 | 58.4 | 58.5 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 4,111 | 6,469 | 6,877 | 5,015 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 5,720 | △ 3,676 | △ 5,362 | △ 3,778 |
| 当該値 | | △ 1,609 | 2,793 | 1,515 | 1,237 |
| 類似団体平均値 | | 773.2 | 526.2 | 310.5 | 114.7 |

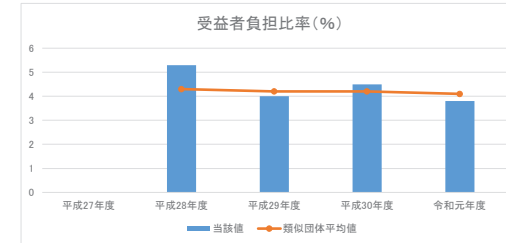
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 2,043 | 1,417 | 1,571 | 1,514 |
| 経常費用 | | 38,690 | 35,436 | 35,274 | 39,759 |
| 当該値 | | 5.3 | 4.0 | 4.5 | 3.8 |
| 類似団体平均値 | | 4.3 | 4.2 | 4.2 | 4.1 |



分析欄:

1. 資産の状況

類似団体平均値と比較して、「①住民一人当たりの資産額」及び「②歳入額対資産比率」は、それぞれ上回っており、資産、歳入共に平均値以上の確保ができています。また、資産の維持更新は今後も継続した課題であるが、「③有形固定資産減価償却率」は類似団体平均値を下回っており、比較においては、資産の老朽化の進行はやや抑えられている状況である。

2. 資産と負債の比率

類似団体平均値と比較して、「④純資産比率」は上回っており、「⑤将来世代負担比率」においては、やや下回っている状況である。これは、将来世代に負担を先送りしすぎず、現役世代での財政運営が行われていることがあらわれている。従前より計画的に行ってきた市債の繰上償還も影響しているものとも言える。

3. 行政コストの状況

類似団体平均値と比較して下回っている。今後も、行政需要に的確に対応するため、限られた行政資源や地域の特性を最大限に活用するとともに、歳入確保と事務事業の検証・評価・見直しを図る。

4. 負債の状況

「⑦住民一人当たり負債額」においては、類似団体平均値と比較して、下回っている状況である。「⑧基礎的財政収支」については、プラスとなり類似団体平均値と比較しても上回っている状況であるが、前年度と比較して減少している。これは、主に業務活動収支において、令和元年度日本台風災害にかかる災害復旧費用等の支出増加によって、業務活動収支は減少していることによる。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を下回っている状況にあるが、市民負担の公平性確保の観点と受益者負担の原則に立って、物価や税、他市の状況や類似施設の動向等を把握し、適正な水準確保に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県千曲市
団体コード 202185

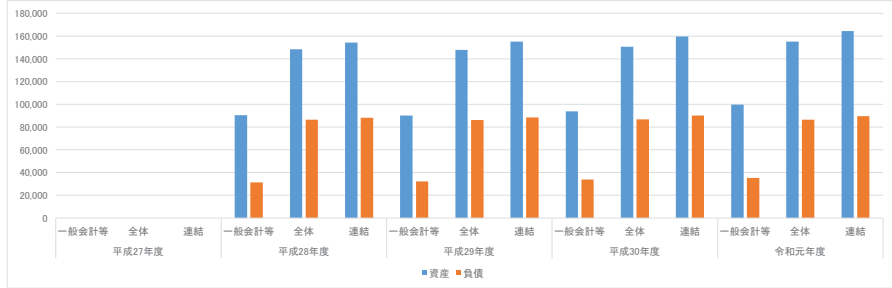
| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 60,421人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 440人 |
| 面積 | 119.79 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 15,948.056千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-2 | 実質負債比率 | 7.5% |
| | | 将来負債比率 | 49.2% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 90,299 | 90,084 | 93,688 | 99,598 |
| | 負債 | | 31,248 | 32,155 | 33,967 | 35,376 |
| | 純資産 | | 59,051 | 57,928 | 59,721 | 64,222 |
| 全体 | 資産 | | 148,382 | 147,747 | 150,691 | 155,236 |
| | 負債 | | 86,610 | 86,333 | 86,896 | 86,364 |
| | 純資産 | | 61,772 | 61,414 | 63,795 | 68,872 |
| 連結 | 資産 | | 154,189 | 155,068 | 159,517 | 164,316 |
| | 負債 | | 88,179 | 88,424 | 90,164 | 89,638 |
| | 純資産 | | 66,011 | 66,644 | 69,353 | 74,679 |

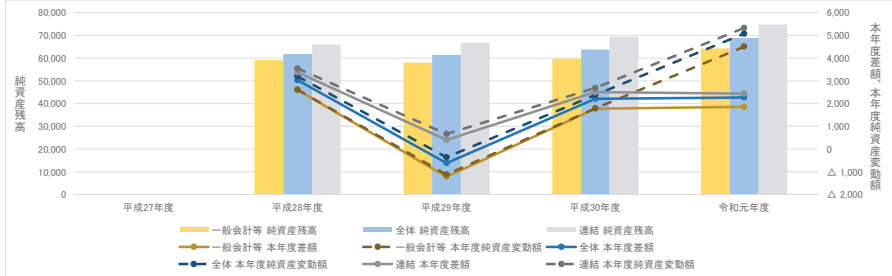


分析:
 ・一般会計等区分:資産の総額は99,598百万円となり、前年度比5,910百万円の増加となった。このうち庁舎や市民利用施設、学校などの用地を含む「事業用資産」が56,365百万円(56.6%)、道路などの「インフラ資産」が28,782百万円(28.9%)となり、資産の大半を占めている。負債については、「地方債」が29,501百万円、「1年以内償還予定地方債」が2,701百万円となり負債の大半を占めている。事業用資産が増加した要因としては、市役所新庁舎の完成に伴い、建設仮勘定から固定資産へ移動したことが主としており、事業推進に当たり、地方債の借入れが増加したため負債も増加している。
 ・全体区分:資産の総額は155,236百万円となり、前年度比4,545百万円の増加となった。このうち「インフラ資産」が74,976百万円(48.3%)となり、資産の大半を占めている。負債については地方債が53,693百万円、1年以内償還予定地方債が4,529百万円となり、一般会計等区分同様負債の大半を占めている。
 ・連結区分:資産の総額は164,316百万円であり、「事業用資産」が62,777百万円(38.2%)、「インフラ資産」が78,005百万円(45.6%)を占めた。負債については、「地方債」55,842百万円と「1年以内償還予定地方債」14,752百万円となっている。また、資産から負債を差し引いた「純資産」は74,679百万円(45.4%)となった。
 ・今後は令和元年度日本台風による災害復旧事業など令和2年度以降地方債の増加が予想される。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 2,599 | △1,220 | 1,778 | 1,850 |
| | 本年度純資産変動額 | | 2,604 | △1,123 | 1,792 | 4,501 |
| | 純資産残高 | | 59,051 | 57,928 | 59,721 | 64,222 |
| 全体 | 本年度差額 | | 3,029 | △621 | 2,207 | 2,267 |
| | 本年度純資産変動額 | | 3,198 | △362 | 2,381 | 5,077 |
| | 純資産残高 | | 61,772 | 61,414 | 63,795 | 68,872 |
| 連結 | 本年度差額 | | 3,370 | 401 | 2,501 | 2,433 |
| | 本年度純資産変動額 | | 3,540 | 660 | 2,683 | 5,325 |
| | 純資産残高 | | 66,011 | 66,644 | 69,353 | 74,679 |

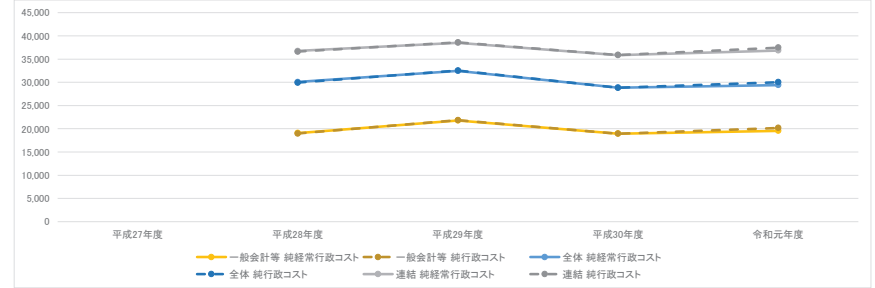


分析:
 ・一般会計等においては純行政コスト20,181百万円に対し財源等は22,030百万円となり、純資産残高は1,850百万円の増加となった。
 ・全体においては純行政コスト30,043百万円に対し財源等は32,310百万円となり、純資産残高は2,267百万円の増加となった。
 ・連結においては純行政コスト37,457百万円に対し財源等は39,890百万円となり、純資産残高は2,433百万円の増加となった。
 ・新庁舎等建設事業が完了したことや、資産の無償譲渡等により当年度中に純資産は5,326百万円増加し、74,679百万円となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 19,097 | 21,780 | 18,936 | 19,557 |
| | 純行政コスト | | 18,978 | 21,853 | 18,933 | 20,181 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 30,055 | 32,462 | 28,842 | 29,420 |
| | 純行政コスト | | 29,927 | 32,535 | 28,839 | 30,043 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 36,736 | 38,505 | 35,850 | 36,833 |
| | 純行政コスト | | 36,607 | 38,597 | 35,871 | 37,457 |

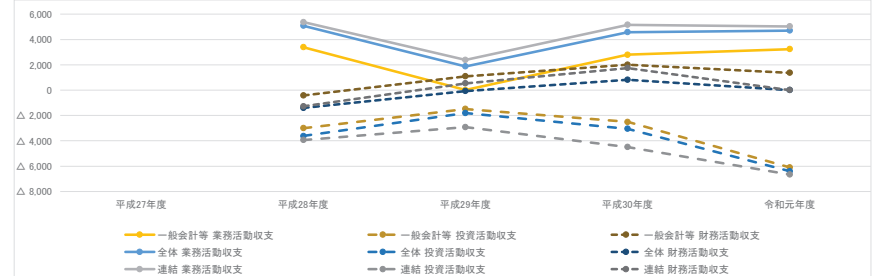


分析:
 ・一般会計等区分:経常費用20,731百万円となり、うち業務費用11,081百万円、移転費用0,650百万円となっている。業務費用の大半は物件費等6,741百万円(60.8%)が占めている。また移転費用は社会保険給付3,491百万円(36.2%)及び補助金等3,273百万円(33.9%)が大部分を占めている。また、臨時損失625百万円となり、令和元年度日本台風災害に係る災害復旧事業費が増加し、令和3年度まで復旧事業が続くと見込まれる。
 ・全体区分:経常費用が31,847百万円となり、一般会計等区分に比べ、特別会計等の補助金等が加わることにより移転費用の補助金等の割合が増した結果となっている。
 ・連結区分:経常費用は39,884百万円となったが、その内訳は福祉サービスに係る給付や補助金などの移転費用が23,872百万円(59.9%)を占めた。内容は補助金が最も多く今後もこの傾向が続くと見込まれるため、事業の見直しや経費の抑制に努める。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 3,384 | 14 | 2,794 | 3,243 |
| | 投資活動収支 | | △3,002 | △1,493 | △2,509 | △6,099 |
| | 財務活動収支 | | △420 | 1,088 | 2,007 | 1,360 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 5,077 | 1,869 | 4,576 | 4,704 |
| | 投資活動収支 | | △3,621 | △1,808 | △3,057 | △6,398 |
| | 財務活動収支 | | △1,404 | △78 | 818 | 2 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 5,371 | 2,385 | 5,152 | 5,027 |
| | 投資活動収支 | | △3,943 | △2,918 | △4,499 | △6,662 |
| | 財務活動収支 | | △1,274 | 536 | 1,739 | 6 |



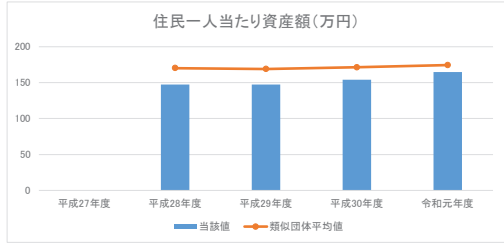
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支:3,243百万円、投資活動収支:△6,099百万円、財務活動収支:1,360百万円となった。業務活動収支については、令和元年度日本台風災害に係る災害関連経費により臨時支出が増加しているが、国県等補助金収入や臨時収入が増加したことなどから449百万円増加した。投資活動収支は、新庁舎の建設や小中学校の空調整備等により支出が増加したことなどから3,590百万円減少した。財務活動収支は、地方債発行収入が減少したことなどから640百万円減少したが、今後は大型事業のために借り入れた地方債償還支出が増加する見込みである。
 ・全体においては、業務活動収支:4,704百万円、投資活動収支:△6,398百万円、財務活動収支:2百万円となった。
 ・連結においては、業務活動収支は5,027百万円、投資活動収支は△6,662百万円、財務活動収支は6百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

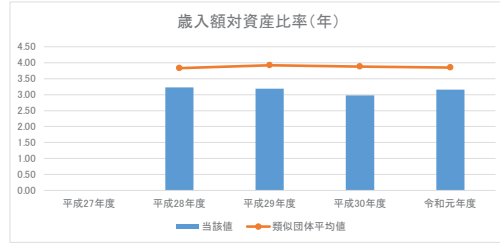
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 9,029,934 | 9,008,360 | 9,368,803 | 9,959,801 |
| 人口 | | 61,356 | 61,026 | 60,773 | 60,421 |
| 当該値 | | 147.2 | 147.6 | 154.2 | 164.8 |
| 類似団体平均値 | | 170.2 | 169.0 | 171.5 | 174.5 |



②歳入額対資産比率(年)

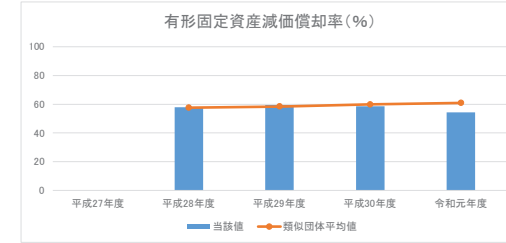
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 90,299 | 90,084 | 93,688 | 99,598 |
| 歳入総額 | | 27,921 | 28,241 | 31,480 | 31,523 |
| 当該値 | | 3.23 | 3.19 | 2.98 | 3.16 |
| 類似団体平均値 | | 3.83 | 3.92 | 3.88 | 3.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 58,675 | 60,430 | 62,168 | 64,105 |
| 有形固定資産 ※1 | | 101,291 | 101,657 | 106,171 | 117,876 |
| 当該値 | | 57.9 | 59.4 | 58.6 | 54.4 |
| 類似団体平均値 | | 57.6 | 58.4 | 59.9 | 60.9 |

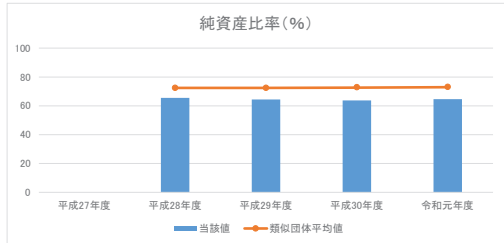
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

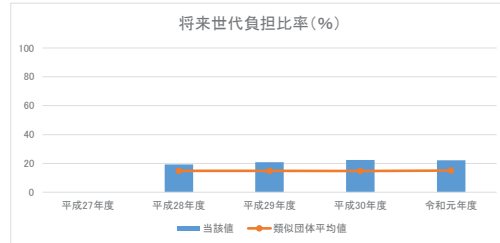
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 59,051 | 57,928 | 59,721 | 64,222 |
| 資産合計 | | 90,299 | 90,084 | 93,688 | 99,598 |
| 当該値 | | 65.4 | 64.3 | 63.7 | 64.5 |
| 類似団体平均値 | | 72.4 | 72.4 | 72.7 | 72.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 14,405 | 15,439 | 17,488 | 19,055 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 75,056 | 74,616 | 78,394 | 85,794 |
| 当該値 | | 19.2 | 20.7 | 22.3 | 22.2 |
| 類似団体平均値 | | 14.8 | 14.8 | 14.7 | 15.0 |

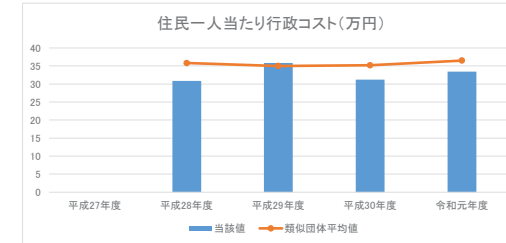
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

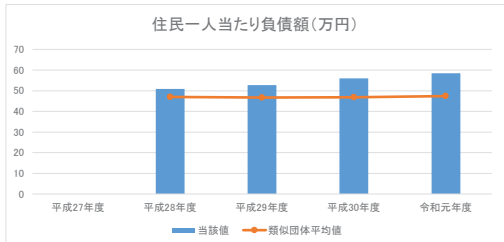
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,897,806 | 2,185,270 | 1,893,323 | 2,018,070 |
| 人口 | | 61,356 | 61,026 | 60,773 | 60,421 |
| 当該値 | | 30.9 | 35.8 | 31.2 | 33.4 |
| 類似団体平均値 | | 35.8 | 35.0 | 35.2 | 36.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

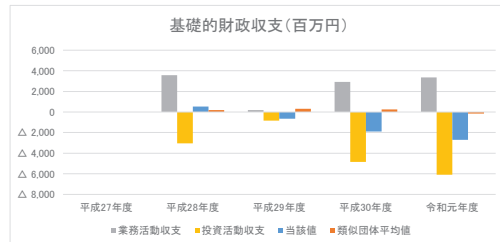
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 3,124,826 | 3,215,511 | 3,396,732 | 3,537,609 |
| 人口 | | 61,356 | 61,026 | 60,773 | 60,421 |
| 当該値 | | 50.9 | 52.7 | 55.9 | 58.5 |
| 類似団体平均値 | | 47.0 | 46.7 | 46.8 | 47.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 3,577 | 179 | 2,937 | 3,371 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 3,056 | △ 823 | △ 4,841 | △ 6,076 |
| 当該値 | | 521 | △ 644 | △ 1,904 | △ 2,705 |
| 類似団体平均値 | | 189.3 | 310.4 | 242.5 | △ 157.7 |

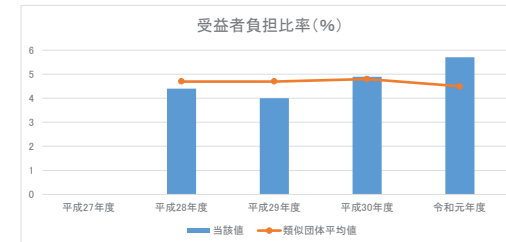
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 886 | 909 | 972 | 1,174 |
| 経常費用 | | 19,983 | 22,688 | 19,909 | 20,731 |
| 当該値 | | 4.4 | 4.0 | 4.9 | 5.7 |
| 類似団体平均値 | | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.5 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、類似団体と比較すると平均を下回っているが、新庁舎建設により前年度に比べ増加した。歳入額対資産比率は、類似団体平均を下回っているが、新庁舎等建設事業が令和元年度に完了したことから、今後は地方債の発行総額の減少により増加傾向となる。有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を下回っているものの、新庁舎以外の施設は老朽化が進んでいることから、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めるなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体を下回っている。合併の総仕上げとして大型事業を行う地方債残高の割合が高く、将来世代負担比率についても類似団体を上回っているが、公共資産は将来世代にも引き継がれて利用するものであるため、適正な負担割合となるよう検討していく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは類似団体よりも低い数値を示しているが、物件費や社会保障給付費の増加により前年度に比べ増加している。経常費用の多くが福祉サービスに係る給付や移転費用の補助金等が占めており、社会保障給付の増加傾向に対し対策を講じる必要がある。

4. 負債の状況

住民一人あたりの負債額が徐々に増加しており、類似団体平均値をやや上回っている状況が続いている。大型ハード事業はほぼ完了しているが、令和元年度日本台風の災害復旧事業の完了までは上昇または現状のまま推移していく。基礎的財政収支については、類似団体平均値を上回っているが、収入には国や県からの補助金など依存財源も多いため、今後は自己資本の比率を高めることによりさらなる財政の安定化を図っていく必要がある。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、葛尾組合運営経費負担金の増加により比率が上がった。将来的な税収低下傾向が見込まれている中、長期にわたって持続的なサービスを提供していくために必要となる、適正な受益者負担の割合を類似団体との比較などを参考に検討していく必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

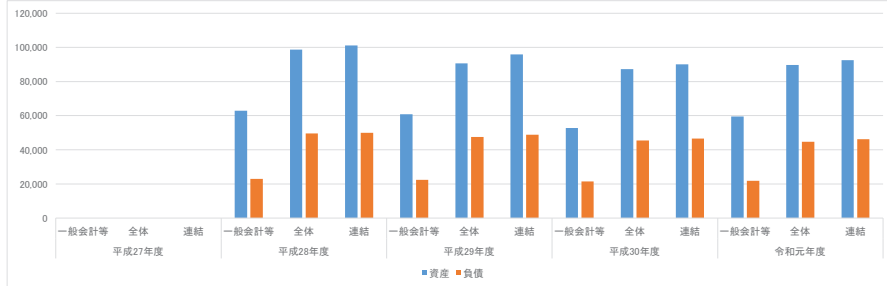
団体名 長野県東御市
団体コード 202193

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 30,078人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 256人 |
| 面積 | 112.37km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 8,855,362千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市I-1 | 実質公債費率 | 6.8% |
| | | 将来負担比率 | 70.1% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

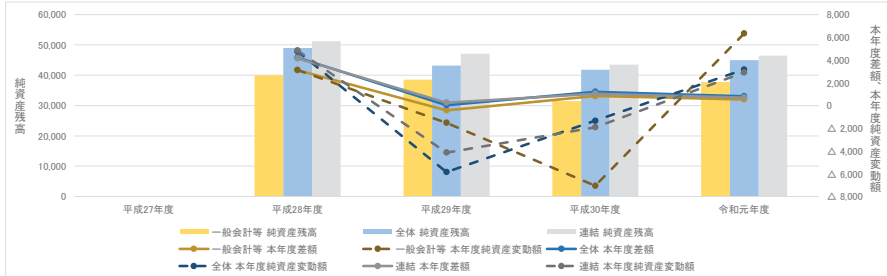
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 62,932 | 60,855 | 52,857 | 59,608 |
| | 負債 | | 22,926 | 22,363 | 21,419 | 21,826 |
| 全体 | 資産 | | 98,675 | 90,735 | 87,332 | 89,702 |
| | 負債 | | 49,658 | 47,570 | 45,507 | 44,714 |
| 連結 | 資産 | | 101,164 | 95,961 | 90,122 | 92,574 |
| | 負債 | | 49,983 | 48,922 | 46,622 | 46,154 |



分析:
一般会計等においては、資産総額は前年度末から6,751百万円増加(+12.8%)し、負債総額は前年度末から407百万円増加(+1.9%)となった。資産総額のうち有形固定資産の割合は82.0%となっており、これは将来の維持管理・更新等の支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。負債総額のうち金額の変動が最も大きいものは地方債等(固定負債)であり、前年度から繰越した起債事業の借入が大きかったため、496百万円増加となった。
水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体においては、資産総額は前年度末から2,370百万円増加(+2.7%)し、負債総額は前年度末から793百万円(-1.7%)減少となった。資産総額は、水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等より、一般会計に比べて30,094百万円多くとなっている。それに伴い負債総額も大きく増加しているが、地方債償還額が発行額を上回り、負債総額は前年度末から減少となった。
東御市土地開発公社、上田地域広域連合等を加えた連結においては、資産総額は前年度末から2,452百万円増加(+2.7%)し、負債総額は前年度末から468百万円(-1.0%)減少となった。

3. 純資産変動の状況

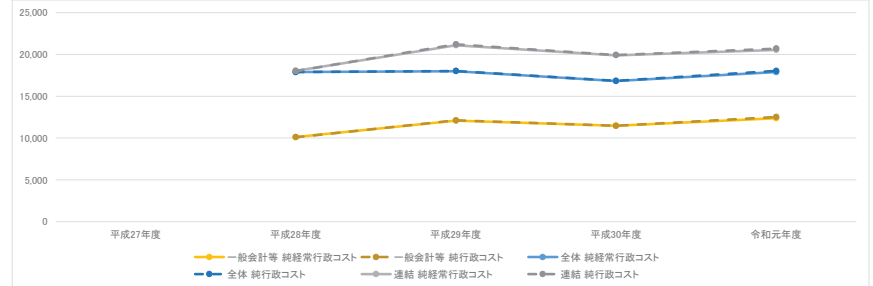
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|---------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 3,111 | △ 428 | 832 | 535 |
| | 本年度純資産変動額 | | 3,120 | △ 1,513 | △ 7,054 | 6,344 |
| | 純資産残高 | | 40,005 | 38,492 | 31,438 | 37,782 |
| 全体 | 本年度差額 | | 4,219 | 30 | 1,209 | 814 |
| | 本年度純資産変動額 | | 4,765 | △ 1,339 | △ 1,339 | 3,163 |
| | 純資産残高 | | 49,017 | 43,165 | 41,825 | 44,988 |
| 連結 | 本年度差額 | | 4,145 | 247 | 1,044 | 708 |
| | 本年度純資産変動額 | | 4,832 | △ 4,143 | △ 1,911 | 2,912 |
| | 純資産残高 | | 51,181 | 47,039 | 43,500 | 46,420 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(13,056百万円)が純行政コスト(12,521百万円)を上回ったことから、本年度差額は535百万円となり、純資産残高は6,344百万円の増加となった。本年度純資産変動額が大きいのは、過年度の資産計上漏れを修正したためである。
全体においては、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計の国民健康保険税や介護保険料が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が5,796百万円多く、本年度差額は814百万円となり、純資産残高は3,163百万円の増加となった。
連結においては、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が8,360百万円多く、本年度差額は708百万円となり、純資産残高は2,912百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

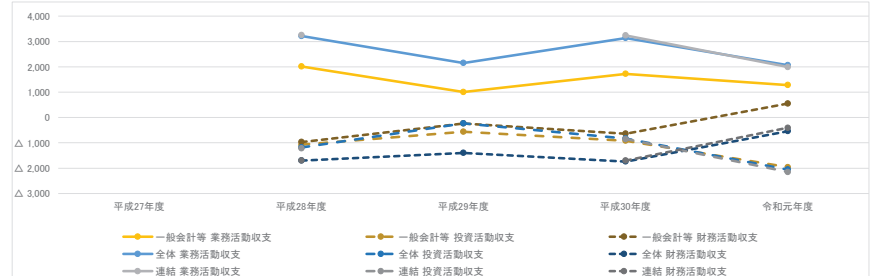
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 10,122 | 12,092 | 11,472 | 12,376 |
| | 純行政コスト | | 10,092 | 12,112 | 11,466 | 12,521 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 17,912 | 17,992 | 16,822 | 17,885 |
| | 純行政コスト | | 17,886 | 18,013 | 16,844 | 18,037 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 18,043 | 21,095 | 19,898 | 20,551 |
| | 純行政コスト | | 18,017 | 21,212 | 19,927 | 20,708 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は13,019百万円となり、前年度から622百万円増加となった。業務費用の方が移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等(4,456百万円)であり、経常費用の34.2%を占めている。施設の集約化・複合化事業に着手するなど、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。
また、令和元年度は、臨時損失として令和元年東日本台風に係る災害復旧事業費が124百万円となっている。
全体においては、一般会計等と比べて、水道料等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が2,619百万円多く増加している一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が4,397百万円多く、純行政コストは5,516百万円多く増加している。
連結においては、一般会計に比べて、経常収益が4,070百万円多く増加している一方、経常費用が12,245百万円多く増加し、純行政コストは8,187百万円多く増加している。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 2,013 | 1,005 | 1,718 | 1,278 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,077 | △ 563 | △ 914 | △ 1,959 |
| | 財務活動収支 | | △ 971 | △ 234 | △ 637 | 550 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 3,216 | 2,148 | 3,135 | 2,063 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,185 | △ 233 | △ 832 | △ 2,058 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,700 | △ 1,393 | △ 1,741 | △ 542 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 3,247 | 3,237 | 3,237 | 1,993 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,216 | △ 846 | △ 846 | △ 2,147 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,700 | △ 1,700 | △ 1,700 | △ 404 |

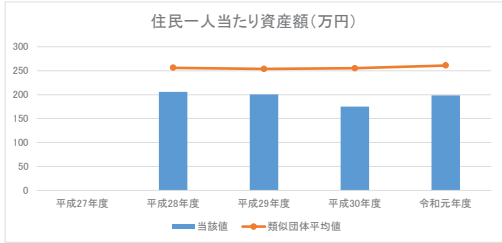


分析:
一般会計等においては、業務活動収支については1,278百万円、投資活動収支については△1,959百万円となった。財務活動収支については、地方債の地方債発行収入が償還額を上回ったことから、550百万円となった。本年度末資金残高については、前年度から、131百万円減少し、342百万円となった。経常的な活動に係る経費は税金等の収入で賄われている状況であるが、基金の取崩が続いているため、基金に頼らない財政運営に努める。
全体においては、国民健康保険税や介護保険料が収支等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支については、一般会計等より785百万円多い2,063百万円となった。投資活動収支については、△2,058百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△542百万円となり、本年度末資金残高については、前年度から、537百万円減少し、1,830百万円となった。
連結においては、業務活動収支については、一般会計等より715百万円多い1,993百万円となった。投資活動収支については、△2,147百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△404百万円となり、本年度末資金残高は前年度から、505百万円減少し、2,453百万円となった。

1. 資産の状況

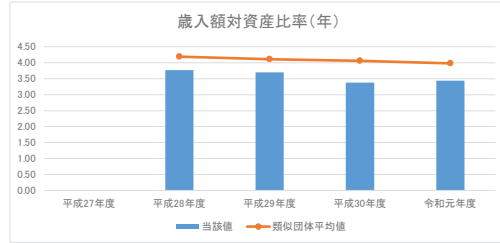
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 6,293,226 | 6,085,539 | 5,285,708 | 5,960,824 |
| 人口 | | 30,586 | 30,415 | 30,259 | 30,078 |
| 当該値 | | 205.8 | 200.1 | 174.7 | 198.2 |
| 類似団体平均値 | | 256.2 | 253.7 | 254.9 | 260.8 |



②歳入額対資産比率(年)

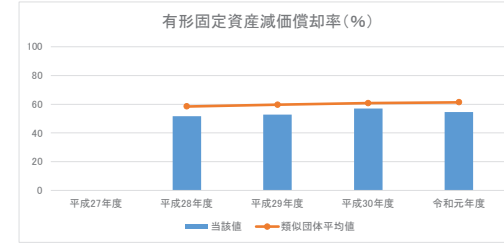
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 62,932 | 60,855 | 52,857 | 59,608 |
| 歳入総額 | | 16,680 | 16,464 | 15,641 | 17,336 |
| 当該値 | | 3.77 | 3.70 | 3.38 | 3.44 |
| 類似団体平均値 | | 4.19 | 4.11 | 4.06 | 3.98 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 39,055 | 40,552 | 43,488 | 43,628 |
| 有形固定資産 ※1 | | 75,628 | 76,745 | 76,333 | 80,034 |
| 当該値 | | 51.6 | 52.8 | 57.0 | 54.5 |
| 類似団体平均値 | | 58.4 | 59.6 | 60.7 | 61.3 |

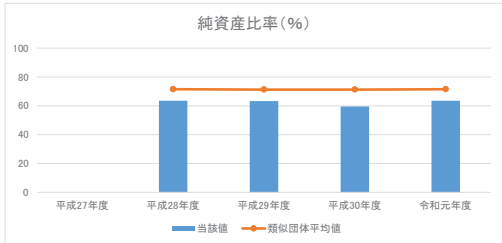
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

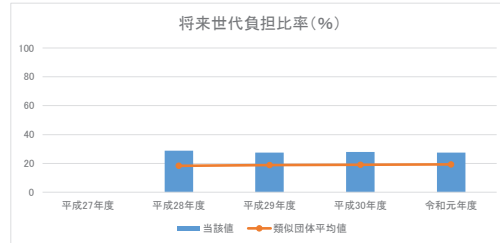
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 40,005 | 38,492 | 31,438 | 37,782 |
| 資産合計 | | 62,932 | 60,855 | 52,857 | 59,608 |
| 当該値 | | 63.6 | 63.3 | 59.5 | 63.4 |
| 類似団体平均値 | | 71.5 | 71.2 | 71.2 | 71.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 14,289 | 13,394 | 12,728 | 13,378 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 49,447 | 48,739 | 45,796 | 48,889 |
| 当該値 | | 28.9 | 27.5 | 27.8 | 27.4 |
| 類似団体平均値 | | 18.3 | 18.7 | 19.0 | 19.3 |

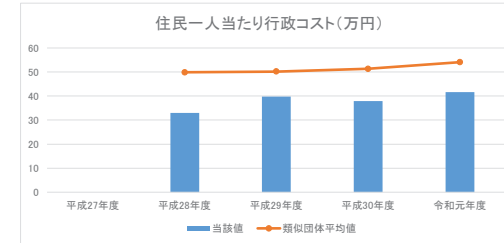
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

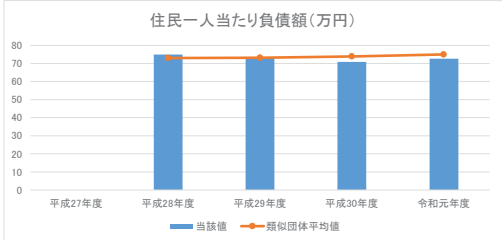
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 1,009,235 | 1,211,187 | 1,146,597 | 1,252,069 |
| 人口 | | 30,586 | 30,415 | 30,259 | 30,078 |
| 当該値 | | 33.0 | 39.8 | 37.9 | 41.6 |
| 類似団体平均値 | | 49.9 | 50.2 | 51.3 | 54.1 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

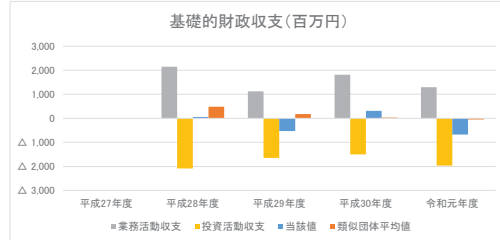
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 2,292,600 | 2,236,319 | 2,141,873 | 2,182,595 |
| 人口 | | 30,586 | 30,415 | 30,259 | 30,078 |
| 当該値 | | 75.0 | 73.5 | 70.8 | 72.6 |
| 類似団体平均値 | | 73.0 | 73.2 | 73.8 | 75.0 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 2,144 | 1,117 | 1,817 | 1,297 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 2,083 | △ 1,642 | △ 1,507 | △ 1,967 |
| 当該値 | | 61 | △ 525 | 310 | △ 670 |
| 類似団体平均値 | | 476.6 | 177.5 | 36.5 | △ 48.6 |

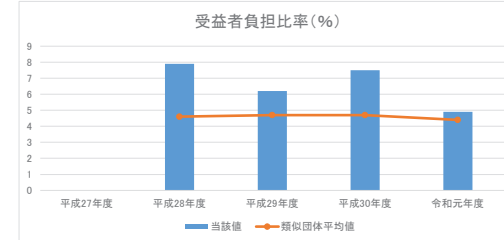
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 868 | 796 | 925 | 643 |
| 経常費用 | | 10,991 | 12,888 | 12,397 | 13,019 |
| 当該値 | | 7.9 | 6.2 | 7.5 | 4.9 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 4.7 | 4.7 | 4.4 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額、歳入額対資産比率、有形固定資産減価償却率ともに類似団体平均を下回った結果となった。住民一人当たり資産額、歳入額対資産比率が類似団体平均を下回っている要因としては、有形固定資産減価償却率が類似団体平均を下回っていることから老朽化によるものとは考えられないため、類似団体と比べ、流動資産等が少ないものと考えられる。有形固定資産減価償却率が類似団体平均を下回っているが、これは、平成28年度から令和元年度にかけて公営住宅の建替えを行ったことが要因と考えられる。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を下回っており、将来世代負担比率は、類似団体を上回っていることから、類似団体と比べて固定資産に対する地方債残高(負債)が多いことが考えられる。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の軽減に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っている。これは定員適正化計画が順調に達成されているためであると考えられる。しかし、今後行政の役割が専門化高度化する中で、職員一人ひとりの資質向上が不可欠であるため、職員が少ないことが行政サービスの低下とならないよう努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均と同程度である。地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮減に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を上回っている状況にある。適正な受益者負担を確保するため、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行い、経常費用の削減に努める。平成30年度以前に類似団体平均を大きく上回っているのは、決算整理の数値の取扱いによるものである。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

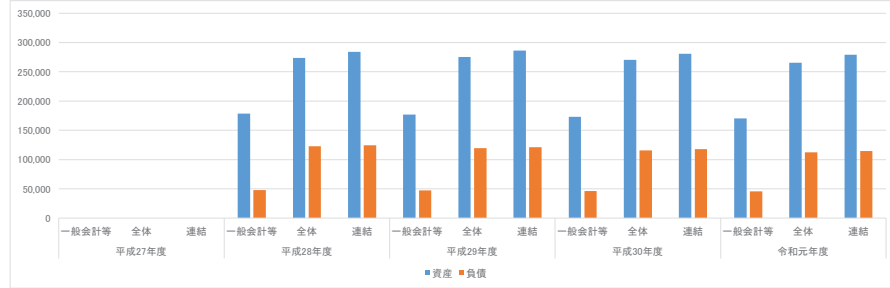
団体名 長野県安曇野市
団体コード 202207

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 97,494人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 659人 |
| 面積 | 331.78km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 26,364.136千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 都市Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 9.5% |
| | | 将来負担比率 | 10.4% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | △ | × |

1. 資産・負債の状況

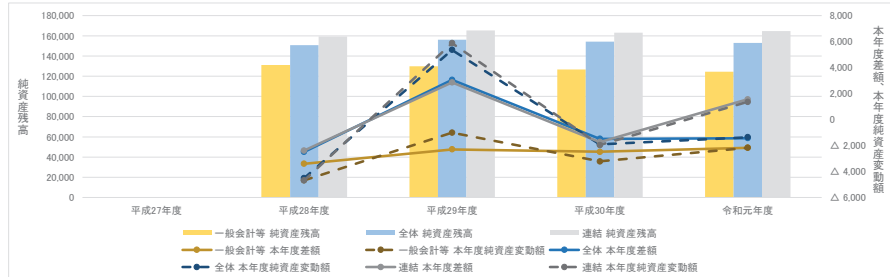
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 178,725 | 177,089 | 172,906 | 170,347 |
| | 負債 | | 47,775 | 47,150 | 46,192 | 45,819 |
| 全体 | 資産 | | 273,798 | 275,371 | 270,166 | 265,427 |
| | 負債 | | 123,002 | 119,225 | 115,918 | 112,547 |
| 連結 | 資産 | | 283,950 | 286,155 | 280,924 | 278,937 |
| | 負債 | | 124,672 | 121,002 | 117,739 | 114,396 |



分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から25億8,500万円の減少(△1.48%)の1,703億4,700万円となった。資産額のうち、大半を占める有形固定資産額は1,519億4,500万円であり、その多くが道路等のインフラ資産で、有形固定資産額の61%を占めている。また、新規資産形成分の主なものとして、令和元年度では、穂高認定こども園大規模改修(取得価額:1億6,400万円)、穂高南小学校体育館耐震化事業(取得価額:1億2,800万円)などが挙げられる。また、負債については、地方債が大半を占め、その額は、固定負債で353億8,500万円、流動負債で49億5,800万円となっている。
 ・水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体においては、資産総額が前年度末から47億3,800万円の減少(△1.75%)の2,654億2,700万円となった。水道事業会計、下水道事業会計が大半を占めており、資産では有形固定資産が水道事業会計で233億6,300万円、下水道事業会計で564億7,700万円となっている。負債については地方債として、水道事業会計で固定負債が55億3,900万円、流動負債が5億8,700万円、下水道事業会計で固定負債が266億7,000万円、流動負債が23億9,100万円となっている。
 ・一部事務組合等を加えた連結においては、資産総額が前年度末から19億8,600万円の減少(△0.7%)の2,789億3,700万円となった。

3. 純資産変動の状況

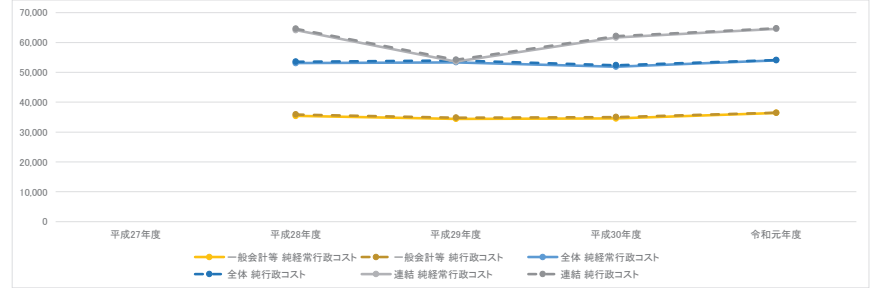
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 3,407 | △ 2,308 | △ 2,483 | △ 2,177 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 4,679 | △ 1,011 | △ 3,225 | △ 2,185 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 2,490 | 3,054 | △ 1,489 | △ 1,436 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 4,503 | 5,351 | △ 1,898 | △ 1,367 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 2,383 | 2,857 | △ 1,728 | 1,550 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 4,683 | 5,877 | △ 1,968 | 1,355 |
| | 純資産残高 | | 159,277 | 165,154 | 163,186 | 164,541 |



分析:
 ・一般会計等においては、純行政コストが△364億9,900万円のところ、税収、国庫補助金等の財源が343億2,200万円となり、本年度差額が△21億7,700万円となった。本年度の純資産変動額は△21億8,500万円となり、本年度末純資産残高は1,245億2,800万円となった。
 ・水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体においては、純資産変動額が△13億7,000万円なり、本年度末純資産残高は1,528億8,000万円となった。
 ・一部事務組合等を加えた連結は、純資産変動額は13億5,500万円となり、本年度末純資産残高は1,645億4,100万円となった。

2. 行政コストの状況

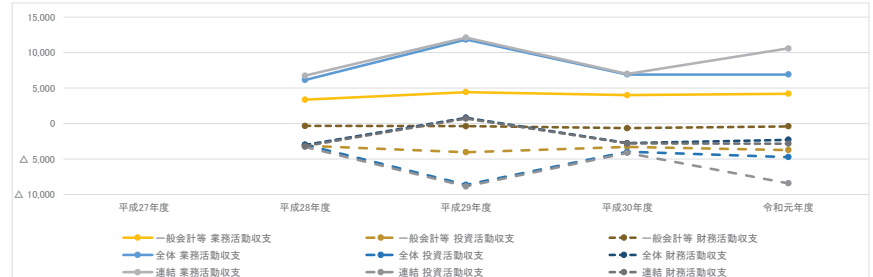
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 35,401 | 34,417 | 34,542 | 36,404 |
| | 純行政コスト | | 35,882 | 34,814 | 35,022 | 36,498 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 53,084 | 53,376 | 51,888 | 54,019 |
| | 純行政コスト | | 53,581 | 53,972 | 52,372 | 54,117 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 64,141 | 53,611 | 61,650 | 64,571 |
| | 純行政コスト | | 64,634 | 54,212 | 62,165 | 64,765 |



分析:
 ・一般会計等においては、純行政コストが364億9,800万円で前年度より14億7,600万円多くなっている。経常費用は374億1,500万円となり、前年度比20億2,700万円の増加(5.7%)となった。そのうち物件費等が135億6,600万円、人件費が67億4,100万円、移転費用では各団体への補助金等が71億2,600万円、扶助費等の社会保障給付が51億4,800万円となっている。また、経常収益は10億1,100万円となり、前年度比1億6,500万円の増加(19.5%)となった。
 ・水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体においては、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計が多くを占めており、純行政コストで国民健康保険特別会計は100億5,000万円で前年度より6,500万円少なくなっている。介護保険特別会計は90億310万円で前年度より2億3,000万円多くなっている。なお、その他の純行政コストは下水道事業会計が18億5,800万円で前年度より1億1,300万円少なくなっている。水道事業会計が△1億600万円で前年度より2億3,000万円少なくなっている。
 ・一部事務組合等を加えた連結においては、純行政コストが647億6,600万円で前年度より26億円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 3,368 | 4,423 | 3,994 | 4,188 |
| | 投資活動収支 | | △ 3,128 | △ 4,046 | △ 3,290 | △ 3,749 |
| 全体 | 業務活動収支 | | △ 324 | △ 374 | △ 641 | △ 398 |
| | 投資活動収支 | | 6,133 | 11,848 | 6,894 | 6,913 |
| 連結 | 業務活動収支 | | △ 2,986 | △ 8,630 | △ 3,976 | △ 4,722 |
| | 投資活動収支 | | △ 3,016 | 810 | △ 2,764 | △ 2,291 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 6,753 | 12,112 | 6,999 | 10,581 |
| | 投資活動収支 | | △ 3,295 | △ 8,846 | △ 4,138 | △ 8,439 |
| | 財務活動収支 | | 706 | | △ 2,806 | △ 2,844 |



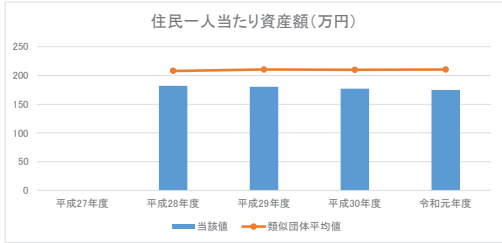
分析:
 ・一般会計等においては、本年度資金収支額が4,100万円となり、本年度末資金残高が8億1,200万円となった。業務活動収支では業務収入(341億8,200万円)が業務支出(299億9,300万円)を上回り、41億8,900万円となった。また、投資活動収支は投資活動支出が70億6,700万円、投資活動収入が33億1,700万円となり、投資活動収支は△37億5,000万円となった。なお、投資活動収入の大半を占める財政調整基金等の取崩収入は13億7,000万円となり、前年比157%となっている。また、財務活動収支では、起債の元金償還分となる地方債等償還支出が51億1,000万円、財務活動収入では、地方債発行収入が47億1,000万円となり、財務活動収支が△3億9,800万円となった。
 ・全体、連結の本年度末現金預金残高については、水道事業会計(29億4,300万円)、下水道事業会計(11億8,800万円)となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

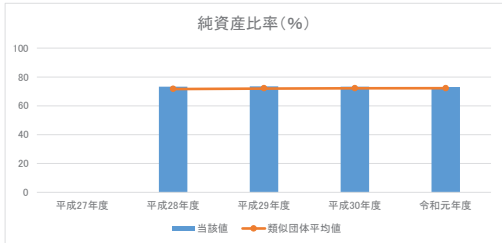
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|------------|------------|------------|------------|
| 資産合計 | | 17,872,505 | 17,708,921 | 17,290,601 | 17,034,700 |
| 人口 | | 98,099 | 98,056 | 97,800 | 97,494 |
| 当該値 | | 182.2 | 180.6 | 176.8 | 174.7 |
| 類似団体平均値 | | 207.8 | 210.2 | 209.7 | 210.4 |



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

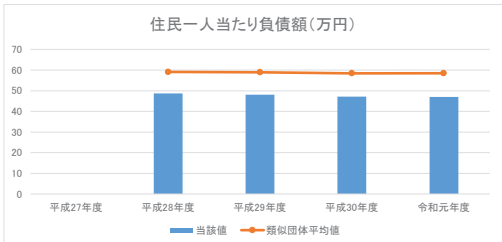
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純資産 | | 130,950 | 129,939 | 126,714 | 124,528 |
| 資産合計 | | 178,725 | 177,089 | 172,906 | 170,347 |
| 当該値 | | 73.3 | 73.4 | 73.3 | 73.1 |
| 類似団体平均値 | | 71.6 | 72.0 | 72.1 | 72.2 |



4. 負債の状況

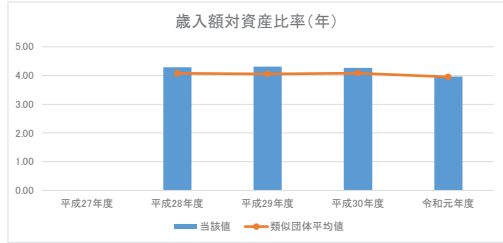
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 4,777,458 | 4,715,012 | 4,619,229 | 4,581,900 |
| 人口 | | 98,099 | 98,056 | 97,800 | 97,494 |
| 当該値 | | 48.7 | 48.1 | 47.2 | 47.0 |
| 類似団体平均値 | | 59.1 | 58.9 | 58.4 | 58.5 |



②歳入額対資産比率(年)

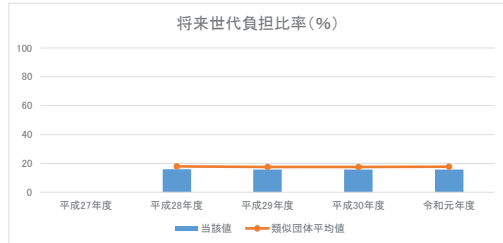
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 178,725 | 177,089 | 172,906 | 170,347 |
| 歳入総額 | | 41,633 | 41,135 | 40,560 | 42,978 |
| 当該値 | | 4.29 | 4.31 | 4.26 | 3.96 |
| 類似団体平均値 | | 4.07 | 4.05 | 4.08 | 3.95 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 地方債残高 ※1 | | 25,639 | 25,053 | 24,280 | 24,043 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 160,591 | 158,788 | 154,765 | 152,038 |
| 当該値 | | 16.0 | 15.8 | 15.7 | 15.8 |
| 類似団体平均値 | | 17.9 | 17.5 | 17.5 | 17.7 |

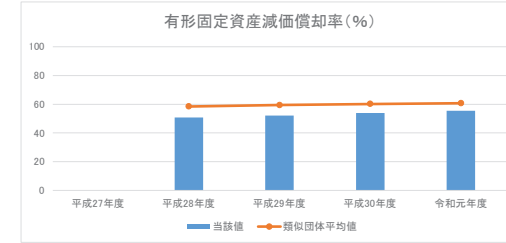
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 減価償却累計額 | | 151,642 | 156,682 | 163,356 | 170,380 |
| 有形固定資産 ※1 | | 298,349 | 301,505 | 303,752 | 307,683 |
| 当該値 | | 50.8 | 52.0 | 53.8 | 55.4 |
| 類似団体平均値 | | 58.4 | 59.4 | 60.2 | 60.7 |

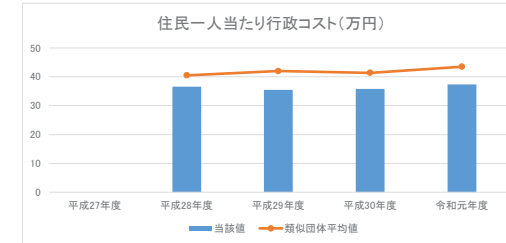
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

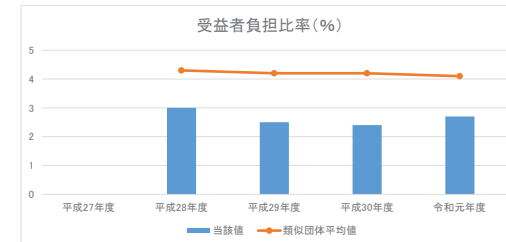
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 3,588,215 | 3,481,366 | 3,502,164 | 3,649,800 |
| 人口 | | 98,099 | 98,056 | 97,800 | 97,494 |
| 当該値 | | 36.6 | 35.5 | 35.8 | 37.4 |
| 類似団体平均値 | | 40.5 | 42.0 | 41.4 | 43.5 |



5. 受益者負担の状況

⑧受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 1,101 | 891 | 846 | 1,010 |
| 経常費用 | | 36,502 | 35,308 | 35,388 | 37,414 |
| 当該値 | | 3.0 | 2.5 | 2.4 | 2.7 |
| 類似団体平均値 | | 4.3 | 4.2 | 4.2 | 4.1 |



分析欄:

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額は、類似団体と比較して35.7万円下回っている。合併後(H17年合併)、旧合併特例債を用いた中、設定ことも同様、老朽化した施設の更新や値の補助金を活用して小中学校の長寿命化工事等を進めてきたが、全体的には老朽化した施設も多くなり、類似団体平均値を下回っている。
②歳入額対資産比率は、類似団体平均値とほぼ同じであるが、経年比較すると0.3年短くなっており、前年度より資産が少なくなっていることが影響していると考えられる。

③有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比べ5.3ポイント下回っており、老朽化した施設があるものの、比較的施設更新が進み、全体的に耐用年数が残っていることがうかがえる。本市では、H28年度に策定した公共施設再配置計画に基づき、計画的に施設の改修・更新等を行っている。

2. 資産と負債の比率

④純資産比率は、類似団体平均値と比べ0.9ポイント上回っており、比較的、現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積していることがうかがえる。また、純資産は、固定資産等形成分が1,685億8,000万円、余剰分が△440億5,000万円となっており、純行政コストを減らし、税收、国庫補助金等を増やすことで余剰分の不足額を減らし、より資産形成を進めるように努めている。

⑤将来世代負担比率は、類似団体平均値と比べ1.9ポイント下回っており、社会資本等形成に係る将来世代への負担が比較的低いことがうかがえる。今後も、新規に発行する地方債の抑制を行うとともに有利な地方債へ借換えを行うことで地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める必要がある。

3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コストは、類似団体平均値と比べ6.1ポイント下回っているが、経年比較では1.6万円増加している。これは、新ごみ処理施設建設工事に係る負担金(14億円)の増加によるところが大きい。今後も、性質別・行政目的別行政コストを検証し、行政コストの改善を図っていく必要がある。

4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額は、類似団体平均値と比べ11.5万円下回っているが、住民一人当たり資産額(1.資産の状況①)住民一人当たり資産額)も35.7万円下回っているため、住民一人当たりの純資産額は類似団体平均値より24.2万円下回った計算となる。経年比較すると、負債額より純資産の減少額が上回る結果となった。

⑧基礎的財政収支は、業務活動収支の黒字分が投資活動収支の赤字分を上回り、7億2,500万円のプラスとなった。類似団体平均値と比べ、6億1,000万円多くになっている。

5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率は、類似団体平均値と比べ1.4ポイント下回っている。これは、本市の行政サービスの提供に対し、経常収益が低いことから、受益者負担の割合が低いことがうかがえる。今後、コスト削減による経常費用の削減及び公共施設の利用料改定等、受益者負担水準の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

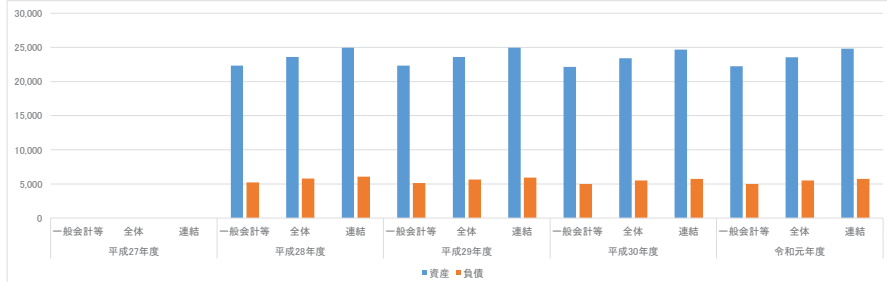
団体名 長野県小海町
団体コード 203033

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 4,577人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 59人 |
| 面積 | 114.20km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,345.915千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | 6.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

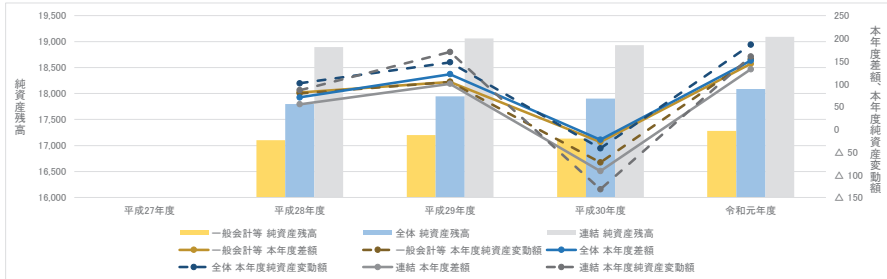
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 22,325 | 22,326 | 22,134 | 22,260 |
| | 負債 | | 5,225 | 5,122 | 5,003 | 4,975 |
| 全体 | 資産 | | 23,609 | 23,613 | 23,415 | 23,574 |
| | 負債 | | 5,811 | 5,668 | 5,512 | 5,486 |
| 連結 | 資産 | | 24,942 | 24,981 | 24,693 | 24,815 |
| | 負債 | | 6,051 | 5,920 | 5,764 | 5,726 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から126百万円増加し22,260百万円となった。有形固定資産は小学校の改修、町営住宅の建設、防災工事や農道整備などの建設投資により727百万円増加した一方で、旧田地の敷地売却や減価償却費により703百万円減少している。負債総額は前年度末から27百万円減少し4,975百万円となった。地方債の償還額が発行額を上回り地方債残高が70百万円減少した一方で、新規のファイナンス・リース契約によりリース債務が60百万円増加している。全体会計では、資産総額が1,197百万円の水道事業会計などの特別会計が合算されることで資産総額23,574百万円となった。負債は負債総額509百万円の水道事業などが合算されることで5,486百万円となっている。前年度末と比べ資産総額、負債総額ともに大きな増減はない。連結会計では、一部事務組合や3セク等が合算されることにより、資産総額は24,815百万円、負債総額は5,726百万円となっている。連結団体の中で規模の大きい団体は、小海町北相木村南相木村中学校組合（資産額498百万円）、小海町開発公社（同286百万円）である。前年対比では、一般会計等及び全体会計と同様に大きな増減はない。

3. 純資産変動の状況

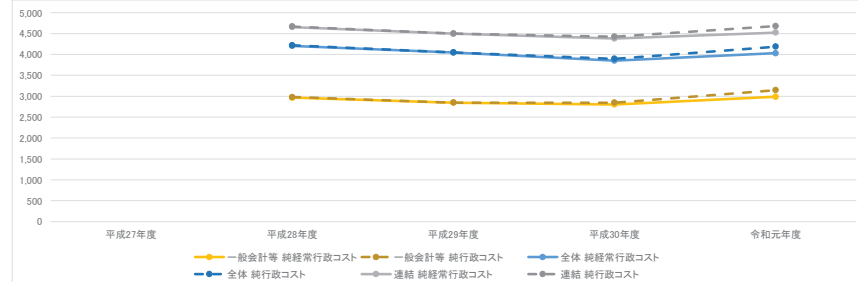
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 81 | 104 | △ 28 | 144 |
| | 本年度純資産変動額 | | 79 | 104 | △ 73 | 154 |
| | 純資産残高 | | 17,100 | 17,204 | 17,131 | 17,284 |
| 全体 | 本年度差額 | | 70 | 121 | △ 23 | 151 |
| | 本年度純資産変動額 | | 101 | 147 | △ 42 | 186 |
| | 純資産残高 | | 17,798 | 17,945 | 17,903 | 18,089 |
| 連結 | 本年度差額 | | 55 | 100 | △ 92 | 132 |
| | 本年度純資産変動額 | | 86 | 170 | △ 132 | 160 |
| | 純資産残高 | | 18,891 | 19,061 | 18,929 | 19,089 |



分析: 一般会計等では、純資産残高は17,284百万円であり、財源の増加額473百万円が行政コストの増加額300百万円を上回り前年度末から増加している。財源の増加のうち大きなものは地方交付税の増加273百万円、土木費補助93百万円、災害復旧補助65百万円などである。全体会計では、純資産残高は前年度末から186百万円増加し18,089百万円となった。合算される特別会計のうち、純資産変動額が比較的多額なのは水道事業30百万円、国民健康保険事業特別会計△15百万円、介護保険事業特別会計16百万円などである。連結会計では、純資産残高は前年度末から292百万円増加し19,089百万円となった。連結団体の中で純資産変動額が比較的多額なのは小海町社会福祉協議会△33百万円などである。

2. 行政コストの状況

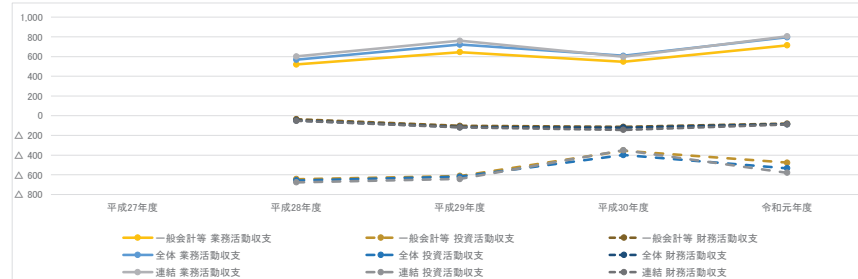
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,966 | 2,848 | 2,802 | 2,989 |
| | 純行政コスト | | 2,981 | 2,848 | 2,845 | 3,145 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,204 | 4,045 | 3,851 | 4,030 |
| | 純行政コスト | | 4,219 | 4,047 | 3,894 | 4,186 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,654 | 4,498 | 4,381 | 4,521 |
| | 純行政コスト | | 4,669 | 4,500 | 4,424 | 4,679 |



分析: 一般会計等においては、純行政コストは産地パワーアップ補助金67百万円などの補助金の増加、災害復旧費用94百万円の発生などにより、前年度から300百万円増加し3,145百万円となった。全体会計では純行政コストは4,186百万円となった。全体会計のうち行政コストが大きい特別会計は介護保険事業特別会計621百万円、国民健康保険事業特別会計505百万円である。前年度対比では292百万円の増加となったが、主要因は一般会計と同じである。全体会計の経常費用の内、社会保障給付は1,097百万円、補助金等は988百万円、減価償却費は688百万円となっており、これらの3つのコストで経常費用の約6割を占めている。連結会計の純行政コストは4,679百万円となった。連結団体の中で行政コストが大きい団体は、長野県後期高齢者医療広域連合682百万円である。前年度対比では256百万円増加している。連結純行政コストのなかでもっとも多額なのは社会保障給付の1,767百万円であり、経常費用の34%を占めている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 520 | 644 | 547 | 713 |
| | 投資活動収支 | | △ 645 | △ 611 | △ 356 | △ 477 |
| | 財務活動収支 | | △ 36 | △ 104 | △ 113 | △ 81 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 568 | 721 | 607 | 796 |
| | 投資活動収支 | | △ 658 | △ 620 | △ 399 | △ 535 |
| | 財務活動収支 | | △ 49 | △ 117 | △ 122 | △ 88 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 601 | 760 | 598 | 805 |
| | 投資活動収支 | | △ 677 | △ 643 | △ 350 | △ 579 |
| | 財務活動収支 | | △ 52 | △ 120 | △ 145 | △ 90 |



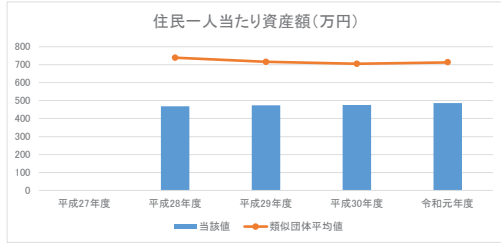
分析: 一般会計等では、業務活動収支は713百万円、投資活動収支は公共施設等の整備のための支出が増加し△477百万円、財務活動収支については、地方債の償還額が新規発行額を上回ったことから△81百万円となっている。本年度の資金収支額は155百万円のプラスとなった。全体会計では、国民健康保険税や介護保険料の収入、水道料金の収入などが加わり、業務活動収支は796百万円となっている。投資活動収支は水道事業の投資活動支出44百万円などが加わり△535百万円となっている。財務活動収支は特別会計に大きな動きはなく一般会計等とほぼ同じ△88百万円となった。連結会計では、業務活動収支は805百万円、投資活動収支△579百万円、財務活動収支△90百万円となっている。連結団体のうち合算される収入・支出の金額が比較的多額になる団体（長野県後期高齢者医療広域連合など）はあるものの、ほとんどの団体では概ね収支均衡している。合算される収支差額のうち、比較的多額なのは小海町北相木村南相木村中学校組合△21百万円、小海町開発公社△11百万円などである。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

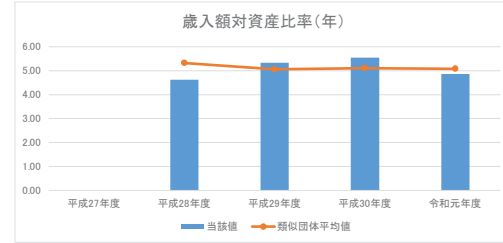
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,232,497 | 2,232,559 | 2,213,357 | 2,225,987 |
| 人口 | | 4,759 | 4,716 | 4,650 | 4,577 |
| 当該値 | | 469.1 | 473.4 | 476.0 | 486.3 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

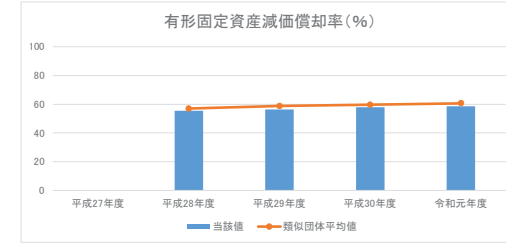
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 22,325 | 22,326 | 22,134 | 22,260 |
| 歳入総額 | | 4,829 | 4,185 | 3,997 | 4,569 |
| 当該値 | | 4.62 | 5.33 | 5.54 | 4.87 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 14,576 | 15,081 | 15,620 | 16,201 |
| 有形固定資産 ※1 | | 26,317 | 26,739 | 27,045 | 27,675 |
| 当該値 | | 55.4 | 56.4 | 57.8 | 58.5 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

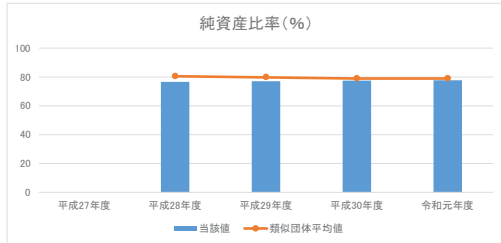
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

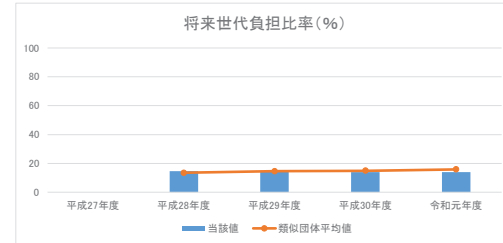
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 17,100 | 17,204 | 17,131 | 17,284 |
| 資産合計 | | 22,325 | 22,326 | 22,134 | 22,260 |
| 当該値 | | 76.6 | 77.1 | 77.4 | 77.6 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,701 | 2,630 | 2,561 | 2,556 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 18,546 | 18,486 | 18,300 | 18,322 |
| 当該値 | | 14.6 | 14.2 | 14.0 | 14.0 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

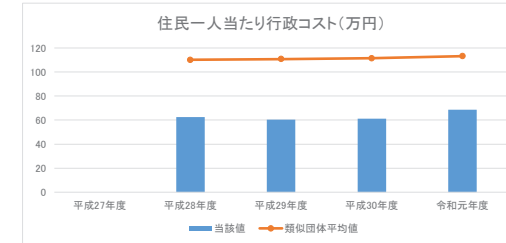
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

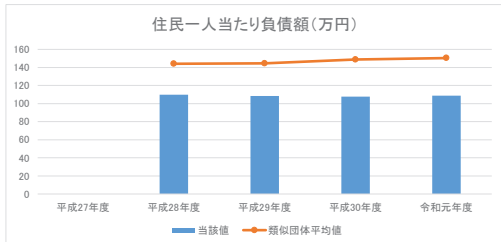
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 298,087 | 284,812 | 284,463 | 314,458 |
| 人口 | | 4,759 | 4,716 | 4,650 | 4,577 |
| 当該値 | | 62.6 | 60.4 | 61.2 | 68.7 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

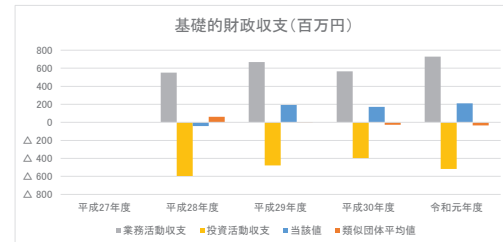
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 522,515 | 512,178 | 500,306 | 497,543 |
| 人口 | | 4,759 | 4,716 | 4,650 | 4,577 |
| 当該値 | | 109.8 | 108.6 | 107.6 | 108.7 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 553 | 670 | 567 | 729 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 595 | △ 477 | △ 396 | △ 519 |
| 当該値 | | △ 42 | 193 | 171 | 210 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

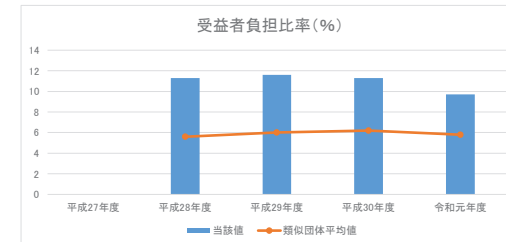
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 377 | 374 | 358 | 321 |
| 経常費用 | | 3,343 | 3,222 | 3,160 | 3,309 |
| 当該値 | | 11.3 | 11.6 | 11.3 | 9.7 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は類似団体平均値を下回り、歳入額対資産比率は類似団体平均値と同水準となっている。歳入額対資産比率は昨年度までは増加傾向にあったところ令和元年度で減少に転じている。これは地方交付税及び国庫補助金の増加による歳入の増加によるものである。有形固定資産減価償却率は類似団体平均値とほぼ同水準であり、老朽化度合いも平均的である。

2. 資産と負債の比率

純資産比率、将来世代負担比率ともに類似団体平均値とほぼ同水準である。また、増減もほとんどなくほぼ前年並みである。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均値を下回っており、6割弱の水準で推移している。その要因としては、経常費用から控除される経常収益が多いことが挙げられる。食堂収入や公営住宅使用料や入浴料の税外収入が行政コストの低減に貢献している。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均値の7割程度となっている。基礎的財政収支もプラスで推移しており良好な状況にある。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均値を大きく上回っている状況にある。その要因としては、食堂収入、公営住宅使用料、入浴料などの使用料収入が多いことが挙げられる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

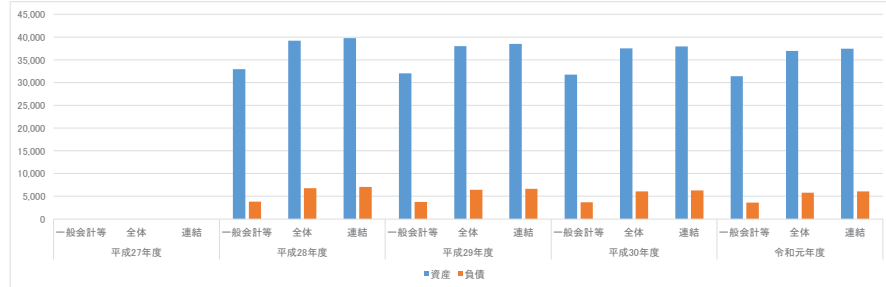
団体名 長野県川上村
団体コード 203041

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 3,963人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 62人 |
| 面積 | 209.61km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,849,444千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | △0.4% |
| | | 得來負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

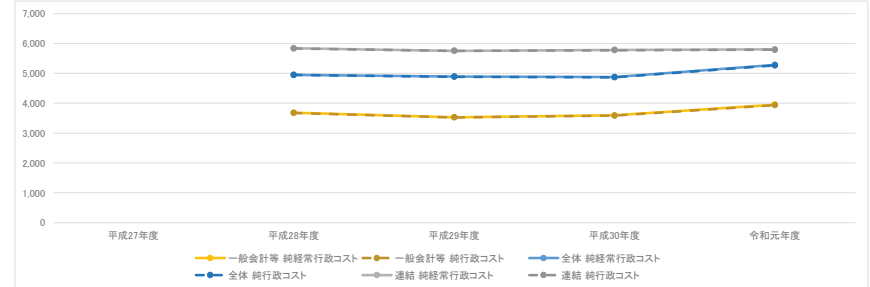
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 32,943 | 32,025 | 31,774 | 31,424 |
| | 負債 | | 3,842 | 3,744 | 3,667 | 3,600 |
| 全体 | 資産 | | 39,164 | 38,021 | 37,505 | 36,918 |
| | 負債 | | 6,753 | 6,416 | 6,114 | 5,809 |
| 連結 | 資産 | | 39,753 | 38,518 | 37,953 | 37,457 |
| | 負債 | | 7,040 | 6,612 | 6,307 | 6,060 |



分析:
これまでに一般会計等においては約314億円の資産を形成してきました。そのうち、純資産である約278億円(88.5%)については、過去の世代や国・県の負担で既に入りが済んでおり、負債である約36億円(11.4%)については、将来の世代が負担していくこととなります。同様に、全体では資産は約369億円、純資産は約311億円(84.2%)、負債は約58億円(15.7%)となっています。連結では、資産は約375億円、純資産は約314億円(83.8%)、負債は約61億円(16.1%)となっています。

2. 行政コストの状況

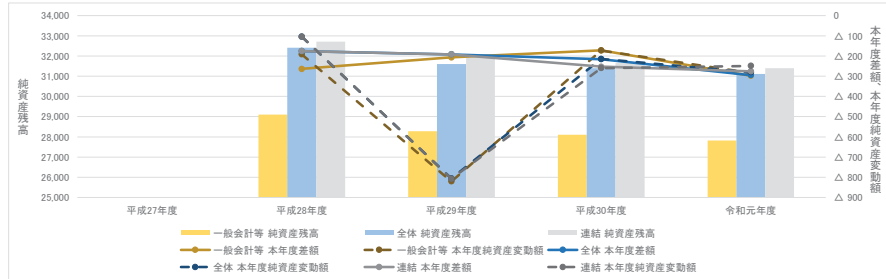
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,680 | 3,528 | 3,594 | 3,951 |
| | 純行政コスト | | 3,673 | 3,523 | 3,584 | 3,935 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,952 | 4,890 | 4,877 | 5,284 |
| | 純行政コスト | | 4,945 | 4,887 | 4,867 | 5,268 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,840 | 5,752 | 5,785 | 5,804 |
| | 純行政コスト | | 5,833 | 5,752 | 5,775 | 5,791 |



分析:
令和元年度の経常経費は一般会計等で約41億円となっています。一方、行政サービス利用に対する対価として住民の皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は一般会計等で約40億円、臨時損失を加えた純行政コストは約39億円となっています。同様に純行政コストは全体で約53億円、連結で約58億円となっています。

3. 純資産変動の状況

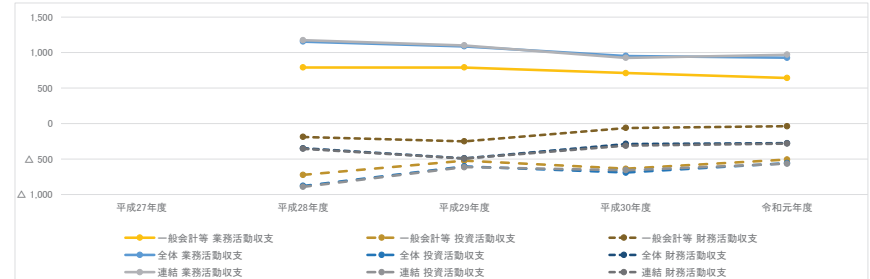
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 264 | △ 207 | △ 172 | △ 298 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 192 | △ 821 | △ 173 | △ 284 |
| | 純資産残高 | | 29,101 | 28,280 | 28,107 | 27,823 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 176 | △ 192 | △ 216 | △ 295 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 105 | △ 806 | △ 215 | △ 281 |
| | 純資産残高 | | 32,412 | 31,606 | 31,391 | 31,109 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 176 | △ 192 | △ 253 | △ 276 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 104 | △ 807 | △ 260 | △ 249 |
| | 純資産残高 | | 32,713 | 31,906 | 31,646 | 31,397 |



分析:
令和元年度は、純資産が一般会計等において、約2.8億円の減少となっています。また、全体では約2.8億円の減少、連結では約2.5億円の減少となっています。純資産変動計算書の本年度純資産変動額は、企業会計の利益剰余金の増額にあたることもあり、今後の推移をみる必要があります。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 790 | 789 | 711 | 642 |
| | 投資活動収支 | | △ 723 | △ 525 | △ 637 | △ 307 |
| | 財務活動収支 | | △ 188 | △ 251 | △ 62 | △ 57 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,154 | 1,089 | 951 | 928 |
| | 投資活動収支 | | △ 880 | △ 603 | △ 692 | △ 558 |
| | 財務活動収支 | | △ 349 | △ 491 | △ 287 | △ 276 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,175 | 1,102 | 925 | 969 |
| | 投資活動収支 | | △ 892 | △ 615 | △ 656 | △ 565 |
| | 財務活動収支 | | △ 356 | △ 493 | △ 312 | △ 283 |

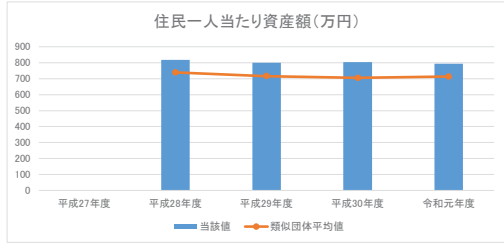


分析:
令和元年度の資金収支計算書を見ると、本年度資金収支額は、一般会計等で約9,700万円の超過となり、資金残高は約2.7億円になりました。全体では約9,300万円の超過となり、資金残高は全体で約3億円になりました。また、連結会計では本年度末資金残高は約4.5億円となりました。

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

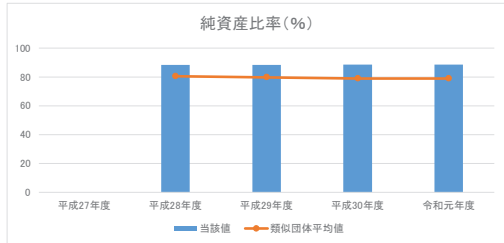
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,294,335 | 3,202,470 | 3,177,428 | 3,142,400 |
| 人口 | | 4,025 | 4,000 | 3,952 | 3,963 |
| 当該値 | | 818.5 | 800.6 | 804.0 | 792.9 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

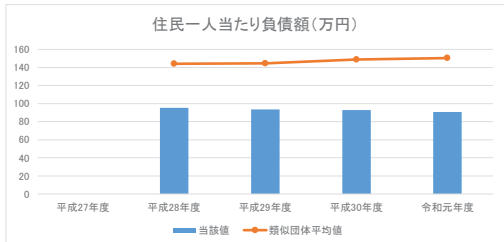
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 29,101 | 28,280 | 28,107 | 27,823 |
| 資産合計 | | 32,943 | 32,025 | 31,774 | 31,424 |
| 当該値 | | 88.3 | 88.3 | 88.5 | 88.5 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



4. 負債の状況

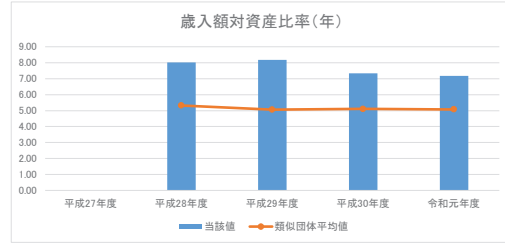
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 384,186 | 374,421 | 366,711 | 360,000 |
| 人口 | | 4,025 | 4,000 | 3,952 | 3,963 |
| 当該値 | | 95.4 | 93.6 | 92.8 | 90.8 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



②歳入額対資産比率(年)

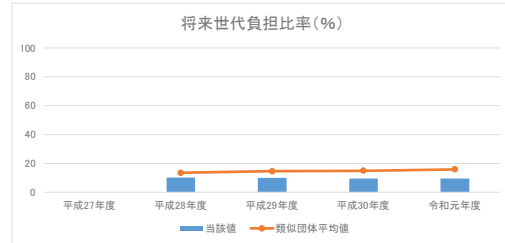
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 32,943 | 32,025 | 31,774 | 31,424 |
| 歳入総額 | | 4,115 | 3,920 | 4,336 | 4,381 |
| 当該値 | | 8.01 | 8.17 | 7.33 | 7.17 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,756 | 2,590 | 2,448 | 2,348 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 27,279 | 26,070 | 25,719 | 25,044 |
| 当該値 | | 10.1 | 9.9 | 9.5 | 9.4 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

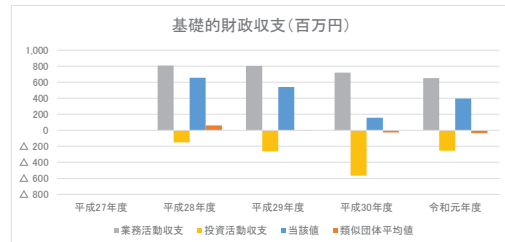
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 808 | 804 | 722 | 651 |
| 投資活動収支 ※2 | | △152 | △262 | △564 | △256 |
| 当該値 | | 656 | 542 | 158 | 395 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △3.2 | △26.6 | △34.2 |

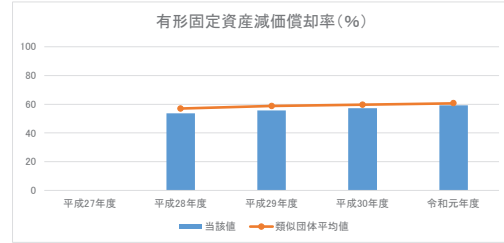
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 23,976 | 24,951 | 25,904 | 26,865 |
| 有形固定資産 ※1 | | 44,702 | 44,879 | 45,230 | 45,346 |
| 当該値 | | 53.6 | 55.6 | 57.3 | 59.2 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

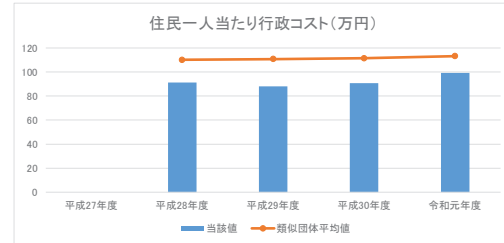
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

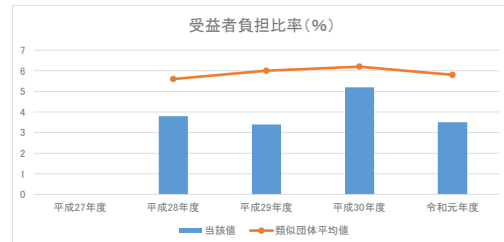
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 367,324 | 352,268 | 358,371 | 393,500 |
| 人口 | | 4,025 | 4,000 | 3,952 | 3,963 |
| 当該値 | | 91.3 | 88.1 | 90.7 | 99.3 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 144 | 124 | 196 | 142 |
| 経常費用 | | 3,825 | 3,653 | 3,790 | 4,093 |
| 当該値 | | 3.8 | 3.4 | 5.2 | 3.5 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

それぞれの指標において経年による変化は小さい。住民一人当たり資産額は類似団体平均値を80.0万円上回っており、歳入額対資産比率は類似団体平均値を2.09%上回っており、継続して健全な財政運営に努める。有形固定資産減価償却率は類似団体平均値を引き続き下回り、令和元年度では1.4%下回っている。今後は、庁舎・防災交流センター建設や統合小学校の建設を行う予定であり、改善が見込まれる。また、修繕・機器等の更新が増加する施設が増えてきていることから、より耐性の強い素材・機器等への更新等を図っていく。

2. 資産と負債の比率

それぞれの指標において経年による変化は小さい。純資産比率は、類似団体平均値と比べ、9.4%高く残っている。将来世代への利用可能な資源の蓄積を図っていく。将来世代負担比率は類似団体平均値と比べ、6.4%低くなっている。今後、統合小学校や庁舎庁舎・防災交流センター等の大規模施設建設が見込まれることから、それらの実施時期や内容等を検討し、極端な増加にならないよう計画していく必要がある。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは経年による変化は小さく、類似団体平均値と比べて13.9万円低くなっている。人件費の抑制等によりこの数値を維持しており、今後も効率のよい行政サービスに努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は経年による変化は小さく、類似団体平均値と比べ59.6万円低くなっている。今後、統合小学校や庁舎防災交流センター等の大規模施設建設が検討されていることから、それらの実施時期等を考慮し、極端な増加にならないよう計画していく必要がある。

基礎的財政収支は前年度から71百万円減となっている。これは、千曲川左岸道路建設や地域優良住宅建設により、投資活動収支が308百万円減になったことによる。それでも、類似団体平均値と比べ、429.2百万円高くなっているが、起債の比率について今後も注視した財政運営を行っていく。

5. 受益者負担の状況

平成30年度を見ると、類似団体平均値と比べ1.0%低いが、前年度から1.8%上昇している。この主な理由は、3年に1回まとめて収入となる送電線鉄塔敷地賃付料や、広域でのし原処理事業として積んでいた基金の返還金といった臨時的な収入によるものである。令和元年度では、平成29年度並みの数値に戻っている。引き続き、料金の見直しや独自の行政サービスとして維持していく等の検討を行っていく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県南牧村
団体コード 203050

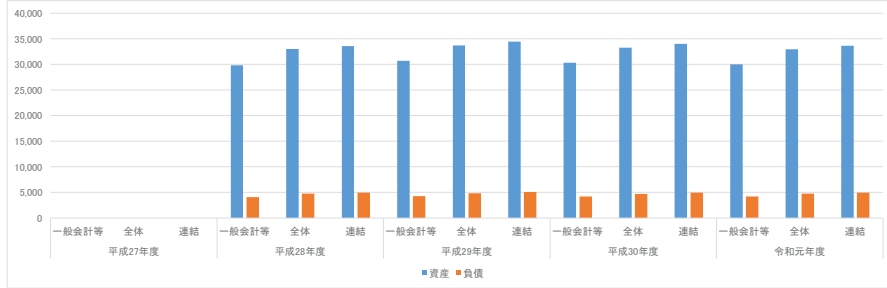
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 3,113人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 50人 |
| 面積 | 133.09km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,294,283千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債費率 | 0.0% |
| | | 将来負債比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 29,872 | 30,689 | 30,362 | 30,016 |
| | 負債 | | 4,083 | 4,297 | 4,213 | 4,248 |
| 全体 | 資産 | | 33,044 | 33,733 | 33,305 | 32,941 |
| | 負債 | | 4,763 | 4,849 | 4,741 | 4,781 |
| 連結 | 資産 | | 33,623 | 34,486 | 34,012 | 33,649 |
| | 負債 | | 4,978 | 5,064 | 4,938 | 4,973 |

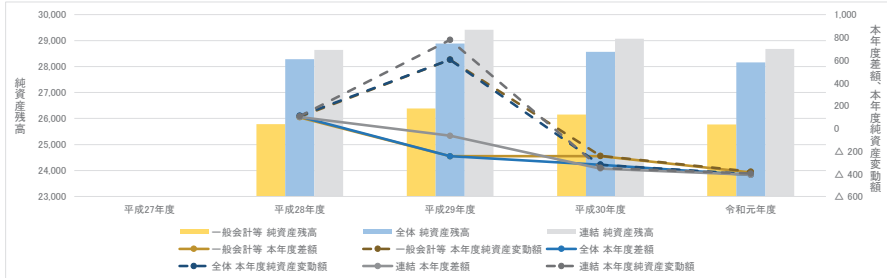


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から346百万円減少(△1.1%)した。金額の変動が大きいのはインフラ資産であり、中でも工作物において資産の取得額(259百万円)が、減価償却による資産の減少額(667百万円)を下回ったことが要因である。資産総額のうち、有形固定資産の割合が73.0%を占め、さらに有形固定資産のうち基金を含む投資その他の資産が22.1%を占めるため、基金等の適正な管理や計画的な運用に努める。また、一般会計等において負債総額が35百万円増加(0.8%)した。金額の変動が大きいのは地方債(流動負債)であり、1年以内償還予定地方債が48百万円増加したためである。
簡易水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から364百万円減少(△1.1%)し、負債総額は前年度末から40百万円増加(0.8%)した。資産総額は、上水道管・下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等に比べて2.125百万円多くなるが、負債総額も下水道(農業集落排水)の施設長寿命化対策事業に地方債(固定負債)を充当したことから、533百万円多くなっている。
南牧村振興公社、佐久広域連合等を加えた連結では、広域連合等所有の資産等を計上したため、一般会計等に比べ資産総額は3,633百万円多くなり、負債総額も725百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 95 | △246 | △245 | △388 |
| | 本年度純資産変動額 | | 102 | 603 | △243 | △381 |
| | 純資産残高 | | 25,789 | 26,392 | 26,149 | 25,768 |
| 全体 | 本年度差額 | | 103 | △246 | △320 | △411 |
| | 本年度純資産変動額 | | 110 | 603 | △320 | △404 |
| | 純資産残高 | | 28,281 | 28,883 | 28,564 | 28,160 |
| 連結 | 本年度差額 | | 99 | △66 | △355 | △409 |
| | 本年度純資産変動額 | | 106 | 777 | △349 | △398 |
| | 純資産残高 | | 28,645 | 29,422 | 29,073 | 28,676 |

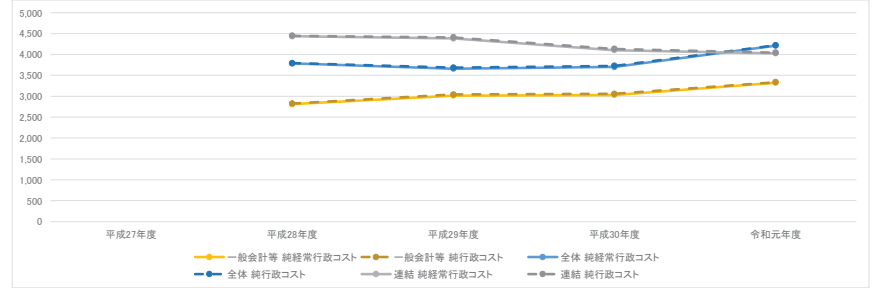


分析:
一般会計等においては、税収等の財源(2,946百万円)が純行政コスト(3,335百万円)を下回ったことから、本年度差額は△388百万円となり、最終的に純資産残高は25,768百万円の381百万円減少(△1.5%)となった。当村の財源は地方税や地方交付税の占める割合が大きいことから、今後地方税の徴収業務の強化(5年間で2%の向上)等により、財源確保に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料等が税収等に含まれることから、一般会計等に比べて税収等が405百万円多くなっているが、行政コストも多くなるため本年度差額は一般会計等と同様に△411百万円となり、純資産残高は28,160百万円となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が税収等に含まれることから、一般会計等に比べて財源が687百万円多くなり、本年度差額は△409百万円となり、純資産残高は28,676百万円となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,812 | 3,017 | 3,031 | 3,323 |
| | 純行政コスト | | 2,826 | 3,041 | 3,058 | 3,335 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 3,784 | 3,658 | 3,700 | 4,210 |
| | 純行政コスト | | 3,793 | 3,685 | 3,727 | 4,220 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,436 | 4,383 | 4,102 | 4,026 |
| | 純行政コスト | | 4,445 | 4,410 | 4,133 | 4,042 |

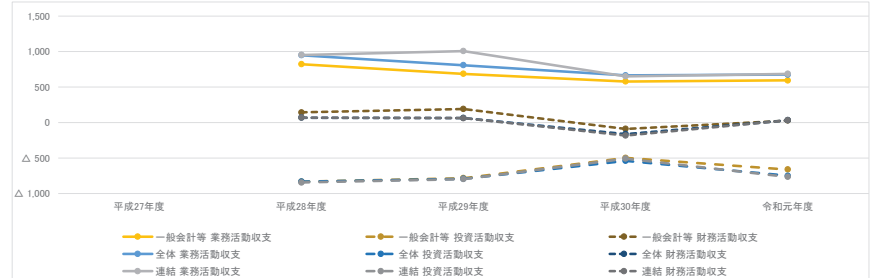


分析:
一般会計等においては、経常費用は3,497百万円となっている。物件費等が経常費用の61.3%(2,144百万円)を占めており、人件費等の割合に比べて高くなっている。物件費等の中で大きな費用は減価償却費(1,108百万円)であるが、次いで物件費(612百万円)の割合が高い。これは、中学生海外研修事業に係る費用や各種業務の委託料が大きな割合を占めるが、各種業務委託については委託先の選定を今まで以上に厳しく行い、コスト削減に努める。
全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が87百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が700百万円多くなり、純行政コストは885百万円多くなっている。
連結では、一般会計等に比べて、社会保障給付金が413百万円多くなっていること等により、経常費用が1,091百万円多くなり、純行政コストは707百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 822 | 687 | 578 | 594 |
| | 投資活動収支 | | △833 | △783 | △498 | △661 |
| | 財務活動収支 | | 143 | 191 | △90 | 28 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 948 | 808 | 665 | 675 |
| | 投資活動収支 | | △833 | △792 | △540 | △750 |
| | 財務活動収支 | | 67 | 63 | △163 | 33 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 953 | 1,007 | 651 | 686 |
| | 投資活動収支 | | △844 | △798 | △509 | △766 |
| | 財務活動収支 | | 69 | 61 | △183 | 31 |

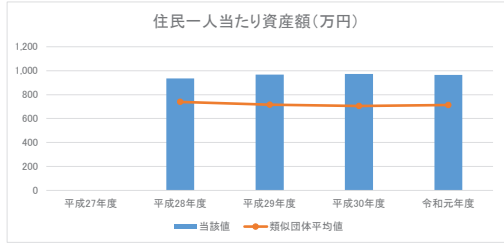


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は594百万円であったが、投資活動収支については道路改良事業や防災無線更新事業等の公共事業を多く実施したことから△661百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を下回ったことから、28百万円となり、本年度未資金残高は前年度から38百万円減少し、599百万円となった。地方債の償還額が地方債発行収入を下回ったことから、引き続き適正な起債発行に努める。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があること等から、業務活動収支は一般会計等より81百万円多い675百万円となっている。本年度未資金残高は前年度から93百万円減少し、623百万円となった。
連結においては、業務活動収支(686百万円)が投資活動収支(△766百万円)を下回り、財務活動収支は地方債の償還額を地方債発行収入を上回ったことから、31百万円となり、本年度未資金残高は前年度から90百万円減少し、668百万円となった。

1. 資産の状況

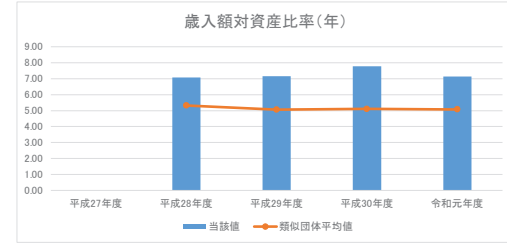
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,987,200 | 3,068,855 | 3,036,195 | 3,001,600 |
| 人口 | | 3,198 | 3,172 | 3,125 | 3,113 |
| 当該値 | | 934.1 | 967.5 | 971.6 | 964.2 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

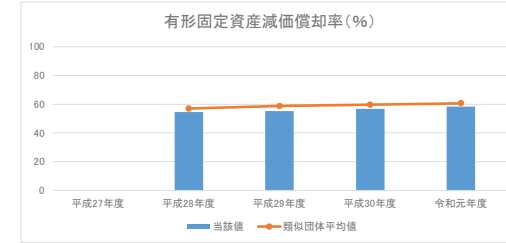
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 29,872 | 30,689 | 30,362 | 30,016 |
| 歳入総額 | | 4,217 | 4,287 | 3,902 | 4,210 |
| 当該値 | | 7.08 | 7.16 | 7.78 | 7.13 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 24,398 | 25,753 | 26,735 | 27,759 |
| 有形固定資産 ※1 | | 44,846 | 46,598 | 47,048 | 47,544 |
| 当該値 | | 54.6 | 55.3 | 56.8 | 58.4 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

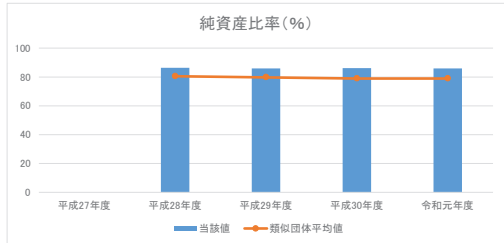
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

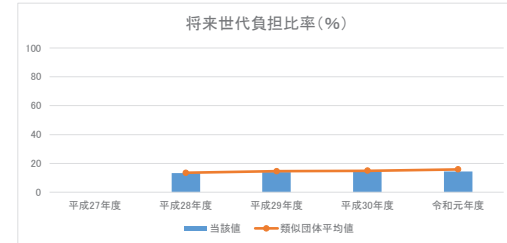
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 25,789 | 26,392 | 26,149 | 25,768 |
| 資産合計 | | 29,872 | 30,689 | 30,362 | 30,016 |
| 当該値 | | 86.3 | 86.0 | 86.1 | 85.8 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,929 | 3,192 | 3,182 | 3,155 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 22,128 | 22,833 | 22,309 | 21,906 |
| 当該値 | | 13.2 | 14.0 | 14.3 | 14.4 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

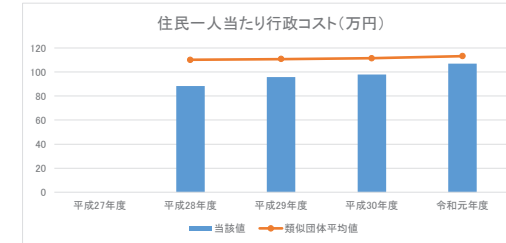
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

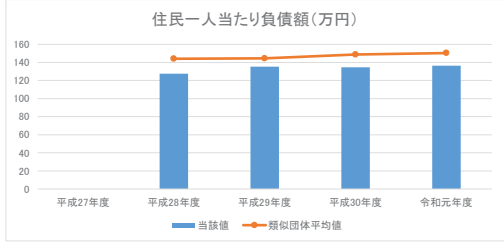
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 282,594 | 304,145 | 305,804 | 333,500 |
| 人口 | | 3,198 | 3,172 | 3,125 | 3,113 |
| 当該値 | | 88.4 | 95.9 | 97.9 | 107.1 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

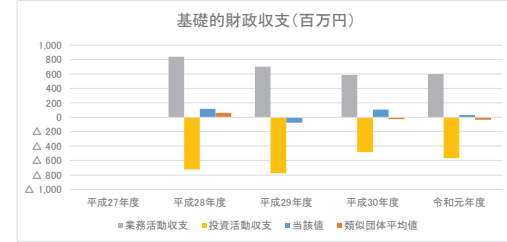
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 408,284 | 429,659 | 421,269 | 424,800 |
| 人口 | | 3,198 | 3,172 | 3,125 | 3,113 |
| 当該値 | | 127.7 | 135.5 | 134.8 | 136.5 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 841 | 701 | 589 | 602 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 724 | △ 777 | △ 481 | △ 568 |
| 当該値 | | 117 | △ 76 | 108 | 34 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

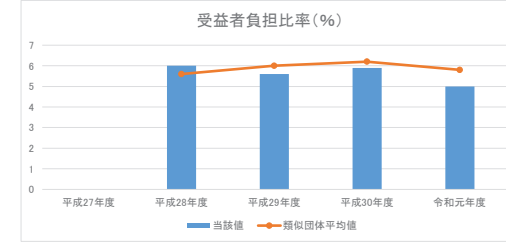
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 179 | 178 | 189 | 174 |
| 経常費用 | | 2,991 | 3,195 | 3,220 | 3,497 |
| 当該値 | | 6.0 | 5.6 | 5.9 | 5.0 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額や歳入額対資産比率が類似団体平均値より高くなっているのは、当市の面積が広く道路や橋りょうといったインフラ資産が多いことや、後年度の施設整備のための基金保有額が多い(6,155百万円)ことが挙げられる。しかし、保有する資産は老朽化した施設が多いため、将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、平成27年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、今後21年間の取組として公共施設等の集約化・複合化を進め、施設保有量が課題にならないよう努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回っている。今後、純資産が急速に減少することの無いよう、人件費の削減等を行い、行政コストの全体的な削減に努める。また、将来世代負担比率は、類似団体平均と同程度であるが、今後地方債残高は増加する見込み(3.0%程度)であるため、新規に発行する地方債の抑制を行い地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、類似団体平均を下回っている。これは、窓口業務の民間委託(平成20年6月から)等の行政改革による職員数の減に伴う人件費の削減が大きな要因と考えられる。しかしながら、類似団体平均値の増加率を大幅に上回って当該値が上昇している。近年は業務委託に伴い物件費等が増加傾向にあり、窓口業務以外の各事業に係る人件費も増えつつあるため、人事配置や事務の効率化を図り、増加傾向に歯止めをかけるよう努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、類似団体平均を下回っているが、類似団体平均値の増加率を上回って当該値が上昇したこと、また今後地方債残高が3%程度増加する見込みであるため、数値はさらに上昇すると予想される。今後は、地方債の繰上償還を計画的に行うなど、地方債残高の縮小に努める。基礎的財政収支は、投資活動収支の赤字分を業務活動収支の黒字分が上回ったため、+34百万円となっている。投資活動収支が大きく赤字となっているのは、地方債を発行して道路整備事業など公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、自治体規模の割に多くの公営住宅(58戸)を有していることや、高原野菜の産地であるため土地改良事業に係る負担金が多いことから、過去には類似団体平均を上回っていたが、平成28年度に負担率を事業費の3%から2%へ引き下げたことにより、平成29年度より平均値を下回っている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

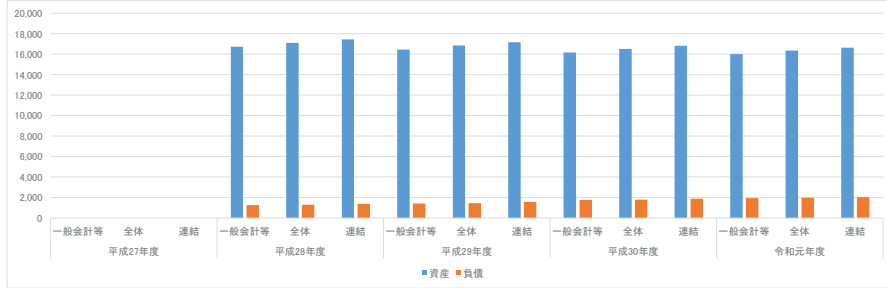
団体名 長野県南相木村
団体コード 203068

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 984人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 43人 |
| 面積 | 66.05 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,069.113千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | △0.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

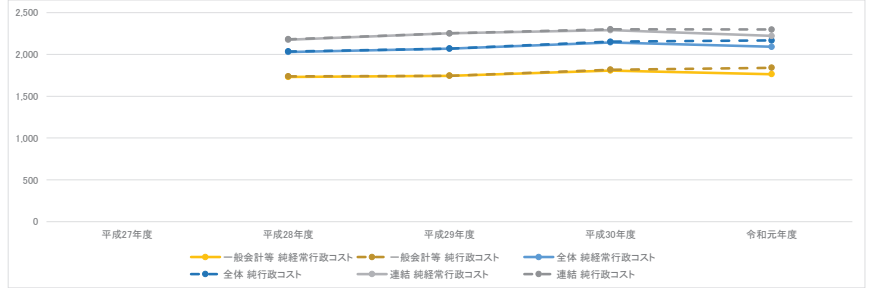
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 資産 | 16,723 | 16,460 | 16,186 | 16,027 | |
| | 負債 | 1,262 | 1,426 | 1,762 | 1,945 | |
| 全体 | 資産 | 17,113 | 16,845 | 16,530 | 16,358 | |
| | 負債 | 1,302 | 1,465 | 1,796 | 1,970 | |
| 連結 | 資産 | 17,462 | 17,164 | 16,832 | 16,638 | |
| | 負債 | 1,396 | 1,566 | 1,893 | 2,056 | |



分析: 一般会計等では、資産総額が前年度末から159百万円減少し16,027百万円となった。令和元年度は大規模な建設投資がなく、有形固定資産の増加額を減価償却費が上回り有形固定資産残高が減少している。負債総額は前年度末から183百万円増加し1,945百万円となった。地方債の発行額が償還額を上回ったことにより地方債残高が増加している。
全体会計では、国民健康保険事業(施設勘定)特別会計や簡易水道事業特別会計などが合算されるため一般会計等より資産総額及び負債額は増加し、資産総額は16,358百万円、負債総額は1,970百万円となっている。全体会計のうち特別会計の資産負債規模は一般会計等に比べて小さく、全体会計の主な増減理由は一般会計等と同じである。
連結会計では、一部事務組合や3セク等が合算されることにより、資産総額は16,638百万円、負債総額は2,056百万円となっている。連結会計においても一般会計等の資産負債残高が占める割合が大きく、資産負債の主な増減理由は一般会計等と同様である。

2. 行政コストの状況

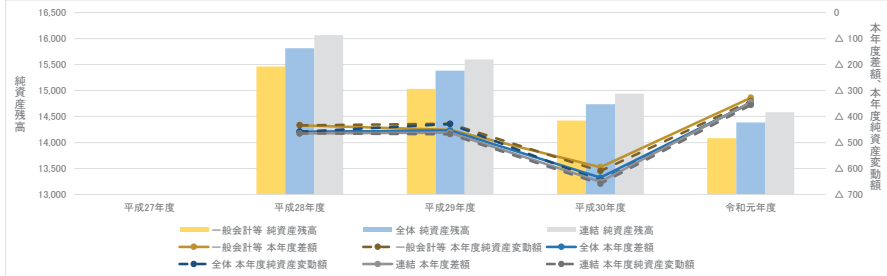
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,731 | 1,744 | 1,807 | 1,765 |
| | 純行政コスト | | 1,738 | 1,745 | 1,817 | 1,840 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,029 | 2,069 | 2,143 | 2,092 |
| | 純行政コスト | | 2,035 | 2,070 | 2,153 | 2,168 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 2,176 | 2,252 | 2,291 | 2,222 |
| | 純行政コスト | | 2,181 | 2,252 | 2,301 | 2,298 |



分析: 一般会計等では、純行政コストは前年度より23百万円増加し1,840百万円となっている。業務費用は66百万円減少しているものの、台風19号による災害復旧事業費が88百万円発生している。
全体会計では、純行政コストは前年度より15百万円増加し2,168百万円となっている。合算される特別会計のうち比較的純行政コストが多額なのは国民健康保険特別会計151百万円や介護保険特別会計213百万円である。
行政コストのうち比較的多額なのは、社会保障給付費329百万円、補助金335百万円、減価償却費598百万円であり、経常費用のうち約6割をこの3項目が占めている。
連結会計では、純行政コストは前年度より2百万円減少し2,298百万円となっている。連結団体のうち比較的純行政コストが多額なのは長野県後期高齢者医療広域連合140百万円、佐久広域連合42百万円、南相木村政郷ふれあい公社52百万円となっている。

3. 純資産変動の状況

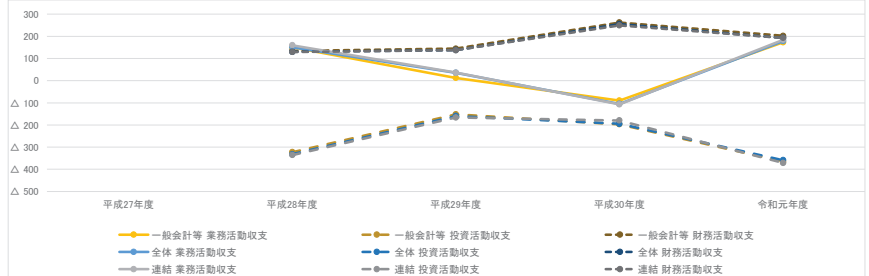
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 434 | △ 451 | △ 595 | △ 328 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 434 | △ 428 | △ 610 | △ 341 |
| | 純資産残高 | 15,461 | 15,034 | 14,424 | 14,082 | |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 458 | △ 454 | △ 635 | △ 348 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 458 | △ 429 | △ 648 | △ 346 |
| | 純資産残高 | 15,811 | 15,382 | 14,734 | 14,388 | |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 465 | △ 462 | △ 651 | △ 345 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 465 | △ 468 | △ 659 | △ 356 |
| | 純資産残高 | 16,066 | 15,598 | 14,939 | 14,583 | |



分析: 一般会計等、全体会計、連結会計ともに本年度純資産変動額はマイナスで推移しており純資産残高は減少している。
一般会計等においては、行政コスト1,840百万円に対して財源が1,512百万円と下回っており、本年度純資産変動額は△341百万円となっている。純資産残高は前年度末から同額減少し14,082百万円となっている。
行政コストに対して財源が不足している状況が4期連続している。今期はマイナス幅が減少しているものの財源と行政コストのバランスの改善を検討する必要がある。
全体会計、連結会計でも同様の傾向にある。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 150 | 12 | △ 90 | 173 |
| | 投資活動収支 | | △ 323 | △ 152 | △ 197 | △ 365 |
| | 財務活動収支 | | 134 | 144 | 262 | 202 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 151 | 35 | △ 105 | 178 |
| | 投資活動収支 | | △ 332 | △ 160 | △ 195 | △ 359 |
| | 財務活動収支 | | 130 | 138 | 255 | 193 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 159 | 36 | △ 107 | 184 |
| | 投資活動収支 | | △ 336 | △ 166 | △ 180 | △ 371 |
| | 財務活動収支 | | 129 | 137 | 249 | 193 |



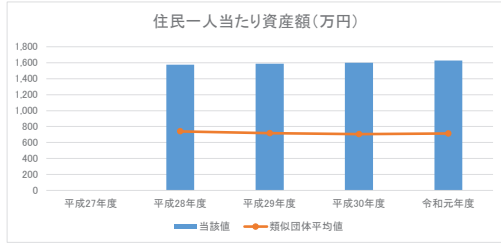
分析: 一般会計等では、業務活動収支は前年度から改善し173百万円となっているものの、投資活動収支の△365百万円がそれを上回っており、不足する財源を財務活動収支202百万円で補填している状況である。投資活動収支のマイナスが業務活動収支を上回っている状況が4期続いており収支バランスの見直しが必要である。
投資活動収支は、前年度からマイナス幅が168百万円増加して△365百万円となっている。但し、基金取崩収入の減少と基金積立支出の増加により収支が悪化しているように見えるだけで、公共施設等整備支出は97百万円減少しており実質的には改善している。
財務活動収支は地方債の発行によりプラスになっている。財務活動収支は4期連続でプラスで、地方債の償還額より起債額が上回っている状態が続いているため地方債に過度に依存していないか注意が必要である。
全体会計、連結会計でも同様の傾向である。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

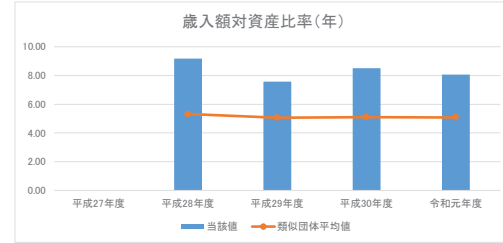
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,672,323 | 1,646,013 | 1,618,602 | 1,602,700 |
| 人口 | | 1,061 | 1,038 | 1,011 | 984 |
| 当該値 | | 1,576.2 | 1,585.8 | 1,601.0 | 1,628.8 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

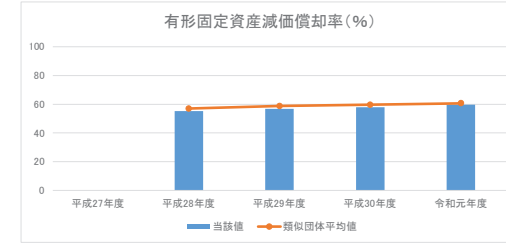
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 16,723 | 16,460 | 16,186 | 16,027 |
| 歳入総額 | | 1,822 | 2,173 | 1,902 | 1,986 |
| 当該値 | | 9.18 | 7.57 | 8.51 | 8.07 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 12,187 | 12,658 | 13,118 | 13,594 |
| 有形固定資産 ※1 | | 22,082 | 22,329 | 22,621 | 22,811 |
| 当該値 | | 55.2 | 56.7 | 58.0 | 59.6 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

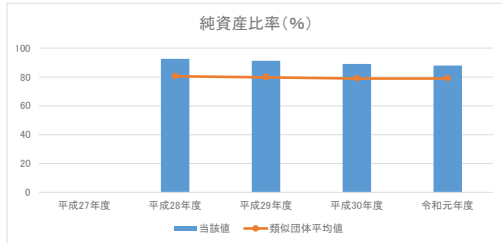
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

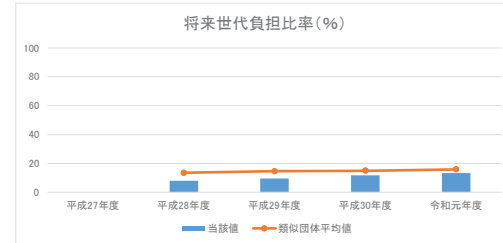
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 15,461 | 15,034 | 14,424 | 14,082 |
| 資産合計 | | 16,723 | 16,460 | 16,186 | 16,027 |
| 当該値 | | 92.5 | 91.3 | 89.1 | 87.9 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 946 | 1,126 | 1,338 | 1,499 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 11,856 | 11,688 | 11,579 | 11,284 |
| 当該値 | | 8.0 | 9.6 | 11.6 | 13.3 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

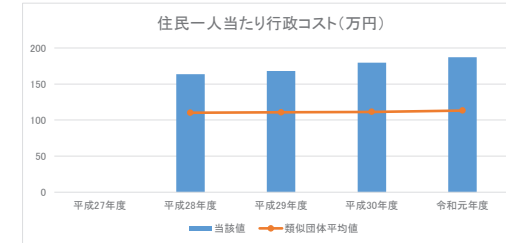
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

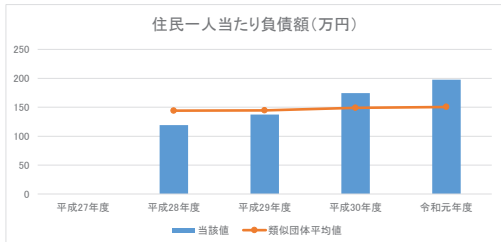
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 173,757 | 174,523 | 181,711 | 184,007 |
| 人口 | | 1,061 | 1,038 | 1,011 | 984 |
| 当該値 | | 163.8 | 168.1 | 179.7 | 187.0 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

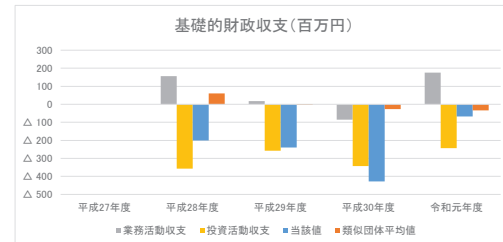
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 126,193 | 142,648 | 176,227 | 194,458 |
| 人口 | | 1,061 | 1,038 | 1,011 | 984 |
| 当該値 | | 118.9 | 137.4 | 174.3 | 197.6 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 157 | 17 | △ 86 | 176 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 357 | △ 257 | △ 342 | △ 243 |
| 当該値 | | △ 200 | △ 240 | △ 428 | △ 67 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

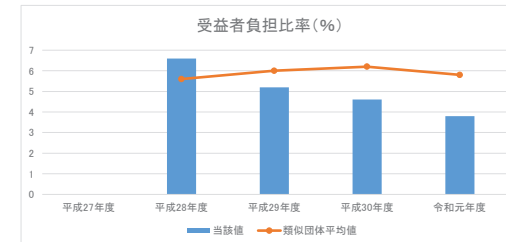
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 123 | 96 | 88 | 69 |
| 経常費用 | | 1,853 | 1,840 | 1,895 | 1,833 |
| 当該値 | | 6.6 | 5.2 | 4.6 | 3.8 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

類似団体と比較すると、住民一人当たり資産額及び歳入額対資産比率は類似団体平均値より大きくなっている。南相木村は産金強豪が比較的多いと思われるが、資産合計から基金を除いて比較したとしても類似団体平均値より高い値になることから、村が保有する事業用資産やインフラ資産は多いといえる。有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と同程度であり、特に老朽化が進んでいるわけではない。土地等の非償却資産を除く有形固定資産の取得価額は23,811百万円である。取得価額は過去の投資額であると同時に将来の更新投資の必要額の目安でもあるため、中長期的には財政規模とのバランスを意識した固定資産の規模を目指すことが求められる。

2. 資産と負債の比率

類似団体と比較すると、純資産比率は類似団体平均値より高く、将来世代負担率は低くなっており、いずれの指標も類似団体平均値に比べると良い状況にある。財政状態は比較的良好的な状態にあるといえるが、両指標とも4年連続で悪化しているため、今後も同様の傾向が続く場合は資産規模の適正化と地方債残高の削減の検討が必要になる。

3. 行政コストの状況

類似団体と比較すると、住民一人当たり行政コストは類似団体平均値に比べ1.5倍程度になっている。主要因としては、有形固定資産残高が大きくなることにより減価償却費の負担が大きくなっていることが考えられる。4年連続で増加しているため、今後も同様の傾向が続く場合は歳出規模の縮小などにより行政コストの削減が必要となる考えられる。

4. 負債の状況

類似団体と比較すると、住民一人当たり負債額が類似団体平均値の1.3倍程度になっている。負債合計は4年度連続で増加しており、基礎的財政収支も4期連続でマイナスになっている。収支不足を起債によって補っているため負債額が増加して状況が続いている。基礎的財政収支の改善を通して負債の圧縮が求められる。

5. 受益者負担の状況

類似団体と比較すると、受益者負担率は類似団体平均値を下回っている状況が続いている。経常費用は前年度より減少しているが、経常収益の減少割合の方が大きく、当該指標は前年度より悪化している。施設利用料などの負担水準が施設に対して適正か検討が必要である。

令和元年度 財務書類に関する情報①

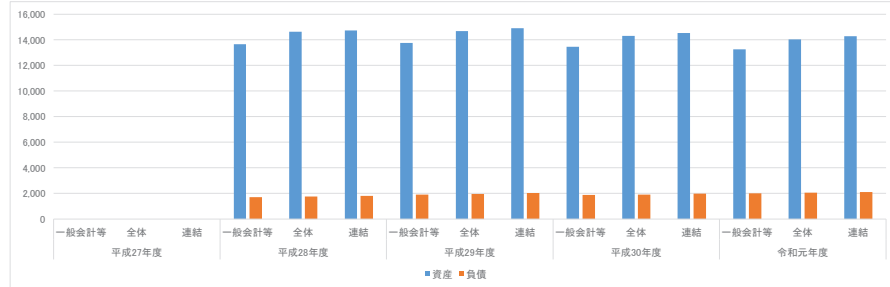
団体名 長野県北相木村
団体コード 203076

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 746人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 29人 |
| 面積 | 56.32 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 810,265千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債比率 | 6.0% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

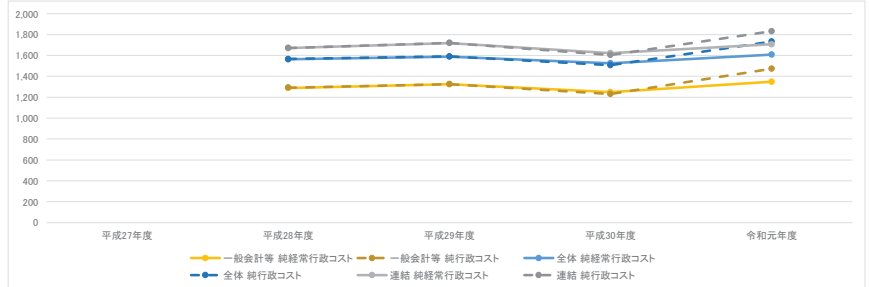
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 13,671 | 13,773 | 13,450 | 13,269 |
| | 負債 | | 1,702 | 1,921 | 1,879 | 2,012 |
| 全体 | 資産 | | 14,634 | 14,694 | 14,307 | 14,049 |
| | 負債 | | 1,753 | 1,970 | 1,922 | 2,050 |
| 連結 | 資産 | | 14,746 | 14,913 | 14,527 | 14,284 |
| | 負債 | | 1,812 | 2,036 | 1,989 | 2,114 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度から181百万円減少となった。資産総額のうち有形固定資産の割合が80%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画を策定し、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
水道事業会計、介護保険会計等を加えた全体では、資産総額は、介護施設等の建物及び上水道管など、インフラ資産を計上していること等により、一般会計等と比べて780百万円多くなっている。
連結では、南佐久環境衛生組合や佐久広域連合等を加えることから資産・負債とも増減はあるが人口が少ないこともあり増減額は僅かである。

2. 行政コストの状況

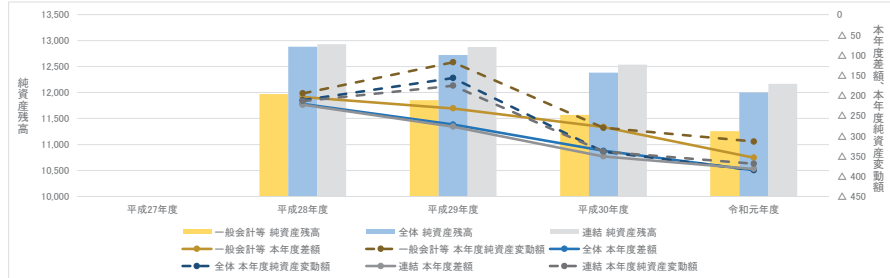
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,289 | 1,324 | 1,249 | 1,349 |
| | 純行政コスト | | 1,292 | 1,326 | 1,231 | 1,473 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 1,563 | 1,588 | 1,525 | 1,608 |
| | 純行政コスト | | 1,566 | 1,590 | 1,507 | 1,733 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 1,670 | 1,718 | 1,622 | 1,707 |
| | 純行政コスト | | 1,672 | 1,720 | 1,604 | 1,832 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は1,425百万円となり、前年度より96百万円増加した。このうち人件費等の業務費用は1,103百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は321百万円で経常費用の77.4%が業務費用である。業務費用で約70%を占めるのが減価償却費を含む物件費等であり、中でも60.9%が減価償却費であり施設の集約化、複合化を核とした公共施設等の適正管理に努め、経費の削減に努める。
*全体では、一般会計等に比べ水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため経常収益が37百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助費等に計上しているため、移転費用が182百万円多くなり、純行政コストは260百万円多くなっている。
*連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が45百万円多くなっている一方、人件費が115百万円多くなっているなど、経常費用が404百万円多くなり、純行政コストは359百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

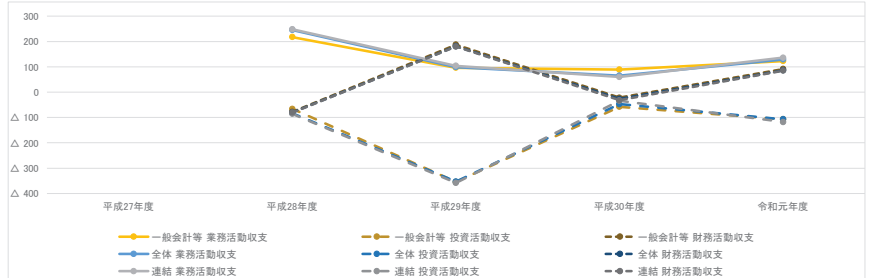
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 204 | △ 232 | △ 278 | △ 354 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 195 | △ 118 | △ 280 | △ 314 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 221 | △ 272 | △ 337 | △ 385 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 212 | △ 157 | △ 339 | △ 385 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 223 | △ 277 | △ 351 | △ 382 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 214 | △ 176 | △ 339 | △ 369 |
| | 純資産残高 | | 11,969 | 11,851 | 11,571 | 11,256 |
| | 純資産残高 | | 12,881 | 12,724 | 12,384 | 11,999 |
| | 純資産残高 | | 12,934 | 12,877 | 12,538 | 12,169 |



分析:
一般会計等においては、税収等の財源(1,119百万円)が純行政コスト(1,473百万円)を下回っており、本年度差額は▲354百万円となり、純資産残高は315百万円の減少となった。地方税は横ばい若しくは減少傾向にあり、増加は見込めないことから行政コストの削減に努める。
*全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が229百万円多くなっておりますが行政コストも増加のため、本年度差額は▲385百万円となり、純資産残高は385百万円の減少となった。
*連結では、後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が931百万円多くなっておりますが、本年度差額は▲382百万円となり、純資産残高は369百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 217 | 96 | 89 | 123 |
| | 投資活動収支 | | △ 66 | △ 354 | △ 58 | △ 107 |
| | 財務活動収支 | | △ 78 | 187 | △ 22 | 91 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 245 | 99 | 65 | 129 |
| | 投資活動収支 | | △ 83 | △ 353 | △ 47 | △ 107 |
| | 財務活動収支 | | △ 80 | 181 | △ 27 | 86 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 248 | 104 | 60 | 136 |
| | 投資活動収支 | | △ 86 | △ 358 | △ 34 | △ 118 |
| | 財務活動収支 | | △ 81 | 180 | △ 32 | 85 |

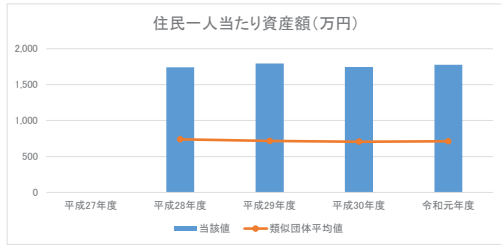


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は123百万円であったが、投資活動収支については、村営住宅建設事業等を行ったことから、▲107百万円となった。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、91百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から106百万円増加し172百万円となった。しかし、行政活動に必要な資金を基金の取崩しと地方債の発行収入によって確保している状況であり、行政改革を更に推進する必要がある。
*全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることから、業務活動収支は一般会計等より6百万円多い129百万円となっている。投資活動収支では、国庫支払準備基金を取り崩したが、ほぼ同額となっている。
*連結では、業務活動収支は一般会計等より13百万円多い136百万円となっている。投資活動収支では、11百万円少なくなっている。財務活動収支は、85百万円となり、本年度末資金残高は前年度から104百万円増加し、187百万円となった。

1. 資産の状況

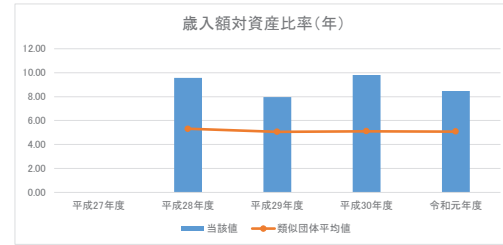
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,367,141 | 1,377,253 | 1,344,978 | 1,326,887 |
| 人口 | | 786 | 768 | 771 | 746 |
| 当該値 | | 1,739.4 | 1,793.3 | 1,744.5 | 1,778.7 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

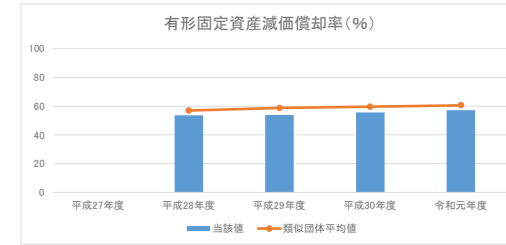
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 13,671 | 13,773 | 13,450 | 13,269 |
| 歳入総額 | | 1,429 | 1,731 | 1,370 | 1,566 |
| 当該値 | | 9.57 | 7.96 | 9.82 | 8.47 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 10,011 | 10,333 | 10,705 | 11,105 |
| 有形固定資産 ※1 | | 18,681 | 19,182 | 19,210 | 19,378 |
| 当該値 | | 53.6 | 53.9 | 55.7 | 57.3 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

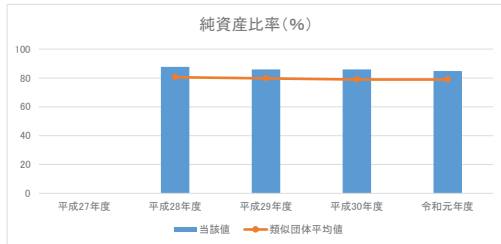
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

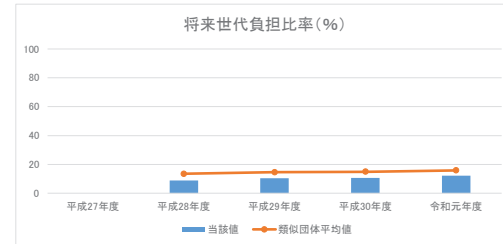
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 11,969 | 11,851 | 11,571 | 11,256 |
| 資産合計 | | 13,671 | 13,773 | 13,450 | 13,269 |
| 当該値 | | 87.6 | 86.0 | 86.0 | 84.8 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 945 | 1,145 | 1,145 | 1,273 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 10,759 | 10,989 | 10,758 | 10,501 |
| 当該値 | | 8.8 | 10.4 | 10.6 | 12.1 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

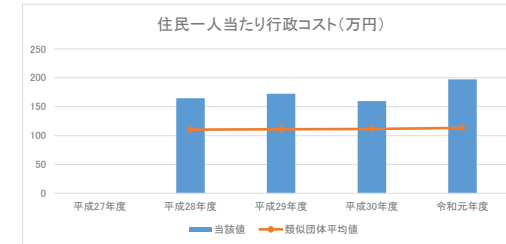
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

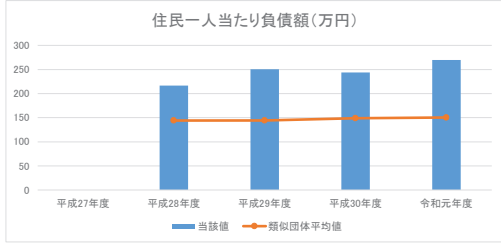
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 129,188 | 132,556 | 123,149 | 147,317 |
| 人口 | | 786 | 768 | 771 | 746 |
| 当該値 | | 164.4 | 172.6 | 159.7 | 197.5 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

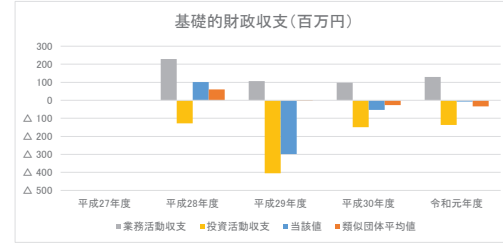
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 170,216 | 192,124 | 187,873 | 201,243 |
| 人口 | | 786 | 768 | 771 | 746 |
| 当該値 | | 216.6 | 250.2 | 243.7 | 269.8 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 229 | 106 | 97 | 129 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 128 | △ 405 | △ 150 | △ 136 |
| 当該値 | | 101 | △ 299 | △ 53 | △ 7 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

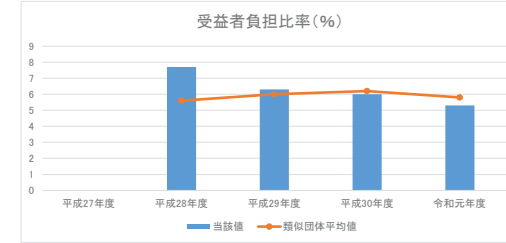
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 107 | 89 | 80 | 76 |
| 経常費用 | | 1,397 | 1,412 | 1,329 | 1,425 |
| 当該値 | | 7.7 | 6.3 | 6.0 | 5.3 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額が類似団体を上回っているが、農道、林道を中心としたインフラ資産が多いが人口が少ないことによると思われる。
 ・歳入額対資産比率については、類似団体を上回っており、過疎対策として社会資本整備を積極的に行ってきたことが要因と考えられる。
 ・有形固定資産減価償却率については、類似団体とほぼ同水準にある。今後公共施設等総合管理計画を策定し、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、純行政コストが収支等の財源を上回ったことから純資産が減少し、昨年度から若干減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現代が費消して便益を享受したことを意味するため、人件費の削減などにより、行政コストの削減に努める。
 ・(社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す) 将来世代負担率は、類似団体平均を下回っており、今後も新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っており、特に、純行政コストのうち6割を占める物件費等が、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。人口が少ないことで一人あたりのコストは高くなってしまふ。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っているが、来年度からは起債の発行額も抑制されることから地方債残高は減少していく見込みである。
 ・基礎的財政収支は、業務活動収支は黒字、投資活動収支は赤字であったため、▲7百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、付帯住宅建設事業など公共施設等の整備を行ったためであり地方債に依存する形になっている。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担率は、類似団体平均とほぼ同一であり、平均的な値は2%~8%の間と言われており、妥当と思われる。今後も税負担の公平性・公正性や透明性の確保に努めていく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

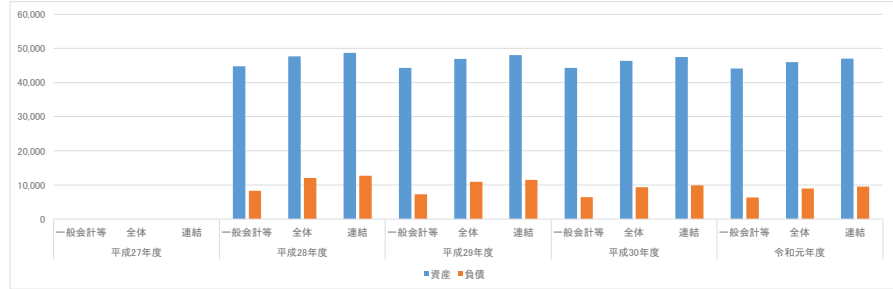
団体名 長野県佐久穂町
団体コード 203092

| | | | |
|--------|------------------------|------------|--------|
| 人口 | 10,969 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 141 人 |
| 面積 | 188.15 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 5,308.215 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-1 | 実質公債費率 | 11.6 % |
| | | 得未負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| x | ○ | x |

1. 資産・負債の状況

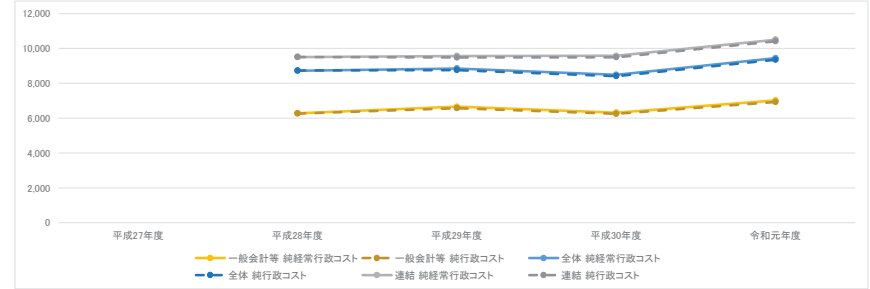
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 44,719 | 44,291 | 44,267 | 44,076 |
| | 負債 | | 8,271 | 7,253 | 6,415 | 6,337 |
| 全体 | 資産 | | 47,652 | 46,914 | 46,378 | 45,997 |
| | 負債 | | 12,044 | 10,891 | 9,313 | 8,942 |
| 連結 | 資産 | | 48,663 | 48,068 | 47,441 | 47,033 |
| | 負債 | | 12,681 | 11,529 | 9,934 | 9,548 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から191百万円の減少(-0.4%)となった。金額の変動が大きいものは基金であり541百万円減少した。これは、新庁舎建設事業のために公共施設等整備基金を取り崩したことが影響している。負債総額については、前年度末から78百万円の減少(-1.2%)となった。金額の変動が最も大きいものは流動負債であり、114百万円減少した。
全体では、資産総額は前年度末から381百万円減少(-0.8%)し、負債総額も前年度末から371百万円減少(-0.4%)した。
連結では、一般会計等に対して2,957百万円多くなるが、負債総額も3,211百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

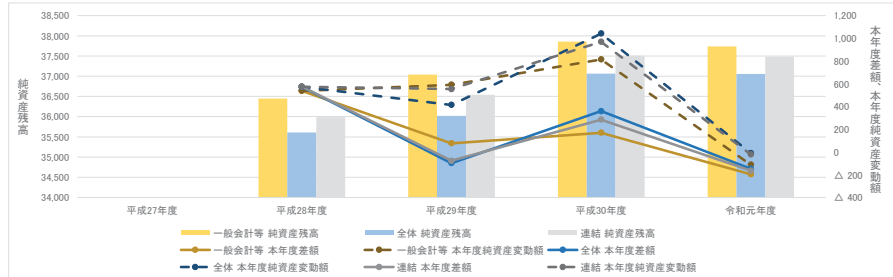
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 6,279 | 6,657 | 6,319 | 7,021 |
| | 純行政コスト | | 6,265 | 6,573 | 6,250 | 6,928 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 8,721 | 8,850 | 8,489 | 9,447 |
| | 純行政コスト | | 8,730 | 8,765 | 8,409 | 9,354 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 9,507 | 9,570 | 9,581 | 10,503 |
| | 純行政コスト | | 9,517 | 9,486 | 9,501 | 10,413 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は7,338百万円となり、前年度比680百万円増加した。これは委託料等の経費が増加したことにより物件費が271百万円増加したこと、維持補修費が363百万円増加したことによるものである。経常費用が増加しているため、事業の見直しにより経費の削減に努める。
全体では、一般会計等に対して、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,500百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,886百万円多くなり、純行政コストは2,426百万円多くなっている。
連結では、一般会計等に対して経常収益が1,610百万円多くなっている。また、経常費用は人件費が1,409百万円多くなっているなどで5,092百万円多くなり、純経常行政コストは3,482百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

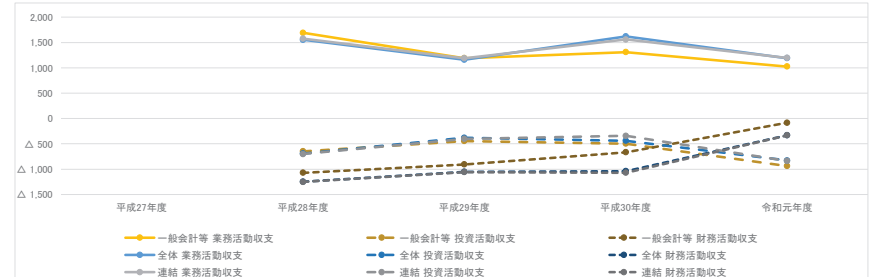
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 538 | 77 | 170 | △ 196 |
| | 本年度純資産変動額 | | 538 | 591 | 814 | △ 113 |
| | 純資産残高 | | 36,448 | 37,038 | 37,852 | 37,739 |
| 全体 | 本年度差額 | | 573 | △ 99 | 359 | △ 148 |
| | 本年度純資産変動額 | | 573 | 415 | 1,041 | △ 10 |
| | 純資産残高 | | 35,608 | 36,023 | 37,064 | 37,054 |
| 連結 | 本年度差額 | | 575 | △ 77 | 284 | △ 164 |
| | 本年度純資産変動額 | | 575 | 553 | 969 | △ 22 |
| | 純資産残高 | | 35,986 | 36,539 | 37,508 | 37,485 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(6,732百万円)が純行政コスト(6,926百万円)を下回っており、本年度差額は▲196百万円となり、純資産残高は113百万円の減少となった。地方税の徴収業務の強化等により税金等の増加に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が1,062百万円多くなり、本年度差額は▲148百万円となり、純資産残高は▲10百万円の減少となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が3,517百万円多くなり、本年度差額は▲164百万円となり、純資産残高は▲22百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,691 | 1,188 | 1,310 | 1,023 |
| | 投資活動収支 | | △ 647 | △ 446 | △ 495 | △ 939 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,073 | △ 908 | △ 666 | △ 83 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,552 | 1,159 | 1,619 | 1,189 |
| | 投資活動収支 | | △ 693 | △ 380 | △ 439 | △ 827 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,247 | △ 1,051 | △ 1,038 | △ 332 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,575 | 1,187 | 1,558 | 1,197 |
| | 投資活動収支 | | △ 701 | △ 400 | △ 341 | △ 838 |
| | 財務活動収支 | | △ 1,251 | △ 1,058 | △ 1,073 | △ 334 |



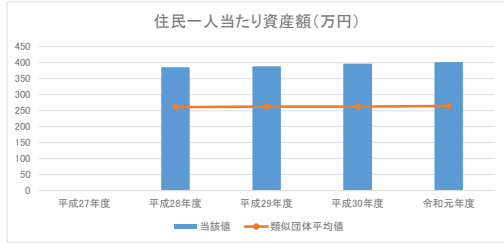
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は1,023百万円であったが、投資活動収支については、▲939百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲83百万円となり、本年度末資金残高は前年度から1百万円増加し、373百万円となった。
全体では、業務活動収支は一般会計等より166百万円多い1,189百万円となっている。投資活動収支は、▲827百万円となっている。財務活動収支は、▲332百万円となり、本年度末資金残高は前年度から30百万円増加し、448百万円となった。
連結では、業務活動収支は一般会計等より174百万円多い1,197百万円となっている。投資活動収支は、▲838百万円となっている。財務活動収支は、▲334百万円となり、本年度末資金残高は前年度から25百万円増加し、514百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

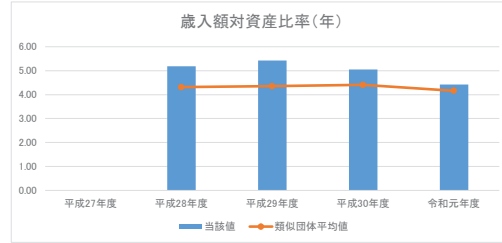
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 4,471,885 | 4,429,095 | 4,426,701 | 4,407,609 |
| 人口 | | 11,591 | 11,388 | 11,164 | 10,969 |
| 当該値 | | 385.8 | 388.9 | 396.5 | 401.8 |
| 類似団体平均値 | | 260.8 | 262.3 | 262.3 | 264.5 |



②歳入額対資産比率(年)

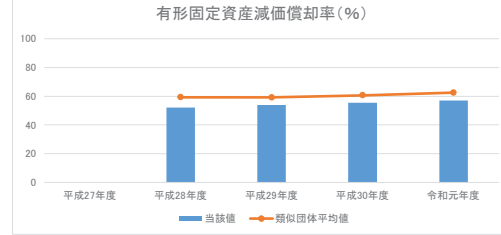
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 44,719 | 44,291 | 44,267 | 44,076 |
| 歳入総額 | | 8,641 | 8,175 | 8,768 | 9,964 |
| 当該値 | | 5.18 | 5.42 | 5.05 | 4.42 |
| 類似団体平均値 | | 4.31 | 4.35 | 4.41 | 4.16 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 31,083 | 32,316 | 33,558 | 34,814 |
| 有形固定資産 ※1 | | 59,745 | 59,966 | 60,411 | 61,109 |
| 当該値 | | 52.0 | 53.9 | 55.5 | 57.0 |
| 類似団体平均値 | | 59.3 | 59.2 | 60.6 | 62.5 |

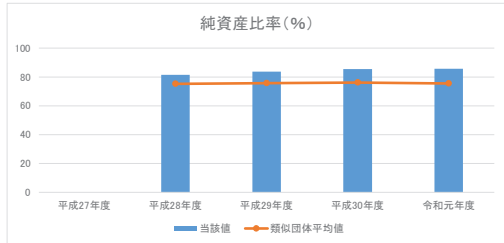
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

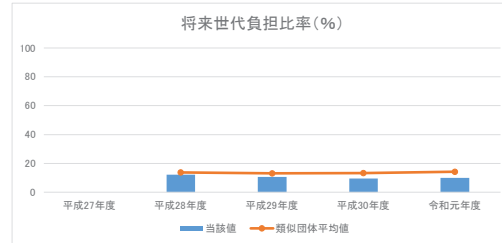
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 36,448 | 37,038 | 37,852 | 37,739 |
| 資産合計 | | 44,719 | 44,291 | 44,267 | 44,076 |
| 当該値 | | 81.5 | 83.6 | 85.5 | 85.6 |
| 類似団体平均値 | | 75.2 | 75.7 | 76.1 | 75.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 4,342 | 3,606 | 3,251 | 3,447 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 35,470 | 34,498 | 34,251 | 34,565 |
| 当該値 | | 12.2 | 10.5 | 9.5 | 10.0 |
| 類似団体平均値 | | 13.7 | 13.1 | 13.2 | 14.2 |

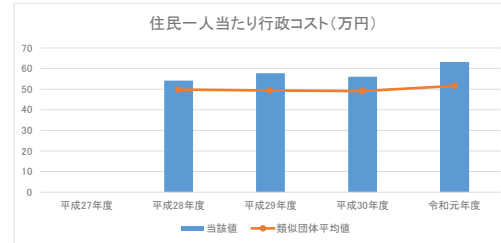
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

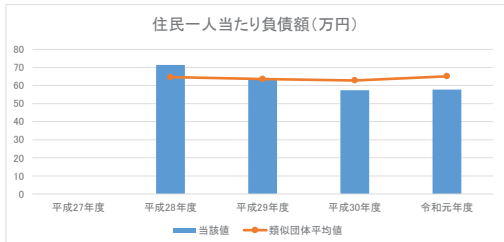
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 626,524 | 657,284 | 625,016 | 692,807 |
| 人口 | | 11,591 | 11,388 | 11,164 | 10,969 |
| 当該値 | | 54.1 | 57.7 | 56.0 | 63.2 |
| 類似団体平均値 | | 49.8 | 49.3 | 49.1 | 51.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

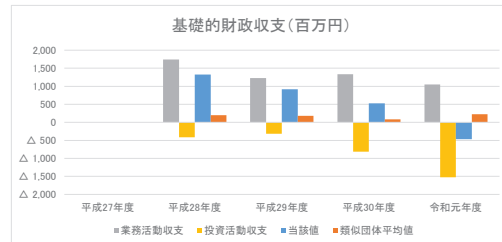
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 827,134 | 725,267 | 641,474 | 633,710 |
| 人口 | | 11,591 | 11,388 | 11,164 | 10,969 |
| 当該値 | | 71.4 | 63.7 | 57.5 | 57.8 |
| 類似団体平均値 | | 64.7 | 63.6 | 62.8 | 65.1 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,743 | 1,227 | 1,338 | 1,053 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 417 | △ 313 | △ 814 | △ 1,521 |
| 当該値 | | 1,326 | 914 | 524 | △ 468 |
| 類似団体平均値 | | 200.0 | 179.7 | 78.9 | 226.8 |

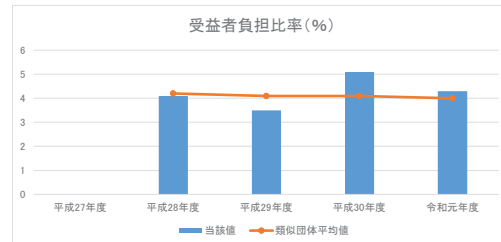
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 270 | 239 | 339 | 317 |
| 経常費用 | | 6,549 | 6,897 | 6,658 | 7,338 |
| 当該値 | | 4.1 | 3.5 | 5.1 | 4.3 |
| 類似団体平均値 | | 4.2 | 4.1 | 4.1 | 4.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額(歳入額対資産比率)は、合併前に旧町村毎に整備した公共施設があるため、保有する施設数が非合併団体よりも多く、類似団体平均を上回っている。将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、平成29年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

2. 資産と負債の比率

将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っております。行財政改革を進めながら財政の健全化に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っております。特に、純行政コストのうち2割を占める人件費が、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。直営で運営している施設について、指定管理者制度を導入するとともに、行財政改革への取組を通じ人件費の削減に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回っております。平成23年から平成26年にかけて発行した学校建設債については、償還のピークが過ぎており、前年度からの負債合計額が7,764万円減少している。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を上回っております。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県軽井沢町
団体コード 203211

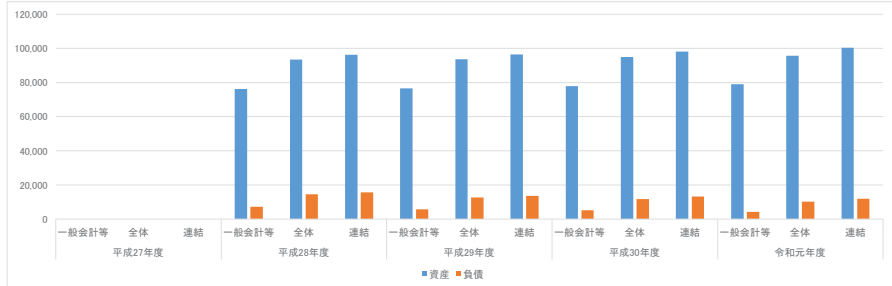
| | | | |
|--------|------------------------|------------|------|
| 人口 | 20,420人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 249人 |
| 面積 | 156.03 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 10,522.907千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村IV-2 | 実質公債費率 | 1.2% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一般会計等 | 資産 | | 76,277 | 76,640 | 77,946 | 79,023 |
| | 負債 | | 7,190 | 5,720 | 5,146 | 4,156 |
| 全体 | 資産 | | 93,505 | 93,668 | 94,975 | 95,670 |
| | 負債 | | 14,565 | 12,591 | 11,748 | 10,175 |
| 連結 | 資産 | | 96,223 | 96,453 | 98,220 | 100,347 |
| | 負債 | | 15,632 | 13,660 | 13,156 | 11,983 |

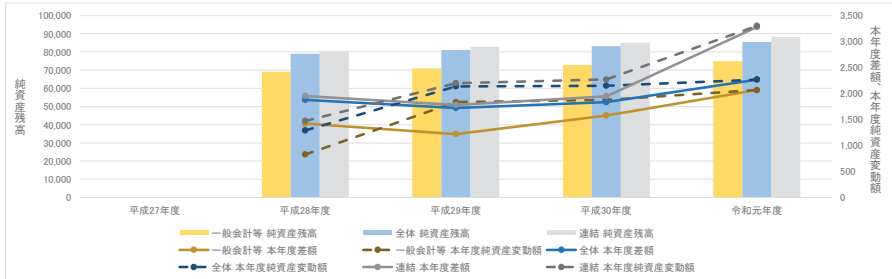


分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から1,077百万円の増加(+1.4%)となった。ただし、資産総額のうち有形固定資産の割合が83.3%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
 ・病院事業会計、水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から695百万円増加(+0.7%)し、負債総額は前年度末から990百万円減少(-13.4%)した。資産総額は、病院の事業資産及び上下水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等と比べて16,647百万円多くなるが、負債総額も病院建替事業や下水道管敷設工事に充当した地方債(固定負債等)があるため6,019百万円多くなっている。
 ・佐久広域連合等の一部事務組合を加えた連結では、資産総額は前年度末から2,127百万円増加(+2.2%)し、負債総額は前年度末から1,173百万円減少(-8.9%)した。資産総額は、一部事務組合等が所有しているごみ焼却施設や屎尿処理施設等を計上していることにより、一般会計等と比べて21,324百万円多くなるが、負債総額も新クリーンセンター整備や消防本部庁舎の建設に係る借入金等があること等から、7,827百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 1,420 | 1,219 | 1,577 | 2,068 |
| | 本年度純資産変動額 | | 827 | 1,833 | 1,880 | 2,068 |
| | 純資産残高 | | 69,087 | 70,920 | 72,800 | 74,868 |
| 全体 | 本年度差額 | | 1,881 | 1,722 | 1,833 | 2,267 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,289 | 2,136 | 2,151 | 2,267 |
| | 純資産残高 | | 78,941 | 81,076 | 83,228 | 85,495 |
| 連結 | 本年度差額 | | 1,952 | 1,780 | 1,948 | 3,280 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,472 | 2,201 | 2,270 | 3,301 |
| | 純資産残高 | | 80,592 | 82,794 | 85,064 | 88,364 |

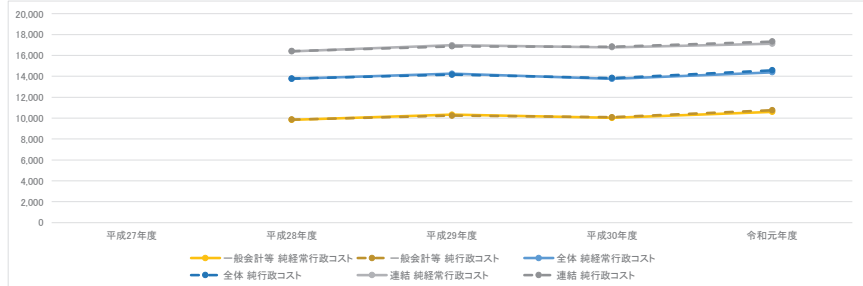


分析:
 ・一般会計等においては、税収等の財源(12,830百万円)が純行政コスト(10,762百万円)を上回ったことから、本年度差額は2,068百万円となり、純資産残高は2,068百万円の増加となった。特に、本年度は、国庫補助金を受けて二酸化炭素排出抑制対策事業(道路改修)を行ったため、財源に当該補助金の額が計上される一方、当該施設取得による行政コストの計上は減価償却により徐々に減らされるため、純資産が増加していることが考えられる。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が1,765百万円多くなっており、純資産残高は2,267百万円の増加となった。
 ・連結では、佐久広域連合、後期高齢者医療広域連合、佐久市・北佐久郡環境施設組合等の国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が7,773百万円多くなっており、本年度差額は13,280百万円となり、純資産残高は3,300百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 9,840 | 10,335 | 10,021 | 10,602 |
| | 純行政コスト | | 9,858 | 10,235 | 10,084 | 10,762 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 13,764 | 14,254 | 13,762 | 14,382 |
| | 純行政コスト | | 14,156 | 14,156 | 13,831 | 14,575 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 16,391 | 16,972 | 16,770 | 17,124 |
| | 純行政コスト | | 16,411 | 16,876 | 16,839 | 17,322 |

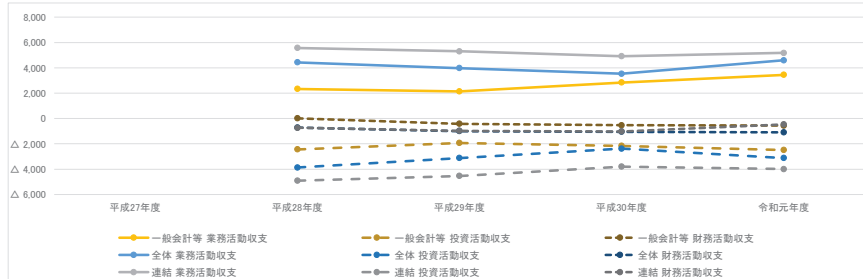


分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は11,451百万円となり、前年度比977百万円の増加(+9.3%)となった。そのうち、人件費等の業務費用は2,090百万円、補助金や社会保険給付等の移転費用は4,400百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも少ない。金額が大きいのは物件費(2,706百万円)、職員給与費(1,833百万円)、補助金等(2,047百万円)、社会保険給付(739百万円)で移転費用全体では純行政コストの38%を占めている。今後高齢化の進展などにより、社会保障費の増加が見込まれるため、事業の見直しや介護予防の推進等により、経費の抑制に努める。
 ・全体では、一般会計等と比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が2,988百万円多くなり、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用も2,719百万円多くなり、純行政コストは3,780百万円多くなっている。
 ・連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が3,338百万円多くなっている一方、人件費が2,210百万円多くなっているなど、経常費用が9,860百万円多くなり、純行政コストは6,522百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 2,339 | 2,136 | 2,834 | 3,439 |
| | 投資活動収支 | | △2,448 | △1,934 | △2,156 | △2,490 |
| | 財務活動収支 | | 11 | △420 | △537 | △558 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 4,433 | 3,967 | 3,535 | 4,596 |
| | 投資活動収支 | | △3,867 | △3,129 | △2,376 | △3,120 |
| | 財務活動収支 | | △719 | △994 | △1,055 | △1,093 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 5,562 | 5,303 | 4,913 | 5,171 |
| | 投資活動収支 | | △4,910 | △4,532 | △3,802 | △3,993 |
| | 財務活動収支 | | △736 | △974 | △1,028 | △467 |

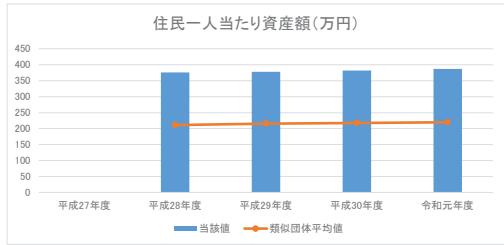


分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は3,439百万円となり、投資活動収支は-2,490百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行を抑制し発行収入がなく、地方債償還支出のみとなったことから、-568百万円となっている。
 ・本年度末資金残高は前年度から1,584百万円となった。今後数年間、普通交付税の交付はないと考えられるため、行政活動に必要な資金や有事の際に必要な資金を財政調整基金等で賄う必要があるため、計画的な基金運用と、行財政改革を更に推進する必要がある。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれること、病院の収益、水道料金等を使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,157百万円多い4,596百万円となっている。投資活動収支では、水道事業の浄水場更新整備、配水管敷設工事等により、-3,120百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、-1,093百万円となり、本年度末資金残高は3,443百万円となった。
 ・連結では、一部事務組合等が所有しているごみ焼却施設や屎尿処理施設の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,732百万円多い5,171百万円となっている。投資活動収支では、新クリーンセンター建設に係る公共施設等整備費支出等により、-3,993百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、-467百万円となり、本年度末資金残高は4,050百万円となった。

1. 資産の状況

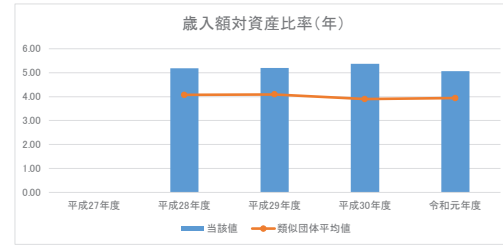
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 7,627,720 | 7,664,000 | 7,794,552 | 7,902,300 |
| 人口 | | 20,295 | 20,283 | 20,389 | 20,420 |
| 当該値 | | 375.8 | 377.9 | 382.3 | 387.0 |
| 類似団体平均値 | | 211.0 | 215.9 | 217.9 | 219.8 |



②歳入額対資産比率(年)

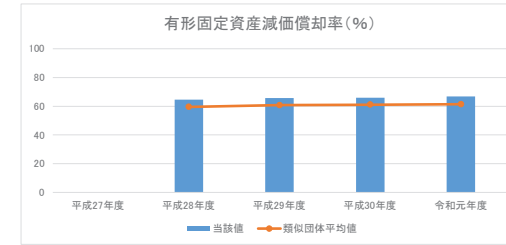
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 76,277 | 76,640 | 77,946 | 79,023 |
| 歳入総額 | | 14,707 | 14,726 | 14,502 | 15,584 |
| 当該値 | | 5.19 | 5.20 | 5.37 | 5.07 |
| 類似団体平均値 | | 4.07 | 4.09 | 3.90 | 3.94 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 50,437 | 52,005 | 53,412 | 54,854 |
| 有形固定資産 ※1 | | 78,104 | 79,114 | 80,873 | 82,057 |
| 当該値 | | 64.6 | 65.7 | 66.0 | 66.8 |
| 類似団体平均値 | | 59.5 | 60.7 | 61.1 | 61.4 |

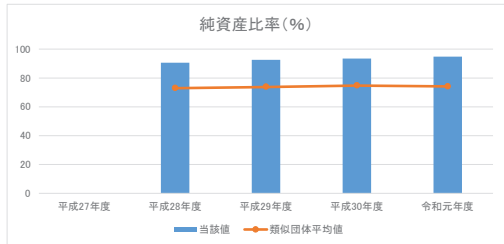
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

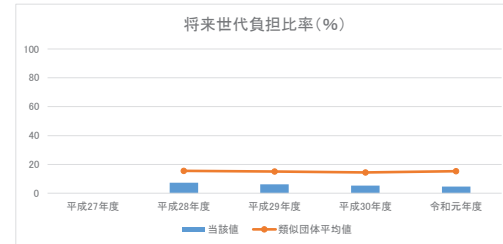
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 69,087 | 70,920 | 72,800 | 74,868 |
| 資産合計 | | 76,277 | 76,640 | 77,946 | 79,023 |
| 当該値 | | 90.6 | 92.5 | 93.4 | 94.7 |
| 類似団体平均値 | | 72.9 | 73.8 | 74.7 | 74.1 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 4,848 | 4,053 | 3,516 | 2,963 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 66,249 | 65,947 | 66,512 | 66,539 |
| 当該値 | | 7.3 | 6.1 | 5.3 | 4.5 |
| 類似団体平均値 | | 15.5 | 15.0 | 14.4 | 15.3 |

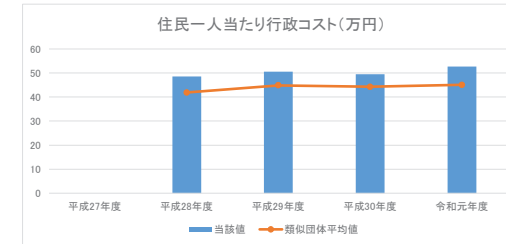
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

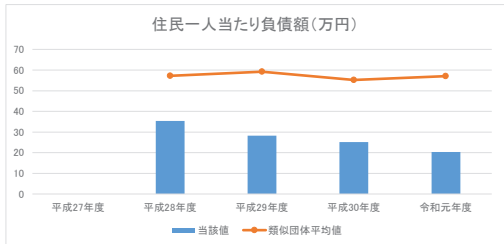
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 純行政コスト | | 985,759 | 1,023,500 | 1,008,398 | 1,076,200 |
| 人口 | | 20,295 | 20,283 | 20,389 | 20,420 |
| 当該値 | | 48.6 | 50.5 | 49.5 | 52.7 |
| 類似団体平均値 | | 41.9 | 44.9 | 44.3 | 45.1 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

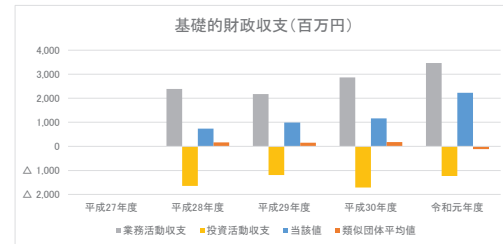
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 719,011 | 572,000 | 514,585 | 415,600 |
| 人口 | | 20,295 | 20,283 | 20,389 | 20,420 |
| 当該値 | | 35.4 | 28.2 | 25.2 | 20.4 |
| 類似団体平均値 | | 57.2 | 59.2 | 55.2 | 57.0 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 2,384 | 2,178 | 2,871 | 3,471 |
| 投資活動収支 ※2 | | △1,650 | △1,187 | △1,709 | △1,237 |
| 当該値 | | 734 | 991 | 1,162 | 2,234 |
| 類似団体平均値 | | 160.7 | 152.5 | 176.3 | △110.8 |

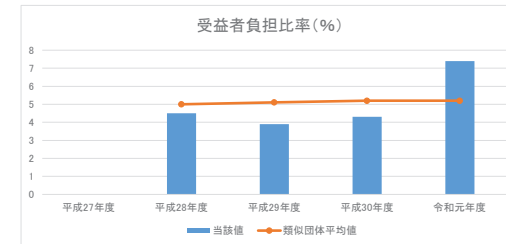
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | | 463 | 417 | 453 | 849 |
| 経常費用 | | 10,303 | 10,752 | 10,474 | 11,451 |
| 当該値 | | 4.5 | 3.9 | 4.3 | 7.4 |
| 類似団体平均値 | | 5.0 | 5.1 | 5.2 | 5.2 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額(歳入額対資産比率)は類似団体平均を上回っている。有形固定資産減価償却率は年々増加しており令和元年度は1.184万円増加している。町が管理している施設数は多く、そのほとんどが以前から管理している施設であるため減価償却率も年々上がっていると考えられる。平成28年度に策定した公共施設総合管理計画の改定に基づき来年度はより施設を集約させ適正な施設の保有を図る。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は類似団体平均を大きく上回っているが、新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、地方債残高を圧縮し将来、世代の負担の減少に努めることにより将来世代負担比率は類似団体平均に比べ大きく下回っている。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っており、昨年度と比較すると増加している。特に、純行政コストのうち2割を占める人件費が、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。直営で運営している施設について、指定管理者制度を導入するとともに、新規採用の抑制による職員数の減など、行財政改革への取組を通じて人件費の削減に努める。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は類似団体平均に比べ大きく下回っており、負債額も前年度から9,899万円減少している。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、地方債残高も減少しているためである。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均を上回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は昨年度と比較増加している。今後も公共施設等の使用料の見直しを行うとともに、公共施設等の利用率向上のための取組を行うなどにより、受益者負担の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県御代田町
団体コード 203238

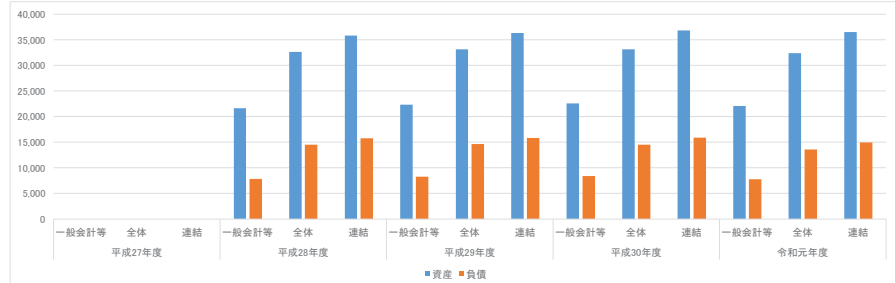
| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 15,774人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 125人 |
| 面積 | 58.79km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,931.41千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅳ-1 | 実質公債費率 | 13.4% |
| | | 将来負債比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 21,629 | 22,341 | 22,582 | 22,113 |
| | 負債 | | 7,839 | 8,280 | 8,377 | 7,783 |
| 全体 | 資産 | | 32,648 | 33,133 | 33,175 | 32,402 |
| | 負債 | | 14,522 | 14,667 | 14,517 | 13,583 |
| 連結 | 資産 | | 35,825 | 36,349 | 36,850 | 36,554 |
| | 負債 | | 15,804 | 15,817 | 15,888 | 14,978 |

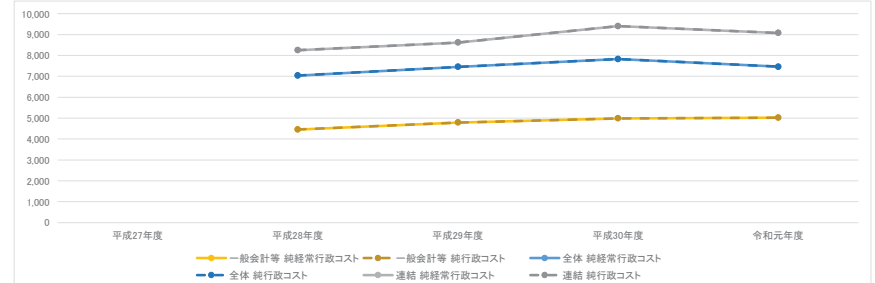


分析: 一般会計等においては資産総額が前年度末から479百万円の減少となった。ただし、資産総額のうち有形固定資産の割合が76.1%となっており、これらの資産は将来(維持管理・更新等)の支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める必要がある。全体においては資産総額が前年度末から773百万円減少し、そのうち有形固定資産の割合が78.7%となっており一般会計等と比較すると約3%多くなっている。連結においても資産総額が前年度末から296百万円減少し、同割合は78.2%で一般会計等と比較すると多くなっている。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,455 | 4,792 | 4,991 | 5,023 |
| | 純行政コスト | | 4,460 | 4,792 | 4,993 | 5,022 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 7,035 | 7,451 | 7,828 | 7,460 |
| | 純行政コスト | | 7,040 | 7,451 | 7,830 | 7,459 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 8,248 | 8,614 | 9,404 | 9,074 |
| | 純行政コスト | | 8,253 | 8,614 | 9,406 | 9,076 |

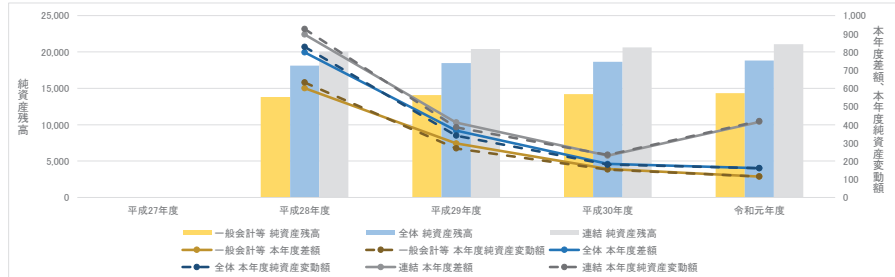


分析: 一般会計等においては、経常費用は5,418百万円となり、前年度比112百万円の増加(2.1%)となった。そのうち人件費等の業務費用は3,374百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は2,043百万円であり、業務費用のほうに移転費用よりも多い。前年度と比較して金額が大きいのは人件費の職員給与費(872百万円)となっている。職員の適切な人員配置により経費抑制に努める必要がある。全体においては経常経費は8,358百万円となっており、人件費等の業務費用は4,136百万円、補助金や社会保障給付費等の移転費用は4,222百万円であり、移転費用の方が業務費用より多くなっている。連結においても経常経費は10,259百万円となっており、人件費等の業務費用は4,875百万円、補助金や社会保障給付費等の移転費用は5,385百万円であり、移転費用の方が業務費用より多くなっている。一般会計等では移転費用のうち補助金等が44.3%社会保障給付費が29.5%を占めているが、全体については補助金等が85.3%、連結では補助金等が59.4%を占めている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 601 | 297 | 157 | 115 |
| | 本年度純資産変動額 | | 632 | 270 | 154 | 115 |
| | 純資産残高 | | 13,790 | 14,061 | 14,215 | 14,330 |
| 全体 | 本年度差額 | | 798 | 367 | 184 | 161 |
| | 本年度純資産変動額 | | 828 | 340 | 181 | 161 |
| | 純資産残高 | | 18,126 | 18,466 | 18,646 | 18,819 |
| 連結 | 本年度差額 | | 896 | 412 | 230 | 416 |
| | 本年度純資産変動額 | | 926 | 386 | 234 | 420 |
| | 純資産残高 | | 20,021 | 20,407 | 20,641 | 21,061 |

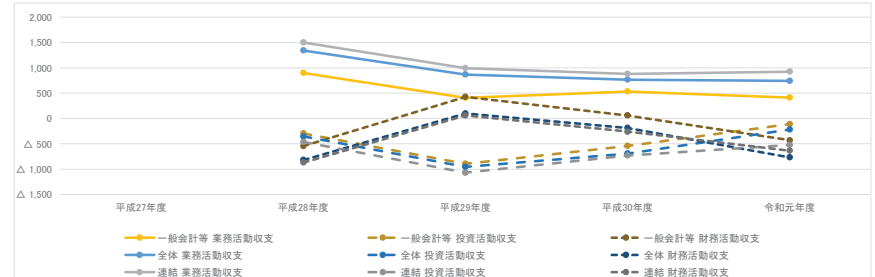


分析: 一般会計等においては、税収等の財源(5,137百万円)が純行政コスト(5,022百万円)を上回ったことから、本年度差額は115百万円(前年度比▲42百万円)となり、純資産残高は115百万円の増加となった。全体では税収等の財源(7,620百万円)が純行政コスト(7,459百万円)を上回ったことから本年度差額161百万円となり純資産残高は18,819百万円となった。連結では税収等の財源(9,492百万円)が純行政コスト(6,076百万円)を上回ったことから本年度差額416百万円となり純資産残高は21,061百万円となった。一般会計等では財源における国庫等補助金の割合は約17%であるが、全体・連結についてはそれぞれ約30%、約33%となっている。一般会計等と比較すると全体・連結それぞれ約13%、約16%多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 897 | 407 | 531 | 414 |
| | 投資活動収支 | | △295 | △895 | △540 | △109 |
| | 財務活動収支 | | △544 | 426 | 59 | △431 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,341 | 868 | 766 | 742 |
| | 投資活動収支 | | △354 | △955 | △692 | △217 |
| | 財務活動収支 | | △820 | 99 | △189 | △768 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,499 | 995 | 879 | 924 |
| | 投資活動収支 | | △463 | △1,068 | △729 | △521 |
| | 財務活動収支 | | △871 | 60 | △260 | △635 |

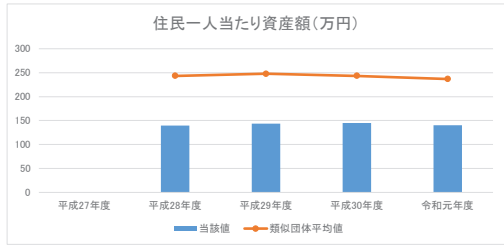


分析: 一般会計等においては、業務活動収支は414百万円であったが、投資活動収支については、▲109百万円となった。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債の償還額を下回り、▲431百万円となっており、本年度末資金残高は322百万円となった。全体では業務活動収支は742百万円であったが、投資活動収支については、▲216百万円となった。財務活動収支については、▲767百万円となっており、本年度末資金残高は1,284百万円となった。連結では業務活動収支は924百万円であったが、投資活動収支については、▲521百万円となった。財務活動収支については、▲634百万円となっており、本年度末資金残高は1,879百万円となった。一般会計等では業務支出の移転費用支出のうち補助金等支出が29.8%社会保障給付費支出が29.5%を占めているが、全体については補助金等支出が85.3%、連結では補助金等支出が58.3%を占めている。

1. 資産の状況

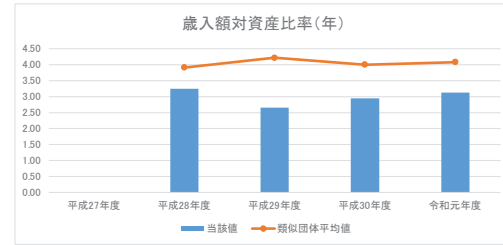
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,162,920 | 2,234,057 | 2,259,167 | 2,211,275 |
| 人口 | | 15,505 | 15,542 | 15,569 | 15,774 |
| 当該値 | | 139.5 | 143.7 | 145.1 | 140.2 |
| 類似団体平均値 | | 243.5 | 247.9 | 243.3 | 236.8 |



②歳入額対資産比率(年)

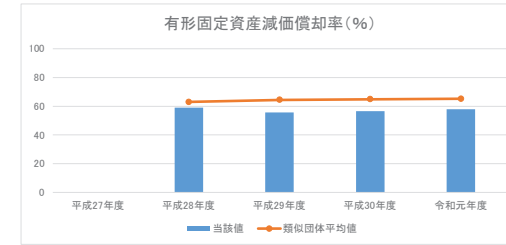
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 21,629 | 22,341 | 22,592 | 22,113 |
| 歳入総額 | | 6,664 | 8,385 | 7,661 | 7,057 |
| 当該値 | | 3.25 | 2.66 | 2.95 | 3.13 |
| 類似団体平均値 | | 3.91 | 4.22 | 4.00 | 4.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 13,444 | 13,843 | 14,303 | 14,747 |
| 有形固定資産 ※1 | | 22,832 | 24,890 | 25,305 | 25,435 |
| 当該値 | | 58.9 | 55.6 | 56.5 | 58.0 |
| 類似団体平均値 | | 63.0 | 64.4 | 64.9 | 65.2 |

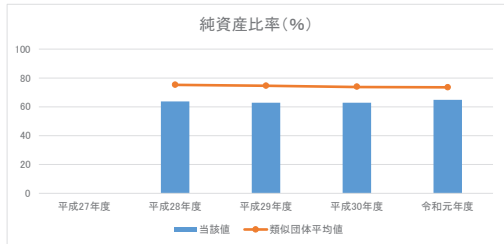
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

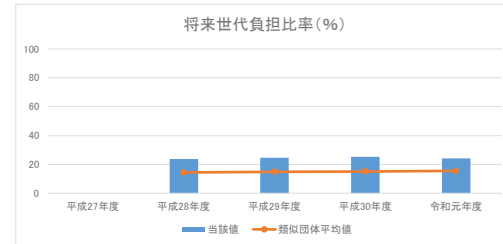
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 13,790 | 14,061 | 14,215 | 14,330 |
| 資産合計 | | 21,629 | 22,341 | 22,592 | 22,113 |
| 当該値 | | 63.8 | 62.9 | 62.9 | 64.8 |
| 類似団体平均値 | | 75.2 | 74.5 | 73.8 | 73.5 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,698 | 4,194 | 4,335 | 4,069 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 15,684 | 17,120 | 17,184 | 16,821 |
| 当該値 | | 23.6 | 24.5 | 25.2 | 24.2 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 14.9 | 15.1 | 15.5 |

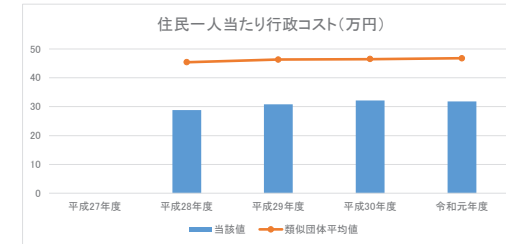
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

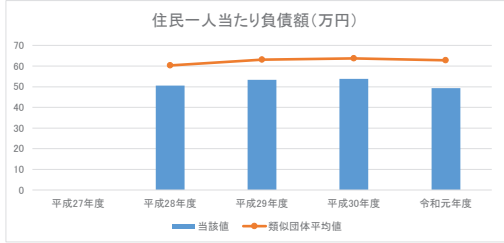
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 446,042 | 479,163 | 499,305 | 502,226 |
| 人口 | | 15,505 | 15,542 | 15,569 | 15,774 |
| 当該値 | | 28.8 | 30.8 | 32.1 | 31.8 |
| 類似団体平均値 | | 45.4 | 46.3 | 46.5 | 46.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

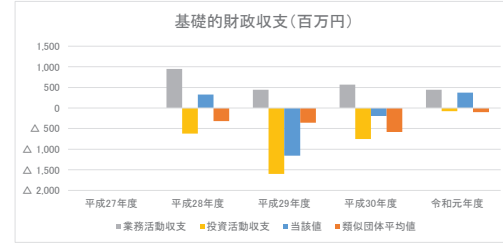
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 783,875 | 827,993 | 837,708 | 778,277 |
| 人口 | | 15,505 | 15,542 | 15,569 | 15,774 |
| 当該値 | | 50.6 | 53.3 | 53.8 | 49.3 |
| 類似団体平均値 | | 60.3 | 63.1 | 63.7 | 62.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 947 | 446 | 565 | 443 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 619 | △ 1,599 | △ 756 | △ 73 |
| 当該値 | | 328 | △ 1,153 | △ 191 | 370 |
| 類似団体平均値 | | △ 318.8 | △ 357.9 | △ 585.0 | △ 96.6 |

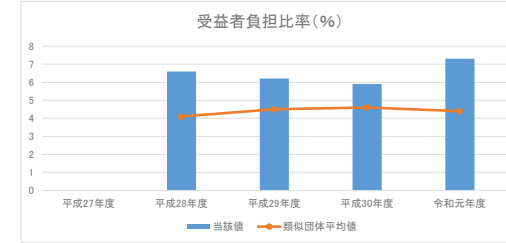
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 314 | 315 | 315 | 395 |
| 経常費用 | | 4,770 | 5,106 | 5,307 | 5,418 |
| 当該値 | | 6.6 | 6.2 | 5.9 | 7.3 |
| 類似団体平均値 | | 4.1 | 4.5 | 4.6 | 4.4 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っている。内訳として一人当たり、有形固定資産が107万円、投資その他の資産が1.6万円、流動資産が32.0万円となっている。また有形固定資産減価償却率は58.0%で類似団体平均を下回っており、建物についてみると50%以下であるが、インフラ工物が耐用年数の折り返しを過ぎており、今後も計画的な更新及び統合等が必要である。

2. 資産と負債の比率

純資産比率をみると類似団体平均値を下回っている。これは御代田町の保有する資産が類似団体と比べ少ないことや施設について過剰に整備をしておかなかったことが要因と考えられる。また純資産比率が類似団体平均値よりも低く、将来世代負担比率が類似団体平均値よりも約10%高い状態にあるのは、世代間の負担の公平を図るため「受給者負担の原則」「負担公平の原則」の観点から、社会資本の投資に有利な地方債を選択したことによるものである。

3. 行政コストの状況

当町の資産について類似団体平均値と比べると大幅に少ない状況であり、それに伴い減価償却費も少ないことから住民一人当たりの行政コストについても大きく下回っている。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額が類似団体平均を下回っている。負債合計の中で地方債等が全体の65.7%となっており1年以内償還予定地方債等は全体の11.3%となっている。基礎的財政収支は基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を下回り370百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、公施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

類似団体と比べると、当町は経常費用が低い。また受益者負担比率は類似団体平均値を上回っており、標準的な範囲内である。

令和元年度 財務書類に関する情報①

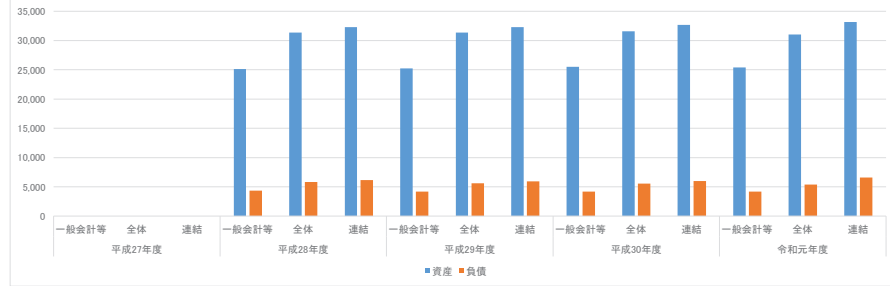
団体名 長野県立科町
団体コード 203246

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 7,166 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 88 人 |
| 面積 | 66.87 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 2,744.632 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 7.2 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| x | ○ | x |

1. 資産・負債の状況

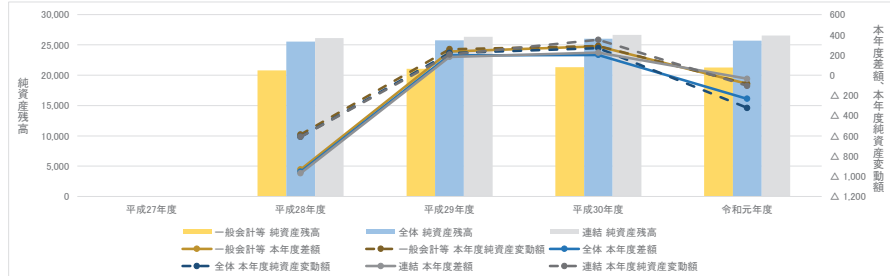
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 25,122 | 25,254 | 25,517 | 25,418 |
| | 負債 | | 4,324 | 4,199 | 4,174 | 4,159 |
| 全体 | 資産 | | 31,364 | 31,336 | 31,587 | 31,050 |
| | 負債 | | 5,837 | 5,590 | 5,573 | 5,359 |
| 連結 | 資産 | | 32,265 | 32,277 | 32,661 | 33,145 |
| | 負債 | | 6,156 | 5,950 | 5,984 | 6,573 |



分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から9,900万円の減となった。主に1億円の財政調整基金を取り崩したことによる。負債では、地方債が28億円と負債全体の7割ほどを占めているが、地方債の借入を抑制しており、年々減少している。
 ・全体では、水道事業、索道事業(スキー場等)が加わることから、一般会計等と比べ、事業用資産が13億2,000万円、インフラ資産が26億8,500万円の増となる。一方で、負債についても、地方債や流動負債等により、負債合計が11億9,200万円の増となる。施設の老朽化が進んでいることから、今後に備え、健全な経営に努める。
 ・連結では、主に一部事務組合で整備するごみ処理施設整備に係る資産が3億2,000万円の増となることが大きく、全体として4億8,400万円の増となる。また、負債についても、一部事務組合で整備するごみ処理施設整備に係る地方債の増により、全体として5億8,900万円の増となった。

3. 純資産変動の状況

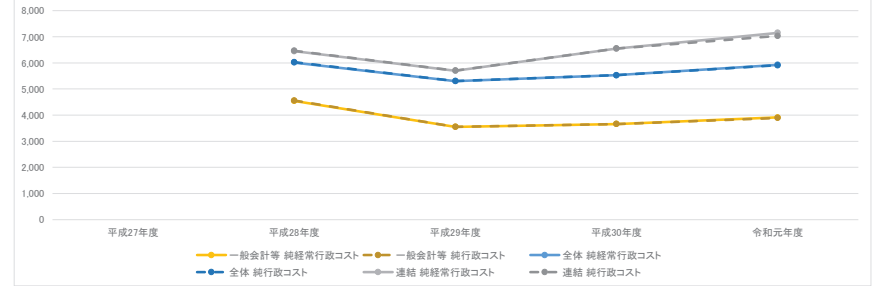
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 933 | 234 | 286 | △ 86 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 587 | 257 | 289 | △ 84 |
| | 純資産残高 | | 20,798 | 21,054 | 21,343 | 21,259 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 955 | 196 | 200 | △ 234 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 610 | 219 | 268 | △ 324 |
| | 純資産残高 | | 25,527 | 25,746 | 26,014 | 25,690 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 970 | 182 | 224 | △ 36 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 611 | 203 | 351 | △ 105 |
| | 純資産残高 | | 26,123 | 26,326 | 26,677 | 26,572 |



分析:
 ・一般会計等では、税金等の財源(33億5,400万円)の減に対し、純行政コスト(38億9,500万円)が増となったことにより、全体として本年度差額は、△8,600万円となった。今後も更なる町税の徴収業務の強化等により税金等の増加に努めるとともに経費削減に努める必要がある。
 ・全体では、国民健康保険税、介護保険料の増が7,600万円の増となるため、一般会計等との合計の減少幅は少なくなっているが、純行政コストが一般会計等と同様に増加していることから、本年度差額が△2億3,400万円であった。全体についても、経費削減に努める必要がある。
 ・連結についても純行政コストが増であるが、財源の確保により本年度差額が△3,600万円となった。引き続き、財源の確保、純行政コストの削減に努める。

2. 行政コストの状況

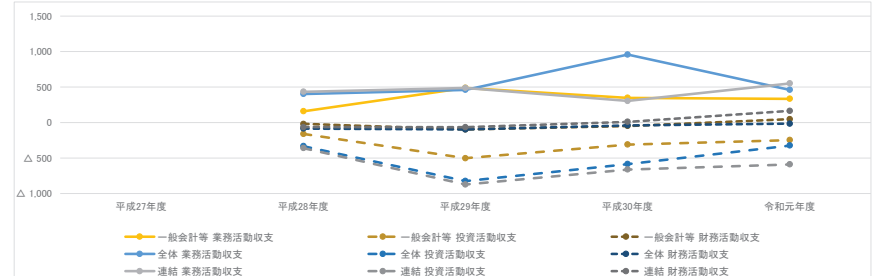
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,545 | 3,551 | 3,661 | 3,911 |
| | 純行政コスト | | 4,561 | 3,553 | 3,661 | 3,895 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 6,011 | 5,302 | 5,527 | 5,924 |
| | 純行政コスト | | 6,028 | 5,305 | 5,527 | 5,908 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,446 | 5,699 | 6,547 | 7,148 |
| | 純行政コスト | | 6,464 | 5,704 | 6,548 | 7,034 |



分析:
 ・一般会計等では、業務費用の方が移転費用よりも多く、減価償却費(4億8,000万円)、物件費(12億8,000万円)等の金額が多くなっている。経費削減には既に取り組んでいるところであるが、今後も維持補修費等が増加する見込みから、公共施設等の適正管理に努めることにより、更なる経費の節減に努める。
 ・全体では、一般会計等に比べ、移転費用(補助金等)が17億7,000万円の増となっている。これは、国民健康保険、介護保険等の負担金を補助金等に計上しているためであり、今後も増加が見込まれる。
 ・連結では、一般会計等と同様に物件費が増(1億2,000万円の増)となり、主な増額要因となっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 158 | 488 | 349 | 335 |
| | 投資活動収支 | | △ 160 | △ 502 | △ 311 | △ 246 |
| | 財務活動収支 | | △ 20 | △ 97 | △ 48 | 48 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 402 | 460 | 958 | 460 |
| | 投資活動収支 | | △ 332 | △ 825 | △ 586 | △ 325 |
| | 財務活動収支 | | △ 86 | △ 97 | △ 40 | △ 15 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 434 | 487 | 305 | 551 |
| | 投資活動収支 | | △ 361 | △ 873 | △ 661 | △ 591 |
| | 財務活動収支 | | △ 64 | △ 65 | 10 | 165 |



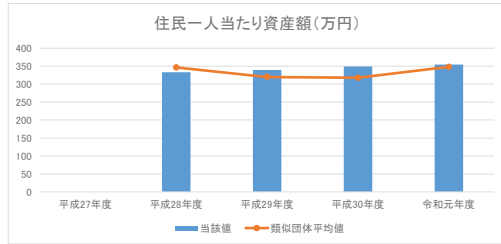
分析:
 ・一般会計等では、業務活動収支大きな変動はないが、投資活動支出で公共施設等整備費支出で3億2,600万円と増となった。財務活動収支については、地方債の発行収入が上回ったことから、4,800万円となったが、地方債の償還は進んでいる。
 ・全体では、税金等の減により業務活動収支は減少し4億6,000万円、投資活動収支は公共施設等整備費支出において一般会計等の減少が大きく△3億2,500万円、財務活動収支では水道事業が加わり、地方債等償還支出が増となることから△1,500万円となる。全体としても地方債の償還は進んでいる。
 ・連結では、業務活動収支で業務収入の増、業務支出の減により5億5,100万円と前年比で増となった。また投資活動収支は公共施設等整備費支出の減により△5億9,100万円、財務活動収支は地方債等発行収入の増により1億6,500万円と増加となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

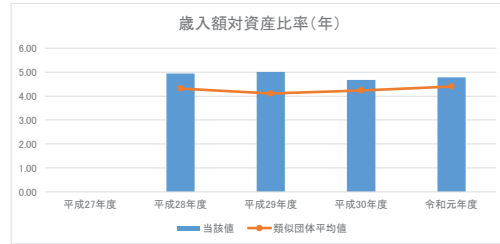
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,512,186 | 2,525,400 | 2,551,717 | 2,541,780 |
| 人口 | | 7,538 | 7,441 | 7,314 | 7,166 |
| 当該値 | | 333.3 | 339.4 | 348.9 | 354.7 |
| 類似団体平均値 | | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

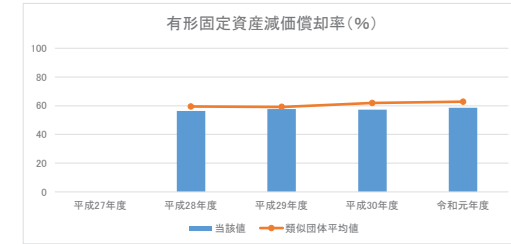
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 25,122 | 25,254 | 25,517 | 25,418 |
| 歳入総額 | | 5,084 | 5,041 | 5,460 | 5,310 |
| 当該値 | | 4.94 | 5.01 | 4.67 | 4.79 |
| 類似団体平均値 | | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 12,368 | 12,813 | 13,262 | 13,723 |
| 有形固定資産 ※1 | | 21,911 | 22,259 | 23,166 | 23,447 |
| 当該値 | | 56.4 | 57.6 | 57.2 | 58.5 |
| 類似団体平均値 | | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

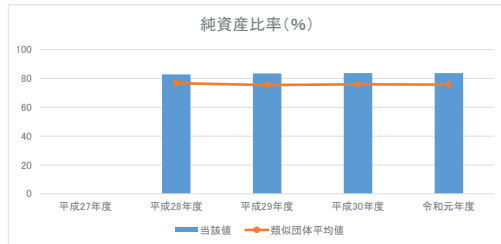
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

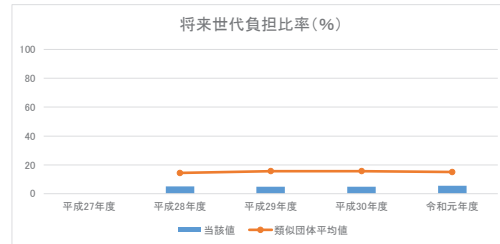
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 20,798 | 21,054 | 21,343 | 21,259 |
| 資産合計 | | 25,122 | 25,254 | 25,517 | 25,418 |
| 当該値 | | 82.8 | 83.4 | 83.6 | 83.6 |
| 類似団体平均値 | | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 998 | 950 | 962 | 1,104 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 19,874 | 19,787 | 20,236 | 20,073 |
| 当該値 | | 5.0 | 4.8 | 4.8 | 5.5 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

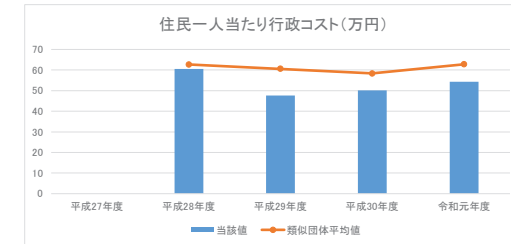
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

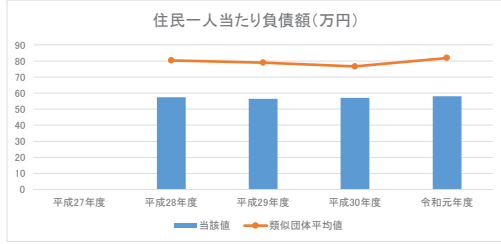
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 456,068 | 355,300 | 366,083 | 389,458 |
| 人口 | | 7,538 | 7,441 | 7,314 | 7,166 |
| 当該値 | | 60.5 | 47.7 | 50.1 | 54.3 |
| 類似団体平均値 | | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

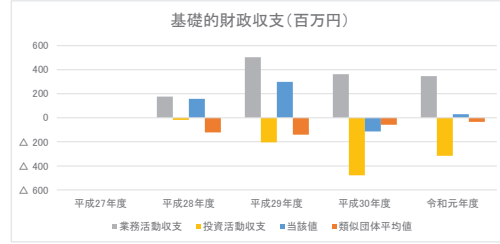
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 432,434 | 419,900 | 417,414 | 415,886 |
| 人口 | | 7,538 | 7,441 | 7,314 | 7,166 |
| 当該値 | | 57.4 | 56.4 | 57.1 | 58.0 |
| 類似団体平均値 | | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 176 | 503 | 363 | 347 |
| 投資活動収支 ※2 | | △17 | △205 | △478 | △316 |
| 当該値 | | 159 | 298 | △115 | 31 |
| 類似団体平均値 | | △121.8 | △141.6 | △57.5 | △34.7 |

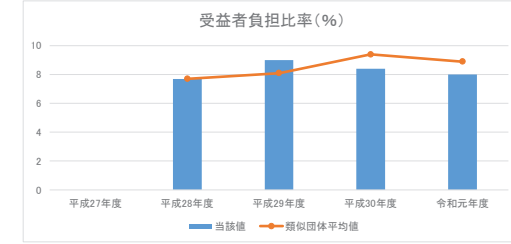
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 381 | 353 | 336 | 341 |
| 経常費用 | | 4,927 | 3,903 | 3,997 | 4,252 |
| 当該値 | | 7.7 | 9.0 | 8.4 | 8.0 |
| 類似団体平均値 | | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額は、前年度と比べるとやや減となったが、健全な財政運営により、計画的な基金の積立等を行っていき予定である。
 ・今後、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の更新(集約化、複合化等)を進めていくこととなるが、将来、過剰な負担とならないよう計画的に事業を進めていく。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、純資産の減少により前年度よりやや減少となったが、類似団体を若干上回っている。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が資消して便益を享受したことを意味するため、今後も経費の節減により、行政コストの削減に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たりの行政コストは、類似団体平均よりも低い状況であるが、物件費(委託料)、維持補修費、移転費用(社会保障給付)が年々増加している状況である。人口減少が進んでいる中、今後も更なる行財政改革の推進に努める。

4. 負債の状況

・住民一人当たりの負債額は、負債総額が減少しているが、人口減少により増となった。地方債の借入の抑制に努めていることから、類似団体の平均を下回っているが、今後は、施設等の老朽化対策のために多額の地方債の借入を行うことも予想される。公共施設等整備基金等に計画的に積立(積増)を行うことにより、地方債の借入抑制に努めていく。

5. 受益者負担の状況

・前年度に続き、受益者負担率は類似団体平均を下回ったが、全体的に施設の老朽化が進んでおり、維持補修費が増加していることから、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

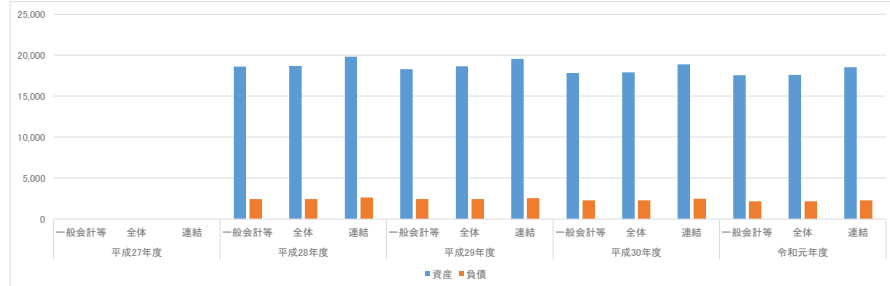
団体名 長野県青木村
団体コード 203491

| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 4,351人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 53人 |
| 面積 | 57.10km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,958,009千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-1 | 実質負債比率 | 6.5% |
| | | 将来負債比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

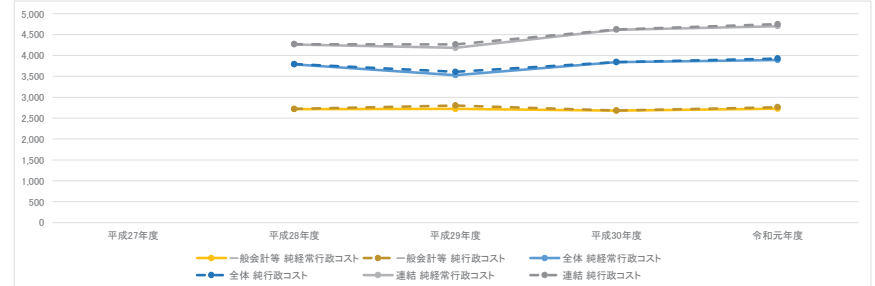
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 18,599 | 18,599 | 18,295 | 17,829 | 17,540 |
| | 負債 | 2,435 | 2,435 | 2,434 | 2,287 | 2,187 |
| 全体 | 資産 | 18,686 | 18,633 | 18,633 | 17,897 | 17,590 |
| | 負債 | 2,435 | 2,434 | 2,434 | 2,287 | 2,187 |
| 連結 | 資産 | 19,810 | 19,548 | 19,548 | 18,900 | 18,549 |
| | 負債 | 2,624 | 2,554 | 2,554 | 2,476 | 2,297 |



分析:
一般会計等において、資産総額が当該年度期前時点から289百万円の減少(▲1.6%)となった。資産総額のうち有形固定資産の割合が87.3%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであり、施設等の老朽化により有形固定資産の金額が減少しているためである。今後、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
全体では、簡易水道事業会計、特定環境保全公共下水道事業会計については、公営企業法適用の移行期間中のため含めていません。
令和2(2020)年度移行後は、資産総額は、下水道管、下水道管等のインフラ資産の計上により、また負債総額も下水道管の長寿命化対策事業に地方債(固定負債)を充当したことにより、一般会計等と比べて多くなると見込まれる。
青木村土地開発公社、上田地域広域連合等を加えた連結では、資産総額は、土地開発公社が保有している公有用地に係る資産を計上していること等により、一般会計等に比べて1,009百万円多くなるが、負債総額は110百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

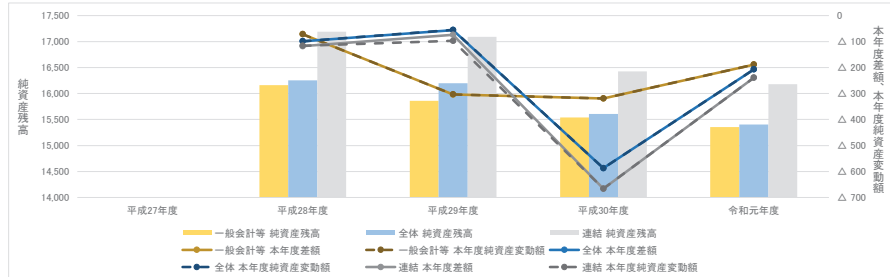
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,718 | 2,721 | 2,680 | 2,727 |
| | 純行政コスト | | 2,720 | 2,802 | 2,683 | 2,763 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 3,789 | 3,528 | 3,838 | 3,890 |
| | 純行政コスト | | 3,791 | 3,609 | 3,840 | 3,925 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,263 | 4,183 | 4,617 | 4,699 |
| | 純行政コスト | | 4,271 | 4,264 | 4,624 | 4,750 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は前年度46百万円増の2,864百万円となった。そのうち、人件費等の業務費用が経常費用の65.8%を占め1,883百万円となっているが、人件費の割合(30.5%)より物件費等(68.4%)が占め、物件費は710百万円と大きくなっている。これは、人件費の抑制に努め民間事業者への委託や指定管理者制度を導入していることによる。
全体では、一般会計等と比べて、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,142百万円多くなり、純行政コストは1,162百万円多くなっている。
連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が139百万円多くなっている一方、人件費が112百万円多くなっているなど、経常費用が2,112百万円多くなり、純行政コストは338百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

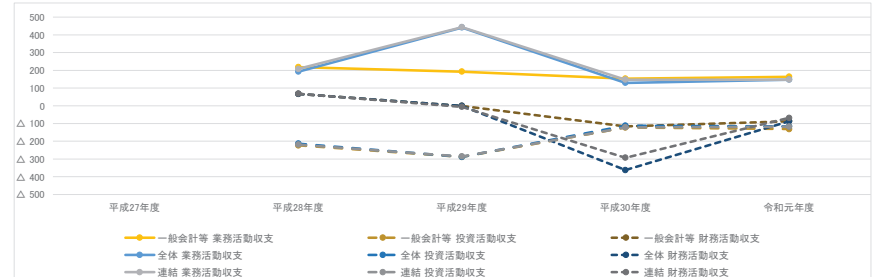
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 72 | △ 304 | △ 319 | △ 189 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 72 | △ 303 | △ 319 | △ 189 |
| 全体 | 純資産残高 | 16,164 | 15,861 | 15,542 | 15,353 | 15,353 |
| | 本年度差額 | | △ 99 | △ 56 | △ 587 | △ 207 |
| 連結 | 純資産残高 | 16,252 | 16,197 | 15,610 | 15,403 | 15,403 |
| | 本年度差額 | | △ 118 | △ 74 | △ 666 | △ 239 |
| 連結 | 本年度純資産変動額 | | △ 116 | △ 97 | △ 666 | △ 239 |
| | 純資産残高 | 17,187 | 17,090 | 16,424 | 16,179 | 16,179 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(2,191百万円)が純行政コスト(2,763百万円)を下回っており、本年度差額は▲189百万円となり、純資産残高は189百万円の減少となった。地方税等の増加が見込めないが徴収業務の強化や純行政コストの経費削減に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が540百万円多くなっているが、本年度差額は▲207百万円となり、純資産残高は15,403百万円となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が1,937百万円多くなっており、本年度差額は▲239百万円、純資産残高は16,179百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 218 | 193 | 153 | 164 |
| | 投資活動収支 | | △ 223 | △ 288 | △ 122 | △ 131 |
| | 財務活動収支 | | 67 | 0 | △ 116 | △ 87 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 192 | 441 | 129 | 147 |
| | 投資活動収支 | | △ 213 | △ 288 | △ 112 | △ 116 |
| | 財務活動収支 | | 67 | 0 | △ 362 | △ 87 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 208 | 443 | 148 | 147 |
| | 投資活動収支 | | △ 219 | △ 286 | △ 121 | △ 118 |
| | 財務活動収支 | | 68 | △ 6 | △ 293 | △ 68 |



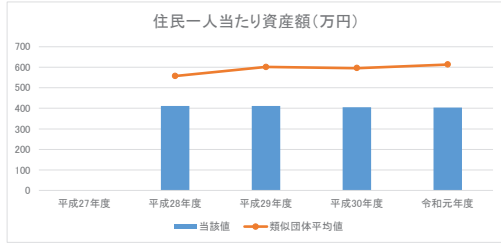
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は164百万円であったが、投資活動収支については、公共施設等整備費支出が収入を上回ったため▲131百万円となった。財務活動収支については、▲87百万円で本年度末資金残高は、183百万円となった。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれるが、業務活動収支は、補助金等支出、社会保障給付支出が大きく一般会計等より▲17百万円少ない147百万円となっている。投資活動収支では、国民健康保険基金を取崩したため▲15百万円となっている。財務活動収支は、一般会計等と同額であった。
連結では、青木村土地開発公社における公有地取得等事業等の収入が業務収入に含まれるが、業務活動収支は一般会計等より▲17百万円少ない147百万円となっている。投資活動収支では▲117百万円となっている。財務活動収支では▲68百万円減となり、本年度末資金残高は前年度から▲39百万円減少し、336百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

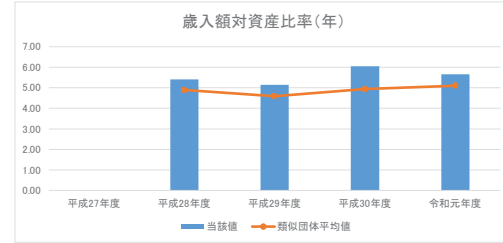
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,859,870 | 1,829,489 | 1,782,867 | 1,753,963 |
| 人口 | | 4,517 | 4,441 | 4,398 | 4,351 |
| 当該値 | | 411.7 | 412.0 | 405.4 | 403.1 |
| 類似団体平均値 | | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

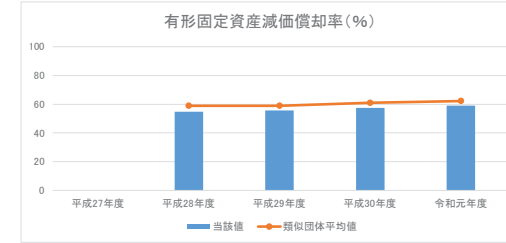
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 18,599 | 18,295 | 17,829 | 17,540 |
| 歳入総額 | | 3,438 | 3,552 | 2,949 | 3,098 |
| 当該値 | | 5.41 | 5.15 | 6.05 | 5.66 |
| 類似団体平均値 | | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 11,003 | 11,387 | 11,736 | 12,206 |
| 有形固定資産 ※1 | | 20,102 | 20,449 | 20,434 | 20,740 |
| 当該値 | | 54.7 | 55.7 | 57.4 | 58.9 |
| 類似団体平均値 | | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

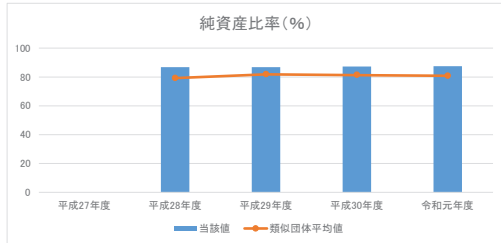
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

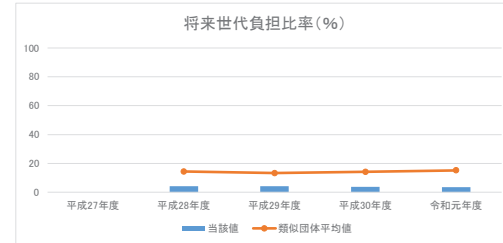
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 16,164 | 15,861 | 15,542 | 15,353 |
| 資産合計 | | 18,599 | 18,295 | 17,829 | 17,540 |
| 当該値 | | 86.9 | 86.7 | 87.2 | 87.5 |
| 類似団体平均値 | | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 652 | 672 | 584 | 544 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 16,025 | 15,943 | 15,538 | 15,314 |
| 当該値 | | 4.1 | 4.2 | 3.8 | 3.6 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

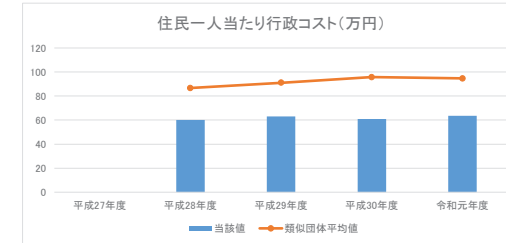
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

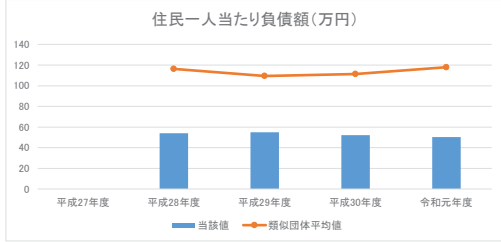
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 271,972 | 280,184 | 268,280 | 276,257 |
| 人口 | | 4,517 | 4,441 | 4,398 | 4,351 |
| 当該値 | | 60.2 | 63.1 | 61.0 | 63.5 |
| 類似団体平均値 | | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

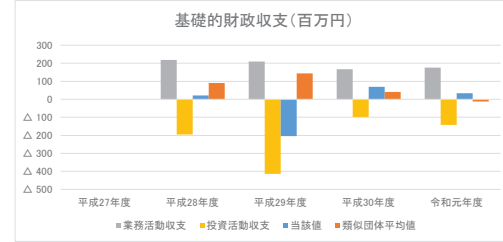
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 243,464 | 243,385 | 228,676 | 218,711 |
| 人口 | | 4,517 | 4,441 | 4,398 | 4,351 |
| 当該値 | | 53.9 | 54.8 | 52.0 | 50.3 |
| 類似団体平均値 | | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 218 | 209 | 167 | 175 |
| 投資活動収支 ※2 | | △196 | △413 | △98 | △142 |
| 当該値 | | 22 | △204 | 69 | 33 |
| 類似団体平均値 | | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △13.2 |

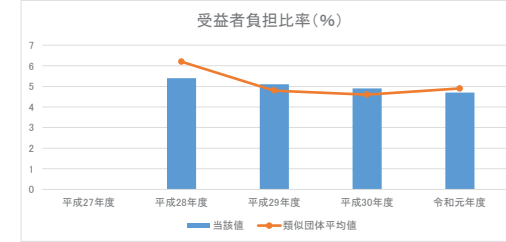
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取前収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 155 | 146 | 138 | 136 |
| 経常費用 | | 2,873 | 2,867 | 2,819 | 2,864 |
| 当該値 | | 5.4 | 5.1 | 4.9 | 4.7 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるため、備忘簿額1円で評価しているものが大半を占めているためである。また、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の適正化に取り組み、歳入額対資産比率については、類似団体平均を少し上回る結果となった。地方創生拠点整備事業により道の駅あおき高機能拠点施設整備を進めたためである。

有形固定資産減価償却率が類似団体平均をわずかに下回っているが、新しい施設が比較的多いわけではなく、道路等の資産について、統一した基準以前から取替法を採用しているためである。また、公共施設等の老朽化に伴い、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、純行政コストが収支等の財源を上回ったことから純資産が減少した。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資産を過去及び現代が費消して便益を享受したことを意味するため、行政コストの削減に努める。

(社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す) 将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っているが、平成29年度以降一般廃棄物処理施設や緊急防災・減災事業を予定しており新規の地方債発行を見込んでいる。今後、発行予定の地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を大きく下回っている。職員数、人件費の抑制によるところが大きい。人口減少、高齢社会に向けて多様化する住民ニーズに応えられるよう行政サービスの提供に努めたい。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を大きく下回っているが、地方交付税の不足を補うために臨時財政対策債を平成13年度から発行し続けており、残高が1,220百万円(地方債残高の69.1%)となっている。

基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分は平成29年度に道の駅あおき高機能化施設整備事業、地方創生拠点整備事業によるもので類似団体平均値を大きく下回っていたが平成30年度は投資活動収支は赤字であったものの類似団体平均値をわずかに上回った。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、避難所の空調設備設置工事等緊急防災・減災事業など公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均と同程度であるが、経常費用のうち維持補修費の増加が見込まれるため、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県長和町
団体コード 203505

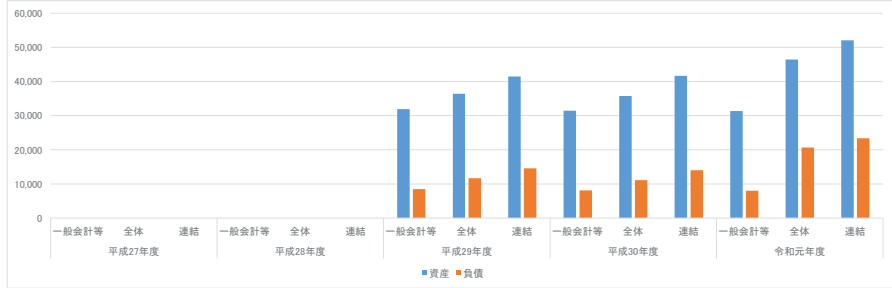
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 5,995人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 89人 |
| 面積 | 183.86km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,565,257千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 11.1% |
| | | 将来負担比率 | 73.3% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | | 31,888 | 31,435 | 31,379 |
| | 負債 | | | 9,485 | 8,113 | 8,023 |
| 全体 | 資産 | | | 36,431 | 35,803 | 46,489 |
| | 負債 | | | 11,638 | 11,140 | 20,655 |
| 連結 | 資産 | | | 41,474 | 41,644 | 52,052 |
| | 負債 | | | 14,538 | 14,042 | 23,401 |

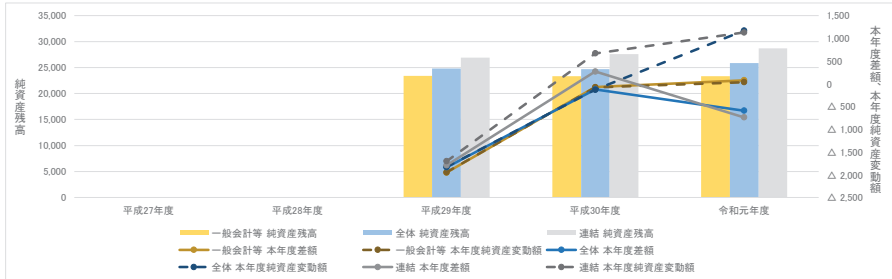


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末時点から60百万円減額(-0.2%)となった。ただし、資産総額のうち有形固定資産の割合が84.0%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
全体においては、下水道等が準備期間を経て事業会計に移行となったことから、資産総額は前年度末時点から10,686百万円増加(29.8%)し、負債総額は当該年度期首時点から9,515百万円増加(85.4%)した。資産総額は上水道・下水道の管路等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等比べて15,110百万円多くなるが、負債総額も12,632百万円多くなっている。
土地開発公社、依田産医療福祉事務組合等を加えた連結では、資産総額は前年度末時点から10,408百万円増加(25.0%)し、負債総額は当該年度期首時点から9,359百万円増加(66.7%)した。資産総額は病院施設に係る資産を計上していること等により、一般会計等比べて20,673百万円多くなるが、負債総額も、依田産医療福祉事務組合の借入金等があること等から、15,378百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | | △1,952 | △74 | 76 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △1,945 | △80 | 34 |
| | 純資産残高 | | | 23,402 | 23,322 | 23,356 |
| 全体 | 本年度差額 | | | △1,837 | △124 | △592 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △1,829 | △130 | 1,172 |
| | 純資産残高 | | | 24,792 | 24,662 | 25,834 |
| 連結 | 本年度差額 | | | △1,793 | 271 | △739 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △1,705 | 668 | 1,130 |
| | 純資産残高 | | | 26,935 | 27,606 | 28,698 |

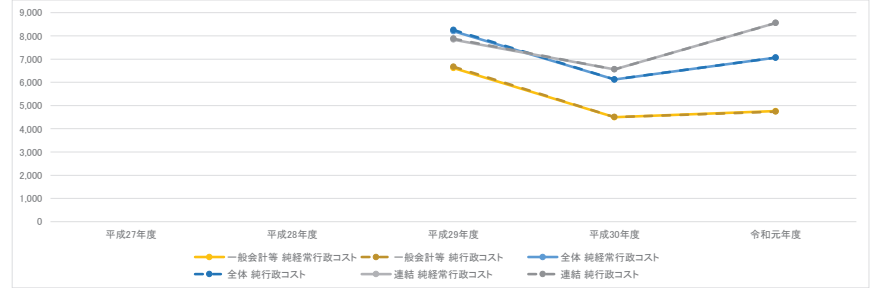


分析:
一般会計等においては、税収等の財源が純行政コストを上回ったことから、本年度差額は76百万円となり、純資産残高は34百万円の増加となったが、今後も税収等の増加は厳しい状況から行政コストの削減に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が「税収等」に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が多くなっている。本年度差額は△592百万円、純資産残高は1,172百万円の増加となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が多くなっている。本年度差額は△739百万円、純資産残高は1,130百万円の増となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | | 6,617 | 4,499 | 4,761 |
| | 純行政コスト | | | 6,672 | 4,501 | 4,741 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | | 8,201 | 6,122 | 7,069 |
| | 純行政コスト | | | 8,255 | 6,125 | 7,061 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | | 7,840 | 6,557 | 8,556 |
| | 純行政コスト | | | 7,878 | 6,555 | 8,553 |

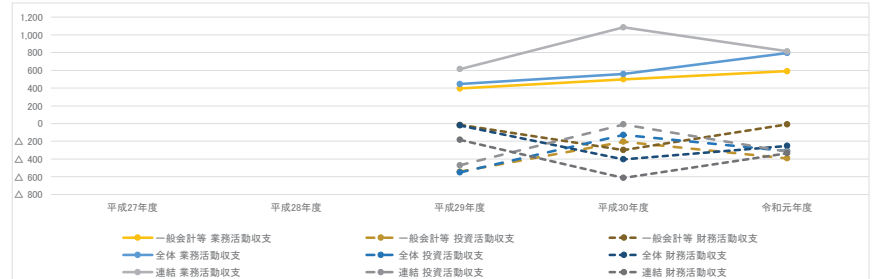


分析:
一般会計等においては、経常費用は5,123百万円となり、人件費等の業務費用は2,916百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は2,207百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多くなった。今後も少子高齢化の進展などにより、事業の見直しの推進等により経費の抑制に努める。
全体では、一般会計等と比べて、上下水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が461百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,499百万円多くなり、純行政コストは2,320百万円多くなっている。
連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が2,755百万円多くなっている一方、人件費が1,410百万円多くなっているなど、経常費用が6,549百万円多くなり、純行政コストは3,795百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | | 396 | 498 | 591 |
| | 投資活動収支 | | | △542 | △205 | △392 |
| | 財務活動収支 | | | △16 | △299 | △9 |
| 全体 | 業務活動収支 | | | 446 | 558 | 795 |
| | 投資活動収支 | | | △551 | △128 | △310 |
| | 財務活動収支 | | | △22 | △404 | △253 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | 613 | 1,085 | 814 |
| | 投資活動収支 | | | △470 | △11 | △317 |
| | 財務活動収支 | | | △184 | △613 | △335 |



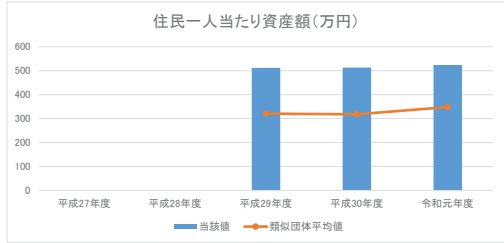
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は591百万円であったが、投資活動収支については、公共施設等の改修・修繕事業等を行ったことから、△392百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲9百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から190百万円増加し、271百万円となった。行政活動に必要な資金を基金の取崩しと地方債の発行収入によって確保している状況であり、行財政改革を更に推進する必要がある。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が「税収等」に含まれること、上下水道料金等を使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より204百万円多い795百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、本年度末資金残高は前年度から233百万円増加し、523百万円となった。
連結では、依田産医療福祉事務組合における入院・外来収益等の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より223百万円多い814百万円となっている。投資活動収支では、医療機器の整備等を行ったため、▲317百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲335百万円となり、本年度末資金残高は前年度から162百万円増加し、1,511百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

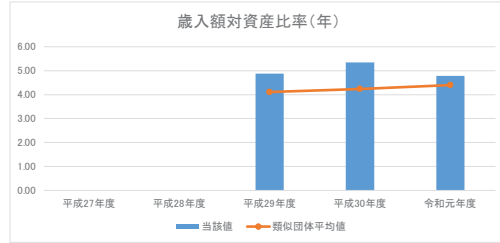
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | | 3,188,773 | 3,143,540 | 3,137,897 |
| 人口 | | | 6,223 | 6,124 | 5,995 |
| 当該値 | | | 512.4 | 513.3 | 523.4 |
| 類似団体平均値 | | | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

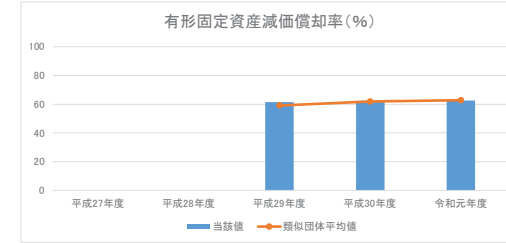
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | | 31,888 | 31,435 | 31,379 |
| 歳入総額 | | | 6,533 | 5,880 | 6,562 |
| 当該値 | | | 4.88 | 5.35 | 4.78 |
| 類似団体平均値 | | | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | | 30,098 | 30,779 | 31,484 |
| 有形固定資産 ※1 | | | 48,953 | 49,414 | 50,289 |
| 当該値 | | | 61.5 | 62.3 | 62.6 |
| 類似団体平均値 | | | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

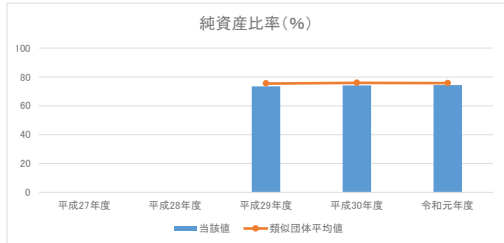
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

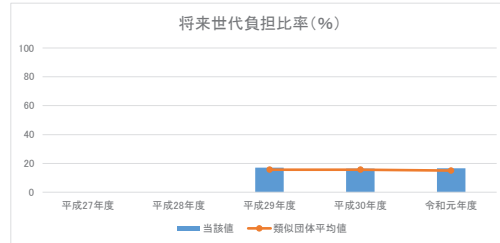
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | | 23,402 | 23,322 | 23,356 |
| 資産合計 | | | 31,888 | 31,435 | 31,379 |
| 当該値 | | | 73.4 | 74.2 | 74.4 |
| 類似団体平均値 | | | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | | 4,513 | 4,282 | 4,373 |
| 有形・無形固定資産合計 | | | 26,474 | 26,295 | 26,553 |
| 当該値 | | | 17.0 | 16.3 | 16.5 |
| 類似団体平均値 | | | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

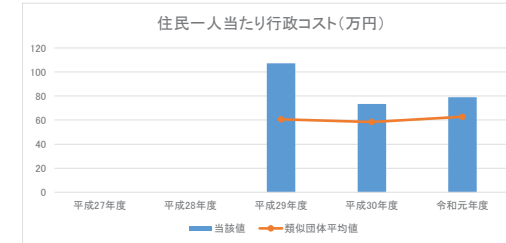
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

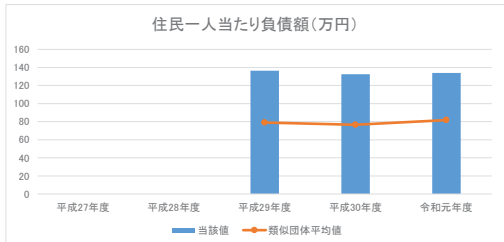
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 総行政コスト | | | 667,157 | 450,108 | 474,081 |
| 人口 | | | 6,223 | 6,124 | 5,995 |
| 当該値 | | | 107.2 | 73.5 | 79.1 |
| 類似団体平均値 | | | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

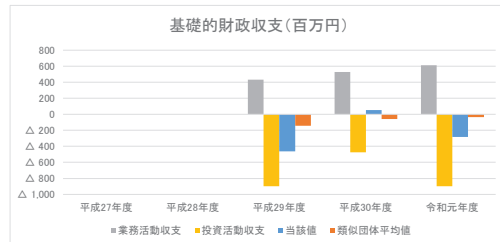
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | | 848,546 | 811,347 | 802,296 |
| 人口 | | | 6,223 | 6,124 | 5,995 |
| 当該値 | | | 136.4 | 132.5 | 133.8 |
| 類似団体平均値 | | | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | | 433 | 527 | 614 |
| 投資活動収支 ※2 | | | △ 897 | △ 474 | △ 898 |
| 当該値 | | | △ 464 | 53 | △ 284 |
| 類似団体平均値 | | | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

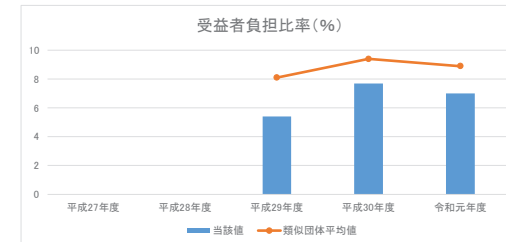
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | | 376 | 373 | 361 |
| 経常費用 | | | 6,992 | 4,872 | 5,123 |
| 当該値 | | | 5.4 | 7.7 | 7.0 |
| 類似団体平均値 | | | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額(歳入額対資産比率)は、合併前に旧市町毎に整備した公共施設があるため、保有する施設数が非合併団体よりも多く、類似団体平均を上回っている。しかし、老朽化した施設が多く、将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を経済するため、公共施設等総合管理計画に基づき公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

歳入額対資産比率については、公共施設等の改修・修繕事業を実施した結果により、類似団体平均を上回る結果となった。

有形固定資産減価償却率が類似団体と同様の水準であるが、これらの公共施設等の老朽化に伴い、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度で純資産が僅かに増加し資源を蓄積したことを意味しますが、純資産が減少した場合には、将来世代が利用可能な資源を過去及び現代が費消して便益を享受したことを意味するため、行政コストの削減に努める必要がある。

将来世代負担比率は、類似団体平均と同様の水準である。新規に発行する地方債の抑制を行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っており、また、昨年度に比べても増加している。特に、総行政コストのうち半数以上が物件費等(4割)であり、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。行財政改革への取組を通じて経費の削減に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っているが、地方債の償還が高い水準で推移している状況によるものと考えられる。公共施設等の整備により今後も地方債の借入が想定されることから、借入額の抑制や地方債残高の縮小に努める。

基礎的財政収支は、基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を上回ったため、▲284百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して社会資本整備事業など公共土木施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低くなっている。公共施設の使用料等の見直しや利用回数を上げるための取組を行うなどにより、受益者負担の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県下諏訪町
団体コード 203611

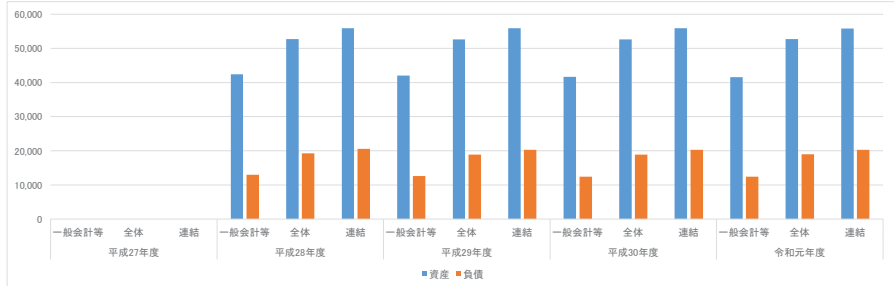
| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 19,859人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 178人 |
| 面積 | 66.87km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,790.336千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村V-2 | 実質公債費率 | 4.8% |
| | | 将来負担比率 | 70.4% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 42,405 | 42,022 | 41,700 | 41,586 |
| | 負債 | | 12,981 | 12,586 | 12,374 | 12,395 |
| 全体 | 資産 | | 52,745 | 52,596 | 52,618 | 52,709 |
| | 負債 | | 19,262 | 18,909 | 18,913 | 19,000 |
| 連結 | 資産 | | 55,898 | 55,885 | 55,884 | 55,832 |
| | 負債 | | 20,594 | 20,325 | 20,327 | 20,302 |

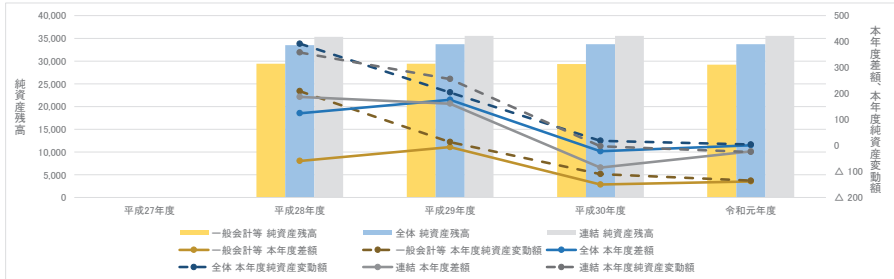


分析: 一般会計等の資産の部では、資産の減価償却(△9億5,900万円)の影響があったものの、水上防災拠点施設・艇庫の建築(+3億7,700万円)や小中学校のエアコン設置(+3億700万円)、赤砂崎公園の整備(+1億8,900万円)などにより、新たな資産が14億3,100万円増加したことで、有形固定資産合計では、前年度比4億2,200万円の増となったが、投資その他の資産に計上されている温泉事業特別会計への長期貸付金の減(△1億9,700万円)、基金の取り崩しによる減(△3億3,200万円)等により、資産合計では前年度比△1億1,300万円の415億8,600万円となった。一方、負債の部では、計画的に進めている土地開発公社への補填により損失補償等引当金が減(△2億3,900万円)となったものの、地方債の増(+2億4,800万円)があったことで、負債合計では前年度比+2,100万円の123億9,500万円となった。全体の資産の部では、期首と比較すると9,100万円の増となっている。特定目的基金を活用した投資的事業の実施により、固定資産の基金が3億3,200万円の減となっている一方、有形固定資産が4億4,700万円の増となったことが主な要因となっている。、連結の資産の部では、全体会計と比較すると31億2,300万円の増となっている。湖北行政事務組合の火葬場・し尿処理施設や湖周行政事務組合のこみ処理施設などが事業用資産に、土地開発公社の所有する土地が取得目的に応じて事業用資産や棚卸資産に計上されている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 59 | △ 6 | △ 150 | △ 138 |
| | 本年度純資産変動額 | | 209 | 13 | △ 110 | △ 135 |
| | 純資産残高 | | 29,423 | 29,436 | 29,326 | 29,191 |
| 全体 | 本年度差額 | | 124 | 176 | △ 22 | 1 |
| | 本年度純資産変動額 | | 392 | 204 | 18 | 4 |
| | 純資産残高 | | 33,483 | 33,687 | 33,705 | 33,709 |
| 連結 | 本年度差額 | | 187 | 161 | △ 85 | △ 22 |
| | 本年度純資産変動額 | | 358 | 256 | △ 3 | △ 25 |
| | 純資産残高 | | 35,304 | 35,559 | 35,557 | 35,532 |

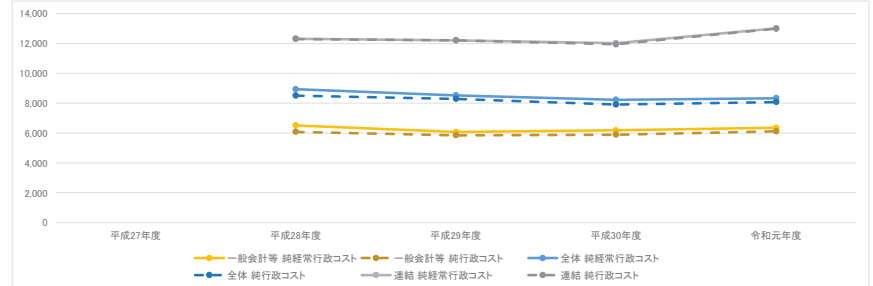


分析: 一般会計等においては、当町では純行政コスト61億2,100万円に対し、財源が59億8,400万円となっており、本年度差額は△1億3,800万円となることから、純資産は減少していますが、これは純行政コストに減価償却費の9億5,900万円が含まれており、資産の老朽化が進んでいることなどが一因となっていると考えられる。全体では、純資産残高が33億900万円、前年度(本年度期首)に対し400万円の増となりました。行政コスト計算書にて示されている純行政コスト80億7,400万円に対し、町税や地方交付税、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料などの徴収等や連結した会計の国庫支出金などの財源総額80億7,600万円が生じたコストを隔ったことによるものである。連結では、純資産残高が35億3,200万円となり、平成30年度末の35億5,700万円からは2,500万円ほど減少しておりますが、これは純行政コストに減価償却費の15億6,600万円が含まれており、資産の老朽化が進んでいることなどが要因となっていると考えられます。今後は、一般会計では公共施設等総合管理計画、上下水道事業では経営戦略といった各種計画に沿って適切に施設の維持・改修を行っていく。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 6,510 | 6,078 | 6,180 | 6,353 |
| | 純行政コスト | | 6,081 | 5,847 | 5,888 | 6,121 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 8,940 | 8,533 | 8,228 | 8,333 |
| | 純行政コスト | | 8,508 | 8,299 | 7,912 | 8,075 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 12,322 | 12,200 | 12,024 | 13,016 |
| | 純行政コスト | | 12,296 | 12,212 | 11,948 | 12,996 |

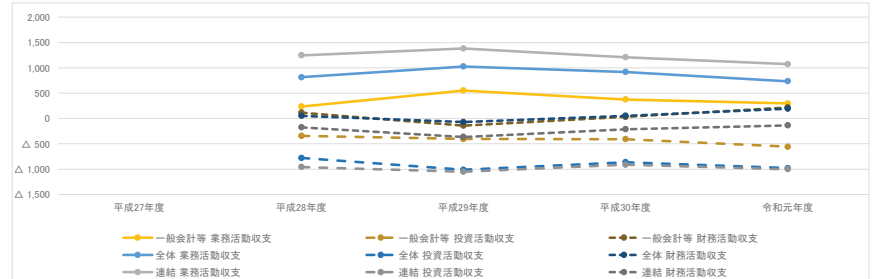


分析: 一般会計等においては、純行政コスト総額では前年度に対し2億3,000万円の増となった。主な要因としては、長野県後期高齢者医療広域連合療養給付費負担金の増(+4,900万円)をはじめ、湖周行政事務組合負担金の増(+2,700万円)、制度融資信用保証料補給金の増(+1,700万円)等による補助金等の増によるものである。全体では、一般会計等と比較すると、純行政コスト総額で19億5,300万円の増となっており、連結することによって人件費や物件費の業務費用が1億2,900万円の増、国民健康保険特別会計の給付費などの補助金等により移転費用が20億5,600万円増加しています。また、水道料金や下水道使用料などにより経常収益が12億300万円の増となっており、収入も増となっていることがわかる。連結では、全体会計と比較すると、純行政コスト総額で49億2,100万円増の129億9,600万円となっている。この要因としては、諏訪広域連合の所管する介護保険特別会計の給付費などにより補助金等が増額となっているほか、長野県後期高齢者医療広域連合による社会保障給付が計上されていることなどにより、移転費用が40億3,400万円の増となっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 235 | 551 | 373 | 296 |
| | 投資活動収支 | | △ 343 | △ 405 | △ 410 | △ 556 |
| | 財務活動収支 | | 114 | △ 141 | 31 | 217 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 813 | 1,025 | 916 | 733 |
| | 投資活動収支 | | △ 778 | △ 1,011 | △ 862 | △ 980 |
| | 財務活動収支 | | 53 | △ 70 | 53 | 193 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,247 | 1,381 | 1,209 | 1,073 |
| | 投資活動収支 | | △ 957 | △ 1,051 | △ 911 | △ 1,000 |
| | 財務活動収支 | | △ 176 | △ 366 | △ 214 | △ 137 |



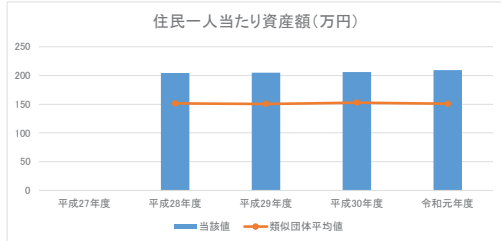
分析: 一般会計等においては、業務活動収支では、収入合計59億9,200万円、支出合計56億6,600万円となり収支差額2億9,600万円が収支差額となった。投資活動収支では、公共施設等の整備に充当した国庫等補助金(2億8,700万円)や貸付金の元金回収(7億1,000万円)、特定目的基金の取崩(3億5,200万円)など、総額13億5,000万円の収入があったものの、支出では公共施設等整備支出(13億9,900万円)、資金の貸付金(5億1,300万円)、基金の積立(2,300万円)等の影響により、総額19億500万円となったことで、投資活動収支額は△5億5,600万円の赤字となった。財務活動収支額は、2億700万円の黒字となりましたが、「負債」の返済に係る支出が財源を確保するための借入よりも下回ったことで、資金収支による変動においては、将来世代の負担が増加したことを示しています。全体では、令和元年度の資金収支額は5,400万円の赤字となり、期末資金残高は8億2,800万円となりました。連結では、令和元年度の資金収支額は6,400万円の赤字となり、期末資金残高は12億円となりました。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

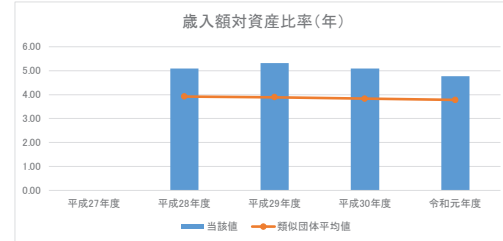
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 4,240,455 | 4,202,204 | 4,169,977 | 4,158,611 |
| 人口 | | 20,744 | 20,492 | 20,243 | 19,859 |
| 当該値 | | 204.4 | 205.1 | 206.0 | 209.4 |
| 類似団体平均値 | | 151.2 | 150.4 | 152.7 | 150.9 |



②歳入額対資産比率(年)

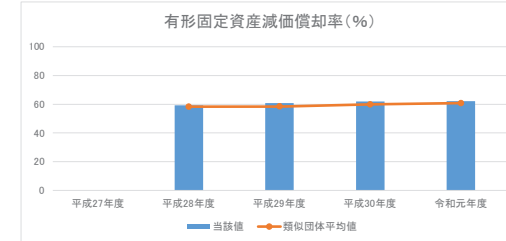
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 42,405 | 42,022 | 41,700 | 41,586 |
| 歳入総額 | | 8,326 | 7,902 | 8,197 | 8,725 |
| 当該値 | | 5.09 | 5.32 | 5.09 | 4.77 |
| 類似団体平均値 | | 3.92 | 3.89 | 3.83 | 3.78 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 23,737 | 24,558 | 25,426 | 26,350 |
| 有形固定資産 ※1 | | 40,047 | 40,393 | 41,079 | 42,333 |
| 当該値 | | 59.3 | 60.8 | 61.9 | 62.2 |
| 類似団体平均値 | | 58.3 | 58.4 | 59.9 | 60.8 |

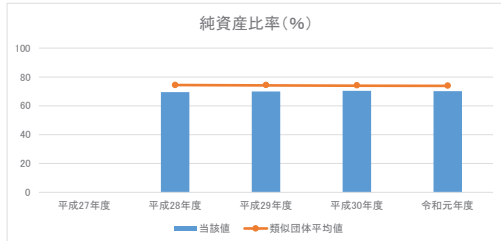
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

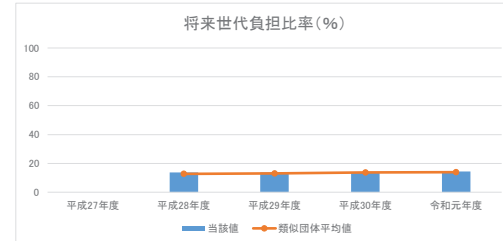
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 29,423 | 29,436 | 29,326 | 29,191 |
| 資産合計 | | 42,405 | 42,022 | 41,700 | 41,586 |
| 当該値 | | 69.4 | 70.0 | 70.3 | 70.2 |
| 類似団体平均値 | | 74.4 | 74.2 | 74.0 | 73.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 5,348 | 5,218 | 5,258 | 5,565 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 38,702 | 38,365 | 38,417 | 38,874 |
| 当該値 | | 13.8 | 13.6 | 13.7 | 14.3 |
| 類似団体平均値 | | 12.7 | 13.0 | 13.6 | 13.9 |

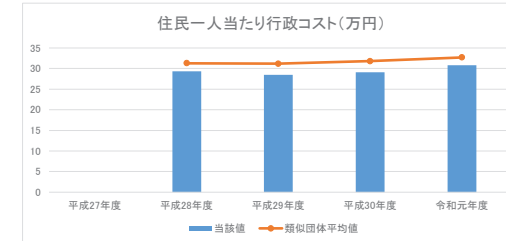
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

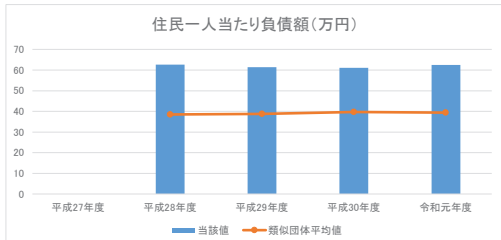
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 608,119 | 584,748 | 588,791 | 612,148 |
| 人口 | | 20,744 | 20,492 | 20,243 | 19,859 |
| 当該値 | | 29.3 | 28.5 | 29.1 | 30.8 |
| 類似団体平均値 | | 31.3 | 31.2 | 31.8 | 32.7 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

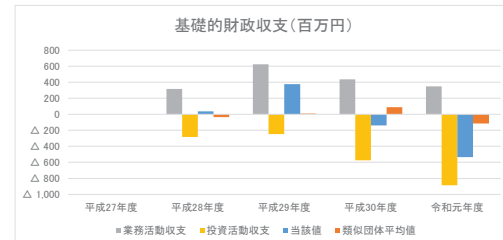
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 1,298,139 | 1,258,581 | 1,237,396 | 1,239,515 |
| 人口 | | 20,744 | 20,492 | 20,243 | 19,859 |
| 当該値 | | 62.6 | 61.4 | 61.1 | 62.4 |
| 類似団体平均値 | | 38.5 | 38.7 | 39.7 | 39.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 316 | 625 | 435 | 350 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 281 | △ 247 | △ 575 | △ 885 |
| 当該値 | | 35 | 378 | △ 140 | △ 535 |
| 類似団体平均値 | | △ 33.0 | 10.6 | 87.1 | △ 115.8 |

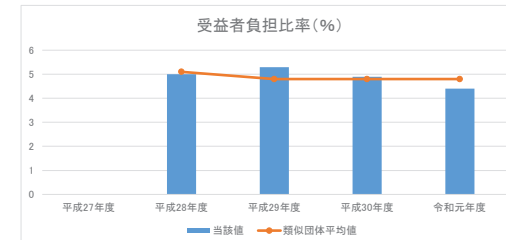
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 342 | 341 | 318 | 292 |
| 経常費用 | | 6,852 | 6,420 | 6,498 | 6,645 |
| 当該値 | | 5.0 | 5.3 | 4.9 | 4.4 |
| 類似団体平均値 | | 5.1 | 4.8 | 4.8 | 4.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は類似団体平均に比べ58万5千円の増となっている。住民の資産が多いことはプラスと考えることができる一方、資産が多ければ多いほど今後の維持コストもかかってくるようになるため、後年度の見通しについて適切に行い持続可能な財政運営に努める。
歳入額対資産比率においては、類似団体と比べると高く、過去に道路や公共施設などの社会資本整備を重点的に進めた結果だと見える。

有形固定資産減価償却率は類似団体との比較では、当町の数値はほぼ同数値と標準的な水準となっている。今後は、公共施設総合管理計画に基づき計画的な改修を行っていくことでこの数値を維持、更には改善していく。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均を若干下回っているが、負債の大半を占めているのは、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債である。このため、臨時財政対策債等の特例的な地方債を除いた地方債残高を分子とした場合、社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す将来世代負担比率は、類似団体平均と同程度の14.3%となっている。有利な財源である国庫補助金、交付税措置のある起債等を活用しながら資産を形成してきた結果がこの数値に現れていると思われる。今後後世代間の負担バランスに配慮しながら事業等を進めていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは、類似団体と比べ△1.9万円の減の30.8万円となっており、良好な結果が示されている。これは、純行政コストのうち大きな割合をしめる人件費について、『行政経営プラン』に基づいて計画的に人件費の削減を図ってきた成果であり、引き続き、定員適正化計画等を基に、職員の人件費管理に努め、人件費抑制を進めていく。

4. 負債の状況

負債の状況では、当町の数値は類似団体平均を大幅に上回っており、近年実施してきた大型の投資的事業により、地方債の残高が増えてきていることが影響している。また、赤砂崎開発用地等の売却損における損失補償等引当金8億5,200万円の計上も数値を引き上げる大きな要因となっている。
地方債残高の抑制に努めるほか、経常的な財源の確保や経常経費の見直しを図る必要があり、行政経営プランや公共施設総合管理計画により、計画的な事業展開を進めていくことが大切となる。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体と比べ若干下回っている。使用料・手数料等について、定期的な見直しを行い、受益者負担の原則に基づき、適正かつ公平な徴収を目指していく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

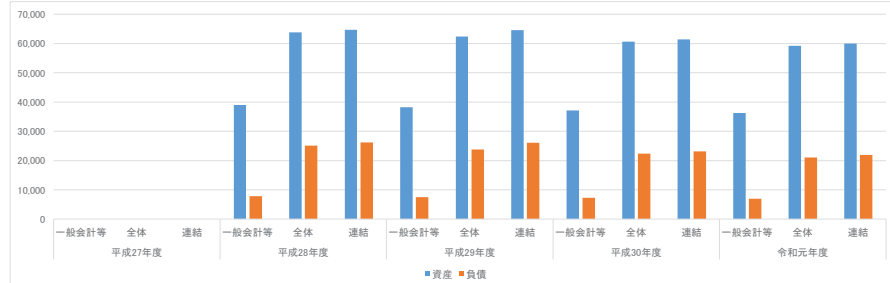
団体名 長野県富士見町
団体コード 203629

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 14,469人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 148人 |
| 面積 | 144.76km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,865.078千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-1 | 実質公債費率 | 4.9% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

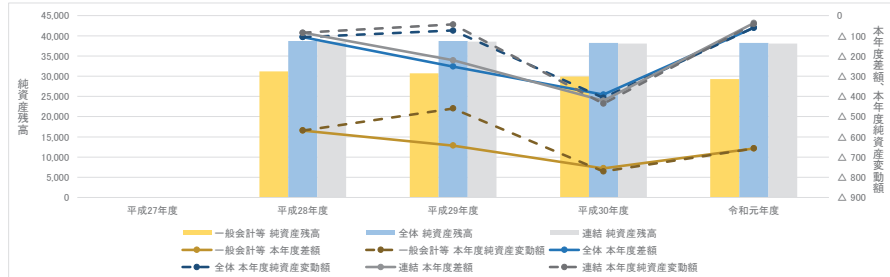
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 38,957 | 38,215 | 37,178 | 36,245 |
| | 負債 | | 7,785 | 7,502 | 7,236 | 6,960 |
| 全体 | 資産 | | 63,812 | 62,439 | 60,648 | 59,232 |
| | 負債 | | 25,064 | 23,765 | 22,379 | 21,023 |
| 連結 | 資産 | | 64,724 | 64,559 | 61,377 | 59,993 |
| | 負債 | | 26,155 | 26,034 | 23,114 | 21,945 |



分析:
一般会計等において、資産総額が前年度から933百万円の減少(△2.5%)となった。事業用資産では建物が154百万円増加し、インフラ資産では工作物が209百万円増加した。基金では、財政調整基金の積立により66百万円の増加となった。負債総額は276百万円の減少(-3.8%)となった。地方債の償還が着実に進んでおり、固定負債は274百万円減少した。
全体では、水道事業会計、下水道事業会計の資産額が24,529百万円、観光施設貸付事業特別会計の資産額が1,546百万円となり、資産総額は59,232百万円となっている。負債額は、水道事業会計、下水道事業会計で14,661百万円と多額ではあるが、地方債の償還は着実に進んでいる。また観光施設貸付事業特別会計では2,851百万円となっている。
第三セクターの富士見町開発公社や富士見メカソーラー株式会社等を加えた連結では、総資産額は59,993百万円、総負債額は21,945百万円となっている。

3. 純資産変動の状況

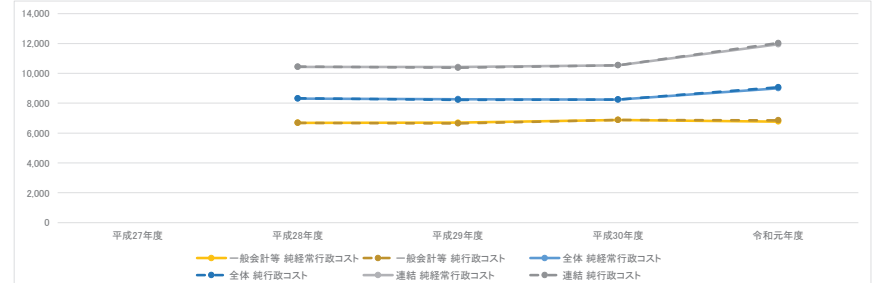
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 569 | △ 643 | △ 756 | △ 657 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 569 | △ 460 | △ 771 | △ 657 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 106 | △ 252 | △ 391 | △ 60 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 106 | △ 74 | △ 407 | △ 60 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 85 | △ 221 | △ 421 | △ 37 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 85 | △ 44 | △ 436 | △ 42 |



分析:
一般会計等において、収支等の財源(6,195百万円)が純行政コスト(6,852百万円)を下回っており、本年度差額は△657百万円となり、純資産残高は657百万円の減少となった。経常費用の抑制を図るとともに、地方債の徴収業務の強化等により収支等の増加に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計等の保険料が収支等に含まれることから、一般会計等と比べ収支等が1,831百万円多くっており、本年度差額は△60百万円となり、純資産残高は60百万円の減額となった。
連結では、後期高齢者医療広域連合への国庫補助金等が含まれることから、一般会計等と比べて財源が8,800百万円多くっており、本年度差額は△37百万円となり、純資産残高は42百万円の減額となった。

2. 行政コストの状況

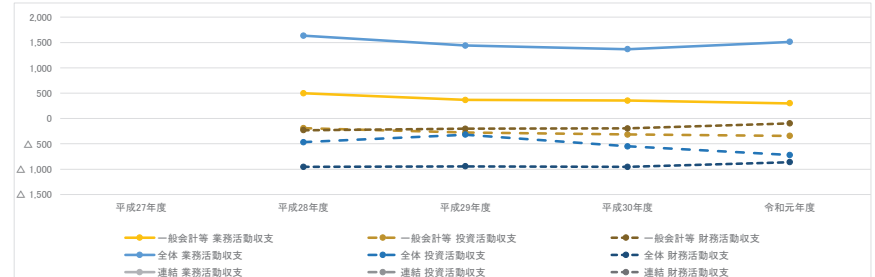
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 6,684 | 6,694 | 6,877 | 6,777 |
| | 純行政コスト | | 6,684 | 6,647 | 6,880 | 6,852 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 8,310 | 8,273 | 8,243 | 9,001 |
| | 純行政コスト | | 8,321 | 8,223 | 8,255 | 9,069 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 10,438 | 10,428 | 10,538 | 11,949 |
| | 純行政コスト | | 10,448 | 10,378 | 10,542 | 12,032 |



分析:
一般会計等において、経常費用は7,096百万円であり、そのうち、人件費等の業務費用は3,999百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は3,097百万円である。業務費用で最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等であり、純行政コストの43.0%を占めている。公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減を図る。
全体では、一般会計等と比べて、水道使用料等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,127百万円多くとなっている。一方、国民健康保険や後期高齢者医療保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,762百万円多くなり、純行政コストは2,217百万円多くとなっている。
連結では、連結対象団体の事業収益を計上し、一般会計等と比べて、経常収益が2,559百万円多くとなっている一方、人件費が641百万円多くとなっているなど、経常費用が7,731百万円多くなり、純行政コストは5,180百万円多くとなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 498 | 366 | 352 | 297 |
| | 投資活動収支 | | △ 191 | △ 278 | △ 317 | △ 344 |
| | 財務活動収支 | | △ 233 | △ 204 | △ 197 | △ 97 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,634 | 1,438 | 1,366 | 1,510 |
| | 投資活動収支 | | △ 468 | △ 321 | △ 551 | △ 720 |
| | 財務活動収支 | | △ 954 | △ 944 | △ 954 | △ 863 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | | |
| | 投資活動収支 | | | | | |
| | 財務活動収支 | | | | | |



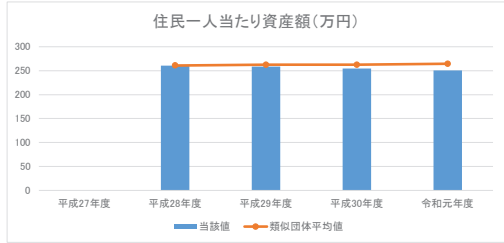
分析:
一般会計等において、業務活動収支は297百万円であったが、投資活動収支については、継続的に道路や橋梁の修繕に多額の費用がかかっているため△344百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△97百万円となり、本年度末資金残高は前年度から144百万円減少し、53百万円となった。地方債の償還は進んでおり、経常的な活動に係る経費は収支等の収入で賄えている状況である。
全体では、国民健康保険料等が収支等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より1,213百万円多い1,510百万円となっている。投資活動収支は720百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△863百万円となり、本年度末資金残高は前年度から72百万円減少し、2,996百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

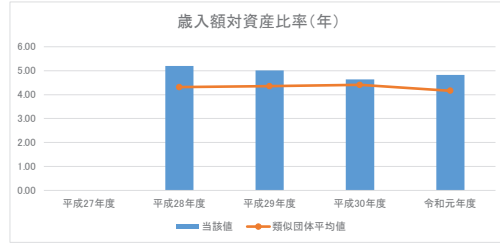
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,895,718 | 3,821,451 | 3,717,785 | 3,624,488 |
| 人口 | | 14,956 | 14,787 | 14,591 | 14,469 |
| 当該値 | | 260.5 | 258.4 | 254.8 | 250.5 |
| 類似団体平均値 | | 260.8 | 262.3 | 262.3 | 264.5 |



②歳入額対資産比率(年)

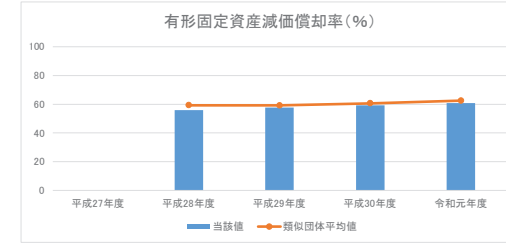
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 38,957 | 38,215 | 37,178 | 36,245 |
| 歳入総額 | | 7,494 | 7,628 | 8,033 | 7,498 |
| 当該値 | | 5.20 | 5.01 | 4.63 | 4.83 |
| 類似団体平均値 | | 4.31 | 4.35 | 4.41 | 4.16 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 35,185 | 36,436 | 37,726 | 39,029 |
| 有形固定資産 ※1 | | 62,797 | 63,147 | 63,703 | 64,079 |
| 当該値 | | 56.0 | 57.7 | 59.2 | 60.9 |
| 類似団体平均値 | | 59.3 | 59.2 | 60.6 | 62.5 |

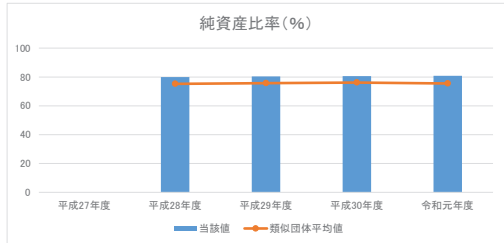
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

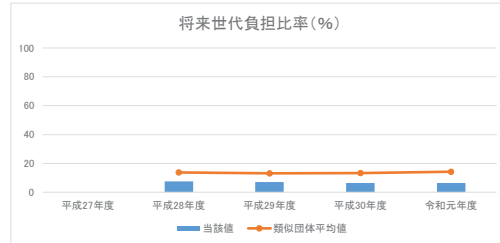
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 31,173 | 30,713 | 29,941 | 29,284 |
| 資産合計 | | 38,957 | 38,215 | 37,178 | 36,245 |
| 当該値 | | 80.0 | 80.4 | 80.5 | 80.8 |
| 類似団体平均値 | | 75.2 | 75.7 | 76.1 | 75.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,321 | 2,072 | 1,835 | 1,754 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 30,396 | 29,492 | 28,837 | 27,925 |
| 当該値 | | 7.6 | 7.0 | 6.4 | 6.3 |
| 類似団体平均値 | | 13.7 | 13.1 | 13.2 | 14.2 |

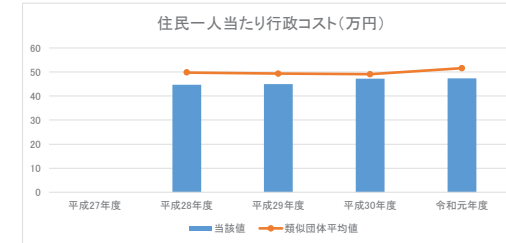
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

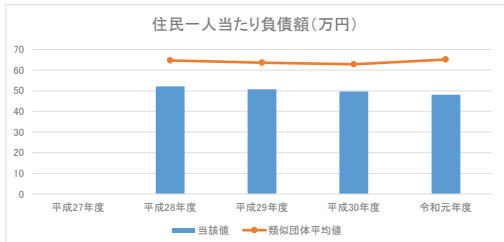
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 668,358 | 664,699 | 687,981 | 685,165 |
| 人口 | | 14,956 | 14,787 | 14,591 | 14,469 |
| 当該値 | | 44.7 | 45.0 | 47.2 | 47.4 |
| 類似団体平均値 | | 49.8 | 49.3 | 49.1 | 51.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

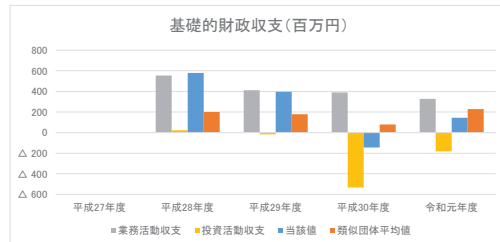
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 778,461 | 750,195 | 723,635 | 696,040 |
| 人口 | | 14,956 | 14,787 | 14,591 | 14,469 |
| 当該値 | | 52.1 | 50.7 | 49.6 | 48.1 |
| 類似団体平均値 | | 64.7 | 63.6 | 62.8 | 65.1 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 554 | 412 | 390 | 327 |
| 投資活動収支 ※2 | | 24 | △16 | △533 | △183 |
| 当該値 | | 578 | 396 | △143 | 144 |
| 類似団体平均値 | | 200.0 | 179.7 | 78.9 | 226.8 |

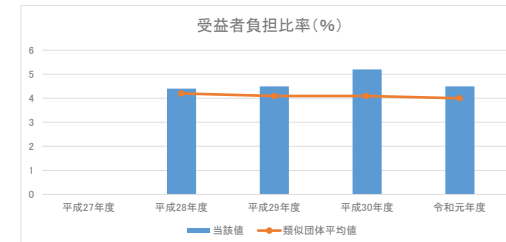
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 307 | 315 | 379 | 319 |
| 経常費用 | | 6,990 | 7,009 | 7,256 | 7,096 |
| 当該値 | | 4.4 | 4.5 | 5.2 | 4.5 |
| 類似団体平均値 | | 4.2 | 4.1 | 4.1 | 4.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たりの資産額は類似団体平均を14.0万円下回っている。歳入額対資産比率は0.67上回っている。有形固定資産減価償却率では、類似団体平均を1.6ポイント下回っているものの、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を5.4ポイント上回った。純行政コストが収支等の財源が上回ったことから純資産が減少し、前年度から0.3ポイント増加している。純資産の減少は将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が費消して便益を享受したことを意味するため、経常費用等の見直しにより行政コストの削減に努める。
将来世代負担比率は類似団体平均を7.9ポイント下回っており、また、前年度と比べて0.1ポイント減少している。確実に償還は進めるとともに、地方債の新規発行は財政状況を勘案し、将来世代の負担の軽減を図る。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは類似団体平均を4.2万円下回っているが、人口減少が続く中、老朽化した施設の維持管理費が増加すると予測されるため、事業の適正化を図り、経常費用の抑制に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は類似団体平均を17.0万円下回っており、前年度から1.5万円減少している。地方債の発行額が償還額を下回っているため減少しているが、地方債の大半を占める臨時財政対策債は発行し続けており、残高は3,698百万円(地方債残高の68.1%)となっている。なお、臨時財政対策債を除く地方債の残高は83百万円減少している。
基礎的財政収支は、業務活動収支は黒字であるものの、投資活動収支は赤字であり、144百万円となっており、類似団体平均を82.8百万円下回っている。経常的な支出は収支等の収入で賄えている状況である。

5. 受益者負担の状況

前年度から経常費用が減少したため受益者負担比率が減少したものの、類似団体平均を上回った。施設の老朽化に伴い、維持補修費等の増加が見込まれることから、公共施設等総合管理計画に基づき、兼約化・複合化・長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

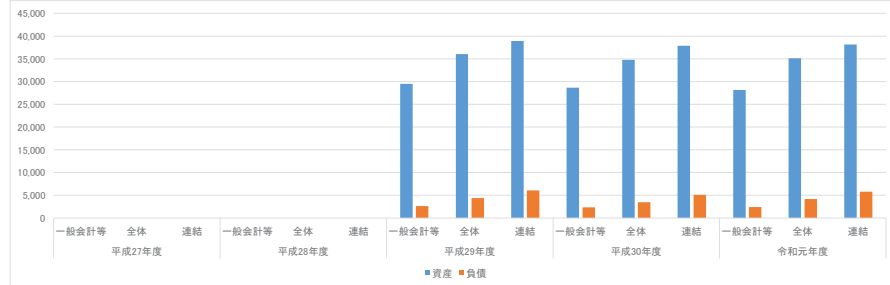
団体名 長野県原村
団体コード 203637

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 8,035 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 92 人 |
| 面積 | 43.26 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 2,730.617 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-O | 実質公債費率 | 6.2 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

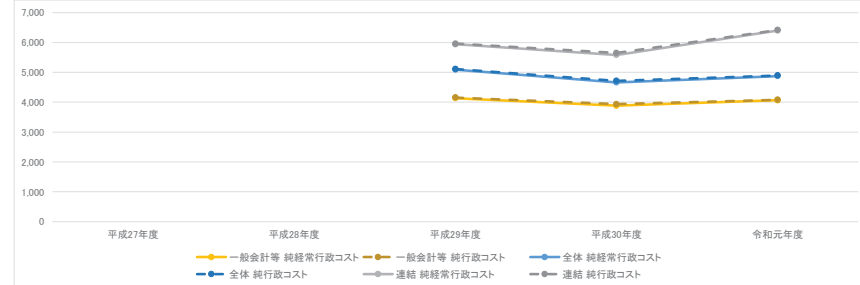
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | | 29,461 | 28,667 | 28,192 |
| | 負債 | | | 2,658 | 2,354 | 2,391 |
| 全体 | 資産 | | | 36,002 | 34,767 | 35,124 |
| | 負債 | | | 4,413 | 3,468 | 4,155 |
| 連結 | 資産 | | | 38,941 | 37,839 | 38,161 |
| | 負債 | | | 6,103 | 5,117 | 5,802 |



分析:
一般会計等において、資産総額が前年度末から476百万円減少している(-1.7%)が、減価償却の影響だと考えられる。
連結において、負債総額が685百万円増加している(+13.4%)が、連結団体において負債である預り金が変化したことによるものだと考えられる。

2. 行政コストの状況

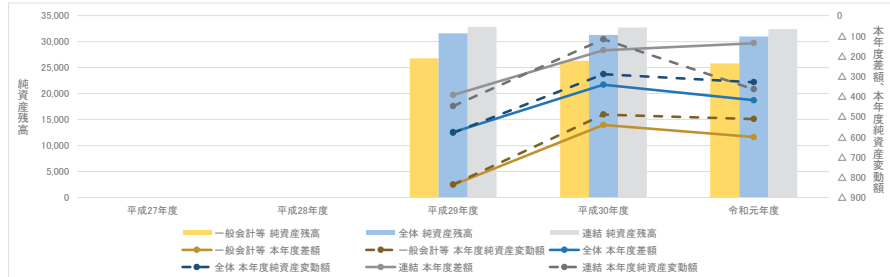
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | | 4,134 | 3,886 | 4,068 |
| | 純行政コスト | | | 4,155 | 3,938 | 4,084 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | | 5,091 | 4,663 | 4,878 |
| | 純行政コスト | | | 5,112 | 4,715 | 4,894 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | | 5,939 | 5,581 | 6,400 |
| | 純行政コスト | | | 5,963 | 5,650 | 6,418 |



分析:
連結において、純経常行政コストが819百万円増加している(+14.7%)が、連結団体における退職手当引当金繰入額の増加等が原因として考えられる。

3. 純資産変動の状況

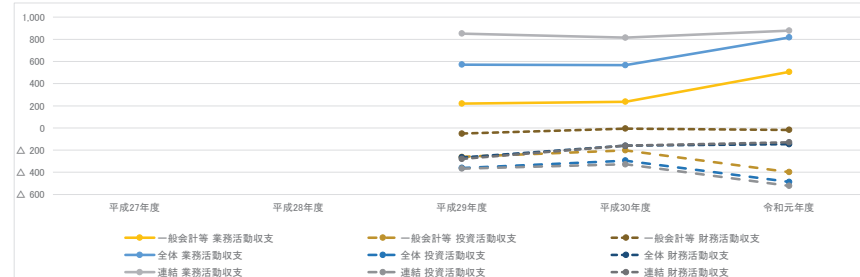
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | | △ 838 | △ 541 | △ 601 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 836 | △ 490 | △ 512 |
| | 純資産残高 | | | 26,803 | 26,314 | 25,803 |
| 全体 | 本年度差額 | | | △ 577 | △ 342 | △ 419 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 580 | △ 290 | △ 330 |
| | 純資産残高 | | | 31,589 | 31,299 | 30,969 |
| 連結 | 本年度差額 | | | △ 393 | △ 171 | △ 137 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 448 | △ 117 | △ 364 |
| | 純資産残高 | | | 32,838 | 32,722 | 32,359 |



分析:
純資産残高は、一般会計等・全体・連結のいずれの会計においてもプラスである。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | | 220 | 237 | 506 |
| | 投資活動収支 | | | △ 261 | △ 202 | △ 398 |
| | 財務活動収支 | | | △ 50 | △ 6 | △ 18 |
| 全体 | 業務活動収支 | | | 572 | 567 | 816 |
| | 投資活動収支 | | | △ 361 | △ 295 | △ 486 |
| | 財務活動収支 | | | △ 266 | △ 160 | △ 146 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | 851 | 815 | 878 |
| | 投資活動収支 | | | △ 367 | △ 327 | △ 522 |
| | 財務活動収支 | | | △ 279 | △ 160 | △ 129 |



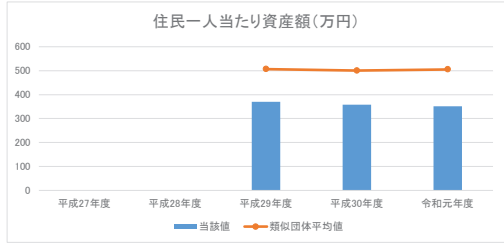
分析:
一般会計等の業務活動収支が前年度末から269百万円増加している(+13.5%)が、令和元年度原村土地開発公社解散に伴う清算金の臨時収入の影響と考えられる。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

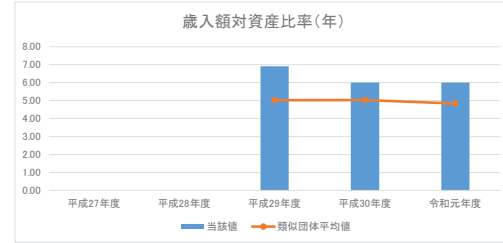
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | | 2,946,114 | 2,866,737 | 2,819,240 |
| 人口 | | | 7,960 | 8,003 | 8,035 |
| 当該値 | | | 370.1 | 358.2 | 350.9 |
| 類似団体平均値 | | | 506.6 | 500.6 | 505.5 |



②歳入額対資産比率(年)

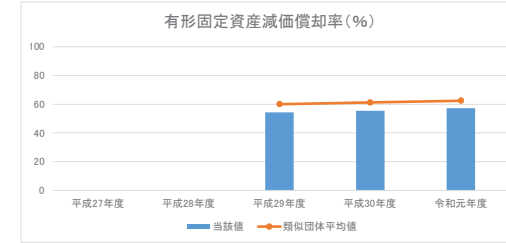
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | | 29,461 | 28,667 | 28,192 |
| 歳入総額 | | | 4,255 | 4,781 | 4,698 |
| 当該値 | | | 6.92 | 6.00 | 6.00 |
| 類似団体平均値 | | | 5.02 | 5.03 | 4.84 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | | 27,376 | 28,356 | 29,431 |
| 有形固定資産 ※1 | | | 50,437 | 51,067 | 51,374 |
| 当該値 | | | 54.3 | 55.5 | 57.3 |
| 類似団体平均値 | | | 60.0 | 61.2 | 62.4 |

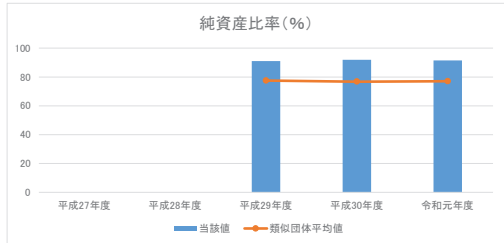
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

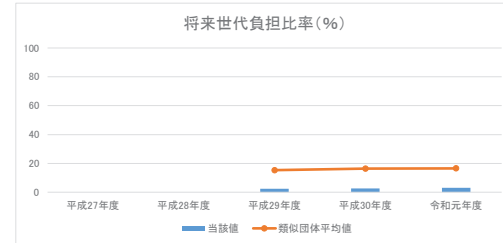
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | | 26,803 | 26,314 | 25,803 |
| 資産合計 | | | 29,461 | 28,667 | 28,192 |
| 当該値 | | | 91.0 | 91.8 | 91.5 |
| 類似団体平均値 | | | 77.5 | 76.7 | 77.0 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | | 622 | 693 | 786 |
| 有形・無形固定資産合計 | | | 26,268 | 26,054 | 25,416 |
| 当該値 | | | 2.4 | 2.7 | 3.1 |
| 類似団体平均値 | | | 15.3 | 16.4 | 16.5 |

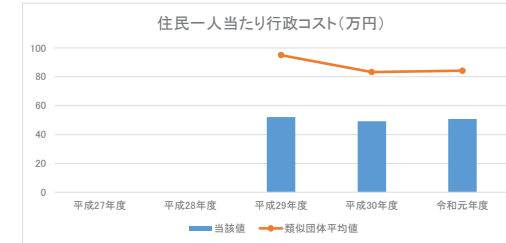
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

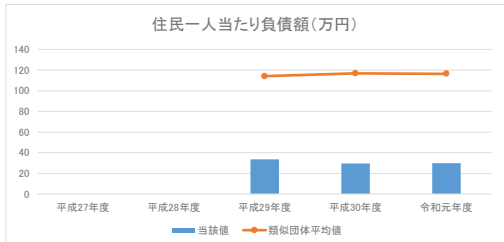
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | | 415,535 | 393,814 | 408,360 |
| 人口 | | | 7,960 | 8,003 | 8,035 |
| 当該値 | | | 52.2 | 49.2 | 50.8 |
| 類似団体平均値 | | | 95.0 | 83.3 | 84.3 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

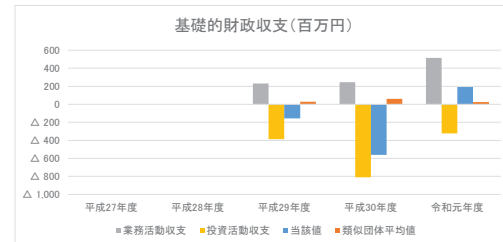
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | | 265,784 | 235,367 | 239,100 |
| 人口 | | | 7,960 | 8,003 | 8,035 |
| 当該値 | | | 33.4 | 29.4 | 29.8 |
| 類似団体平均値 | | | 114.1 | 116.8 | 116.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | | 230 | 246 | 513 |
| 投資活動収支 ※2 | | | △ 387 | △ 808 | △ 322 |
| 当該値 | | | △ 157 | △ 562 | 191 |
| 類似団体平均値 | | | 28.1 | 61.7 | 23.0 |

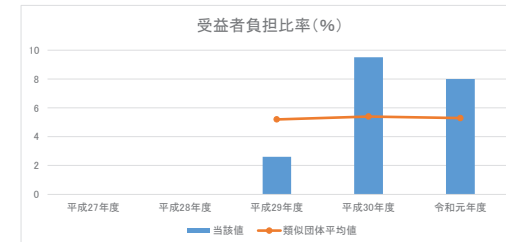
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | | 112 | 410 | 354 |
| 経常費用 | | | 4,246 | 4,296 | 4,422 |
| 当該値 | | | 2.6 | 9.5 | 8.0 |
| 類似団体平均値 | | | 5.2 | 5.4 | 5.3 |



分析欄:

1. 資産の状況

・人口は増加傾向であるのに対し、保有する資産の減価償却の影響により資産額は年々減少していることから、住民一人当たりの資産額は減少傾向にある。
・類似団体平均値と比べ、住民一人当たりの資産額は少ないが、これは原村が保有する資産及び負債がともに類似の他団体に比べ少ないからだと考えられる。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率が類似団体平均を上回っている。現段階において保有する有形固定資産を、将来世代に負担させることなく形成することができている。
・将来世代負担率においても類似団体平均を下回っていることから、無理な起債発行を抑えられていることがわかる。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たりの行政コストは類似団体平均を下回っているが、人口のわりに行政コストがかかっていないことがわかる。

4. 負債の状況

・住民一人当たりの負債額は、類似団体平均値と比べると少ないことから、無理な起債発行を抑えられていることがわかる。
・基礎的財政収支(業務活動収支+投資活動収支)がプラスとなっていることから、地方債を除く歳入が歳入を上回っていることがわかる。今後、公共施設の整備や高齢化対策等を行うこと(投資的活動)により、当該値がマイナスになることも考えられる。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担率は類似団体平均を上回っているが、経常収益(使用料・手数料の収入等)が他団体に比べ少ないことが原因の一つと考えられる。3の行政コストの状況において分析した、行政コストが人口のわりにかかっていないこともあわせて、人口が同じ規模の他団体と比べ、行政サービスの提供や事業数が少ないまたは規模が小さいことが考えられる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

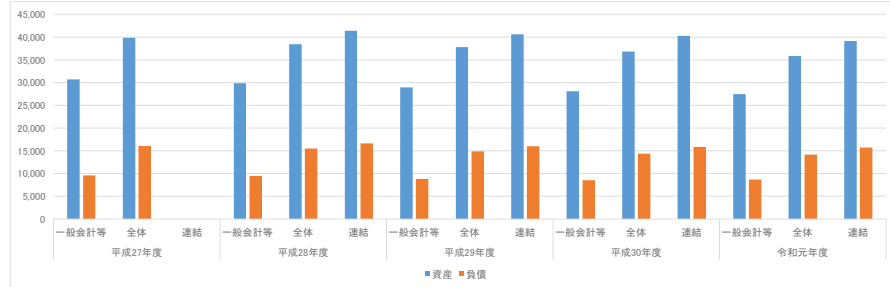
団体名 長野県辰野町
団体コード 203823

| | | | |
|--------|------------------------|------------|--------|
| 人口 | 19,405 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 180 人 |
| 面積 | 169.20 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 5,686,089 千円 | 連結実赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村IV-1 | 実質公債費率 | 8.7 % |
| | | 将来負担比率 | 21.4 % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

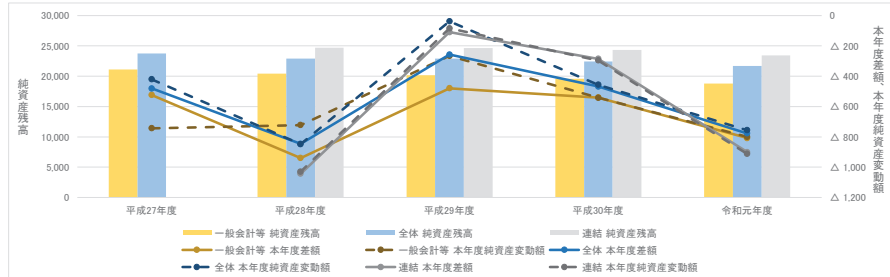
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 30,704 | 29,831 | 28,948 | 28,115 | 27,455 |
| | 負債 | 9,576 | 9,426 | 8,809 | 8,519 | 8,658 |
| 全体 | 資産 | 39,846 | 38,422 | 37,766 | 36,801 | 35,831 |
| | 負債 | 16,070 | 15,494 | 14,876 | 14,367 | 14,153 |
| 連結 | 資産 | | 41,368 | 40,630 | 40,217 | 39,099 |
| | 負債 | | 16,657 | 16,004 | 15,885 | 15,680 |



分析:
一般会計等の資産は対前年比で660百万円の減、負債は139百万円の増であり、全体の資産は対前年比で970百万円の減、負債は214百万円の減となっている。資産における減少要因としては一般会計等における学校施設等を中心とした建物や道路・水路におけるインフラ施設の経年による減価償却累計額の増加が主なものである。負債における増加要因としては地方債の新規発行額の増加が主なものである。
引き続き、学校施設環境改善交付金や交付税措置のある起債を活用した学校施設等の改修、また、インフラ資産においては社会資本整備総合交付金事業などを活用した道路整備など、町の実施計画や公共施設等総合管理計画に基づいた計画的な更新を行っている。

3. 純資産変動の状況

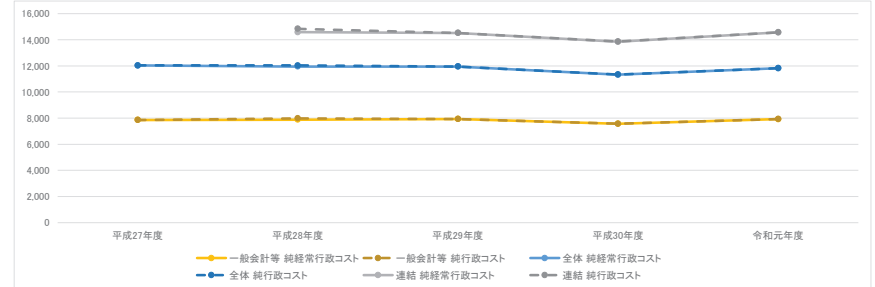
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 524 | △ 940 | △ 480 | △ 541 | △ 808 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 744 | △ 723 | △ 266 | △ 542 | △ 800 |
| | 純資産残高 | 21,128 | 20,405 | 20,139 | 19,597 | 18,797 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 481 | △ 846 | △ 257 | △ 468 | △ 778 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 421 | △ 848 | △ 38 | △ 456 | △ 756 |
| | 純資産残高 | 23,776 | 22,928 | 22,890 | 22,434 | 21,678 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 1,044 | △ 109 | △ 285 | △ 901 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 1,030 | △ 84 | △ 296 | △ 912 |
| | 純資産残高 | | 24,711 | 24,627 | 24,331 | 23,420 |



分析:
一般会計等の差額は対前年比で267百万円の減、純資産変動額において258百万円の減、純資産残高において800百万円の減となっている。全体においては差額で310百万円の減、純資産変動額において300百万円の減、純資産残高において756百万円の減となっている。
一般会計等における差額及び純資産残高の減少要因は物件費や人件費などの純行政コストの増加によるものである。純資産残高の減少要因は学校教育施設を始めとする公共施設の老朽化による固定資産残高の減少によるものが主である。
今後は、保有している有形資産の減価償却についても意識しながら計画的な施設の更新を行い、収入面では基幹的な収入である税、また、ふるさと納税の増加対策を図る。

2. 行政コストの状況

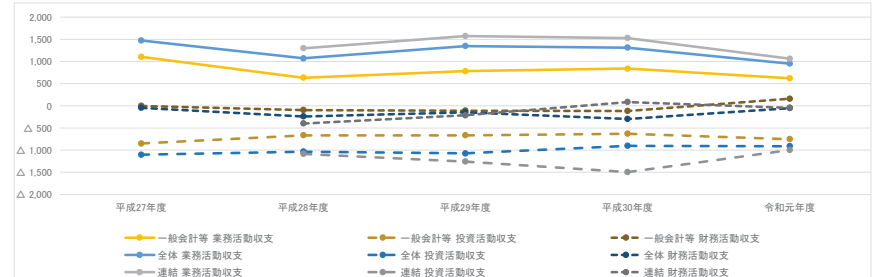
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 7,861 | 7,889 | 7,934 | 7,570 | 7,923 |
| | 純行政コスト | 7,858 | 7,981 | 7,930 | 7,576 | 7,934 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 12,038 | 11,950 | 11,954 | 11,330 | 11,821 |
| | 純行政コスト | 12,036 | 12,042 | 11,950 | 11,337 | 11,832 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 14,587 | 14,522 | 13,850 | 14,560 |
| | 純行政コスト | | 14,836 | 14,522 | 13,865 | 14,575 |



分析:
一般会計等の純経常行政コストは対前年比で353百万円の増、純行政コストで358百万円の増となっており、全体では491百万円の増、495百万円の増となっている。増加となった主な要因としては用地整備を目的とした文化財の発掘調査による物件費、社会人枠新規採用職員の増加による人件費の増加によるものである。今後においてもコストを意識した業務に取り組み、経常費用の抑制に努める。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 1,104 | 631 | 782 | 838 | 620 |
| | 投資活動収支 | △ 849 | △ 666 | △ 667 | △ 630 | △ 750 |
| | 財務活動収支 | △ 4 | △ 94 | △ 110 | △ 117 | 161 |
| 全体 | 業務活動収支 | 1,473 | 1,070 | 1,347 | 1,313 | 950 |
| | 投資活動収支 | △ 1,102 | △ 1,033 | △ 1,073 | △ 903 | △ 911 |
| | 財務活動収支 | △ 46 | △ 238 | △ 146 | △ 297 | △ 50 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,298 | 1,573 | 1,527 | 1,062 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,083 | △ 1,255 | △ 1,494 | △ 997 |
| | 財務活動収支 | | △ 400 | △ 214 | 84 | △ 47 |



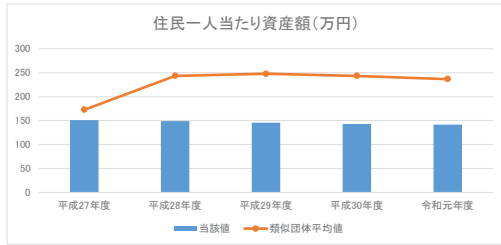
分析:
一般会計等の業務活動収支は対前年比で218百万円の減、投資活動収支において120百万円の減、財務活動収支において278百万円の増となっている。全体においては業務活動収支で363百万円の減、投資活動収支において8百万円の減、財務活動収支において247百万円の増となっている。
業務活動収支の減少要因は歳出の物件費等支出の増加が主なものである。投資活動収支においても国庫補助金等が増加しているものの、小学校や避難所の空調設置工事などの公共施設等基金積立金支出等の増加幅が小さかったことから増加となった。財務活動収支においては、地方債発行収入により増加している。今後は各活動収支の増加対策として、収入面では基幹的な収入である税、また、ふるさと納税の増加対策を図りつつ、支出面では人件費・物件費の抑制、公共施設等の計画的な改修や選択や集中の徹底による行政コスト削減に取り組む。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

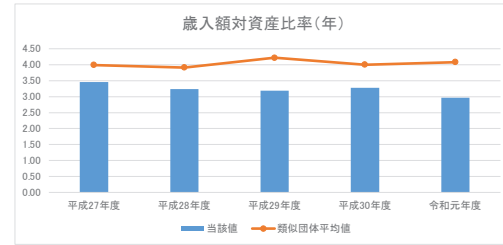
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 3,070,360 | 2,983,077 | 2,894,806 | 2,811,516 | 2,745,463 |
| 人口 | 20,321 | 20,056 | 19,894 | 19,703 | 19,405 |
| 当該値 | 151.1 | 148.7 | 145.5 | 142.7 | 141.5 |
| 類似団体平均値 | 172.5 | 243.5 | 247.9 | 243.3 | 236.8 |



②歳入額対資産比率(年)

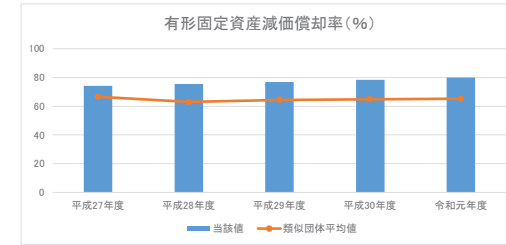
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 30,704 | 29,831 | 28,948 | 28,115 | 27,455 |
| 歳入総額 | 8,886 | 9,200 | 9,074 | 8,572 | 9,258 |
| 当該値 | 3.46 | 3.24 | 3.19 | 3.28 | 2.97 |
| 類似団体平均値 | 3.99 | 3.91 | 4.22 | 4.00 | 4.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 56,248 | 57,905 | 59,604 | 61,217 | 62,843 |
| 有形固定資産 ※1 | 75,951 | 76,705 | 77,600 | 78,191 | 78,666 |
| 当該値 | 74.1 | 75.5 | 76.8 | 78.3 | 79.9 |
| 類似団体平均値 | 66.6 | 63.0 | 64.4 | 64.9 | 65.2 |

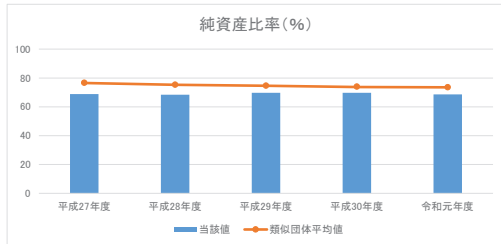
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

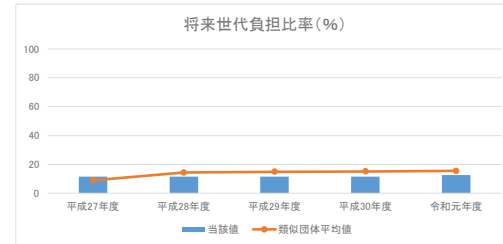
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 21,128 | 20,405 | 20,139 | 19,597 | 18,797 |
| 資産合計 | 30,704 | 29,831 | 28,948 | 28,115 | 27,455 |
| 当該値 | 68.8 | 68.4 | 69.6 | 69.7 | 68.5 |
| 類似団体平均値 | 76.5 | 75.2 | 74.5 | 73.8 | 73.5 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 3,006 | 2,929 | 2,807 | 2,703 | 2,964 |
| 有形・無形固定資産合計 | 26,272 | 25,446 | 24,700 | 23,807 | 23,335 |
| 当該値 | 11.4 | 11.5 | 11.4 | 11.4 | 12.7 |
| 類似団体平均値 | 8.9 | 14.4 | 14.9 | 15.1 | 15.5 |

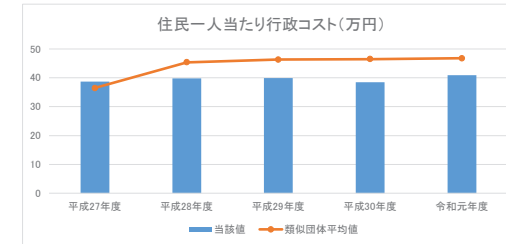
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

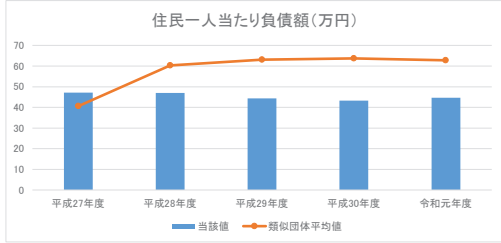
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 785,849 | 798,077 | 793,011 | 757,621 | 793,357 |
| 人口 | 20,321 | 20,056 | 19,894 | 19,703 | 19,405 |
| 当該値 | 38.7 | 39.8 | 39.9 | 38.5 | 40.9 |
| 類似団体平均値 | 36.5 | 45.4 | 46.3 | 46.5 | 46.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

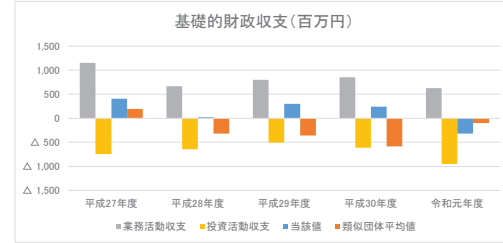
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 957,563 | 942,623 | 880,933 | 851,873 | 865,787 |
| 人口 | 20,321 | 20,056 | 19,894 | 19,703 | 19,405 |
| 当該値 | 47.1 | 47.0 | 44.3 | 43.2 | 44.6 |
| 類似団体平均値 | 40.6 | 60.3 | 63.1 | 63.7 | 62.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 1,151 | 668 | 802 | 853 | 631 |
| 投資活動収支 ※2 | △741 | △643 | △501 | △610 | △950 |
| 当該値 | 410 | 25 | 301 | 243 | △319 |
| 類似団体平均値 | 194.3 | △318.8 | △357.9 | △585.0 | △96.6 |

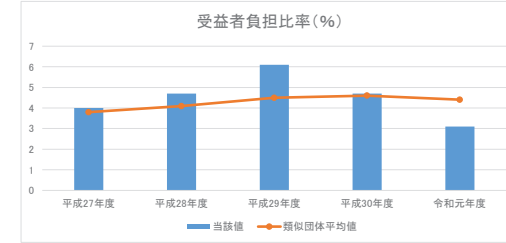
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 324 | 393 | 513 | 370 | 252 |
| 経常費用 | 8,184 | 8,282 | 8,447 | 7,940 | 8,175 |
| 当該値 | 4.0 | 4.7 | 6.1 | 4.7 | 3.1 |
| 類似団体平均値 | 3.8 | 4.1 | 4.5 | 4.6 | 4.4 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況
 資産については減価償却や老朽化により資産価値が下がっている影響が伺える。インフラ資産をはじめ、学校施設など公共施設の多くは老朽化のため資産価値が減少している。
 繰入額資産比率については経常経費がかさみ、普通建設事業費等が抑制されている状況から社会資本整備が前年度に比較して比率が落ちている。
 有形固定資産減価償却率については資産の多くが耐用年数を経過するなかで、財源不足の状況から施設の建替、新築等が行われずに老朽化が進んでいる状況にある。

今後は、計画的なインフラ施設の改修や既存建物のうち面積割合が大部分を占める学校施設について、公共施設等総合管理計画・個別施設計画に基づき、大規模改修事業等を計画的に実施していく。

2. 資産と負債の比率
 純資産比率については1.2%減少、将来世代負担率は1.3%の増加となっている。地方債については新規借入が大きかったため増加している。

今後は、世代間負担の公平性に着目し、建設工事などにおいては、交付税措置のある起債を有効活用していく。また、人口減少対策を積極的に講じるなど、今以上に財源確保に努める。

3. 行政コストの状況
 純行政コストについては用地整備を目的とした文化財の発掘調査などにより増加した。
 今後においても著しい人口減少の影響により住民一人当たりの行政コストは増加傾向になることが予想される。

今後は、今以上に経常費用の抑制に努めるなど、行政コストをより意識した運営に努める。

4. 負債の状況
 負債合計は地方債の新規借入が大きかったことなどから13,914万円増加している。
 今後においても、起債発行額の抑制や過年度に借入れた地方債の計画的な繰上償還に努めていく。

5. 受益者負担の状況
 経常収益は、退職手当引金の戻入額が少なかったことで減少した。
 経常費用については用地整備を目的とした文化財の発掘調査により増加した。
 受益者負担率については、経常費用は増加したものの前年に比べ1.6%減少した。
 今後も公共施設等の利用などに対する使用料設定を適切に行い、適正な受益者負担を利用者に求めていく。

令和元年度 財務書類に関する情報①

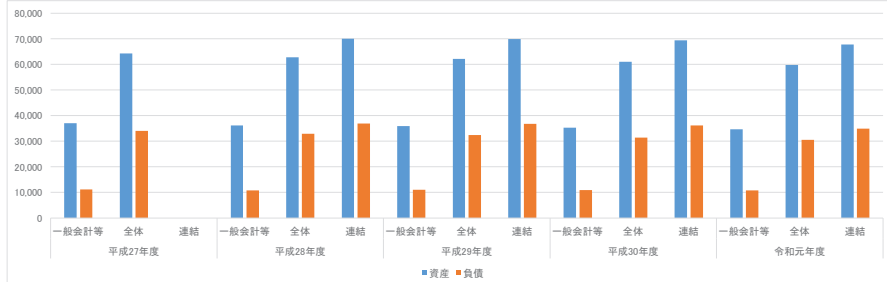
団体名 長野県箕輪町
団体コード 203831

| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 25,024人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 191人 |
| 面積 | 85.91km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 6,404,590千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村V-1 | 実質公債費率 | 9.9% |
| | | 将来負担比率 | 59.4% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

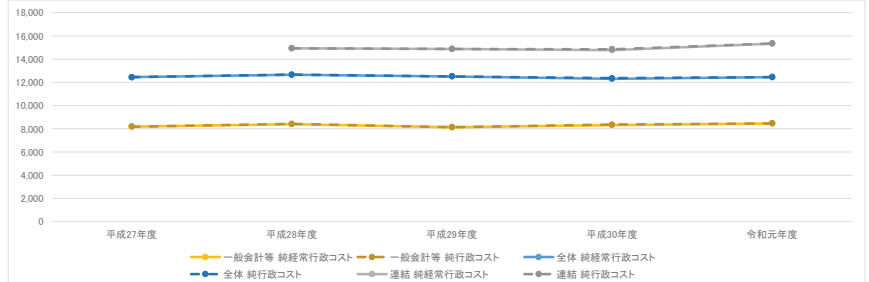
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 37,076 | 36,131 | 35,994 | 35,287 | 34,719 |
| | 負債 | 11,132 | 10,855 | 11,076 | 10,879 | 10,851 |
| 全体 | 資産 | 64,281 | 62,795 | 62,205 | 61,002 | 59,813 |
| | 負債 | 34,029 | 32,912 | 32,403 | 31,451 | 30,563 |
| 連結 | 資産 | | 70,120 | 69,980 | 69,429 | 67,776 |
| | 負債 | | 36,932 | 36,755 | 36,139 | 34,882 |



分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から568百万円の減少(△1.6%)となった。金額の変動が大きいものは事業用建物の減価償却により825百万円、資産が減少した。
 ・水道事業会計、下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から1,189百万円減少(△1.5%)し、負債総額は前年度末から888百万円減少(△2.8%)した。資産総額は、上水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等に比べて25,094百万円多くなるが、負債総額も平準化債等の地方債(固定負債)を計上していること等から、19,712百万円多くなっている。
 ・伊那中央行政組合、長野県上伊那広域水道用企業団会計等を加えた連結では、資産総額は、伊那中央病院の資産などが事業用資産に、長野県上伊那広域水道用企業団会計の配水管等の資産などがインフラ資産として計上していること等により、一般会計等に比べて33,057百万円多くなるが、負債総額も借入金等があること等から、24,031百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

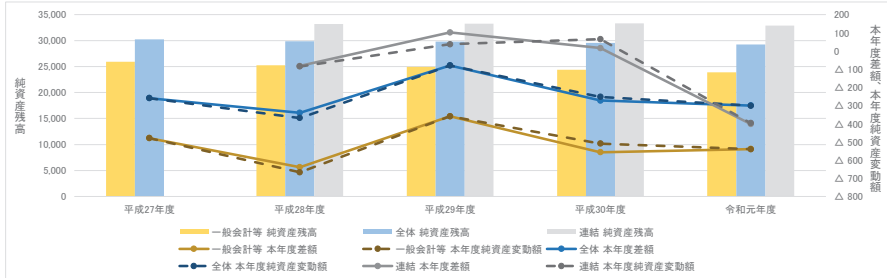
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 8,177 | 8,407 | 8,135 | 8,302 | 8,456 |
| | 純行政コスト | 8,175 | 8,416 | 8,135 | 8,364 | 8,461 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 12,436 | 12,654 | 12,509 | 12,301 | 12,439 |
| | 純行政コスト | 12,434 | 12,664 | 12,507 | 12,362 | 12,446 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 14,923 | 14,870 | 14,772 | 15,332 |
| | 純行政コスト | | 14,935 | 14,873 | 14,844 | 15,344 |



分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は8,695百万円となり、前年度比+165百万円の増加(+1.9%)となった。そのうち、人件費等の業務費用は5,187百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は3,508百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは物産費(2,897百万円、前年度比+177百万円)。次いで人件費(2,182百万円、前年度比+29百万円)であり、業務費用は、純行政コストの61.3%を占めている。職員を削減してきた中で、委託業務等が増加している状況であるが、今後もこの傾向が続くことが見込まれるため、事業の見直し等により、経費の抑制に努める。
 ・全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が912百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が3,289百万円多くなり、純行政コストは3,985百万円多くなっている。
 ・連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が3,578百万円多くなっている一方、人件費が1,931百万円多くなっているなど、経常費用が10,453百万円多くなり、純行政コストは6,876百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

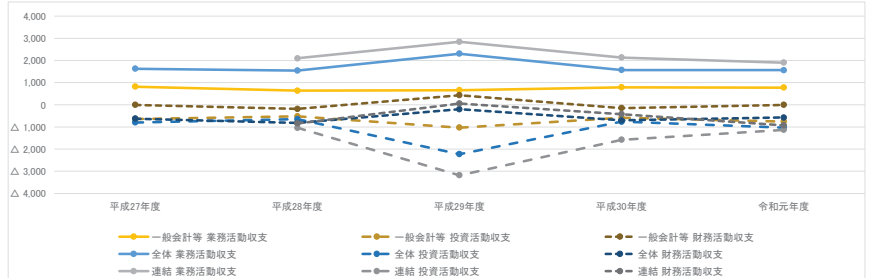
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 479 | △ 639 | △ 359 | △ 557 | △ 539 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 479 | △ 667 | △ 359 | △ 509 | △ 540 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 259 | △ 340 | △ 80 | △ 273 | △ 300 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 260 | △ 369 | △ 80 | △ 252 | △ 301 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 83 | 102 | 16 | △ 402 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 85 | 37 | 65 | △ 397 |
| 純資産残高 | | | 33,188 | 33,225 | 33,290 | 32,893 |



分析:
 ・一般会計等においては、税収等の財源(6,574百万円)が純行政コスト(8,461百万円)を下回っており、本年度差額は△539百万円となり、純資産残高は540百万円の減少となった。地方税の徴収業務の強化等により税収等の増加に努める。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が1,673百万円多くなっており、本年度差額は△300百万円となり、純資産残高は△301百万円の減少となった。
 ・連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国民健康保険料や介護保険料等が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が3,210百万円多くなっており、本年度差額は△402百万円となり、純資産残高は△397百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 815 | 640 | 662 | 791 | 775 |
| | 投資活動収支 | △ 647 | △ 519 | △ 1,032 | △ 590 | △ 754 |
| | 財務活動収支 | 1 | △ 183 | 431 | △ 151 | △ 6 |
| 全体 | 業務活動収支 | 1,625 | 1,543 | 2,302 | 1,572 | 1,563 |
| | 投資活動収支 | △ 797 | △ 645 | △ 2,227 | △ 759 | △ 1,025 |
| | 財務活動収支 | △ 627 | △ 817 | △ 197 | △ 704 | △ 575 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 2,095 | 2,842 | 2,129 | 1,898 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,035 | △ 3,181 | △ 1,573 | △ 1,128 |
| | 財務活動収支 | | △ 840 | 57 | △ 426 | △ 927 |



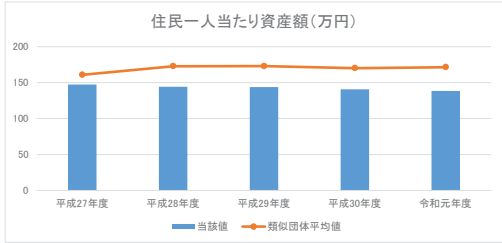
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は775百万円であったが、投資活動収支については、沢保育園建設(繰越)事業を行ったことから、△754百万円となっている。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△6百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から16百万円増加し、665百万円となった。来年度以降は、沢保育園建設事業の一部を始めその他地方債の償還が始まることから、財務活動収支はマイナスに転じることが考えられる。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等収入に含まれること等から業務活動収支は一般会計等より788百万円多い1,563百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△575百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から△37百万円の、1,681百万円となっている。
 ・連結では、伊那中央病院における入院・外来収益等の収入が業務収入に含まれること等から、業務活動収支は一般会計等より1,123百万円多い1,898百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△927百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から△153百万円の、2,474百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

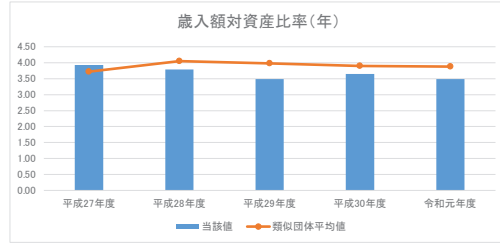
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 3,707,557 | 3,613,115 | 3,599,366 | 3,528,683 | 3,471,933 |
| 人口 | 25,115 | 25,081 | 25,000 | 25,050 | 25,024 |
| 当該値 | 147.6 | 144.1 | 144.0 | 140.9 | 138.7 |
| 類似団体平均値 | 160.9 | 173.0 | 173.1 | 170.2 | 171.6 |



②歳入額対資産比率(年)

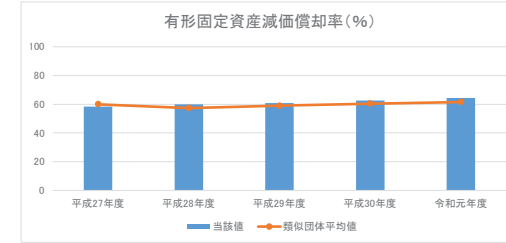
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 37,076 | 36,131 | 35,994 | 35,287 | 34,719 |
| 歳入総額 | 9,427 | 9,537 | 10,309 | 9,678 | 9,960 |
| 当該値 | 3.93 | 3.79 | 3.49 | 3.65 | 3.49 |
| 類似団体平均値 | 3.72 | 4.05 | 3.98 | 3.90 | 3.88 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 36,253 | 37,516 | 38,688 | 40,175 | 41,565 |
| 有形固定資産 ※1 | 62,139 | 62,477 | 63,626 | 64,249 | 64,648 |
| 当該値 | 58.3 | 60.0 | 60.8 | 62.5 | 64.3 |
| 類似団体平均値 | 60.0 | 57.3 | 58.9 | 60.4 | 61.5 |

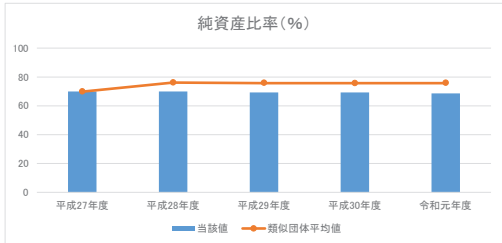
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

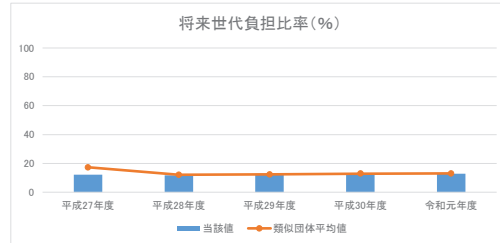
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 25,945 | 25,277 | 24,917 | 24,408 | 23,869 |
| 資産合計 | 37,076 | 36,131 | 35,994 | 35,287 | 34,719 |
| 当該値 | 70.0 | 70.0 | 69.2 | 69.2 | 68.7 |
| 類似団体平均値 | 69.8 | 76.1 | 75.8 | 75.6 | 75.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 4,034 | 3,761 | 4,119 | 3,905 | 3,958 |
| 有形・無形固定資産合計 | 33,221 | 32,276 | 32,242 | 31,471 | 30,896 |
| 当該値 | 12.1 | 11.7 | 12.8 | 12.4 | 12.8 |
| 類似団体平均値 | 17.3 | 12.1 | 12.4 | 12.9 | 13.0 |

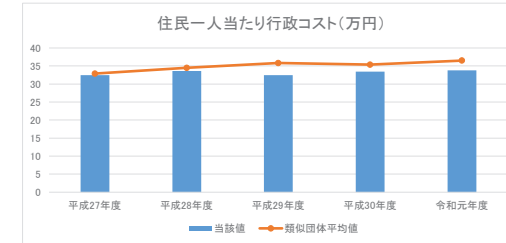
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

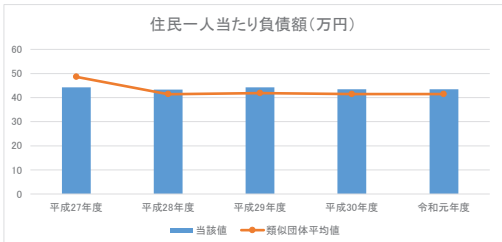
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 817,485 | 841,590 | 813,491 | 836,421 | 846,149 |
| 人口 | 25,115 | 25,081 | 25,000 | 25,050 | 25,024 |
| 当該値 | 32.5 | 33.6 | 32.5 | 33.4 | 33.8 |
| 類似団体平均値 | 32.9 | 34.5 | 35.8 | 35.4 | 36.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

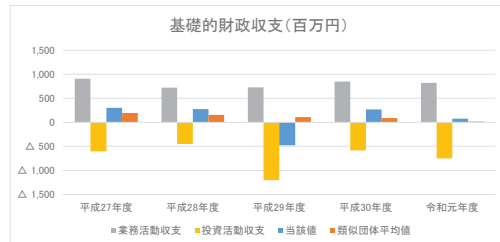
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | 1,113,164 | 1,085,464 | 1,107,630 | 1,087,854 | 1,085,055 |
| 人口 | 25,115 | 25,081 | 25,000 | 25,050 | 25,024 |
| 当該値 | 44.3 | 43.3 | 44.3 | 43.4 | 43.4 |
| 類似団体平均値 | 48.6 | 41.4 | 41.9 | 41.5 | 41.5 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|---------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 909 | 721 | 729 | 849 | 824 |
| 投資活動収支 ※2 | △ 606 | △ 448 | △ 1,204 | △ 582 | △ 752 |
| 当該値 | 303 | 273 | △ 475 | 267 | 72 |
| 類似団体平均値 | 191.9 | 155.8 | 108.8 | 87.1 | 16.8 |

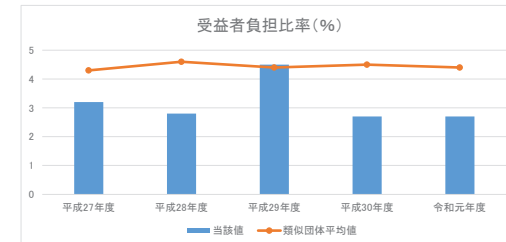
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 268 | 239 | 384 | 228 | 238 |
| 経常費用 | 8,445 | 8,647 | 8,519 | 8,530 | 8,695 |
| 当該値 | 3.2 | 2.8 | 4.5 | 2.7 | 2.7 |
| 類似団体平均値 | 4.3 | 4.6 | 4.4 | 4.5 | 4.4 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるため、備忘価額1円を評価しているものが大半を占めているためである。令和元年度に三日町保育園長寿命化工事や小中学校空調整備事業等を実施したが、減価償却費用の方が多いため、開始時点からは235.624万円減少している。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均を下回っているが、負債の大半を占めているのは、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債である。このため、臨時財政対策債等の特例的な地方債を除いた地方債残高を分子として、社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す将来世代負担比率は、類似団体平均と同程度の12.8%となっている。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均と同程度であるが、昨年度から増加(+9,728万円)している。特に、贈がいサービス給付費が増加傾向にあることから、社会保障給付が増加しているため、今後も資格審査等の適正化や各種手当への独自加算等の見直しを進め、引き続き社会保障給付の増加傾向に歯止めをかけるよう努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均と同程度であるが、前年度から2,799万円減少している。これは、地方債の発行額が償還額を下回ったためである。今後も、計画的な地方債発行と、より効率的な財政運営により残高の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担率は類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低い。公共施設等の利用に関し見直しを行うなどにより、受益者負担の適正化に努め、引き続き、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県飯島町
団体コード 203840

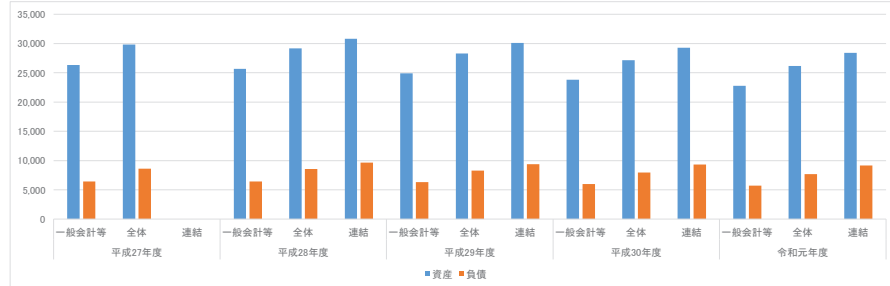
| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 9,356人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 105人 |
| 面積 | 86.96km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,271,430千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 9.5% |
| | | 将来負担比率 | 77.6% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 26,354 | 25,701 | 24,904 | 23,790 | 22,772 |
| | 負債 | 6,446 | 6,449 | 6,296 | 5,987 | 5,731 |
| 全体 | 資産 | 29,853 | 29,195 | 28,300 | 27,141 | 26,154 |
| | 負債 | 8,618 | 8,546 | 8,310 | 7,937 | 7,707 |
| 連結 | 資産 | | 30,822 | 30,087 | 29,295 | 28,430 |
| | 負債 | | 9,674 | 9,403 | 9,299 | 9,166 |

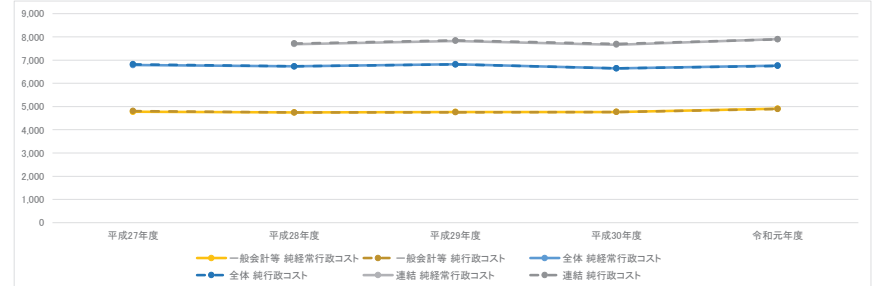


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から1,018百万円の減少(△4.3%)となった。金額の変動が大きいものは、インフラ資産であり、主に道路や水路といった工作物において減価償却による資産の減少が資産の取得を上回ったことにより565百万円の減少となった。負債総額は、前年度末から256百万円の減少(△4.3%)となった。金額の変動が大きいものは固定負債の地方債であり、新規発行額を抑制したことに加え、繰上償還を行ったことが主な要因である。
全体においては、資産総額は前年度末から△987百万円(△3.6%)と減少し、負債総額は△231百万円(△2.9%)と減少した。資産総額は、水道事業会計における上下水道管等のインフラ資産を計上していることにより、一般会計等と比較して3,382百万円多くなり、負債総額は地方債等により1,976百万円多くなっている。
一部事務組合、第三セクター等を加えた連結においても、資産総額は前年度末から△865百万円(△3.0%)と減少し、負債総額は△132百万円(△1.4%)と減少した。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 4,773 | 4,747 | 4,763 | 4,767 | 4,908 |
| | 純行政コスト | 4,806 | 4,746 | 4,756 | 4,768 | 4,894 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 6,783 | 6,730 | 6,821 | 6,644 | 6,764 |
| | 純行政コスト | 6,816 | 6,728 | 6,814 | 6,645 | 6,749 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 7,686 | 7,822 | 7,659 | 7,903 |
| | 純行政コスト | | 7,718 | 7,848 | 7,696 | 7,892 |

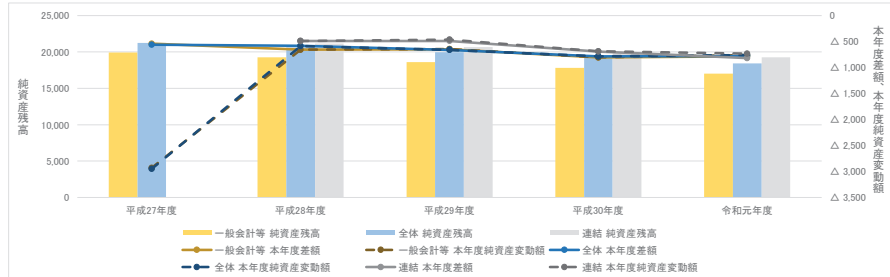


分析:
一般会計等においては、経常費用は5,092百万円となり、前年度比175百万円の増加(3.6%)となった。業務費用の方が移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や物件費を含む物件費等(2,218百万円、前年度比+64百万円)である。施設の集約化等の検討を進めるなど、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。
全体では、一般会計等に対して国民健康保険や介護保険の負担金を補助金に計上しているため、移転費用が1,742百万円多くなり、純行政コストも1,855百万円多くなっている。また、前年度からは純行政コスト104百万円(1.6%)の増加となった。
連結では、一般会計等に対して連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が933百万円多くなっている一方、人件費や社会保障給付などの経常費用も3,929百万円多くなり、純行政コストは2,998百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 540 | △ 655 | △ 648 | △ 805 | △ 786 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 2,929 | △ 657 | △ 644 | △ 805 | △ 762 |
| | 純資産残高 | 19,252 | 19,252 | 18,608 | 17,803 | 17,041 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 560 | △ 584 | △ 662 | △ 785 | △ 781 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 2,949 | △ 586 | △ 659 | △ 786 | △ 757 |
| | 純資産残高 | 21,235 | 20,649 | 19,990 | 19,205 | 18,447 |
| 連結 | 本年度差額 | △ 490 | △ 490 | △ 489 | △ 690 | △ 818 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 486 | △ 486 | △ 463 | △ 688 | △ 732 |
| | 純資産残高 | | 21,148 | 20,684 | 19,997 | 19,265 |

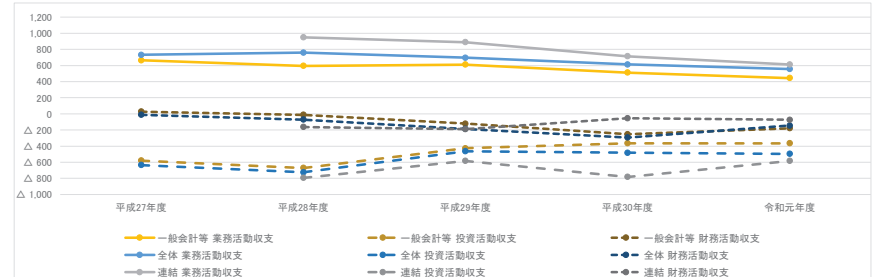


分析:
一般会計等においては、税金等の財源(4,107百万円)が純行政コスト(4,894百万円)を下回っており、本年度差額は△786百万円となり、純資産残高は前年度より762百万円の減少となった。町税の徴収業務の強化等により、税金等の増加に努める。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計と比べて税金等が803百万円多くなっているが、本年度差額は△781百万円となり、純資産残高は757百万円の減少となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計と比べて財源が2,967百万円多くなっているが、本年度差額は△818百万円となり、純資産残高は2,224百万円の増加となった。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 665 | 594 | 610 | 512 | 443 |
| | 投資活動収支 | △ 580 | △ 672 | △ 427 | △ 365 | △ 366 |
| | 財務活動収支 | 27 | △ 13 | △ 121 | △ 252 | △ 180 |
| 全体 | 業務活動収支 | 732 | 760 | 696 | 613 | 556 |
| | 投資活動収支 | △ 636 | △ 724 | △ 464 | △ 482 | △ 496 |
| | 財務活動収支 | △ 12 | △ 71 | △ 188 | △ 294 | △ 145 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 949 | 888 | 715 | 612 |
| | 投資活動収支 | | △ 794 | △ 584 | △ 783 | △ 584 |
| | 財務活動収支 | | △ 163 | △ 189 | △ 54 | △ 74 |



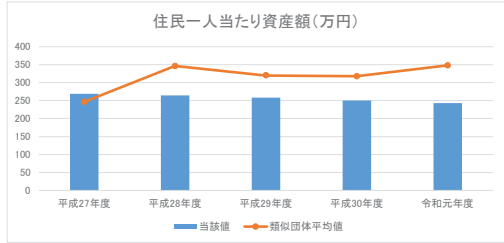
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は443百万円であったが、投資活動収支については小中学校の冷房設備設置工事を行ったことにより△366百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことにより△180百万円となり、本年度資金残高は前年度より103百万円減少し、138百万円となった。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれ、また水道料金が使用料及び手数料に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計より113百万円多い556百万円となっている。投資活動収支では配水管の布設を行ったことなどにより△498百万円となっている。
連結では、業務活動収支は一般会計より169百万円多い612百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことにより△74百万円となり、本年度未資金残高は前年度から24百万円減少し、1,049百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

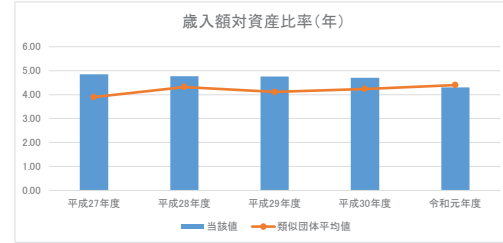
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 2,635,447 | 2,570,096 | 2,490,383 | 2,379,006 | 2,277,219 |
| 人口 | 9,795 | 9,708 | 9,650 | 9,489 | 9,356 |
| 当該値 | 269.1 | 264.7 | 258.1 | 250.7 | 243.4 |
| 類似団体平均値 | 246.6 | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

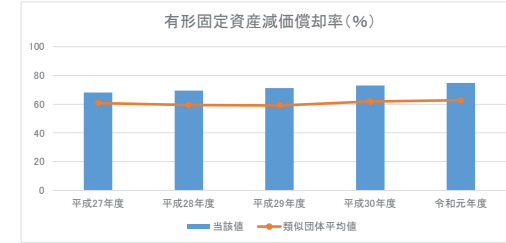
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 26,354 | 25,701 | 24,904 | 23,790 | 22,772 |
| 歳入総額 | 5,436 | 5,391 | 5,237 | 5,056 | 5,290 |
| 当該値 | 4.85 | 4.77 | 4.76 | 4.71 | 4.30 |
| 類似団体平均値 | 3.90 | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 40,769 | 42,055 | 43,362 | 44,667 | 45,998 |
| 有形固定資産 ※1 | 59,862 | 60,473 | 60,867 | 61,188 | 61,496 |
| 当該値 | 68.1 | 69.5 | 71.2 | 73.0 | 74.8 |
| 類似団体平均値 | 60.8 | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

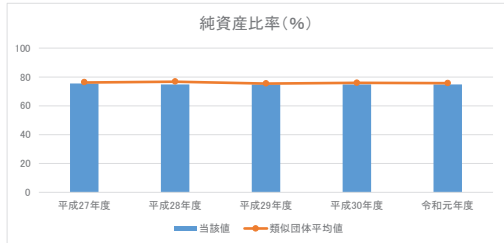
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

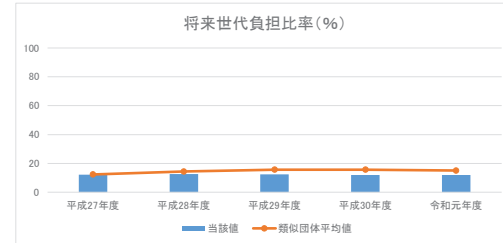
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 19,908 | 19,252 | 18,608 | 17,803 | 17,041 |
| 資産合計 | 26,354 | 25,701 | 24,904 | 23,790 | 22,772 |
| 当該値 | 75.5 | 74.9 | 74.7 | 74.8 | 74.8 |
| 類似団体平均値 | 76.2 | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 2,848 | 2,858 | 2,709 | 2,480 | 2,374 |
| 有形・無形固定資産合計 | 23,446 | 22,746 | 21,822 | 20,814 | 20,024 |
| 当該値 | 12.1 | 12.6 | 12.4 | 11.9 | 11.9 |
| 類似団体平均値 | 12.3 | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

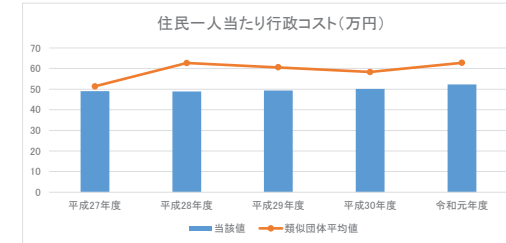
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

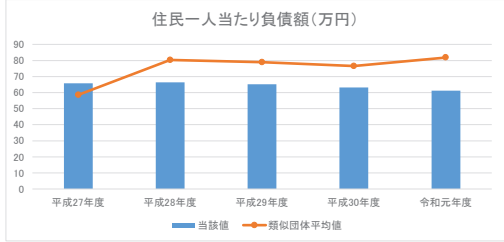
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 480,609 | 474,581 | 475,609 | 476,782 | 489,352 |
| 人口 | 9,795 | 9,708 | 9,650 | 9,489 | 9,356 |
| 当該値 | 49.1 | 48.9 | 49.3 | 50.2 | 52.3 |
| 類似団体平均値 | 51.4 | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

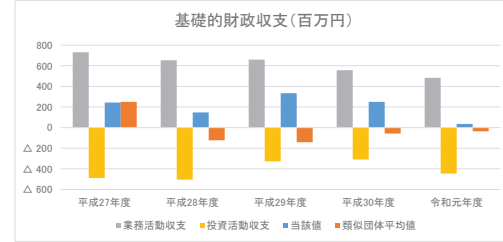
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 644,568 | 644,927 | 629,603 | 598,748 | 573,146 |
| 人口 | 9,795 | 9,708 | 9,650 | 9,489 | 9,356 |
| 当該値 | 65.8 | 66.4 | 65.2 | 63.1 | 61.3 |
| 類似団体平均値 | 58.6 | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 732 | 653 | 661 | 558 | 483 |
| 投資活動収支 ※2 | △489 | △504 | △328 | △309 | △446 |
| 当該値 | 243 | 149 | 333 | 249 | 37 |
| 類似団体平均値 | 251.0 | △121.8 | △141.6 | △57.5 | △34.7 |

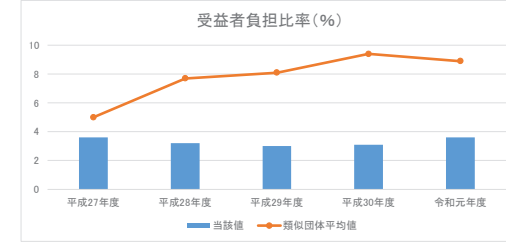
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 177 | 157 | 146 | 150 | 184 |
| 経常費用 | 4,950 | 4,904 | 4,909 | 4,917 | 5,092 |
| 当該値 | 3.6 | 3.2 | 3.0 | 3.1 | 3.6 |
| 類似団体平均値 | 5.0 | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当町では道路や河川の敷地のうち、取得価格が不明であるため、備忘価格1円で評価しているものが大半を占めているためである。
歳入対資産比率については類似団体平均を下回った。前年度との比較では、資産合計は減価償却による資産の減少が資産の取得額を上回ったことにより減少している。
また、有形固定資産減価償却率については、道路や学校施設、体育館等において老朽化が進んでおり、類似団体より高い水準にある。公共施設等総合管理計画に基づき、施設の複合化・集約化も視野に入れ、計画的な施設の管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均と同程度であり、前年度と比べてあまり変わらなかった。
今後も引き続き適正な定員管理や町税の徴収に努めるとともに、事務事業の見直し等により健全な財政運営に努める。
将来世代負担比率については、類似団体平均を下回っており、前年度と比べると変わりはなかった。計画的な地方債の発行により地方債残高を抑制し、将来への負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、類似団体を下回っているが、前年度に比べると増加している。主に、人件費や障がい福祉サービス給付費等の社会保障給付が増加したことによるもので、今後増加が見込まれる。人件費については、今後も町の第6次総合計画及び行財政改革プランに沿った適正な定員管理に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、類似団体平均を下回り、前年度に比べても減少しているが、地方債の発行額が償還額を下回ったためである。基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分を業務活動収支の黒字分を上回ったため類似団体平均を上回っているが、前年度に比べると大幅に減少した。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、各事業や公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は低くなっている。前年度から比べると増加しており、経常収益も34百万円増加している。今後も、受益者負担の適正化や、経常費用の削減、税負担の公平性・公正性の確保に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

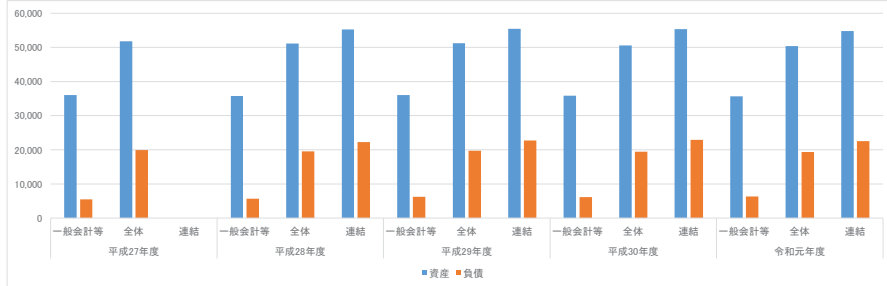
団体名 長野県南箕輪村
団体コード 203858

| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 15,647人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 144人 |
| 面積 | 40.99km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,233.625千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村IV-1 | 実質公債費率 | 6.6% |
| | | 将来負担比率 | 12.6% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

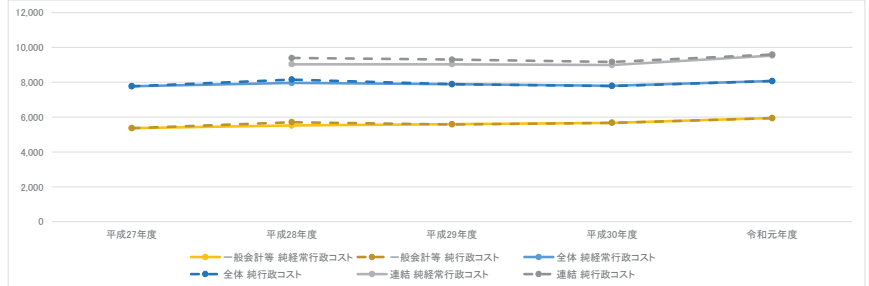
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 36,084 | 35,723 | 36,065 | 35,855 | 35,701 |
| | 負債 | 5,524 | 5,698 | 6,200 | 6,179 | 6,307 |
| 全体 | 資産 | 51,786 | 51,139 | 51,188 | 50,595 | 50,389 |
| | 負債 | 19,898 | 19,580 | 19,697 | 19,418 | 19,319 |
| 連結 | 資産 | | 55,223 | 55,496 | 55,335 | 54,818 |
| | 負債 | | 22,248 | 22,775 | 22,894 | 22,586 |



分析: 一般会計等では、資産総額が前年度から154百万円の減少となったが、金額の変動が大きいものはインフラ資産であり、道路等の減価償却による資産の減少(▲495百万円)が、資産の取得を上回ったことによる。
水道・下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額が前年度から206百万円の減少となったが、金額の変動が大きいものは、一般会計等と同様にインフラ資産の減価償却による資産の減少(▲856百万円)となっている。
一部事務組合・広域連合等を加えた連結では、資産総額が前年度から517百万円の減少の54,818百万円となっている。

2. 行政コストの状況

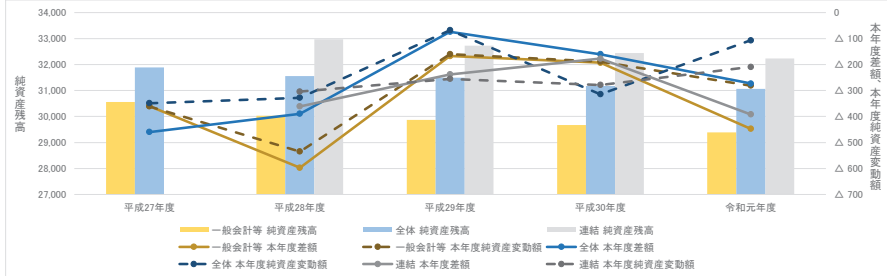
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 5,369 | 5,522 | 5,594 | 5,678 | 5,951 |
| | 純行政コスト | 5,369 | 5,712 | 5,584 | 5,672 | 5,943 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 7,774 | 7,965 | 7,900 | 7,797 | 8,076 |
| | 純行政コスト | 7,774 | 8,155 | 7,890 | 7,792 | 8,069 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 9,041 | 9,034 | 8,994 | 9,534 |
| | 純行政コスト | | 9,393 | 9,304 | 9,170 | 9,597 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は6,073百万円となり、前年度比164百万円の増加となっており、そのうち、業務費用は217百万円増である。業務費用の人件費・物件費会計増加額は181百万円で、今後も人口の増加が予想される中で、引き続き職員の適正配置・事務の効率化による経費の抑制に努める。
全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が504百万円多く多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,755百万円多くなり、純行政コストは2,126百万円多くなっている。
連結では、一般会計等に比べて、連結対象会計等の事業収益を計上し、経常収益が2,219百万円多く多くなっている一方、移転費用が2,598百万円多くなっているなど、経常費用が5,803百万円多くなり、純行政コストは3,654百万円多い9,597百万円となっている。

3. 純資産変動の状況

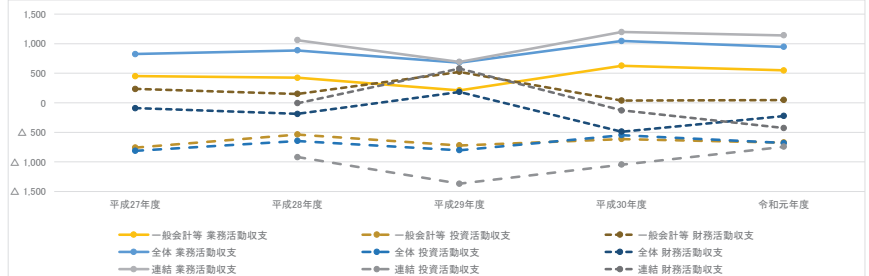
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 360 | △ 597 | △ 167 | △ 193 | △ 447 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 361 | △ 535 | △ 160 | △ 189 | △ 281 |
| | 純資産残高 | 30,560 | 30,025 | 29,865 | 29,676 | 29,394 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 460 | △ 389 | △ 74 | △ 160 | △ 273 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 349 | △ 328 | △ 68 | △ 314 | △ 107 |
| | 純資産残高 | 31,887 | 31,559 | 31,491 | 31,177 | 31,070 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 361 | △ 238 | △ 177 | △ 392 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 304 | △ 255 | △ 279 | △ 209 |
| | 純資産残高 | | 32,976 | 32,721 | 32,442 | 32,233 |



分析: 一般会計等においては、収支等の財源(5,496百万円)が純行政コスト(5,943百万円)を下回っており(本年度差額▲447百万円)、純資産残高は281百万円の減少となったが、財源である収支等(前年度比16百万円増)は、人口の増加に伴い平成27年度-令和元年度間も伸びているが、増収率は緩やかになっており、今後も国庫等補助金制度を有効に活用し、純行政コストの抑制で、さらなる財政健全化に努める。
全体では、純資産残高は前年度末との比較で107百万円の減少、連結では、209百万円の減少となっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|---------|---------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 451 | 424 | 210 | 626 | 547 |
| | 投資活動収支 | △ 758 | △ 537 | △ 722 | △ 614 | △ 671 |
| | 財務活動収支 | 234 | 149 | 522 | 38 | 47 |
| 全体 | 業務活動収支 | 823 | 886 | 679 | 1,046 | 944 |
| | 投資活動収支 | △ 812 | △ 644 | △ 801 | △ 548 | △ 680 |
| | 財務活動収支 | △ 90 | △ 188 | 183 | △ 489 | △ 224 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,060 | 691 | 1,198 | 1,142 |
| | 投資活動収支 | | △ 919 | △ 1,367 | △ 1,046 | △ 744 |
| | 財務活動収支 | | △ 5 | 579 | △ 128 | △ 426 |



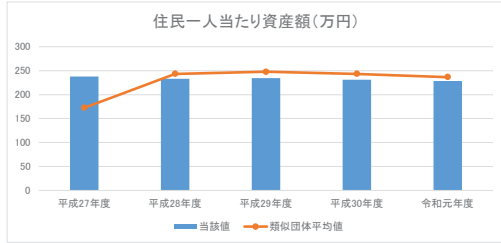
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は547百万円で、前年度比79百万円減少、投資活動収支については、就学児童、生徒の増加に伴う小中学校の増築業を行っていることから、▲671百万円となっており、マイナス幅は前年度比57百万円増加。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、47百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から77百万円減少し、405百万円となっている。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が収支等に含まれ、また水道料金・下水道使用料及び手数料収入があることから、業務活動収支は一般会計等より397百万円多い944百万円となり、投資活動収支は、マイナスが前年度比132百万円増加し、▲680百万円(一般会計等▲671百万円)となっている。
連結では、業務活動収支は一般会計等より597百万円多い1,144百万円となり、投資活動収支は、マイナスが前年度比302百万円縮小し、▲744百万円(一般会計等▲671百万円、全体▲680百万円)となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

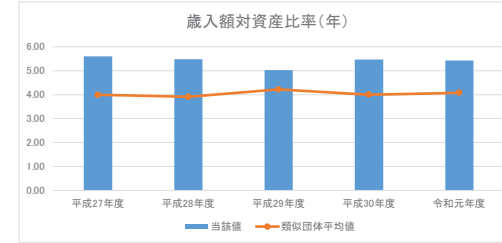
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 3,608,353 | 3,572,315 | 3,606,470 | 3,585,484 | 3,570,142 |
| 人口 | 15,155 | 15,314 | 15,391 | 15,496 | 15,647 |
| 当該値 | 238.1 | 233.3 | 234.3 | 231.4 | 228.2 |
| 類似団体平均値 | 172.5 | 243.5 | 247.9 | 243.3 | 236.8 |



②歳入額対資産比率(年)

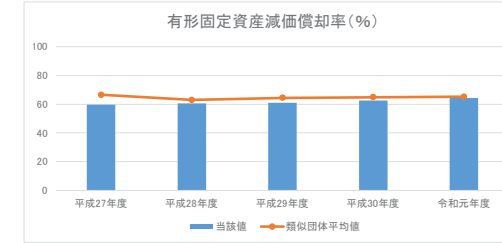
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 36,084 | 35,723 | 36,065 | 35,855 | 35,701 |
| 歳入総額 | 6,439 | 6,518 | 7,167 | 6,557 | 6,586 |
| 当該値 | 5.60 | 5.48 | 5.48 | 5.47 | 5.42 |
| 類似団体平均値 | 3.99 | 3.91 | 4.22 | 4.00 | 4.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 24,110 | 25,021 | 25,965 | 26,966 | 27,966 |
| 有形固定資産 ※1 | 40,355 | 41,278 | 42,510 | 43,163 | 43,474 |
| 当該値 | 59.7 | 60.6 | 61.1 | 62.5 | 64.3 |
| 類似団体平均値 | 66.6 | 63.0 | 64.4 | 64.9 | 65.2 |

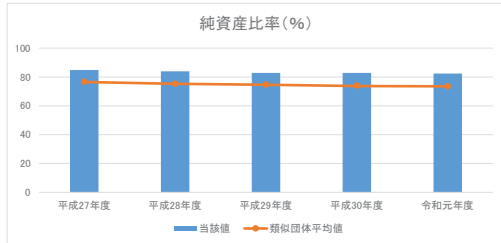
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

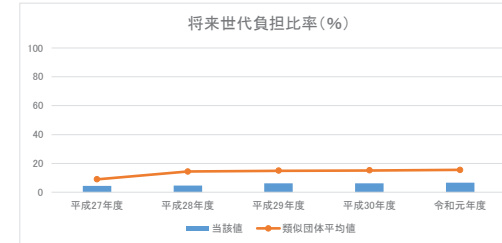
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 30,560 | 30,025 | 29,885 | 29,676 | 29,394 |
| 資産合計 | 36,084 | 35,723 | 36,065 | 35,855 | 35,701 |
| 当該値 | 84.7 | 84.0 | 82.8 | 82.8 | 82.3 |
| 類似団体平均値 | 76.5 | 75.2 | 74.5 | 73.8 | 73.5 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 1,395 | 1,493 | 1,962 | 1,967 | 2,034 |
| 有形・無形固定資産合計 | 31,610 | 31,583 | 31,936 | 31,584 | 31,413 |
| 当該値 | 4.4 | 4.7 | 6.1 | 6.2 | 6.5 |
| 類似団体平均値 | 8.9 | 14.4 | 14.9 | 15.1 | 15.5 |

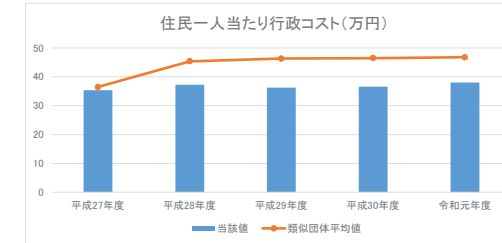
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

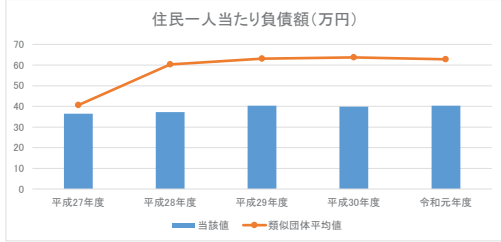
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 536,700 | 571,179 | 558,434 | 567,247 | 594,315 |
| 人口 | 15,155 | 15,314 | 15,391 | 15,496 | 15,647 |
| 当該値 | 35.4 | 37.3 | 36.3 | 36.6 | 38.0 |
| 類似団体平均値 | 36.5 | 45.4 | 46.3 | 46.5 | 46.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

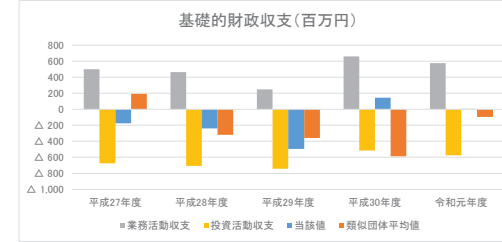
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 552,355 | 569,847 | 619,950 | 617,912 | 630,695 |
| 人口 | 15,155 | 15,314 | 15,391 | 15,496 | 15,647 |
| 当該値 | 36.4 | 37.2 | 40.3 | 39.9 | 40.3 |
| 類似団体平均値 | 40.6 | 60.3 | 63.1 | 63.7 | 62.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 501 | 466 | 247 | 660 | 575 |
| 投資活動収支 ※2 | △ 675 | △ 704 | △ 741 | △ 515 | △ 573 |
| 当該値 | △ 174 | △ 238 | △ 494 | 145 | 2 |
| 類似団体平均値 | 194.3 | △ 318.8 | △ 357.9 | △ 585.0 | △ 96.6 |

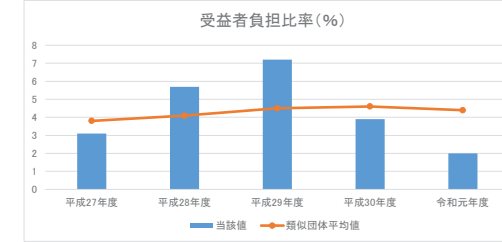
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 170 | 336 | 433 | 231 | 123 |
| 経常費用 | 5,539 | 5,858 | 6,027 | 5,909 | 6,073 |
| 当該値 | 3.1 | 5.7 | 7.2 | 3.9 | 2.0 |
| 類似団体平均値 | 3.8 | 4.1 | 4.5 | 4.6 | 4.4 |



分析欄:

1. 資産の状況

近年は人口増対策として保育園・小中学校の増設等を行っており、歳入額対資産比率は類似団体平均より高い水準で推移し、社会資本整備が進んでいると考えられる。また、有形固定資産減価償却率は、令和元年度においても類似団体平均を下回る結果となり、類似団体と比較して将来世代が使用可能な資産形成が計画的に成されている。今後も公共施設等総合管理計画に基づき、財政状況とのバランスを見極めつつ老朽化施設の予防保全・長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

将来世代負担比率は、近年の人口増対策に伴い、地方債残高は増加傾向(前年度比+3%)にあるが、住民一人当たり純資産比率・将来負担比率はともに類似団体平均値との比較において良好な数値で推移している。長期的視点に立った財政運営に努めており、今後も行政改革への取組を通して経費削減、効率的な行政運営を行う。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っており、平成27年度から比較して大きな変動は見られない。子育て・教育関係の人員費・賃金、それに伴う社会保険料等の増加が一因であるが、人口増対策及び子育て環境整備に重きを置く施策の現れであり、特色ある村づくりを目指す中で現状の住民サービスを維持しつつ、人員の適正配置及び事務効率化に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を大きく下回っているが、人口の増加に対応するための施設整備事業(保育園及び学校施設の増設等)に係る地方債を発行するため、一定期間は増加割合の上昇が想定されるが、長期的視点に立った計画に基づくものである。基礎的財政収支は、収支等の堅実な推移・国庫等補助金の活用により、前年度に引き継ぎ令和元年度においても黒字(2百万円)となり、類似団体平均を上回っているが、今後も財政状況と事業のバランスを見極め、国庫等補助金を活用することにより、引き続き財政健全化に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、令和元年度においても類似団体平均を下回っている状況にある。今後、運用コスト及び利用状況を考慮した上で、使用料等随時見直しを図る。(令和2年度から社会教育施設(文化施設・スポーツ施設等)の使用料を改定)

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

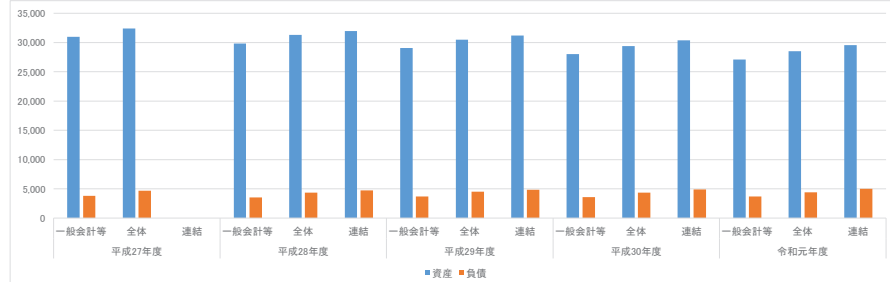
団体名 長野県中川村
 団体コード 203866

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 4,876人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 69人 |
| 面積 | 77.05 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,414.792千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | 2.3% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

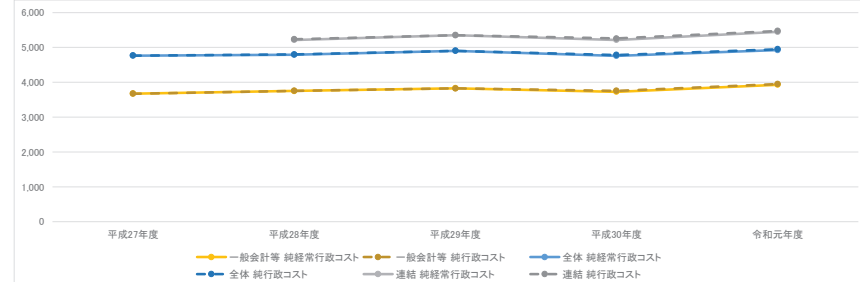
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 30,990 | 29,853 | 29,053 | 28,028 | 27,118 |
| | 負債 | 3,793 | 3,513 | 3,670 | 3,574 | 3,668 |
| 全体 | 資産 | 32,414 | 31,302 | 30,469 | 29,403 | 28,521 |
| | 負債 | 4,691 | 4,371 | 4,496 | 4,373 | 4,427 |
| 連結 | 資産 | | 31,947 | 31,214 | 30,353 | 29,534 |
| | 負債 | | 4,713 | 4,858 | 4,890 | 5,011 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から9億1千万円の減少(△3.2%)となった。主な要因は、インフラ資産の工物減価償却累計額の10億1千9百万円の増加(5.8%)である。当村においては、資産総額のうち有形固定資産の割合が90.0%となっており、これらの資産は将来の維持管理・更新等の支出を伴うものであることから、今後見込まれる人口減少、高齢化、ニーズの変化等に対応しながら、施設の集約化・複合化も含め公共施設等の適正管理に努める。負債総額については、前年度から9千4百万円増加(+2.6%)しているが、これは平成29年度の村営住宅建設に伴う過剰対策事業債の借入(1億8千9百万円)による影響が主な要因である。

2. 行政コストの状況

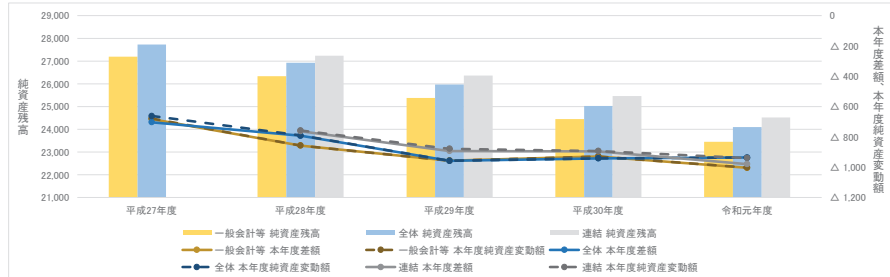
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 3,674 | 3,752 | 3,828 | 3,728 | 3,929 |
| | 純行政コスト | 3,671 | 3,757 | 3,826 | 3,756 | 3,950 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 4,767 | 4,794 | 4,906 | 4,759 | 4,926 |
| | 純行政コスト | 4,765 | 4,799 | 4,904 | 4,787 | 4,948 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,219 | 5,348 | 5,215 | 5,449 |
| | 純行政コスト | | 5,236 | 5,355 | 5,256 | 5,473 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は4億3千4百万円となり、前年度比2億1百万円の増加(+5.2%)となった。これは、補助費である担い手確保・経営強化支援事業補助金(3千8百万円)や水道事業会計への工事負担金(1千4百万円)、また介護保険特別会計繰出金(3千万円)及び下水道事業会計への繰出金(1千4百万円)、さらにシクライアントサーバー(3千1百万円)及び巡回バス購入(1千1百万円)などが主な要因である。そのほか、比率では低いが見直しに伴う役職定年制の導入なども増加要因の一つである。

3. 純資産変動の状況

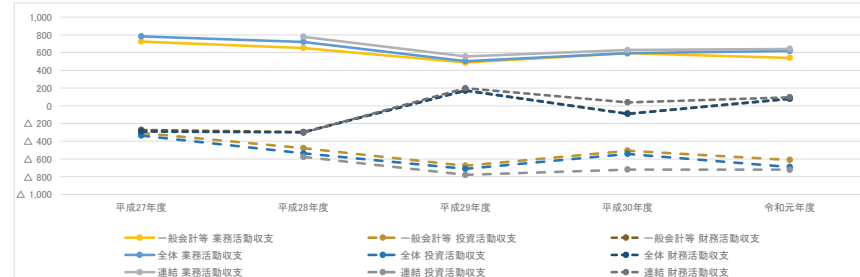
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 683 | △ 858 | △ 957 | △ 929 | △ 1,004 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 679 | △ 857 | △ 957 | △ 929 | △ 1,003 |
| | 純資産残高 | 27,197 | 26,340 | 25,383 | 24,454 | 23,451 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 704 | △ 793 | △ 958 | △ 942 | △ 937 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 662 | △ 791 | △ 958 | △ 942 | △ 937 |
| | 純資産残高 | 27,722 | 26,931 | 25,973 | 25,031 | 24,094 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 763 | △ 894 | △ 895 | △ 980 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 758 | △ 879 | △ 893 | △ 940 |
| | 純資産残高 | | 27,235 | 26,356 | 25,463 | 24,523 |



分析: 一般会計等においては、税金等と国庫等補助金の財源(29億4千5百万円)が純行政コスト(39億5千万円)を下回っており、差額が△10億4百万円となり、純資産残高は10億3百万円の減少となった。現年分と滞納繰越分を合わせた村税の徴収率は97.8%となっており、今後も滞納繰越分を中心とした徴収強化により、引き続き税金等の増加に努める。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 724 | 651 | 488 | 592 | 539 |
| | 投資活動収支 | △ 306 | △ 477 | △ 676 | △ 507 | △ 611 |
| | 財務活動収支 | △ 272 | △ 296 | 174 | △ 88 | 82 |
| 全体 | 業務活動収支 | 783 | 721 | 503 | 593 | 618 |
| | 投資活動収支 | △ 336 | △ 537 | △ 711 | △ 542 | △ 689 |
| | 財務活動収支 | △ 290 | △ 299 | 171 | △ 91 | 79 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 778 | 557 | 628 | 642 |
| | 投資活動収支 | | △ 576 | △ 778 | △ 718 | △ 721 |
| | 財務活動収支 | | △ 302 | 199 | 38 | 97 |



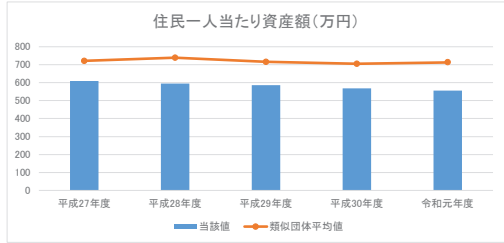
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は5億3千9百万円であったが、投資活動収支については、繰越分を含めた複数の道路改良事業及び学校給食センターなどの大型の投資事業があったことから起債事業分だけでも事業費が4億7千万円となった結果、△6億1千1百万円となっている。財務活動収支については、繰越分を含めた地方債の償還支出が発行収入を下回ったことから、プラス8千2百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から1千200万円増加し、2億3千4百万円となっている。今後、公共施設の建て替え及び大規模修繕など大型借入が計画されていることから、その償還により財務活動収支はマイナスに転じることが想定される。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

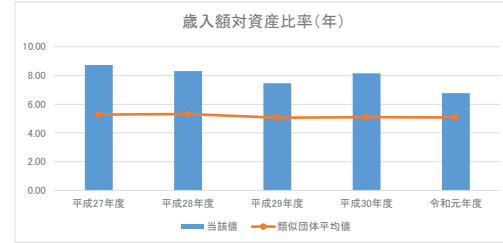
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 3,098,975 | 2,985,309 | 2,905,302 | 2,802,791 | 2,711,840 |
| 人口 | 5,082 | 5,022 | 4,952 | 4,932 | 4,876 |
| 当該値 | 609.8 | 594.4 | 586.7 | 568.3 | 556.2 |
| 類似団体平均値 | 721.4 | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

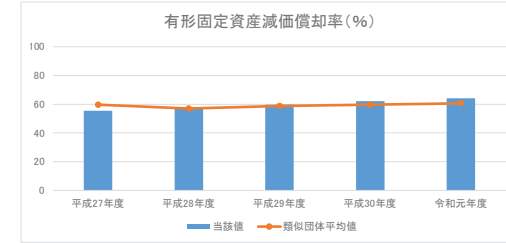
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 30,990 | 29,853 | 29,053 | 28,028 | 27,118 |
| 歳入総額 | 3,546 | 3,598 | 3,900 | 3,437 | 3,998 |
| 当該値 | 8.74 | 8.30 | 7.45 | 8.15 | 6.78 |
| 類似団体平均値 | 5.28 | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 32,051 | 33,566 | 35,092 | 36,637 | 38,175 |
| 有形固定資産 ※1 | 57,794 | 58,117 | 58,792 | 59,044 | 59,458 |
| 当該値 | 55.5 | 57.8 | 59.7 | 62.1 | 64.2 |
| 類似団体平均値 | 59.6 | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

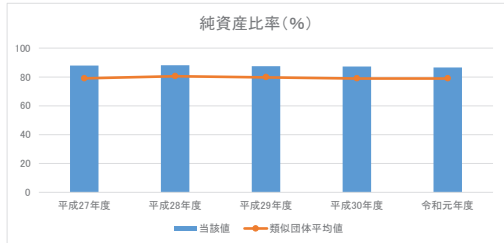
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

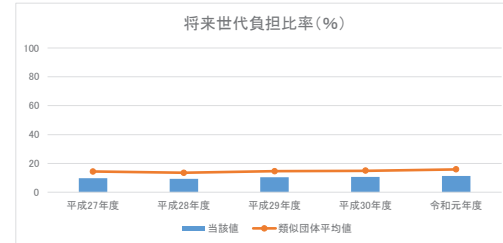
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 27,197 | 26,340 | 25,383 | 24,454 | 23,451 |
| 資産合計 | 30,990 | 29,853 | 29,053 | 28,028 | 27,118 |
| 当該値 | 87.8 | 88.2 | 87.4 | 87.2 | 86.5 |
| 類似団体平均値 | 79.0 | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 2,811 | 2,546 | 2,752 | 2,694 | 2,739 |
| 有形・無形固定資産合計 | 28,624 | 27,414 | 26,575 | 25,381 | 24,390 |
| 当該値 | 9.8 | 9.3 | 10.4 | 10.6 | 11.2 |
| 類似団体平均値 | 14.4 | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

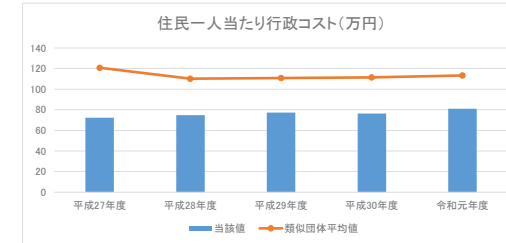
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

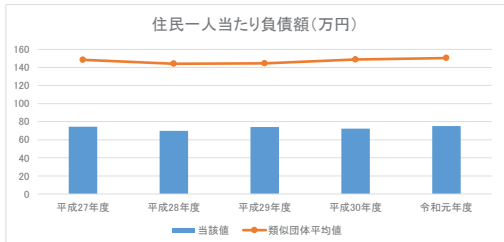
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 367,127 | 375,682 | 382,559 | 375,600 | 395,009 |
| 人口 | 5,082 | 5,022 | 4,952 | 4,932 | 4,876 |
| 当該値 | 72.2 | 74.8 | 77.3 | 76.2 | 81.0 |
| 類似団体平均値 | 120.8 | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

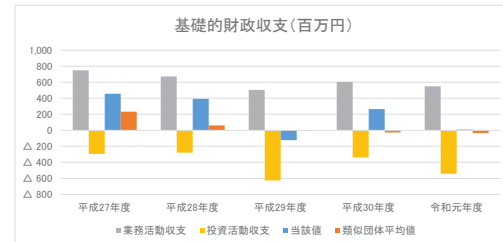
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 379,321 | 351,293 | 366,999 | 357,360 | 366,774 |
| 人口 | 5,082 | 5,022 | 4,952 | 4,932 | 4,876 |
| 当該値 | 74.6 | 70.0 | 74.1 | 72.5 | 75.2 |
| 類似団体平均値 | 148.5 | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 749 | 671 | 503 | 604 | 549 |
| 投資活動収支 ※2 | △ 293 | △ 280 | △ 626 | △ 339 | △ 540 |
| 当該値 | 456 | 391 | △ 123 | 265 | 9 |
| 類似団体平均値 | 231.1 | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

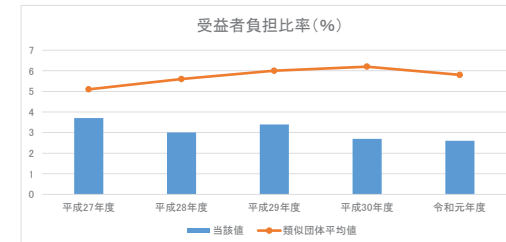
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 142 | 115 | 135 | 105 | 105 |
| 経常費用 | 3,816 | 3,867 | 3,963 | 3,833 | 4,034 |
| 当該値 | 3.7 | 3.0 | 3.4 | 2.7 | 2.6 |
| 類似団体平均値 | 5.1 | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を下回っているが、これは、取得価額が不明な道路や河川の敷地を、備忘簿額1円で評価しているものが大半を占めているためである。有形固定資産減価償却率については、昭和50年代に建設された学校教育施設等の更新時期が迫っており、類似団体より若干高い水準にある(前年度比+2.1%)。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な維持補修による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回っているものの、純行政コストが税金等の財源を上回っており、純資産残高は昨年度から4.1%減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が消費して便益を享受したことを意味するため、事務事業の見直し、組織機構の簡素合理化など、効率的な財政運営により、行政コストの削減に努めていく。将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っており、今後も国県補助金を活用した地方債の発行抑制など地方債残高の圧縮を図り、将来世代負担の縮減に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは類似団体平均を下回ってはいるが、昨年度値に比べると増加をしている。新たな増加要因として会計年度任用職員制度の導入などがあげられるが、条件不利地域であり、人口も少ない当村では、一人ひとりの人材が重要となってくるため、人材に係る経費を単純にコストと捉えず社会投資として捉えることも重要である。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、平成28年まで数年間繰上償還を行ってきたことから、類似団体平均を大幅に下回っている。しかしながら、近年公債費を上回る起債が続いていることや、今後想定される公共施設の老朽化に伴う整備などにより、残高は増加する見込みである。今後も計画的な地方債発行と効率的な財政運営により残高縮減に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を大幅に下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低い状況である。今後も公共施設の使用率の見える化を含め、使用料の見直しなど、受益者負担の適正化を図っていく必要がある。また、今後見込まれる人口減少、高齢化、ニーズ等の変化に対応するため、施設更新時にはその施設の必要性や効果などについても精査し、施設の廃止、統合、縮減についても検討していくことが重要となっている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

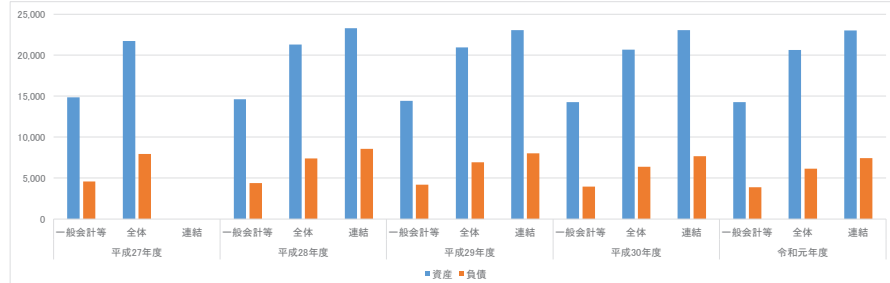
団体名 長野県宮田村
団体コード 203882

| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 9,017人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 89人 |
| 面積 | 54.50km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,704.554千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 12.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

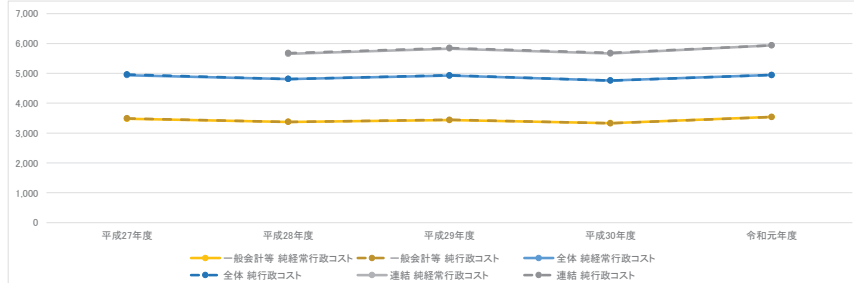
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 14,870 | 14,625 | 14,445 | 14,277 | 14,267 |
| | 負債 | 4,577 | 4,382 | 4,213 | 3,963 | 3,899 |
| 全体 | 資産 | 21,723 | 21,292 | 20,958 | 20,668 | 20,625 |
| | 負債 | 7,955 | 7,395 | 6,920 | 6,395 | 6,149 |
| 連結 | 資産 | | 23,304 | 23,059 | 23,062 | 23,039 |
| | 負債 | | 8,583 | 8,031 | 7,687 | 7,446 |



分析: 一般会計等、全体、連結すべてにおいて資産が減少している。これは、大きな新規取得資産がなく、また、大きな除却資産もない状況がここ数年続いていることからである。大型改修や更新事業が行われる時期が来るまで、今後しばらくは、この傾向が続くものと見込まれる。資産同様に負債もすべての分類で減少している。これは、新規起債の借り入れを抑制していること、償還が順調に進んでいることからである。今後このような傾向が続くものと見込まれる。

2. 行政コストの状況

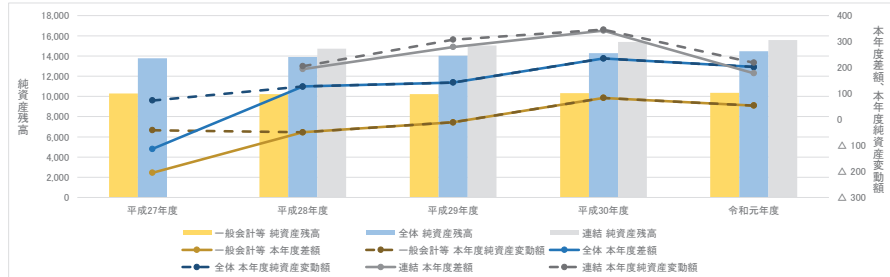
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 3,475 | 3,373 | 3,436 | 3,332 | 3,543 |
| | 純行政コスト | 3,495 | 3,377 | 3,444 | 3,329 | 3,539 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 4,942 | 4,809 | 4,924 | 4,760 | 4,947 |
| | 純行政コスト | 4,962 | 4,813 | 4,932 | 4,758 | 4,943 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,654 | 5,828 | 5,665 | 5,938 |
| | 純行政コスト | | 5,677 | 5,852 | 5,683 | 5,937 |



分析: ここ数年、一般会計等、全体、連結すべてにおいて横ばいの状態が続いている。宮田村においては、エコアクション21や9S活動により10年以上にわたり経費削減に取り組んできている。そのような状況で数値が横ばいであることは、これ以上コスト削減できない状況まで削減されていることと推測できる。今後、さらにコスト削減するためには、抜本的な改革が必要であると言える。ただし、世界中において、環境に対する配慮をより重要視する時代となっていることから、宮田村においてもコストが多少増加しても、環境対策を講じていく必要があると考える。よって、このグラフが右肩下りの状況になることは考え難い。

3. 純資産変動の状況

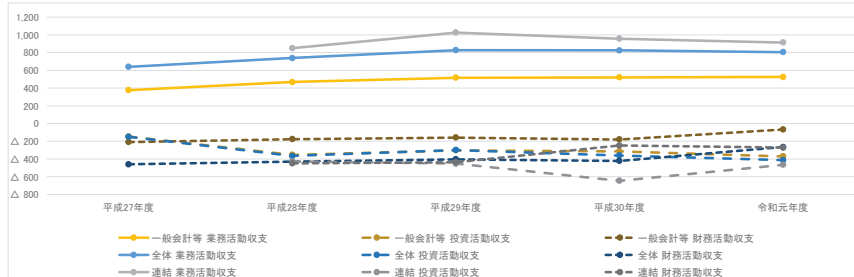
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 205 | △ 49 | △ 11 | 83 | 54 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 41 | △ 49 | △ 11 | 83 | 54 |
| | 純資産残高 | 10,292 | 10,243 | 10,232 | 10,314 | 10,368 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 113 | 127 | 142 | 235 | 202 |
| | 本年度純資産変動額 | 73 | 127 | 142 | 235 | 202 |
| | 純資産残高 | 13,769 | 13,896 | 14,039 | 14,273 | 14,476 |
| 連結 | 本年度差額 | 194 | 279 | 342 | 342 | 178 |
| | 本年度純資産変動額 | 205 | 307 | 346 | 346 | 219 |
| | 純資産残高 | | 14,721 | 15,028 | 15,375 | 15,594 |



分析: 一般会計等、全体、連結すべてにおいて本年度差額がプラスとなった。プラスの要因は税金等の余剰分である。連結において差額と変動額が右肩下りとなったのは上伊那広域連合の変動が大きな要因である。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 376 | 468 | 516 | 519 | 526 |
| | 投資活動収支 | △ 147 | △ 352 | △ 303 | △ 312 | △ 371 |
| | 財務活動収支 | △ 209 | △ 175 | △ 159 | △ 180 | △ 67 |
| 全体 | 業務活動収支 | 639 | 738 | 827 | 825 | 806 |
| | 投資活動収支 | △ 149 | △ 366 | △ 299 | △ 359 | △ 412 |
| | 財務活動収支 | △ 459 | △ 430 | △ 404 | △ 421 | △ 264 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 850 | 1,025 | 957 | 914 |
| | 投資活動収支 | | △ 427 | △ 452 | △ 646 | △ 465 |
| | 財務活動収支 | | △ 448 | △ 437 | △ 247 | △ 272 |



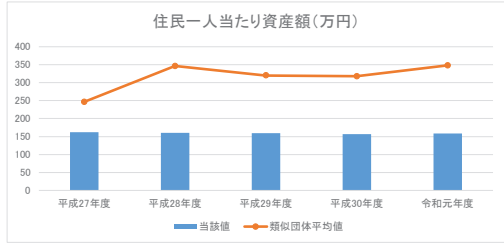
分析: 全体的におおむね横ばいの状態が続いているが、一般会計等と全体の財務活動収支が増加の方向に動いている。これは一般会計において地方債を多く発行したことが要因である。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

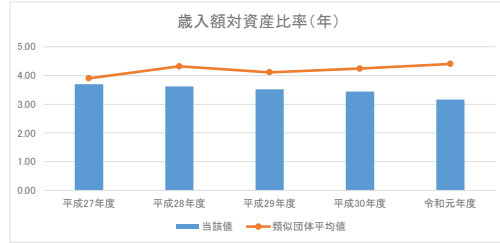
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 1,487,031 | 1,462,463 | 1,444,493 | 1,427,727 | 1,426,740 |
| 人口 | 9,175 | 9,113 | 9,073 | 9,097 | 9,017 |
| 当該値 | 162.1 | 160.5 | 159.2 | 156.9 | 158.2 |
| 類似団体平均値 | 246.6 | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

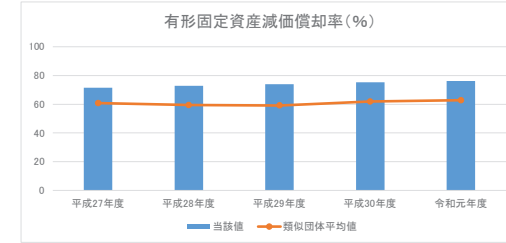
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 14,870 | 14,625 | 14,445 | 14,277 | 14,267 |
| 歳入総額 | 4,015 | 4,044 | 4,103 | 4,155 | 4,521 |
| 当該値 | 3.70 | 3.62 | 3.52 | 3.44 | 3.16 |
| 類似団体平均値 | 3.90 | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 22,570 | 23,094 | 23,613 | 24,119 | 24,613 |
| 有形固定資産 ※1 | 31,579 | 31,714 | 31,889 | 32,035 | 32,306 |
| 当該値 | 71.5 | 72.8 | 74.0 | 75.3 | 76.2 |
| 類似団体平均値 | 60.8 | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

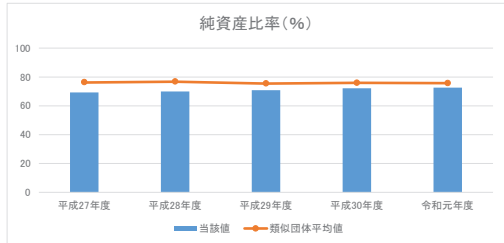
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

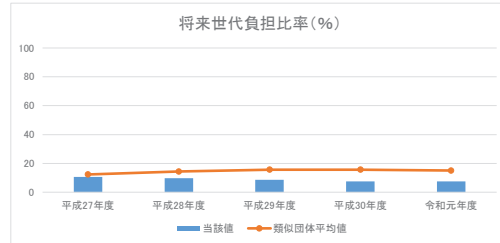
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 10,292 | 10,243 | 10,232 | 10,314 | 10,368 |
| 資産合計 | 14,870 | 14,625 | 14,445 | 14,277 | 14,267 |
| 当該値 | 69.2 | 70.0 | 70.8 | 72.2 | 72.7 |
| 類似団体平均値 | 76.2 | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 1,401 | 1,227 | 1,071 | 903 | 892 |
| 有形・無形固定資産合計 | 13,086 | 12,710 | 12,411 | 12,146 | 12,047 |
| 当該値 | 10.7 | 9.7 | 8.6 | 7.4 | 7.4 |
| 類似団体平均値 | 12.3 | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

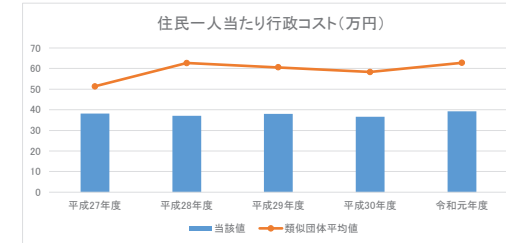
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

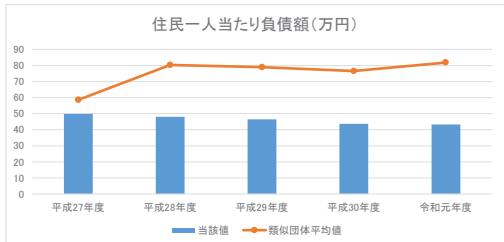
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 349,494 | 337,675 | 344,406 | 332,939 | 353,935 |
| 人口 | 9,175 | 9,113 | 9,073 | 9,097 | 9,017 |
| 当該値 | 38.1 | 37.1 | 38.0 | 36.6 | 39.3 |
| 類似団体平均値 | 51.4 | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

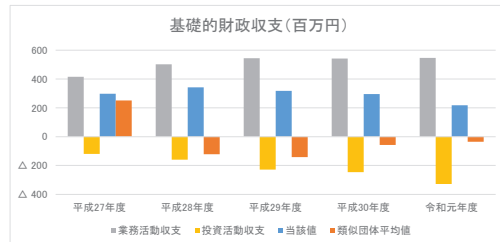
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 457,702 | 438,181 | 421,314 | 396,296 | 389,906 |
| 人口 | 9,175 | 9,113 | 9,073 | 9,097 | 9,017 |
| 当該値 | 49.9 | 48.1 | 46.4 | 43.6 | 43.2 |
| 類似団体平均値 | 58.6 | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 416 | 502 | 545 | 543 | 546 |
| 投資活動収支 ※2 | △ 118 | △ 160 | △ 228 | △ 246 | △ 328 |
| 当該値 | 298 | 342 | 317 | 297 | 218 |
| 類似団体平均値 | 251.0 | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

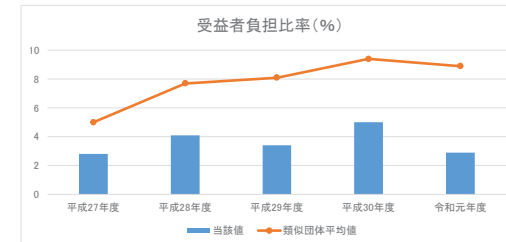
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 101 | 144 | 120 | 177 | 105 |
| 経常費用 | 3,576 | 3,517 | 3,557 | 3,509 | 3,648 |
| 当該値 | 2.8 | 4.1 | 3.4 | 5.0 | 2.9 |
| 類似団体平均値 | 5.0 | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

横ばいが続き、類似団体と比較すると半分程度の数値となっている。当村は居住地域が比較的コンパクトであるため類似団体と比較してインフラ資産や公共施設が少なくても行政運営ができていくと推測できる。しかしながら、有形固定資産減価償却率が類似団体より高い数値で推移していることは、老朽化が進んだ資産を使用しているということとなり、今後、大規模築替えや更新などを計画的に行っていく必要があると言える。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は横ばい微増であり、また、将来世代負担比率については微減から横ばいで類似団体より低く推移していることから、将来に向けて適正な傾向に推移していると言える。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストについては、類似団体より低く推移しており、横ばいである。これは行政運営が効率的にされていることと伺える。ただ、世界的にも環境に配慮する行動が必要である世の中であることから、コストアップしても環境に配慮した取り組みを積極的に行っていく必要があり、今後はこのこの指標は上昇する可能性があると思込んでいる。

4. 負債の状況

ここ何年も事業のための新規借入れは極力行わないといった抑制をしているため、順調に負債残高は減ってきている。また、類似団体と比べても低く推移しているため、当面は心配することはないと思込んでいる。ただ、今後、老朽化した公共施設の建て替えなど計画しており、新規借入れが見込まれることから、負債残高が上昇する可能性を大きく有している。そこで、その時の新規借入れ額を少しでも少なく抑えることができるように、今から公共施設整備基金の積み増しを計画的に行い備えていきたいと考えている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担率は類似団体より下で推移している。前年と比べると経常収益がさがったことにより、受益者負担率が減少している。村税収入の減少や保育料無償化による収入減の影響が大きい。新型コロナウイルスの影響や人口減少の影響により、今後、村税収入は変動的な要素であると言え、注視していく必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

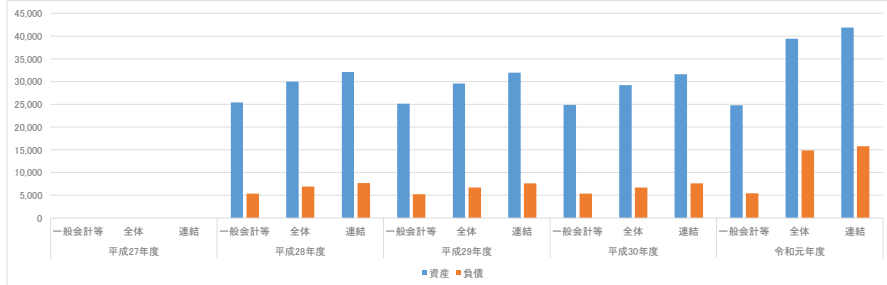
団体名 長野県松川町
団体コード 204021

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 13,157人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 115人 |
| 面積 | 72.79 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,085.531千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-0 | 実質公債費率 | 6.2% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

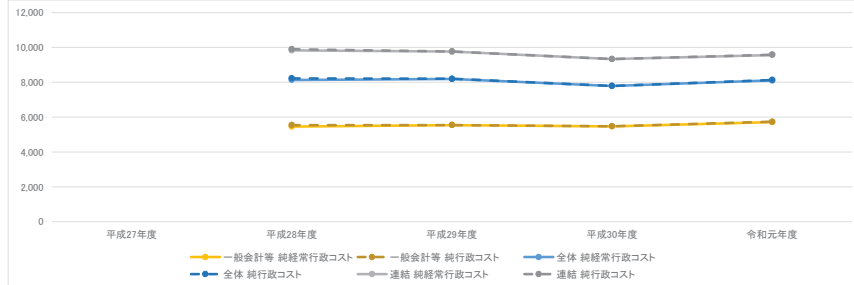
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 25,440 | 25,129 | 24,886 | 24,751 |
| | 負債 | | 5,385 | 5,255 | 5,353 | 5,480 |
| 全体 | 資産 | | 30,003 | 29,585 | 29,196 | 29,439 |
| | 負債 | | 6,937 | 6,709 | 6,691 | 6,738 |
| 連結 | 資産 | | 32,099 | 31,938 | 31,632 | 31,843 |
| | 負債 | | 7,673 | 7,624 | 7,613 | 7,778 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から135百万円の減少(△1.0%)となった。主な要因として、事業用資産が減価償却により減少したことによる。また、資産合計額のうち、有形固定資産の割合が97.9%となっている。有形固定資産の減価償却率は58.6%となっており、これらについては将来、維持管理や更新の支出を伴って考えられることから、公共施設等総合管理計画と個別施設計画に基づき、計画的な資産管理に努める。また、負債については、負債総額のうち71.7%を占める地方債について、元利償還金額以上の地方債新規発行を行わないように努めるなど、地方債残高の大幅な増加を抑制していく必要がある。
・国民健康保険事業などの各特別会計や公営事業会計を含めた全体会計、一部事務組合等を加えた連結会計において、令和元年度より新たに下水道事業会計が連結対象となったため、資産については10,243百万円の増加(特にインフラ資産が9,712百万円増加)となり、負債については全体的に7,632百万円の増加となっている。

2. 行政コストの状況

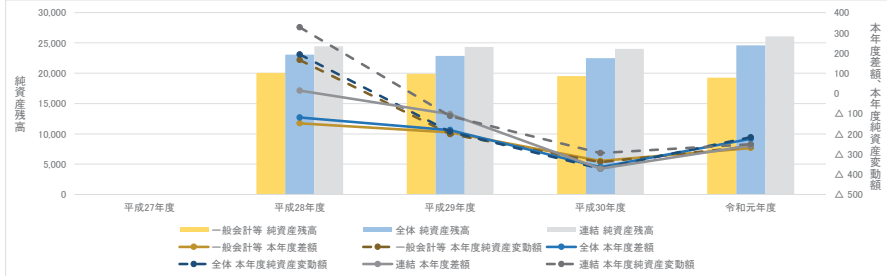
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 5,458 | 5,542 | 5,475 | 5,717 |
| | 純行政コスト | | 5,544 | 5,547 | 5,477 | 5,741 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 8,138 | 8,193 | 7,789 | 8,113 |
| | 純行政コスト | | 8,224 | 8,198 | 7,791 | 8,138 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 9,834 | 9,765 | 9,335 | 9,567 |
| | 純行政コスト | | 9,900 | 9,770 | 9,336 | 9,590 |



分析:
一般会計等における経常費用は5,885百万円となっており、そのうち業務費用が3,416百万円と、移転費用の2,470百万円を上回っている。業務費用のうち最も大きな割合を占める物件費等(2,530百万円)について、システム運用管理経費や各種計画の策定にかかる委託費用などで近年上昇傾向にあり、業務のスリム化(効率化)や、費用の適正化に努め、上昇を抑制していく必要がある。また、移転費用のうち、社会保障給付(682百万円)は、高齢化の進展などにより、上昇していくと考えられる。
・全体会計になると、国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療にかかる特別会計が含まれ、保険給付等の支出が増えるため、社会保障給付の額が一般会計等に比べて1,987百万円増加し、2,649百万円となっていることなどが、純行政コストは8,113百万円となっている。
・一部事務組合等を含めた連結会計においては、連結対象団体の事業収益を計上しているため、一般会計等に比べて経常収益が1,196百万円増の1,364百万円となっており、人員費等の業務費用が2,170百万円増の5,586百万円となっており、純行政コストは9,590百万円となっている。

3. 純資産変動の状況

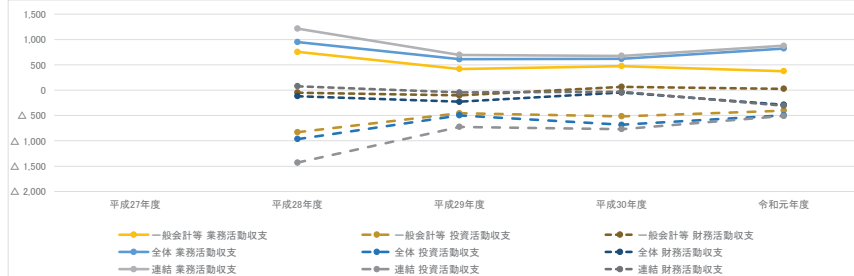
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △148 | △193 | △334 | △270 |
| | 本年度純資産変動額 | | 165 | △201 | △340 | △262 |
| | 純資産残高 | | 20,074 | 19,873 | 19,533 | 19,271 |
| 全体 | 本年度差額 | | △119 | △181 | △365 | △225 |
| | 本年度純資産変動額 | | 193 | △189 | △372 | △217 |
| | 純資産残高 | | 23,066 | 22,876 | 22,504 | 22,585 |
| 連結 | 本年度差額 | | 14 | △102 | △372 | △258 |
| | 本年度純資産変動額 | | 327 | △112 | △295 | △252 |
| | 純資産残高 | | 24,426 | 24,314 | 24,019 | 26,065 |



分析:
一般会計等については、純行政コスト(5,741百万円)が税収等や国県等補助金の財源(5,471百万円)を上回っており、本年度差額は△270百万円となっている。無償所管替等の資産が8百万円増加しているものの、純資産額は262百万円減少している。
・全体会計についても、一般会計等と同様の傾向にあり、純行政コスト(8,138百万円)が財源(7,912百万円)を上回り、本年度差額は△225百万円となっており、無償所管替等の資産が8百万円増加しているものの、純資産額は217百万円減少している。
・連結会計については、純行政コスト(9,590百万円)が財源(9,332百万円)を上回っている状況である。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 756 | 416 | 475 | 373 |
| | 投資活動収支 | | △830 | △457 | △518 | △405 |
| | 財務活動収支 | | △50 | △103 | 65 | 27 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 949 | 611 | 617 | 821 |
| | 投資活動収支 | | △967 | △498 | △684 | △497 |
| | 財務活動収支 | | △117 | △230 | △46 | △289 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,214 | 695 | 675 | 876 |
| | 投資活動収支 | | △1,429 | △726 | △770 | △509 |
| | 財務活動収支 | | 76 | △47 | △33 | △308 |



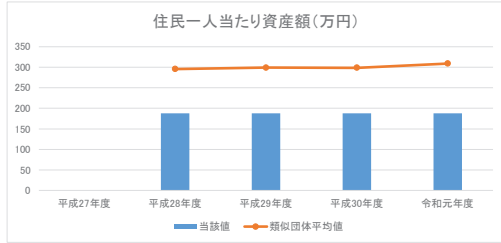
分析:
一般会計等について、業務活動収支を見ると、業務支出(4,977百万円)に対して業務収入(5,350百万円)が上回っている状況であるものの、投資活動収支は、△405百万円となった。財務活動収支においては、地方債の発行が、元利償還金を上回ったため、27百万円となった。本年度末資金残高は335百万円であり、前年度末に比べて5百万円の減少となった。
・全体会計、連結会計については、本年度資金収支がそれぞれ35百万円、59百万円となっており、前年度末資金残高から増加している。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

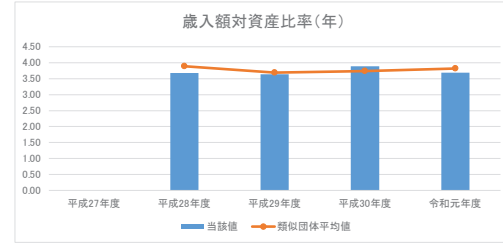
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,543,968 | 2,512,867 | 2,488,613 | 2,475,135 |
| 人口 | | 13,549 | 13,399 | 13,272 | 13,157 |
| 当該値 | | 187.8 | 187.5 | 187.5 | 188.1 |
| 類似団体平均値 | | 295.6 | 299.2 | 298.9 | 309.0 |



②歳入額対資産比率(年)

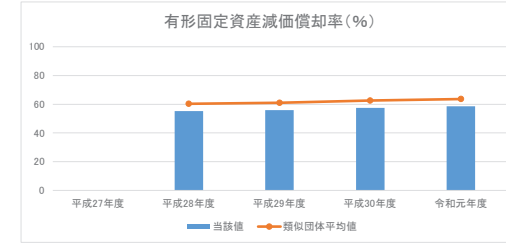
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 25,440 | 25,129 | 24,886 | 24,751 |
| 歳入総額 | | 6,914 | 6,909 | 6,399 | 6,703 |
| 当該値 | | 3.68 | 3.64 | 3.89 | 3.69 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 3.69 | 3.74 | 3.82 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 21,562 | 22,234 | 23,043 | 23,845 |
| 有形固定資産 ※1 | | 39,059 | 39,793 | 40,172 | 40,679 |
| 当該値 | | 55.2 | 55.9 | 57.4 | 58.6 |
| 類似団体平均値 | | 60.3 | 61.0 | 62.5 | 63.6 |

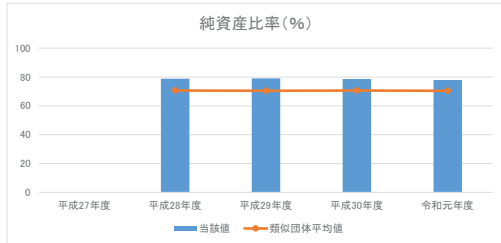
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

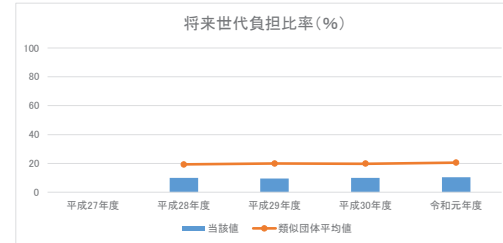
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 20,074 | 19,873 | 19,533 | 19,271 |
| 資産合計 | | 25,440 | 25,129 | 24,886 | 24,751 |
| 当該値 | | 78.9 | 79.1 | 78.5 | 77.9 |
| 類似団体平均値 | | 70.6 | 70.4 | 70.5 | 70.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,191 | 2,125 | 2,195 | 2,266 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 21,957 | 22,080 | 21,887 | 21,787 |
| 当該値 | | 10.0 | 9.6 | 10.0 | 10.4 |
| 類似団体平均値 | | 19.3 | 19.9 | 19.8 | 20.5 |

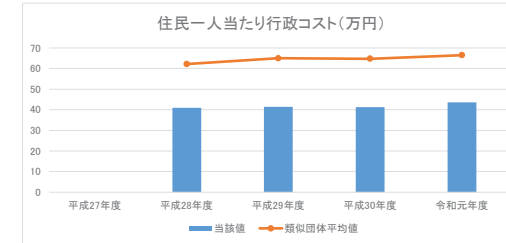
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

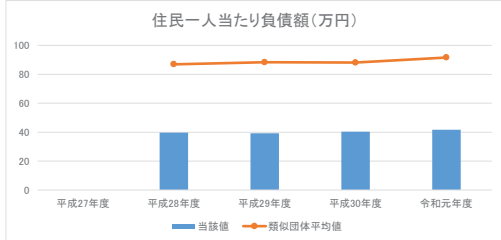
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 総行政コスト | | 554,380 | 554,658 | 547,703 | 574,065 |
| 人口 | | 13,549 | 13,399 | 13,272 | 13,157 |
| 当該値 | | 40.9 | 41.4 | 41.3 | 43.6 |
| 類似団体平均値 | | 62.2 | 65.0 | 64.8 | 66.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

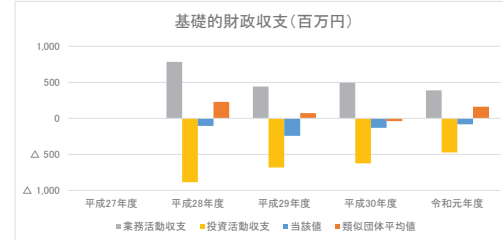
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 536,520 | 525,543 | 535,332 | 548,018 |
| 人口 | | 13,549 | 13,399 | 13,272 | 13,157 |
| 当該値 | | 39.6 | 39.2 | 40.3 | 41.7 |
| 類似団体平均値 | | 86.9 | 88.4 | 88.2 | 91.6 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 784 | 439 | 493 | 389 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 887 | △ 680 | △ 624 | △ 472 |
| 当該値 | | △ 103 | △ 241 | △ 131 | △ 83 |
| 類似団体平均値 | | 226.0 | 72.6 | △ 37.6 | 160.4 |

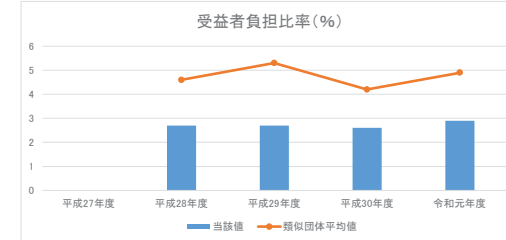
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 151 | 151 | 146 | 168 |
| 経常費用 | | 5,609 | 5,693 | 5,622 | 5,885 |
| 当該値 | | 2.7 | 2.7 | 2.6 | 2.9 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 5.3 | 4.2 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たりの資産額は、類似団体平均値を大きく下回っている。また、歳入額対資産比率についても類似団体平均値を下回っている。
 ・有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比べ5%程度下回っており、これまででも改修・改築等を行っている施設等があることから、類似団体に比べ有形固定資産が比較的新しいということが言える。しかし、今後は老朽化した施設等について、維持管理や更新、集約複合化などを含めた検討を行っていく必要があり、公共施設等総合管理計画に基づき、適切な資産管理に努めていくことが求められている。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均値を上回っており、これは繰上償還等により地方債の残高を圧縮してきている経過があるためである。
 ・また、地方債の残高の約5割が臨時財政対策債等の特例地方債であることから、将来負担率が類似団体平均値に比べ大きく下回っている。
 ・しかし、老朽化などにより公共施設等の更新や長寿命化を図る必要から、地方債を発行していくことが考えられ、地方債残高は増加する見込みである。それに伴い、将来負担比率も上昇することが予測できるが、将来世代の負担が過度にならないよう個別施設計画を策定し、計画的な整備・地方債の発行に努めていく。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは、類似団体平均値を大きく下回っているものの、物件費は近年大きく上昇している。要因としては、増加傾向にある各種システム関連経費や臨時職員の増員などがあると分析する。各種システムについては、ICT最適化計画を基に、過剰な経費がかからないように努める。
 ・社会保障給付などは高齢化などの影響で今後は伸びていくことが予想できるため、併せて行政コスト全体も上昇していくことが予測できる。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は類似団体平均値を大きく下回っており、これは、定期償還に加え繰上償還を適宜実施し、地方債現在高の圧縮を図ってきた経過があるためである。今後も、償還額以上の新規地方債の発行を可能な限り抑制するなど、地方債残高の圧縮に努める。
 ・基礎的財政収支については、支払利息支出を除く業務活動収支が、基金積立金支出及び基金取崩収入を除いた投資活動収支を下回ったため、△83百万円となっている。類似団体平均値を下回っており、投資活動収支が赤字となっているのは、防災用備蓄倉庫整備に係る設計業務や町民体育館耐震補強工事等の大型事業を行ったためである。投資活動収支について、新規事業については優先度の高い事業に限定すること、できるだけ税などの自主財源の範囲のなかで投資活動を実施するなどして、基礎的財政収支の赤字分縮減に努める。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均値を下回っており、行政サービスに対する住民の直接負担は低くなっている。同時に、経常費用に対するの税率等の財源充当率が高いということも言える。経常経費の削減とともに、受益者負担の適正化が求められている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

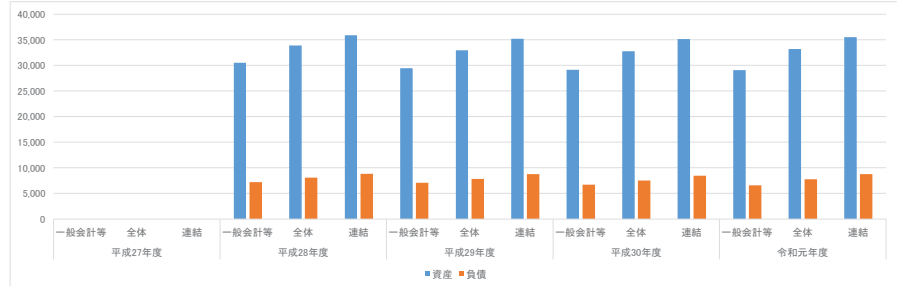
団体名 長野県高森町
団体コード 204030

| | | | |
|--------|----------------------|------------|-------|
| 人口 | 13,030人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 89人 |
| 面積 | 45.36km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,926,222千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-1 | 実質公債費率 | 9.9% |
| | | 将来負担比率 | 64.0% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| x | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

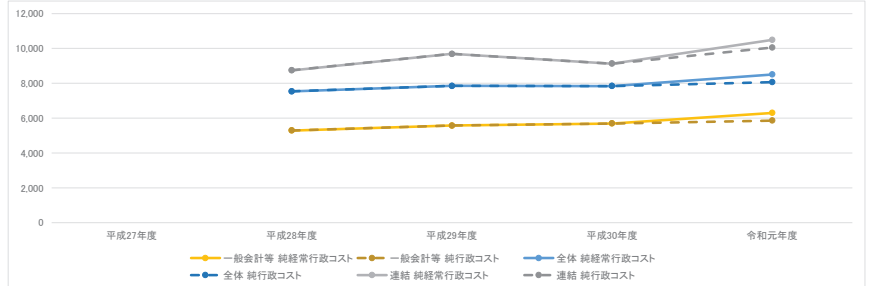
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 30,533 | 29,458 | 29,153 | 29,069 |
| | 負債 | | 7,231 | 7,062 | 6,740 | 6,611 |
| 全体 | 資産 | | 33,877 | 32,967 | 32,791 | 33,223 |
| | 負債 | | 8,083 | 7,862 | 7,527 | 7,805 |
| 連結 | 資産 | | 35,899 | 35,237 | 35,160 | 35,559 |
| | 負債 | | 8,856 | 8,809 | 8,497 | 8,786 |



分析:
 ・一般会計においては、総資産額が29,069百万円となっており、前年度比で84百万円の減少(-0.3%)となっているが、資産の取得額が減価償却による資産の減少を下回ったものである。負債は6,611百万円となっており、前年度比で129百万円の減、1.9%の減少である。現状では、特に資産総額のうち有形固定資産が93%を占めており、これらの資産は将来の維持管理・更新のための支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画や個別施設計画に基づき、施設の集約化を進めるなど、公共施設等の適正管理に努める。
 ・水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体については、平成30年度時点では下水道会計が公営企業会計へ移行中であり反映されていない。

2. 行政コストの状況

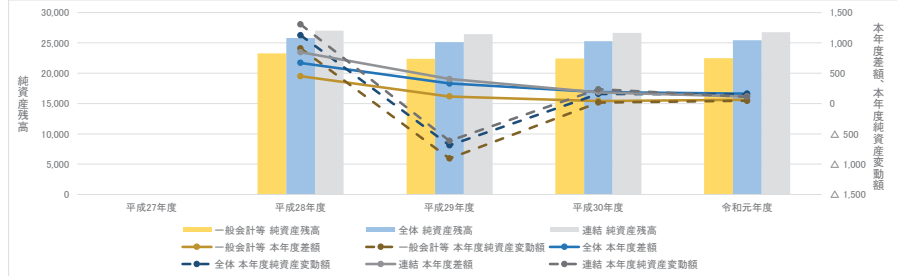
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 5,286 | 5,574 | 5,694 | 6,298 |
| | 純行政コスト | | 5,292 | 5,575 | 5,696 | 6,298 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 7,537 | 7,852 | 7,840 | 8,506 |
| | 純行政コスト | | 7,543 | 7,854 | 7,842 | 8,067 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 8,740 | 9,689 | 9,128 | 10,494 |
| | 純行政コスト | | 8,749 | 9,691 | 9,129 | 10,054 |



分析:
 ・一般会計においては、純経常行政コストは6,298百万円となっている。そのうち人件費等の業務費用は3,521百万円、補助金や社会保障給付費等の移転費用が3,015百万円、ついで、減価償却を含む物件費等が2,514百万円となっている。高齢化の進展などにより、今後はさらに社会保障給付費の全体を占める割合が高い傾向となることを見込まれるため、事業の見直しや介護予防の推進等により、経費の抑制に努める必要がある。
 ・水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体については、令和元年度時点では下水道会計が公営企業会計へ移行中であり反映されていない。
 ・広域連合や一部事務組合、まちづくり振興公社等を加えた連結では、純経常行政コストが10.1%の増となり、一般会計や全体に比べ高くなっている。連結の経常費用11,112百万円のうち、移転費用(6,445百万円)が人件費等の業務費用(4,667百万円)を上回っており、一般会計以上に社会保障給付費の全体を占める割合が高い傾向が続くことを見込まれるため、事業の見直しや介護予防の推進等により、経費の抑制に努める必要がある。

3. 純資産変動の状況

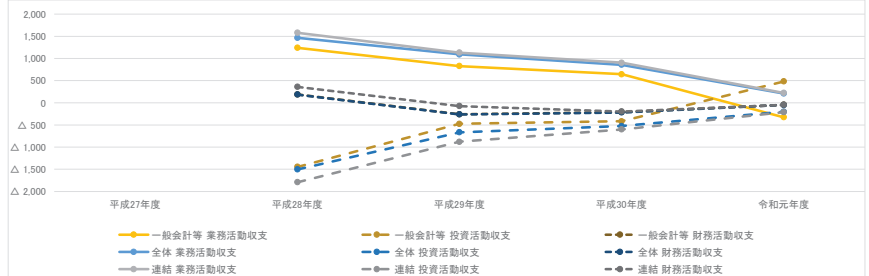
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 451 | 117 | 41 | 60 |
| | 本年度純資産変動額 | | 911 | △ 906 | 17 | 45 |
| | 純資産残高 | | 23,302 | 22,396 | 22,413 | 22,458 |
| 全体 | 本年度差額 | | 669 | 329 | 188 | 163 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,127 | △ 689 | 159 | 154 |
| | 純資産残高 | | 25,794 | 25,105 | 25,264 | 25,418 |
| 連結 | 本年度差額 | | 847 | 403 | 185 | 115 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,305 | △ 616 | 235 | 111 |
| | 純資産残高 | | 27,043 | 26,427 | 26,662 | 26,773 |



分析:
 ・一般会計においては、純資産残高が22,458百万円となっている。純行政コスト(5,858百万円)が税金等の財源(5,918百万円)を下回っている。本年度は、社会資本整備をはじめとする事業を行ったため、財源に当該補助金の額が計上される一方、当該施設取得による行政コストの計上は減価償却により徐々になされるため、純資産が増加していることが考えられる。
 ・水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体については、令和元年度時点において下水道会計が公営企業会計へ移行中であり、反映されていない。
 ・広域連合や一部事務組合、まちづくり振興公社等を加えた連結においても、一般会計と同じく行政コスト(10,054百万円)が税金等の財源(10,169百万円)を下回っている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,240 | 830 | 643 | △ 328 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,447 | △ 474 | △ 417 | 481 |
| | 財務活動収支 | | 189 | △ 258 | △ 213 | △ 46 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,466 | 1,090 | 859 | 209 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,503 | △ 664 | △ 524 | △ 200 |
| | 財務活動収支 | | 184 | △ 263 | △ 219 | △ 48 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,579 | 1,133 | 903 | 222 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,792 | △ 879 | △ 603 | △ 210 |
| | 財務活動収支 | | 359 | △ 74 | △ 198 | △ 45 |



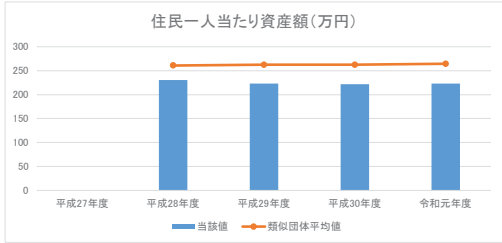
分析:
 ・一般会計においては、業務活動収支がマイナス328百万円、投資活動収支が481百万円、財務活動収支がマイナス46百万円となっている。近年は地方債の償還額が地方債発行額を上回らない(返す以上に借りない)方針の下、財務活動を行っている。地方債の償還は進んでおり、基金の繰入は行っていない、経常的な活動に係る経費は税金等の収入で賄われている。
 ・水道事業会計や下水道事業会計等を加えた全体については、令和元年度時点では下水道会計が公営企業会計へ移行中であり、反映されていない。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

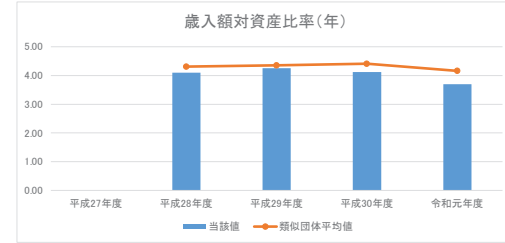
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,053,276 | 2,945,793 | 2,915,282 | 2,906,946 |
| 人口 | | 13,245 | 13,199 | 13,148 | 13,030 |
| 当該値 | | 230.5 | 223.2 | 221.7 | 223.1 |
| 類似団体平均値 | | 260.8 | 262.3 | 262.3 | 264.5 |



②歳入額対資産比率(年)

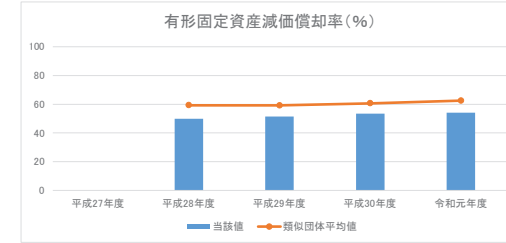
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 30,533 | 29,458 | 29,153 | 29,069 |
| 歳入総額 | | 7,439 | 6,935 | 7,080 | 7,866 |
| 当該値 | | 4.10 | 4.25 | 4.12 | 3.70 |
| 類似団体平均値 | | 4.31 | 4.35 | 4.41 | 4.16 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 20,830 | 21,751 | 22,688 | 23,545 |
| 有形固定資産 ※1 | | 41,856 | 42,211 | 42,369 | 43,541 |
| 当該値 | | 49.8 | 51.5 | 53.5 | 54.1 |
| 類似団体平均値 | | 59.3 | 59.2 | 60.6 | 62.5 |

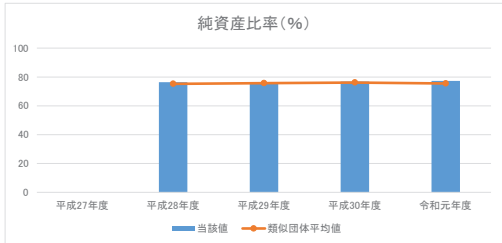
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

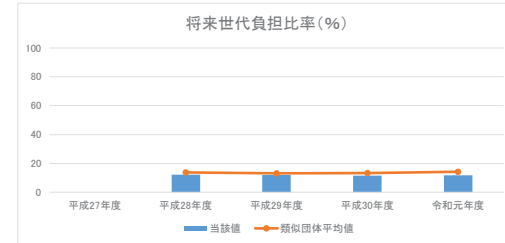
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 23,302 | 22,396 | 22,413 | 22,458 |
| 資産合計 | | 30,533 | 29,458 | 29,153 | 29,069 |
| 当該値 | | 76.3 | 76.0 | 76.9 | 77.3 |
| 類似団体平均値 | | 75.2 | 75.7 | 76.1 | 75.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,489 | 3,252 | 3,078 | 3,090 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 28,679 | 27,221 | 26,727 | 26,355 |
| 当該値 | | 12.2 | 11.9 | 11.5 | 11.7 |
| 類似団体平均値 | | 13.7 | 13.1 | 13.2 | 14.2 |

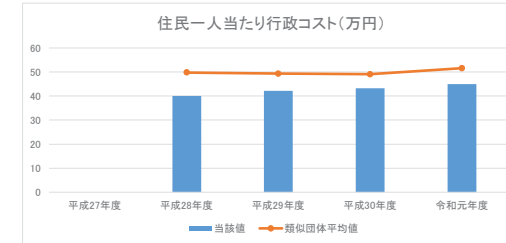
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

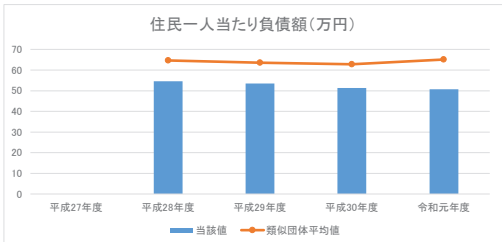
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 529,209 | 557,545 | 569,557 | 585,839 |
| 人口 | | 13,245 | 13,199 | 13,148 | 13,030 |
| 当該値 | | 40.0 | 42.2 | 43.3 | 45.0 |
| 類似団体平均値 | | 49.8 | 49.3 | 49.1 | 51.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

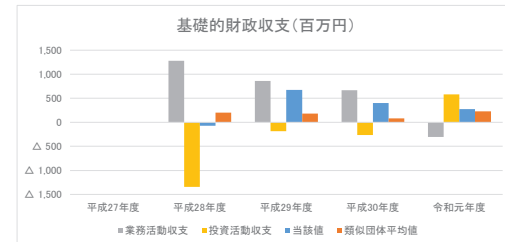
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 723,092 | 706,198 | 673,964 | 661,110 |
| 人口 | | 13,245 | 13,199 | 13,148 | 13,030 |
| 当該値 | | 54.6 | 53.5 | 51.3 | 50.7 |
| 類似団体平均値 | | 64.7 | 63.6 | 62.8 | 65.1 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,277 | 859 | 667 | △307 |
| 投資活動収支 ※2 | | △1,345 | △187 | △266 | 584 |
| 当該値 | | △68 | 672 | 401 | 277 |
| 類似団体平均値 | | 200.0 | 179.7 | 78.9 | 226.8 |

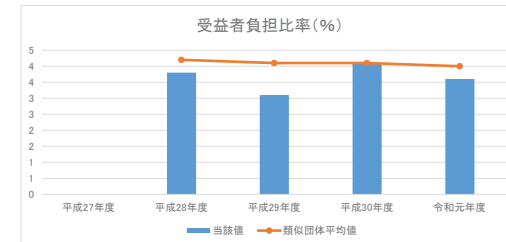
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 206 | 181 | 241 | 238 |
| 経常費用 | | 5,492 | 5,755 | 5,934 | 6,536 |
| 当該値 | | 3.8 | 3.1 | 4.1 | 3.6 |
| 類似団体平均値 | | 4.2 | 4.1 | 4.1 | 4.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

資産の状況について、住民一人当たりの資産額は223.1万円、歳入額対資産比率は3.70年、有形固定資産減価償却率は54.1%となっており、いずれも前年並みである。住民一人当たりの資産額は類似団体と比較しても低い傾向にあり、有形固定資産の原価償却率は類似団体と比較して低い傾向にある。令和2年度に策定した個別施設計画(長寿化計画)及び現在改訂中の公共施設総合管理計画に基づき、中長期的取り組みとして公共施設等の集約化等を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

2. 資産と負債の比率

資産と負債の比率について、純資産比率は77.3%、将来世代の負担比率は11.7%となっている。現在策定中の町内施設を対象とした個別施設計画(長寿化計画)に基づき、中長期的取り組みとして公共施設等の集約化等を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。今後将来世代負担比率の増加を抑えるため、発行額が償還額を上回ることのないようにするなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

行政コストの状況について、住民一人当たりの行政コストは45.0万円と、前年に引き続き類似団体と比較しても低い傾向にあり、純行政コストを占める人件費の割合も16.6%と低い。直営で運営している施設の指定管理者制度の導入の検討や、行政改革への取り組みにより、各種経費の削減に努める。

4. 負債の状況

負債の状況については、住民一人あたりの負債額が50.7万円と前年に引き続き類似団体よりは低い傾向にあり、起債の償還は進んでおり、実質公債費比率は7年連続で改善している。公共施設個別施設計画を加味した中長期的財政シミュレーションを早期に作成するとともに、なるべく発行額が償還額を上回らないよう、起債残高の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担の状況について、受益者負担率は3.6%と、前年比マイナス0.5%となっており、類似団体並みとなっているが、今後は経常費用のうち維持補修費の増加が見込まれることから、現在改訂中の公共施設総合管理計画や個別施設計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿化を行うことにより、経常費用の削減に努めるなどの取り組みが必要である。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

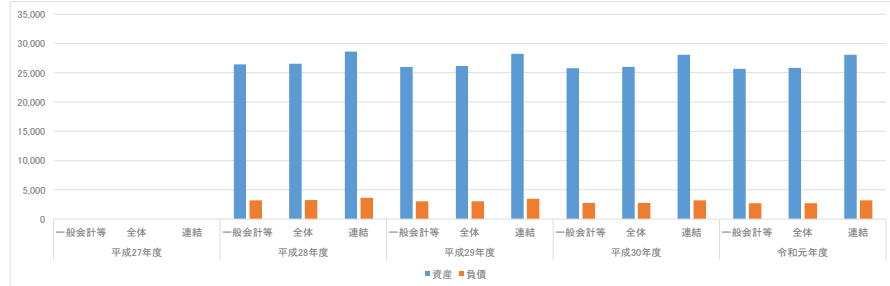
団体名 長野県阿南町
団体コード 204048

| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 4,518 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 70 人 |
| 面積 | 123.07 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 2,523.313 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村 I - 1 | 実質公債費率 | 3.5 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

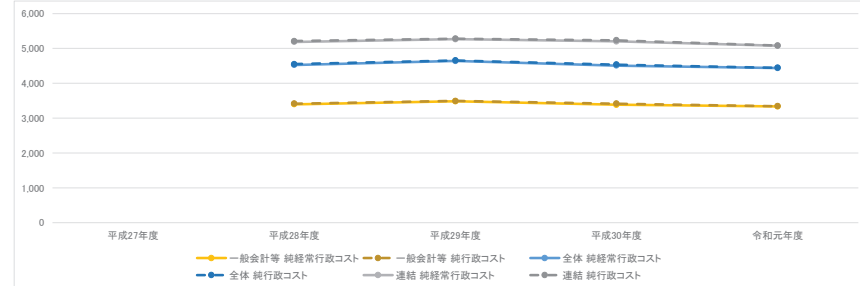
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 26,440 | 26,020 | 25,809 | 25,682 |
| | 負債 | | 3,217 | 3,048 | 2,776 | 2,690 |
| 全体 | 資産 | | 26,570 | 26,183 | 25,978 | 25,862 |
| | 負債 | | 3,228 | 3,049 | 2,778 | 2,692 |
| 連結 | 資産 | | 28,616 | 28,247 | 28,082 | 28,068 |
| | 負債 | | 3,650 | 3,485 | 3,218 | 3,225 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が25,682百万円となった。金額が大きいものは有形固定資産と基金であり、有形固定資産は、事業用資産が9,342百万円、インフラ資産が11,488百万円の合計20,830百万円である。また、基金は固定資産及び流動資産に計上されているものの合計4,442百万円が計上されている。これらを含めると25,272百万円となり、総資産に占める割合は、98.4%となる。
全体会計においては、水道及び下水道事業が法適化移行中である。これらの特別会計の資産が合算されていないこともあり、総資産は微減の25,862百万円となっている。減価償却による減額が主な要因である。
連結会計については、連結対象団体の資産負債が合算され、資産総額は28,062百万円であり、負債総額は3,225百万円、差引の純資産は24,842百万円となっている。

2. 行政コストの状況

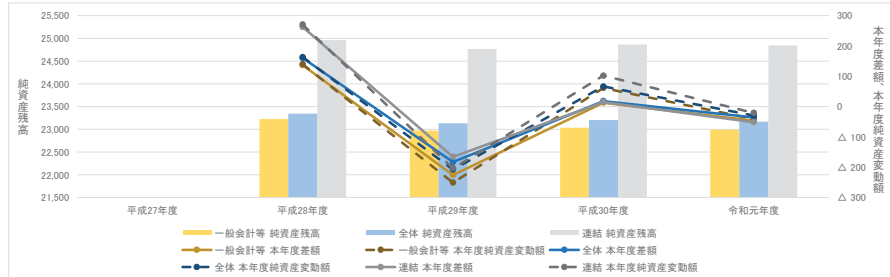
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,396 | 3,485 | 3,386 | 3,337 |
| | 純行政コスト | | 3,417 | 3,496 | 3,416 | 3,342 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,528 | 4,643 | 4,509 | 4,439 |
| | 純行政コスト | | 4,549 | 4,655 | 4,539 | 4,444 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,191 | 5,269 | 5,204 | 5,079 |
| | 純行政コスト | | 5,212 | 5,280 | 5,234 | 5,084 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は3,804百万円となった。業務費用の方が移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等(2,198百万円)であり、純行政コスト(3,342百万円)の65.7%を占めている。施設の集約化・複合化事業に着手するなど、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。
全体会計については、水道会計、下水道会計は法適化移行中であり、数値に含まれていないため、水道料金等の使用料及び手数料は含まれていない。全体会計の純行政コストは4,444百万円となっており、95百万円減少しているが、主な要因は、経常収益が増額したことである。
連結では、全体会計に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が994百万円、人件費が762百万円多くなっているなど、経常費用が1,756百万円多くなり、純行政コストは840百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

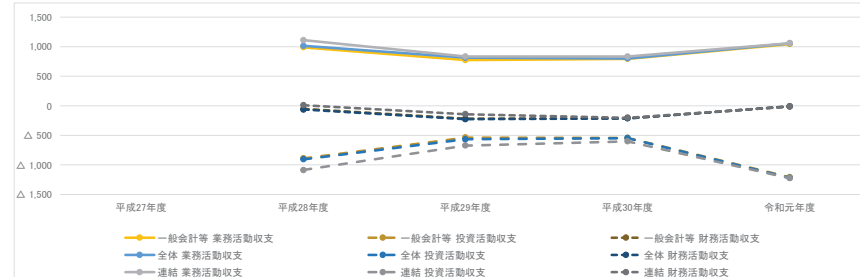
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 136 | △ 226 | 13 | △ 47 |
| | 本年度純資産変動額 | | 139 | △ 251 | 61 | △ 41 |
| | 純資産残高 | | 23,223 | 22,972 | 23,033 | 22,992 |
| 全体 | 本年度差額 | | 160 | △ 183 | 18 | △ 36 |
| | 本年度純資産変動額 | | 163 | △ 208 | 66 | △ 30 |
| | 純資産残高 | | 23,342 | 23,134 | 23,200 | 23,170 |
| 連結 | 本年度差額 | | 262 | △ 166 | 15 | △ 52 |
| | 本年度純資産変動額 | | 270 | △ 204 | 102 | △ 21 |
| | 純資産残高 | | 24,965 | 24,762 | 24,864 | 24,842 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(3,295百万円)が純行政コスト(3,342百万円)を下回ったことから、本年度差額は47百万円減、純資産残高は23,033百万円となり前年度比61百万円増加した。新規取得資産の増加により、当年度においては増加している。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が1,113百万円多くなっており、本年度差額は△36百万円となり、純資産残高は23,170百万円となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、全体会計と比べて財源が624百万円多くなっており、本年度差額は△52百万円となり、純資産残高は24,842百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 989 | 774 | 795 | 1,044 |
| | 投資活動収支 | | △ 889 | △ 538 | △ 542 | △ 1,208 |
| | 財務活動収支 | | △ 53 | △ 217 | △ 212 | △ 9 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,013 | 813 | 800 | 1,055 |
| | 投資活動収支 | | △ 904 | △ 567 | △ 548 | △ 1,218 |
| | 財務活動収支 | | △ 64 | △ 226 | △ 212 | △ 9 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,111 | 834 | 834 | 1,058 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,086 | △ 672 | △ 602 | △ 1,226 |
| | 財務活動収支 | | 10 | △ 143 | △ 203 | △ 13 |

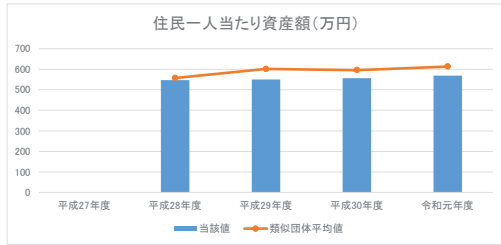


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は1,044百万円であったが、投資活動収支については、△1,208百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△9百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から171百万円減少し、117百万円となった。経常的な活動に係る経費は税金等や国庫等からの補助金の収入で購入している状況である。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より11百万円多い1,055百万円となっている。投資活動収支は、一般会計等より10百万円減少し、△1,207百万円となった。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△9百万円となり、本年度末資金残高は前年度から170百万円減少し、287百万円となった。

1. 資産の状況

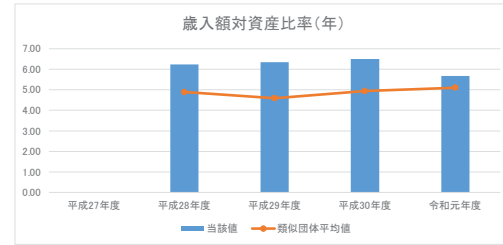
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,644,001 | 2,602,028 | 2,580,876 | 2,568,163 |
| 人口 | | 4,831 | 4,724 | 4,638 | 4,518 |
| 当該値 | | 547.3 | 550.8 | 556.5 | 568.4 |
| 類似団体平均値 | | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

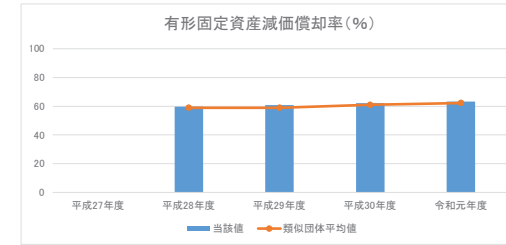
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 26,440 | 26,020 | 25,809 | 25,682 |
| 歳入総額 | | 4,238 | 4,102 | 3,970 | 4,525 |
| 当該値 | | 6.24 | 6.34 | 6.50 | 5.68 |
| 類似団体平均値 | | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 30,011 | 30,920 | 31,804 | 32,498 |
| 有形固定資産 ※1 | | 50,368 | 50,821 | 51,102 | 51,353 |
| 当該値 | | 59.6 | 60.8 | 62.2 | 63.3 |
| 類似団体平均値 | | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

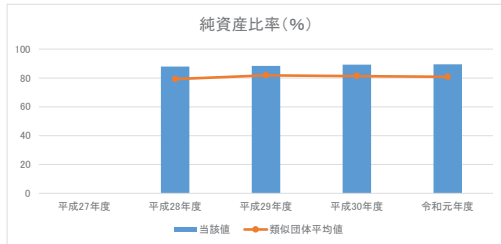
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

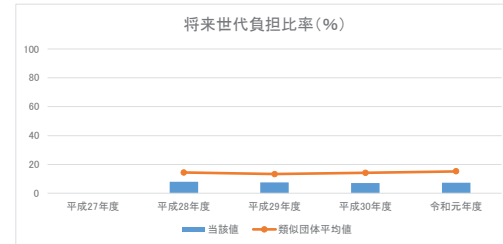
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 23,223 | 22,972 | 23,033 | 22,992 |
| 資産合計 | | 26,440 | 26,020 | 25,809 | 25,682 |
| 当該値 | | 87.8 | 88.3 | 89.2 | 89.5 |
| 類似団体平均値 | | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,807 | 1,649 | 1,506 | 1,551 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 22,672 | 22,138 | 21,542 | 21,190 |
| 当該値 | | 8.0 | 7.4 | 7.0 | 7.3 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

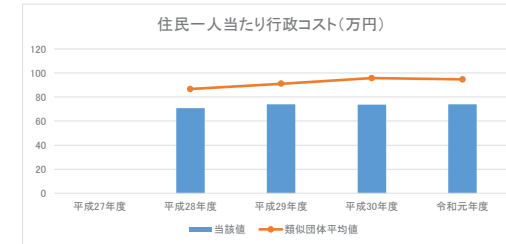
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

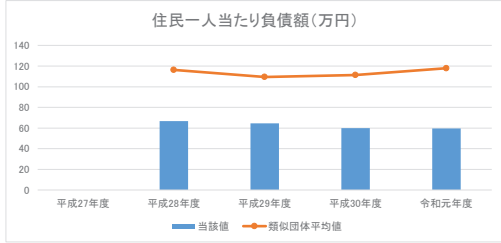
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 341,737 | 349,594 | 341,576 | 334,162 |
| 人口 | | 4,831 | 4,724 | 4,638 | 4,518 |
| 当該値 | | 70.7 | 74.0 | 73.6 | 74.0 |
| 類似団体平均値 | | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

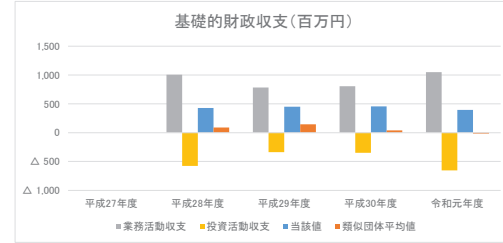
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 321,704 | 304,823 | 277,582 | 268,997 |
| 人口 | | 4,831 | 4,724 | 4,638 | 4,518 |
| 当該値 | | 66.6 | 64.5 | 59.8 | 59.5 |
| 類似団体平均値 | | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,004 | 786 | 804 | 1,050 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 574 | △ 336 | △ 346 | △ 654 |
| 当該値 | | 430 | 450 | 458 | 396 |
| 類似団体平均値 | | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △ 13.2 |

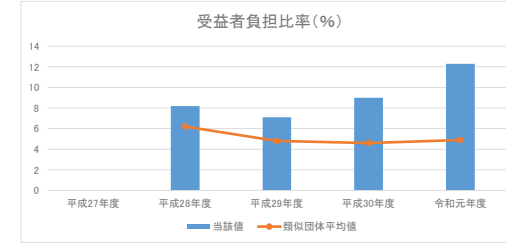
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 304 | 266 | 335 | 467 |
| 経常費用 | | 3,700 | 3,751 | 3,720 | 3,804 |
| 当該値 | | 8.2 | 7.1 | 9.0 | 12.3 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を下回っているが、当町では、道産や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるものについては、備忘価額1円で評価しているためである。また、歳入額対資産比率については、類似団体平均を大きく上回っている。これは、道路や公共施設などのインフラの整備を重点的に進めてきた結果が表れていると考えられる。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を若干上回っている。地方債の償還は進んでいるものの収支等が純行政コストを下回ることから純資産が減少している。また、将来負担比率が類似団体平均を上回っていることから、地方債の償還が進んでいると考えられる。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、類似団体平均値を大きく下回っている。職員の新陳代謝や定員管理により人件費が抑制されていることが要因の一つと考えられる。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、類似団体平均値を大きく下回った。また、基礎的財政収支も類似団体平均値を大きく上回っており、行政コスト及び必要な投資を、収支等と国庫からの補助金で賄っており、また、余剰分で地方債の償還や基金への積み増しが進んでいると考えられる。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を上回っている状況にある。その要因としては、住民一人あたりの行政コストが類似団体と比較して下回っていることが考えられる。また、公営企業会計に移行中の上下水道会計があり、当該会計の数字が全体会計財務書類に含まれていないことも要因の一つと考えられる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県阿智村
団体コード 204072

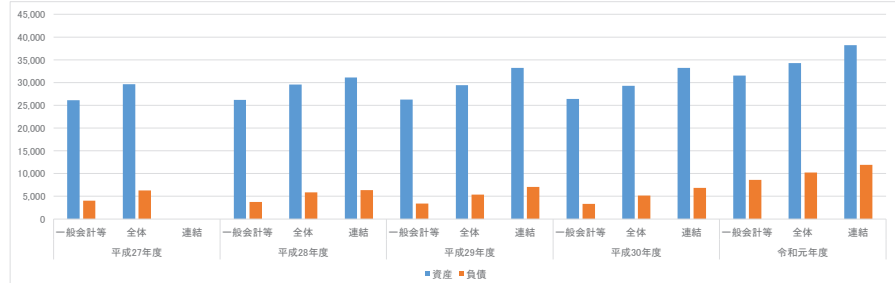
| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 6,359人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 91人 |
| 面積 | 214.43 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,419.654千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | △0.1% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | △ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|-----------|--------|-----------|--------|--------|--------|
| | | 一般会計等 | 資産 26,097 | 26,217 | 26,262 | 26,366 |
| | 負債 4,050 | 3,743 | 3,410 | 3,329 | 8,609 | |
| 全体 | 資産 29,653 | 29,589 | 29,413 | 29,304 | 34,305 | |
| | 負債 6,287 | 5,836 | 5,358 | 5,140 | 10,262 | |
| 連結 | 資産 31,106 | 31,106 | 33,248 | 33,236 | 38,210 | |
| | 負債 6,365 | 6,365 | 7,090 | 6,889 | 11,889 | |

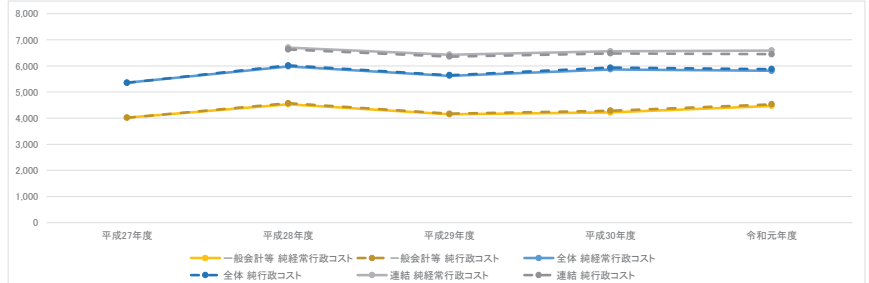


分析:
令和元年度の資産総額及び負債総額については、全ての会計において前年度比約5,000百万円ほどの増加をしているが、これは基金積み立てのために一度繰入歳入歳出外とした基金元本分(5,200百万円ほど)が現金預金及び預り金に計上されたことによるものであり、実際に一般会計等の固定資産額においては、前年度比109百万円の増加(+0.4%)となっている。一般会計等の固定資産額が増額となった要因として、事業用資産(建物)において智里西保育園改修工事(123百万円)や阿智第一小学校改修工事(83百万円)の実施による資産の取得があげられる。
一方、一般会計等の固定負債については、前年度比102百万円の増加(+3.6%)となった。その要因として、過疎対策事業債(153百万円)や辺地対策事業債(105百万円)の借入があげられる。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|----------------|--------|----------------|--------|--------|-------|
| | | 一般会計等 | 純経常行政コスト 4,019 | 4,532 | 4,147 | 4,219 |
| | 純行政コスト 4,016 | 4,573 | 4,171 | 4,286 | 4,533 | |
| 全体 | 純経常行政コスト 5,357 | 5,979 | 5,623 | 5,867 | 5,811 | |
| | 純行政コスト 5,354 | 6,020 | 5,647 | 5,934 | 5,876 | |
| 連結 | 純経常行政コスト 6,699 | 6,699 | 6,427 | 6,557 | 6,585 | |
| | 純行政コスト 6,629 | 6,629 | 6,354 | 6,478 | 6,445 | |

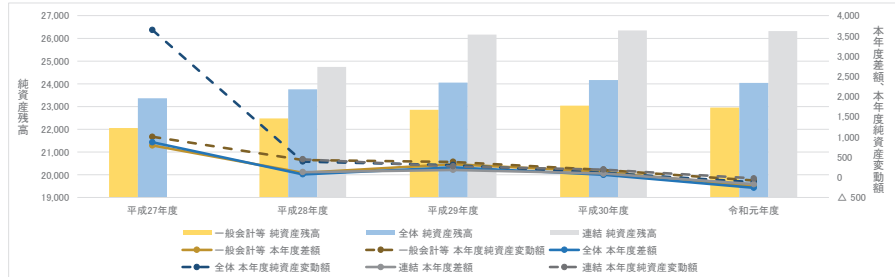


分析:
一般会計等においては、経常費用が4,804百万円となり、前年度比298百万円の増加(+6.6%)となった。そのうち、人件費等の業務費用は2,984百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は1,819百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは物件費(1,055百万円、前年度比+187百万円)であり、経常費用の22.0%を占めている。物件費が増加した要因としては、当該年度においてスタービレッジ事業などの地方創生推進交付金事業(60百万円)やコンビニエンスストア等における証明書等の自動交付構築委託(29百万円)等の事業を実施したことがあげられる。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|-----------------|--------|-----------|--------|--------|-------|
| | | 一般会計等 | 本年度差額 788 | 111 | 323 | 136 |
| | 本年度純資産変動額 1,002 | 426 | 379 | 185 | △79 | |
| | 純資産残高 22,048 | 22,474 | 22,852 | 23,037 | 22,958 | |
| 全体 | 本年度差額 867 | 70 | 245 | 60 | △260 | |
| | 本年度純資産変動額 3,643 | 387 | 302 | 109 | △121 | |
| | 純資産残高 23,366 | 23,753 | 24,055 | 24,164 | 24,043 | |
| 連結 | 本年度差額 127 | 127 | 181 | 91 | △169 | |
| | 本年度純資産変動額 443 | 443 | 271 | 189 | △26 | |
| | 純資産残高 24,741 | 24,741 | 26,158 | 26,348 | 26,322 | |

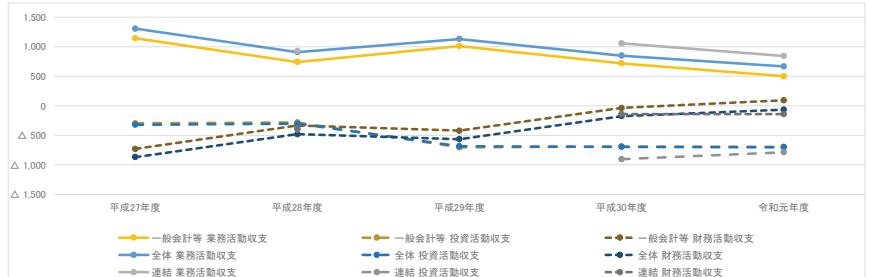


分析:
一般会計等においては、純行政コスト(4,533百万円)が税収等の財源(4,313百万円)を上回ったことから、本年度差額は△221百万円となり、純資産残高は22,958百万円(△79百万円)と統一的な基準による財務書類の作成を開始して初めて減少に転じた。全体及び連結においても、同程度の伸び率である。今後は地方税の徴収業務を強化することにより、税収の安定的な確保に努める。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|--------------|--------|--------------|--------|--------|-------|
| | | 一般会計等 | 業務活動収支 1,143 | 741 | 1,010 | 720 |
| | 投資活動収支 △296 | △282 | △702 | △689 | △697 | |
| | 財務活動収支 △729 | △335 | △421 | △36 | 94 | |
| 全体 | 業務活動収支 1,306 | 907 | 1,128 | 847 | 666 | |
| | 投資活動収支 △319 | △301 | △685 | △695 | △701 | |
| | 財務活動収支 △889 | △481 | △564 | △173 | △65 | |
| 連結 | 業務活動収支 923 | 923 | 1,057 | 842 | 842 | |
| | 投資活動収支 △401 | △401 | △902 | △902 | △786 | |
| | 財務活動収支 △386 | △386 | △140 | △140 | △140 | |



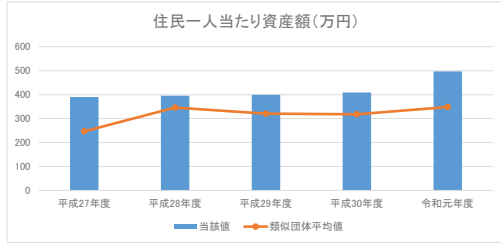
分析:
一般会計等において、業務活動収支については500百万円となったが、投資活動収支については公共施設等の整備費支出が875百万円(前年度比+393百万円)となった影響から△697百万円となった。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債の償還額を上回ったことから94百万円となっており、本年度末資金残高は前年度比103百万円の減少となり、451百万円となった。経常的な活動に係る経費は税収等の収入で賄えている一方で、投資的な活動に係る経費は大幅に増加している。今後は公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設の適正管理に努める必要がある。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

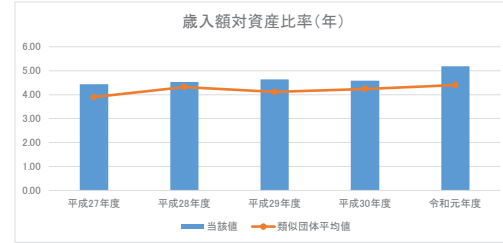
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 2,609,726 | 2,621,677 | 2,626,188 | 2,636,623 | 3,156,732 |
| 人口 | 6,682 | 6,639 | 6,576 | 6,442 | 6,359 |
| 当該値 | 390.6 | 394.9 | 399.4 | 409.3 | 496.4 |
| 類似団体平均値 | 246.6 | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

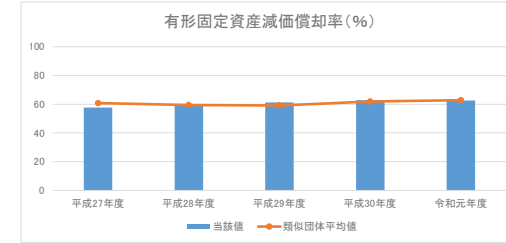
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 26,097 | 26,217 | 26,262 | 26,366 | 31,567 |
| 歳入総額 | 5,895 | 5,789 | 5,671 | 5,754 | 6,080 |
| 当該値 | 4.43 | 4.53 | 4.63 | 4.58 | 5.19 |
| 類似団体平均値 | 3.90 | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 17,415 | 18,013 | 18,672 | 19,356 | 20,062 |
| 有形固定資産 ※1 | 30,255 | 30,318 | 30,479 | 30,813 | 32,067 |
| 当該値 | 57.6 | 59.4 | 61.3 | 62.8 | 62.6 |
| 類似団体平均値 | 60.8 | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

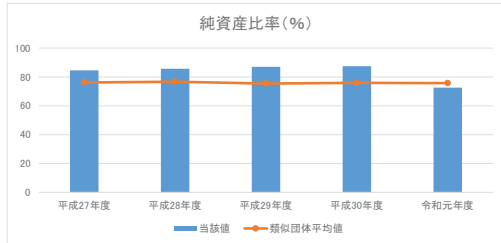
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

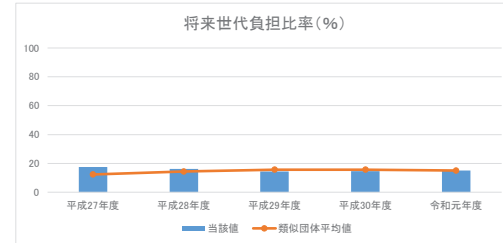
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 22,048 | 22,474 | 22,852 | 23,037 | 22,958 |
| 資産合計 | 26,097 | 26,217 | 26,262 | 26,366 | 31,567 |
| 当該値 | 84.5 | 85.7 | 87.0 | 87.4 | 72.7 |
| 類似団体平均値 | 76.2 | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 3,404 | 3,098 | 2,708 | 2,698 | 2,817 |
| 有形・無形固定資産合計 | 19,562 | 19,232 | 18,874 | 18,655 | 18,764 |
| 当該値 | 17.4 | 16.1 | 14.3 | 14.5 | 15.0 |
| 類似団体平均値 | 12.3 | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

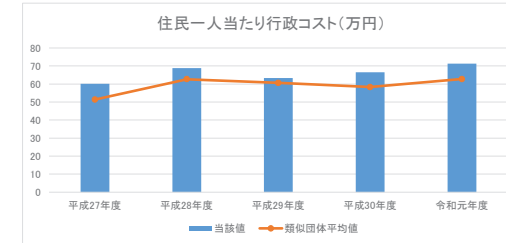
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

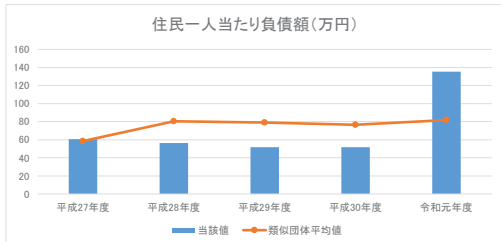
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 401,639 | 457,250 | 417,134 | 428,604 | 453,335 |
| 人口 | 6,682 | 6,639 | 6,576 | 6,442 | 6,359 |
| 当該値 | 60.1 | 68.9 | 63.4 | 66.5 | 71.3 |
| 類似団体平均値 | 51.4 | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

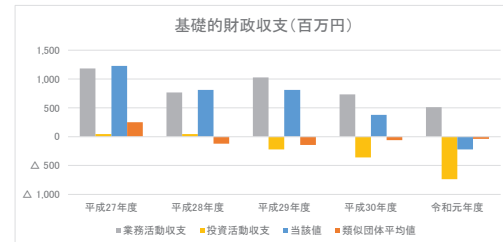
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 404,972 | 374,307 | 340,967 | 332,923 | 860,925 |
| 人口 | 6,682 | 6,639 | 6,576 | 6,442 | 6,359 |
| 当該値 | 60.6 | 56.4 | 51.9 | 51.7 | 135.4 |
| 類似団体平均値 | 58.6 | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 1,182 | 768 | 1,031 | 737 | 514 |
| 投資活動収支 ※2 | 45 | 46 | △ 218 | △ 359 | △ 735 |
| 当該値 | 1,227 | 814 | 813 | 378 | △ 221 |
| 類似団体平均値 | 251.0 | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

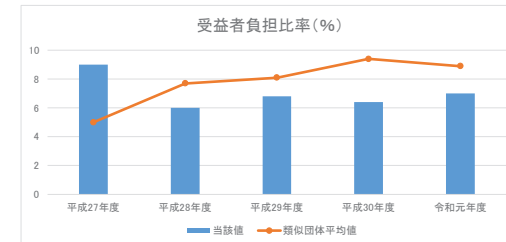
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 398 | 288 | 304 | 287 | 336 |
| 経常費用 | 4,417 | 4,820 | 4,451 | 4,506 | 4,804 |
| 当該値 | 9.0 | 6.0 | 6.8 | 6.4 | 7.0 |
| 類似団体平均値 | 5.0 | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額及び歳入額対資産比率については、本村が町村の合併団体であり保有する施設数が非合併団体よりも多いこと、また特に今年度は新たに公共施設の取得を行ったことにより、類似団体平均を大きく上回っている。将来の公共施設の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、公共施設等の総合管理計画に基づき、公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

2. 資産と負債の比率

純資産比率については、昨年度までは増加傾向にあったが今年度は純行政コストが税収等の財源を上回ったことにより純資産が減少し、前年度比14.7%の減少となっている。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現代が消費して便益を享受したことを意味するため、今後は行政コストの削減に努める必要がある。将来世代負担比率については、前年度よりわずかに増加したものの類似団体平均と同程度の数値となっている。これは繰上償還の影響により大幅に減少していた地方債残高がここ数年の借入により類似団体平均まで戻ってきたことによるもので、今後新たに発行する地方債については必要最低限にとどめ、将来世代の負担抑制に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストについては、前年度に続き今年度も増加しており、常に類似団体平均を上回っている状況である。その要因として、合併前に旧村毎に整備した小学校や保育園が合併後も統合することなく、施設整備費及び人件費等がかかっていることがあげられる。今後は児童、生徒数の減少が見込まれる中で、住民の要望も踏まえつつあり方を考えていく必要がある。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額が前年度と比べ大幅に増加している要因として、基金積み立てのために一度歳入歳出外とした基金元本分(5,200百万円ほど)が預り金に加味されているものであり、地方債残高で比較すると94百万円の増加となり、当該値+1.5に相当するものである。今後は、新規に発行する地方債を必要最低限にとどめよう努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率については、前年度と比べて増加しているものの類似団体平均に届いていないため、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低いと言える。なお、類似団体平均まで受益者負担比率を引き上げるためには、仮に経常収益を一定とする場合は、1,009百万円経常費用を削減する必要がある。経常費用を一定とする場合は、92百万円経常収益を増加させる必要がある。このため、公共施設について使用料の見直し等を行うとともに、経費の削減にも努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

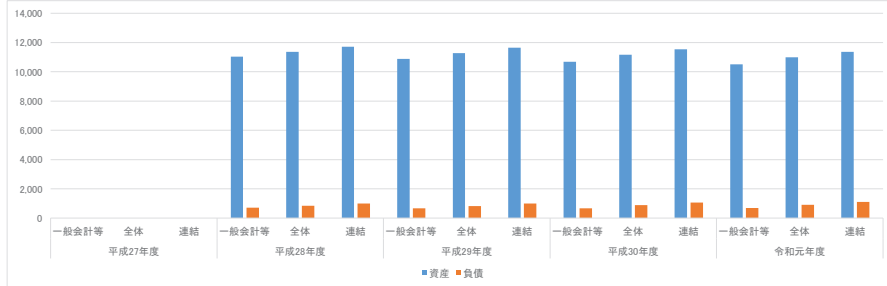
団体名 長野県平谷村
団体コード 204099

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 401人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 15人 |
| 面積 | 77.37 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 530,003千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-2 | 実質公債費率 | 0.1% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

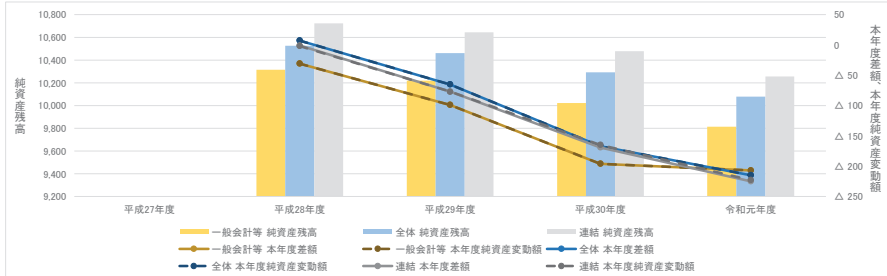
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 11,027 | 10,875 | 10,680 | 10,502 |
| | 負債 | | 711 | 657 | 669 | 687 |
| 全体 | 資産 | | 11,360 | 11,280 | 11,169 | 10,994 |
| | 負債 | | 834 | 820 | 876 | 916 |
| 連結 | 資産 | | 11,722 | 11,644 | 11,546 | 11,358 |
| | 負債 | | 999 | 1,001 | 1,067 | 1,103 |



分析:
一般会計等においては、資産総額は減価償却により前年度末から188百万円の減少(-1.8%)となった。負債総額は前年度末から18百万円の増加(2.7%)となった。負債の増加の大きな要因は、過疎債である。
簡易水道会計、農業集落排水事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から175百万円減少(-1.6%)し、負債総額は前年度末から40百万円増加(4.6%)した。資産総額は上水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等に比べて多くなる。負債総額も水道管の更新事業に地方債(固定負債)を充当したこと等から、増加している。
西部衛生施設組合、長野県後期高齢者医療広域連合等を加えた連結では、資産総額は前年度末から158百万円減少(-1.6%)し、負債総額は前年度末から36百万円増加(3.4%)した。資産総額は、西部衛生施設組合が保有しているし尿処理施設に係る資産を計上していること等により、一般会計等に比べて866百万円多くなる。負債総額は長野県市町村総合事務組合の退職手当準備金等があることから、242百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

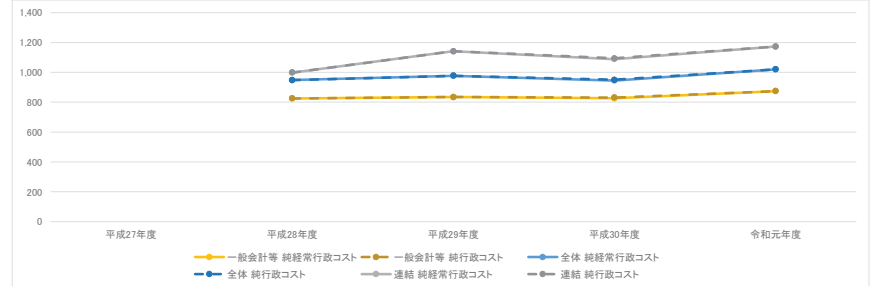
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 31 | △ 99 | △ 196 | △ 207 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 31 | △ 99 | △ 196 | △ 207 |
| 全体 | 本年度差額 | | 7 | △ 65 | △ 167 | △ 215 |
| | 本年度純資産変動額 | | 7 | △ 65 | △ 167 | △ 215 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 1 | △ 77 | △ 169 | △ 225 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 2 | △ 77 | △ 165 | △ 223 |
| | 純資産残高 | | 10,724 | 10,643 | 10,478 | 10,255 |



分析:
一般会計等においては、収収等の財源(667百万円)が純行政コスト(874百万円)を下回っており、本年度差額は▲207百万円となり、純資産残高は207百万円の減少となった。地方税の徴収業務の強化(5年間で5%の向上)等により収収等の増加に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収収等に含まれることから、一般会計等と比べて財源等が多くなっており、純資産残高は215百万円の減少となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が財源に含まれることから、純資産残高は223百万円の減少となった。

2. 行政コストの状況

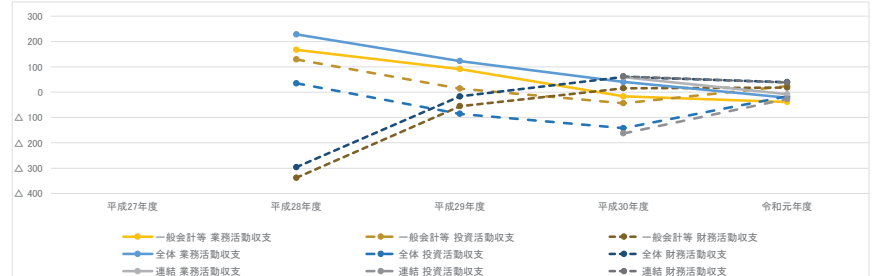
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 825 | 835 | 826 | 874 |
| | 純行政コスト | | 825 | 835 | 831 | 874 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 948 | 977 | 945 | 1,020 |
| | 純行政コスト | | 948 | 977 | 950 | 1,020 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 998 | 1,141 | 1,089 | 1,173 |
| | 純行政コスト | | 998 | 998 | 1,094 | 1,173 |



分析:
一般会計等における、行政コストは前年度比43百万円の増加となった。そのうち、人件費等の業務費用は693百万円、補助金や他会計への繰出金等の移転費用は235百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは物件費や減価償却費を含む物件費等523百万円であり、純行政コストの60.0%を占めている。施設の集約化・複合化事業に着手するなど、公共施設の適正管理、経費の縮減に努める。
全体では、一般会計に比べて、水道料金等を使用料に計上しているため、経常収益が18百万円多くなっている。一方で国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が16百万円多くなり、純行政コストは146百万円多くなっている。
連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が588百万円多くなっている。一方で人件費は179百万円多くなっているなど、経常費用が688百万円多くなり、純行政コストは299百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 167 | 91 | △ 17 | △ 39 |
| | 投資活動収支 | | 129 | 14 | △ 44 | 24 |
| | 財務活動収支 | | △ 338 | △ 55 | 15 | 18 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 228 | 123 | 40 | △ 22 |
| | 投資活動収支 | | 35 | △ 86 | △ 142 | △ 17 |
| | 財務活動収支 | | △ 296 | △ 17 | 60 | 39 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | | 59 | △ 8 |
| | 投資活動収支 | | | | △ 163 | △ 27 |
| | 財務活動収支 | | | | 62 | 38 |



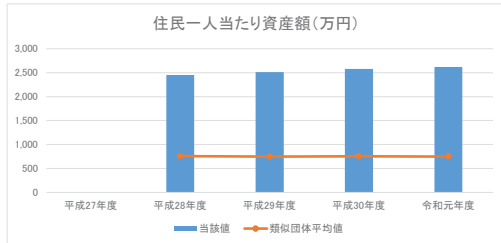
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は▲39百万円、投資活動収支は▲24百万円となり、財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を下回ったことから、18百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から72百万円減少し、91百万円となった。行政活動に必要な資金を基金の取崩しと地方債の発行収入によって確保している状況であり、行財政改革を更に推進する必要がある。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が収収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より15百万円多い222百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を下回ったことから、39百万円となった。
連結では、三セク会社等における収益等の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より76百万円多い59百万円となっている。投資活動収支では、西部衛生施設の一部改修を行ったため、▲163百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を下回ったことから、62百万円となり、本年度末資金残高は前年度から43百万円減少し、170百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

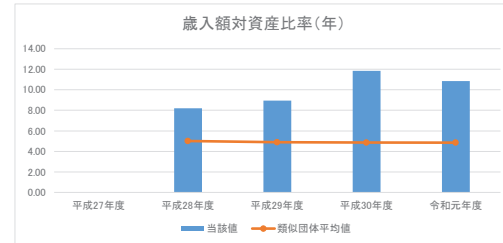
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,102,725 | 1,087,485 | 1,069,026 | 1,050,227 |
| 人口 | | 450 | 433 | 414 | 401 |
| 当該値 | | 2,450.5 | 2,511.5 | 2,582.2 | 2,619.0 |
| 類似団体平均値 | | 758.3 | 747.9 | 757.0 | 750.9 |



②歳入額対資産比率(年)

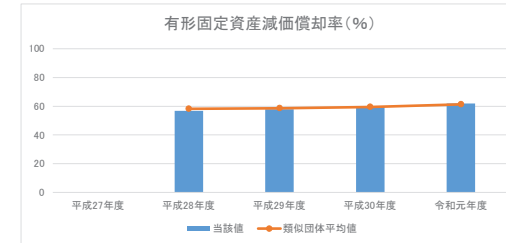
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 11,027 | 10,875 | 10,690 | 10,502 |
| 歳入総額 | | 1,344 | 1,215 | 902 | 969 |
| 当該値 | | 8.20 | 8.95 | 11.85 | 10.84 |
| 類似団体平均値 | | 5.01 | 4.88 | 4.86 | 4.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 減価償却累計額 | | 4,386 | 4,557 | 4,732 | 4,904 |
| 有形固定資産 ※1 | | 7,734 | 7,851 | 7,860 | 7,913 |
| 当該値 | | 56.7 | 58.0 | 60.2 | 62.0 |
| 類似団体平均値 | | 58.2 | 58.6 | 59.5 | 61.3 |

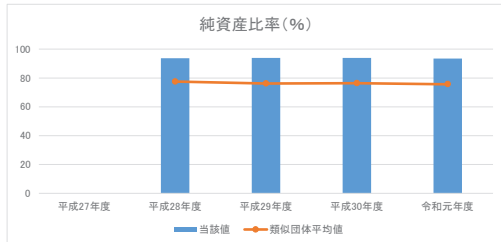
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

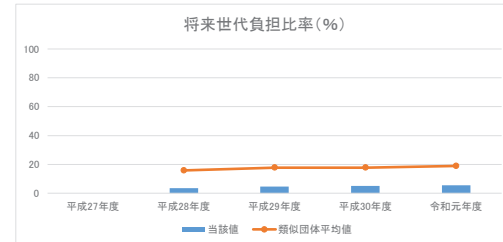
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 10,316 | 10,218 | 10,022 | 9,815 |
| 資産合計 | | 11,027 | 10,875 | 10,690 | 10,502 |
| 当該値 | | 93.6 | 94.0 | 93.8 | 93.5 |
| 類似団体平均値 | | 77.5 | 76.1 | 76.4 | 75.6 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | 345 | 458 | 480 | 505 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 9,739 | 9,666 | 9,489 | 9,363 |
| 当該値 | | 3.5 | 4.7 | 5.1 | 5.4 |
| 類似団体平均値 | | 15.8 | 17.8 | 17.8 | 18.9 |

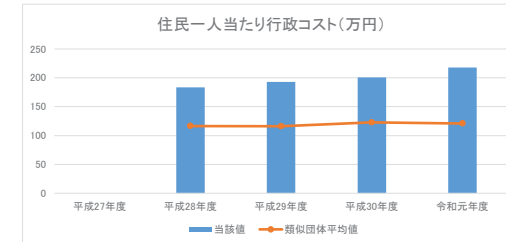
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

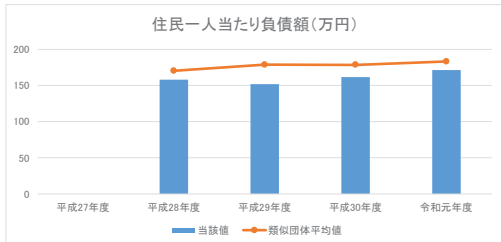
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純行政コスト | | 82,549 | 83,521 | 83,097 | 87,376 |
| 人口 | | 450 | 433 | 414 | 401 |
| 当該値 | | 183.4 | 192.9 | 200.7 | 217.9 |
| 類似団体平均値 | | 116.6 | 116.1 | 122.8 | 121.0 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

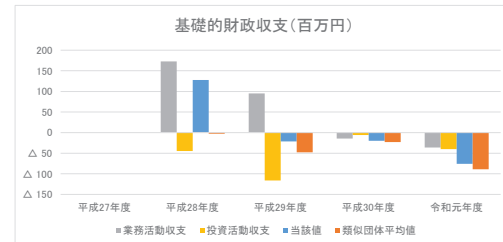
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 負債合計 | | 71,117 | 65,734 | 66,861 | 68,733 |
| 人口 | | 450 | 433 | 414 | 401 |
| 当該値 | | 158.0 | 151.8 | 161.5 | 171.4 |
| 類似団体平均値 | | 170.4 | 178.9 | 178.7 | 183.3 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 173 | 95 | △14 | △36 |
| 投資活動収支 ※2 | | △45 | △116 | △6 | △40 |
| 当該値 | | 128 | △21 | △20 | △76 |
| 類似団体平均値 | | △3.0 | △47.9 | △22.9 | △89.0 |

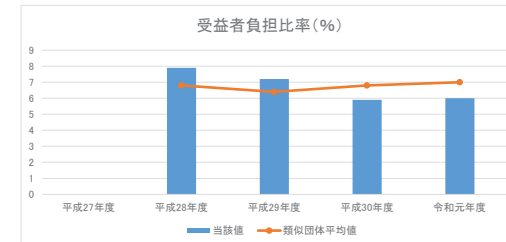
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 71 | 65 | 52 | 56 |
| 経常費用 | | 896 | 901 | 878 | 929 |
| 当該値 | | 7.9 | 7.2 | 5.9 | 6.0 |
| 類似団体平均値 | | 6.8 | 6.4 | 6.8 | 7.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく上回っているが、これは村所有山林が半数を占めている。残りは老朽化した施設が多く、前年度末に比べて108百万円減少している。将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、今後10年間の取組として公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回っている。純行政コストが税収等の財源を上回ったことから純資産が減少し、前年度末時点から▲2.1%減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が消費して便益を享受したことを意味するため、人件費の削減などにより、行政コストの削減に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、平成27年度より大規模な水道管改修事業を開始した簡易水道会計に対して例年を大きく上回る繰入金を出しており、類似団体平均を大きく上回っている。ただし、簡易水道会計への繰入金が例年を大きく上回る状況は、当該事業が終了するまでの7年間の一過性のものであり、当該事業の終了後は類似団体平均並みの水準となる見込みである。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回っている。これは前年度の臨時財政対策債の繰上償還による。来年度以降も、緊急・防災事業に係る地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担率は類似団体平均を下回っており、昨年度からは減少している。今後も公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

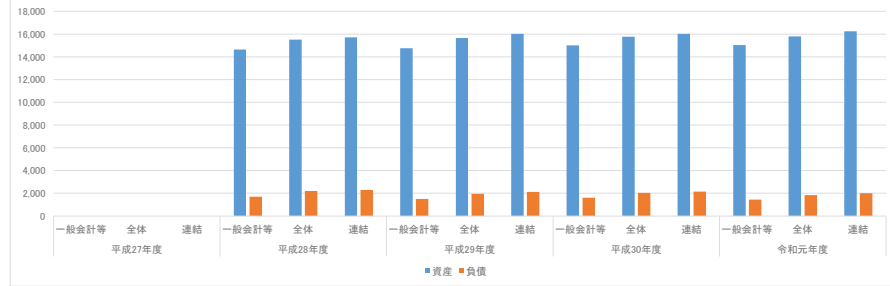
団体名 長野県根羽村
団体コード 204102

| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 895人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 27人 |
| 面積 | 89.97km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,091.102千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | 5.7% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

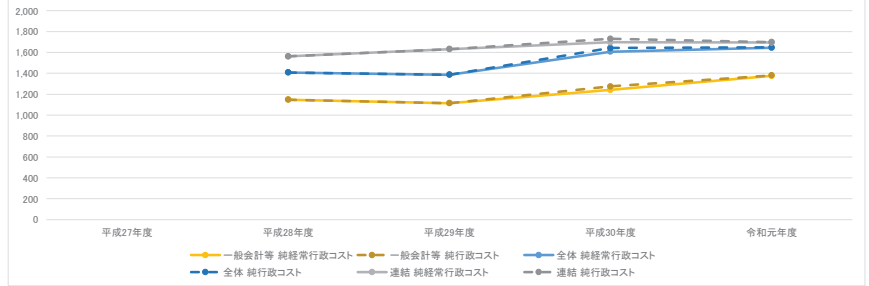
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 14,651 | 14,762 | 15,006 | 15,034 |
| | 負債 | | 1,895 | 1,499 | 1,603 | 1,438 |
| 全体 | 資産 | | 15,498 | 15,662 | 15,764 | 15,791 |
| | 負債 | | 2,215 | 1,968 | 2,033 | 1,852 |
| 連結 | 資産 | | 15,714 | 16,027 | 16,017 | 16,234 |
| | 負債 | | 2,294 | 2,111 | 2,159 | 1,999 |



分析:
全体の令和元年度における資産は27百万円の増、負債は181百万円の減となっている。令和元年度には、中小学校の統合化事業(148,511千円)などにより資産が増加するなか負債については、繰上償還等により減少することとなった。

2. 行政コストの状況

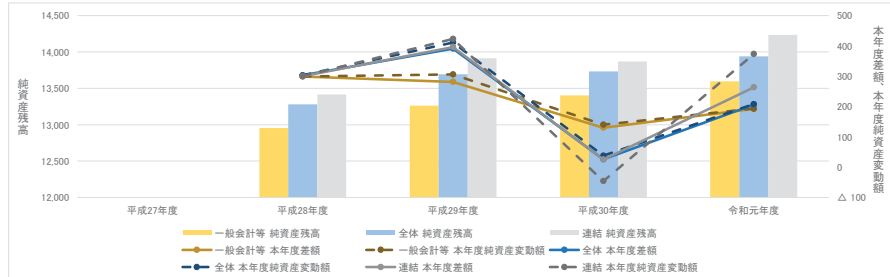
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,148 | 1,114 | 1,241 | 1,376 |
| | 純行政コスト | | 1,148 | 1,114 | 1,275 | 1,380 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 1,409 | 1,386 | 1,608 | 1,645 |
| | 純行政コスト | | 1,409 | 1,386 | 1,642 | 1,649 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 1,563 | 1,632 | 1,698 | 1,694 |
| | 純行政コスト | | 1,563 | 1,632 | 1,731 | 1,699 |



分析:
令和元年度の全体における経常行政コストは37百万円の増でほぼ横ばいの状況となっている。
一方、一般会計では令和元年度より賃金制度が廃止となり、報酬等へ移行したことから人件費が23百万円増加し、また本来人件費の移動により物件費が減少するが、ふるさと納税の取り扱いが増えたことに伴い、その取り扱い業務が増え物件費が15百万円増加した結果、135百万円増加した。
純行政コストでは災害復旧事業費として4百万円の増加が見られた。

3. 純資産変動の状況

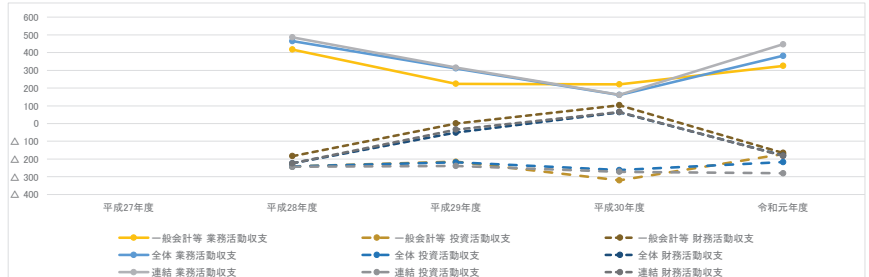
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 299 | 281 | 130 | 192 |
| | 本年度純資産変動額 | | 299 | 306 | 140 | 193 |
| | 純資産残高 | | 12,956 | 13,263 | 13,403 | 13,596 |
| 全体 | 本年度差額 | | 303 | 391 | 26 | 206 |
| | 本年度純資産変動額 | | 303 | 411 | 38 | 208 |
| | 純資産残高 | | 13,282 | 13,693 | 13,731 | 13,939 |
| 連結 | 本年度差額 | | 300 | 396 | 25 | 263 |
| | 本年度純資産変動額 | | 300 | 423 | 46 | 373 |
| | 純資産残高 | | 13,417 | 13,915 | 13,870 | 14,235 |



分析:
令和元年度の全体純資産残高は208百万の増加をしているが、資産については27百万の増、また行政コストもほぼ横ばいという状況で資産残高が208百万の増をしたことは、負債の減が大きく影響したものと考えられる。
今後、資産の有効活用、適正な維持管理など計画的に進めていく必要がある。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 417 | 224 | 221 | 325 |
| | 投資活動収支 | | △242 | △215 | △320 | △172 |
| | 財務活動収支 | | △184 | 0 | 103 | △166 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 465 | 311 | 161 | 382 |
| | 投資活動収支 | | △242 | △219 | △262 | △217 |
| | 財務活動収支 | | △224 | △51 | 63 | △181 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 486 | 315 | 162 | 447 |
| | 投資活動収支 | | △244 | △239 | △272 | △280 |
| | 財務活動収支 | | △224 | △34 | 65 | △182 |

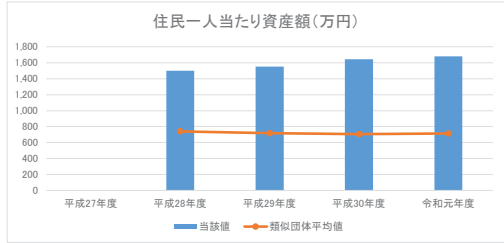


分析:
全体の業務活動収支では、業務費用支出が6百万の減とほぼ横ばい状態であったが、税込等収入が好調であったふると納税により170百万の増、また災害復旧事業費が前年度より30百万減少したことにより大幅な増になった。
全体投資活動収支は役場庁舎移転事業等の大型事業が減少したことから、若干の減となっている。
しかしながら、財務活動収支は大型事業で発生した起債の償還、また後年度の負担軽減から行った繰上償還により大きくマイナスとなった。

1. 資産の状況

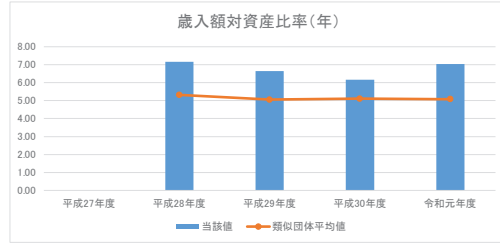
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,465,114 | 1,476,159 | 1,500,639 | 1,503,449 |
| 人口 | | 976 | 952 | 912 | 895 |
| 当該値 | | 1,501.1 | 1,550.6 | 1,645.4 | 1,679.8 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

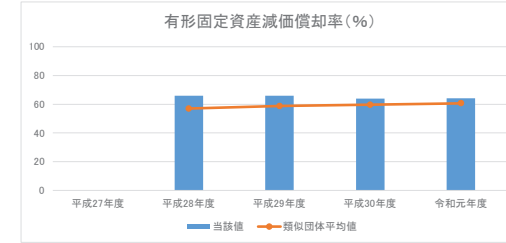
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 14,651 | 14,762 | 15,006 | 15,034 |
| 歳入総額 | | 2,042 | 2,224 | 2,435 | 2,134 |
| 当該値 | | 7.17 | 6.64 | 6.16 | 7.04 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 6,481 | 6,643 | 6,864 | 7,095 |
| 有形固定資産 ※1 | | 9,828 | 10,088 | 10,765 | 11,049 |
| 当該値 | | 65.9 | 65.9 | 63.8 | 64.2 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

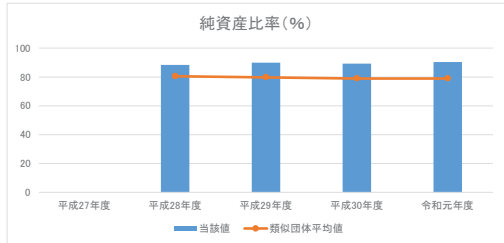
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

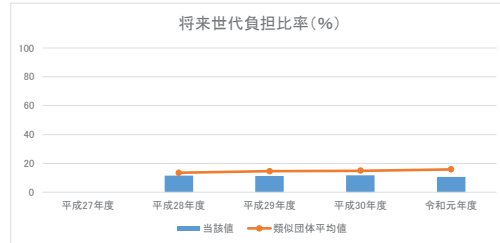
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 12,956 | 13,263 | 13,403 | 13,596 |
| 資産合計 | | 14,651 | 14,762 | 15,006 | 15,034 |
| 当該値 | | 88.4 | 89.8 | 89.3 | 90.4 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,417 | 1,422 | 1,531 | 1,380 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 12,313 | 12,555 | 13,058 | 13,108 |
| 当該値 | | 11.5 | 11.3 | 11.7 | 10.5 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

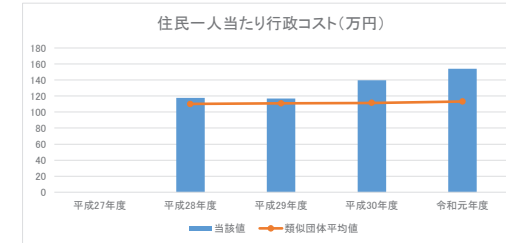
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

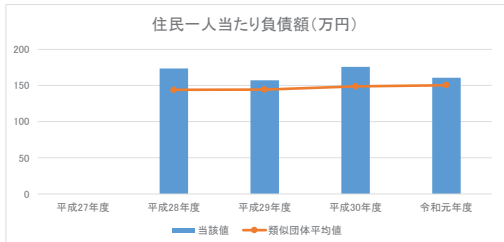
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 114,762 | 111,401 | 127,500 | 137,991 |
| 人口 | | 976 | 952 | 912 | 895 |
| 当該値 | | 117.6 | 117.0 | 139.8 | 154.2 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

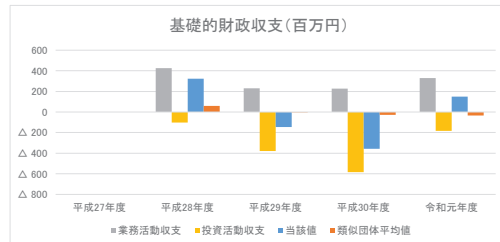
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 169,453 | 149,883 | 160,344 | 143,821 |
| 人口 | | 976 | 952 | 912 | 895 |
| 当該値 | | 173.6 | 157.4 | 175.8 | 160.7 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 426 | 231 | 227 | 330 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 103 | △ 378 | △ 584 | △ 182 |
| 当該値 | | 323 | △ 147 | △ 357 | 148 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

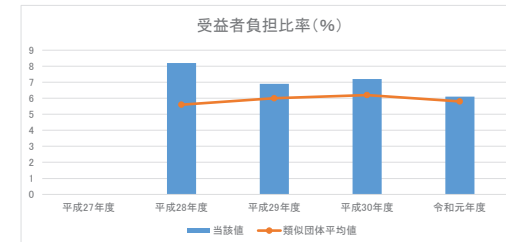
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 102 | 83 | 97 | 89 |
| 経常費用 | | 1,250 | 1,197 | 1,338 | 1,465 |
| 当該値 | | 8.2 | 6.9 | 7.2 | 6.1 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

当村の約9割が山林であり、固定資産における立木竹の占める割合は49.46%になり、住民一人あたりの資産額が類似団体より大幅に大きくなっている。また、基幹産業である林業推進のために、林道整備等も資産増加の要因となっている。類似団体には無いと思われる、立木等の資産活用を検討し、他の資産についても適正な管理などの検討を続ける必要がある。

2. 資産と負債の比率

資産については、昨年と比較し若干増加しているなか、地方債残高は大きく減少した。これは、繰上償還を実施したことによるもので、類似団体の平均値より値も良く負債の軽減に努めた結果が表れた。

3. 行政コストの状況

行政コストは「人件費」「物件費」「減価償却費」「補助金等」が主要因となっており、前年度と比較し大きく増加した。これは、ふるさと納税の件数が増加したことによる処理等に伴う物件費が増加したことによるものである。ふるさと納税に伴うため、小規模自治体における一人当たりのコスト増加はやむを得ないものと考えられる。

4. 負債の状況

住民一人あたりの負債額、基礎的財政収支とも昨年より数値の改善がされた。昨年度は役場庁舎移転による一時的な増加であったことと、繰上償還による負債の減により対応した結果と考えられる。

5. 受益者負担の状況

当村では施設使用料等一部免除などの住民サービスを行っている。受益者負担率も類似団体平均値より若干高い数値になっているが、負債状況の改善などにより経常収益の改善などを継続していく必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県下條村
団体コード 204111

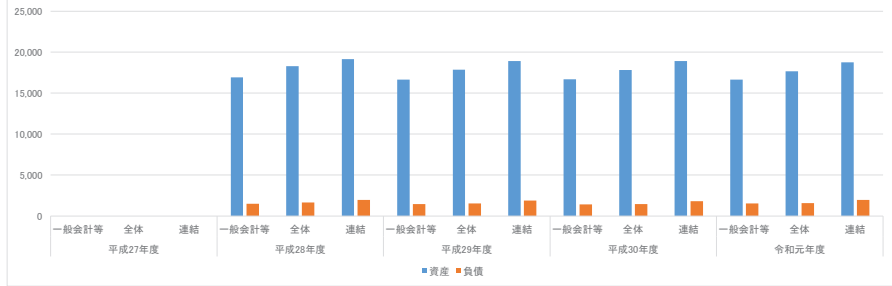
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 3,730人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 39人 |
| 面積 | 38.12 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,613.146千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | △ 3.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 資産 | 16,949 | 16,659 | 16,717 | 16,643 | |
| | 負債 | 1,523 | 1,458 | 1,411 | 1,555 | |
| 全体 | 資産 | 18,294 | 17,875 | 17,831 | 17,687 | |
| | 負債 | 1,656 | 1,539 | 1,450 | 1,566 | |
| 連結 | 資産 | 19,177 | 18,924 | 18,915 | 18,784 | |
| | 負債 | 1,975 | 1,886 | 1,797 | 1,956 | |

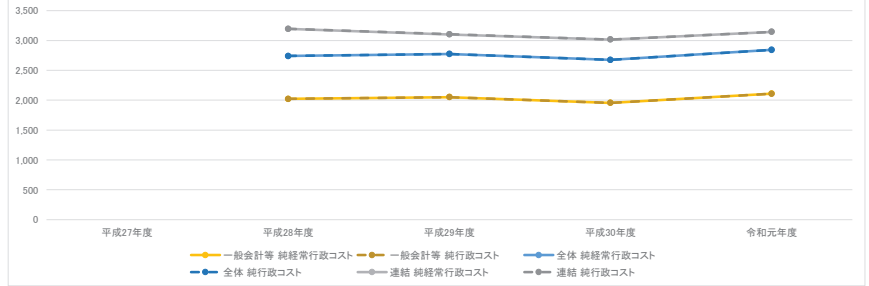


分析: 一般会計等においては、資産総額が16,643百万円、資産総額のうち有形固定資産の割合が52%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。また、簡易水道事業会計等を加えた全体の資産総額は、上水道等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等に比べて1,044百万円多くなるが、負債総額も上水道等の地方債(固定負債)を充当したこと等から、11百万円多くなっている。連結では、第三セクターの(株)そばの城、(株)飯田カンリー倶楽部等を加えた資産総額は、(株)そばの城の施設に係る資産を計上していること等により、一般会計等に比べて2,141百万円多くなるが、負債総額も第三セクターの借入金等があること等から、401百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,023 | 2,051 | 1,955 | 2,110 |
| | 純行政コスト | | 2,023 | 2,053 | 1,955 | 2,109 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,740 | 2,773 | 2,676 | 2,844 |
| | 純行政コスト | | 2,740 | 2,775 | 2,676 | 2,843 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 3,195 | 3,103 | 3,015 | 3,145 |
| | 純行政コスト | | 3,196 | 3,105 | 3,015 | 3,145 |

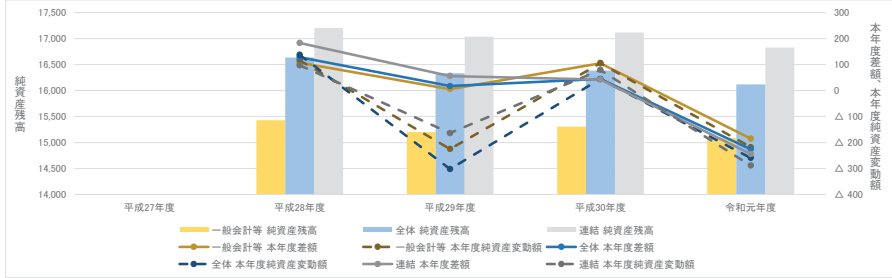


分析: 一般会計等においては、経常費用は2,300百万円となり、業務費用の方が移転費用よりも多く、最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等1,165百万円であり、純行政コストの55%を占めている。全体では、一般会計等に比べて、水道料金等使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が61百万円多くしている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が646百万円多くなり、純行政コストは734百万円多くなっている。連結では、一般会計等に比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が556百万円多くなっている一方、人件費も268百万円多くなっているなど、経常費用が1,592百万円多くなり、純行政コストは1,036百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 107 | 5 | 105 | △ 185 |
| | 本年度純資産変動額 | | 116 | △ 225 | 105 | △ 218 |
| 全体 | 純資産残高 | 15,426 | 15,201 | 15,201 | 15,306 | 15,088 |
| | 本年度差額 | | 128 | 17 | 44 | △ 226 |
| 連結 | 純資産残高 | 16,638 | 16,336 | 16,336 | 16,380 | 16,121 |
| | 本年度差額 | | 183 | 56 | 42 | △ 244 |
| 連結 | 本年度純資産変動額 | | 97 | △ 164 | 79 | △ 289 |
| | 純資産残高 | 17,202 | 17,038 | 17,038 | 17,117 | 16,828 |

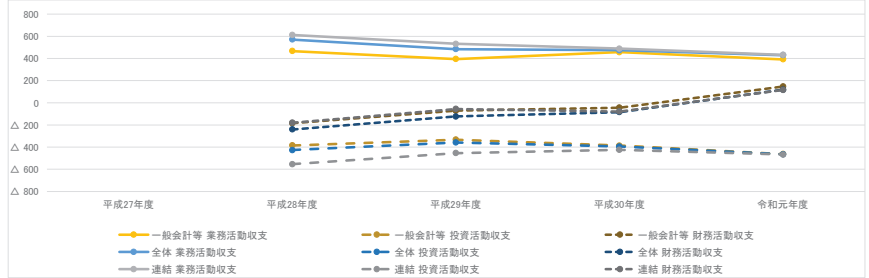


分析: 一般会計等においては、税収等の財源1,686百万円が純行政コスト2,109百万円を下回っていますが、国県等の補助金238百万円を含めた全体での本年度差額は185百万円となり、純資産残高は218百万円減少した。地方税の徴収業務の維持(徴収率100%)、適正な事業申請により、今後も財源の増加に努める。全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が300百万円多くなっているが、本年度差額は226百万円となり、純資産残高は259百万円の減少となった。連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が977百万円多くなっているが、本年度差額は244百万円となったため、内部変動も含めた純資産残高は289百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 466 | 394 | 457 | 391 |
| | 投資活動収支 | | △ 384 | △ 333 | △ 386 | △ 463 |
| | 財務活動収支 | | △ 184 | △ 71 | △ 44 | 147 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 570 | 484 | 474 | 429 |
| | 投資活動収支 | | △ 426 | △ 358 | △ 395 | △ 464 |
| | 財務活動収支 | | △ 241 | △ 123 | △ 85 | 119 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 612 | 532 | 488 | 432 |
| | 投資活動収支 | | △ 553 | △ 454 | △ 424 | △ 467 |
| | 財務活動収支 | | △ 180 | △ 56 | △ 78 | 116 |



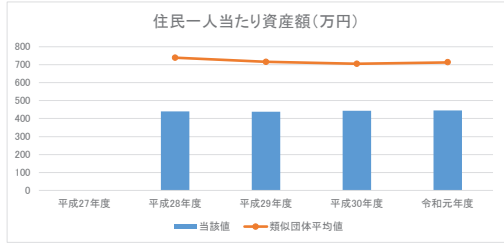
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は391百万円となり、投資活動収支は、大規模な公共事業へ特目基金からの取り崩しや基金積立などから、▲463百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、147百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から75百万円増加し、360百万円となった。全体では、国民健康保険税や介護保険料が税収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より38百万円多い429百万円となっている。投資活動収支では、将来に向けた基金積立を実施したため、▲464百万円となっている。財務活動収支は、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、119百万円となり、本年度末資金残高は前年度から84百万円増加し、677百万円となった。連結では、第三セクターの(株)そばの城、(株)飯田カンリー倶楽部等の収入が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より41百万円多い432百万円となっている。投資活動収支では、基金積立の増加により、▲467百万円となっている。財務活動収支は、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、116百万円となり、本年度末資金残高は前年度から82百万円増加し、534百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

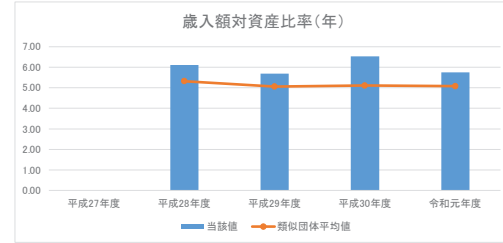
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,694,931 | 1,665,921 | 1,671,713 | 1,664,272 |
| 人口 | | 3,856 | 3,801 | 3,775 | 3,730 |
| 当該値 | | 439.6 | 438.3 | 442.8 | 446.2 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

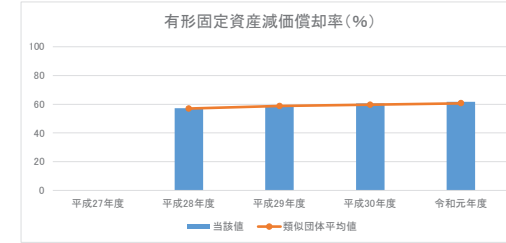
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 16,949 | 16,659 | 16,717 | 16,643 |
| 歳入総額 | | 2,775 | 2,930 | 2,560 | 2,894 |
| 当該値 | | 6.11 | 5.69 | 6.53 | 5.75 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 11,060 | 11,429 | 11,838 | 12,065 |
| 有形固定資産 ※1 | | 19,318 | 19,449 | 19,544 | 19,586 |
| 当該値 | | 57.3 | 58.8 | 60.6 | 61.6 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

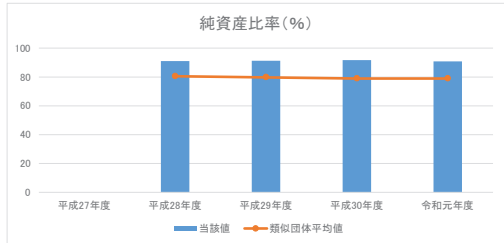
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

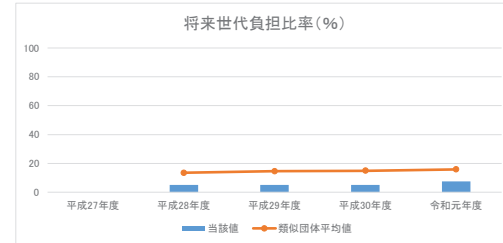
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 15,426 | 15,201 | 15,306 | 15,088 |
| 資産合計 | | 16,949 | 16,659 | 16,717 | 16,643 |
| 当該値 | | 91.0 | 91.2 | 91.6 | 90.7 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | 469 | 455 | 455 | 652 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 9,309 | 9,032 | 8,868 | 8,770 |
| 当該値 | | 5.0 | 5.0 | 5.1 | 7.4 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

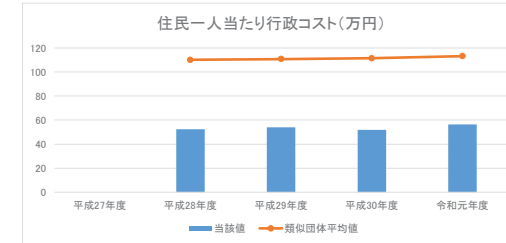
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

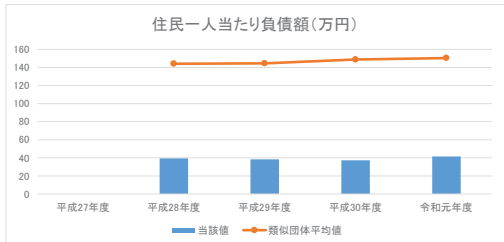
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 202,318 | 205,252 | 195,520 | 210,911 |
| 人口 | | 3,856 | 3,801 | 3,775 | 3,730 |
| 当該値 | | 52.5 | 54.0 | 51.8 | 56.5 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

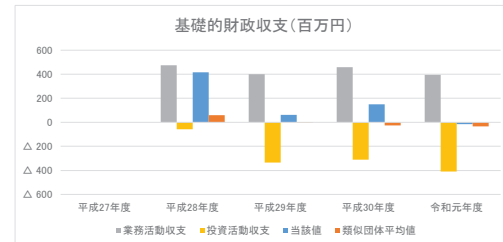
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 152,338 | 145,832 | 141,117 | 155,507 |
| 人口 | | 3,856 | 3,801 | 3,775 | 3,730 |
| 当該値 | | 39.5 | 38.4 | 37.4 | 41.7 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 474 | 399 | 460 | 394 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 59 | △ 336 | △ 311 | △ 410 |
| 当該値 | | 415 | 63 | 149 | △ 16 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

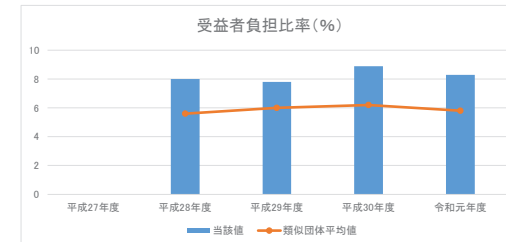
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 176 | 173 | 190 | 190 |
| 経常費用 | | 2,199 | 2,224 | 2,145 | 2,300 |
| 当該値 | | 8.0 | 7.8 | 8.9 | 8.3 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるため、備忘価額1円で評価しているものが大半を占めているためである。

2. 資産と負債の比率

社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す将来世代負担比率は、類似団体平均を大幅に下回っている。今後、インフラ事業の適正な事業計画・執行を図るとともに、新規に発行する地方債の抑制を行うことで、地方債残高を圧縮し将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

平成10年頃から行財政改革に取り組み歳出の削減に努めたことにより、類似団体平均値より低い水準での運営が行えている。引き続き適正なコストによる行政サービスの充実に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均の27%と、各種事業の適正な実施と行財政改革による歳出削減にいち早く取り組んだことにより大幅に下回っている。地方債の大半を占める臨時財政対策債については、平成13年度から発行し続けており、残高が405百万円(地方債残高の38%)となっている。なお、固定負債については、前年度より147百万円増加している。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を上回っている。経常費用のうち維持補修費の増加が今後も見込まれることから、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。また、受益者負担の水準について、公共サービスの費用に対する受益者負担の考え方を今後明確にし、税負担の公平性・公正性や透明性の確保に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

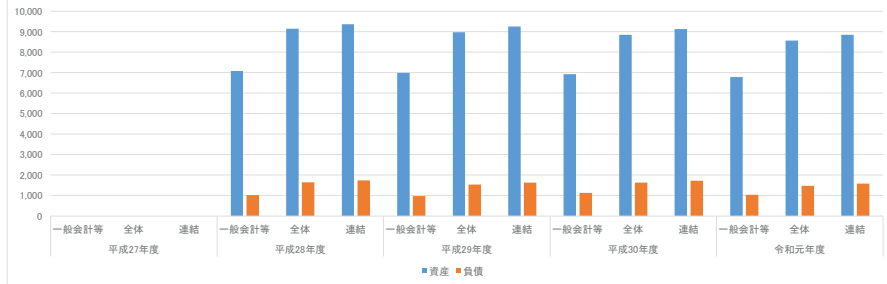
団体名 長野県売木村
団体コード 204129

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 544人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 16人 |
| 面積 | 43.43 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 603.132千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債費率 | 11.7% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

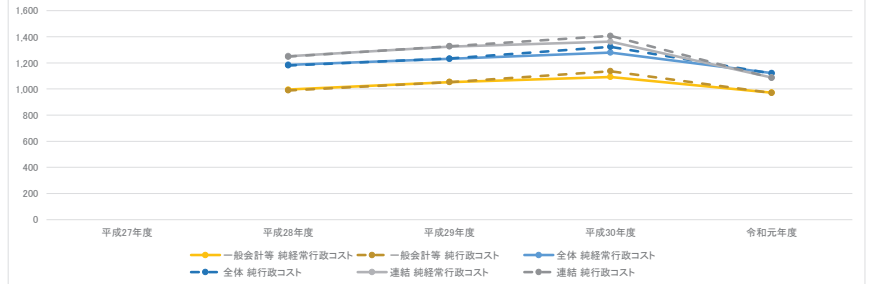
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 資産 | | 7,089 | 6,986 | 6,929 | 6,792 |
| | 負債 | | 1,026 | 976 | 1,130 | 1,034 |
| 全体 | 資産 | | 9,143 | 8,973 | 8,844 | 8,568 |
| | 負債 | | 1,647 | 1,536 | 1,636 | 1,477 |
| 連結 | 資産 | | 9,389 | 9,256 | 9,128 | 8,851 |
| | 負債 | | 1,735 | 1,627 | 1,721 | 1,590 |



分析:
一般会計等においては、負債総額が前年度末から14百万円の減少(-10.2%)となった。金額の変動の最も大きいものは退職手当引当金(固定負債)であり、職員の増減により対前年-37.9%の92百万円減少となった。
全体では、資産総額は前年度から27百万円減少し、負債総額は16百万円減少した。資産総額は水道管、下水管のインフラ資産や、水道施設や下水施設の建物、工作物を計上していること等により、一般会計等に比べて1,776百万円多くとなっている。
連結では、一般会計等に比べて1,776百万円多くとなっている。
連結では、一般会計等に比べて連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が135百万円多くなっている一方、物件費等が183百万円多くなるなど、経常費用が251百万円多くなり、純行政コストは115百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

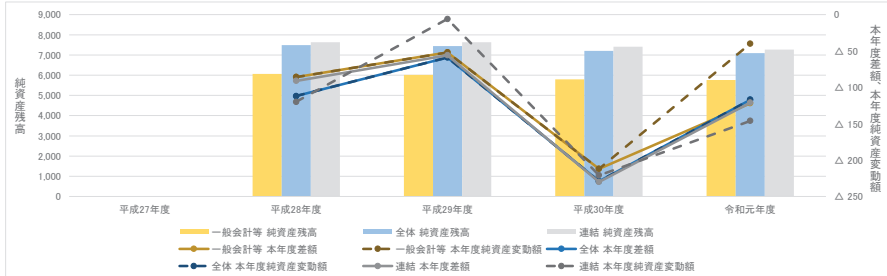
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 996 | 1,053 | 1,092 | 972 |
| | 純行政コスト | | 989 | 1,053 | 1,136 | 970 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 1,185 | 1,231 | 1,279 | 1,122 |
| | 純行政コスト | | 1,180 | 1,231 | 1,323 | 1,119 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 1,252 | 1,325 | 1,363 | 1,088 |
| | 純行政コスト | | 1,248 | 1,327 | 1,407 | 1,085 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は1,065百万円となり、前年度比137百万円の減少(-11.4%)となった。これは人件費の支出が減少した(△118百万円)ためである。今後は、定年退職に伴う新規職員の採用等により純行政コストも減少する見込みである。
全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が103百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が13百万円多くなり、純行政コストは150百万円多くなっている。
連結では、一般会計等に比べて連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が135百万円多くなっている一方、物件費等が183百万円多くなるなど、経常費用が251百万円多くなり、純行政コストは115百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

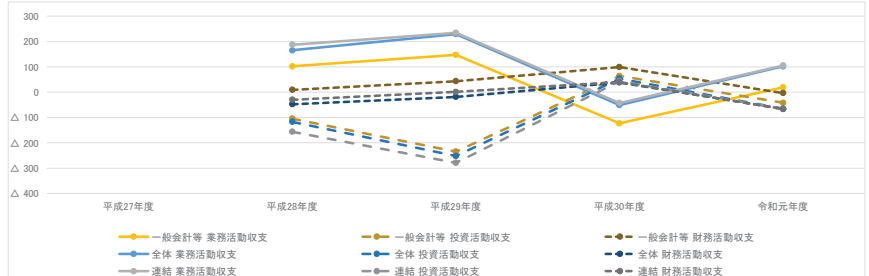
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 86 | △ 52 | △ 212 | △ 122 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 86 | △ 52 | △ 212 | △ 40 |
| | 純資産残高 | 6,063 | 6,011 | 5,799 | 5,759 | 5,759 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 112 | △ 59 | △ 229 | △ 117 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 112 | △ 59 | △ 229 | △ 117 |
| | 純資産残高 | 7,497 | 7,437 | 7,208 | 7,091 | 7,091 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 91 | △ 56 | △ 230 | △ 121 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 120 | △ 6 | △ 221 | △ 146 |
| | 純資産残高 | 7,634 | 7,628 | 7,407 | 7,261 | 7,261 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(848百万円)が純行政コスト(970百万円)を下回っており、本年度差額は△122百万円となり、純資産残高は20百万円の減少となった。地方税の徴収強化等により税金等の増加に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収収に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が49百万円多くなったが、本年度差額は△117百万円となり、純資産残高は117百万円の減少となった。
連結では、国県等補助金が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が116百万円多くなったが、本年度差額は△212百万円となり、純資産残高は146百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 102 | 147 | △ 123 | 19 |
| | 投資活動収支 | | △ 105 | △ 235 | 64 | △ 42 |
| | 財務活動収支 | | 9 | 43 | 99 | △ 4 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 165 | 229 | △ 51 | 102 |
| | 投資活動収支 | | △ 117 | △ 252 | 53 | △ 66 |
| | 財務活動収支 | | △ 48 | △ 19 | 38 | △ 66 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 187 | 234 | △ 43 | 105 |
| | 投資活動収支 | | △ 156 | △ 279 | 43 | △ 66 |
| | 財務活動収支 | | △ 30 | 1 | 40 | △ 67 |



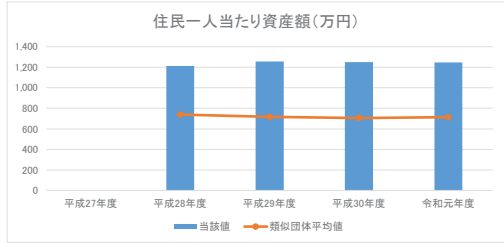
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は19百万円となり、公共施設の整備費が172百万円減少したことなどにより投資活動収支は165百万円の減少、あわせて公共施設の整備にかかる補助金収入も減少したことから、投資活動収支は△42百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を下回ったことから、△4百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から28百万円減少し、28百万円となった。行政活動に必要な資金を基金の取崩しと地方債の発行収入によって確保している状況であり、大型事業の抑制等行政改革を推進する必要がある。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が収収等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より83百万円多い102百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行額を上回ったことから、△66百万円となり、本年度末資金残高は前年度から31百万円減少し、49百万円となった。
連結では、業務活動収支は一般会計等より86百万円多い105百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行額を上回ったことから、△67百万円となり、本年度末資金残高は前年度から28百万円減少し、63百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

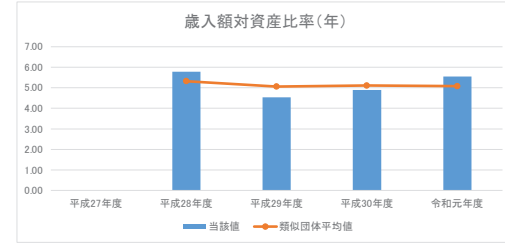
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 708,879 | 698,636 | 692,945 | 679,239 |
| 人口 | | 584 | 556 | 554 | 544 |
| 当該値 | | 1,213.8 | 1,256.5 | 1,250.8 | 1,248.6 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

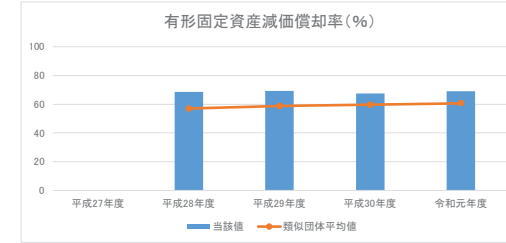
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 資産合計 | | 7,089 | 6,986 | 6,929 | 6,792 |
| 歳入総額 | | 1,226 | 1,539 | 1,416 | 1,223 |
| 当該値 | | 5.78 | 4.54 | 4.89 | 5.55 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 減価償却累計額 | | 5,337 | 5,504 | 5,677 | 6,072 |
| 有形固定資産 ※1 | | 7,793 | 7,946 | 8,409 | 8,790 |
| 当該値 | | 68.5 | 69.3 | 67.5 | 69.1 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

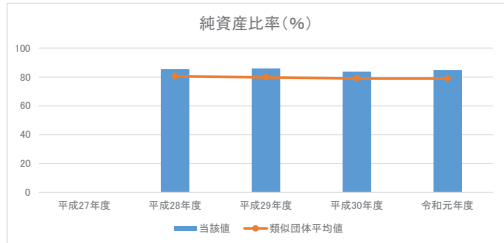
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

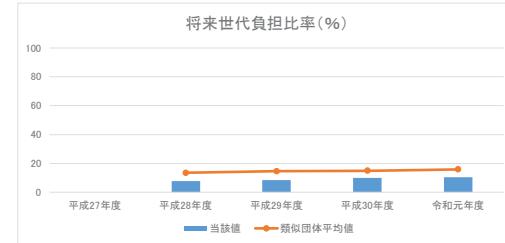
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 純資産 | | 6,063 | 6,011 | 5,799 | 5,759 |
| 資産合計 | | 7,089 | 6,986 | 6,929 | 6,792 |
| 当該値 | | 85.5 | 86.0 | 83.7 | 84.8 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | 452 | 501 | 610 | 625 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 5,789 | 6,026 | 6,080 | 6,063 |
| 当該値 | | 7.8 | 8.3 | 10.0 | 10.3 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

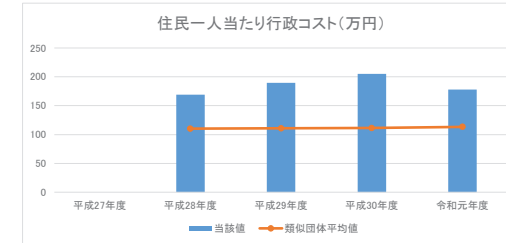
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

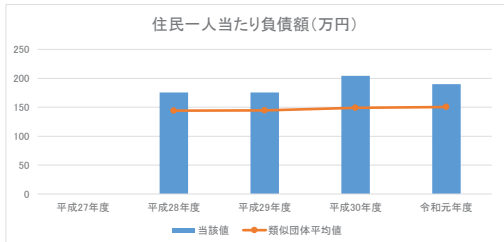
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|--------|
| 純行政コスト | | 98,873 | 105,332 | 113,577 | 96,954 |
| 人口 | | 584 | 556 | 554 | 544 |
| 当該値 | | 169.3 | 189.4 | 205.0 | 178.2 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

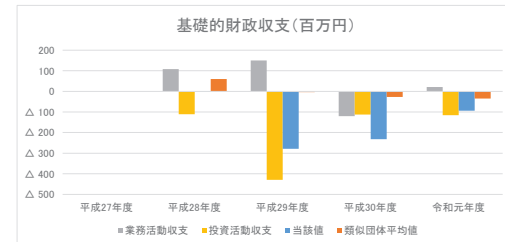
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 負債合計 | | 102,627 | 97,579 | 113,048 | 103,354 |
| 人口 | | 584 | 556 | 554 | 544 |
| 当該値 | | 175.7 | 175.5 | 204.1 | 190.0 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 108 | 151 | △120 | 22 |
| 投資活動収支 ※2 | | △110 | △429 | △112 | △116 |
| 当該値 | | △2 | △278 | △232 | △94 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △3.2 | △26.6 | △34.2 |

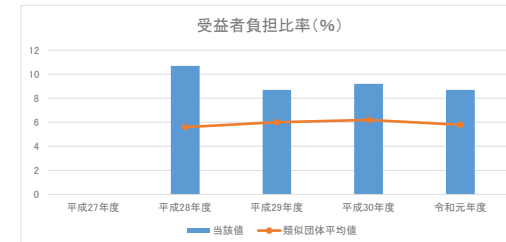
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支支出及び基金取前収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 119 | 100 | 110 | 93 |
| 経常費用 | | 1,115 | 1,153 | 1,202 | 1,065 |
| 当該値 | | 10.7 | 8.7 | 9.2 | 8.7 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく上回っているが、これは一般的な基準では、昭和59年度以前に取得した道路、河川等の敷地については、取得価額不明なものとして取り扱い、備忘価額1円で評価することとされているが、すでに固定資産台帳が整備済みまたは整備中であった場合においては、引き続き当該評価額によるものが許容されているため、当団体は既に整備済みである基準モデルによる固定資産台帳の評価額を用いていることから、その分資産額が大きくなっているものである。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、純行政コストが税金等の財源を上回ったことから純資産が減少し、昨年度から3.5%減少している。新規に発行する地方債の抑制を行い、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っているが、昨年度に比べて26.8万円減少している。これは人件費が大きく減少したことによる。今後も人件費が減少し、一人当たりの行政コストも減少する見込みである。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は前年度と比較して減少しているものの、類似団体平均を上回っており、新規発行地方債の抑制を行い地方債残高の縮小に努める。基礎的財政収支は業務活動収支が黒字だが、投資活動収支が赤字であったため、△94百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して村道改良工事など公共施設等の整備を行ったためであり、新規事業については優先度の高いものに限定するなどにより、赤字分の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担率は、類似団体平均を大きく上回っている状況にある。その要因としては、類似団体と比較して多くの村営住宅を有しており、総額として村営住宅の使用料が多いことが挙げられる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県天龍村
団体コード 204137

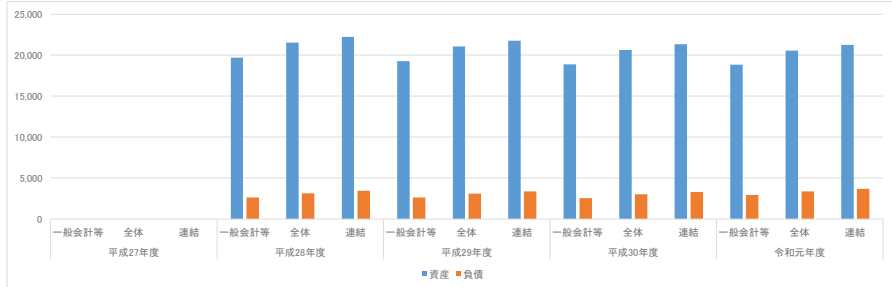
| | | | |
|--------|------------------------|------------|---------|
| 人口 | 1,246 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 39 人 |
| 面積 | 109.44 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 1,329,840 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村 I - 1 | 実質公債費率 | △ 1.3 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 19,689 | 19,268 | 18,874 | 18,830 |
| | 負債 | | 2,630 | 2,633 | 2,549 | 2,946 |
| 全体 | 資産 | | 21,539 | 21,076 | 20,639 | 20,554 |
| | 負債 | | 3,131 | 3,113 | 3,015 | 3,397 |
| 連結 | 資産 | | 22,256 | 21,767 | 21,347 | 21,280 |
| | 負債 | | 3,444 | 3,394 | 3,282 | 3,709 |

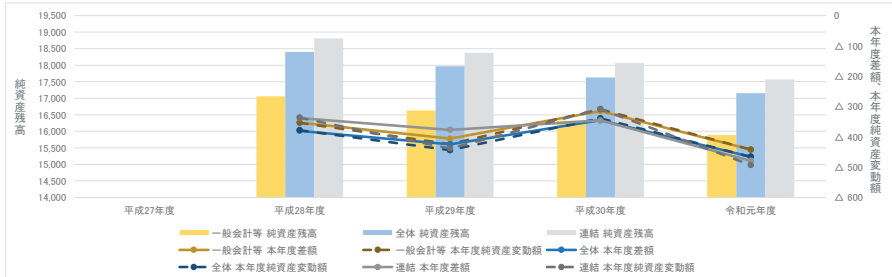


分析:
一般会計等においては、負債総額が期首から397百万円増加(15.6%)しているが、負債の増加額のうち最も金額が大きいものは、固定負債の内、地方債(386百万円)である。流動負債の1年以内償還予定地方債は297百万円(前年度比△3百万円)となっており、償還が進んでいるように見えるが、令和元年度分の地方債の償還が今後始まることから、注視していきたい項目である。
(有)天龍農林業公社、南信州広域連合等を加えた連結では、資産額は主に(有)天龍農林業公社や(有)龍泉閣の固定資産(建物、物品)及び流動資産(現金預金、未収金)を計上している事により、一般会計等と比べて2,450百万円多くとなっている。負債総額は各種引当金(退職・賞与)も計上している事から、一般会計等と比べて763百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 353 | △ 406 | △ 315 | △ 442 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 354 | △ 424 | △ 309 | △ 442 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 380 | △ 425 | △ 345 | △ 466 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 378 | △ 444 | △ 339 | △ 466 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 338 | △ 377 | △ 346 | △ 479 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 337 | △ 438 | △ 308 | △ 493 |
| 純資産残高 | | | 18,811 | 18,373 | 18,064 | 17,571 |

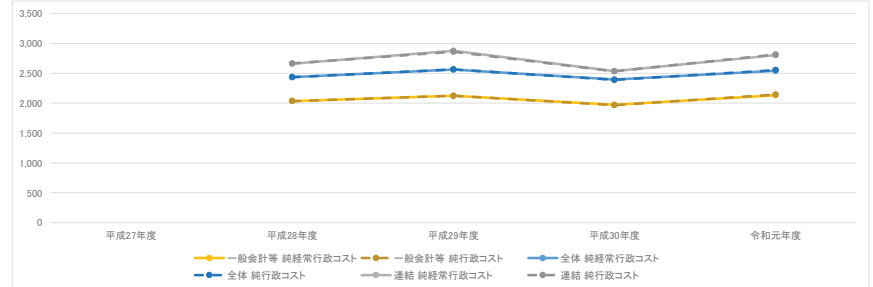


分析:
一般会計等においては、税金等の財源(1,703百万円)が純行政コスト(-2,145百万円)を下回っており、本年度差額は▲442百万円となり、純資産残高は15,883百万円となった。今後は地方税の更なる徴収業務強化に加え、国県補助金等の獲得に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が139百万円多くなっており、本年度差額は▲466百万円となり、純資産残高は1,274百万円の増加となった。
連結では、長野県後期高齢者医療広域連合への国県等補助金等が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて国県等補助金が356百万円多くなっており、本年度差額は▲479百万円となり、純資産残高は1,608百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,035 | 2,124 | 1,974 | 2,134 |
| | 純行政コスト | | 2,036 | 2,124 | 1,968 | 2,145 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,436 | 2,564 | 2,397 | 2,542 |
| | 純行政コスト | | 2,438 | 2,566 | 2,392 | 2,554 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 2,663 | 2,879 | 2,537 | 2,805 |
| | 純行政コスト | | 2,665 | 2,862 | 2,534 | 2,815 |

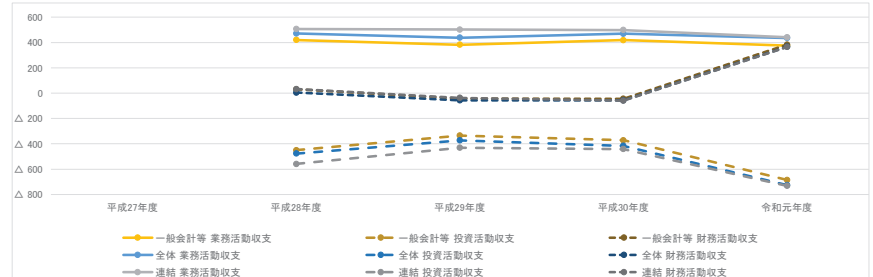


分析:
一般会計等においては、経常費用は2,201百万円となり、前年度比121百万円の増加(5.8%)となった。そのうち、業務費用の内、人件費等は341百万円(前年度比13百万円)、物件費は1,407百万円(前年度比107百万円)、補助金や社会保障給付等の移転費用は443百万円(前年度比0百万円)である。最も金額が大きいのは物件費、次いで移転費用であり、純行政コストの86.7%を占めている。一方で、行政サービス利用に対する対価として住民に負担いただく使用料等の経常収益は約37百万円減少している。今後も高齢化の進展などにより、この傾向が続くことが見込まれるため、事業の見直しや介護予防の推進等により、経費の抑制に努める。
全体では、一般会計等と比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が46百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が305百万円多くなり、純行政コストは408百万円多くなっている。
連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が542百万円多くなっている一方、人件費が379百万円と2倍以上多くなっているなど、経常費用が1,213百万円多くなり、純行政コストは670百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 419 | 381 | 418 | 375 |
| | 投資活動収支 | | △ 450 | △ 335 | △ 372 | △ 685 |
| | 財務活動収支 | | 29 | △ 44 | △ 45 | △ 383 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 471 | 437 | 469 | 435 |
| | 投資活動収支 | | △ 477 | △ 373 | △ 416 | △ 726 |
| | 財務活動収支 | | 4 | △ 57 | △ 57 | △ 366 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 506 | 502 | 497 | 441 |
| | 投資活動収支 | | △ 559 | △ 431 | △ 442 | △ 732 |
| | 財務活動収支 | | 32 | △ 37 | △ 59 | △ 364 |



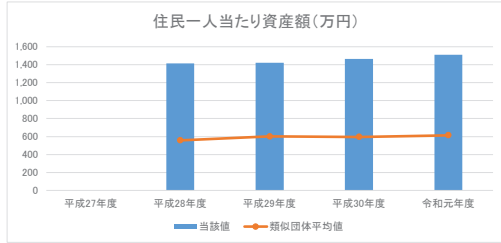
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は375百万円であったが、投資活動収支については、村道の拡幅改良事業等を行ったことから、▲685百万円となっている。財務活動収支については、地方債の地方債発行額が償還支出額を上回ったことから、383百万円となり、本年度末資金残高は125百万円となった。しかし、行政活動に必要な資金を地方債の発行収入によって確保しているため、今後は行財政改革をさらに推進する必要がある。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より60百万円多い435百万円となっている。投資活動収支では、水道管の布設替え事業を実施したため、一般会計等より▲41百万円となっている。財務活動収支は地方債発行額が地方債償還支出額を上回ったことから、366百万円となり、本年度末資金残高は136百万円となった。
連結では、(有)天龍農林業公社や(有)龍泉閣における営業収入等が業務収入に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より66百万円多い441百万円となっている。投資活動収支では、(社)天龍村社会福祉協議会において施設整備等を行っているため、一般会計等より47百万円多くなっている。財務活動収支は、地方債発行額が地方債償還支出額を上回ったことから、△19百万円となり、本年度末資金残高は244百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

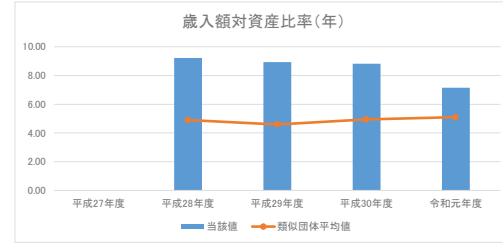
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,968,944 | 1,926,826 | 1,887,394 | 1,882,977 |
| 人口 | | 1,392 | 1,355 | 1,290 | 1,246 |
| 当該値 | | 1,414.5 | 1,422.0 | 1,463.1 | 1,511.2 |
| 類似団体平均値 | | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

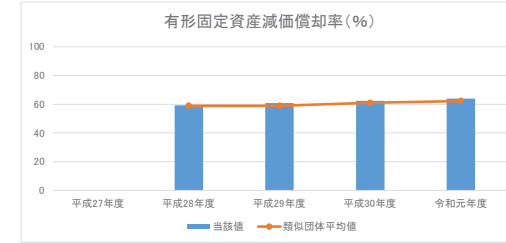
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 19,689 | 19,268 | 18,874 | 18,830 |
| 歳入総額 | | 2,132 | 2,160 | 2,142 | 2,639 |
| 当該値 | | 9.23 | 8.92 | 8.81 | 7.14 |
| 類似団体平均値 | | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 23,477 | 24,246 | 25,008 | 25,758 |
| 有形固定資産 ※1 | | 39,642 | 39,817 | 40,098 | 40,333 |
| 当該値 | | 59.2 | 60.9 | 62.4 | 63.9 |
| 類似団体平均値 | | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

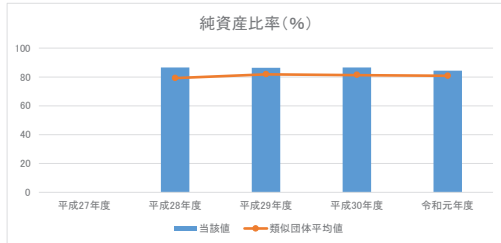
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

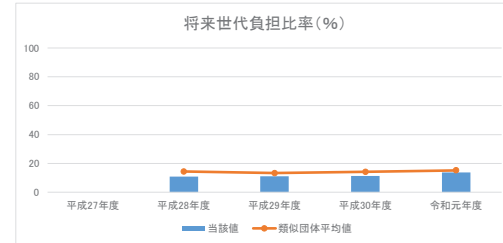
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 17,060 | 16,635 | 16,325 | 15,883 |
| 資産合計 | | 19,689 | 19,268 | 18,874 | 18,830 |
| 当該値 | | 86.6 | 86.3 | 86.5 | 84.3 |
| 類似団体平均値 | | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,907 | 1,878 | 1,842 | 2,241 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 17,634 | 17,029 | 16,489 | 16,342 |
| 当該値 | | 10.8 | 11.0 | 11.2 | 13.7 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

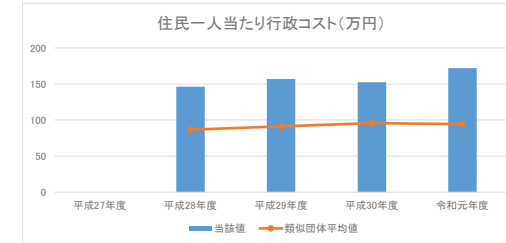
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

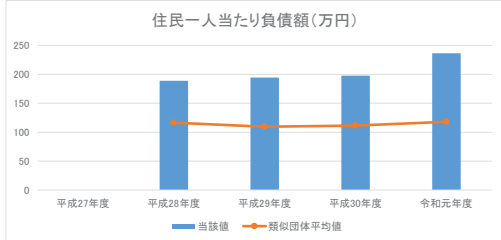
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 203,575 | 212,427 | 196,822 | 214,511 |
| 人口 | | 1,392 | 1,355 | 1,290 | 1,246 |
| 当該値 | | 146.2 | 156.8 | 152.6 | 172.2 |
| 類似団体平均値 | | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

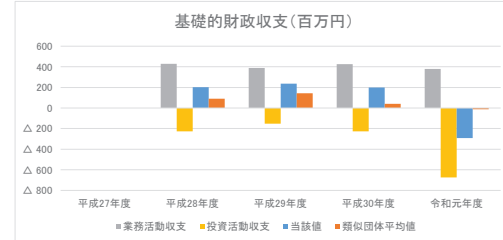
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 262,984 | 263,334 | 254,859 | 294,643 |
| 人口 | | 1,392 | 1,355 | 1,290 | 1,246 |
| 当該値 | | 188.9 | 194.3 | 197.6 | 236.5 |
| 類似団体平均値 | | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 429 | 389 | 425 | 380 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 227 | △ 152 | △ 226 | △ 673 |
| 当該値 | | 202 | 237 | 199 | △ 293 |
| 類似団体平均値 | | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △ 13.2 |

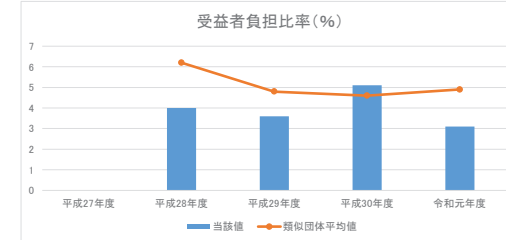
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 85 | 79 | 106 | 68 |
| 経常費用 | | 2,120 | 2,203 | 2,080 | 2,202 |
| 当該値 | | 4.0 | 3.6 | 5.1 | 3.1 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく上回っている。これは、統一的な基準では、昭和59年度以前に取得した道路、河川等の敷地については、取得価額不償還なものとして取扱っている。備忘価額1円で評価することとされているが、既に固定資産台帳が整備済又は整備中であった場合においては、引き続き当該評価額によることが許容されているため、当団体は既に整備済みであった基準モデルによる固定資産台帳の評価額を用いていることから、その分資産額が大きくなっているものである。また、人口数が少ないため、類似団体と比較しても一人当たりの資産額が大きくなってしまふ。

2. 資産と負債の比率

将来世代負担比率は、類似団体平均を若干下回っているが、開始時点と比べて2.9%増加している。今後も新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、交付税措置のある有利な起債を活用するなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回り約2倍近くとなっている。人件費は職員の採用により増加傾向である。また、高齢化率が高い当村において、福祉サービスに係る各種補助金や扶助費が増加しているため、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。

4. 負債の状況

基礎的財政収支は、投資活動収支が業務活動収支の赤字分を上回ったため、△293百万円となっている。類似団体平均を上回っているが、投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、村道の拡幅改良事業や防災行政無線のデジタル化、社会福祉施設の改修など公共施設等の必要な整備を行ったためである。また、負債額に対し人口が少ないため、一人当たり負債額が高くなる傾向が今後もしばらく続いていくと思われる。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は低くなっている。前年度に比べ経常収益は38百万円減少しているが、新型コロナウイルス感染症により、使用料等の収益が少なかったためである。経常費用は前年度に比べ122百万円増加しており、主に人件費及び物件費の増加によるものである。しかし、経常費用のうち維持補修費は今後増加傾向にあると思われることから、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

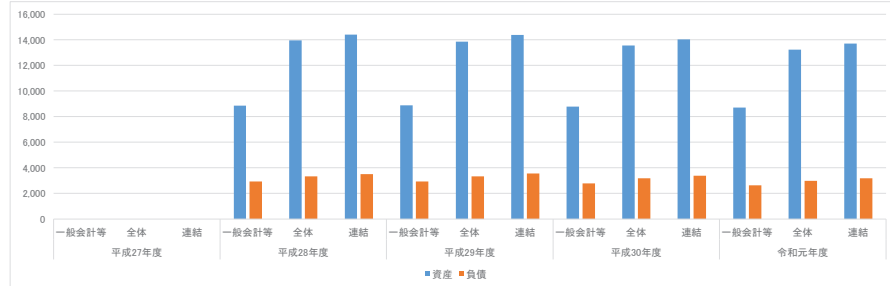
団体名 長野県泰阜村
団体コード 204145

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 1,616 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 33 人 |
| 面積 | 64.59 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 1,217.143 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村 I - 0 | 実質公債費率 | 8.1 % |
| | | 将来負債比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

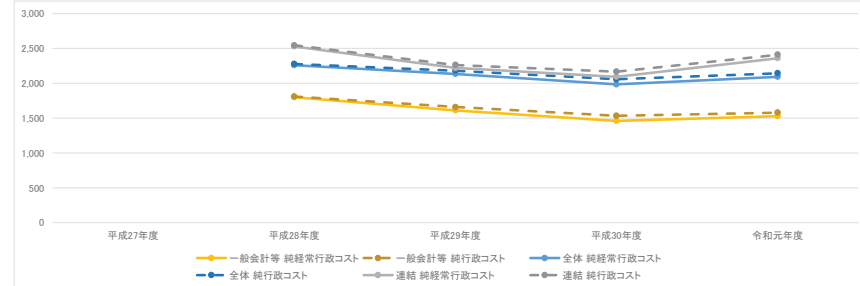
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 8,861 | 8,899 | 8,784 | 8,707 |
| | 負債 | | 2,938 | 2,941 | 2,791 | 2,638 |
| 全体 | 資産 | | 13,961 | 13,871 | 13,558 | 13,229 |
| | 負債 | | 3,329 | 3,346 | 3,188 | 2,985 |
| 連結 | 資産 | | 14,424 | 14,376 | 14,045 | 13,721 |
| | 負債 | | 3,500 | 3,550 | 3,399 | 3,190 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から77百万円の減少(△1%)となった。資産総額のうち有形固定資産の割合が90%以上となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。

2. 行政コストの状況

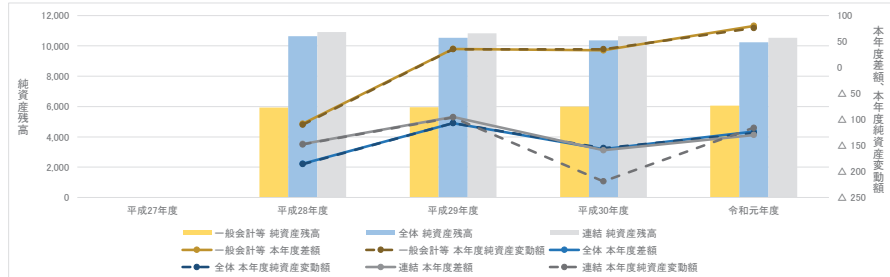
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,801 | 1,613 | 1,461 | 1,529 |
| | 純行政コスト | | 1,811 | 1,659 | 1,534 | 1,579 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,260 | 2,134 | 1,985 | 2,094 |
| | 純行政コスト | | 2,278 | 2,180 | 2,059 | 2,144 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 2,529 | 2,220 | 2,093 | 2,360 |
| | 純行政コスト | | 2,547 | 2,265 | 2,167 | 2,411 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は1,529百万円となり、前年度から68百万円増額した。最も金額が大きいのは減価償却費や維持補修費を含む物件費等だが、システムやコンピュータのIT関連経費も年々増加している。そのため、消耗品等の経常経費の縮減に引き続き努めるとともに、施設の集約化・複合化事業に着手するなど公共施設等の適正管理に努めることにより、更なる経費の縮減に努める。

3. 純資産変動の状況

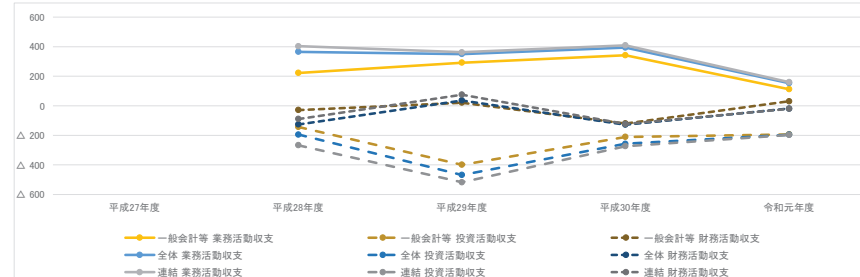
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 108 | 36 | 33 | 80 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 110 | 35 | 35 | 76 |
| | 純資産残高 | 5,923 | 5,958 | 5,993 | 5,993 | 6,069 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 185 | △ 107 | △ 157 | △ 123 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 186 | △ 107 | △ 155 | △ 126 |
| | 純資産残高 | 10,633 | 10,525 | 10,370 | 10,244 | 10,244 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 147 | △ 95 | △ 159 | △ 130 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 148 | △ 96 | △ 219 | △ 116 |
| | 純資産残高 | 10,924 | 10,826 | 10,647 | 10,531 | 10,531 |



分析: 一般会計等においては、税收等の財源が純行政コストを下回っているため、本年度差額は80百万円となった。純資産残高は76百万円の増加となった。地方税の徴収業務の強化(100%の維持)等により引き続き単年度税收等の増加に努める。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 223 | 291 | 342 | 112 |
| | 投資活動収支 | | △ 143 | △ 399 | △ 211 | △ 193 |
| | 財務活動収支 | | △ 28 | 21 | △ 120 | 31 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 365 | 350 | 394 | 153 |
| | 投資活動収支 | | △ 194 | △ 468 | △ 257 | △ 196 |
| | 財務活動収支 | | △ 126 | 36 | △ 128 | △ 19 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 403 | 362 | 409 | 160 |
| | 投資活動収支 | | △ 267 | △ 517 | △ 274 | △ 197 |
| | 財務活動収支 | | △ 90 | 75 | △ 123 | △ 20 |



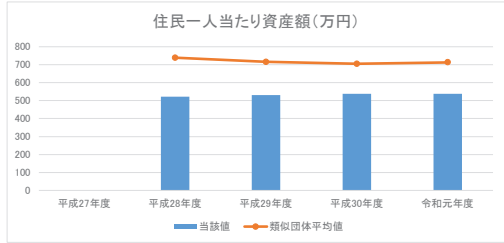
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は112百万円であったが、投資活動収支については、村道改良事業等を行ったことから、▲193百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回っているため、31百万円増となった。次年度以降は、保育所建設工事などが予定されており多額の借入が予定されていること、また、適確対策事業債等の償還が始まることから、財務活動収支はマイナスに転じることが考えられる。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

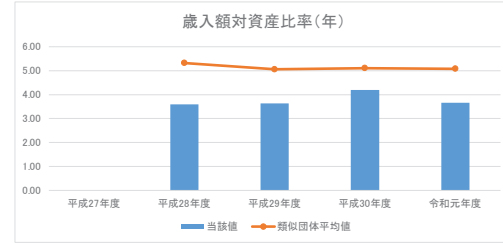
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 資産合計 | | 886,099 | 889,874 | 878,378 | 870,700 |
| 人口 | | 1,696 | 1,675 | 1,633 | 1,616 |
| 当該値 | | 522.5 | 531.3 | 537.9 | 538.8 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

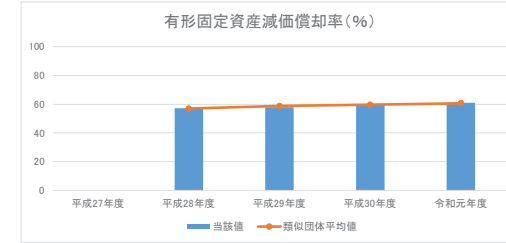
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 資産合計 | | 8,861 | 8,899 | 8,784 | 8,707 |
| 歳入総額 | | 2,468 | 2,445 | 2,094 | 2,376 |
| 当該値 | | 3.59 | 3.64 | 4.19 | 3.66 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 8,548 | 8,883 | 9,243 | 9,596 |
| 有形固定資産 ※1 | | 14,938 | 15,340 | 15,487 | 15,736 |
| 当該値 | | 57.2 | 57.9 | 59.7 | 61.0 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

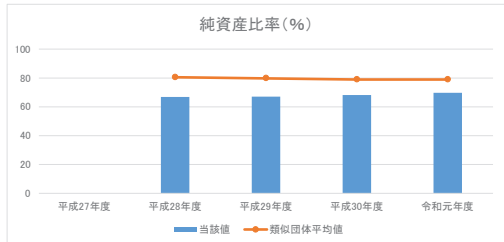
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

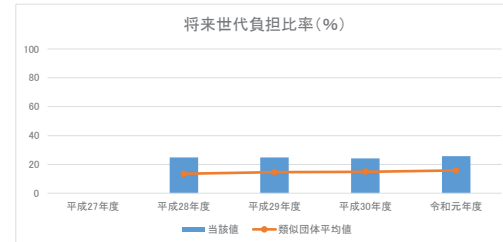
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 純資産 | | 5,923 | 5,958 | 5,993 | 6,069 |
| 資産合計 | | 8,861 | 8,899 | 8,784 | 8,707 |
| 当該値 | | 66.8 | 67.0 | 68.2 | 69.7 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,754 | 1,777 | 1,682 | 1,763 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 7,064 | 7,130 | 6,942 | 6,836 |
| 当該値 | | 24.8 | 24.9 | 24.2 | 25.8 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

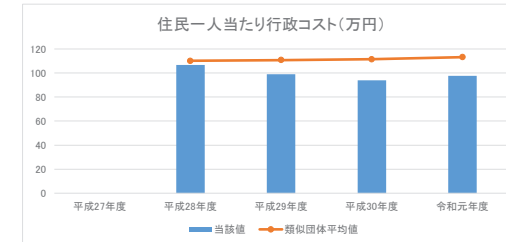
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

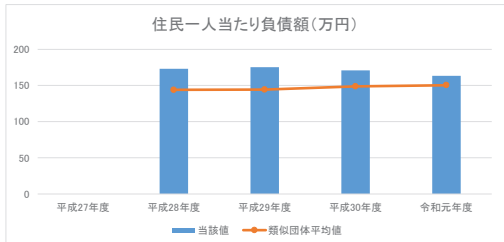
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 181,072 | 165,944 | 153,400 | 157,900 |
| 人口 | | 1,696 | 1,675 | 1,633 | 1,616 |
| 当該値 | | 106.8 | 99.1 | 93.9 | 97.7 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

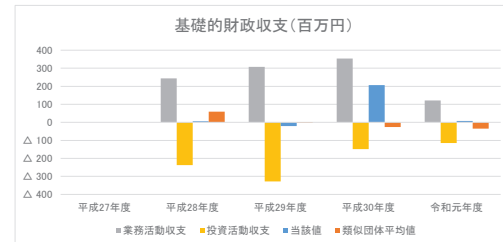
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 293,827 | 294,089 | 279,122 | 263,826 |
| 人口 | | 1,696 | 1,675 | 1,633 | 1,616 |
| 当該値 | | 173.2 | 175.6 | 170.9 | 163.3 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 243 | 307 | 354 | 122 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 237 | △ 328 | △ 148 | △ 115 |
| 当該値 | | 6 | △ 21 | 206 | 7 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

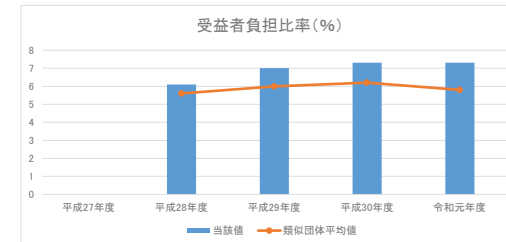
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 118 | 121 | 115 | 121 |
| 経常費用 | | 1,919 | 1,734 | 1,576 | 1,650 |
| 当該値 | | 6.1 | 7.0 | 7.3 | 7.3 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っている。当団体では、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明であるため、備忘価額1円で評価しているものが多く存在しているためである。近年、小中学校等の公共施設整備事業を実施しているため、資産額は増加傾向にある。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均を下回っている。負債の数値から、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債を負債額から除いた場合、純資産比率は75%となるが、いずれにしても数値は下回るため、今後起債事業の精査等を行う必要がある。

将来世代負担比率は、類似団体平均を大幅に上回っている。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っており、今後は、IT関連の経費が増加するため、今後は増加に転じるものと見込まれる。人件費、物件費の膨らみを抑える取り組みが引き続き必要である。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っているが、これは類似団体と比較して、地方債を多く発行しているためである。来年度以降、高利率の地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努めていく必要がある。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を上回っている状況にある。その要因としては、類似団体と比較して多くの村営住宅を有しており、総額として公営住宅の使用料が多いことが挙げられる。村営住宅は近年ほぼ満室で、定量的に収入が見込めるため、経常費用の膨らみを抑えることで当該値を維持してい

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

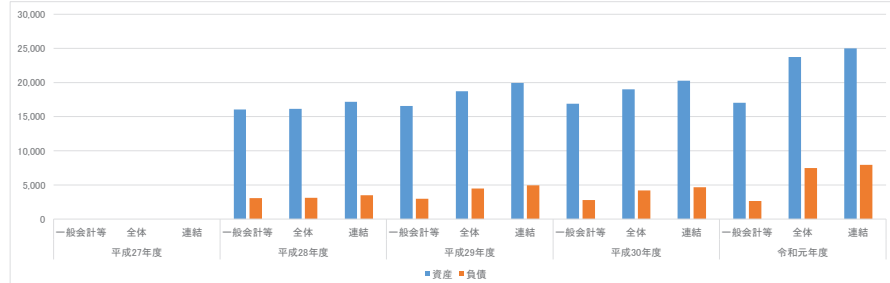
団体名 長野県喬木村
団体コード 204153

| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 6,341人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 65人 |
| 面積 | 66.61km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,416.783千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 8.0% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

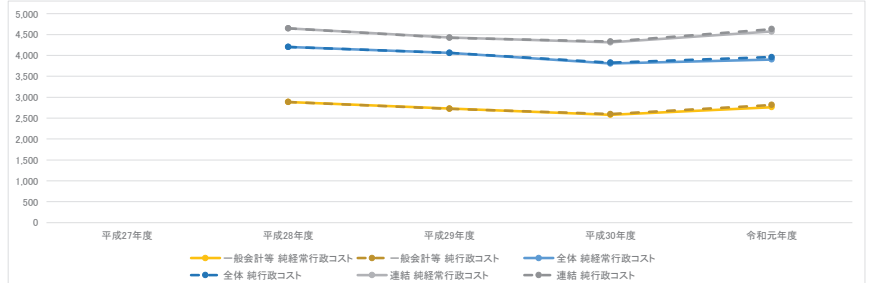
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 16,037 | 16,561 | 16,906 | 17,056 |
| | 負債 | | 3,093 | 2,968 | 2,777 | 2,667 |
| 全体 | 資産 | | 16,132 | 18,725 | 19,019 | 23,759 |
| | 負債 | | 3,130 | 4,483 | 4,205 | 7,482 |
| 連結 | 資産 | | 17,200 | 19,922 | 20,281 | 24,988 |
| | 負債 | | 3,500 | 4,947 | 4,682 | 7,955 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から150百万円の増加(+0.9%)となった。金額の増加が大きいものはインフラ資産と基金、現金預金であり、道路改良工事が減価償却による資産の減少を上回ったこと等から58百万円増加し、基金は、統合保育園建設により地方債残高が増えることを見越し、減価基金への積立を行ったことにより、基金(流動資産)が161百万円増加した。また、新型コロナウイルス対策として流動的に予算対応ができるように繰越金を多く計上したため、現金預金も191百万円増加している。
全体、連結において資産・負債ともに大幅な増加となっているが、令和元年度より下水道事業が法適化したことが大きな要因となっている。

2. 行政コストの状況

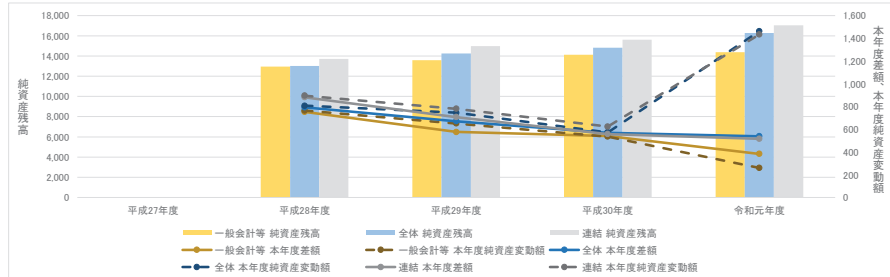
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,886 | 2,730 | 2,580 | 2,763 |
| | 純行政コスト | | 2,886 | 2,725 | 2,599 | 2,818 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,203 | 4,063 | 3,808 | 3,903 |
| | 純行政コスト | | 4,203 | 4,059 | 3,828 | 3,959 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,648 | 4,427 | 4,314 | 4,574 |
| | 純行政コスト | | 4,648 | 4,423 | 4,333 | 4,629 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は3,052百万円となった。そのうち、人件費等の業務費用は1,847百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は1,205百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは物件費(664百万円)、次いで職員給与費(444百万円)であり、純行政コストの39.3%を占めている。今後、高齢化の進展等により、社会保障給付が増加することが見込まれるため、介護予防の推進等により、経費の抑制に努める必要がある。保険料を経常収益としないため、国民健康保険特別会計で529百万円、介護保険特別会計で699百万円の純行政コストとなっている。これらの特別会計を含めたことにより、全体の純行政コストも一般会計等に比べて大きく増加している。連結団体の行政コストが852百万円であるため、連結の純行政コストも全体に比べて増加している。

3. 純資産変動の状況

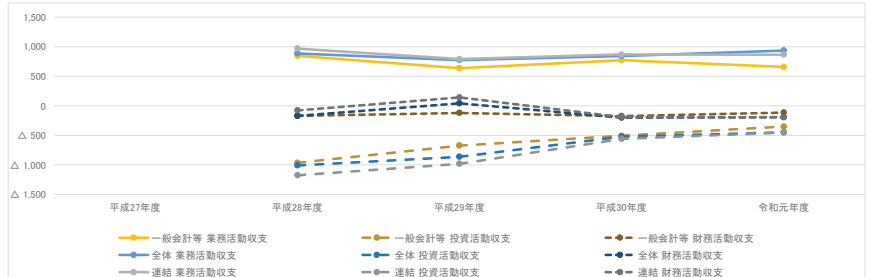
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 753 | 576 | 541 | 383 |
| | 本年度純資産変動額 | | 765 | 650 | 535 | 260 |
| | 純資産残高 | | 12,944 | 13,594 | 14,129 | 14,389 |
| 全体 | 本年度差額 | | 793 | 671 | 569 | 538 |
| | 本年度純資産変動額 | | 807 | 745 | 572 | 1,463 |
| | 純資産残高 | | 13,002 | 14,242 | 14,814 | 16,277 |
| 連結 | 本年度差額 | | 881 | 707 | 557 | 516 |
| | 本年度純資産変動額 | | 895 | 780 | 624 | 1,434 |
| | 純資産残高 | | 13,700 | 14,975 | 15,599 | 17,033 |



分析: 一般会計等においては、収支等の財源(3,201百万円)が純行政コスト(2,818百万円)を上回ったことから、本年度差額は383百万円となり、純資産残高は260百万円の増加となった。本年度は、村税や普通交付税の増額により、収支等の財源が増加した一方、多機能型施設建設や公営住宅取得による行政コストの計上は減価償却により徐々にされる。このことが純資産が増加した要因のひとつとして考えられる。
全体、連結において大幅な増加となっているが、令和元年度より下水道事業が法適化したことが大きな要因となっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 846 | 636 | 774 | 656 |
| | 投資活動収支 | | △ 964 | △ 672 | △ 507 | △ 350 |
| | 財務活動収支 | | △ 171 | △ 119 | △ 174 | △ 115 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 886 | 773 | 843 | 934 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,009 | △ 863 | △ 520 | △ 449 |
| | 財務活動収支 | | △ 170 | 42 | △ 201 | △ 190 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 967 | 791 | 867 | 863 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,175 | △ 980 | △ 560 | △ 451 |
| | 財務活動収支 | | △ 78 | 142 | △ 190 | △ 194 |



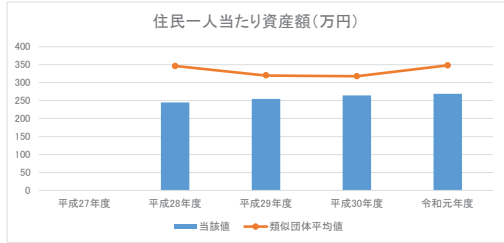
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は656百万円であったが、投資活動収支については、大規模な基金積立を行ったことから▲349百万円となっている。財務活動収支については、地方債償還支出が地方債発行額を上回ったことから、▲115百万円となっており、地方債の償還が進んでいるものと考えられる。
全体、連結で連結される金額は一般会計等の規模に比べて小さい。よって、上述した一般会計等の資金収支の状況が、全体、連結の資金収支の状況とほぼ同様となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

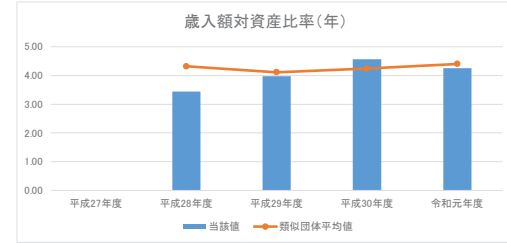
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,603,690 | 1,656,147 | 1,690,612 | 1,705,570 |
| 人口 | | 6,556 | 6,511 | 6,393 | 6,341 |
| 当該値 | | 244.6 | 254.4 | 264.4 | 269.0 |
| 類似団体平均値 | | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

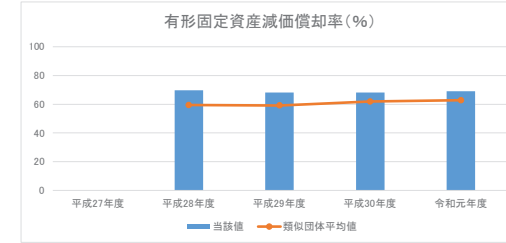
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 16,037 | 16,561 | 16,906 | 17,056 |
| 歳入総額 | | 4,665 | 4,170 | 3,707 | 4,009 |
| 当該値 | | 3.44 | 3.97 | 4.56 | 4.25 |
| 類似団体平均値 | | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 9,835 | 10,076 | 10,355 | 10,593 |
| 有形固定資産 ※1 | | 14,117 | 14,801 | 15,189 | 15,324 |
| 当該値 | | 69.7 | 68.1 | 68.2 | 69.1 |
| 類似団体平均値 | | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

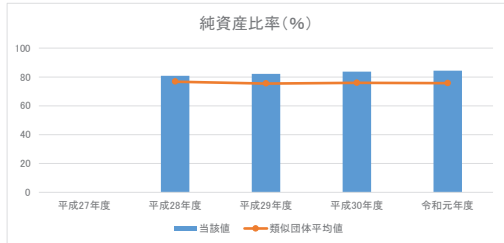
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

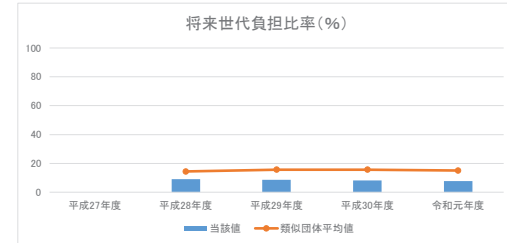
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 12,944 | 13,594 | 14,129 | 14,389 |
| 資産合計 | | 16,037 | 16,561 | 16,906 | 17,056 |
| 当該値 | | 80.7 | 82.1 | 83.6 | 84.4 |
| 類似団体平均値 | | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,084 | 1,080 | 1,027 | 970 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 11,884 | 12,391 | 12,561 | 12,474 |
| 当該値 | | 9.1 | 8.7 | 8.2 | 7.8 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

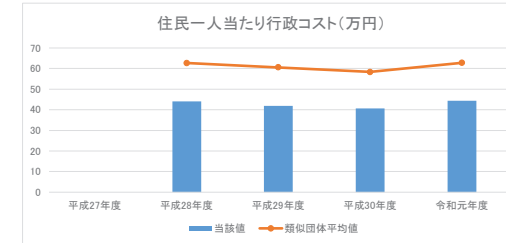
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

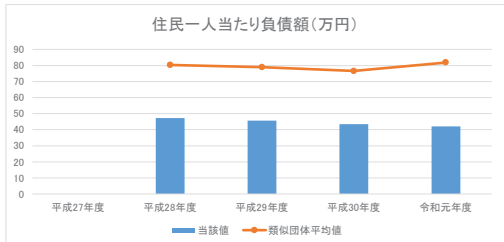
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 288,635 | 272,515 | 259,863 | 281,756 |
| 人口 | | 6,556 | 6,511 | 6,393 | 6,341 |
| 当該値 | | 44.0 | 41.9 | 40.6 | 44.4 |
| 類似団体平均値 | | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

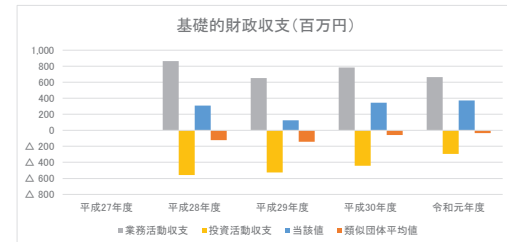
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 309,316 | 296,756 | 277,746 | 266,658 |
| 人口 | | 6,556 | 6,511 | 6,393 | 6,341 |
| 当該値 | | 47.2 | 45.6 | 43.4 | 42.1 |
| 類似団体平均値 | | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 866 | 651 | 785 | 665 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 557 | △ 524 | △ 442 | △ 293 |
| 当該値 | | 309 | 127 | 343 | 372 |
| 類似団体平均値 | | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

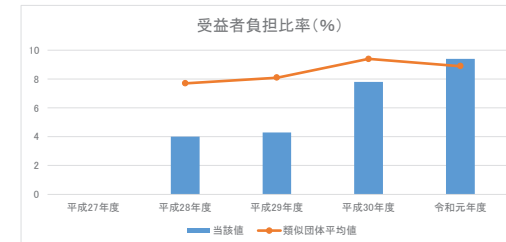
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 119 | 122 | 218 | 288 |
| 経常費用 | | 3,005 | 2,852 | 2,797 | 3,051 |
| 当該値 | | 4.0 | 4.3 | 7.8 | 9.4 |
| 類似団体平均値 | | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、この資料の数値と村HPで公表している資料の数値と差が生じている。要因は、この資料では令和2年1月1日の人口を用いて算出しているのに対し、村HPで公表している資料は令和2年3月31日の人口を用いて算出していることによるものである。指標数値について、類似団体平均値より低くなっているが、当村は類似団体と比較して、所有する公共施設が少ないことによるものである。

有形固定資産減価償却率については、類似団体平均値より6.9%高く、今後施設老朽化対策の費用が増加することが予想されるため、公共施設等総合管理計画や個別施設計画に基づき計画的に集約化や長寿命化等を進める必要がある。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均値を上回り、将来世代負担比率は類似団体平均値を下回っているものの、今後施設老朽化対策の費用が増加することが予想されるため、公共施設等総合管理計画や個別施設計画に基づき、計画的に集約化・長寿命化等を進める必要がある。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、この資料の数値と村HPで公表している数値と差が生じている。要因は、この資料では令和2年1月1日の人口を用いて算出しているのに対し、村HPで公表している資料は令和2年3月31日の人口を用いて算出していることによるものである。

住民一人当たり行政コストは類似団体平均値を上回っている。要因としては、リニア関連の受益事業が大幅に増加したことによるものである。単年度的なものであるため、来年度以降は減少見込みだが、施設管理等において指定管理者制度活用の検討を進める等経費の抑制に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は、この資料の数値と村HPで公表している数値と差が生じている。要因は、この資料では令和2年1月1日の人口を用いて算出しているのに対し、村HPで公表している資料は令和2年3月31日の人口を用いて算出していることによるものである。

地方債の発行にあたっては、交付税措置等を考慮して債主に発行しているため、類似団体平均値を大幅に下回っている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均値より高くなっている。要因としては、リニア関連の受益事業収入が大幅に増加したことによる単年度的なものである。引き続き適正な受益者負担を求めたい。

令和元年度 財務書類に関する情報①

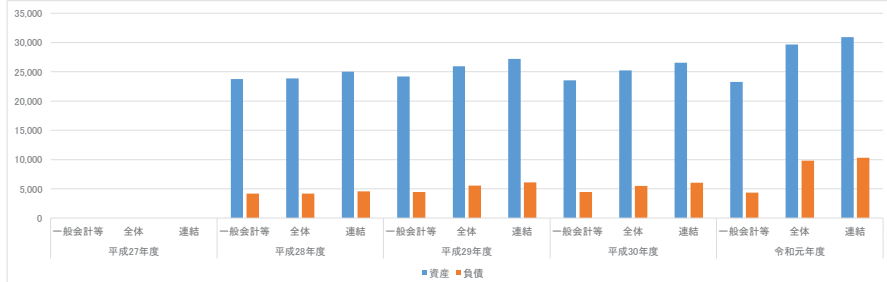
団体名 長野県豊丘村
団体コード 204161

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 6,707人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 67人 |
| 面積 | 76.79 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,572,300千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-0 | 実質公債費率 | 8.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

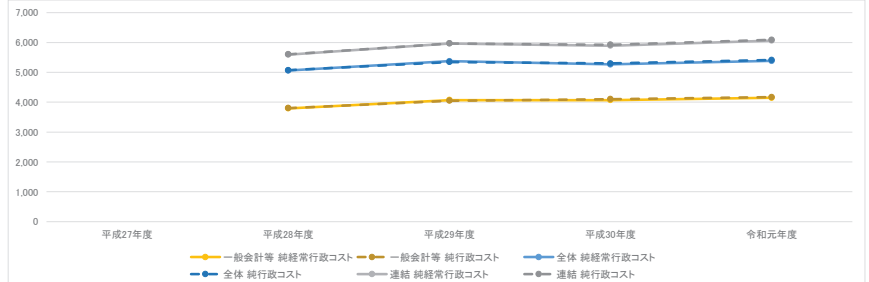
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 23,766 | 24,222 | 23,541 | 23,268 |
| | 負債 | | 4,197 | 4,458 | 4,443 | 4,360 |
| 全体 | 資産 | | 23,884 | 25,944 | 25,243 | 29,640 |
| | 負債 | | 4,199 | 5,559 | 5,501 | 9,795 |
| 連結 | 資産 | | 24,991 | 27,222 | 26,575 | 30,946 |
| | 負債 | | 4,585 | 6,097 | 6,017 | 10,304 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から275百万円の減少(-1.2%)となった。有形固定資産では、大規模な施設の建設等が行われていない一方で、建物や工作物の減価償却が進み10百万円の減少となっている。また、土地開発基金を取り崩して土地の購入を行っており、投資その他の資産が32百万円の減少となっている。負債総額は、前年度末から83百万円の減少(-1.9%)となっている。起債の償還が進み、固定負債は91百万円の減少(-2.3%)となっている。特別会計、企業会計を加えた全体では、新たに下水道事業会計を計上することによって資産、負債とも前年度より増加している。下水道事業会計の算入により、インフラ資産が4,202百万円の増(37.6%)、企業会計等の増加により負債が4,294百万円の増(78.1%)となっている。一部事務組合や第三セクターを加えた連結では、資産総額は前年度末から4,371百万円の増(16.4%)、負債総額は前年度末から4,287百万円の増(71.2%)となっているが、これは全体財務書類の中に新たに下水道事業会計が加わったためである。連結団体のみでは、資産総額が前年度末から31百万円の減少(-2.3%)、負債総額が前年度末から7百万円の減少(-1.3%)となっている。

2. 行政コストの状況

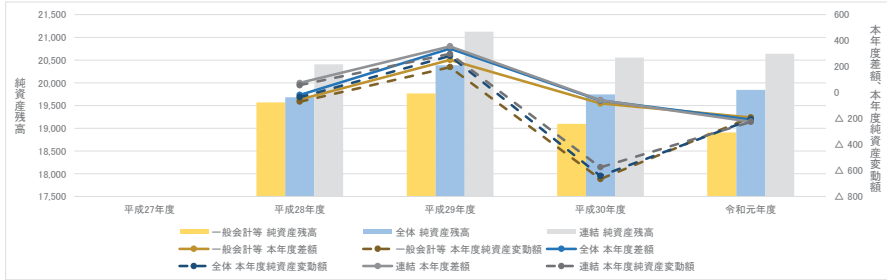
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,792 | 4,069 | 4,072 | 4,150 |
| | 純行政コスト | | 3,802 | 4,049 | 4,105 | 4,172 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,063 | 5,375 | 5,266 | 5,386 |
| | 純行政コスト | | 5,073 | 5,346 | 5,299 | 5,415 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,593 | 5,970 | 5,893 | 6,063 |
| | 純行政コスト | | 5,603 | 5,966 | 5,925 | 6,091 |



分析:
一般会計等において、経常費用は4,317百万円となり前年度比99百万円の増加(+2.3%)となった。そのうち、業務費用は66百万円の増加(+2.4%)となり、大きな割合を占めるが物件費等である。物件費等のうち、物件費が37百万円の増加(+3.7%)となっており、ふるさと納税の寄付額増加に伴い、返礼品や郵送料に係る費用が伸びている。また、移転費用も33百万円の増(+2.3%)となっており、集会所整備補助金(12百万円増)や飯田環境センター分相金(5百万円増)を含む補助金等が46百万円の増加(+7.2%)となっている。義務的な負担金以外では、補助金の効果を検証し集中と削減により経費の縮減に努める。全体では、一般会計等と比べて、水道料金や下水道使用料を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が188百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金に計上しているため、移転費用が984百万円多くなり、純行政コストは1,243百万円多くなっている。連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が468百万円多くなっている一方、社会保障費が768百万円多くなるなどで、経常費用が2,381百万円多くなり、純行政コストは1,919百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

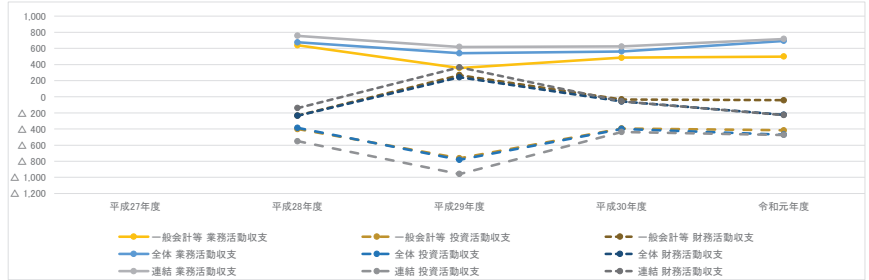
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 54 | 251 | △ 84 | △ 192 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 71 | 195 | △ 666 | △ 192 |
| | 純資産残高 | 19,569 | 19,764 | 19,098 | 18,906 | |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 18 | 338 | △ 62 | △ 208 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 36 | 282 | △ 642 | △ 209 |
| | 純資産残高 | 19,684 | 20,385 | 19,742 | 19,845 | |
| 連結 | 本年度差額 | | 74 | 355 | △ 58 | △ 225 |
| | 本年度純資産変動額 | | 56 | 298 | △ 576 | △ 226 |
| | 純資産残高 | 20,405 | 21,125 | 20,557 | 20,641 | |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(3,981百万円)が純行政コスト(4,172百万円)を下回ったことから、本年度差額は-192百万円(前年度比-108百万円)となり、純資産残高も192百万円減の18,906百万円となった。地方税の徴収業務の強化等により税金の増加に努めるとともに、経費の縮減にも努めていく必要がある。全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が537百万円多くなっており、本年度差額は-208百万円となった。前年度に大規模な資産の見直しを行ったため無償借換えが多く発生していたが、今年度はそのような事柄もなかったため純資産残高は209百万円の減少となった。連結では、長野県高齢者医療広域連合への国庫等補助金が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が1,885百万円多くなっており、本年度差額は-225百万円となり、純資産残高は84百万円の減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 639 | 356 | 484 | 497 |
| | 投資活動収支 | | △ 401 | △ 763 | △ 394 | △ 416 |
| | 財務活動収支 | | △ 234 | 267 | △ 33 | △ 43 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 675 | 540 | 562 | 692 |
| | 投資活動収支 | | △ 385 | △ 782 | △ 399 | △ 471 |
| | 財務活動収支 | | △ 236 | 242 | △ 59 | △ 224 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 755 | 617 | 623 | 716 |
| | 投資活動収支 | | △ 551 | △ 959 | △ 437 | △ 478 |
| | 財務活動収支 | | △ 141 | 365 | △ 57 | △ 224 |



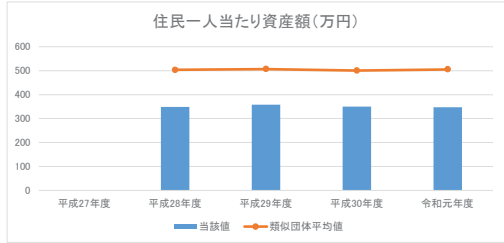
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は497百万円であったが、投資活動収支では道路修繕工事を行ったことから公共施設整備費収支が-416百万円となっている。前年度と比較し、公共施設等整備費支出は41百万円の減少(-6.3%)であるが、公共施設整備に充当される国庫補助金が56百万円減少(-21.5%)しているため、村単独の負担としては前年度よりも増加している。財務活動収支では、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、収支で-43百万円となっている。今後も償還額が大きい状態が続くことから、将来負担も見据えた健全な財政運営が求められる。全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より196百万円多い1,692百万円となっている。下水道事業会計が加わったことから、前年度より130百万円増となっている。財務活動収支は、企業会計での起債の償還を加え-224百万円となっている。本年度末資金残高は、前年度より175百万円多い1,464百万円となった。連結では、下伊那北部総合組合における火葬場事業や(株)豊かな丘の道の駅事業に係る業務収入が含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より219百万円多い176百万円となっている。本年度末資金残高は、前年度より176百万円多い1,593百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

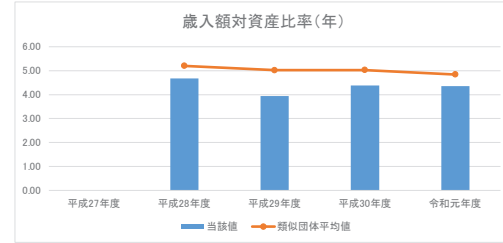
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,376,587 | 2,422,167 | 2,354,098 | 2,326,586 |
| 人口 | | 6,820 | 6,764 | 6,732 | 6,707 |
| 当該値 | | 348.5 | 358.1 | 349.7 | 346.9 |
| 類似団体平均値 | | 503.4 | 506.6 | 500.6 | 505.5 |



②歳入額対資産比率(年)

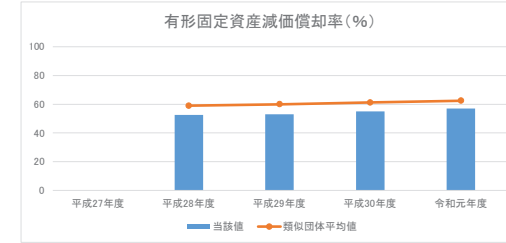
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 23,766 | 24,222 | 23,541 | 23,266 |
| 歳入総額 | | 5,073 | 6,147 | 5,378 | 5,350 |
| 当該値 | | 4.68 | 3.94 | 4.38 | 4.35 |
| 類似団体平均値 | | 5.20 | 5.02 | 5.03 | 4.84 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 17,218 | 17,954 | 18,651 | 19,448 |
| 有形固定資産 ※1 | | 32,779 | 33,939 | 33,873 | 34,201 |
| 当該値 | | 52.5 | 52.9 | 55.1 | 56.9 |
| 類似団体平均値 | | 59.0 | 60.0 | 61.2 | 62.4 |

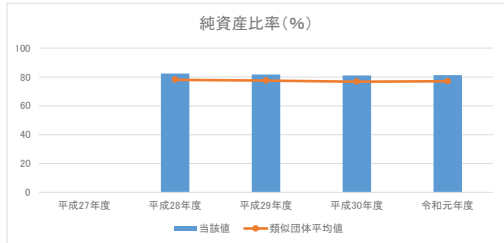
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

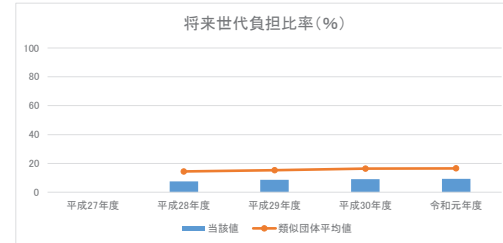
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 19,569 | 19,764 | 19,098 | 18,906 |
| 資産合計 | | 23,766 | 24,222 | 23,541 | 23,266 |
| 当該値 | | 82.3 | 81.6 | 81.1 | 81.3 |
| 類似団体平均値 | | 78.0 | 77.5 | 76.7 | 77.0 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,516 | 1,817 | 1,819 | 1,841 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 20,222 | 20,778 | 20,015 | 19,786 |
| 当該値 | | 7.5 | 8.7 | 9.1 | 9.3 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.3 | 16.4 | 16.5 |

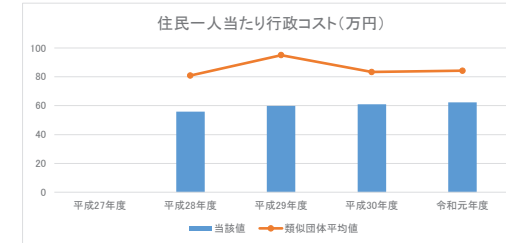
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

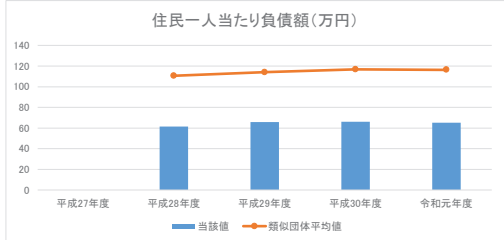
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 380,249 | 404,912 | 410,451 | 417,230 |
| 人口 | | 6,820 | 6,764 | 6,732 | 6,707 |
| 当該値 | | 55.8 | 59.9 | 61.0 | 62.2 |
| 類似団体平均値 | | 80.9 | 95.0 | 83.3 | 84.3 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

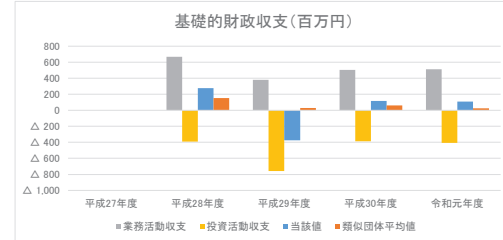
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 419,734 | 445,817 | 444,310 | 436,008 |
| 人口 | | 6,820 | 6,764 | 6,732 | 6,707 |
| 当該値 | | 61.5 | 65.9 | 66.0 | 65.0 |
| 類似団体平均値 | | 110.6 | 114.1 | 116.8 | 116.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 668 | 380 | 504 | 513 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 391 | △ 756 | △ 386 | △ 406 |
| 当該値 | | 277 | △ 376 | 118 | 107 |
| 類似団体平均値 | | 152.0 | 28.1 | 61.7 | 23.0 |

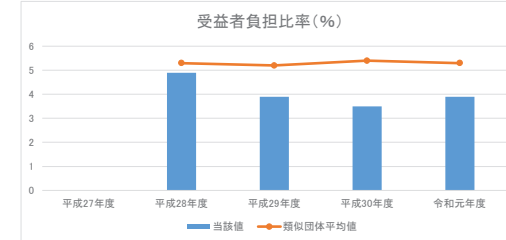
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 194 | 163 | 147 | 168 |
| 経常費用 | | 3,986 | 4,232 | 4,218 | 4,317 |
| 当該値 | | 4.9 | 3.9 | 3.5 | 3.9 |
| 類似団体平均値 | | 5.3 | 5.2 | 5.4 | 5.3 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当団体では道路や河川の敷地のうち、取得価格が不明であるため備忘価格1円で評価しているものが大半を占めているためである。令和元年度では、新たな施設の建設等が無かったことから資産総額は減価償却によって減少しており、一人当たり資産額は2.8万円減少している。

歳入額対資産比率は、類似団体平均を少し下回っており、前年度とほぼ同等の水準となっている。

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均をわずかに下回っているが、公共施設等の老朽化に伴い前年度より1.8ポイント上昇している。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、将来世代負担比率は類似団体平均よりわずかに少ない。しかし、平成30年度には0.4ポイント、令和元年度には0.2ポイント増加しており、増加傾向にあることが分かる。新規に発行する地方債の抑制を行うなど、地方債残高を圧縮し将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っているが、行政経費は年々増加傾向にある。特に、経常費用のうち46.5%を占める物件費等の増加が著しく、物件費はふるさと納税での寄付額が大きくなるのに比例して拡大(前年度比3.7%増)しており、減価償却費も年々増加(前年度比4.0%増)している。また、人件費も経常費用の中で大きな割合を占めており(19.8%)、行財政改革への取組を通じて人件費の削減にも努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回っており、前年度より1万円減少している。地方債については、道の駅建設事業に係る起債(312百万円)の償還が令和2年度から始まる予定であり、今後も計画的な借り入れと償還により地方債残高の縮小に努める。

基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を下回ったため、107百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して道路修繕工事等公共施設等の必要な整備を行ったためである。

今後も、業務活動収支については業務の民間委託や指定管理制度の導入などにより健全な運営を維持するとともに、投資活動支出については新規事業について優先度の高いものに限定するなどにより、赤字分の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を下回っているが、前年度より0.4ポイント上昇した。経常収益が前年度比21百万円(14.4%)増加しており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合が増えている。今後も公共施設等の使用料の見直しを行うとともに、公共施設等の利用効率を上げるための取組を行う等により、受益者負担の適正化に努める。また、公共施設等総合管理計画や個別施設計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

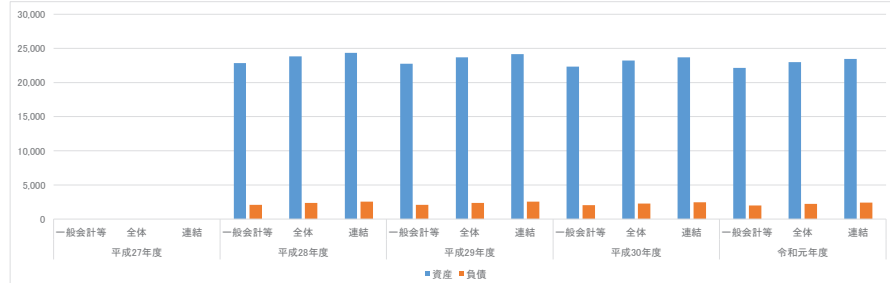
団体名 長野県大鹿村
団体コード 204170

| | | | |
|--------|------------------------|------------|------|
| 人口 | 1,000人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 31人 |
| 面積 | 248.28 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,255.604千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I - 0 | 実質公債費率 | 0.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

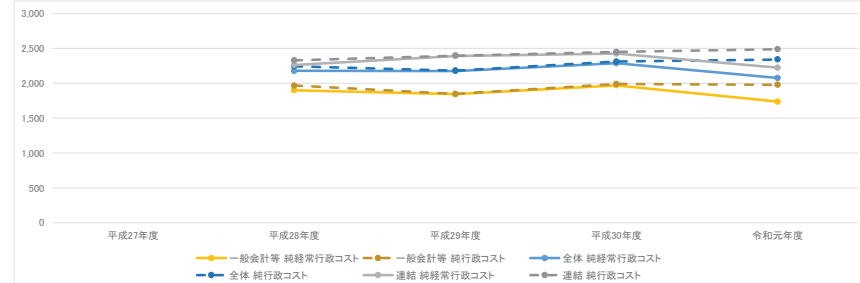
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 22,865 | 22,763 | 22,328 | 22,126 |
| | 負債 | | 2,099 | 2,109 | 2,022 | 1,986 |
| 全体 | 資産 | | 23,853 | 23,704 | 23,236 | 23,009 |
| | 負債 | | 2,377 | 2,363 | 2,251 | 2,233 |
| 連結 | 資産 | | 24,342 | 24,168 | 23,714 | 23,483 |
| | 負債 | | 2,551 | 2,550 | 2,444 | 2,425 |



分析: 一般会計等においては、総資産が前年度末から202百万円減少している。インフラ資産の減価償却費が380百万円となっており減少の要因となっている。また、全体会計、連結会計において87.0%、86.6%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画等に基つき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設の適正管理に努める。

2. 行政コストの状況

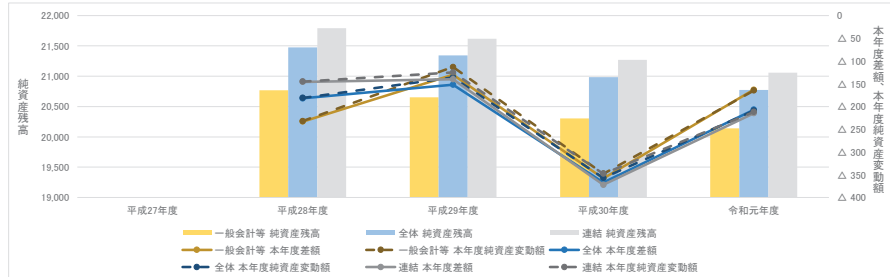
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,902 | 1,844 | 1,970 | 1,738 |
| | 純行政コスト | | 1,968 | 1,848 | 1,991 | 1,979 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,179 | 2,177 | 2,289 | 2,077 |
| | 純行政コスト | | 2,245 | 2,182 | 2,313 | 2,341 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 2,264 | 2,393 | 2,427 | 2,225 |
| | 純行政コスト | | 2,330 | 2,398 | 2,450 | 2,489 |



分析: 一般会計等において経常コストが232百万円減少している。基幹システム更新や道の駅備品購入事業が終了等による物件費と維持補修費の減額が主な要因である。経常コストの4割程度を減価償却費が占めている。連結では、一般会計等に比べて、経常費用が585百万円、経常収益が99百万円多くっており、国民健康保険、後期高齢者医療等の社会保障給付等の移転費用が267百万円多くっており、純行政コストが510百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

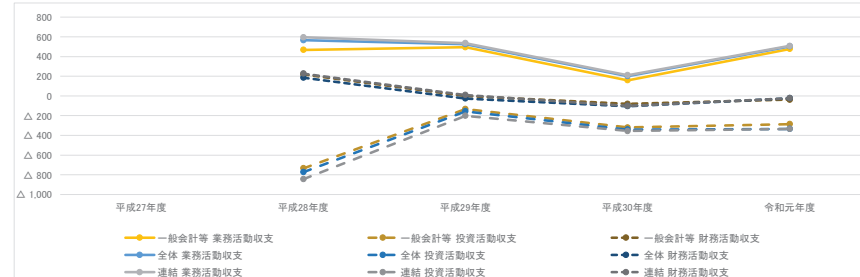
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 233 | △ 130 | △ 358 | △ 163 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 232 | △ 113 | △ 348 | △ 165 |
| | 純資産残高 | | 20,767 | 20,654 | 20,306 | 20,141 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 182 | △ 152 | △ 367 | △ 207 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 181 | △ 136 | △ 357 | △ 209 |
| | 純資産残高 | | 21,477 | 21,342 | 20,985 | 20,776 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 146 | △ 140 | △ 372 | △ 215 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 145 | △ 125 | △ 348 | △ 212 |
| | 純資産残高 | | 21,792 | 21,618 | 21,270 | 21,058 |



分析: 一般会計等においては、税収等の財源(1,817百万円)が行政コスト(1,979百万円)を下回っており、本年度差額は▲163百万円となり、純資産残高は165百万円の減少となった。行政コストの削減に努める。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 468 | 495 | 158 | 477 |
| | 投資活動収支 | | △ 735 | △ 133 | △ 320 | △ 286 |
| | 財務活動収支 | | 218 | △ 2 | △ 80 | △ 38 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 566 | 526 | 201 | 502 |
| | 投資活動収支 | | △ 773 | △ 157 | △ 340 | △ 335 |
| | 財務活動収支 | | 185 | △ 27 | △ 105 | △ 23 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 596 | 536 | 210 | 508 |
| | 投資活動収支 | | △ 844 | △ 202 | △ 356 | △ 335 |
| | 財務活動収支 | | 226 | 9 | △ 101 | △ 24 |

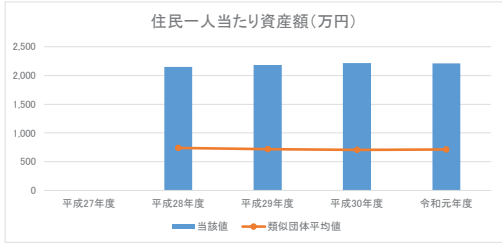


分析: 一般会計等においては、総合グランド移転等補償、道路整備受託費用収入により319百万円増加となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を下回ったことから、▲38百万円となった。本年度末資金残高は前年度から152百万円減少、356百万円となった。

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

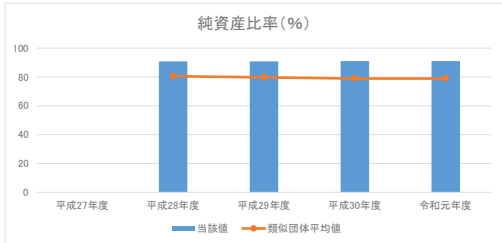
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,286,517 | 2,276,307 | 2,232,769 | 2,212,600 |
| 人口 | | 1,064 | 1,042 | 1,008 | 1,000 |
| 当該値 | | 2,149.0 | 2,184.6 | 2,215.0 | 2,212.6 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

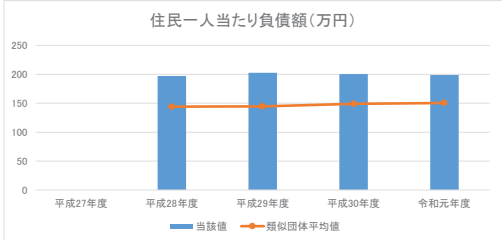
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 20,767 | 20,654 | 20,306 | 20,141 |
| 資産合計 | | 22,865 | 22,763 | 22,328 | 22,126 |
| 当該値 | | 90.8 | 90.7 | 90.9 | 91.0 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



4. 負債の状況

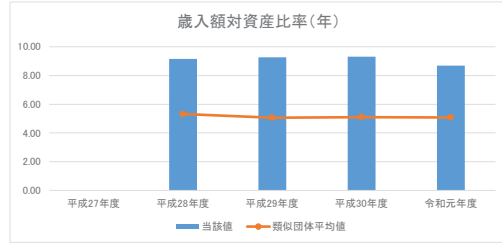
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 209,865 | 210,920 | 202,203 | 198,600 |
| 人口 | | 1,064 | 1,042 | 1,008 | 1,000 |
| 当該値 | | 197.2 | 202.4 | 200.6 | 198.6 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



②歳入額対資産比率(年)

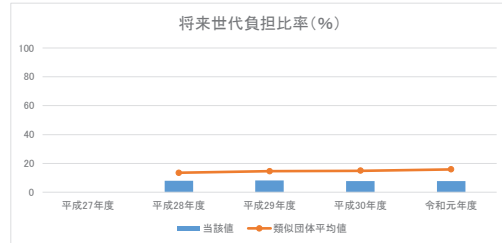
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 22,865 | 22,763 | 22,328 | 22,126 |
| 歳入総額 | | 2,497 | 2,459 | 2,402 | 2,546 |
| 当該値 | | 9.16 | 9.26 | 9.30 | 8.69 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,558 | 1,588 | 1,532 | 1,511 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 19,832 | 19,604 | 19,513 | 19,255 |
| 当該値 | | 7.9 | 8.1 | 7.8 | 7.8 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

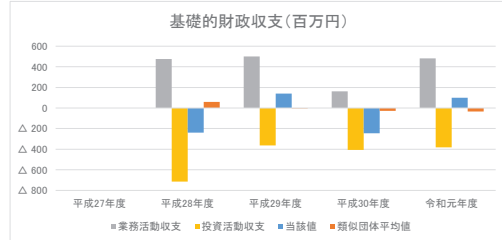
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 477 | 502 | 163 | 481 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 715 | △ 362 | △ 407 | △ 382 |
| 当該値 | | △ 238 | 140 | △ 244 | 99 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

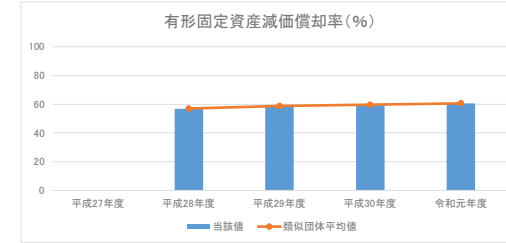
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 17,490 | 18,050 | 18,592 | 19,162 |
| 有形固定資産 ※1 | | 30,807 | 30,948 | 31,465 | 31,693 |
| 当該値 | | 56.8 | 58.3 | 59.1 | 60.5 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

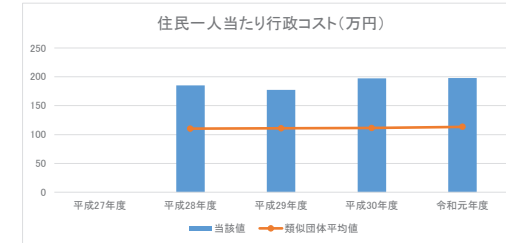
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

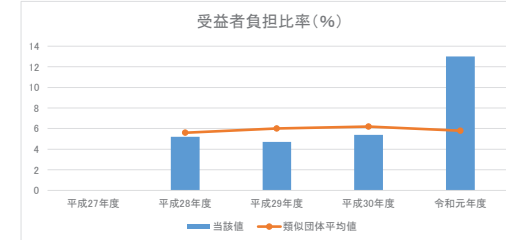
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 196,800 | 184,755 | 199,140 | 197,900 |
| 人口 | | 1,064 | 1,042 | 1,008 | 1,000 |
| 当該値 | | 185.0 | 177.3 | 197.6 | 197.9 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 105 | 91 | 113 | 260 |
| 経常費用 | | 2,007 | 1,935 | 2,083 | 1,999 |
| 当該値 | | 5.2 | 4.7 | 5.4 | 13.0 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、類似団体平均を上回っている。村の面積が大きく、道路延長が長く、山間の地形であるため道路への工事費が相対的に多額となることによりインフラ資産が多額となっているためである。
歳入額対資産比率は、類似団体平均を上回っている。インフラ資産が多額となっているためである。災害復旧国庫補助金等により収入が増えたため、令和元年度は減少している。
有形固定資産減価償却率は類似団体と同水準である。

2. 資産と負債の比率

純資産比率、将来世代負担比率ともに、類似団体平均より良い水準にあり、増減もほとんどなくほぼ前年並みである。インフラ資産への投資額が多いが、純資産比率及び将来世代負担比率は類似団体に比べ悪化しているわけではないため、国庫補助金や交付税対象となる地方債等を財源とした財政的な裏付けのある公共投資を行ってきたといえる。
新規に発行する地方債の抑制に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体を上回っており、1.8倍程度となっている。人口規模に比べると資産額が多いことにより減価償却費が多くなり、一人当たりの行政コストを押し上げている。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っている。人口に比べて資産規模が大きいことにより、その財源となっている負債規模も大きくなってしまっているためである。引続き計画的な地方債発行に努める。
基礎的財政収支は、プラスとマイナスを繰り返しており、直近3か年を類型するとほぼゼロとなっている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は令和元年度で大きく増加しているが、教育関係の移転補償料収入があったためであり、当年度だけの増である。過去3か年では類似団体を下回っており、公共施設等の利用料等税外収入の増加を図るための検討や、受益者負担の適正化に努め、経費の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

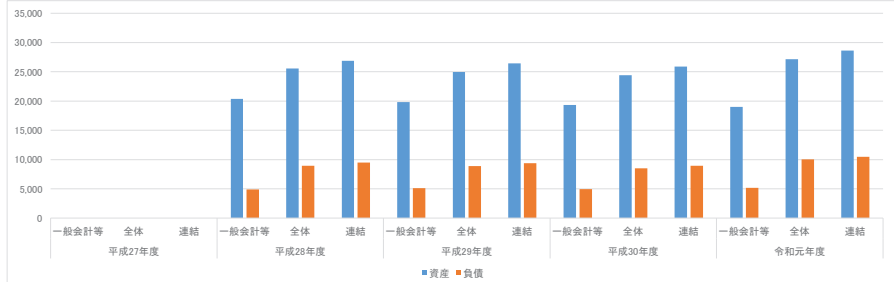
団体名 長野県上松町
団体コード 204226

| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 4,361人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 79人 |
| 面積 | 168.42 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,412.521千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-2 | 実質公債費率 | 5.2% |
| | | 将来負債比率 | 37.2% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

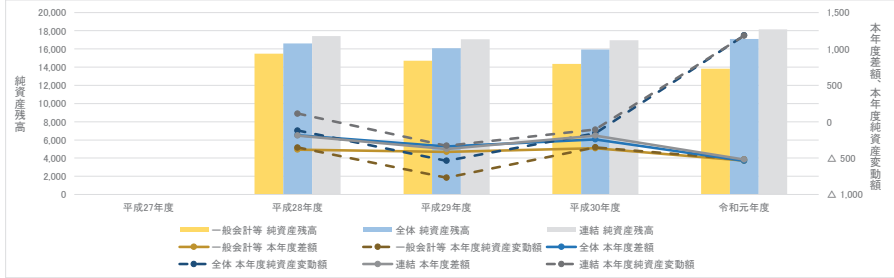
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 20,395 | 23,395 | 19,799 | 19,317 | 18,989 |
| | 負債 | 4,921 | 5,093 | 4,963 | 4,963 | 5,155 |
| 全体 | 資産 | 25,586 | 24,977 | 24,977 | 24,417 | 27,135 |
| | 負債 | 8,966 | 8,895 | 8,895 | 8,494 | 10,026 |
| 連結 | 資産 | 26,884 | 26,460 | 26,460 | 25,905 | 28,613 |
| | 負債 | 9,473 | 9,380 | 9,380 | 8,934 | 10,458 |



分析:
一般会計等では、資産総額が前年度末から328百万円減少(△1.7%)となった。金額変動が大きいものは有形固定資産であり、減価償却額の増加による資産減少(△608百万円)が取得額の増加(+436百万円)を大きく上回ったため172百万円減少した。その他の増減は、新庁舎建設に伴う庁舎建設基金取崩しによる基金(固定資産)の減少(△111百万円)等である。資産総額のうち有形固定資産割合が89.5%であり、これら資産は将来的に維持管理・更新等の支出を伴うものであるため、公共施設等総合管理計画等に基づき施設の集約化や適切な維持補修・更新を行うなど公共施設等の適正管理に努める。また、負債総額が前年度末から192百万円増加(+3.9%)した。主として地方債発行額が償還額を上回ったことにより、地方債(固定及び流動)が392百万円増加したことによる。水道事業会計・下水道事業会計等を加えた全体では、前年度末から比較し資産総額、負債総額ともに増加しているが、これは下水道事業会計の法適用に伴い固定資産台帳の精査が行われたことによる調査判断分である。なお、水道事業・下水道事業会計ともに償還のピークは過ぎてきている。連結では、資産総額は木曾広域連合等保有施設等に係る資産を計上しているため一般会計等と比べ9,624百万円多く、全体と比べ1,478百万円多い。負債総額は木曾広域連合等の借入金・退職手当引当金等があることから一般会計等と比べ5,303百万円多く、全体と比べ432百万円多い。

3. 純資産変動の状況

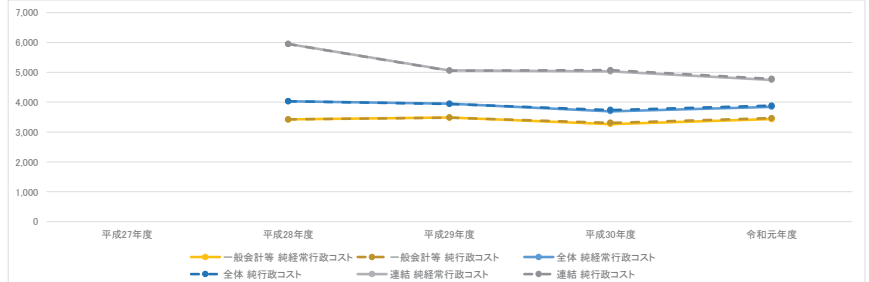
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 384 | △ 414 | △ 364 | △ 535 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 355 | △ 769 | △ 353 | △ 519 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 186 | △ 341 | △ 242 | △ 538 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 122 | △ 537 | △ 159 | 1,186 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 191 | △ 373 | △ 191 | △ 520 |
| | 本年度純資産変動額 | | 111 | △ 331 | △ 109 | 1,183 |
| | 純資産残高 | | 17,411 | 17,080 | 16,971 | 18,155 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(2,934百万円)が純行政コスト(3,468百万円)を下回ったことから、本年度差額は△535百万円となり、純資産残高は19百万円の減少となった。徴収業務の強化による税金の増加、補助・交付金制度を最大限に活用した事業実施に努める。
全体では、国民健康保険特別会計等の国民健康保険税等が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が68百万円多くなっているが、それに伴い純行政コストも多くなっており、本年度差額は△538百万円となった。純資産残高は1,186百万円の増となっているが、これは下水道事業会計が法適用に移行したことによる整合処理の影響である。
連結では、連結対象団体の財源がそれぞれ含まれており、一般会計等と比べて税金等が378百万円多く、国庫等補助金が951百万円多くなっており、本年度差額は、△520百万円となり、純資産残高は1,184百万円の増となった。

2. 行政コストの状況

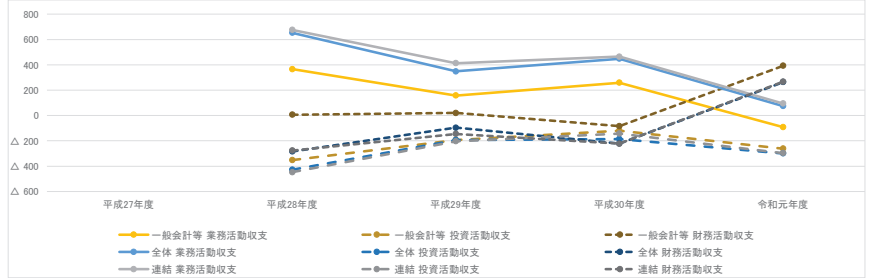
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,423 | 3,489 | 3,266 | 3,434 |
| | 純行政コスト | | 3,423 | 3,483 | 3,308 | 3,468 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,032 | 3,949 | 3,694 | 3,845 |
| | 純行政コスト | | 4,032 | 3,945 | 3,737 | 3,882 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 5,951 | 5,063 | 5,029 | 4,745 |
| | 純行政コスト | | 5,951 | 5,058 | 5,073 | 4,782 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は3,766百万円であった。そのうち、人件費等の業務費用は2,107百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は1,659百万円であり、業務費用が移転費用の約1.3倍となっている。最も金額が大きいのは物件費等(1,372百万円、前年度末△144百万円)であり、中でも物件費が661百万円、減価償却費が652百万円と大きく、合わせて純行政コストの37.9%を占めている。また、維持補修費については前年度末から134百万円の減であるものの、今後システムによる業務電算化や施設老朽化による維持補修費の増などにより物件費等の増加・高止まり傾向が続くと見込まれるため、業務の見直しや公共施設等総合管理計画等による適切な事業の実施により、経費の抑制に努める。全体では一般会計等と比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上していることから経常収益が150百万円多く多くなっている一方、多くの上下水道施設によって減価償却費が276百万円増加、また国民健康保険等の負担金を補助金等に計上しているため移転費用が102百万円多くなり、純行政コストは414百万円多くなっている。
連結では一般会計等と比べて、連結対象団体の事業収益が計上し、経常収益が648百万円多くなっている一方、社会保障給付が714百万円多くなっているなど、移転費用が419百万円多くなっており、純行政コストは1,314百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 366 | 157 | 258 | △ 92 |
| | 投資活動収支 | | △ 352 | △ 193 | △ 120 | △ 261 |
| | 財務活動収支 | | 6 | 20 | △ 84 | 392 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 652 | 348 | 447 | 74 |
| | 投資活動収支 | | △ 428 | △ 193 | △ 186 | △ 299 |
| | 財務活動収支 | | △ 284 | △ 96 | △ 222 | 263 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 675 | 412 | 464 | 94 |
| | 投資活動収支 | | △ 447 | △ 203 | △ 143 | △ 297 |
| | 財務活動収支 | | △ 277 | △ 146 | △ 223 | 267 |



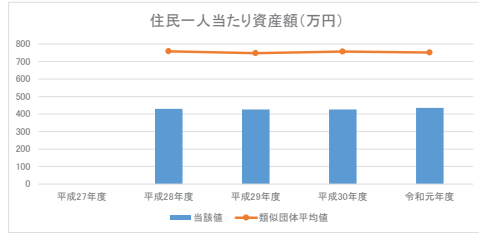
分析:
一般会計等では、業務活動収支が△92百万円となりマイナスに転じたが、これは地方債を財源とした木曾広域連合CATV光化促進事業負担金による補助金等支出の増が要因である。投資活動収支については新庁舎建設事業、小学校中規模改修、小中学校エアコン設置事業等、地方債を活用した普通建設事業を行ったことから△261百万円となった。財務活動収支は、償還額を地方債発行収入が上回ったことから+392百万円となり、本年度末資金残高は前年度末から39百万円増加し179百万円となった。行政活動に必要な資金を基金取崩しと地方債発行収入によって確保している状況であり、行政改革を更に推進する必要がある。全体では、国民健康保険税等が税金等に含まれること、水道料金等の使用料等収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より168百万円多い14百万円となっており、投資活動収支は水道事業・下水道事業会計における公共施設等整備費支出・基金積立金支出により、一般会計等より△38百万円多い△299百万円となった。財務活動収支は、償還額を地方債発行収入が上回ったことから、+263百万円となり、本年度末資金残高は前年度末から37百万円増加し、267百万円となった。連結では、連結対象団体における事業収益が含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より186百万円多い94百万円となっており、投資活動収支は、木曾広域連合における当該収支が7百万円であったため一般会計等より△36百万円多い△297百万円となった。財務活動収支は、償還額を地方債発行収入が上回ったため+267百万円となり、本年度末資金残高は前年度末から62百万円増加し467百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

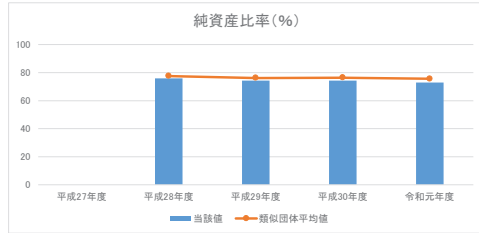
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,039,545 | 1,979,931 | 1,931,670 | 1,898,924 |
| 人口 | | 4,750 | 4,636 | 4,540 | 4,361 |
| 当該値 | | 429.4 | 427.1 | 425.5 | 435.4 |
| 類似団体平均値 | | 758.3 | 747.9 | 757.0 | 750.9 |



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

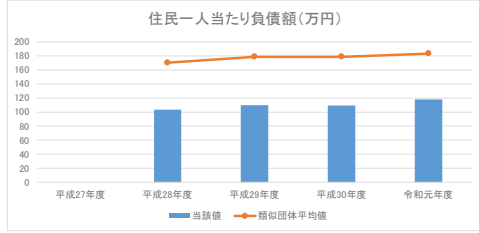
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 15,475 | 14,706 | 14,353 | 13,834 |
| 資産合計 | | 20,395 | 19,799 | 19,317 | 18,989 |
| 当該値 | | 75.9 | 74.3 | 74.3 | 72.9 |
| 類似団体平均値 | | 77.5 | 76.1 | 76.4 | 75.6 |



4. 負債の状況

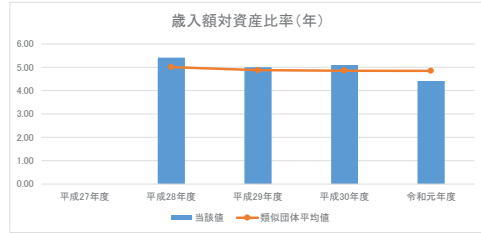
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 492,067 | 509,309 | 496,340 | 515,501 |
| 人口 | | 4,750 | 4,636 | 4,540 | 4,361 |
| 当該値 | | 103.6 | 109.9 | 109.3 | 118.2 |
| 類似団体平均値 | | 170.4 | 178.9 | 178.7 | 183.3 |



②歳入額対資産比率(年)

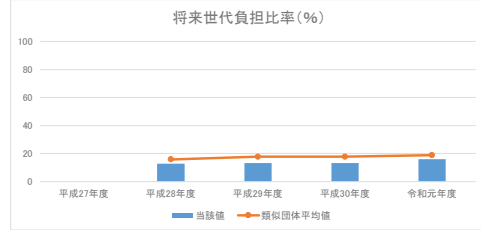
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 20,395 | 19,799 | 19,317 | 18,989 |
| 歳入総額 | | 3,761 | 3,956 | 3,787 | 4,302 |
| 当該値 | | 5.42 | 5.00 | 5.10 | 4.41 |
| 類似団体平均値 | | 5.01 | 4.88 | 4.86 | 4.85 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,297 | 2,340 | 2,286 | 2,740 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 18,032 | 17,578 | 17,172 | 16,999 |
| 当該値 | | 12.7 | 13.3 | 13.3 | 16.1 |
| 類似団体平均値 | | 15.8 | 17.8 | 17.8 | 18.9 |

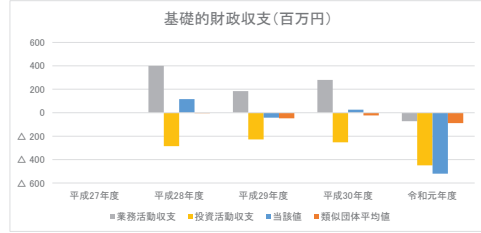
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 400 | 185 | 280 | △ 72 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 285 | △ 228 | △ 253 | △ 448 |
| 当該値 | | 115 | △ 43 | 27 | △ 520 |
| 類似団体平均値 | | △ 3.0 | △ 47.9 | △ 22.9 | △ 89.0 |

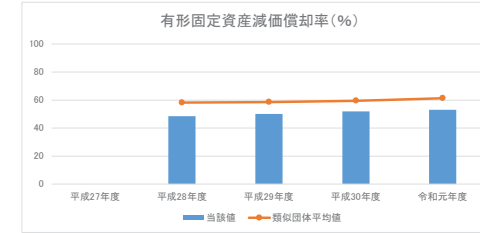
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 15,443 | 16,075 | 16,698 | 17,308 |
| 有形固定資産 ※1 | | 31,866 | 32,114 | 32,196 | 32,591 |
| 当該値 | | 48.5 | 50.1 | 51.9 | 53.1 |
| 類似団体平均値 | | 58.2 | 58.6 | 59.5 | 61.3 |

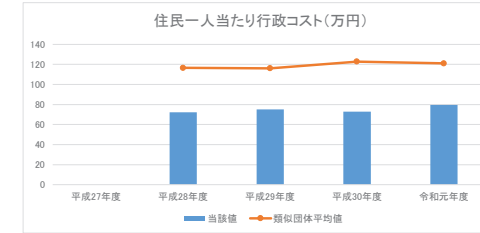
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

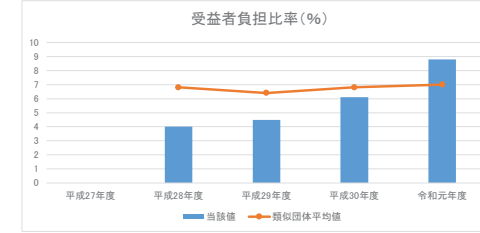
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 342,261 | 348,274 | 330,779 | 346,829 |
| 人口 | | 4,750 | 4,636 | 4,540 | 4,361 |
| 当該値 | | 72.1 | 75.1 | 72.9 | 79.5 |
| 類似団体平均値 | | 116.6 | 116.1 | 122.8 | 121.0 |



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 143 | 163 | 214 | 332 |
| 経常費用 | | 3,566 | 3,652 | 3,480 | 3,766 |
| 当該値 | | 4.0 | 4.5 | 6.1 | 8.8 |
| 類似団体平均値 | | 6.8 | 6.4 | 6.8 | 7.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

○住民一人当たり資産額は類似団体平均値を大きく下回っているが、統一基準では昭和59年に取得した道路・河川等の敷地については、取得価額不明なものとして取扱い価額1円を評価することされており、資産の多きを備忘価額で評価しているためである。減価償却により資産は減少しているものの、人口減少により一人当たり資産額は増加へ転じた。老朽化した施設も多く、今後庁舎の建替え等大型事業が予定されていることから、将来の公共施設等の修繕・更新等に係る財政負担を軽減するため、公共施設等総合管理計画等を活用し、計画的な維持管理及び施設保有量の適正化を図る。○歳入額対資産比率については、類似団体平均を下回る結果となった。ただし、歳入総額は大型事業実施による地方債発行や基金取崩しにより大幅に変動する。今後の大型事業、資産の減価償却により数年は減少傾向が続く見込み。○有形固定資産減価償却率については、類似団体平均より低い水準にあるが、新しい施設が比較的多い訳ではなく、道路等の資産について、統一基準以前から取替法を採用しているためである。

2. 資産と負債の比率

○純資産比率は、大きな増減は無く、類似団体と同程度であるが、純行政コストが収支の財源を上回ったことから純資産は減少しており、同時に減価償却により資産額も減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資産を過去及び現世代が消費して便益を享受したことを意味するため、業務の見直しや施設老朽化による維持補修を適切に実施する等、行政コストの抑制・削減に努める。○将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っているが、令和元年度に大きく増加している。これは地方債を財源とした木曾広域連合CATV光化促進事業負担金の影響である。今後予定されている庁舎建替え等大型事業の実施に伴い増加が続く見込みであるため、適切な地方債発行、減価償却の活用、有利な利率への借換を行うなど、地方債残高を圧縮しながら将来世代の負担の適正化に努める。

3. 行政コストの状況

○住民一人当たり行政コストは類似団体平均を大きく下回っているが、今後人口減少による数値の上昇が見込まれる中においては、適正な人員管理、公共施設等総合管理計画等に基づいた計画的な維持補修等により、適切な規模の行政コストとなるよう財政運営を行う必要がある。

4. 負債の状況

○住民一人当たり負債額は類似団体平均を大きく下回っているが、令和元年度に大きく増加。これは木曾広域連合CATV光化促進事業負担金等の大型事業実施によるものである。今後、庁舎建替え等大型事業の実施や公共施設の老朽化に伴う修繕・更新事業が集中するとみられ、人口減少も相まって数値が上昇していく見込みのため、各種計画に基づいた事業の実施、適切な地方債発行に努める。○基礎的財政収支は、類似団体平均を大きく下回り、業務活動収支・投資活動収支ともに赤字となった。業務活動収支の赤字は、木曾広域連合CATV光化促進事業負担金の財源として地方債を発行したためである。投資活動収支の赤字は、地方債を発行して小学校中規模改修事業等の公共施設等整備を行ったためである。業務活動収支については、今後人口減少による収支等の減少が予想されるため、業務支出の見直しを図っていく必要がある。

5. 受益者負担の状況

○比率は類似団体平均を上回っているが、これは経常収益(その他)において退職手当引当金の戻入が大きく増加したためである。当該収益を前年同額とした場合の比率は3%であり、木曾広域連合CATV光化促進事業負担金による移転費用の増はあるものの、行政サービスに対する直接的な負担割合は比較的低下している。5.3%から類似団体平均値まで引き上げるには、仮に経常収益を一定とする場合、904百万円経常費用を削減、経常費用を一定とする場合は、63百万円経常収益を増加させる必要がある。各行政サービス、施設等利用に対する使用料等の見直し及び利用回数増加への取組を行い、適正な人員管理、公共施設等総合管理計画等に基づいた適切な維持補修等により経費削減を図り、受益者負担適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

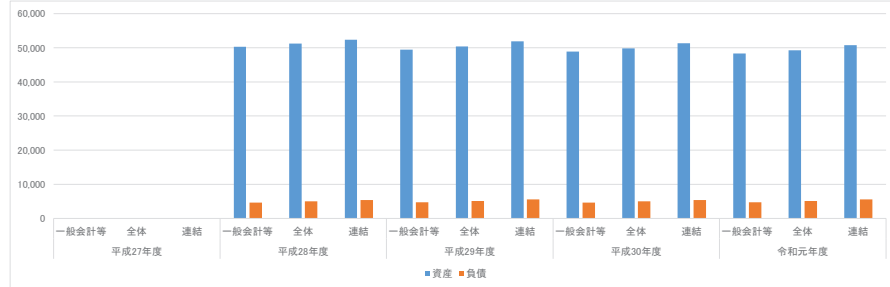
団体名 長野県南木曾町
団体コード 204234

| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 4,092人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 79人 |
| 面積 | 215.93 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,373.257千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村1-1 | 実質公債費率 | 6.0% |
| | | 将来負担比率 | 14.9% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

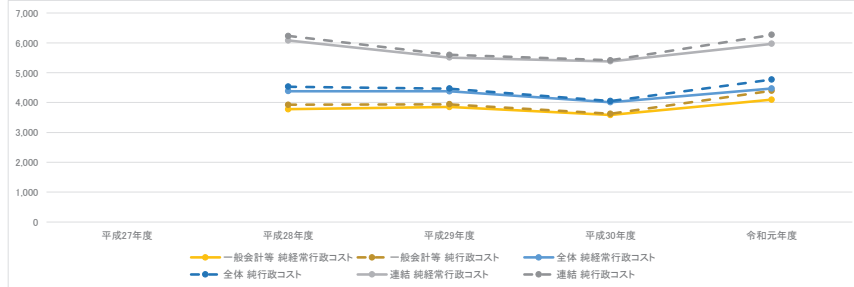
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 50,313 | 49,490 | 48,873 | 48,305 |
| | 負債 | | 4,654 | 4,765 | 4,640 | 4,756 |
| 全体 | 資産 | | 51,213 | 50,424 | 49,834 | 49,249 |
| | 負債 | | 4,970 | 5,094 | 4,978 | 5,101 |
| 連結 | 資産 | | 52,351 | 51,912 | 51,298 | 50,736 |
| | 負債 | | 5,411 | 5,579 | 5,401 | 5,543 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が48,305百万円であり、金額の大きいものは事業用資産とインフラ資産である。事業用資産は11,977百万円(全体の24.9%)、インフラ資産は34,144百万円(全体の70.7%)であり2つの資産が95%以上を占めている。事業資産は、減価償却による資産の減少を下回ったこと等から85百万円減少している。インフラ資産だけでは減価償却の減少により574百万円減少している。負債総額4,756百万円を合わせた純資産合計は43,546百万円である。一般会計の固定資産はほぼ「浄化槽市町村整備推進事業特別会計」が占めている。連結会計は2組合が固定資産を保有しているが、負担割合が低いので持ち分としての資産額は低い。同様に負債についても同様なことである。

2. 行政コストの状況

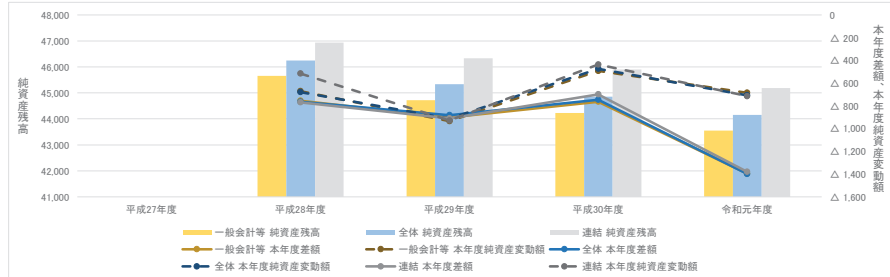
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,777 | 3,853 | 3,586 | 4,099 |
| | 純行政コスト | | 3,927 | 3,943 | 3,626 | 4,397 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,380 | 4,378 | 4,011 | 4,472 |
| | 純行政コスト | | 4,531 | 4,467 | 4,051 | 4,771 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,081 | 5,909 | 5,378 | 5,968 |
| | 純行政コスト | | 6,232 | 5,999 | 5,418 | 6,266 |



分析:
一般会計等において、行政コスト(4,397百万円)のうち経常行政コストが93%を占めている。業務費用の内人件費が22%(729百万円)となっており前年度からより増加しており指定管理者制度の見直し、事務システムの更新などにより業務の効率化をすすめる、コストの削減を進めていく必要がある。物件費等は58%を占めており減価償却費の約半分である70%であることから施設の計画的な更新等の必要がある。一般会計では、国保特別会計が大きな割合を占めている。その内、補助金等支出が350百万円ほどでコストの96%を占めており保険医療費の削減のための健康増進を図る必要がある。全体連結会計では、後期広域連合と木曾広域連合の2団体で連結団体全コストの93%を占めている。後期広域連合は保険給付等に係る社会保障給付費である。行政コストは、前年度から一般会計で微減となっており、一般会計も同様であることから歳出抑制がなされている。

3. 純資産変動の状況

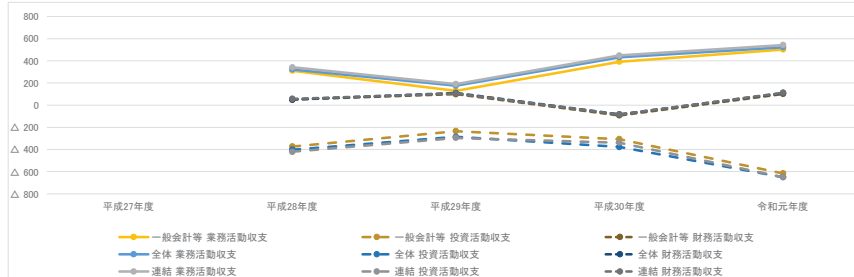
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 755 | △ 903 | △ 763 | △ 1,396 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 670 | △ 934 | △ 492 | △ 685 |
| | 純資産残高 | | 45,659 | 44,725 | 44,233 | 43,548 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 764 | △ 881 | △ 746 | △ 1,398 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 679 | △ 912 | △ 474 | △ 708 |
| | 純資産残高 | | 46,242 | 45,330 | 44,856 | 44,148 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 769 | △ 909 | △ 699 | △ 1,380 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 515 | △ 928 | △ 436 | △ 714 |
| | 純資産残高 | | 46,939 | 46,333 | 45,897 | 45,183 |



分析:
一般会計等において、純資産残高は708百万円の減少となった。地方税の徴収業務の強化等により収税等の増加に努める。純行政コストが微減、財源は前年度から4.8%増加したものの純資産は減少している。一般会計並びに連結会計ともに大きな変動は起きていない。純資産の減少率は一般会計・全体会計で1.5%で、特別会計では前年度から同水準で大きな事業変化は起きていない。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 311 | 129 | 392 | 502 |
| | 投資活動収支 | | △ 373 | △ 235 | △ 306 | △ 616 |
| | 財務活動収支 | | 50 | 99 | △ 83 | 101 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 322 | 176 | 432 | 522 |
| | 投資活動収支 | | △ 402 | △ 285 | △ 377 | △ 650 |
| | 財務活動収支 | | 50 | 110 | △ 83 | 108 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 341 | 190 | 448 | 542 |
| | 投資活動収支 | | △ 421 | △ 296 | △ 338 | △ 650 |
| | 財務活動収支 | | 57 | 106 | △ 84 | 112 |



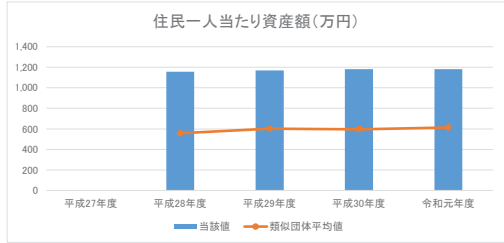
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は522百万円、投資活動収支については、新規事業の実施を含む各種施設整備事業等が増額になったことから、▲650百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、108百万円の増となった。本年度末資金残高は前年度から20百万円減少し、145百万円となった。来年度以降も償還額は同額程度で推移することとしているが、広域ケーブルテレビ光化事業、街並交差施設整備分館等の大型事業の計画があり、事業を計画的に進めていくことが求められる。連結会計では、関係連結組合が黒字(一般会計297百万円)となっている。一般会計では、3特別事業会計で業務活動収支は黒字であり業務収入で賄えている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

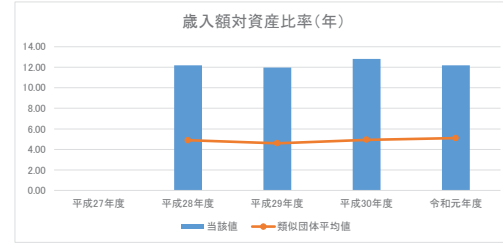
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 5,031,273 | 4,949,023 | 4,887,301 | 4,830,456 | 4,830,456 |
| 人口 | 4,344 | 4,229 | 4,138 | 4,092 | 4,092 |
| 当該値 | 1,158.2 | 1,170.3 | 1,181.1 | 1,180.5 | 1,180.5 |
| 類似団体平均値 | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

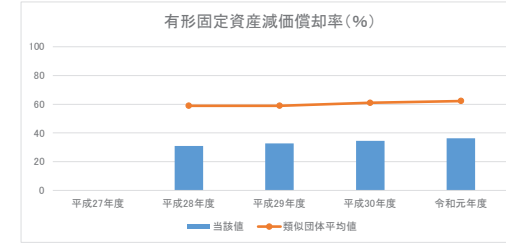
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 50,313 | 49,490 | 48,873 | 48,305 | 48,305 |
| 歳入総額 | 4,126 | 4,136 | 3,813 | 3,961 | 3,961 |
| 当該値 | 12.19 | 11.97 | 12.82 | 12.20 | 12.20 |
| 類似団体平均値 | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 18,313 | 19,423 | 20,654 | 22,026 | 22,026 |
| 有形固定資産 ※1 | 59,003 | 59,346 | 60,030 | 60,685 | 60,685 |
| 当該値 | 31.0 | 32.7 | 34.4 | 36.3 | 36.3 |
| 類似団体平均値 | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 | 62.2 |

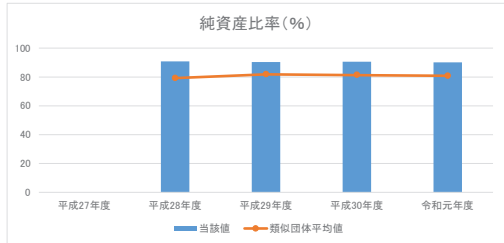
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

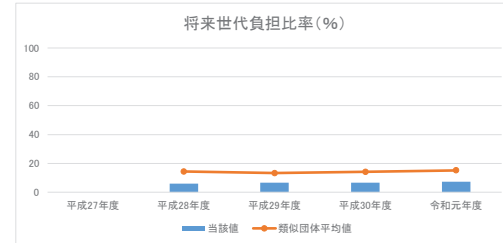
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 45,659 | 44,725 | 44,233 | 43,548 | 43,548 |
| 資産合計 | 50,313 | 49,490 | 48,873 | 48,305 | 48,305 |
| 当該値 | 90.7 | 90.4 | 90.5 | 90.2 | 90.2 |
| 類似団体平均値 | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 2,883 | 3,138 | 3,134 | 3,323 | 3,323 |
| 有形・無形固定資産合計 | 48,078 | 47,310 | 46,858 | 46,210 | 46,210 |
| 当該値 | 6.0 | 6.6 | 6.7 | 7.2 | 7.2 |
| 類似団体平均値 | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 | 15.1 |

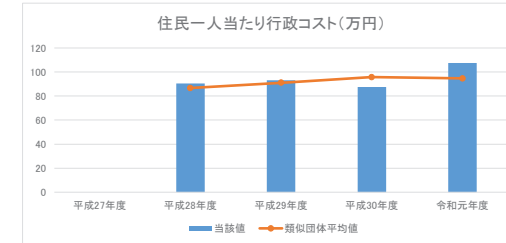
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

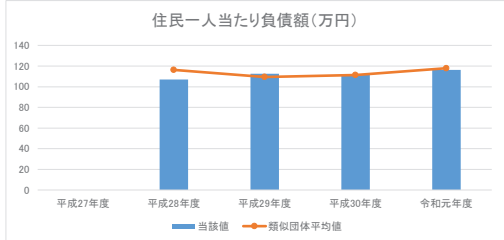
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 392,731 | 394,283 | 362,625 | 439,691 | 439,691 |
| 人口 | 4,344 | 4,229 | 4,138 | 4,092 | 4,092 |
| 当該値 | 90.4 | 93.2 | 87.6 | 107.5 | 107.5 |
| 類似団体平均値 | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

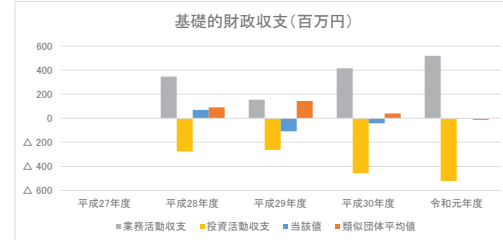
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 465,355 | 476,529 | 463,960 | 475,641 | 475,641 |
| 人口 | 4,344 | 4,229 | 4,138 | 4,092 | 4,092 |
| 当該値 | 107.1 | 112.7 | 111.6 | 116.2 | 116.2 |
| 類似団体平均値 | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 346 | 156 | 415 | 520 | 520 |
| 投資活動収支 ※2 | △277 | △284 | △457 | △522 | △522 |
| 当該値 | 69 | △108 | △42 | △2 | △2 |
| 類似団体平均値 | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △13.2 | △13.2 |

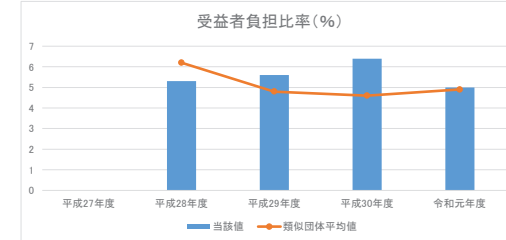
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 212 | 228 | 246 | 218 | 218 |
| 経常費用 | 3,989 | 4,081 | 3,833 | 4,317 | 4,317 |
| 当該値 | 5.3 | 5.6 | 6.4 | 5.0 | 5.0 |
| 類似団体平均値 | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

歳入額対資産比率については、類似団体平均を大きく上回っており、社会資本の整備が進んでいると考えられる。今後、資産の維持管理の負担が増加することが予想されている。公共施設等総合管理計画、個別施設計画を策定することにより計画的な維持を進めていく必要がある。
有形固定資産のうち、インフラ工作物である町道について、減価償却累計額が低い状況であるが町道全線の議会承認を一括で取り直した日を道路の登録日としているためであり、今後資料の精査が必要となっている。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回っており、純行政コストが収支等の財源を上回ったことから純資産が値に減少している。さらに、人口の減少、少子高齢化等により収支等の財源が減少することが見込まれるため、今後も行政コストの削減に努める。

3. 行政コストの状況

経常費用は、人件費、物件費、減価償却費が大きな割合を占めている。移転費用は他会計への繰り出し金や町民組織等への補助金・扶助費で約10.4億円となっており、経常行政コストは約43.2億円となっている。
経常収益は、使用料・手数料等による約1億円で、純経常行政コストは約41億円となっている。
純経常行政コストから資産売却損、資産売却損益等の臨時的損失や利益等により純行政コストは約44億円である。

4. 負債の状況

総額は約46.4億円であり、ほとんどが償還する地方債で年度末残高は約32億円である。
住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っている。臨時財政対策債はしばらく発行はなく、それ以外の負債については、年間の返済額が大きな増減は無い。ただし、今後、広域ケールテレビ光事業等の大型事業が実施されることもあり、返済額が大きくなるように事業の調整を行っている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均が前年度対比で微増としているのに対し前年度に対して大きく減少し、同程度となっている。これは大規模事業の償還完了と新規借入分が据え置き期間となっていることによるものであり、今後も大規模事業が計画されていることから、上昇傾向になることが予想される。今後、公共施設等総合管理計画、個別施設計画を策定して計画的な事業の実施と、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、費用の削減に努める必要がある。
また、人口減少傾向による使用料・手数料の減少も予想されるので使用料の見直し等受益者負担の適正化を図るとも視野に入れる必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

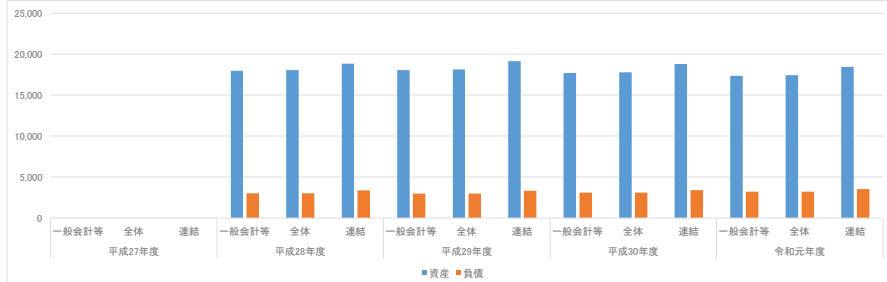
団体名 長野県木祖村
団体コード 204251

| | | | |
|--------|------------------------|------------|------|
| 人口 | 2,830人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 52人 |
| 面積 | 140.50 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,857,577千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-1 | 実質公債費率 | 6.3% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| x | x | x |

1. 資産・負債の状況

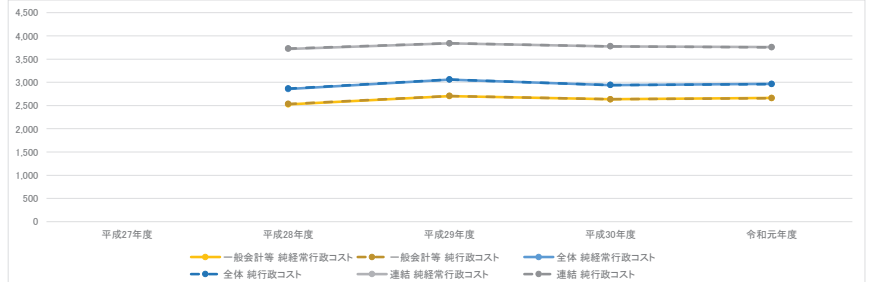
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 17,991 | 18,052 | 17,723 | 17,378 |
| | 負債 | | 3,035 | 2,982 | 3,097 | 3,232 |
| 全体 | 資産 | | 18,071 | 18,128 | 17,787 | 17,440 |
| | 負債 | | 3,035 | 2,982 | 3,097 | 3,232 |
| 連結 | 資産 | | 18,865 | 19,145 | 18,804 | 18,466 |
| | 負債 | | 3,370 | 3,322 | 3,400 | 3,548 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から345百万円の減少(△1.9%)となった。有形固定資産のうち、インフラ資産における減価償却累計額が増加したこと、流動資産のうち、財政調整基金の減少による基金の減少が要因となっている。全体においては、資産総額が前年度末から347百万円の減少となっており、金額の変動の大きなものは一般会計等と同様にインフラ資産における減価償却累計額が増加したことによるものである。連結においては、資産総額が前年度末から338百万円の減少となっており、一般会計等と全体同様にインフラ資産における減価償却累計額が増加したこと、流動資産のうち財政調整基金の減少による基金の減少が要因となっている。

2. 行政コストの状況

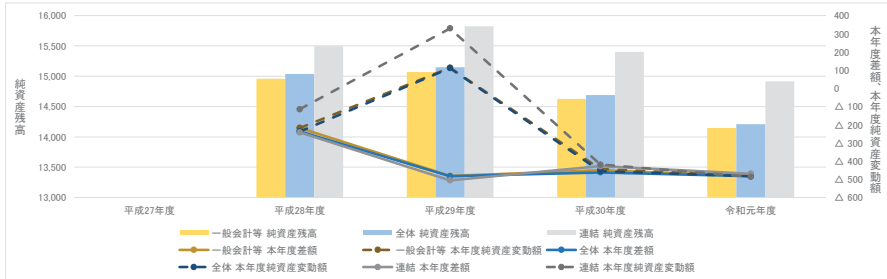
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,525 | 2,703 | 2,635 | 2,661 |
| | 純行政コスト | | 2,533 | 2,705 | 2,636 | 2,658 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,856 | 3,058 | 2,941 | 2,966 |
| | 純行政コスト | | 2,864 | 3,060 | 2,942 | 2,963 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 3,718 | 3,839 | 3,774 | 3,757 |
| | 純行政コスト | | 3,726 | 3,841 | 3,775 | 3,754 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は2,780百万円となり、前年度比8百万円の減となった。業務費用の方が移転費用よりも多く、減価償却費や維持補修費を含む物件費等(1,194百万円)の費用が大きく、純行政コストの44.9%を占めている。施設の統廃合を含めた見直しに着手し、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。

3. 純資産変動の状況

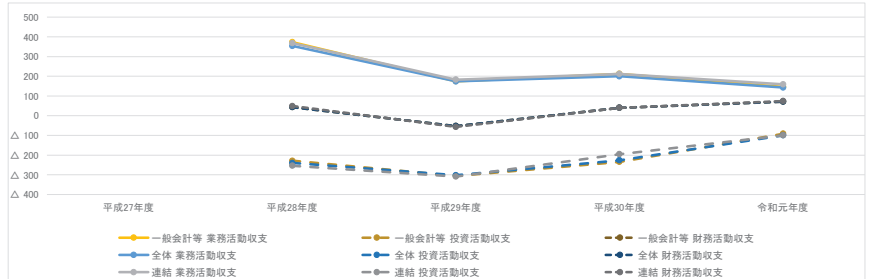
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 218 | △ 481 | △ 450 | △ 481 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 218 | 113 | △ 443 | △ 481 |
| | 純資産残高 | 14,957 | 15,070 | 14,626 | 14,145 | |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 237 | △ 483 | △ 462 | △ 483 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 237 | 111 | △ 455 | △ 483 |
| | 純資産残高 | 15,035 | 15,146 | 14,691 | 14,208 | |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 242 | △ 506 | △ 428 | △ 470 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 115 | 329 | △ 419 | △ 486 |
| | 純資産残高 | 15,494 | 15,823 | 15,404 | 14,918 | |



分析: 一般会計等においては、税収等の財源(2,177百万円)が純行政コスト(2,658百万円)を下回っており、本年度差額は△481百万円となった。このことにより、本年度純資産の変動は△481百万円となり、残高も減少となった。引き続き、地方税の徴収について、全庁的に取り組み税収等の増加に努める。全体においては、税収等の財源(2,480百万円)が純行政コスト(2,963百万円)を下回っており、本年度差額は△483百万円となった。連結においては、税収等の財源(3,284百万円)が純行政コスト(3,754百万円)を下回っており、本年度差額は△470百万円となった。全体、連結においても純資産の変動がマイナスとなっており、残高が減少となっているため、一般会計と同様に財源の確保に努めなければならない。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 373 | 175 | 212 | 146 |
| | 投資活動収支 | | △ 229 | △ 306 | △ 235 | △ 92 |
| | 財務活動収支 | | 43 | △ 53 | 40 | 71 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 354 | 174 | 200 | 143 |
| | 投資活動収支 | | △ 240 | △ 302 | △ 226 | △ 100 |
| | 財務活動収支 | | 43 | △ 53 | 40 | 71 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 368 | 183 | 212 | 159 |
| | 投資活動収支 | | △ 254 | △ 309 | △ 196 | △ 100 |
| | 財務活動収支 | | 49 | △ 57 | 40 | 74 |



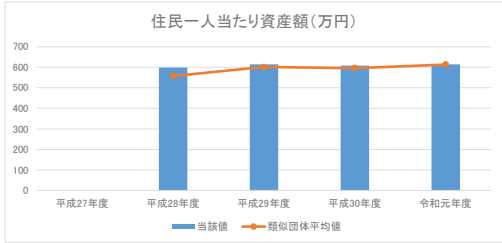
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は146百万円であったが、投資活動収支については、観光施設整備事業や村営住宅建設事業・道路改良事業を行ったことから△92百万円となった。財政活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、71百万円となり本年度末資金残高は197百万円となった。全体においては、業務活動収支は143百万円であったが、投資活動収支は△100百万円となった。連結においては、業務活動収支は159百万円であったが、投資活動収支は△100百万円となった。全体、連結において、財政活動収支は一般会計等と同様に地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、財政活動収支はプラスとなった。一般会計等において、今後も観光施設整備事業や道路改良事業等、新たに償還が始まるため、発行額の抑制をしながら財源確保に努めなければならない。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

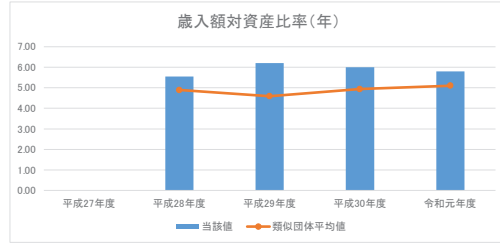
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,799,142 | 1,805,211 | 1,772,311 | 1,737,766 |
| 人口 | | 3,009 | 2,941 | 2,913 | 2,830 |
| 当該値 | | 597.9 | 613.8 | 608.4 | 614.1 |
| 類似団体平均値 | | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

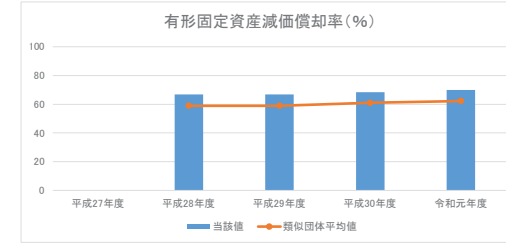
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 17,991 | 18,052 | 17,723 | 17,378 |
| 歳入総額 | | 3,239 | 2,912 | 2,954 | 2,997 |
| 当該値 | | 5.55 | 6.20 | 6.00 | 5.80 |
| 類似団体平均値 | | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 20,536 | 21,169 | 21,728 | 22,353 |
| 有形固定資産 ※1 | | 30,811 | 31,635 | 31,833 | 31,996 |
| 当該値 | | 66.7 | 66.9 | 68.3 | 69.9 |
| 類似団体平均値 | | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

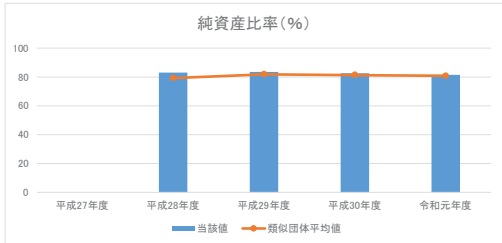
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

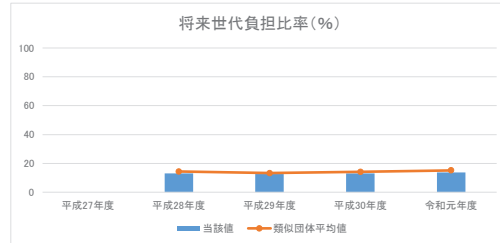
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 14,957 | 15,070 | 14,626 | 14,145 |
| 資産合計 | | 17,991 | 18,052 | 17,723 | 17,378 |
| 当該値 | | 83.1 | 83.5 | 82.5 | 81.4 |
| 類似団体平均値 | | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,027 | 1,951 | 1,983 | 2,056 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 15,459 | 15,578 | 15,271 | 14,931 |
| 当該値 | | 13.1 | 12.5 | 13.0 | 13.8 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

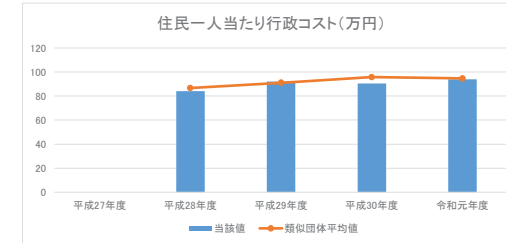
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

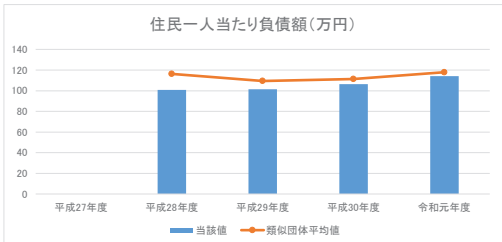
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 253,343 | 270,481 | 263,572 | 265,844 |
| 人口 | | 3,009 | 2,941 | 2,913 | 2,830 |
| 当該値 | | 84.2 | 92.0 | 90.5 | 93.9 |
| 類似団体平均値 | | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

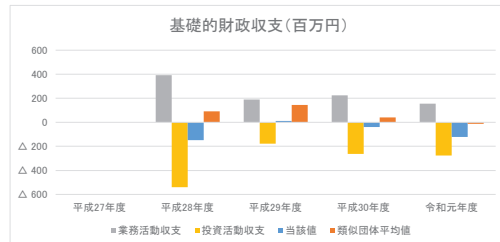
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 303,464 | 298,228 | 309,670 | 323,228 |
| 人口 | | 3,009 | 2,941 | 2,913 | 2,830 |
| 当該値 | | 100.9 | 101.4 | 106.3 | 114.2 |
| 類似団体平均値 | | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 392 | 190 | 224 | 155 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 541 | △ 178 | △ 263 | △ 276 |
| 当該値 | | △ 149 | 12 | △ 39 | △ 121 |
| 類似団体平均値 | | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △ 13.2 |

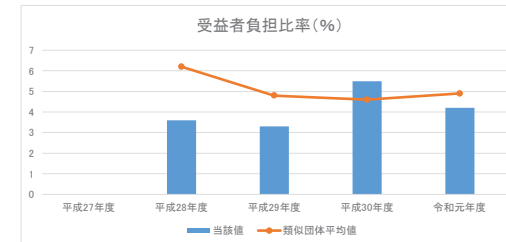
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 95 | 92 | 153 | 118 |
| 経常費用 | | 2,620 | 2,794 | 2,788 | 2,780 |
| 当該値 | | 3.6 | 3.3 | 5.5 | 4.2 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は前年度末から減少(34,545万円)したが、類似団体平均はわずかに上回る結果となった。基金の減少もあったが、住民一人当たり資産額は5百万円増加した。歳入額対資産額についても、基金減少に伴い減少となったが、類似団体平均よりは上回る結果となった。有形固定資産減価償却率は前年度からやや増加となったが、公共施設等の老朽化に伴い、今後はさらに上昇すること見込まれる。公共施設個別施設計画にそって、施設の統廃合を含め適正な維持管理に努めていく。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を少し上回る結果となった。純行政コストが税率等の財源を上回る結果となったことから、純資産は減少となった。今後は地方税の減少が見込まれることから、収納率増加に取り組むとともに、事業の見直し等を行い、歳出抑制を図っていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均より下回る結果となったが、前年度から3.4百万円増加となった。木曾広域連合の大型事業に対する負担金や、物件費の増加が住民一人当たり行政コストが高くなっている要因と考えられる。今後は木曾広域連合の大型事業が続くため、経常的な費用については全庁的に見直しを図り、歳出抑制を図っていく。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回る結果となっているが、地方交付税の減少や木曾広域連合の大型事業への負担金を補うために臨時財政対策債を60百万円発行したが住民一人当たり負債額は7.9百万円増加となった。基礎的財政収支は投資活動収支で赤字となっているが、地方債を発行して観光施設整備事業や村営住宅建設事業・道路改良事業を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体を上回る状況となった。今後公共施設個別施設計画に沿った統廃合や施設の維持補修等が増加する見込みとなっているため、公共施設等の管理や使用料の見直しを図るなど、受益者負担の適正化に努めなければならない。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県玉滝村
団体コード 204293

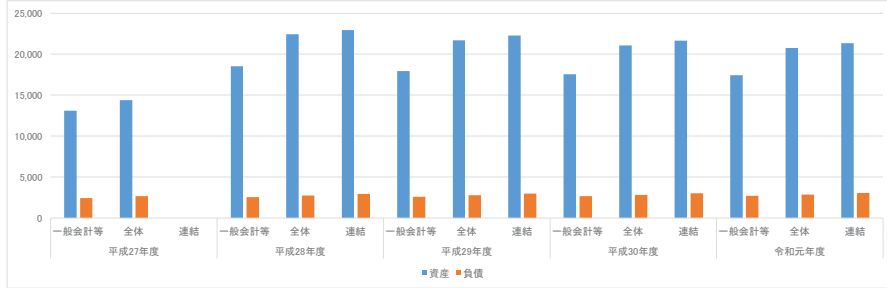
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 737人(R2.11現在) | 職員数(一般職員等) | 40人 |
| 面積 | 310.82km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,082,592千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-2 | 実質公債費率 | 6.7% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| △ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 13,087 | 18,551 | 17,957 | 17,554 | 17,458 |
| | 負債 | 2,449 | 2,539 | 2,601 | 2,656 | 2,727 |
| 全体 | 資産 | 14,387 | 22,456 | 21,690 | 21,078 | 20,758 |
| | 負債 | 2,672 | 2,745 | 2,795 | 2,848 | 2,878 |
| 連結 | 資産 | | 22,953 | 22,284 | 21,673 | 21,359 |
| | 負債 | | 2,937 | 2,996 | 3,032 | 3,072 |

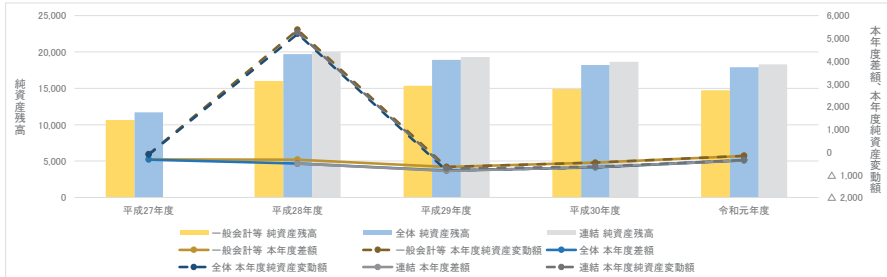


分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から96百万円の減少(△0.6%)となった。これは、減価償却累計額の増加、財政調整基金の減少が主な要因と考えられる。資産総額のうち有形固定資産の割合が約90%を占めており、将来の維持管理や更新費用等が発生することから、公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の適正管理に努める必要がある。
 ・一般会計等においては、負債総額が前年度末から71百万円の増加(+2.7%)となった。増加額が最も大きいのは地方債であり、防災行政無線デジタル化整備に係る緊防債や御嶽山安全対策事業等に係る過疎債の借入が増えたことによる。
 ・上下水道事業等の特別会計を加えた全体では、資産総額は320百万円の減少(△1.5%)となっている。これは減価償却累計額の増加が主な要因と考えられる。負債総額は、農業集落排水事業の資本費平準化借入金等により30百万円の増加となっている。
 ・木曾広域連合等を加えた連結では、資産総額が前年度末から314百万円の減少(△1.5%)となった。一部事務組合分の減価償却累計額の増加が主な要因と考えられる。負債総額は地方債や引当金等により前年度末から40百万円増加している。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | △ 323 | △ 333 | △ 656 | △ 469 | △ 172 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 97 | 5,374 | △ 656 | △ 468 | △ 166 |
| | 純資産残高 | 16,012 | 16,012 | 15,355 | 14,898 | 14,731 |
| 全体 | 本年度差額 | △ 337 | △ 511 | △ 816 | △ 676 | △ 372 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 308 | 5,197 | △ 816 | △ 676 | △ 349 |
| | 純資産残高 | 11,715 | 19,711 | 18,895 | 18,230 | 17,880 |
| 連結 | 本年度差額 | △ 512 | △ 512 | △ 832 | △ 667 | △ 365 |
| | 本年度純資産変動額 | | 5,257 | △ 727 | △ 647 | △ 354 |
| | 純資産残高 | | 20,015 | 19,288 | 18,641 | 18,287 |

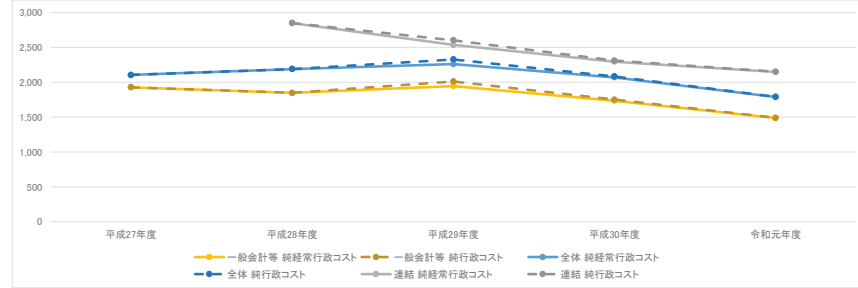


分析:
 ・一般会計等においては、税収等の財源(1,319百万円)が純行政コスト(1,491百万円)を下回ったため、本年度差額は△172百万円となった。前年度と本年度ともに税収等の財源が純行政コストを下回っており、税収等の財源確保や経費抑制に努める必要がある。
 ・全体では、国民健康保険税等が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が101百万円多くなっている。本年度差額は△372百万円となり、純資産残高は350百万円の減少となった。
 ・連結では、木曾広域連合や長野県後期高齢者医療広域連合の町村負担金が税収等に含まれることから一般会計等と比べて税収等が468百万円多くなっている。本年度差額は△365百万円となり、純資産残高は354百万円の減少となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 1,928 | 1,848 | 1,946 | 1,736 | 1,488 |
| | 純行政コスト | 1,929 | 1,849 | 2,012 | 1,752 | 1,491 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 2,105 | 2,190 | 2,262 | 2,070 | 1,789 |
| | 純行政コスト | 2,106 | 2,191 | 2,328 | 2,086 | 1,792 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 2,849 | 2,537 | 2,296 | 2,149 |
| | 純行政コスト | | 2,851 | 2,603 | 2,312 | 2,152 |

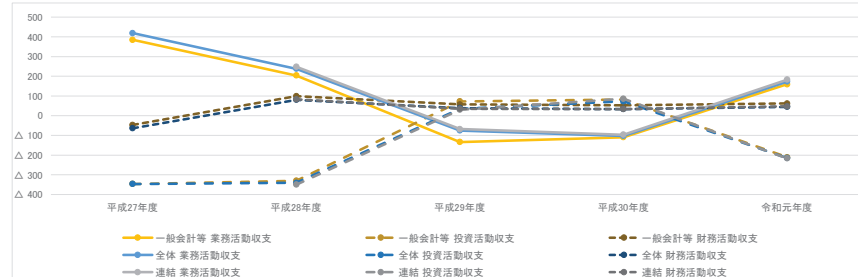


分析:
 ・一般会計等においては、経常費用は1,577百万円となり、前年度比266百万円の減(△14.4%)となった。このうち人件費や物件費等の業務費用は42百万円の減、移転費用は224百万円の減であった。補助金等は木曾広域連合ケーブルテレビ光化事業による負担金が増加している。今後は経常経費の抑制に努める必要がある。
 ・全体では、一般会計等と比べて上下水道の使用料等を計上しているため、経常収益が41百万円多くなっている。経常費用は上下水道や観光施設の減価償却費等により業務費用が341百万円多くなっている。
 ・連結では、一般会計等と比べて、経常収益が208百万円多くなっている。一方、人件費が246百万円、物件費等が545百万円多くなっており、経常費用は872百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 385 | 204 | △ 134 | △ 110 | 159 |
| | 投資活動収支 | △ 347 | △ 330 | 72 | 82 | △ 211 |
| | 財務活動収支 | △ 47 | 99 | 57 | 52 | 62 |
| 全体 | 業務活動収支 | 419 | 238 | △ 75 | △ 103 | 173 |
| | 投資活動収支 | △ 347 | △ 341 | 35 | 73 | △ 215 |
| | 財務活動収支 | △ 64 | 80 | 38 | 33 | 45 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 248 | △ 68 | △ 97 | 183 |
| | 投資活動収支 | | △ 350 | 30 | 86 | △ 217 |
| | 財務活動収支 | | 83 | 35 | 33 | 47 |



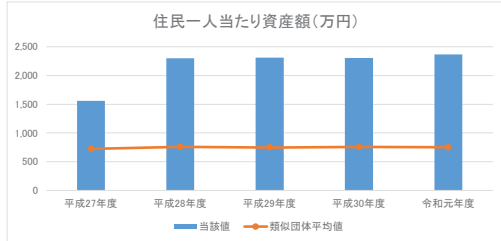
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は木曾広域連合負担金による補助金等の減少のため159百万円となった。投資活動収支については、防災無線デジタル化整備や御嶽山施設整備等の増加により△211百万円となった。財務活動収支は、前年度に引き続き地方債等発行収入が地方債等償還額を上回ったため、62百万円となった。
 ・全体では、国民健康保険税や上下水道の使用料収入があることから業務収入が163百万円多くなり、業務活動収支は一般会計等より14百万円多い173百万円となっている。財務活動収支は上下水道会計の地方債償還額があるため一般会計等より17百万円少ない173百万円となっている。
 ・連結では、木曾広域連合の町村分担金や長野県後期高齢者医療広域連合の市町村事務負担金が業務収入に含まれること、長野県後期高齢者医療広域連合の社会保障給付支出が業務支出に含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より24百万円多い183百万円となっている。財務活動収支では、地方債発行収入が地方債の償還額を上回ったため47百万円となり、本年度末資金残高は176百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

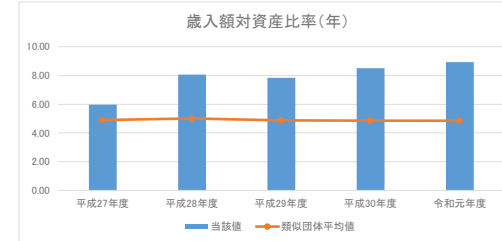
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 1,308,681 | 1,855,132 | 1,795,650 | 1,755,396 | 1,745,836 |
| 人口 | 841 | 806 | 778 | 761 | 737 |
| 当該値 | 1,556.1 | 2,301.7 | 2,308.0 | 2,306.7 | 2,368.8 |
| 類似団体平均値 | 722.6 | 758.3 | 747.9 | 757.0 | 750.9 |



②歳入額対資産比率(年)

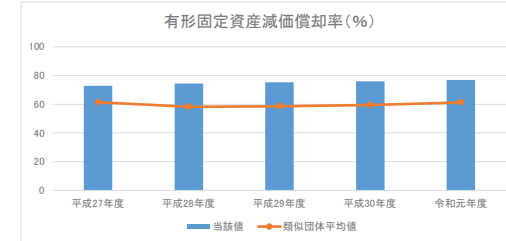
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 13,087 | 18,551 | 17,957 | 17,554 | 17,458 |
| 歳入総額 | 2,196 | 2,303 | 2,292 | 2,063 | 1,954 |
| 当該値 | 5.96 | 8.06 | 7.83 | 8.51 | 8.93 |
| 類似団体平均値 | 4.89 | 5.01 | 4.88 | 4.86 | 4.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 24,635 | 25,143 | 25,692 | 25,795 | 26,162 |
| 有形固定資産 ※1 | 33,774 | 33,807 | 34,177 | 33,998 | 34,053 |
| 当該値 | 72.9 | 74.4 | 75.2 | 75.9 | 76.8 |
| 類似団体平均値 | 61.4 | 58.2 | 58.6 | 59.5 | 61.3 |

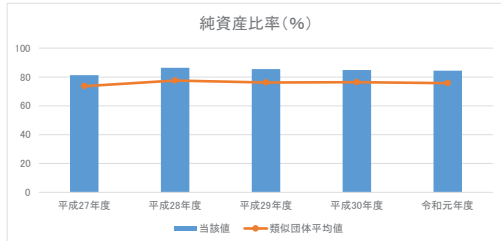
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

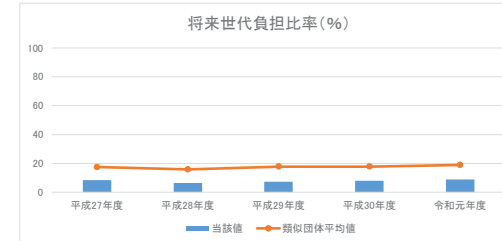
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 10,638 | 16,012 | 15,355 | 14,898 | 14,731 |
| 資産合計 | 13,087 | 18,551 | 17,957 | 17,554 | 17,458 |
| 当該値 | 81.3 | 86.3 | 85.5 | 84.9 | 84.4 |
| 類似団体平均値 | 73.6 | 77.5 | 76.1 | 76.4 | 75.6 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 921 | 1,045 | 1,145 | 1,247 | 1,375 |
| 有形・無形固定資産合計 | 10,946 | 16,381 | 15,977 | 15,688 | 15,591 |
| 当該値 | 8.4 | 6.4 | 7.2 | 7.9 | 8.8 |
| 類似団体平均値 | 17.4 | 15.8 | 17.8 | 17.8 | 18.9 |

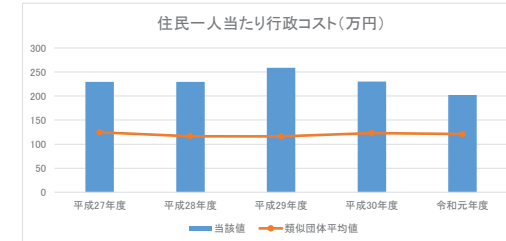
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

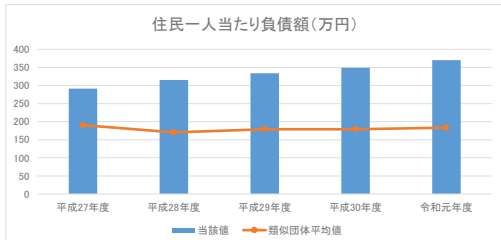
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 192,942 | 184,902 | 201,209 | 175,218 | 149,118 |
| 人口 | 841 | 806 | 778 | 761 | 737 |
| 当該値 | 229.4 | 229.4 | 258.6 | 230.2 | 202.3 |
| 類似団体平均値 | 124.6 | 116.6 | 116.1 | 122.8 | 121.0 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

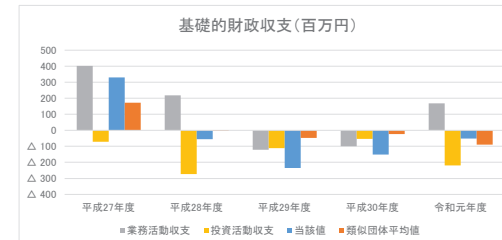
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 244,900 | 253,946 | 260,116 | 265,617 | 272,694 |
| 人口 | 841 | 806 | 778 | 761 | 737 |
| 当該値 | 291.2 | 315.1 | 334.3 | 349.0 | 370.0 |
| 類似団体平均値 | 190.5 | 170.4 | 178.9 | 178.7 | 183.3 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 402 | 218 | △122 | △99 | 168 |
| 投資活動収支 ※2 | △71 | △273 | △112 | △53 | △219 |
| 当該値 | 331 | △55 | △234 | △152 | △51 |
| 類似団体平均値 | 173.2 | △3.0 | △47.9 | △22.9 | △89.0 |

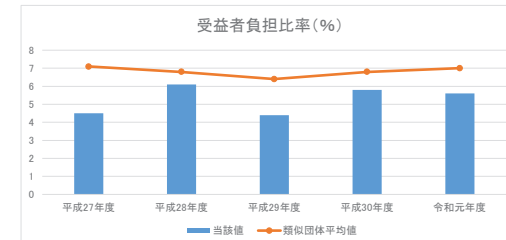
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 90 | 120 | 89 | 107 | 89 |
| 経常費用 | 2,018 | 1,967 | 2,036 | 1,843 | 1,577 |
| 当該値 | 4.5 | 6.1 | 4.4 | 5.8 | 5.6 |
| 類似団体平均値 | 7.1 | 6.8 | 6.4 | 6.8 | 7.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額は2,368.8万円となり、前年度比62.1万円の増となった。老朽化した施設が多く、将来の公共施設等の修繕や更新費用を軽減するため、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、施設保有量の適正化に努める必要がある。

・歳入額対資産比率は、類似団体平均を上回っている。資産総額の減少により、前年度より数値は0.42ポイント増加した。

・有形固定資産減価償却率は、類似団体平均を上回っている。役場庁舎、村民館、観光施設等、昭和30～50年代に整備された施設が多いことが要因である。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した公共施設の適正管理や施設保有量の適正化に努める。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均を上回っている。純資産比率は0.5ポイントの微減となった。

・将来世代負担比率は、類似団体平均を下回っている。緊防債と過疎債の借入が増加しているため、前年度より数値が0.9ポイント上昇した。次年度以降は村単独の大型事業が予定されているので、数値は上昇する見込みである。財政状況を考慮しつつ地方債の発行を抑制し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは、202.3万円(前年度比△27.9万円)となっている。純行政コストのうち、人件費や物件費等の業務費用、補助金等の移転費用とも減少したことが主な要因と考えられる。

・人口が750人以下と少ないため、住民一人当たり行政コストが高くなっていると考えられ、類似団体平均を上回っている。今後は定員管理による人件費の抑制、物件費の抑制、補助事業の見直し等の歳出抑制に取り組み必要がある。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は、370.0万円(前年度比21.0万円の増)となり、類似団体平均を大きく上回っている。これは、防災行政無線デジタル化整備に係る緊防債と御嶽山施設整備等に係る過疎債の借入により、地方債が76百万円増加したことが要因である。人口減少が続くなか、次年度以降も村単独の大型事業による地方債発行が続くため、数値は上昇する見込みである。財政状況に注視しつつ、公共施設等の必要な整備に努める。

・基礎的財政収支は、業務活動収支は黒字であったものの投資活動収支の赤字により、△51百万円となっている。地方債を発行して、防災行政無線デジタル化整備や御嶽山施設整備等を行ったことが主な要因と考えられる。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は、類似団体平均を少し下回っているものの、前年度比0.2ポイントの微減である。経常収益が18百万円減少し、経常費用が266百万円減少したことによる。次年度以降、木曾広域連合大型事業負担金は減少になる見込みであるが、人件費や物件費等の経常費用の抑制に努める必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県大桑村
団体コード 204307

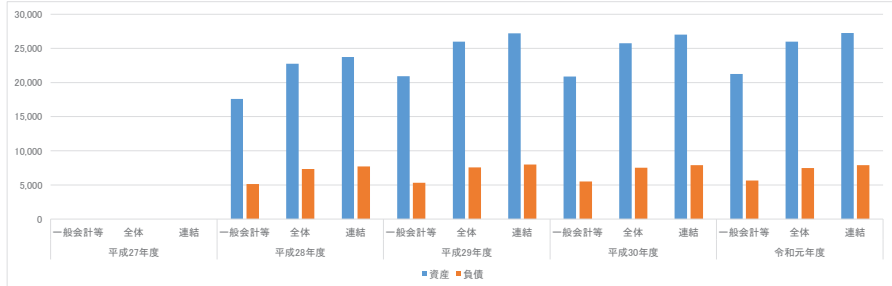
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 3,636人(R2.11現在) | 職員数(一般職員等) | 66人 |
| 面積 | 234.47km ² | 実質赤字比率 | —% |
| 標準財政規模 | 2,182.112千円 | 連結実質赤字比率 | —% |
| 類似団体区分 | 町村I-1 | 実質公債費率 | 10.6% |
| | | 将来負担比率 | 28.1% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 17,801 | 20,919 | 20,865 | 21,238 | 21,238 |
| | 負債 | 5,116 | 5,342 | 5,514 | 5,641 | 5,641 |
| 全体 | 資産 | 22,773 | 25,982 | 25,761 | 25,975 | 25,975 |
| | 負債 | 7,335 | 7,563 | 7,528 | 7,497 | 7,497 |
| 連結 | 資産 | 23,730 | 27,231 | 27,006 | 27,248 | 27,248 |
| | 負債 | 7,732 | 7,980 | 7,901 | 7,898 | 7,898 |

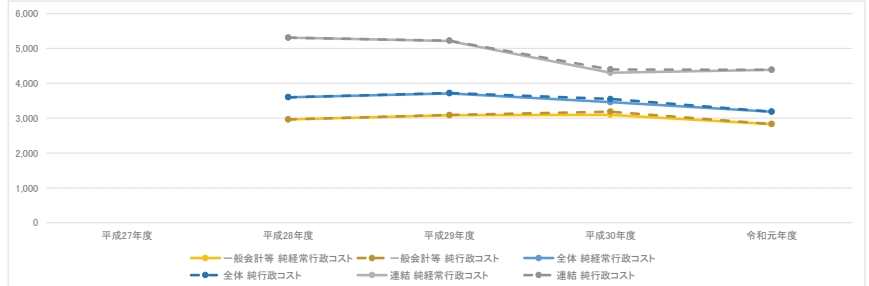


分析:
一般会計においては、資産総額が前年から371百万円の増額(+1.78%)となった。各減価償却累計額の増により資産総額が減額となっている一方、208百万円の増額となった工作物をはじめ、新橋梁整備事業等に係る建設仮勘定646百万円の増額により資産増額が増額した。総資産の89%は、有形固定資産が占めており、これらに資産については、将来の(維持管理・更新等)支出を伴うものであるため、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めて公共施設の適正管理に努める。水道事業会計、農業集落排水事業会計、公共下水道事業会計を含めた一般会計において、インフラ資産を計上していることにより総資産が、4,740百万円多くなっており、負債総額についてもインフラ整備に地方債を充当しているため、1,896百万円多くなっている。
木曾広域連合等の資産を加えた連結において、総資産額は前年度末から242百万円減少しているが、ほぼ横ばいとなっており、負債総額も前年度末から3百万円減少しているが、ほぼ横ばいとなっている。資産総額は、木曾広域連合が保有する福祉施設や文化ホール等の施設に係る資産を計上していることにより、一般会計より多くなっており、負債総額も施設の建設に地方債を充当しているため、一般会計より多くなっている。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 2,964 | 3,080 | 3,080 | 3,094 | 2,828 |
| | 純行政コスト | 2,962 | 3,091 | 3,091 | 3,185 | 2,830 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 3,602 | 3,710 | 3,710 | 3,457 | 3,184 |
| | 純行政コスト | 3,600 | 3,722 | 3,722 | 3,551 | 3,186 |
| 連結 | 純経常行政コスト | 5,312 | 5,217 | 5,217 | 4,304 | 4,387 |
| | 純行政コスト | 5,310 | 5,228 | 5,228 | 4,398 | 4,388 |

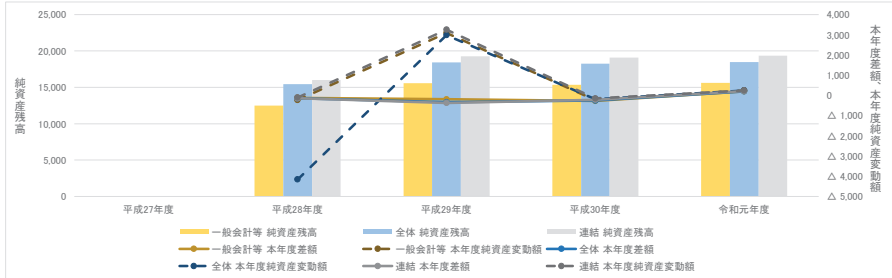


分析:
一般会計においては、経常費用2,830百万円となり、前年度比△355百万円の減少(△12.2%)となった。これは主に昨年度、木曾広域連合が実施した、ケーブルテレビ光化事業負担金で366百万円を支出したことが影響している。今後は横ばいになると見られる。
*全体会計において、一般会計と比べて水道料金を「使用料及び手数料」に計上しているため経常収益が162百万円多くなっている。一方、国民健康保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用は159百万円多くなり、純行政コストが356百万円多くなっている。
*木曾広域連合等の資産を加えた連結において、一般会計と比べて連結対象事業等の事業収益を計上し、経常収益は498百万円多くなっている。また、人件費が444百万円多くなっていることなどにより、経常費用が2,056百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △115 | △189 | △272 | 201 |
| | 本年度純資産変動額 | △228 | 3,092 | △227 | △227 | 245 |
| 全体 | 本年度差額 | | 12,485 | 15,577 | 15,350 | 15,595 |
| | 本年度純資産変動額 | △142 | △333 | △257 | △257 | 199 |
| 連結 | 本年度差額 | | △4,162 | 2,981 | △187 | 246 |
| | 本年度純資産変動額 | 15,438 | 18,419 | 18,233 | 18,478 | 18,478 |
| 連結 | 本年度差額 | | △146 | △373 | △214 | 215 |
| | 本年度純資産変動額 | △104 | 3,253 | △146 | △245 | 245 |
| | 純資産残高 | 15,999 | 19,251 | 19,105 | 19,105 | 19,350 |

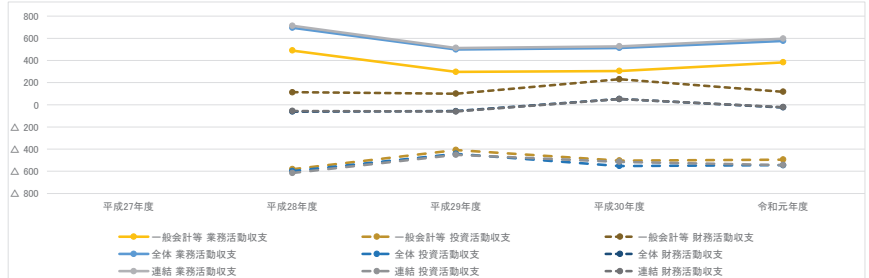


分析:
一般会計において、平成28年度～平成30年度までマイナス傾向であったが、収収等の財源(3,031百万円)が純行政コスト2,830百万円を上回ったため、本年度差額が201百万円(前年度比473百万円)増額となった。本年度の純行政コストが356百万円減となったことが要因である。村税の収入率は本年度98%であるが年々人口減少が続いているため、今後も純資産の減少が見込まれる。
*全体会計において、水道事業会計の料金収入や国民健康保険事業会計の国民健康保険税が収入等に含まれるため、一般会計と比べて収収等が116百万円多くなっており、純行政コストが△1,186百万円と財源よりも低い。本年度差額は199百万円のプラスとなった。
*木曾広域連合等の資産を加えた連結において、木曾広域連合への施設利用料や介護保険料等が収収等に含まれるため、一般会計と比べて収収等が792百万円多くなっており、純行政コストが△4,388百万円と財源よりも低い。本年度差額は215百万円のプラスとなった。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 489 | 297 | 305 | 384 |
| | 投資活動収支 | | △581 | △408 | △503 | △495 |
| | 財務活動収支 | | 113 | 100 | 231 | 118 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 695 | 499 | 512 | 577 |
| | 投資活動収支 | | △598 | △442 | △552 | △545 |
| | 財務活動収支 | | △62 | △57 | 53 | △24 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 713 | 512 | 527 | 596 |
| | 投資活動収支 | | △615 | △451 | △515 | △544 |
| | 財務活動収支 | | △56 | △60 | 52 | △21 |



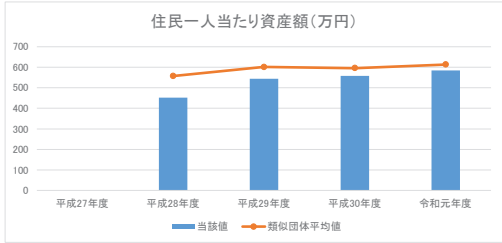
分析:
一般会計においては、業務活動収支は384百万円であったが、投資活動収支については、主に新橋梁整備事業等を行ったことから△495百万円となった。財務活動収支については、新橋梁整備事業などの大型事業の実施により、地方債の発行額が償還額を上回り、118百万円(前年度比△113百万円)となっている。地方債の償還は計画どおり進んでいるものの、令和2年度から令和3年度にかけて新庁舎建設事業が控えており、地方債の発行は、今後さらに増加が見込まれる。事業の峻別を行い、経費の削減を図る。
*全体会計において、国民健康保険税が収収等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料の料金収入があるため、業務活動収支については、一般会計と比べて193百万円多くなり、財務活動収支については地方債の収入624百万円に対し、支出が648百万円で差額24百万円のマイナスとなった。地方債償還額が発行額より上回っていることから健全な財政運営ができていない。
*木曾広域連合等の資産を加えた連結において、介護保険事業等が収収等に含まれることから、業務活動収支については、一般会計と比べて212百万円多い。財務活動収支については地方債の収入631百万円に対し、支出が666百万円で差額35百万円のマイナスとなった。地方債償還額が発行額より上回っていることから健全な財政運営ができていない。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

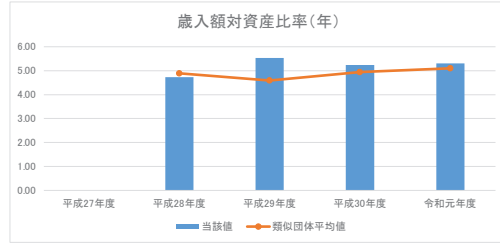
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,760,069 | 2,091,877 | 2,086,500 | 2,123,569 |
| 人口 | | 3,896 | 3,846 | 3,735 | 3,636 |
| 当該値 | | 451.8 | 543.9 | 558.6 | 584.0 |
| 類似団体平均値 | | 557.3 | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

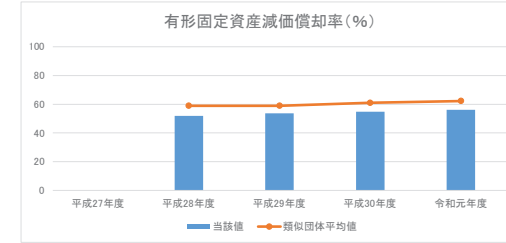
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 17,601 | 20,919 | 20,865 | 21,236 |
| 歳入総額 | | 3,722 | 3,786 | 3,983 | 4,008 |
| 当該値 | | 4.73 | 5.53 | 5.24 | 5.30 |
| 類似団体平均値 | | 4.89 | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 15,354 | 15,995 | 16,134 | 16,732 |
| 有形固定資産 ※1 | | 29,608 | 29,810 | 29,462 | 29,774 |
| 当該値 | | 51.9 | 53.7 | 54.8 | 56.2 |
| 類似団体平均値 | | 58.9 | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

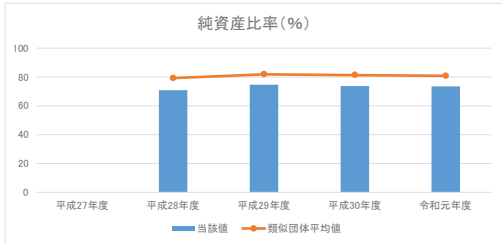
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

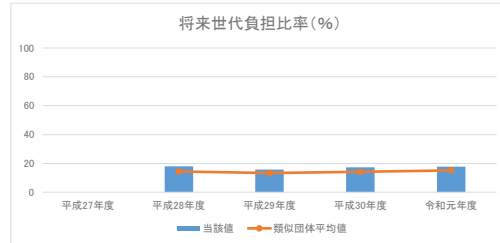
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 12,485 | 15,577 | 15,350 | 15,595 |
| 資産合計 | | 17,601 | 20,919 | 20,865 | 21,236 |
| 当該値 | | 70.9 | 74.5 | 73.6 | 73.4 |
| 類似団体平均値 | | 79.2 | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,803 | 2,921 | 3,181 | 3,361 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 15,575 | 18,634 | 18,518 | 18,926 |
| 当該値 | | 18.0 | 15.7 | 17.2 | 17.8 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

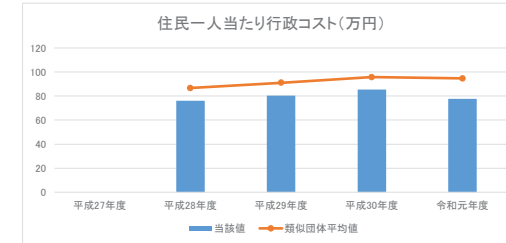
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

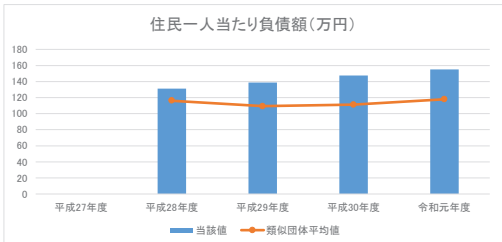
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 296,216 | 309,141 | 318,500 | 282,957 |
| 人口 | | 3,896 | 3,846 | 3,735 | 3,636 |
| 当該値 | | 76.0 | 80.4 | 85.3 | 77.8 |
| 類似団体平均値 | | 86.7 | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

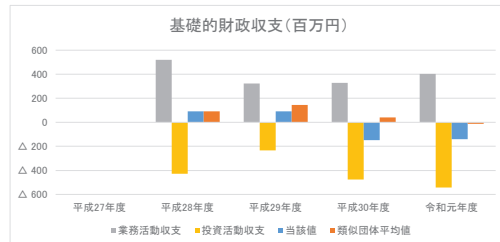
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 511,597 | 534,155 | 551,400 | 564,057 |
| 人口 | | 3,896 | 3,846 | 3,735 | 3,636 |
| 当該値 | | 131.3 | 138.9 | 147.6 | 155.1 |
| 類似団体平均値 | | 116.2 | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 520 | 323 | 327 | 403 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 428 | △ 233 | △ 476 | △ 543 |
| 当該値 | | 92 | 90 | △ 149 | △ 140 |
| 類似団体平均値 | | 90.0 | 143.8 | 40.9 | △ 13.2 |

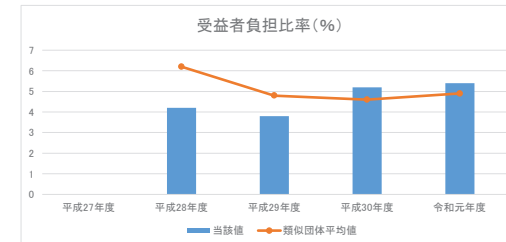
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 130 | 121 | 169 | 160 |
| 経常費用 | | 3,094 | 3,201 | 3,263 | 2,988 |
| 当該値 | | 4.2 | 3.8 | 5.2 | 5.4 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たりの資産額が類似団体平均を下回っているが、当団体では、道路やトンネル等の工物のうち取得額が不明であるが故に、備忘価格を1円で評価しているものが大半を占めているためである。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は、類似団体平均を7.4%下回っており、負債の大半を占めているのは、地方債であるが、交付税措置の高い過疎対策事業債と辺地対策事業債、地方交付税の不足を補うための臨時財政対策債が地方債残高の87%を占めている。
・将来負担比率については、本年度から新庁舎建設事業の着手により前年比0.6%増加した。今後も新橋梁整備事業、新庁舎建設事業の大型事業を継続するため上昇する見込みである。実施事業の緊急性・必要性を峻別する必要がある。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たりの行政コストは、類似団体平均より16.8万円低く、昨年度よりも7.5万円下がってしまったが、令和2年度以降大型事業が控えているため、上昇する見込みである。実施事業の緊急性・必要性を峻別する必要がある。

4. 負債の状況

・住民一人当たりの負債額は、類似団体平均より37.2万円多く、前年比7.5万円増加した。しかし負債の大半を占めている地方債は、70%財政措置される過疎対策事業債と80%財政措置される辺地対策事業債、100%財政措置される地方交付税の不足を補うための臨時財政対策債であり、地方債全体の87%を占めている。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担については、前年度末5.2%から5.4%(+0.2%)に微増し、類似団体平均値より高くなっている。原因は、経常費用である移転費用(補助金等)が前年度より低くなったからであり、その中でも木曾広域連合が主体として実施した大型事業、ケープルテレビ化事業負担金の影響を受けたためである(前年度比:△404百万円)。今後の経費の増減に合わせ、使用料等を適宜更新する必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

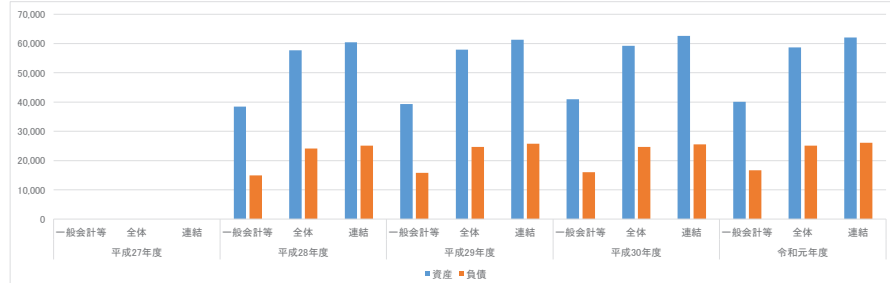
団体名 長野県木曾町
団体コード 204323

| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 10,928 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 167 人 |
| 面積 | 476.03 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 6,409,975 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-2 | 実質公債費率 | 5.0 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| x | ○ | x |

1. 資産・負債の状況

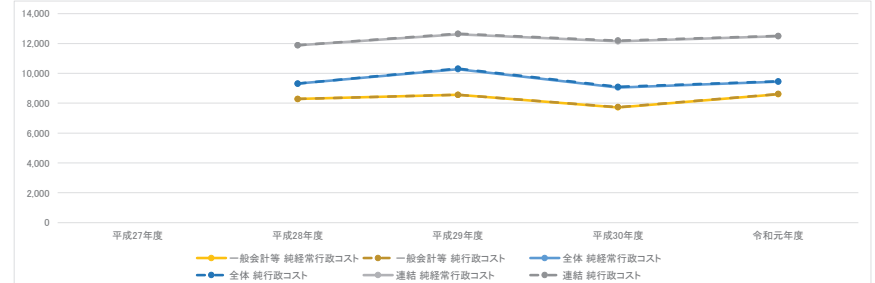
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 38,491 | 39,297 | 40,994 | 40,072 |
| | 負債 | | 14,874 | 15,814 | 16,074 | 16,668 |
| 全体 | 資産 | | 57,708 | 57,914 | 59,199 | 58,647 |
| | 負債 | | 24,081 | 24,657 | 24,621 | 25,073 |
| 連結 | 資産 | | 60,377 | 61,339 | 62,626 | 62,109 |
| | 負債 | | 25,077 | 25,728 | 25,580 | 26,063 |



分析:
 ・一般会計においては、資産総額が前年度末から922百万円減額となった。金額の変動は主に減価償却による資産減少である。今後は本庁舎の建設に伴う資産、負債の増加が見込まれ、特に前記事業の地方債借入が増加の大きな要因となっている。
 ・全体においては、水道事業、下水道事業の資産等の長寿命化対策に地方債を充てているが、一般会計の資産の減少が数値減少の要因となっている。
 ・連結についても例年並みであるが、一般会計の増加が要因となっている。

2. 行政コストの状況

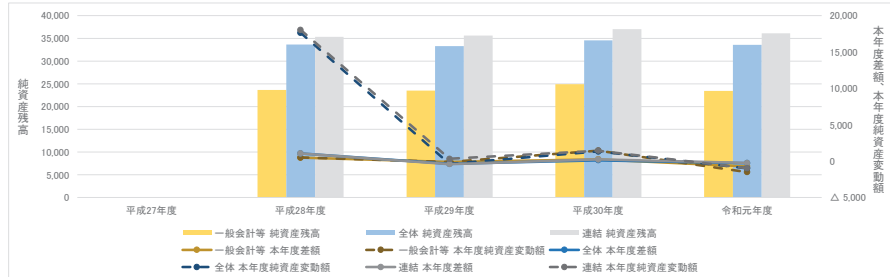
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 8,283 | 8,562 | 7,716 | 8,600 |
| | 純行政コスト | | 8,285 | 8,565 | 7,734 | 8,613 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 9,309 | 10,278 | 9,050 | 9,443 |
| | 純行政コスト | | 9,311 | 10,320 | 9,101 | 9,462 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 11,881 | 12,616 | 12,140 | 12,483 |
| | 純行政コスト | | 11,884 | 12,658 | 12,192 | 12,502 |



分析:
 ・一般会計等の行政コストについては、防災行政無線デジタル化、FTTH事業による広域負担金、本庁舎・防災センター建築などにより884百万円増加したことが大きな要因となっている。今後も継続するため、行政コストが増加傾向になる見込みである。
 ・全体、連結についても前記の要因が大きく影響している。

3. 純資産変動の状況

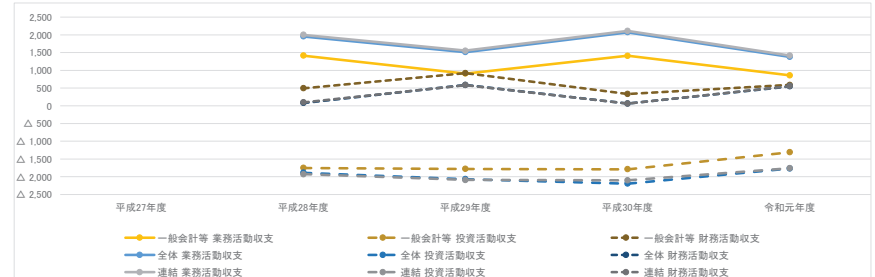
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 480 | △134 | 236 | △734 |
| | 本年度純資産変動額 | | 483 | △134 | 1,436 | △1,516 |
| | 純資産残高 | | 23,617 | 23,483 | 24,919 | 23,404 |
| 全体 | 本年度差額 | | 1,054 | △371 | 101 | △296 |
| | 本年度純資産変動額 | | 17,638 | △370 | 1,322 | △993 |
| | 純資産残高 | | 33,627 | 33,257 | 34,579 | 33,585 |
| 連結 | 本年度差額 | | 1,052 | △421 | 227 | △257 |
| | 本年度純資産変動額 | | 18,036 | 312 | 1,434 | △974 |
| | 純資産残高 | | 35,299 | 35,611 | 37,045 | 36,072 |



分析:
 ・一般会計において税金、国庫補助金額等(7,879百万円)が純行政コスト(8,613百万円)を下回ったことから、本年度差額は△734百万円となり純資産高は23,404百万円となった。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収収等に含まれるため、一般会計等と比べて収収等が1,286百万円多くっており、本年度差額は△296百万円となり、純資産残高は33,585百万円に減少となった。
 ・連結では、後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金額が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が4,365百万円多くっており、本年度差額は△257百万円となり、純資産残高は36,072百万円と減少となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 1,413 | 907 | 1,409 | 859 |
| | 投資活動収支 | | △1,755 | △1,778 | △1,791 | △1,310 |
| | 財務活動収支 | | 494 | 921 | 333 | 589 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,955 | 1,515 | 2,069 | 1,378 |
| | 投資活動収支 | | △1,888 | △2,067 | △2,195 | △1,767 |
| | 財務活動収支 | | 81 | 588 | 64 | 549 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,999 | 1,552 | 2,111 | 1,417 |
| | 投資活動収支 | | △1,928 | △2,090 | △2,100 | △1,759 |
| | 財務活動収支 | | 98 | 582 | 63 | 557 |



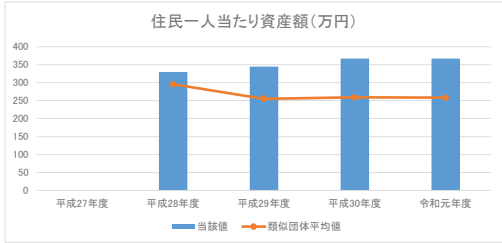
分析:
 ・一般会計においては、業務活動収支は859百万円であったが、投資活動収支については、防災行政無線事業を行ったことから、▲1,310百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、589百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から138百万円増加し、530百万円となった。また地方債の償還は進んでおり、経常的な活動に係る経費は収収等の収入で賄えている状況である。
 ・全体では、国民健康保険税や介護保険料が収収等に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より519百万円多い1,378百万円となっている。投資活動収支では、下水道管の老朽化対策事業を実施したため、▲1,769百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

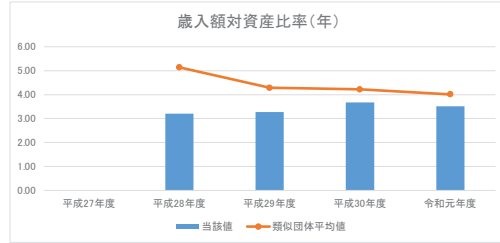
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,849,050 | 3,929,685 | 4,099,394 | 4,007,176 |
| 人口 | | 11,681 | 11,415 | 11,169 | 10,928 |
| 当該値 | | 329.5 | 344.3 | 367.0 | 366.7 |
| 類似団体平均値 | | 295.7 | 255.0 | 258.9 | 258.1 |



②歳入額対資産比率(年)

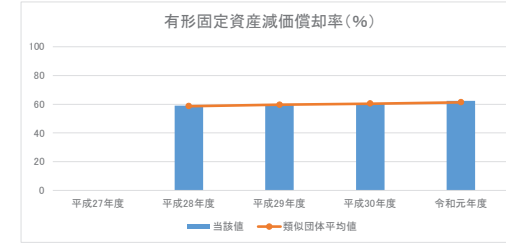
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 38,491 | 39,297 | 40,994 | 40,072 |
| 歳入総額 | | 11,982 | 12,001 | 11,133 | 11,368 |
| 当該値 | | 3.21 | 3.27 | 3.68 | 3.52 |
| 類似団体平均値 | | 5.14 | 4.29 | 4.22 | 4.01 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 31,987 | 33,161 | 36,934 | 38,468 |
| 有形固定資産 ※1 | | 54,162 | 55,587 | 60,647 | 61,682 |
| 当該値 | | 59.1 | 59.7 | 60.9 | 62.4 |
| 類似団体平均値 | | 58.6 | 59.7 | 60.4 | 61.3 |

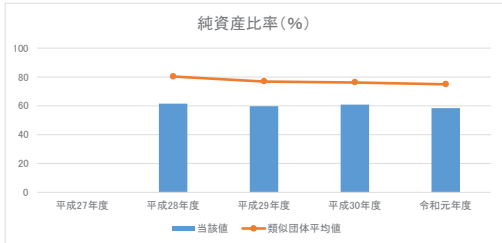
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

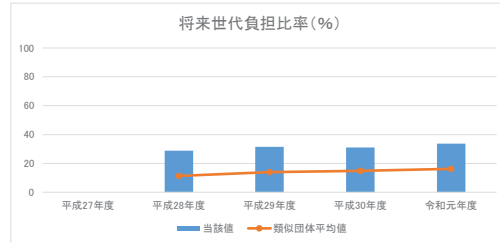
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 23,617 | 23,483 | 24,919 | 23,404 |
| 資産合計 | | 38,491 | 39,297 | 40,994 | 40,072 |
| 当該値 | | 61.4 | 59.8 | 60.8 | 58.4 |
| 類似団体平均値 | | 80.3 | 76.9 | 76.2 | 74.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 8,353 | 9,278 | 9,653 | 10,387 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 28,942 | 29,494 | 31,138 | 30,793 |
| 当該値 | | 28.9 | 31.5 | 31.0 | 33.7 |
| 類似団体平均値 | | 11.3 | 13.9 | 14.8 | 16.2 |

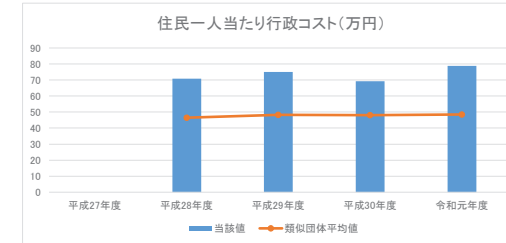
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

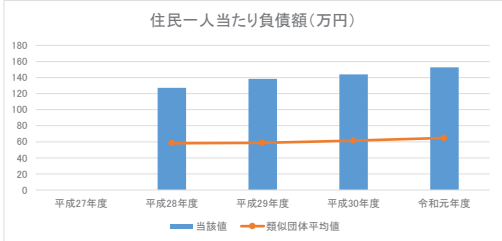
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 828,486 | 856,534 | 773,416 | 861,327 |
| 人口 | | 11,681 | 11,415 | 11,169 | 10,928 |
| 当該値 | | 70.9 | 75.0 | 69.2 | 78.8 |
| 類似団体平均値 | | 46.5 | 48.3 | 48.1 | 48.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

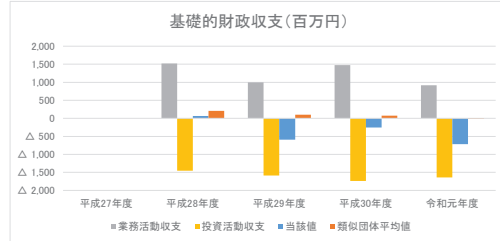
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 1,487,437 | 1,581,359 | 1,607,443 | 1,666,821 |
| 人口 | | 11,681 | 11,415 | 11,169 | 10,928 |
| 当該値 | | 127.3 | 138.5 | 143.9 | 152.5 |
| 類似団体平均値 | | 58.2 | 58.8 | 61.6 | 64.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 1,519 | 994 | 1,480 | 918 |
| 投資活動収支 ※2 | | △1,455 | △1,588 | △1,736 | △1,635 |
| 当該値 | | 64 | △594 | △256 | △717 |
| 類似団体平均値 | | 205.0 | 101.8 | 71.3 | △18.0 |

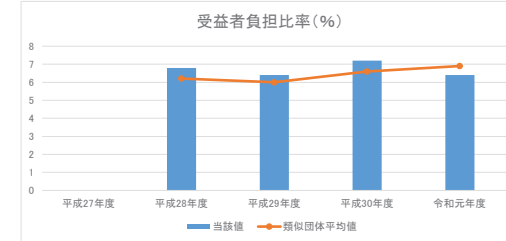
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 608 | 583 | 596 | 585 |
| 経常費用 | | 8,891 | 9,145 | 8,312 | 9,185 |
| 当該値 | | 6.8 | 6.4 | 7.2 | 6.4 |
| 類似団体平均値 | | 6.2 | 6.0 | 6.6 | 6.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民一人当たり資産額(歳入額対資産比率)は、合併前に旧市町毎に整備した公共施設があるため、保有する施設数が非合併団体よりも多く、類似団体平均を上回っている。また、老朽化した施設が多く、前年度末に比べて235万円増加している。将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組む。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は類似団体平均を大幅に下回っているが、負債の大半を占めているのは、地方交付税の不足を補うために特例的に発行している臨時財政対策債である。

・(社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を示す)将来世代負担比率は、類似団体平均を上回っており、また、開始時点と比べて増加している。新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の借換えを行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を上回っているが昨年度に比べて減少している。特に、純行政コストのうち16.4%を占める人件費が、類似団体と比べて住民一人当たり行政コストが高くなる要因となっていると考えられる。直営で運営している施設について、指定管理者制度を導入するとともに、行財政改革への取組を通じて人件費の削減に努める。

4. 負債の状況

・住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回っている。近年大型事業が続き発行した地方債が影響している。来年度以降も「地方財政計画」に基づき、地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担比率は類似団体平均と同程度であるが、昨年度からは増加している。特に、経常費用が昨年度から873百万円増加しており、中でも経常費用のうち維持補修費の増加が顕著であることから、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

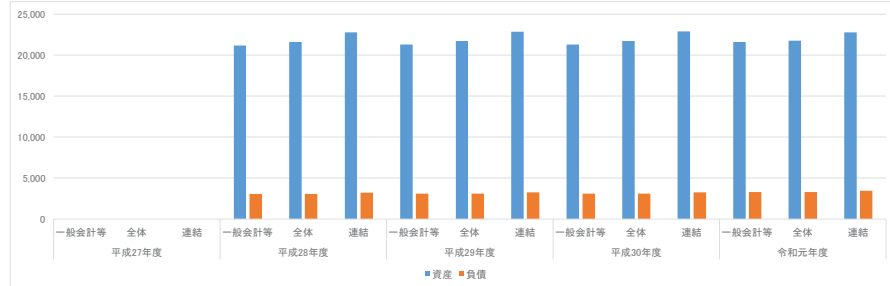
団体名 長野県麻績村
団体コード 204463

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 2,707人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 38人 |
| 面積 | 34.38 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,643.204千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質負債比率 | 5.0% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 21,185 | 21,289 | 21,325 | 21,623 |
| | 負債 | | 3,054 | 3,108 | 3,116 | 3,294 |
| 全体 | 資産 | | 21,632 | 21,741 | 21,752 | 21,778 |
| | 負債 | | 3,067 | 3,117 | 3,124 | 3,294 |
| 連結 | 資産 | | 22,785 | 22,873 | 22,898 | 22,778 |
| | 負債 | | 3,209 | 3,261 | 3,277 | 3,450 |



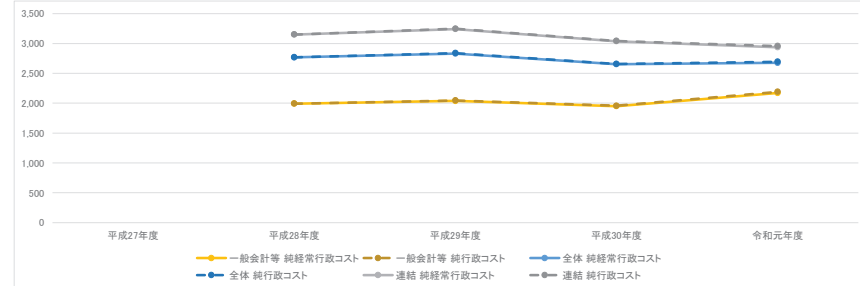
分析:

一般会計等の資産総額は前年度と比較して298百万円増加となっています。これは固定資産は減価償却により微減となっているものの、基金の増加が主な要因となっています。一方で負債総額も178百万円増加しており、地方債残高の増加が要因となっています。全体会計でも一般会計等と同様、資産総額は26百万円、負債総額では170百万円の増加となっています。これは一般会計等における資産増加及び負債増加に伴うものです。連結では、資産総額は120百万円の減少、負債総額では173百万円の増加となりました。

令和元年度は資産・負債ともに増加という状況になっています。資産の増加は将来資金の確保としての基金の増加によるものが主因ですが、これは今後の施設等の老朽化対策等による将来に向けた財源確保となります。今後も老朽化対策を行う一方、資産形成に対する財源を確保し、資産形成と負債のバランスをとりながら財政運営を行います。

2. 行政コストの状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 1,993 | 2,039 | 1,950 | 2,172 |
| | 純行政コスト | | 1,994 | 2,046 | 1,959 | 2,190 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 2,767 | 2,831 | 2,653 | 2,676 |
| | 純行政コスト | | 2,769 | 2,838 | 2,657 | 2,695 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 3,149 | 3,241 | 3,039 | 2,937 |
| | 純行政コスト | | 3,151 | 3,248 | 3,043 | 2,956 |

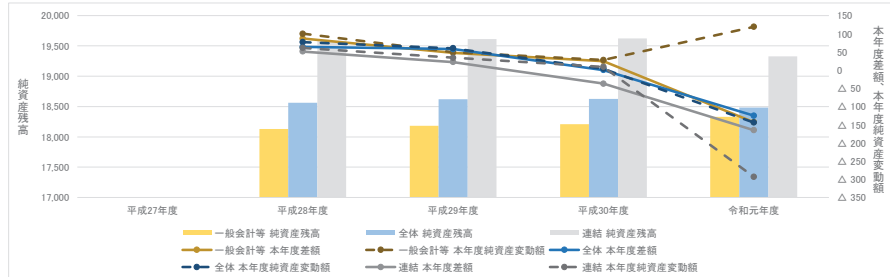


分析:

令和元年度、一般会計等において純経常行政コストは222百万円の増加、純行政コストも231百万円の増加となっています。コスト総額としては前年度から236百万円(11.6%)の増加となっています。これは、維持補修費の他、災害復旧事業などの突発的な事業によるもので、これに伴い純経常行政コスト、純行政コストともに増加となっています。同様に全体では、純経常行政コストは23百万円、純行政コストも38百万円の増加となっています。コスト総額としては前年度より42百万円(1.5%)の増加となっています。要因は一般会計等と同様、維持補修費と災害復旧事業によるものです。連結では、純経常行政コストは102百万円の減少、純行政コストも87百万円の減少となりました。全体的にみると令和元年度はコスト増となりましたが、災害復旧などに起因した一時的な事業によるところが大きく、今後も効率的な財政運営に努めます。

3. 純資産変動の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 87 | 48 | 25 | △143 |
| | 本年度純資産変動額 | | 100 | 49 | 28 | 119 |
| | 純資産残高 | 18,129 | 18,181 | 18,209 | 18,329 | 18,329 |
| 全体 | 本年度差額 | | 64 | 58 | 0 | △125 |
| | 本年度純資産変動額 | | 77 | 60 | 4 | △144 |
| | 純資産残高 | 18,564 | 18,623 | 18,628 | 18,484 | 18,484 |
| 連結 | 本年度差額 | | 51 | 22 | △37 | △165 |
| | 本年度純資産変動額 | | 61 | 34 | 9 | △293 |
| | 純資産残高 | 19,578 | 19,612 | 19,621 | 19,327 | 19,327 |



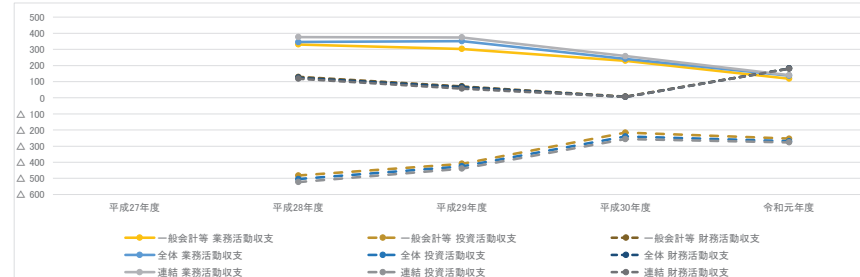
分析:

令和元年度の一般会計等においては、純資産残高は前年度と比較して120百万円の増加、本年度の純資産変動額は119百万円となっています。これは資産形成にあたり負債ではなく、純資産を財源としたためです。結果として負債の増加よりも資産の増加が上回ったことが要因です。

反対に、全体・連結会計で純資産変動額が▲144百万円、▲293百万円とそれぞれ減額している要因は、観光事業特別会計の廃止によるものが大きく、会計間の財産異動から一般会計等の純資産の増加にも起因しています。今後も資産及び負債、純資産のバランスをとりながら財政運営を行います。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 330 | 302 | 229 | 118 |
| | 投資活動収支 | | △482 | △409 | △216 | △254 |
| | 財務活動収支 | | 129 | 71 | 7 | 181 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 345 | 351 | 241 | 137 |
| | 投資活動収支 | | △504 | △425 | △240 | △270 |
| | 財務活動収支 | | 124 | 67 | 5 | 181 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 376 | 374 | 258 | 140 |
| | 投資活動収支 | | △523 | △439 | △256 | △277 |
| | 財務活動収支 | | 118 | 57 | 5 | 180 |



分析:

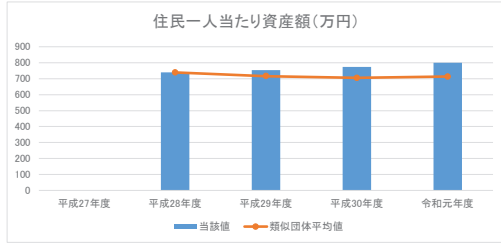
令和元年度の一般会計等においては前年度と比較し、業務活動収支は111百万円の減少、投資活動収支は38百万円減少、財務活動収支は174百万円の増加となっています。業務活動収支においては、業務費用支出の増加に比べ、税収や国庫補助金等も増加幅が少なかったことから収支は減少しています。投資活動収支については、前年度よりも投資が減少しました。令和元年度も30年度に引き続き、積極的な投資活動は行われず、微増で落ち着いています。財務活動収支は、30年度に地方債の発行を抑制したことによる反動増となっています。同様に全体では、業務活動収支は▲104百万円、投資活動収支は▲30百万円とそれぞれ減少し、財務活動収支は176百万円の増加となっています。連結では、業務活動収支は▲118百万円、投資活動収支は▲21百万円とそれぞれ減少し、財務活動収支は175百万円の増加となりました。全体的に令和元年度は新規発行債が多く、起債償還額が少なかったことから、財務活動収支が大きくなりました。今後も得られた財源に対し、最大限の行政サービスの提供に努めます。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

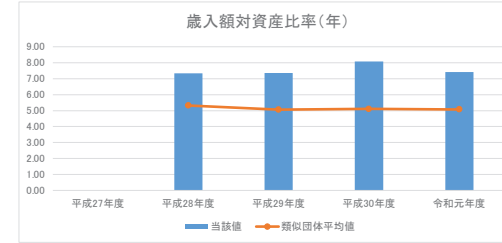
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 2,118,539 | 2,128,900 | 2,132,500 | 2,162,300 | 2,162,300 |
| 人口 | 2,864 | 2,822 | 2,753 | 2,707 | 2,707 |
| 当該値 | 739.7 | 754.4 | 774.6 | 798.8 | 798.8 |
| 類似団体平均値 | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 | |



②歳入額対資産比率(年)

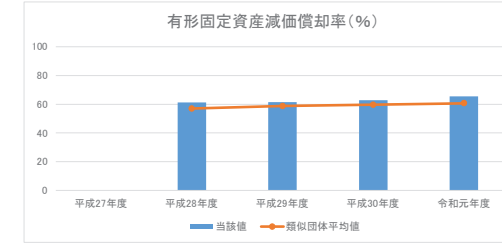
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 2,118,539 | 2,128,900 | 2,132,500 | 2,162,300 | 2,162,300 |
| 歳入総額 | 2,890 | 2,891 | 2,638 | 2,917 | 2,917 |
| 当該値 | 7.33 | 7.36 | 8.08 | 7.41 | 7.41 |
| 類似団体平均値 | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 6,820 | 7,051 | 7,293 | 8,348 | 8,348 |
| 有形固定資産 ※1 | 11,131 | 11,466 | 11,615 | 12,761 | 12,761 |
| 当該値 | 61.3 | 61.5 | 62.8 | 65.4 | 65.4 |
| 類似団体平均値 | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 | |

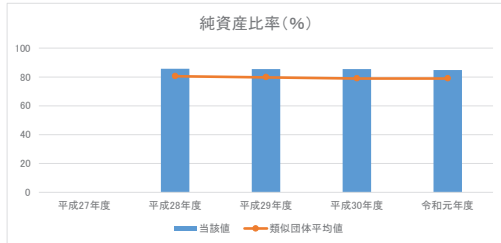
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

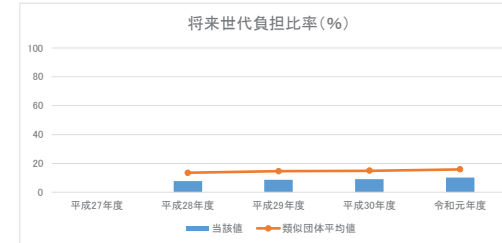
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 18,129 | 18,181 | 18,209 | 18,329 | 18,329 |
| 資産合計 | 21,185 | 21,289 | 21,325 | 21,623 | 21,623 |
| 当該値 | 85.6 | 85.4 | 85.4 | 84.8 | 84.8 |
| 類似団体平均値 | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 1,441 | 1,614 | 1,701 | 1,907 | 1,907 |
| 有形・無形固定資産合計 | 18,505 | 18,616 | 18,602 | 18,808 | 18,808 |
| 当該値 | 7.8 | 8.7 | 9.1 | 10.1 | 10.1 |
| 類似団体平均値 | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 | |

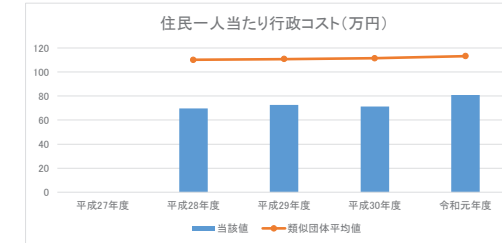
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

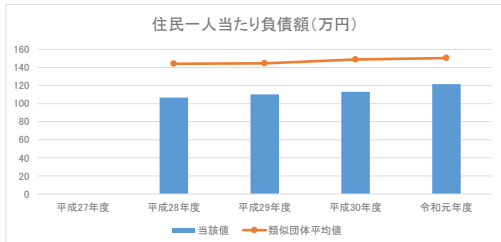
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 199,352 | 204,600 | 195,900 | 219,000 | 219,000 |
| 人口 | 2,864 | 2,822 | 2,753 | 2,707 | 2,707 |
| 当該値 | 69.6 | 72.5 | 71.2 | 80.9 | 80.9 |
| 類似団体平均値 | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

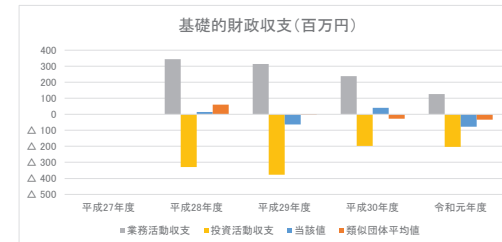
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 305,386 | 310,800 | 311,600 | 329,400 | 329,400 |
| 人口 | 2,864 | 2,822 | 2,753 | 2,707 | 2,707 |
| 当該値 | 106.6 | 110.1 | 113.2 | 121.7 | 121.7 |
| 類似団体平均値 | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 344 | 314 | 239 | 127 | 127 |
| 投資活動収支 ※2 | △ 329 | △ 377 | △ 198 | △ 204 | △ 204 |
| 当該値 | 15 | △ 63 | 41 | △ 77 | △ 77 |
| 類似団体平均値 | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 | |

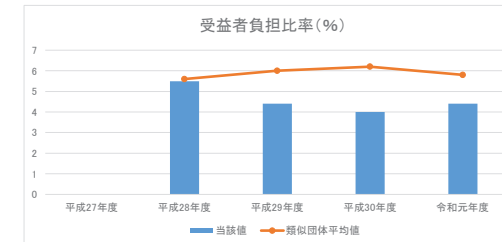
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 116 | 93 | 81 | 101 | 101 |
| 経常費用 | 2,109 | 2,132 | 2,036 | 2,273 | 2,273 |
| 当該値 | 5.5 | 4.4 | 4.0 | 4.4 | 4.4 |
| 類似団体平均値 | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 | |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況
 村の令和元年度一般会計の資産額は2,162,300万円、住民一人当たり換算すると資産額は7,989万円となり、前年度比108.7%となりました。比率に換算すると、純資産比率は84.8%となり前年度比99.3%と微減しましたが、類似団体の平均値が78.9%であることから、例年通り少し高めの数値を維持しています。
 一方負債額は329,400万円、住民一人当たりの換算では121.7万円となり、前年度比110.0%となりました。しかしながら、類似団体の平均値150.4万円と比較し低い水準であることから、数値は伸びていますが健全な財政運営を維持していることが見えます。
 有形固定資産減価償却率は65.4%と前年度よりも増加、類似団体平均値と比較すると高めの傾向となっています。この指標は村全体の資産の老朽化度合いを示すものであり、今後は村としての資産老朽化対策を各計画に基づき行います。

2. 資産と負債の比率
 令和元年度の資産に対する純資産の割合は84.8%となり、前年度から微減しました。類似団体平均値と比較すると高めとなっています。
 資産形成に対する地方債の残高をみると10.1%となり、昨年度よりも微増となりましたが、類似団体平均値と比較して低めの傾向となっています。これは資産に対しての地方債発行を示したものであり、これまで資産形成に対して地方債発行を抑制したことがわかります。
 しかし今後は、施設の更新・長寿命化の経費の増大が想定される反面、交付税や補助金等は抑制される傾向にあることから、より一層、資産形成に対する財源の確保と計画的な老朽化対策に努めます。

3. 行政コストの状況
 一般会計等の純経常行政コストは217,200万円となり、前年度比111.1%、純行政コストは219,000万円で前年度比111.8%となりました。純行政コストを住民一人当たり換算すると80.9万円となり、昨年度から9.7万円増加しました。類似団体の平均値が113.2万円となっていることから、比較的低い水準となっています。

4. 負債の状況
 人口一人当たりの負債額は121.7万円となり、前年度よりも8.5万円の増加となっています。類似団体平均値と比較すると低めの傾向になっています。
 基礎的財政収支は▲77百万円となり、大規模事業の少なかった前年度と比較し、反動減となっています。
 類似団体平均値と比較しても高めの傾向です。本指標については、1時点だけでなく、これまでの経過や今後の財政計画とあわせてみるものです。基礎的財政収支がマイナスが続けば地方債発行が増加していることを示し、プラスが続けば地方債発行を抑制し、償還が進んでいることを示します。
 今後は、村としての財政運営に対して地方債発行を抑制しながらも行政サービスの最大化に努めます。

5. 受益者負担の状況
 受益者負担比率は、4.4%と前年度よりも微増し、類似団体平均値と比較すると低めの傾向になっています。
 経常収益のうち諸収入等のその他収益が増加したことから前年度よりも増加基調となりました。
 本指標については、村全体としての把握だけでなく、受益者負担のある施設やサービスについてのコストと受益者負担を見ることが必要となっています。
 今後はより適正な受益者負担を目指し、サービス提供向上を図るとともに、受益者の負担を考慮した運営に努めます。

令和元年度 財務書類に関する情報①

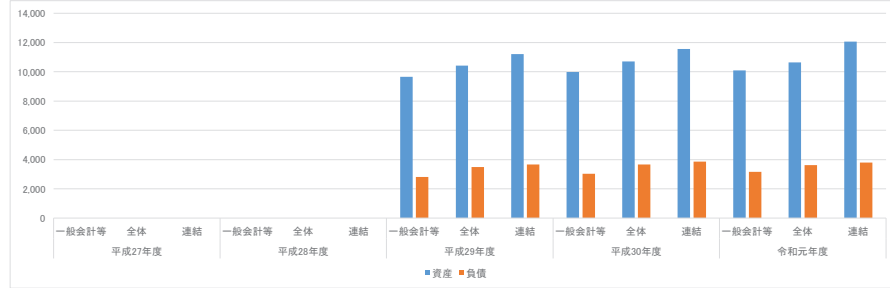
団体名 長野県生坂村
団体コード 204480

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 1,740 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 34 人 |
| 面積 | 39.05 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 1,238.370 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村 I - 1 | 実質公債費率 | 6.9 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

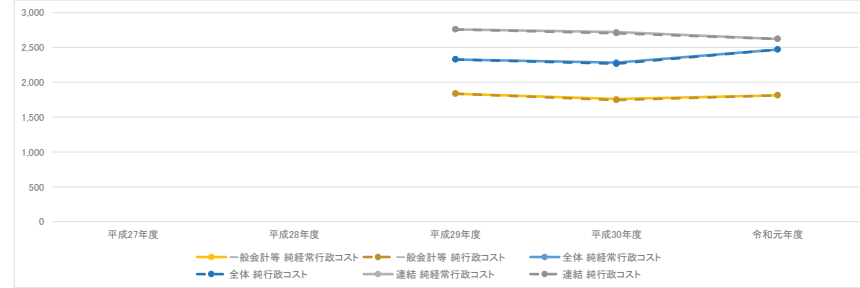
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | | 9,657 | 9,982 | 10,090 |
| | 負債 | | | 2,821 | 3,021 | 3,153 |
| 全体 | 資産 | | | 10,430 | 10,708 | 10,641 |
| | 負債 | | | 3,494 | 3,670 | 3,624 |
| 連結 | 資産 | | | 11,216 | 11,569 | 12,070 |
| | 負債 | | | 3,668 | 3,862 | 3,795 |



分析:
全ての会計において、資産合計に対する固定資産の割合が90%を超えていることに加え、減価償却累計額も増加しており、今後の公共施設等の維持管理・更新に費用を要することが予想されることから、公共施設総合管理計画、令和元年度策定の個別施設計画等に基づき、公共施設等の適正な管理を行っている。
一般会計等では、資産である基金は52百万円の増加となったが、村道改良事業や介護予防施設整備事業等のため、負債である地方債が135百万円増加した。
全体会計においては、簡易水道事業特別会計、農業集落排水特別会計の地方債の償還が続いているが、特に簡易水道施設の老朽化が進んでおり、将来的な財政負担を考慮した計画的な修繕等の維持補修が必要である。

2. 行政コストの状況

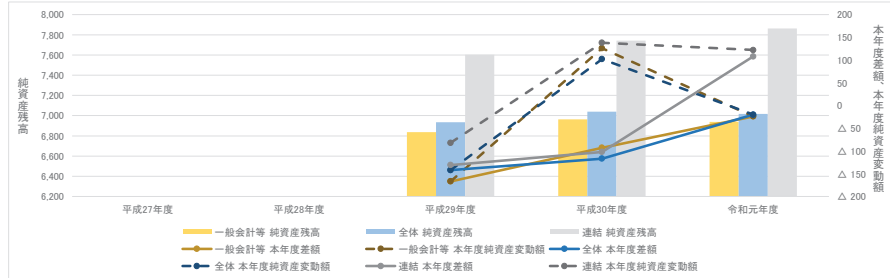
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | | 1,836 | 1,761 | 1,813 |
| | 純行政コスト | | | 1,836 | 1,745 | 1,813 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | | 2,327 | 2,283 | 2,470 |
| | 純行政コスト | | | 2,327 | 2,267 | 2,470 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | | 2,759 | 2,720 | 2,622 |
| | 純行政コスト | | | 2,759 | 2,705 | 2,622 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は1,927百万円であり、そのうち人件費、物件費等の業務費用は837百万円、補助金等、社会保障給付等の移転費用は663百万円である。
全体会計においては、業務費用は1,264百万円であり、移転費用は、国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計等で977百万円である。
連結会計では、業務費用は1,999百万円、移転費用は1,232百万円となった。
今後、移転費用である社会保障給付の増加が見込まれるため、物件費等の業務費用の見直しに努めていく。

3. 純資産変動の状況

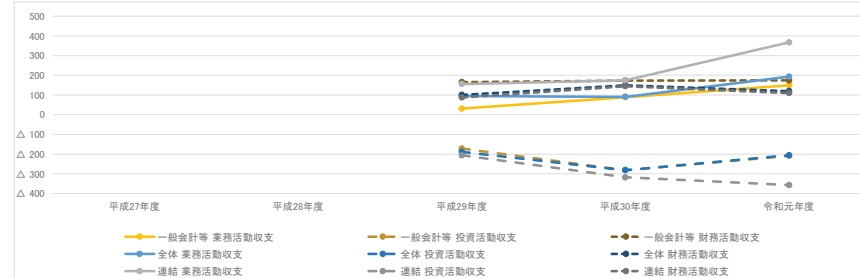
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | | △ 167 | △ 93 | △ 24 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 167 | 126 | △ 24 |
| | 純資産残高 | | 6,836 | 6,963 | 6,937 | 6,937 |
| 全体 | 本年度差額 | | | △ 142 | △ 117 | △ 20 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 142 | 102 | △ 20 |
| | 純資産残高 | | 6,935 | 7,038 | 7,018 | 7,018 |
| 連結 | 本年度差額 | | | △ 131 | △ 102 | 108 |
| | 本年度純資産変動額 | | | △ 82 | 138 | 122 |
| | 純資産残高 | | 7,604 | 7,742 | 7,863 | 7,863 |



分析:
一般会計等は、収収等の財源が1,666百万円であるが、純行政コストは1,813百万円となっており、本年度純資産変動額は68百万円の増加となった。
特別会計でも、国民健康保険税、介護保険料等で財源は2,451百万円となるが、純行政コストは2,470百万円となっており、本年度純資産変動額は20百万円の減少となった。
連結会計では、財源は2,730百万円、純行政コストは2,622百万円となり、本年度純資産変動額は108百万円の増加となった。
地方税の大幅な増加が見込めない中徴収の強化に加え、国県等補助金の有効活用を進めていく。また、行政コストの削減にも努めていく。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | | 31 | 88 | 149 |
| | 投資活動収支 | | | △ 172 | △ 282 | △ 208 |
| | 財務活動収支 | | | 165 | 173 | 174 |
| 全体 | 業務活動収支 | | | 94 | 90 | 193 |
| | 投資活動収支 | | | △ 189 | △ 282 | △ 206 |
| | 財務活動収支 | | | 100 | 149 | 119 |
| 連結 | 業務活動収支 | | | 155 | 175 | 367 |
| | 投資活動収支 | | | △ 206 | △ 318 | △ 357 |
| | 財務活動収支 | | | 87 | 144 | 110 |



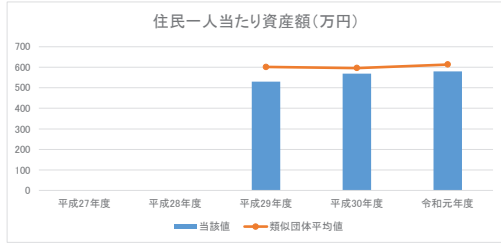
分析:
一般会計等では、業務活動収支は149百万円であり、投資活動収支は△208百万円であった。これは、投資活動である村道改良、介護予防施設整備事業等を行ったことによるものである。また、財務活動収支は、上記の事業実施に係る地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、174百万円となった。
全体会計のうち農業集落排水特別会計において投資活動支出が増加した結果、収支は△206百万円となっている。
近年、公共施設の長寿命化などにより投資活動支出が増加しており、公共施設総合管理計画、令和元年度策定予定の個別施設計画等に基づき、公共施設等の適正な管理を行っている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

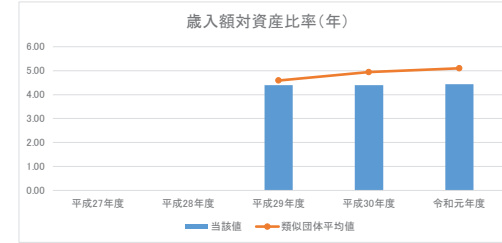
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|-----------|
| 資産合計 | | | 965,700 | 998,200 | 1,009,000 |
| 人口 | | | 1,822 | 1,754 | 1,740 |
| 当該値 | | | 530.0 | 569.1 | 579.9 |
| 類似団体平均値 | | | 601.3 | 596.0 | 613.2 |



②歳入額対資産比率(年)

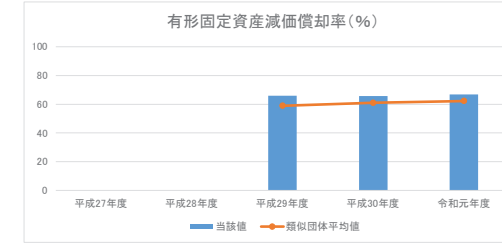
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | | 9,657 | 9,982 | 10,090 |
| 歳入総額 | | | 2,199 | 2,276 | 2,272 |
| 当該値 | | | 4.39 | 4.39 | 4.44 |
| 類似団体平均値 | | | 4.59 | 4.94 | 5.10 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | | 10,787 | 11,077 | 11,382 |
| 有形固定資産 ※1 | | | 16,346 | 16,848 | 17,044 |
| 当該値 | | | 66.0 | 65.7 | 66.8 |
| 類似団体平均値 | | | 58.9 | 61.0 | 62.2 |

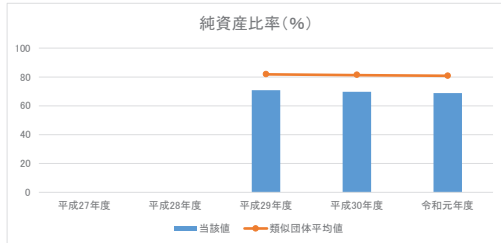
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

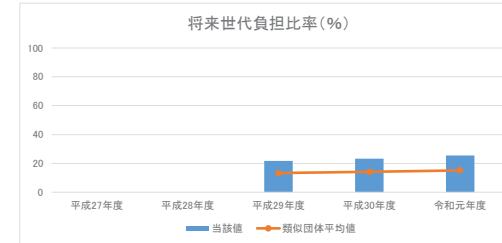
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | | 6,836 | 6,963 | 6,937 |
| 資産合計 | | | 9,657 | 9,982 | 10,090 |
| 当該値 | | | 70.8 | 69.8 | 68.8 |
| 類似団体平均値 | | | 81.8 | 81.3 | 80.8 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | | 1,753 | 1,927 | 2,088 |
| 有形・無形固定資産合計 | | | 8,052 | 8,288 | 8,209 |
| 当該値 | | | 21.8 | 23.3 | 25.4 |
| 類似団体平均値 | | | 13.3 | 14.1 | 15.1 |

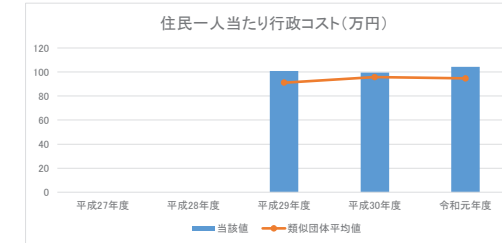
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

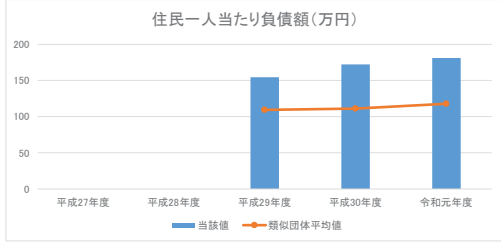
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | | 183,600 | 174,500 | 181,300 |
| 人口 | | | 1,822 | 1,754 | 1,740 |
| 当該値 | | | 100.8 | 99.5 | 104.2 |
| 類似団体平均値 | | | 91.1 | 95.8 | 94.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

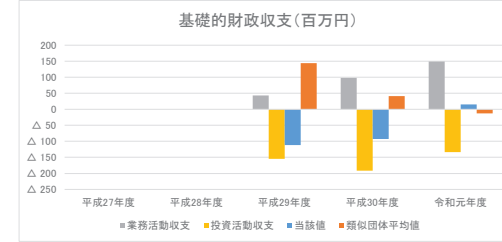
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | | 282,100 | 302,100 | 315,300 |
| 人口 | | | 1,822 | 1,754 | 1,740 |
| 当該値 | | | 154.8 | 172.2 | 181.2 |
| 類似団体平均値 | | | 109.4 | 111.3 | 117.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | | 43 | 98 | 149 |
| 投資活動収支 ※2 | | | △155 | △191 | △134 |
| 当該値 | | | △112 | △93 | 15 |
| 類似団体平均値 | | | 143.8 | 40.9 | △13.2 |

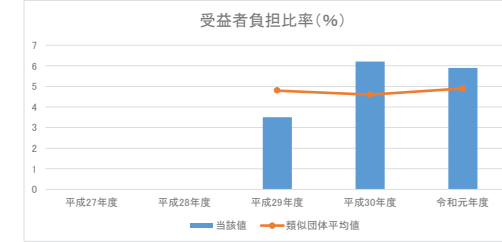
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | | 67 | 117 | 114 |
| 経常費用 | | | 1,903 | 1,878 | 1,927 |
| 当該値 | | | 3.5 | 6.2 | 5.9 |
| 類似団体平均値 | | | 4.8 | 4.6 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を下回っているが、当団体では、道路や河川の敷地等の取得価格が不明であるため、備忘簿額1円で評価していることが大きな要因である。歳入額対資産比率も類似団体を下回り、4.44年となっている。有形固定資産減価償却率は類似団体を上回り、66.8%となった。各体育館や庁舎など避難施設としての機能を備えた施設については耐震化改修工事実施済みであり長寿命化が図られているが、保育所、小学校は建築年数が古く、公共施設総合計画及び令和元年度策定予定の個別施設設計により、施設の長寿命化と最適化について検討していく。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均を上回り68.8%であった。また、純行政コストが税収等の財源を上回ったことから純資産が減少している。純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を過去及び現世代が消費して便益を享受したことを意味するため、行政コストの削減に努めていく。将来世代負担比率は類似団体平均を上回っている。これは近年の大規模事業に係る借入をしており、今後比率の上昇が見込まれる。世代間の負担の公平を担保するためにも、新規に発行する地方債を計画的に行っていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、類似団体平均を若干上回っており、104.2万円となった。類似団体との比較ではコストがかかりすぎているとは言えないが、少子高齢化等が進む当村では、税収等の増加も難しく、社会保障給付の増加が見込まれるため、コスト削減に努めていく。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を上回り、181.2万円となった。これは近年実施した村道改良(H22～)等に係る地方債の借入によるものである。次年度以降は種高広域施設組合への分担金(新ごみ処理施設整備事業)の増加が見込まれており、地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努める必要がある。基礎的財政収支は、基金の取崩収入および基金積立支出を除いた投資的活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を上回ったため、150万円となっている。類似団体平均を大きく下回っているが、投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して、介護予防施設整備や村道改良など公共施設の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を下回っており、6.2%である。行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低下しているが、公共施設等の老朽化が進み、維持修繕費が増加傾向にあるため、使用料の見直しの検討が必要である。また、公共施設総合計画及び令和元年度策定予定の個別施設設計により、施設の長寿命化と最適化について検討していく。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

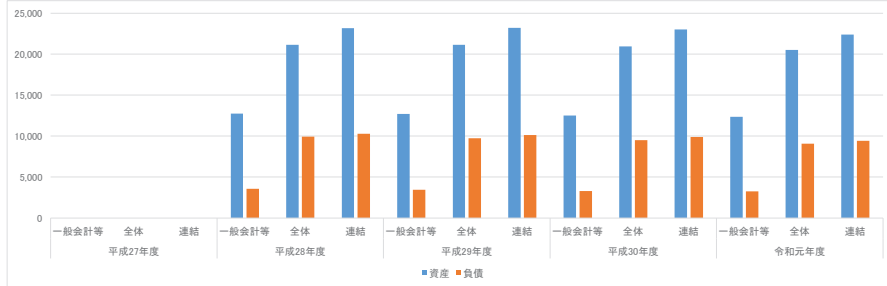
団体名 長野県山形村
団体コード 204501

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 8,709人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 95人 |
| 面積 | 24.98 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,563,940千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 6.9% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | × |

1. 資産・負債の状況

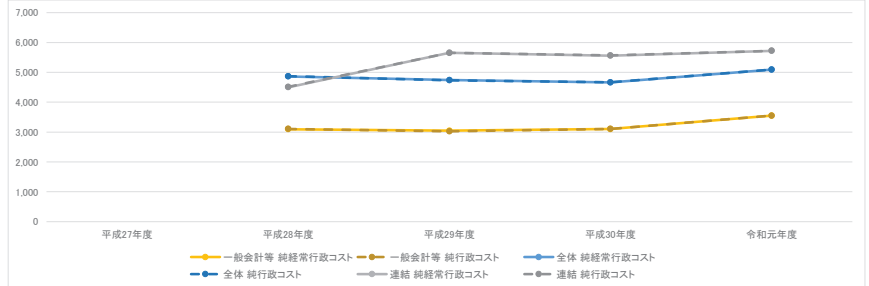
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 12,759 | 12,699 | 12,532 | 12,368 |
| | 負債 | | 3,574 | 3,453 | 3,319 | 3,272 |
| 全体 | 資産 | | 21,164 | 21,142 | 20,957 | 20,515 |
| | 負債 | | 9,941 | 9,735 | 9,508 | 9,083 |
| 連結 | 資産 | | 23,172 | 23,215 | 23,019 | 22,411 |
| | 負債 | | 10,302 | 10,123 | 9,904 | 9,442 |



分析:
 ・一般会計等の資産は、減価償却により資産が減少したことから資産総額は1億6,400万円減少し、負債総額については、地方債残高が9,500万円の減となったため、4,700万円減少した。
 ・水道事業会計、下水道事業会計を含む全体会計においては、資産総額は前年度から4億4,200万円減少し、負債総額については、4億2,500万円減少した。資産総額は、上水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していることにより、有形固定資産が資産総額の81.3%となっている。
 ・松本広域連合、松塩築木曾老人福祉施設組合等を加えた連結会計においては、資産総額が6億8,000万円減少し、負債総額については、4億6,200万円減少した。

2. 行政コストの状況

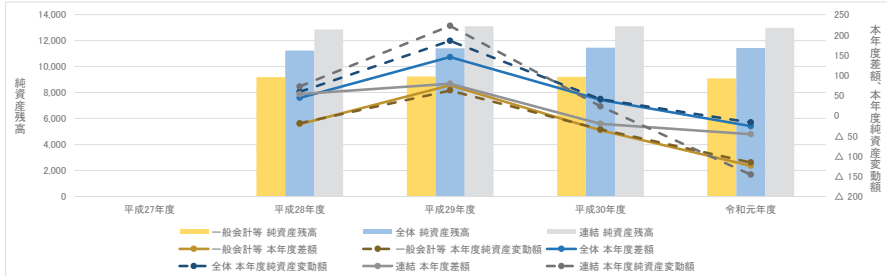
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,098 | 3,049 | 3,100 | 3,552 |
| | 純行政コスト | | 3,105 | 3,026 | 3,105 | 3,553 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,864 | 4,739 | 4,664 | 5,092 |
| | 純行政コスト | | 4,871 | 4,734 | 4,668 | 5,093 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,498 | 5,658 | 5,562 | 5,719 |
| | 純行政コスト | | 4,514 | 5,653 | 5,567 | 5,720 |



分析:
 ・一般会計等において、経常費用は36億8,500万となり、前年度比は4億7,100万の増となった。業務費用は前年度比1億8,100万の増、移転費用は3億600万円の増となった。業務費用では、人件費や物件費の増、移転費用では、補助金等で畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助金があったため大幅な増となっているが、経常経費の増が顕著であるため、業務全体を見直し経費の抑制に努める必要がある。
 ・全体会計では、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、一般会計等に比べ移転費用が13億3,200万多くなり、経常費用の55.0%を占めている。
 ・連結会計は、経常収益が6億9,200万円、経常費用が64億1,100万円、純行政コストが57億1,900万となり、対前年度比1億5,300万の増となった。

3. 純資産変動の状況

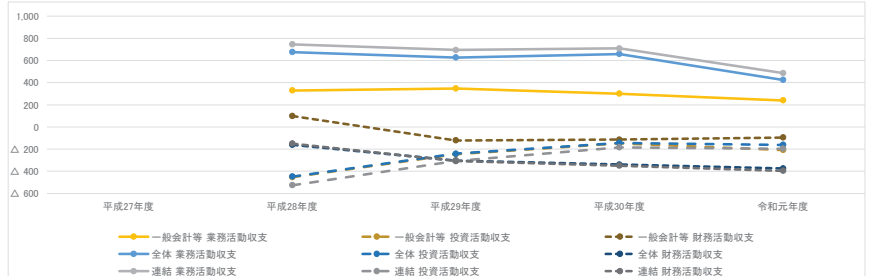
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 21 | 75 | △ 36 | △ 124 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 19 | 62 | △ 34 | △ 116 |
| | 純資産残高 | | 9,185 | 9,246 | 9,213 | 9,097 |
| 全体 | 本年度差額 | | 44 | 145 | 39 | △ 26 |
| | 本年度純資産変動額 | | 59 | 185 | 41 | △ 17 |
| | 純資産残高 | | 11,223 | 11,408 | 11,449 | 11,432 |
| 連結 | 本年度差額 | | 53 | 79 | △ 20 | △ 46 |
| | 本年度純資産変動額 | | 72 | 222 | 23 | △ 146 |
| | 純資産残高 | | 12,869 | 13,092 | 13,115 | 12,969 |



分析:
 ・一般会計等においては、税金などの財源34億2,900万円が純行政コスト35億5,300万円を下回っており、本年度差額は△1億2,400万円となった。今後更なる自主財源の確保に努める必要がある。
 ・全体会計においては、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金などに含まれることから、財源が一般会計等と比べて18億3,700万円多くっており、本年度差額は△2,600万となり、純資産残高は4,700万円の減となった。
 ・連結会計においては、一般会計に比べ財源が21億1,700万多くっており、本年度差額は△4,600万となり、純資産残高は1億4,600万円の減となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 329 | 347 | 300 | 239 |
| | 投資活動収支 | | △ 452 | △ 246 | △ 148 | △ 208 |
| | 財務活動収支 | | 99 | △ 122 | △ 114 | △ 95 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 675 | 626 | 659 | 424 |
| | 投資活動収支 | | △ 448 | △ 241 | △ 144 | △ 161 |
| | 財務活動収支 | | △ 161 | △ 303 | △ 339 | △ 374 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 745 | 694 | 709 | 486 |
| | 投資活動収支 | | △ 526 | △ 305 | △ 184 | △ 196 |
| | 財務活動収支 | | △ 150 | △ 307 | △ 350 | △ 396 |



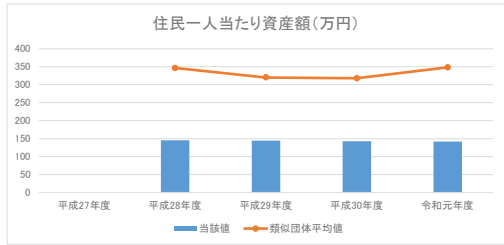
分析:
 ・一般会計等においては、業務活動収支は2億3,900万であったが、投資活動収支については、小学校空調設備設置工事やサーバー室無停電電源装置設置工事などを行ったことから△2億500万となった。財務活動収支については、地方債の償還が地方債発行収入を上回ったことから、本年度起債残高は、前年度から9,500万減少し、26億6,100万円となった。
 ・全体会計においては、国民健康保険税や介護保険料等の収入が含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることから、業務活動収支は一般会計等より1億9,500万多い、4億2,400万となっている。投資活動収支は、△1億6,100万円となっており、財務活動収支は地方債の償還が地方債発行収入を上回ったことから、△3億7,400万円となった。
 ・連結会計においては、一般会計より業務活動収支が2億4,700万多い4億8,600万円となった。投資活動収支は△1億9,600万円となっており、財務活動収支は地方債の償還が地方債発行収入を上回ったことから△3億9,600万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

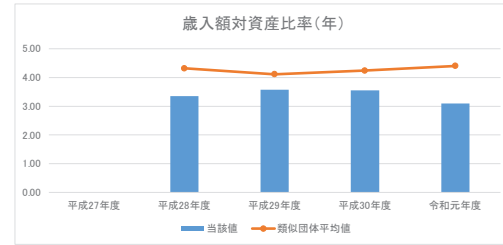
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 資産合計 | 1,275,877 | 1,269,900 | 1,253,168 | 1,236,847 | |
| 人口 | 8,764 | 8,799 | 8,772 | 8,709 | |
| 当該値 | 145.6 | 144.3 | 142.9 | 142.0 | |
| 類似団体平均値 | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 | |



②歳入額対資産比率(年)

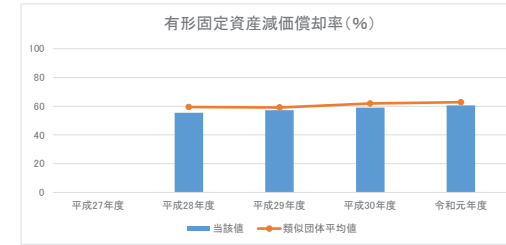
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 資産合計 | 12,759 | 12,699 | 12,532 | 12,368 | |
| 歳入総額 | 3,814 | 3,556 | 3,531 | 3,999 | |
| 当該値 | 3.35 | 3.57 | 3.55 | 3.09 | |
| 類似団体平均値 | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 減価償却累計額 | 8,867 | 9,192 | 9,505 | 9,840 | |
| 有形固定資産 ※1 | 15,967 | 16,073 | 16,109 | 16,267 | |
| 当該値 | 55.5 | 57.2 | 59.0 | 60.5 | |
| 類似団体平均値 | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 | |

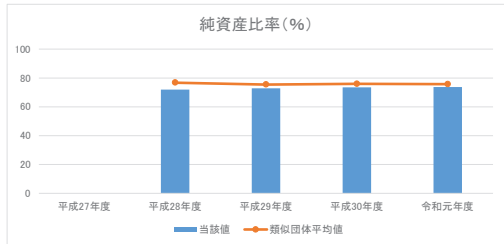
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

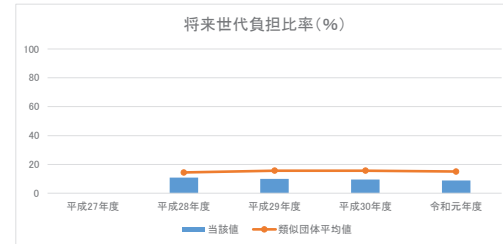
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 純資産 | 9,185 | 9,246 | 9,213 | 9,097 | |
| 資産合計 | 12,759 | 12,699 | 12,532 | 12,368 | |
| 当該値 | 72.0 | 72.8 | 73.5 | 73.6 | |
| 類似団体平均値 | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 1,120 | 1,008 | 918 | 858 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 10,257 | 10,106 | 9,807 | 9,676 | |
| 当該値 | 10.9 | 10.0 | 9.4 | 8.9 | |
| 類似団体平均値 | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 | |

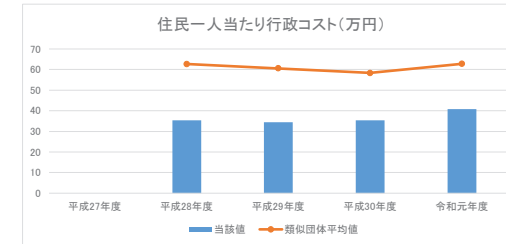
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

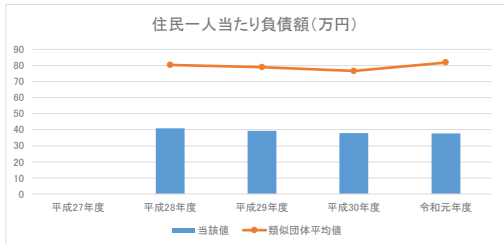
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 純行政コスト | 310,535 | 302,600 | 310,493 | 355,326 | |
| 人口 | 8,764 | 8,799 | 8,772 | 8,709 | |
| 当該値 | 35.4 | 34.4 | 35.4 | 40.8 | |
| 類似団体平均値 | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

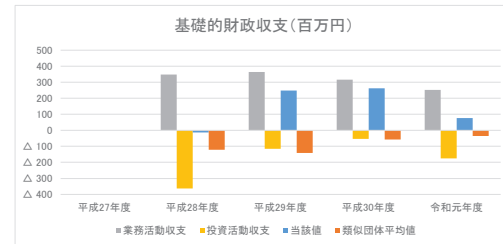
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 負債合計 | 357,385 | 345,300 | 331,905 | 327,193 | |
| 人口 | 8,764 | 8,799 | 8,772 | 8,709 | |
| 当該値 | 40.8 | 39.2 | 37.8 | 37.6 | |
| 類似団体平均値 | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|---------|---------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 349 | 365 | 316 | 253 | |
| 投資活動収支 ※2 | △ 363 | △ 116 | △ 54 | △ 176 | |
| 当該値 | △ 14 | 249 | 262 | 77 | |
| 類似団体平均値 | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 | |

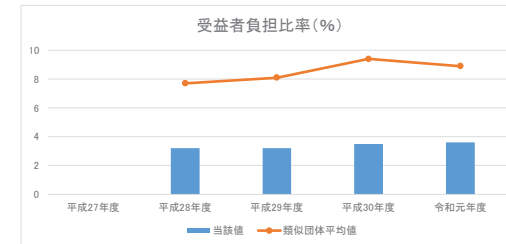
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 104 | 100 | 113 | 133 | |
| 経常費用 | 3,202 | 3,150 | 3,214 | 3,686 | |
| 当該値 | 3.2 | 3.2 | 3.5 | 3.6 | |
| 類似団体平均値 | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 | |



分析欄:

1. 資産の状況

・住民1人当たり資産額は類似団体平均を大きく下回っているが、当村では道路の取得価格が不明であるため、備忘価格1円で評価していることや、コンパクトな村であるため、他団体より施設数が少ない事が平均を下回っている要因となっている。

・歳入額対資産比率は、類似団体を下回る結果となったが、今後も公共施設の適正管理に努める。

・有形固定資産減価償却率は、類似団体よりやや低い数値となっているが、前年度に比べると1.5%上昇している。公共施設の計画的な保全を行い、長寿命化を行うなど施設の適正管理に努める必要がある。

2. 資産と負債の比率

・純資産比率は類似団体よりやや低い数値となっている。将来負担比率も類似団体より低い数値となっており、対前年度比で0.5%減となっている。今後も世代間の負担の公平性に努めていく。

3. 行政コストの状況

・1人当たり行政コストは類似団体平均を下回っているが、前年度と比較すると、5.4%増となっている。令和元年度は、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の補助金など大型事業があったことが、1人当たり行政コストが増となった主な要因となっている。

4. 負債の状況

・住民1人当たりの負債額は類似団体平均よりだいぶ低い数値となっている。地方債の償還が進んでおり、対前年度比では0.2%、4,712万円の減となっている。

・基礎的財政収支については、基金の取り崩し収入及び基金積立金を除いた投資活動収支の赤字が、業務活動収支の黒字を下回っているため、7,700万となった。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して小学校空調設備設置工事やサーバー室無停電電源装置設置工事を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

・受益者負担については、類似団体平均を大きく下回っており、行政サービス提供に対する受益者の直接的な負担は比較的低くなっている。公共施設の使用料などを見直し、受益者の適正な負担割合を考慮しつつ、経常費用の抑制にも努める必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県朝日村
団体コード 204510

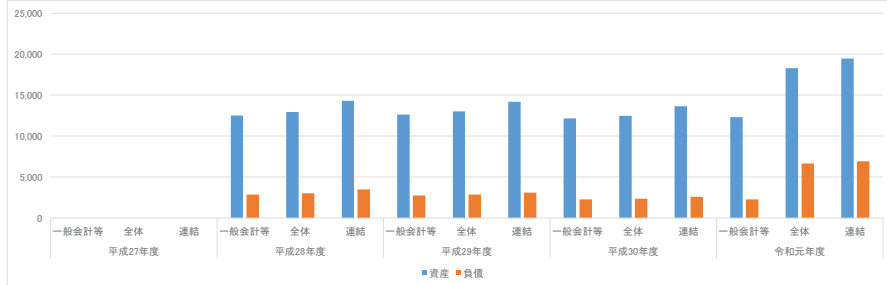
| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 4,574人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 46人 |
| 面積 | 70.62km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,192.067千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債費率 | 5.3% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 12,519 | 12,637 | 12,148 | 12,319 |
| | 負債 | | 2,888 | 2,770 | 2,297 | 2,297 |
| 全体 | 資産 | | 12,946 | 13,029 | 12,488 | 18,303 |
| | 負債 | | 3,026 | 2,878 | 2,379 | 6,667 |
| 連結 | 資産 | | 14,321 | 14,207 | 13,649 | 19,490 |
| | 負債 | | 3,477 | 3,114 | 2,614 | 6,918 |

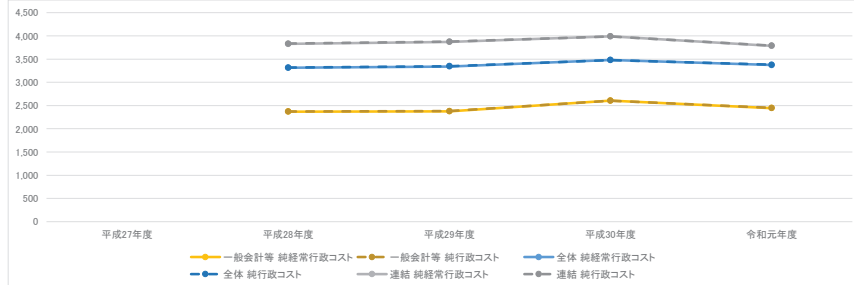


分析:
一般会計においては、資産総額が前年度末から171百万円の増加(+1.4%)となった。金額の変動が大きい項目は事業用資産と基金であり、事業用資産は減価償却によるもので104百万円の減少、基金(流動資産)は財政調整基金等への積み立てにより332百万円の増加となっている。負債総額については百万円単位での増減はない。
*全体においては、資産は5815百万円(45.9%)の増加となり、負債は約4288百万円(180.3%)の増加となっている。資産、負債のいずれも前年度比で大きく増加しているが、これは法適移行中であった。朝日村簡易水道特別会計および朝日村下水道会計が一般会計の対象となったことが主な要因である。
*連結会計において資産は5841百万円(42.2%)、負債は4304百万円(164.6%)の増加となっている。この増加幅の大きき要因については一般会計のそれと同様である。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,368 | 2,375 | 2,606 | 2,444 |
| | 純行政コスト | | 2,372 | 2,380 | 2,604 | 2,450 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 3,314 | 3,342 | 3,481 | 3,372 |
| | 純行政コスト | | 3,318 | 3,347 | 3,478 | 3,378 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 3,825 | 3,870 | 3,990 | 3,785 |
| | 純行政コスト | | 3,833 | 3,876 | 3,987 | 3,790 |

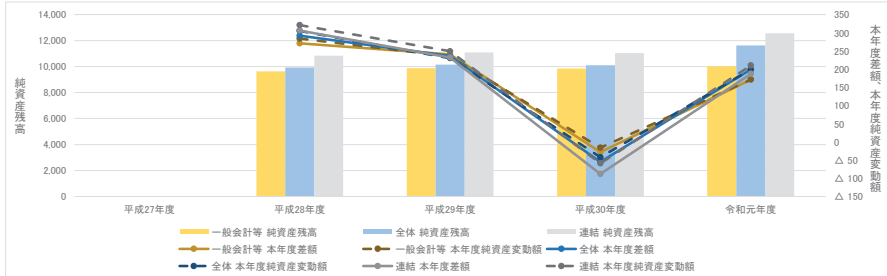


分析:
一般会計等においては、経常費用が2,490百万円となり、前年度比で163百万円の減少となっている。人件費が前年度比で約15%の増である一方、物件費等が全体的に減少傾向にあり、維持補修費については前年の4割弱に減少している。今後、施設の維持改修、長寿命化による相対的コスト削減等に努める。
*全体においては、法適移行中であった朝日村簡易水道特別会計および朝日村下水道会計が一般会計の対象となったことにより、水道・下水道料金が使用料及び手数料に計上されたことにより、経常収益が166百万円(407.5%)増加している。
*連結においても、全体と同様に村の水道・下水道事業が連結対象としても計上されたことにより、経常収益が増加している。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 271 | 241 | △ 28 | 171 |
| | 本年度純資産変動額 | | 284 | 235 | △ 16 | 171 |
| | 純資産残高 | | 9,631 | 9,867 | 9,851 | 10,022 |
| 全体 | 本年度差額 | | 292 | 236 | △ 55 | 199 |
| | 本年度純資産変動額 | | 305 | 230 | △ 42 | 199 |
| | 純資産残高 | | 9,921 | 10,151 | 10,109 | 11,636 |
| 連結 | 本年度差額 | | 306 | 232 | △ 88 | 187 |
| | 本年度純資産変動額 | | 321 | 249 | △ 59 | 210 |
| | 純資産残高 | | 10,844 | 11,094 | 11,035 | 12,572 |

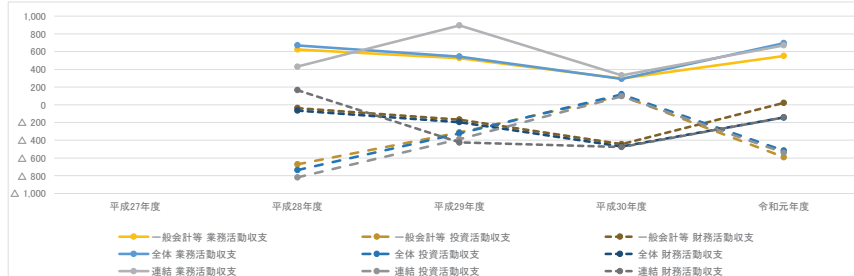


分析:
一般会計等においては、税収等の財源が純行政コストを上回っており、本年度差額は171百万円の増加となり、純資産残高も171百万円増加している。本年度は国県等の補助金が減少する一方、村民税、市町村たばこ税などの税収等が増加したことが理由と考えられる。
*全体では国民健康保険特別会計、介護保険特別会計の税収、補助金が含まれることで、財源が一般会計等に比べ956百万円ほど多くっており、本年度差額らびに本年度の純資産の変動額は199百万円の増となっている。
*連結においては、長野県後期高齢者医療広域連合を筆頭に、一部事務組合の財源が含まれることにより、財源は一般会計等に比べ約1,357百万円多くなっている。本年度差額としては187百万円の増、純資産変動額は210百万円増加している。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 624 | 526 | 296 | 550 |
| | 投資活動収支 | | △ 671 | △ 310 | 101 | △ 591 |
| | 財務活動収支 | | △ 38 | △ 166 | △ 443 | 22 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 670 | 543 | 292 | 695 |
| | 投資活動収支 | | △ 736 | △ 321 | 117 | △ 517 |
| | 財務活動収支 | | △ 65 | △ 196 | △ 470 | △ 144 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 430 | 895 | 332 | 671 |
| | 投資活動収支 | | △ 818 | △ 386 | 96 | △ 540 |
| | 財務活動収支 | | 165 | △ 425 | △ 476 | △ 142 |

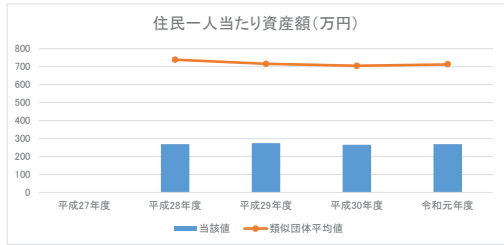


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は550百万円となり、投資活動収支は公共施設等整備費の支出があったため、▲591百万円となっている。財務活動収支は地方債等償還支出が地方債の発行額を上回っていることから、22万円となっている。本年度末の資金残高は約152百万円となっており、前年度比では19百万円の減となっている。
*全体においては、法適移行中であった朝日村簡易水道特別会計および朝日村下水道会計が一般会計の対象となったことにより、水道・下水道料金が使用料及び手数料に計上されたこと等により業務活動収支が950百万円である一方、水道・下水道事業における公共施設等整備費支出が加わることで▲517百万円となっている。財務活動収支は地方債等償還支出が地方債発行額を上回ることにより▲144百万円となっている。
*連結では長野県後期高齢者医療広域連合を筆頭に、一部事務組合の税収、補助金収入が含まれることから、一般会計等に比べて業務活動収支が約1412百万円多くなっている。投資活動収支は、公共施設等整備支出ならびに基金積立金支出が、収入を上回っていることから▲540百万円となり、財務活動収支は地方債等償還支出が地方債発行額を上回っていることにより▲142百万円となっている。

1. 資産の状況

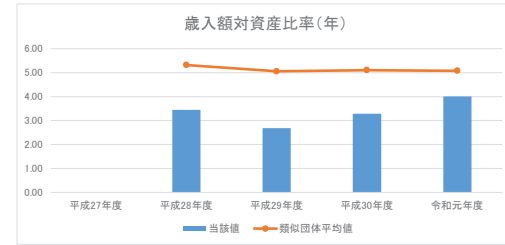
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 資産合計 | 1,251,906 | 1,263,708 | 1,214,824 | 1,231,883 | |
| 人口 | 4,653 | 4,617 | 4,589 | 4,574 | |
| 当該値 | 269.1 | 273.7 | 264.7 | 269.3 | |
| 類似団体平均値 | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 | |



②歳入額対資産比率(年)

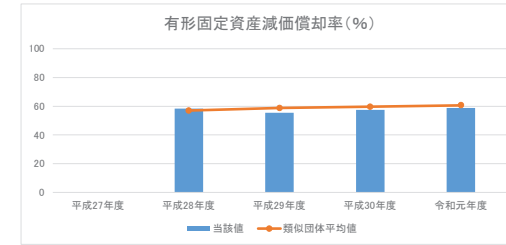
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 資産合計 | 12,519 | 12,637 | 12,148 | 12,319 | |
| 歳入総額 | 3,626 | 4,705 | 3,701 | 3,070 | |
| 当該値 | 3.45 | 2.69 | 3.28 | 4.01 | |
| 類似団体平均値 | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 | |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 減価償却累計額 | 10,318 | 10,661 | 11,079 | 11,494 | |
| 有形固定資産 ※1 | 17,698 | 19,234 | 19,254 | 19,559 | |
| 当該値 | 58.3 | 55.4 | 57.5 | 58.8 | |
| 類似団体平均値 | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 | |

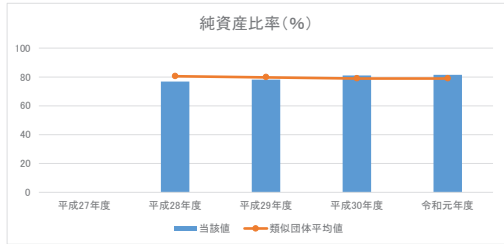
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

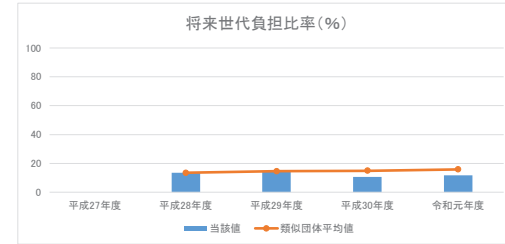
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 純資産 | 9,631 | 9,867 | 9,851 | 10,022 | |
| 資産合計 | 12,519 | 12,637 | 12,148 | 12,319 | |
| 当該値 | 76.9 | 78.1 | 81.1 | 81.4 | |
| 類似団体平均値 | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 | |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | 1,228 | 1,525 | 1,063 | 1,142 | |
| 有形・無形固定資産合計 | 9,155 | 10,232 | 9,980 | 9,812 | |
| 当該値 | 13.4 | 14.9 | 10.6 | 11.6 | |
| 類似団体平均値 | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 | |

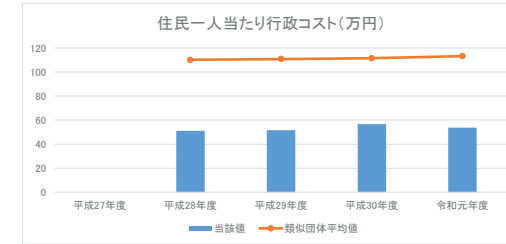
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

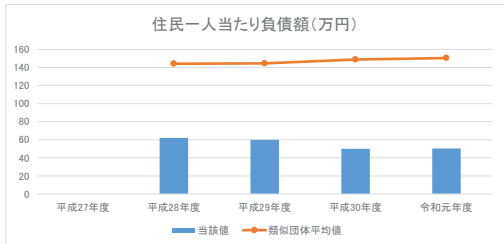
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 純行政コスト | 237,151 | 238,020 | 260,360 | 244,958 | |
| 人口 | 4,653 | 4,617 | 4,589 | 4,574 | |
| 当該値 | 51.0 | 51.6 | 56.7 | 53.6 | |
| 類似団体平均値 | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 | |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

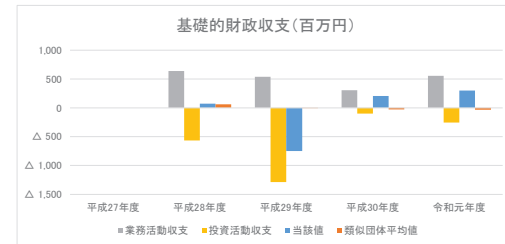
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 負債合計 | 288,772 | 277,032 | 229,710 | 229,653 | |
| 人口 | 4,653 | 4,617 | 4,589 | 4,574 | |
| 当該値 | 62.1 | 60.0 | 50.1 | 50.2 | |
| 類似団体平均値 | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 | |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | 638 | 538 | 306 | 557 | |
| 投資活動収支 ※2 | △ 567 | △ 1,288 | △ 100 | △ 255 | |
| 当該値 | 71 | △ 750 | 206 | 302 | |
| 類似団体平均値 | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 | |

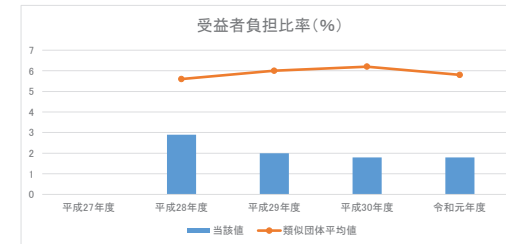
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 71 | 49 | 47 | 46 | |
| 経常費用 | 2,440 | 2,424 | 2,653 | 2,490 | |
| 当該値 | 2.9 | 2.0 | 1.8 | 1.8 | |
| 類似団体平均値 | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 | |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、道路や河川の敷地のうち、取得価額が不明なものは備忘価額1円で評価している要因がある。本年度は269.3万円が前年度比4.6万円の増(1.7%)となり、流動資産が増加したことによるものである。歳入額対資産比率についても類似団体平均を下回る結果となった。

有形固定資産減価償却率は類似団体平均と同水準にある。前年度比1.3%増加している。全体の半数以上が耐用年数を超えて使用している状況であるため個別施設計画等に基づく予防保全による長寿命対策等を進め公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同水準であり、経年推移をみると増加傾向である。純資産の増加は、現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を貯蓄したことを意味している。将来世代負担比率は、類似団体平均より4.2%、前年度比1.0%増加している。これらは村道小野沢幹1号線の舗装修繕事業や、村道西洗馬87号線新設事業などに伴う地方債借入により、地方債残高が増加したことによるものである。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を大幅に下回っている。特に、純行政コストのうち人件費については、平成15年度に策定した「自立計画」等に基づき、新規採用職員(正職員の減)の抑制を行ってきた影響による。なお、村前年比は3.1万円減少しており、物件費や他会計への繰出金の減少の影響によるものである。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を大幅に下回っており、また村前年比は0.1万円の増となっている。負債合計自体は微減しているものの、人口も同様に減少しているため、数値としては若干の増となる。

基礎的財政収支については投資活動収支の赤字に対し業務活動収支の黒字額が上回ったためプラスとなっており、時点で必要とされる政策的経費をその時点の収支等でどれだけまかなえている状況である。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率については類似団体を下回っている。公共施設の村民利用料の減免(無料)を行い住民の負担を減らし収入等で賅っている状況であるが、施設の維持管理面から今後の受益者負担について検討していく必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県筑北村
団体コード 204528

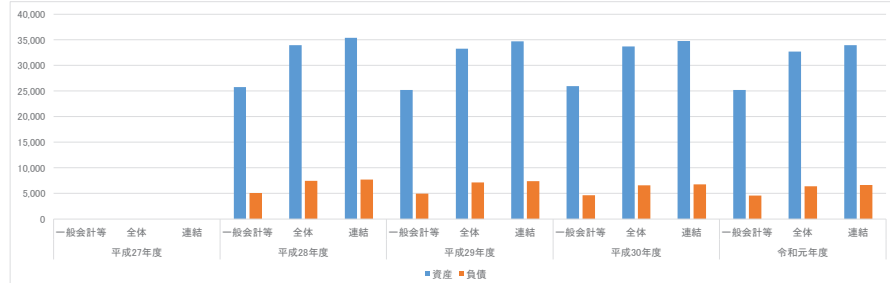
| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 4,432人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 78人 |
| 面積 | 99.47km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,886.120千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債費率 | 5.0% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 25,756 | 25,187 | 25,972 | 25,186 |
| | 負債 | | 5,115 | 4,978 | 4,642 | 4,597 |
| 全体 | 資産 | | 33,945 | 33,289 | 33,705 | 32,725 |
| | 負債 | | 7,490 | 7,175 | 6,592 | 6,410 |
| 連結 | 資産 | | 35,404 | 34,721 | 34,762 | 33,985 |
| | 負債 | | 7,724 | 7,402 | 6,810 | 6,643 |

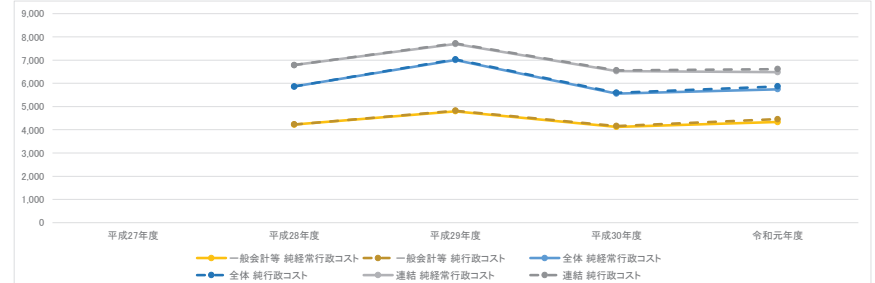


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から786百万円減少。固定資産については、経意調査を進める中で判明した施設関係建物等を含め、村所有施設全体の老朽化が進んでおり、資産の約72.5%が経年で消費された計算となる。簡易水道事業、集落排水事業等を加えた全体においても同様の理由から資産は全体的には減少傾向にある。これらの資産を今後限られた財源で更新していくため、施設の統廃合や長寿命化を進めていく必要がある。
一般会計等及び全体においても地方債を主とした負債は償還が進み、償還額が新たな借り入れ額を上回っているため減少しているが、前述のとおり減価償却累計額が伸びており固定資産の老朽化が進んでいることが懸念される。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,225 | 4,793 | 4,124 | 4,332 |
| | 純行政コスト | | 4,227 | 4,818 | 4,160 | 4,457 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,861 | 7,004 | 5,557 | 5,742 |
| | 純行政コスト | | 5,863 | 7,030 | 5,592 | 5,872 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,785 | 7,694 | 6,522 | 6,481 |
| | 純行政コスト | | 6,787 | 7,719 | 6,557 | 6,611 |

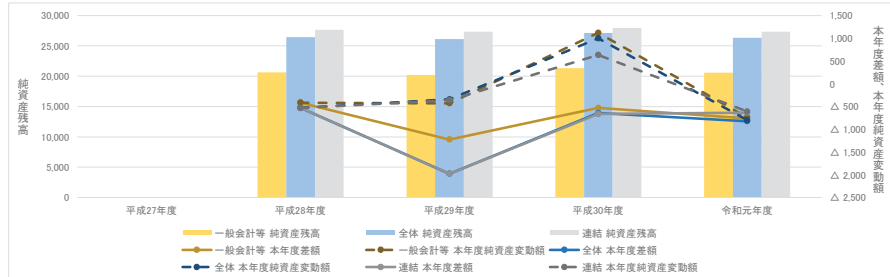


分析:
一般会計等の人件費は694百万円(前年比+45百万円)と若干増加し、経常費用も4,518百万円(前年比+198百万円)となり、前年度より増加している。職員の定員管理計画等に基づく職員の削減を進めているものの、物件費支出が昨年度より151百万円増加していることから純経常行政コストが伸びている。全体、連結においても純経常行政コスト、純行政コストともに微増しており、臨時的任用職員を含めた定員管理を行い、行政コストの削減を図る必要がある。近年、災害が続いているが、令和元年度も大きな災害に見舞われ、災害復旧事業費が増加しているが、更なる削減を図りながら、低コストでの財政運営を目指す。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 417 | △ 1,227 | △ 531 | △ 762 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 415 | △ 432 | 1,121 | △ 740 |
| | 純資産残高 | | 20,641 | 20,209 | 21,329 | 20,589 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 531 | △ 1,979 | △ 645 | △ 824 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 526 | △ 341 | 999 | △ 799 |
| | 純資産残高 | | 26,455 | 26,114 | 27,113 | 26,314 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 531 | △ 1,979 | △ 666 | △ 635 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 527 | △ 361 | 634 | △ 608 |
| | 純資産残高 | | 27,680 | 27,319 | 27,953 | 27,342 |

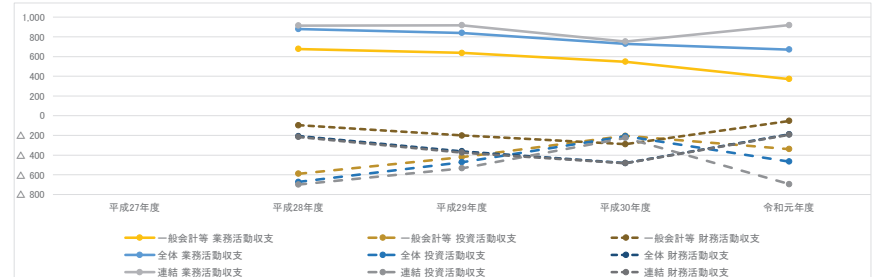


分析:
一般会計等においては、令和元年度末純資産が前年度より、740百万円減少した。減少の大きな要因は、純行政コストが財源を上回っているためであり、更なる行政コストの削減を図りながら、税率等を増加させるための政策が急務となっている。本年度末時点で、純資産残高はH28.H29時点と同程度の20,589百万円となり、新たな資産形成は少ない状況にある。
今後も税率等の大幅な増加は見込めない状況であり、人口の急速な減少が続くと予想されるなかで財政規模、人口規模に合わせたインフラ資産の長寿命化、総量の適正化、施設の統廃合等を行い純行政コストの削減に努める必要がある。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 676 | 637 | 548 | 371 |
| | 投資活動収支 | | △ 90 | △ 420 | △ 204 | △ 339 |
| | 財務活動収支 | | △ 597 | △ 201 | △ 289 | △ 54 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 879 | 839 | 729 | 670 |
| | 投資活動収支 | | △ 672 | △ 472 | △ 208 | △ 465 |
| | 財務活動収支 | | △ 208 | △ 362 | △ 481 | △ 189 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 915 | 918 | 752 | 919 |
| | 投資活動収支 | | △ 699 | △ 535 | △ 226 | △ 695 |
| | 財務活動収支 | | △ 216 | △ 375 | △ 483 | △ 194 |



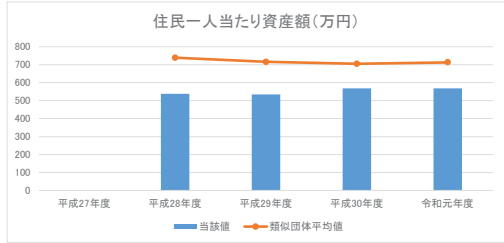
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は371百万円であったが、投資活動収支については、国県等の有利な補助金を活用し事業を行っているものの、-339百万円となっている。また、ここ3年間基金積み立てが減少傾向にあることから、積み立て資金を残すべく歳出の抑制を図る必要がある。
財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を下回ったことから、-64百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から20百万円減少し、212百万円となった。今後も基金の取り崩しが必要な状況は続くことが予想され、引き続き行政改革を行っていく必要がある。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

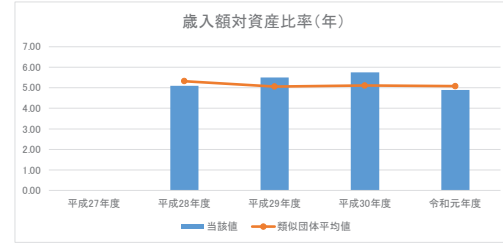
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,575,608 | 2,518,690 | 2,597,180 | 2,518,626 |
| 人口 | | 4,790 | 4,708 | 4,576 | 4,432 |
| 当該値 | | 537.7 | 535.0 | 567.6 | 568.3 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

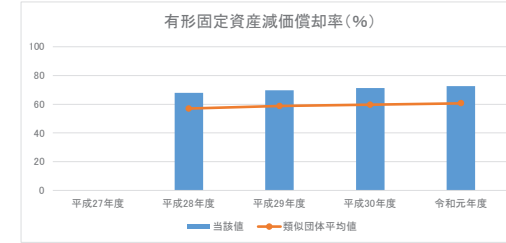
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 25,756 | 25,187 | 25,972 | 25,186 |
| 歳入総額 | | 5,050 | 4,568 | 4,517 | 5,146 |
| 当該値 | | 5.10 | 5.51 | 5.75 | 4.89 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 40,849 | 42,655 | 43,512 | 44,835 |
| 有形固定資産 ※1 | | 60,101 | 61,279 | 61,154 | 61,841 |
| 当該値 | | 68.0 | 69.6 | 71.2 | 72.5 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

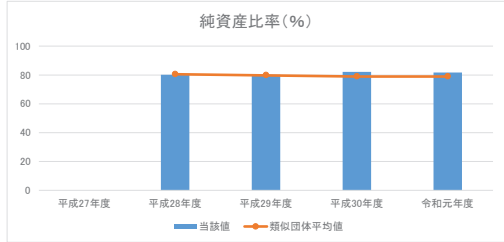
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

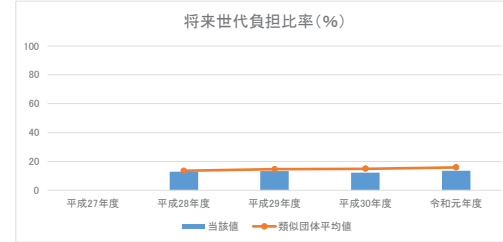
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 20,641 | 20,209 | 21,329 | 20,589 |
| 資産合計 | | 25,756 | 25,187 | 25,972 | 25,186 |
| 当該値 | | 80.1 | 80.2 | 82.1 | 81.7 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,777 | 2,779 | 2,630 | 2,816 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 21,670 | 20,891 | 21,604 | 20,928 |
| 当該値 | | 12.8 | 13.3 | 12.2 | 13.5 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

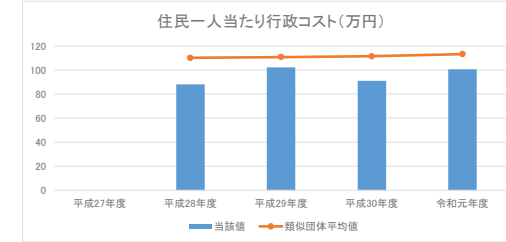
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

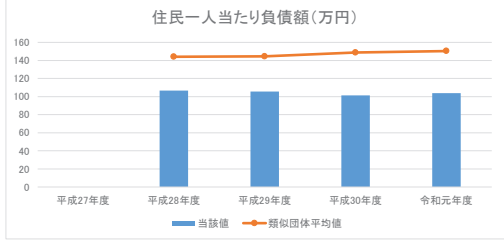
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 422,717 | 481,840 | 415,953 | 445,739 |
| 人口 | | 4,790 | 4,708 | 4,576 | 4,432 |
| 当該値 | | 88.2 | 102.3 | 90.9 | 100.6 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

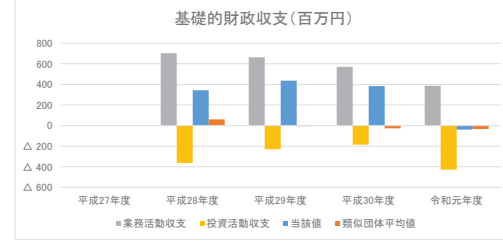
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 511,514 | 497,781 | 464,229 | 459,671 |
| 人口 | | 4,790 | 4,708 | 4,576 | 4,432 |
| 当該値 | | 106.8 | 105.7 | 101.4 | 103.7 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 705 | 663 | 569 | 388 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 361 | △ 228 | △ 184 | △ 428 |
| 当該値 | | 344 | 435 | 385 | △ 40 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

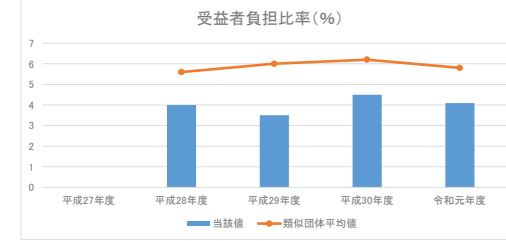
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 175 | 176 | 196 | 186 |
| 経常費用 | | 4,400 | 4,970 | 4,320 | 4,518 |
| 当該値 | | 4.0 | 3.5 | 4.5 | 4.1 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は、類似団体平均を下回っているが、当該団体では、道路や河川の敷地等のうち取得価額が不明なものを備忘価額1円で評価し、それが大部分を占めていることが主要因である。

歳入額対資産比率は、調査判明した資産が増えたため、昨年は類似団体平均をやや上回ったが、令和元年度においては、類似団体と同程度に減少した。
有形固定資産減価償却率は、整備後20年から40年経過して更新時期を迎えているものが多く、類似団体の平均よりも高い水準にある。公共施設等総合管理計画に基づき、長寿命化や統廃合を検討し、今後の公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度であるが、純行政コストが収支等の財源を上回っており、若干純資産が減少した。今後純行政コストの削減を進めなければならぬ。純行政コストの削減のためには、その大部分を減価償却費が占めており、その点からも公共施設等の適正化を早急に実施していく必要がある。

将来世代の負担程度を示す将来世代負担比率は類似団体を下回っているものの、有形固定資産減価償却率が高いことや有形固定資産の多くをインフラ資産が占めていることを併せて考えると、インフラ等物等の更新や計画的な修繕が進んでいないため地方債残高が抑えられている可能性がある。
今後の人口減少や財政見直し及びインフラ等物等の維持や更新に要する経費を考慮すると将来世代の負担程度は軽くない。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは、人件費の抑制の結果、一昨年度には行政コストが減少したが、物費支出の増加に伴い行政コストが若干増加したものの、類似団体平均を下回っている。しかしながら、社会保障給付費や村内に3施設ある温泉施設設計等の会計への繰り出しは増加傾向にあり、財政を圧迫する要因であるため、施設自体の在り方を含め、根本的な見直しが必要である。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は、類似団体平均を下回っている。負債の大半を占める地方債額は順調に進んでおり地方債残高は減少した。しかし、今後もスマートインターチェンジ等の事業が予定されており、この指標も増えることが予想されるが、地方債発行額を必要最小限に抑えようと、可能な範囲で繰上償還の実施に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均を下回っているものの、本村では、近年、使用料及び手数料の収入が減少しており、かつ公共施設の老朽化が進み、維持補修費が増加傾向にある。使用料の見直し等受益者負担の適正化を図るとともに、引き続き公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の集約化・複合化や長寿命化を行うことにより経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

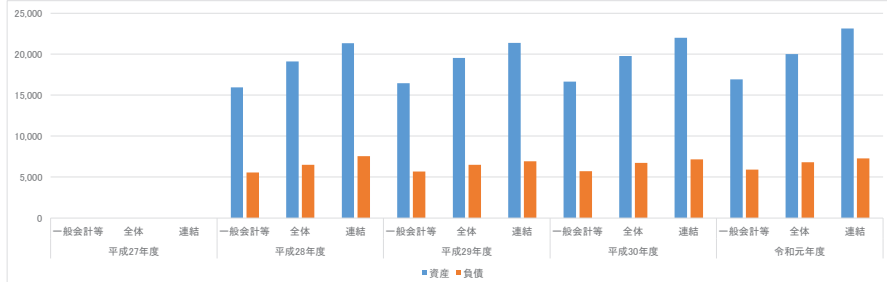
団体名 長野県池田町
団体コード 204811

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|--------|
| 人口 | 9,785 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 94 人 |
| 面積 | 40.16 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 3,202.953 千円 | 連結実赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-2 | 実質公債費率 | 11.8 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

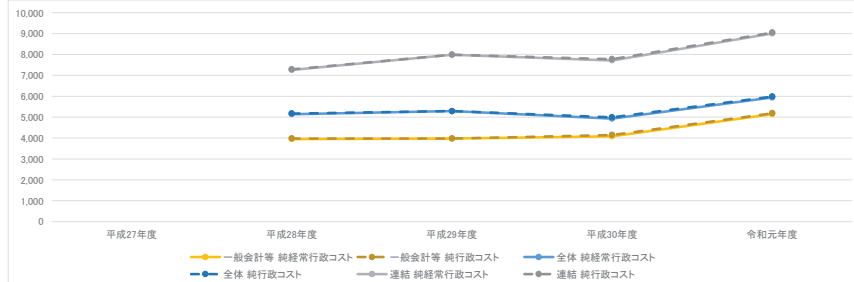
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 15,940 | 16,445 | 16,640 | 16,930 |
| | 負債 | | 5,552 | 5,674 | 5,723 | 5,937 |
| 全体 | 資産 | | 19,119 | 19,548 | 19,784 | 20,027 |
| | 負債 | | 6,501 | 6,499 | 6,744 | 6,829 |
| 連結 | 資産 | | 21,351 | 21,378 | 22,030 | 23,136 |
| | 負債 | | 7,568 | 6,949 | 7,153 | 7,299 |



分析:
純資産比率については、一般会計等では64.9%、全体会計では65.9%、連結会計では68.4%となっている。類似団体(人口1~3万人平均値)と比べ純資産の比率が低い傾向にあり、資産の老朽化が進めば純資産比率が低くなることから、今後世代間のバランスを見ながら資産の更新や形成をしておく必要がある。一般会計等の資産総額は、社会資本整備交付金事業の実施による資産の取得額が、減価償却による資産の減少を上回ったこと等から増加した。下水道事業、水道事業会計を加えた全体会計の資産総額はインフラ資産を計上していることから、一般会計等と比べ3,000百万程度多く増えている。負債総額は、インフラ整備時に借りた地方債の償還が進み減少しているが、その分減価償却による資産の減少も進んでいる。北アルプス広域連合、穂高広域連合、土地開発公社等を含む連結では、各団体等の保有する資産等により、一般会計等に比べ約6,000百万円多く増え、負債総額についても約1,400百万円多く増えている。

2. 行政コストの状況

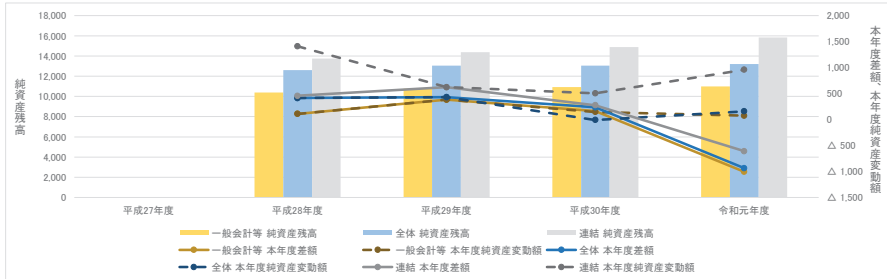
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,954 | 3,972 | 4,089 | 5,145 |
| | 純行政コスト | | 3,980 | 3,976 | 4,150 | 5,185 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,146 | 5,287 | 4,930 | 5,943 |
| | 純行政コスト | | 5,172 | 5,291 | 4,991 | 5,983 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 7,258 | 7,984 | 7,716 | 9,004 |
| | 純行政コスト | | 7,284 | 7,989 | 7,779 | 9,044 |



分析:
一般会計等の場合、経常費用の構成は業務費が59.2%、移転費用が40.8%となっており、業務費の中では、人件費が19.2%、物産費が39.4%と半分以上を占めている。また、移転費用として、補助金や社会保障給付等の占める割合が多く、純行政コストの約41%を占めている。今後も高齢化の進展などによりこの傾向が続くことが見込まれるため、事業の見直しや介護予防の推進等により経費の抑制に努める。全体では、一般会計等に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が827百万円多くなり、純行政コストは798百万円多くなっている。連結では、一般会計等に比べ、人件費が約340百万円多くなるなど、経常費用が4,196百万円多くなり、純行政コストは3,859百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

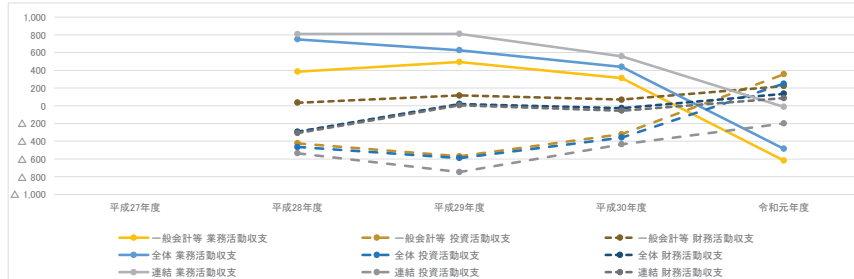
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 110 | 383 | 164 | △ 1,005 |
| | 本年度純資産変動額 | | 110 | 383 | 146 | 75 |
| | 純資産残高 | | 10,388 | 10,771 | 10,917 | 10,993 |
| 全体 | 本年度差額 | | 413 | 431 | 235 | △ 935 |
| | 本年度純資産変動額 | | 413 | 431 | △ 10 | 157 |
| | 純資産残高 | | 12,618 | 13,050 | 13,040 | 13,197 |
| 連結 | 本年度差額 | | 456 | 623 | 275 | △ 608 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,409 | 623 | 504 | 960 |
| | 純資産残高 | | 13,748 | 14,371 | 14,877 | 15,836 |



分析:
前年度に比べ、純資産において一般会計等では約0.8億円、全体会計では約1.6億円、連結会計では約9.6億円とそれぞれ増加となっている。また、昨年度まで減少が続いていた、全体会計、連結会計の本年度純資産変動額は増加となっている。純資産変動計算書の本年度純資産変動額は、企業会計の利益剰余金の増減にあたることでもあり、今後の推移をみる必要がある。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 386 | 494 | 314 | △ 617 |
| | 投資活動収支 | | △ 423 | △ 569 | △ 320 | 355 |
| | 財務活動収支 | | 34 | 116 | 69 | 222 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 749 | 626 | 439 | △ 485 |
| | 投資活動収支 | | △ 465 | △ 590 | △ 359 | 250 |
| | 財務活動収支 | | △ 292 | 21 | △ 26 | 135 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 809 | 811 | 558 | △ 12 |
| | 投資活動収支 | | △ 535 | △ 747 | △ 434 | △ 199 |
| | 財務活動収支 | | △ 308 | 7 | △ 54 | 87 |

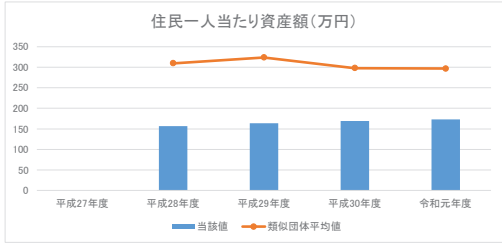


分析:
一般会計等において業務活動収支は△617百万円であり、投資活動収支については、社会資本整備事業、ほ場整備事業等大型事業をおこなったことから、地方債の発行も増えている。税金等の収入で賄えず、基金の大幅な取崩しとなった。全体では、国民健康保険や介護保険料が税金等収入に含まれること、水道料金等の使用料及び手数料収入があることから、業務活動収支は、132百万円多くなっている。連結では、業務活動収支において、土地開発公社などの事業収益により、一般会計等と比べ、605百万円多くなっている。また、財務活動収支においては、地方債償還額が、地方債発行額を上回ったため、87百万円となっている。投資活動経費については、年度間で大幅なばらつきがないよう支出し、地方公共団体の資金利用状況及び資金獲得能力を評価する上で有用な財務情報となっているため、資金残高を少しでも減らさないよう計画的な運用が必要とされる。

1. 資産の状況

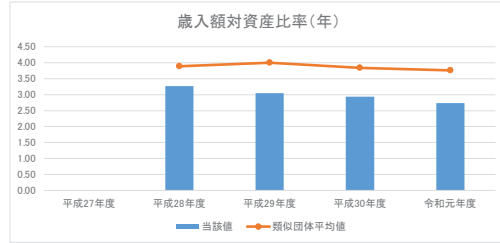
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,594,043 | 1,644,545 | 1,664,042 | 1,693,013 |
| 人口 | | 10,152 | 10,034 | 9,839 | 9,785 |
| 当該値 | | 157.0 | 163.9 | 169.1 | 173.0 |
| 類似団体平均値 | | 309.8 | 323.8 | 297.9 | 297.0 |



②歳入額対資産比率(年)

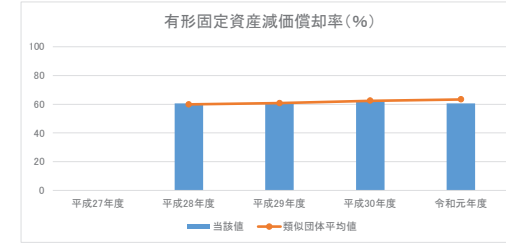
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 15,940 | 16,445 | 16,640 | 16,930 |
| 歳入総額 | | 4,871 | 5,390 | 5,651 | 6,190 |
| 当該値 | | 3.27 | 3.05 | 2.94 | 2.74 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 4.00 | 3.84 | 3.76 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 16,502 | 17,038 | 17,629 | 18,214 |
| 有形固定資産 ※1 | | 27,258 | 28,068 | 28,485 | 30,114 |
| 当該値 | | 60.5 | 60.7 | 61.9 | 60.5 |
| 類似団体平均値 | | 59.9 | 60.8 | 62.4 | 63.3 |

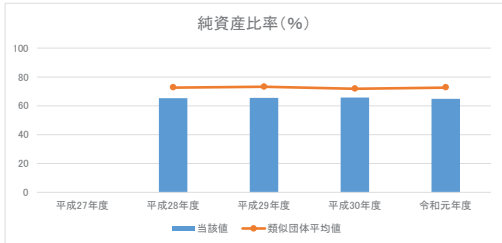
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

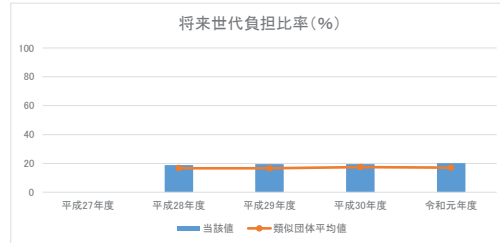
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 10,388 | 10,771 | 10,917 | 10,993 |
| 資産合計 | | 15,940 | 16,445 | 16,640 | 16,930 |
| 当該値 | | 65.2 | 65.5 | 65.6 | 64.9 |
| 類似団体平均値 | | 72.7 | 73.2 | 71.8 | 72.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,544 | 2,690 | 2,798 | 3,092 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 13,449 | 13,859 | 14,337 | 15,380 |
| 当該値 | | 18.9 | 19.4 | 19.5 | 20.1 |
| 類似団体平均値 | | 16.7 | 16.6 | 17.4 | 17.0 |

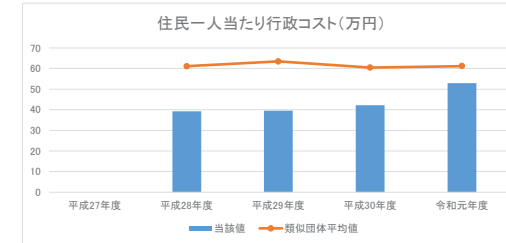
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

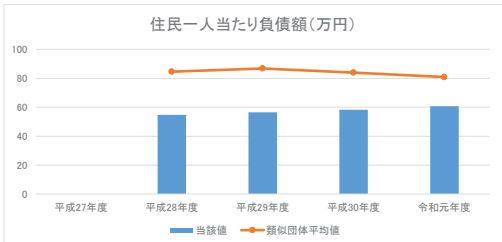
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 398,035 | 397,627 | 414,977 | 518,515 |
| 人口 | | 10,152 | 10,034 | 9,839 | 9,785 |
| 当該値 | | 39.2 | 39.6 | 42.2 | 53.0 |
| 類似団体平均値 | | 61.1 | 63.5 | 60.5 | 61.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

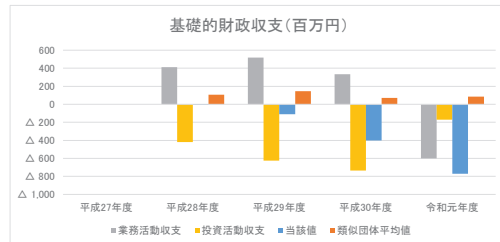
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 555,200 | 567,404 | 572,310 | 593,747 |
| 人口 | | 10,152 | 10,034 | 9,839 | 9,785 |
| 当該値 | | 54.7 | 56.5 | 58.2 | 60.7 |
| 類似団体平均値 | | 84.6 | 86.8 | 84.0 | 80.9 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 412 | 517 | 334 | △600 |
| 投資活動収支 ※2 | | △420 | △626 | △734 | △172 |
| 当該値 | | △8 | △109 | △400 | △772 |
| 類似団体平均値 | | 106.9 | 145.9 | 71.5 | 86.4 |

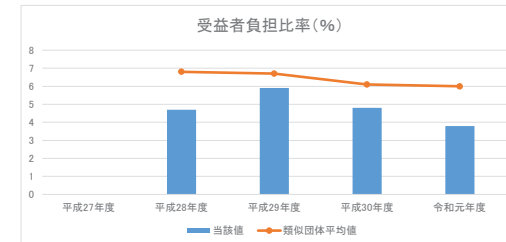
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 194 | 248 | 205 | 205 |
| 経常費用 | | 4,148 | 4,220 | 4,294 | 5,350 |
| 当該値 | | 4.7 | 5.9 | 4.8 | 3.8 |
| 類似団体平均値 | | 6.8 | 6.7 | 6.1 | 6.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

当該団体における住民一人あたりの資産額は173.0万円と前年度と比べ微増となっているが、類似団体の平均値297.0万円と比べまだ低い推移である。資産が多い分住民増収の増進や町民サービスに寄与している一方で資産の大きさに応じて維持補修費などのコストも多くなっているため、計画的な財産の整理が必要となる。

2. 資産と負債の比率

当該団体の純資産比率は64.9%、類似団体は72.7%であり、前年度と同様に純資産の比率が低い傾向にある。更に資産の老朽化が進めば純資産比率が低くなること予想されることから、今後世代間のバランスを見ながら資産の更新や形成をしていく必要がある。

3. 行政コストの状況

当該団体の住民一人あたりの行政コストは53.0万円であり、昨年度と比べ10万円程度増加したが、類似団体の61.2万円と比べ低コストとなっている。ただし、今後経常経費の増加が見込まれ、住民一人あたりの行政コストが増えることが想定されるため、不要なコストの削減にも努めていく必要がある。

4. 負債の状況

当該団体の住民一人あたりの負債額については、前年度と同様に類似団体と比べ低い傾向にあり、財政運営は健全であることが分析できる。ただし、社会資本整備整備総合交付金事業や、ほ場整備等の大型事業を進めていることもあり、住民一人あたりの負債額が増加傾向にある。

5. 受益者負担の状況

当該団体の数値は類似団体に比べ低い推移となっており、類似団体より経常費用に対する経常収益が少ないことがわかる。また前年度と比べ類似団体との差が更に大きくなった。当該団体としては、受益者負担に係る費用について、使用料などの更なる見直し等の検討が必要である。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

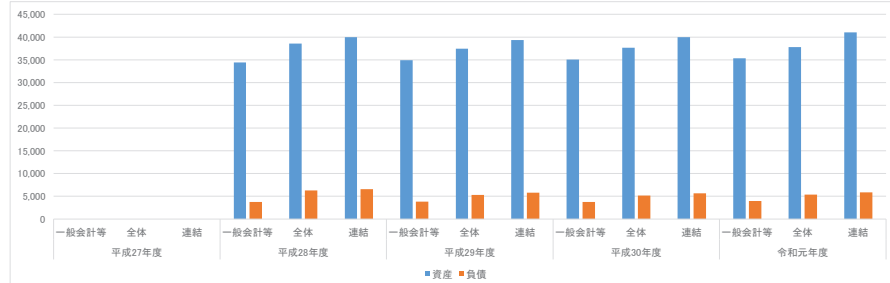
団体名 長野県松川村
団体コード 204820

| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 9,663人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 74人 |
| 面積 | 47.07km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,878.864千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 4.5% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

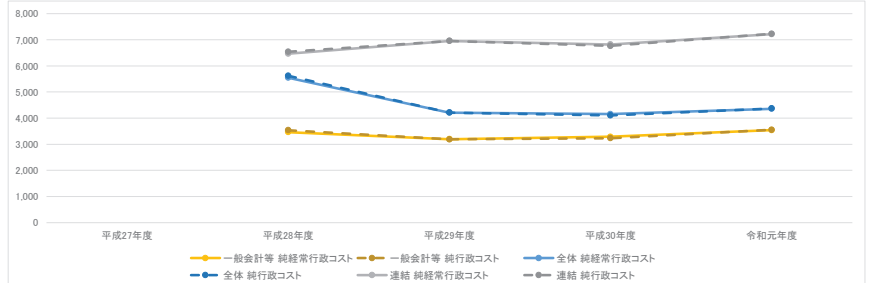
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 34,435 | 34,925 | 35,077 | 35,355 |
| | 負債 | | 3,769 | 3,842 | 3,741 | 3,995 |
| 全体 | 資産 | | 38,565 | 37,469 | 37,644 | 37,820 |
| | 負債 | | 6,266 | 5,284 | 5,196 | 5,360 |
| 連結 | 資産 | | 39,961 | 39,342 | 40,000 | 41,011 |
| | 負債 | | 6,565 | 5,808 | 5,651 | 5,889 |



分析:
一般会計等においては、資産総額のうち有形固定資産の割合が99.2%となっており、前年度と比べて0.2%減少した。これらの資産は将来、維持管理や更新等の支出を伴うものであることから、引き続き公共施設等総合管理計画に基づき公共施設等の適正管理に努める。
国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、水道事業会計を加えた全体では、資産総額は上水道管などのインフラ資産を計上していることなどから、一般会計等と比べて2,465百万円多くなっている。
松川村土地開発公社、北アルプス広域連合、穂高広域施設組合等を加えた連結では、資産総額は一部事務組合等が保有している資産を計上していることなどから、一般会計等と比べて5,656百万円多くなっているが、負債も一部事務組合等での借入金等があることなどから、1,894百万円多くなっている。

2. 行政コストの状況

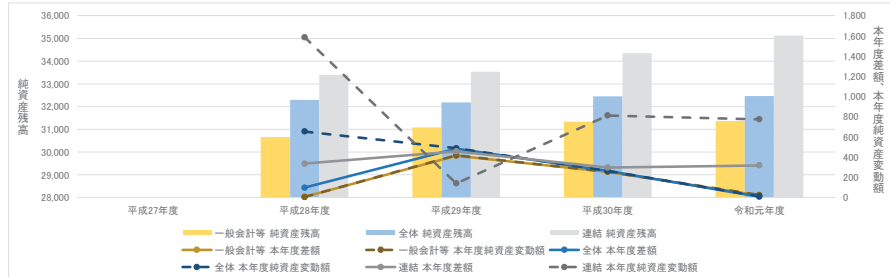
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,464 | 3,193 | 3,286 | 3,543 |
| | 純行政コスト | | 3,539 | 3,192 | 3,233 | 3,557 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,547 | 4,214 | 4,158 | 4,361 |
| | 純行政コスト | | 5,622 | 4,213 | 4,105 | 4,374 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,467 | 6,953 | 6,818 | 7,215 |
| | 純行政コスト | | 6,541 | 6,953 | 6,767 | 7,228 |



分析:
一般会計等における経常費用は3,766百万円で、業務費用と移転費用の割合はそれぞれ50.0%で構成されている。業務費用の内訳を細分化すると、人件費が19.0%を占めており、前年度と比べ7.5%の減少となっている。引き続き類似団体平均値と大幅な乖離のないよう適正な定員管理に取り組む。
全体では、一般会計等と比べて水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が171百万円多くなっている一方、国民健康保険や後期高齢者医療保険などの負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が905百万円多くなり、純行政コストは817百万円多くなっている。
連結では、一般会計等と比べて経常収益が278百万円多くなっている一方、人件費や補助金等をはじめとする経常費用も3,950百万円多くなり、純行政コストは3,671百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

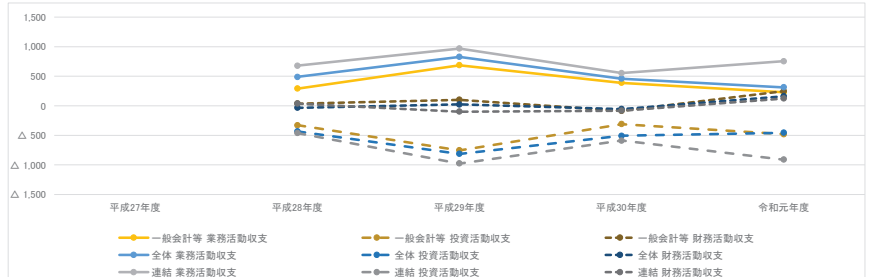
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 6 | 413 | 252 | 20 |
| | 本年度純資産変動額 | | 6 | 417 | 253 | 25 |
| | 純資産残高 | | 30,665 | 31,083 | 31,335 | 31,360 |
| 全体 | 本年度差額 | | 97 | 483 | 262 | 7 |
| | 本年度純資産変動額 | | 652 | 487 | 263 | 12 |
| | 純資産残高 | | 32,299 | 32,185 | 32,448 | 32,460 |
| 連結 | 本年度差額 | | 335 | 456 | 296 | 318 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,586 | 139 | 811 | 774 |
| | 純資産残高 | | 33,395 | 33,534 | 34,349 | 35,123 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(3,577百万円)が純行政コスト(3,557百万円)を上回ったことから、本年度差額は20百万円となり、純資産残高は25百万円の増加となった。
全体では、国民健康保険特別会計と後期高齢者医療特別会計の国民健康保険税や後期高齢者医療保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等の財源が904百万円多くなっており、本年度差額は7百万円、純資産残高は12百万円の増加となった。
連結では、穂高広域施設組合での新ごみ処理施設整備事業等により、本年度差額は318百万円となり、純資産残高は774百万円の増加となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 290 | 685 | 390 | 229 |
| | 投資活動収支 | | △ 329 | △ 754 | △ 311 | △ 480 |
| | 財務活動収支 | | 35 | 101 | △ 85 | 248 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 488 | 827 | 457 | 311 |
| | 投資活動収支 | | △ 433 | △ 814 | △ 507 | △ 456 |
| | 財務活動収支 | | △ 35 | 23 | △ 56 | 161 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 678 | 968 | 554 | 754 |
| | 投資活動収支 | | △ 461 | △ 977 | △ 588 | △ 911 |
| | 財務活動収支 | | 36 | △ 100 | △ 83 | 123 |

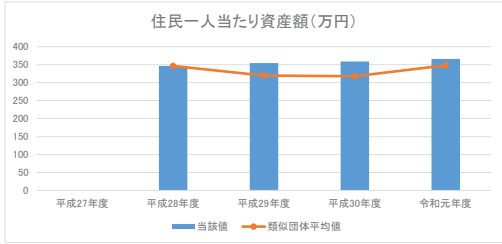


分析:
一般会計等においては、業務活動収支は229百万円であったが、投資活動収支については、庁舎大規模改修事業や、小中学校空調整備事業などを行ったことから、△480百万円となった。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債償還額を上回ったことから248百万円となっており、本年度末資金残高は49百万円となった。
全体では、国民健康保険税や後期高齢者医療保険料、水道料金などの業務収入があることから、業務活動収支は一般会計等より82百万円多い311百万円となっている。
連結では、穂高広域施設組合において実施した新ごみ処理施設整備事業などにより、投資活動収支が△911百万円となっている。

1. 資産の状況

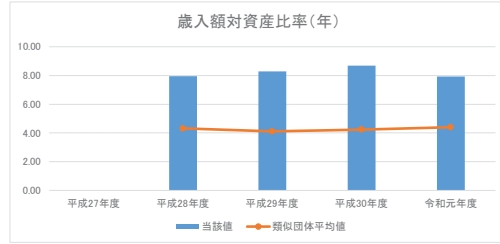
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,443,549 | 3,492,497 | 3,507,651 | 3,535,493 |
| 人口 | | 9,943 | 9,846 | 9,762 | 9,663 |
| 当該値 | | 346.3 | 354.7 | 359.3 | 365.9 |
| 類似団体平均値 | | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

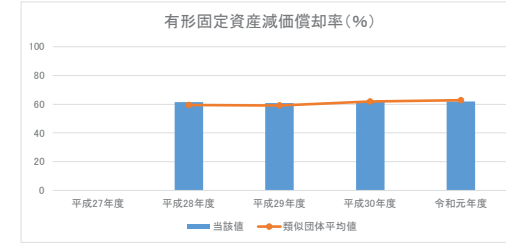
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 34,435 | 34,925 | 35,077 | 35,355 |
| 歳入総額 | | 4,326 | 4,215 | 4,036 | 4,456 |
| 当該値 | | 7.96 | 8.29 | 8.69 | 7.93 |
| 類似団体平均値 | | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 8,056 | 8,294 | 8,547 | 8,806 |
| 有形固定資産 ※1 | | 13,112 | 13,622 | 13,829 | 14,245 |
| 当該値 | | 61.4 | 60.9 | 61.8 | 61.8 |
| 類似団体平均値 | | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

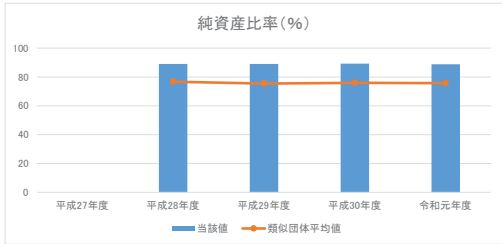
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

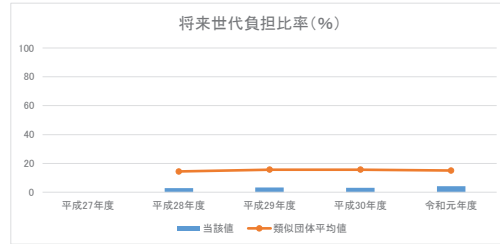
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 30,665 | 31,083 | 31,335 | 31,360 |
| 資産合計 | | 34,435 | 34,925 | 35,077 | 35,355 |
| 当該値 | | 89.1 | 89.0 | 89.3 | 88.7 |
| 類似団体平均値 | | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 912 | 1,033 | 972 | 1,282 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 31,147 | 31,441 | 31,379 | 31,569 |
| 当該値 | | 2.9 | 3.3 | 3.1 | 4.1 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

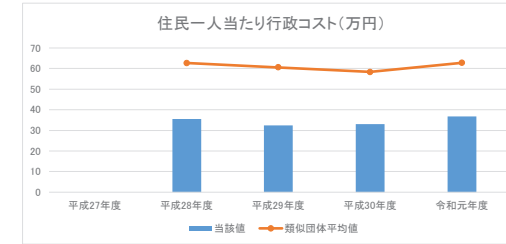
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

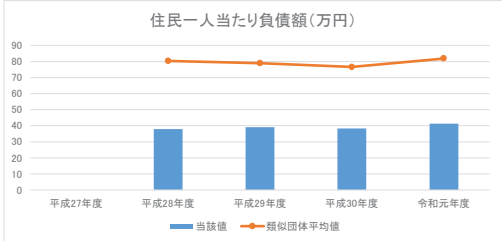
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 353,922 | 319,219 | 323,314 | 355,687 |
| 人口 | | 9,943 | 9,846 | 9,762 | 9,663 |
| 当該値 | | 35.6 | 32.4 | 33.1 | 36.8 |
| 類似団体平均値 | | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

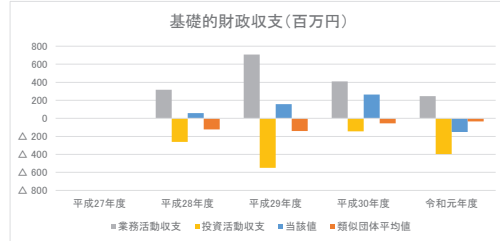
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 376,935 | 384,239 | 374,130 | 399,479 |
| 人口 | | 9,943 | 9,846 | 9,762 | 9,663 |
| 当該値 | | 37.9 | 39.0 | 38.3 | 41.3 |
| 類似団体平均値 | | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 318 | 708 | 409 | 245 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 260 | △ 549 | △ 144 | △ 395 |
| 当該値 | | 58 | 159 | 265 | △ 150 |
| 類似団体平均値 | | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

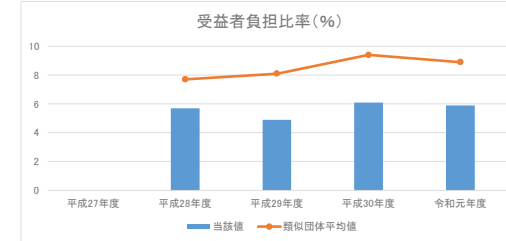
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 211 | 165 | 215 | 223 |
| 経常費用 | | 3,675 | 3,358 | 3,501 | 3,766 |
| 当該値 | | 5.7 | 4.9 | 6.1 | 5.9 |
| 類似団体平均値 | | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

- ①住民一人当たりの資産額は、類似団体平均と同程度の水準となっている。
- ②歳入額対資産比率は、類似団体平均より高い水準となっている。
- ③有形固定資産減価償却率は、類似団体平均と同程度の水準となっている。

今後人口の減少が見込まれる中、より適正な規模の資産を維持していく必要があるため、公共施設等総合管理計画に基づき、スリム化や適正管理に努めている。

2. 資産と負債の比率

- ④純資産比率は、類似団体平均と比較すると若干高い水準となっている。
- ⑤将来世代負担比率は、類似団体平均と比較し低い水準となっている。

公共施設の老朽化に対する維持補修費の増加が見込まれる一方、人口や税収の大幅な増加は見込みにくい。このことをふまえた上で世代間のバランスを考慮した資産の形成や更新に努める。

3. 行政コストの状況

- ⑥住民一人当たりの行政コストは、類似団体と比較し低い水準となっている。

少子高齢化の進展による税収減と社会保障関係費の増が見込まれることから、行財政改革による歳出削減に継続的に取り組む。

4. 負債の状況

- ⑦住民一人当たり負債額は、類似団体平均より低い水準となっている。
- ⑧基礎的財政収支は物件費等支出及び公共施設等整備費支出が大幅に増加したことにより、大きくマイナスとなった。

住民一人当たりの負債額はH30と比較し微増した。今後、R4をピークにさらに元利償還金の増加が見込まれることから、将来的財政負担に留意した地方債の活用にも努めるとともに、公共施設等の維持管理、改修などを計画的に実施し、基礎的財政収支のプラスを目指していく必要がある。

5. 受益者負担の状況

- ⑨受益者負担比率は、類似団体平均と比較し若干低い水準となっている。

受益者負担の適正水準については今後庁内での検討を進め、持続可能で堅実な行財政運営に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県白馬村
団体コード 204854

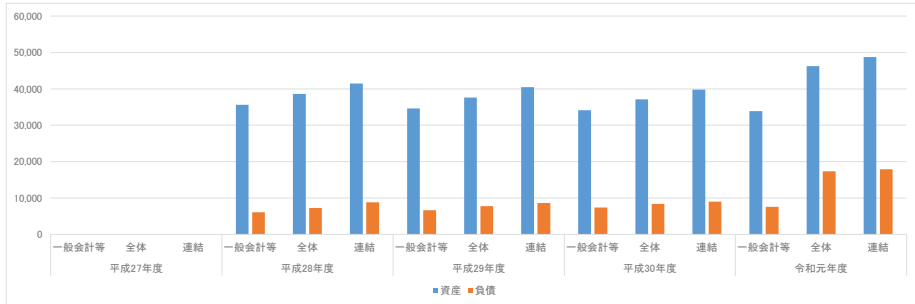
| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 9,484 人(R2:1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 90 人 |
| 面積 | 189.36 km ² | 実質赤字比率 | - |
| 標準財政規模 | 3,512,885 千円 | 連結実質赤字比率 | - |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-2 | 実質公債費率 | 10.9% |
| | | 将来負担比率 | 70.7% |

| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
|-------|----|--------|
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 35,616 | 34,612 | 34,111 | 33,856 |
| | 負債 | | 6,113 | 6,670 | 7,388 | 7,549 |
| 全体 | 資産 | | 38,614 | 37,627 | 37,104 | 46,269 |
| | 負債 | | 7,284 | 7,765 | 8,392 | 17,364 |
| 連結 | 資産 | | 41,433 | 40,471 | 39,774 | 48,766 |
| | 負債 | | 8,811 | 8,628 | 9,004 | 17,901 |

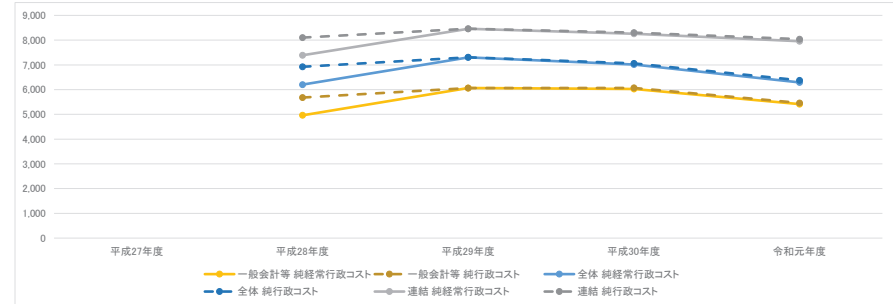


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から255百万円の減少(-0.7%)となった。金額の変動が大きいものは有形固定資産であり、主に小中学校空調設備更新に伴う増加や白馬村ウイング21高層屋根改修工事増加と減価償却による減少により総額として減少した。それ以外では、流動資産は主に歳入歳出引額の増加や財政調整基金残高の増加により、総額として増加した。負債総額が前年度末から161百万円の増加(+2.2%)となった。固定負債も流動負債も主に地方債発行が進んだ結果、地方債残高が増加したことによるものである。今後、新規に発行する地方債の抑制を行う必要がある。
全体においては、一般会計等の増減理由と同様の理由に追加して、令和元年度より公営起業法適用にあわせて下水道事業会計が連結対象会計となったため、資産は下水道事業会計で計上している固定資産の分増加し、負債も下水道事業会計で計上している地方債や長期前受収益等の分増加した。
連結においては、一般会計等財務書類および全体財務書類の増減理由と同様である。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,962 | 6,066 | 6,028 | 5,418 |
| | 純行政コスト | | 5,678 | 6,065 | 6,068 | 5,463 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 6,203 | 7,303 | 7,015 | 6,294 |
| | 純行政コスト | | 6,920 | 7,306 | 7,060 | 6,378 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 7,389 | 8,459 | 8,259 | 7,958 |
| | 純行政コスト | | 8,106 | 8,462 | 8,305 | 8,040 |

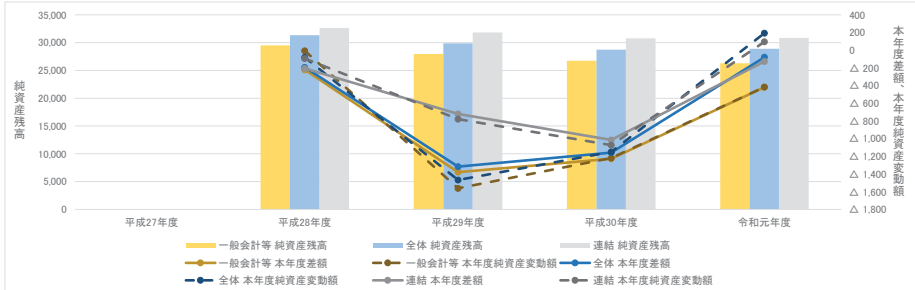


分析:
一般会計等においては、経常費用は5,788百万円となり、前年度比557百万円の増加(+8.8%)となった。最も金額が大きいのは物件費等(2,349百万円、前年度比-416百万円、-15.0%)である。物件費が減少した原因は、主に昨年度に比べて普通建設事業が減っているため、普通建設事業費のうち物件費に計上される費用が減少したことや除雪委託料が減少したこと等によるものである。経常収益は370百万円となり、前年度比53百万円の増加(+16.7%)となった。主に、その他経常収益の損害保険料が増加していること等によるものである。
全体においては経常費用(7,134百万円、前年度比-477百万円、-6.3%)が、一般会計等の増減理由と同様の理由に追加して、令和元年度より公営起業法適用にあわせて下水道事業会計が連結対象会計となったため、主に移転費用で下水道事業会計への繰出金を相殺消去したこと等により減少した。経常収益(840百万円、前年度比+244百万円、+40.9%)も、主に使用料・手数料で経常費用と同様の理由で、下水道事業会計で計上している下水道使用料等の分増加した。
連結においては、一般会計等財務書類および全体財務書類の増減理由と同様である。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|---------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 221 | △ 1,379 | △ 1,226 | △ 419 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 7 | △ 1,561 | △ 1,219 | △ 416 |
| | 純資産残高 | | 29,503 | 27,942 | 26,723 | 26,307 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 193 | △ 1,316 | △ 1,158 | △ 80 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 81 | △ 1,467 | △ 1,151 | 193 |
| | 純資産残高 | | 31,330 | 29,863 | 28,712 | 28,905 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 206 | △ 721 | △ 1,014 | △ 127 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 94 | △ 779 | △ 1,073 | 95 |
| | 純資産残高 | | 32,622 | 31,843 | 30,770 | 30,865 |

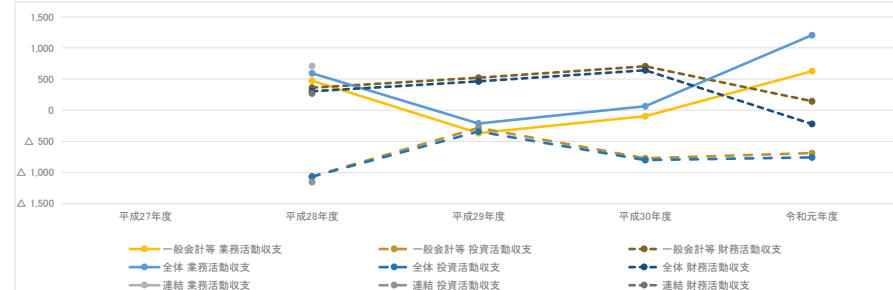


分析:
一般会計等においては、税金や国庫補助金などの財源(5,044百万円)は、主に寄附金や地方創生推進交付金の増加等により増加したものであるが、純行政コスト(5,463百万円)を下回っており、本年度差額は-419百万円、純資産変動額も416百万円の減少となった。自主財源である地方税の債権確保策の強化等によりさらに収収等の増加に努める。
全体においては、期末純資産残高が前年度末より193百万円の増加(+0.7%)となった。一般会計等の増減理由と同様の理由に追加して、令和元年度より公営起業法適用にあわせて下水道事業会計が連結対象会計となったため、下水道事業会計で計上している期首純資産残高等の分増加した。
連結においては、一般会計等財務書類および全体財務書類の増減理由と同様である。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 474 | △ 368 | △ 95 | 626 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,066 | △ 283 | △ 774 | △ 689 |
| | 財務活動収支 | | 362 | 523 | 706 | 145 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 593 | △ 214 | 63 | 1,206 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,068 | △ 343 | △ 802 | △ 757 |
| | 財務活動収支 | | 304 | 464 | 642 | △ 222 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 710 | | | |
| | 投資活動収支 | | △ 1,154 | | | |
| | 財務活動収支 | | 271 | | | |



分析:
一般会計等においては、業務活動収支は、主に北アルプス広域連合に対する負担金支出の減少や寄附金等の税収増加等により総額として前年度と比べて721百万円増加した。投資活動収支は、主に昨年度発生していた白馬村学校給食センター新築工事支出が削減したことや小中学校設備更新に伴う工事支出が増加したこと等により総額として支出が減少し、前年度と比べて85百万円増加した。財務活動収支は、主に昨年度に比べて地方債発行額が減少したことによって561百万円減少した。
全体においては、一般会計等の増減理由と同様の理由に追加して、令和元年度より公営起業法適用にあわせて下水道事業会計が連結対象会計となったため、業務活動収支は下水道事業会計で計上している業務活動収支のプラス分増加し、財務活動収支も下水道事業会計で計上している財務活動収支のマイナス分減少した。

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,561,577 | 3,461,178 | 3,411,126 | 3,385,601 |
| 人口 | | 9,229 | 9,244 | 9,447 | 9,484 |
| 当該値 | | 385.9 | 374.4 | 361.1 | 357.0 |
| 類似団体平均値 | | 309.8 | 323.8 | 297.9 | 297.0 |

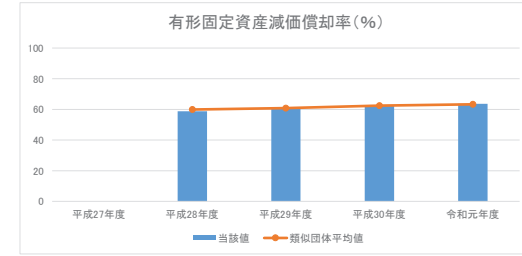
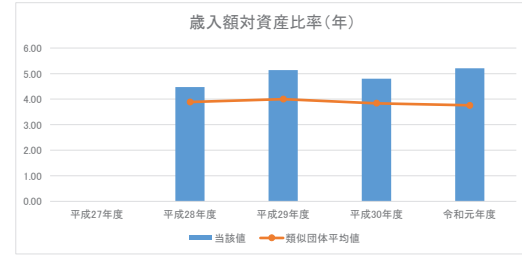
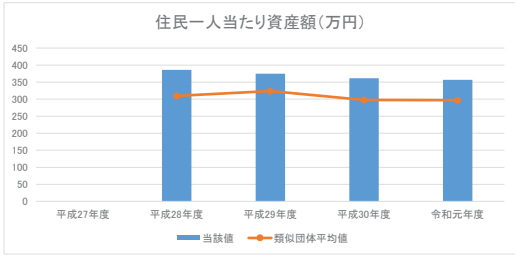
②歳入額対資産比率(年)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 35,616 | 34,612 | 34,111 | 33,856 |
| 歳入総額 | | 7,961 | 6,734 | 7,112 | 6,498 |
| 当該値 | | 4.47 | 5.14 | 4.80 | 5.21 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 4.00 | 3.84 | 3.76 |

③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 25,019 | 26,021 | 27,005 | 28,037 |
| 有形固定資産 ※1 | | 42,536 | 42,644 | 43,502 | 44,011 |
| 当該値 | | 58.8 | 61.0 | 62.1 | 63.7 |
| 類似団体平均値 | | 59.9 | 60.8 | 62.4 | 63.3 |

※1 有形固定資産合計一土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

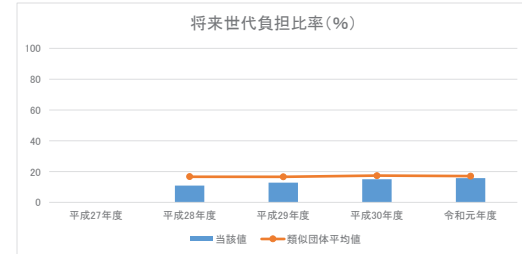
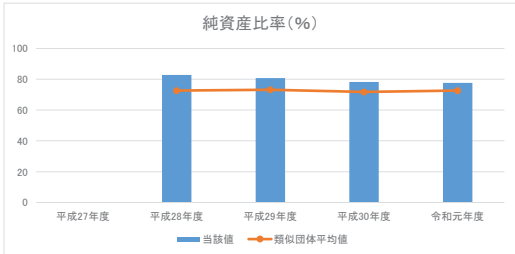
④純資産比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 29,503 | 27,942 | 26,723 | 26,307 |
| 資産合計 | | 35,616 | 34,612 | 34,111 | 33,856 |
| 当該値 | | 82.8 | 80.7 | 78.3 | 77.7 |
| 類似団体平均値 | | 72.7 | 73.2 | 71.8 | 72.7 |

⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,608 | 4,101 | 4,800 | 4,976 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 32,987 | 32,068 | 31,970 | 31,539 |
| 当該値 | | 10.9 | 12.8 | 15.0 | 15.8 |
| 類似団体平均値 | | 16.7 | 16.6 | 17.4 | 17.0 |

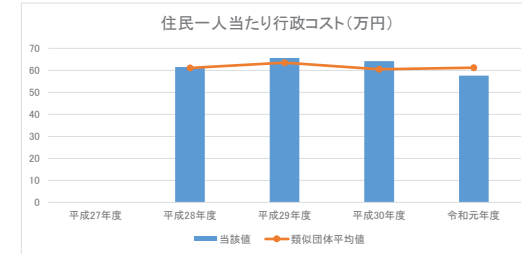
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 567,755 | 606,536 | 606,819 | 546,337 |
| 人口 | | 9,229 | 9,244 | 9,447 | 9,484 |
| 当該値 | | 61.5 | 65.6 | 64.2 | 57.6 |
| 類似団体平均値 | | 61.7 | 63.5 | 60.5 | 61.2 |



4. 負債の状況

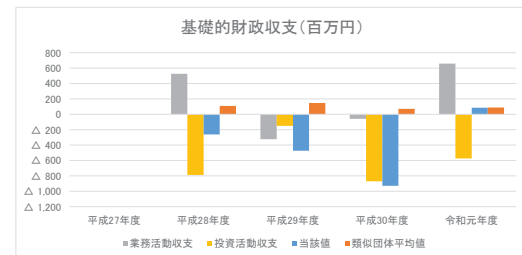
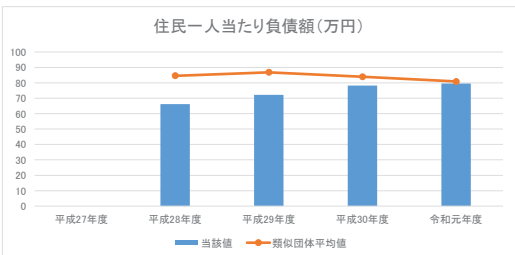
⑦住民一人当たり負債額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 611,308 | 667,022 | 738,826 | 754,867 |
| 人口 | | 9,229 | 9,244 | 9,447 | 9,484 |
| 当該値 | | 66.2 | 72.2 | 78.2 | 79.6 |
| 類似団体平均値 | | 84.6 | 86.8 | 84.0 | 80.9 |

⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 526 | △324 | △58 | 658 |
| 投資活動収支 ※2 | | △787 | △150 | △870 | △574 |
| 当該値 | | △261 | △474 | △928 | 84 |
| 類似団体平均値 | | 106.9 | 145.9 | 71.5 | 86.4 |

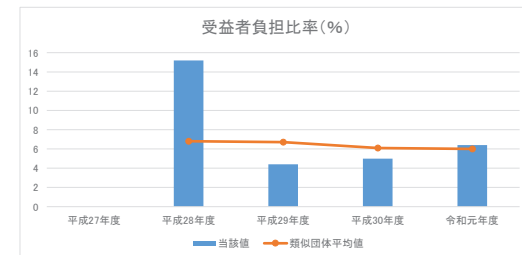
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 887 | 276 | 317 | 370 |
| 経常費用 | | 5,850 | 6,342 | 6,345 | 5,788 |
| 当該値 | | 15.2 | 4.4 | 5.0 | 6.4 |
| 類似団体平均値 | | 6.8 | 6.7 | 6.1 | 6.0 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況
 住民一人当たり資産額は、類似団体平均を上回っている。しかし、老朽化した施設が多く、将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画、令和元年度に策定した白鳥村個別施設計画や白鳥村公共施設再編整備計画に基づき、公共施設等の集約化・複合化、解体、改修等を進め、公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率
 将来世代負担比率は、類似団体を下回っているが、これは、神城断層地震が発生する平成26年度までは新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努めたためである。ただし震災以降、地方債の新規発行が増大しているため今後注視が必要である。

3. 行政コストの状況
 住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っている。例年、純行政コストのうち減価償却費を含む物件費等が高くなる要因となっているが、令和元年度の物件費等は昨年度に比べて普通建設事業が減ったため普通建設事業費の内、物件費に計上される費用が減少したことや除雪委託料が減少したことが、その要因と考えられる。今後も引き続き行政改革への取り組みを通して経費の抑制に努める。

4. 負債の状況
 住民一人当たりの負債額はかろうじて類似団体を下回っているが、前年度から14万円増加し年々増加傾向にある。神城断層地震が発生する平成26年度までは新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、高利率の地方債の繰上償還を行うなど、地方債残高の縮小に努めたためである。ただし震災以降、地方債の新規発行が増大しているため今後注視が必要である。

5. 受益者負担の状況
 受益者負担比率は、類似団体平均を上回っている状況にある。その要因としては、主に山小屋にかかる損害保険料が増加して経常収益が増えたことと、主に除雪委託料等が減少して経常費用が減ったことが挙げられる。今後も引き続き未利用地の売却など自主財源の確保に努める。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県小谷村
団体コード 204862

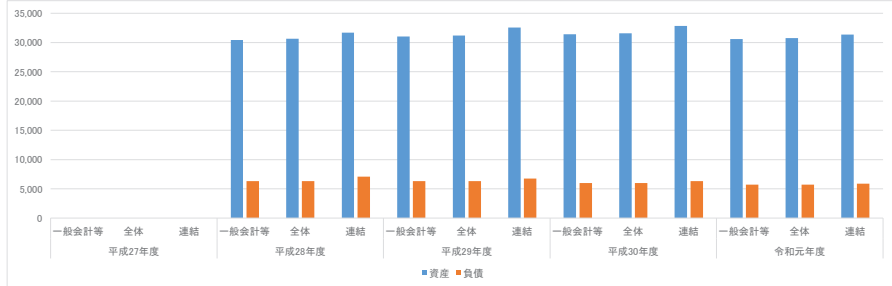
| | | | |
|--------|------------------------|------------|-------|
| 人口 | 2,965人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 60人 |
| 面積 | 267.91 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,358.375千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村1-2 | 実質公債費率 | 11.4% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 30,440 | 31,025 | 31,420 | 30,589 |
| | 負債 | | 6,340 | 6,290 | 6,005 | 5,691 |
| 全体 | 資産 | | 30,645 | 31,214 | 31,600 | 30,763 |
| | 負債 | | 6,342 | 6,290 | 6,005 | 5,691 |
| 連結 | 資産 | | 31,693 | 32,567 | 32,855 | 31,375 |
| | 負債 | | 7,081 | 6,726 | 6,300 | 5,886 |

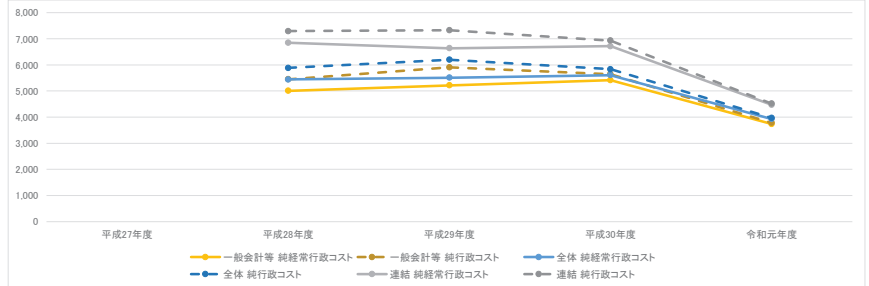


分析:
一般会計等については、総資産額が前年度末から831百万円の減少(-2.64%)となった。金額の変動が大きいものは事業用資産・インフラ資産・基金であり、事業用資産は種の鳴る丘村営住宅建設工事、おたり開発総合センター多目的ホール改修工事等の実施による建物の取得(561百万円)が建物減価償却による資産の減少額(288百万円)を上回ったことから、321百万円増加した。インフラ資産は村道・林道改良工事などによる工作物の取得額(253百万円)が工作物減価償却による資産の減少額(846百万円)を下回ったことから593百万円減少した。また、基金(固定資産)はふるさと応援寄附金を活用した種の鳴る丘村営住宅の建設工事等を実施したことにより、取崩額が寄附額を上回り、603百万円減少した。基金(流動資産)は財政調整基金の積立を行ったことから、20百万円増加した。
全体会計の増減については、特別な項目はありません。
連結会計の増減については、特別な項目はありません。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 5,007 | 5,219 | 5,416 | 3,738 |
| | 純行政コスト | | 5,450 | 5,907 | 5,644 | 3,781 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,444 | 5,509 | 5,605 | 3,928 |
| | 純行政コスト | | 5,886 | 6,197 | 5,834 | 3,971 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,848 | 6,640 | 6,718 | 4,472 |
| | 純行政コスト | | 7,290 | 7,327 | 6,928 | 4,515 |

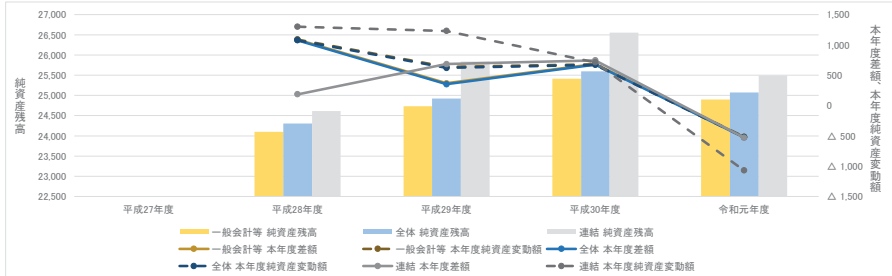


分析:
一般会計等については、純経常行政コストは前年度比1,678百万円の減少(-30.9%)、純行政コストは前年度比1,863(-33.0%)となった。これは、ふるさと応援寄附金事業の見直しにより、報償費・役務費・委託料などの物件費が昨年度より1,615百万円と大幅に減少になったことが主な要因であること、平成26年11月に発生した神城断層地震災害の完了による臨時損失の減少(179百万円)が要因である。
全体会計については、純経常行政コストは前年度比1,677百万円の減少(-31.9%)となった。主な要因は一般会計の増減によるものである。
連結会計については、純経常行政コストは前年度比2,246百万円の減少(-33.4%)、純行政コストは前年度比2,413百万円の減少(-34.8%)となった。主な要因は一般会計の増減によるものである。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 1,087 | 366 | 684 | △521 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,087 | 635 | 680 | △517 |
| | 純資産残高 | | 24,100 | 24,735 | 25,415 | 24,898 |
| 全体 | 本年度差額 | | 1,075 | 351 | 675 | △527 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,075 | 620 | 671 | △523 |
| | 純資産残高 | | 24,304 | 24,924 | 25,595 | 25,071 |
| 連結 | 本年度差額 | | 184 | 684 | 744 | △530 |
| | 本年度純資産変動額 | | 1,300 | 1,228 | 714 | △1,073 |
| | 純資産残高 | | 24,612 | 25,840 | 26,555 | 25,489 |

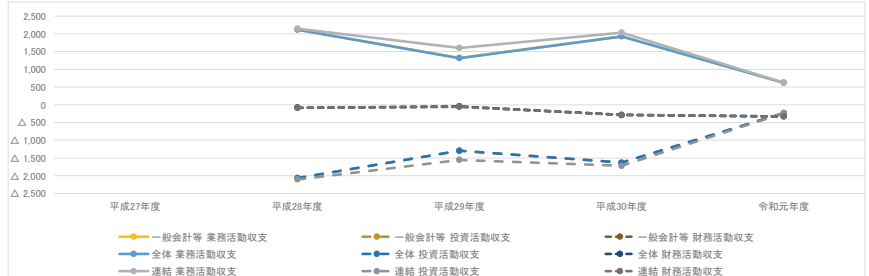


分析:
一般会計等については、収取等の財源(3,260百万円)が純行政コスト(3,781百万円)(前年度比△1,863百万円)を下回ったことから、本年度差額は△521百万円(前年度比△1,205百万円)となり、本年度純資産残高は517百万円減少し、24,898百万円となった。純行政コストが前年度比△1,863百万円となった主な要因は、ふるさと応援寄附金事業の見直しによる物件費の減少(1,615百万円)によるものである。
全体会計については、収取等の財源(3,443百万円)が純行政コスト(3,970百万円)を下回ったことから、本年度差額は△527百万円(前年度比△1,202百万円)となり、本年度純資産残高は523百万円減少し、25,071百万円となった。主な要因は、一般会計等における減少である。
連結会計については、収取等の財源(3,985百万円)が純行政コスト(4,515百万円)を下回ったことから、本年度差額は△530百万円(前年度比△1,274百万円)となり、本年度純資産残高は530百万円減少し、25,489百万円となった。主な要因は、比例連結割合変更に伴う差額547百万円の減少と、一般会計等における減少である。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 2,117 | 1,325 | 1,925 | 619 |
| | 投資活動収支 | | △2,065 | △1,294 | △1,630 | △231 |
| | 財務活動収支 | | △84 | △286 | △286 | △328 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 2,117 | 1,317 | 1,925 | 620 |
| | 投資活動収支 | | △2,066 | △1,296 | △1,630 | △231 |
| | 財務活動収支 | | △84 | △48 | △286 | △328 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 2,147 | 1,601 | 2,034 | 624 |
| | 投資活動収支 | | △2,106 | △1,553 | △1,720 | △235 |
| | 財務活動収支 | | △82 | △58 | △287 | △330 |



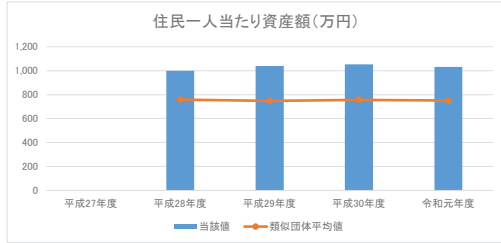
分析:
一般会計等については、業務活動収支は619百万円となり前年度比1,306百万円の減少となった。これは、ふるさと応援寄附金事業費の大幅な減少等による業務費用支出の減少(1,659百万円)と、それに伴うふるさと応援寄附金などの業務収入の減少(3,033百万円)が主な要因である。投資活動収支については、村道改良・補修工事等の公共施設整備や基金積立を行い、△231百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還支出が地方債発行収入を上回ったことから、△328百万円となっている。地方債の償還は進んでおり、経常的な活動に係る経費は収取等の収入で賄えている状況である。
全体会計については、特別な項目はありません。
連結会計については、特別な項目はありません。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

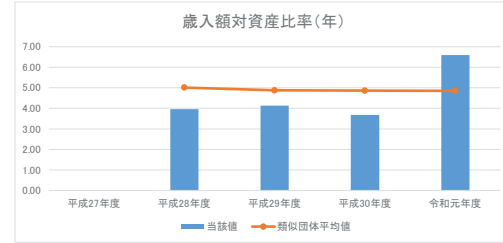
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,043,995 | 3,102,511 | 3,142,017 | 3,058,885 |
| 人口 | | 3,042 | 2,985 | 2,981 | 2,965 |
| 当該値 | | 1,000.7 | 1,039.4 | 1,054.0 | 1,031.7 |
| 類似団体平均値 | | 758.3 | 747.9 | 757.0 | 750.9 |



②歳入額対資産比率(年)

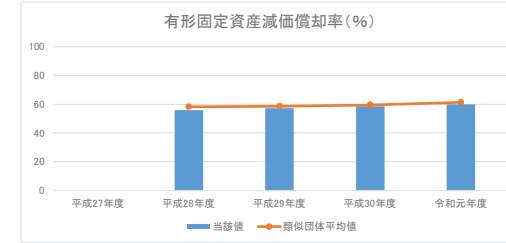
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 30,440 | 31,025 | 31,420 | 30,589 |
| 歳入総額 | | 7,690 | 7,513 | 8,539 | 4,643 |
| 当該値 | | 3.96 | 4.13 | 3.68 | 6.59 |
| 類似団体平均値 | | 5.01 | 4.88 | 4.86 | 4.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 30,386 | 31,502 | 32,636 | 33,774 |
| 有形固定資産 ※1 | | 54,473 | 55,110 | 55,650 | 56,468 |
| 当該値 | | 55.8 | 57.2 | 58.6 | 59.8 |
| 類似団体平均値 | | 58.2 | 58.6 | 59.5 | 61.3 |

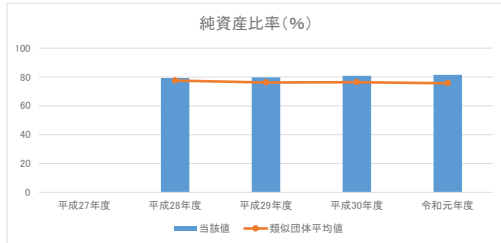
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

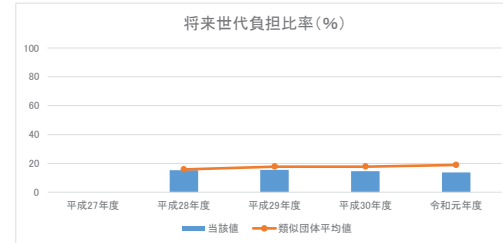
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 24,100 | 24,735 | 25,415 | 24,898 |
| 資産合計 | | 30,440 | 31,025 | 31,420 | 30,589 |
| 当該値 | | 79.2 | 79.7 | 80.9 | 81.4 |
| 類似団体平均値 | | 77.5 | 76.1 | 76.4 | 75.6 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,856 | 3,833 | 3,585 | 3,329 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 25,252 | 24,929 | 24,469 | 24,152 |
| 当該値 | | 15.3 | 15.4 | 14.7 | 13.8 |
| 類似団体平均値 | | 15.8 | 17.8 | 17.8 | 18.9 |

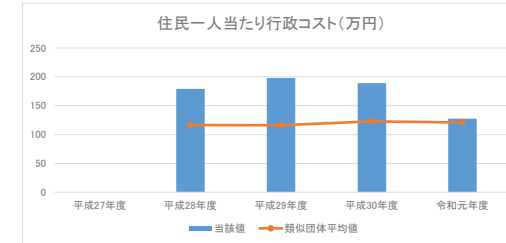
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

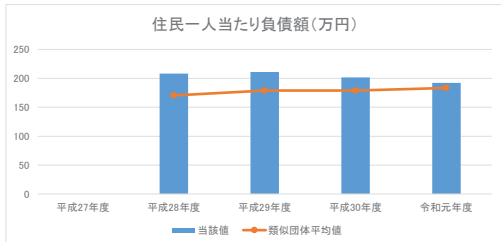
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 544,957 | 590,747 | 564,447 | 378,097 |
| 人口 | | 3,042 | 2,985 | 2,981 | 2,965 |
| 当該値 | | 179.1 | 197.9 | 189.3 | 127.5 |
| 類似団体平均値 | | 116.6 | 116.1 | 122.8 | 121.0 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

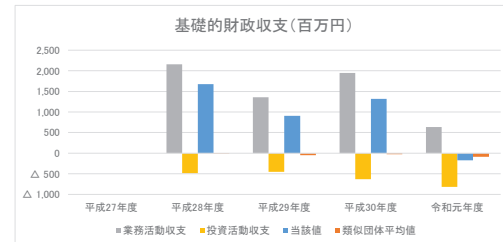
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 633,974 | 629,008 | 600,549 | 569,118 |
| 人口 | | 3,042 | 2,985 | 2,981 | 2,965 |
| 当該値 | | 208.4 | 210.7 | 201.5 | 191.9 |
| 類似団体平均値 | | 170.4 | 178.9 | 178.7 | 183.3 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 2,159 | 1,357 | 1,949 | 638 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 481 | △ 450 | △ 631 | △ 813 |
| 当該値 | | 1,678 | 907 | 1,318 | △ 175 |
| 類似団体平均値 | | △ 3.0 | △ 47.9 | △ 22.9 | △ 89.0 |

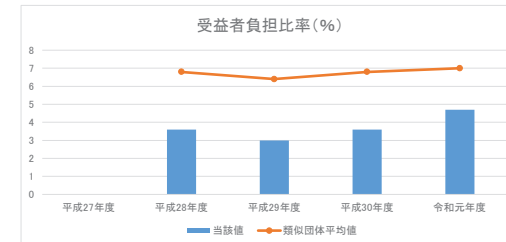
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 185 | 160 | 201 | 183 |
| 経常費用 | | 5,192 | 5,378 | 5,617 | 3,922 |
| 当該値 | | 3.6 | 3.0 | 3.6 | 4.7 |
| 類似団体平均値 | | 6.8 | 6.4 | 6.8 | 7.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額は類似団体平均を大きく上回っているが、当村は集落や地区が散在しているため、道路等インフラを各々の集落・地区ごとに整備しなければならぬためである。毎年、村道等の改良・補修を行っていることに加え、今後は橋梁等の改修工事を計画的に進めていく必要がある。令和元年度の歳入額対資産比率が増加している要因は、ふるさと応援寄附額が平成30年度3,055百万円から令和元年度255百万円と2,800百万円減少したことが主な要因である。

2. 資産と負債の比率

当村は過疎地域であることから、過疎対策事業債を活用することでインフラの維持等を行っている。将来世代負担比率は、類似団体平均と同程度であり、純資産比率・将来世代負担比率はほぼ横ばいである。今後、新規に発行する地方債の抑制を行うなど、地方債残高を圧縮し、将来世代の負担減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コスト類似団体平均を上回っている状況であるが、令和元年度はふるさと応援寄附金事業費の大幅な減少により、類似団体平均値と同程度となった。ふるさと応援寄附金事業については、寄附額の3割を返礼品、2割を役員費等、5割を積立として運用しており、今後も今年度並みで推移すると見込んでいる。引き続き、その他経常経費の抑制に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は類似団体平均を上回っているが、当村は過疎地域であるため過疎対策事業債を十分に活用して各事業を実施している。あらゆる事業において地方債を発行するため、負債額が上昇する傾向にある。今後、住民一人当たり負債額が実質公債費比率を注視する中で、適切な起債管理を行っている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低くなっている。ふるさと応援寄附金事業や村道除雪事業等の直接受益者負担に結びつかない経費が含まれていることから、受益者負担比率は低くなる傾向にある。公共施設の利用料金については、見直し等を随時行い、経費の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

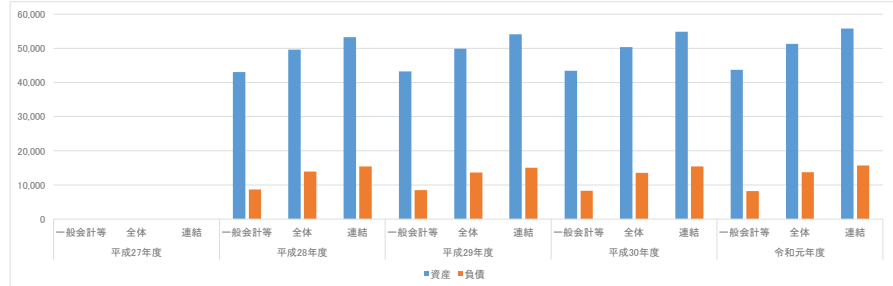
団体名 長野県坂城町
団体コード 205214

| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 14,931人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 129人 |
| 面積 | 53.64km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,296,585千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-1 | 実質公債費率 | 9.1% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| | | |
|-------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

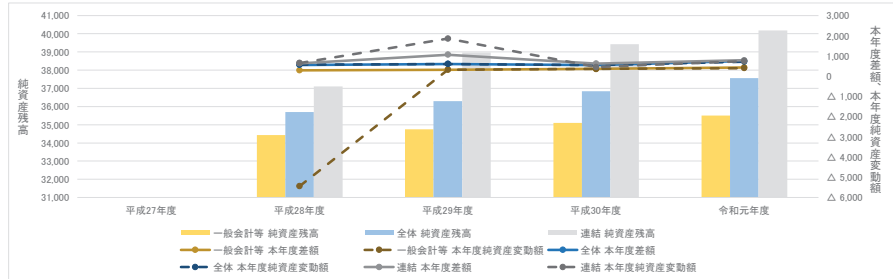
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 43,065 | 43,219 | 43,427 | 43,737 |
| | 負債 | | 8,635 | 8,469 | 8,319 | 8,234 |
| 全体 | 資産 | | 49,622 | 49,959 | 50,408 | 51,292 |
| | 負債 | | 13,925 | 13,660 | 13,561 | 13,729 |
| 連結 | 資産 | | 53,335 | 54,168 | 54,867 | 55,847 |
| | 負債 | | 15,408 | 15,052 | 15,437 | 15,670 |



分析: 一般会計等においては、資産総額が前年度末から310百万円の増加(+0.7%)となりました。金額の変動が大きいものは固定資産のその他基金であり、令和4年度に予定されている温泉施設の大規模改修事業のための積立や、ふるさと納税の増加によるもの、また、工業団地整備のための基金積立などが増加の主な要因である。また、負債総額については前年度末から85百万円(▲1.0%)減少している。これは、長期的な将来負担を考慮した計画的な地方債の新規発行により、地方債に係る長期負債が減少したことによるものである。下水道事業会計等を加えた全体では、資産総額は前年度末から884百万円増加(+1.7%)し、負債総額は前年度末から168百万円増加(+1.2%)した。資産総額は、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等と比べて7,555百万円多く、負債総額も下水道管のインフラ整備に地方債(固定負債)を充当したこと等から、5,495百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

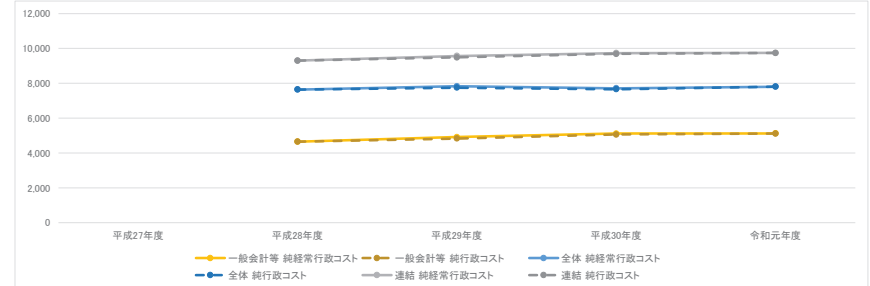
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | 291 | 320 | 359 | 432 |
| | 本年度純資産変動額 | | △5,438 | 320 | 358 | 395 |
| | 純資産残高 | 34,430 | 34,750 | 35,108 | 35,503 | 35,503 |
| 全体 | 本年度差額 | | 554 | 602 | 550 | 754 |
| | 本年度純資産変動額 | | 570 | 602 | 549 | 717 |
| | 純資産残高 | 35,697 | 36,298 | 36,847 | 37,564 | 37,564 |
| 連結 | 本年度差額 | | 637 | 1,061 | 624 | 786 |
| | 本年度純資産変動額 | | 654 | 1,863 | 456 | 747 |
| | 純資産残高 | 37,111 | 38,974 | 39,430 | 40,177 | 40,177 |



分析: 一般会計等においては、税金等、国県等補助金の財源(5,550百万円)が純行政コスト(5,118百万円)を上回ったことから、本年度差額は432百万円(前年度比+73百万円)となり、純資産残高は395百万円の増加となった。今後も地方税の徴収業務の強化等により税金等の財源の増加に努めていく。全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が1,174百万円多くなっており、本年度差額は754百万円となり、純資産残高は717百万円の増加となった。連結では、一般会計等と比べて財源が4,961百万円多く、本年度差額は786百万円となり、純資産残高は747百万円の増加となった。

2. 行政コストの状況

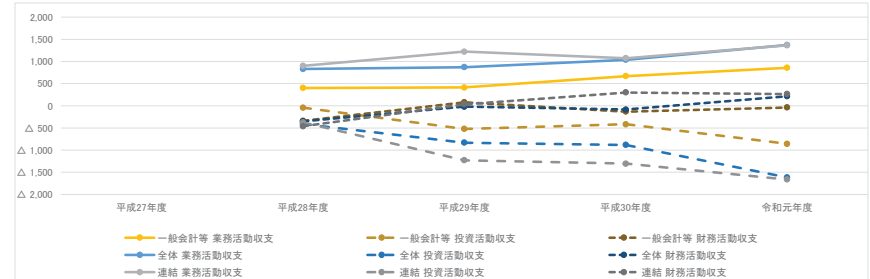
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,649 | 4,913 | 5,116 | 5,121 |
| | 純行政コスト | | 4,650 | 4,828 | 5,063 | 5,118 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 7,638 | 7,834 | 7,716 | 7,810 |
| | 純行政コスト | | 7,639 | 7,749 | 7,663 | 7,808 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 9,304 | 9,565 | 9,736 | 9,748 |
| | 純行政コスト | | 9,303 | 9,485 | 9,690 | 9,745 |



分析: 一般会計等においては、経常費用は5,121百万円となり、前年度比5百万円の増加(+0.1%)となり、総額ベースでは前年度とほぼ同値となった。最も金額が大きいのは物件費(1,179百万円、前年度比▲517百万円)、次いで補助金等(1,007百万円、前年度比▲16百万円)、次いで職員給与等(931百万円、前年度比+5百万円)であり、これらで経常費用全体の58%を占めている。今後も事務の効率化、事業の見直し等により、経費の抑制に努める。全体、連結についても純経常行政コスト、純行政コストともに前年度とほぼ同額となっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 401 | 414 | 668 | 857 |
| | 投資活動収支 | | △42 | △522 | △417 | △856 |
| | 財務活動収支 | | △339 | 79 | △134 | △37 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 831 | 872 | 1,038 | 1,372 |
| | 投資活動収支 | | △411 | △832 | △883 | △1,615 |
| | 財務活動収支 | | △351 | △20 | △84 | 215 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 901 | 1,222 | 1,072 | 1,363 |
| | 投資活動収支 | | △374 | △1,226 | △1,305 | △1,663 |
| | 財務活動収支 | | △460 | 33 | 299 | 266 |



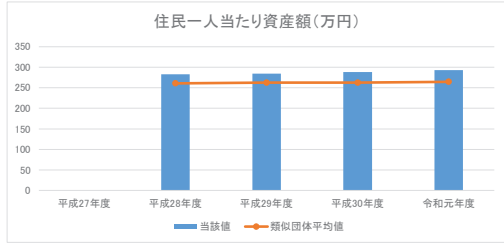
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は857百万円であったが、投資活動収支については、防災行政無線の整備事業を行ったこと等から、▲856百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、▲37百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から35百万円減少し、148百万円となった。全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれること、下水道料金の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より15百万円多い1,372百万円となっている。投資活動収支では、下水道管のインフラ整備を進めたため、▲1,615百万円となっている。財務活動収支は、地方債発行収入が地方債の償還額を上回ったことから、215百万円となり、本年度末資金残高は前年度から28百万円減少し、228百万円となった。また、連結では業務活動収支が1,363百万円、投資活動収支が▲1,663百万円、財務活動収支が266百万円であり、本年度末資金残高は前年度から44百万円減少し、526百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

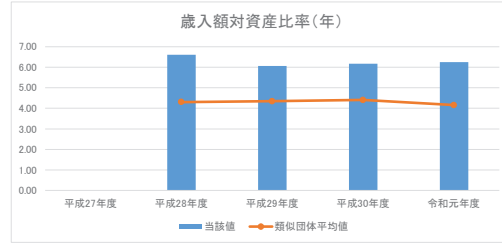
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 4,306,506 | 4,321,868 | 4,342,713 | 4,373,680 |
| 人口 | | 15,241 | 15,188 | 15,074 | 14,931 |
| 当該値 | | 282.6 | 284.6 | 288.1 | 292.9 |
| 類似団体平均値 | | 260.8 | 262.3 | 262.3 | 264.5 |



②歳入額対資産比率(年)

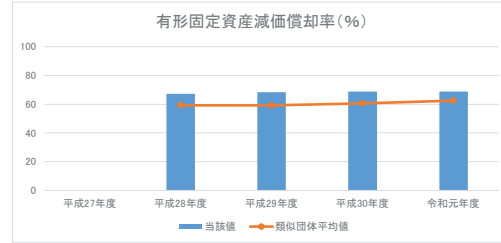
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 43,065 | 43,219 | 43,427 | 43,737 |
| 歳入総額 | | 6,516 | 7,128 | 7,034 | 7,002 |
| 当該値 | | 6.61 | 6.06 | 6.17 | 6.25 |
| 類似団体平均値 | | 4.31 | 4.35 | 4.41 | 4.16 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 20,981 | 21,466 | 21,961 | 21,740 |
| 有形固定資産 ※1 | | 31,168 | 31,431 | 31,852 | 31,585 |
| 当該値 | | 67.3 | 68.3 | 68.9 | 68.8 |
| 類似団体平均値 | | 59.3 | 59.2 | 60.6 | 62.5 |

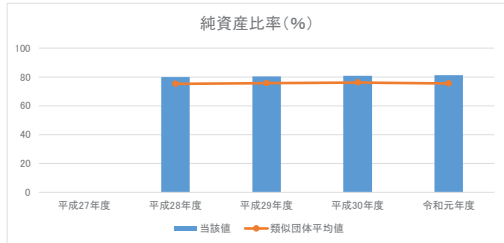
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

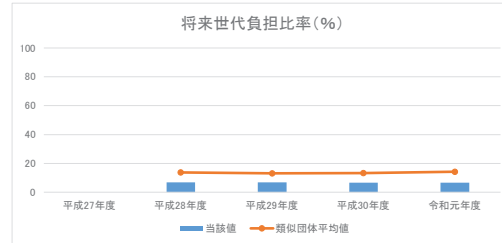
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 34,430 | 34,750 | 35,108 | 35,503 |
| 資産合計 | | 43,065 | 43,219 | 43,427 | 43,737 |
| 当該値 | | 79.9 | 80.4 | 80.8 | 81.2 |
| 類似団体平均値 | | 75.2 | 75.7 | 76.1 | 75.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,533 | 2,605 | 2,450 | 2,458 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 37,472 | 37,754 | 37,805 | 37,793 |
| 当該値 | | 6.8 | 6.9 | 6.5 | 6.5 |
| 類似団体平均値 | | 13.7 | 13.1 | 13.2 | 14.2 |

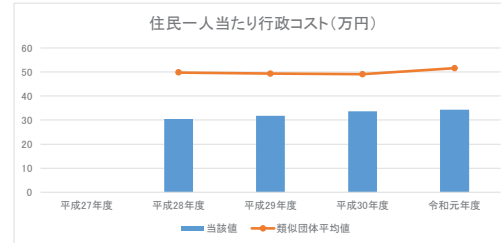
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

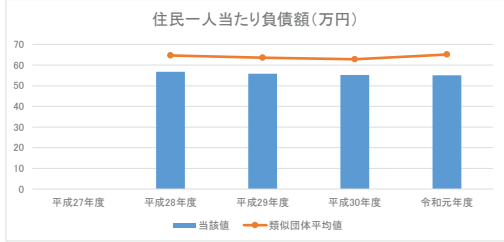
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 465,034 | 482,819 | 506,281 | 511,810 |
| 人口 | | 15,241 | 15,188 | 15,074 | 14,931 |
| 当該値 | | 30.5 | 31.8 | 33.6 | 34.3 |
| 類似団体平均値 | | 49.8 | 49.3 | 49.1 | 51.6 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

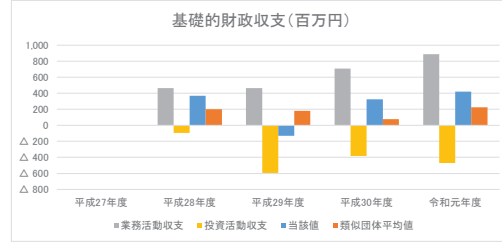
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 863,490 | 846,853 | 831,945 | 823,402 |
| 人口 | | 15,241 | 15,188 | 15,074 | 14,931 |
| 当該値 | | 56.7 | 55.8 | 55.2 | 55.1 |
| 類似団体平均値 | | 64.7 | 63.6 | 62.8 | 65.1 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 464 | 465 | 707 | 887 |
| 投資活動収支 ※2 | | △95 | △594 | △383 | △468 |
| 当該値 | | 369 | △129 | 324 | 419 |
| 類似団体平均値 | | 200.0 | 179.7 | 78.9 | 226.8 |

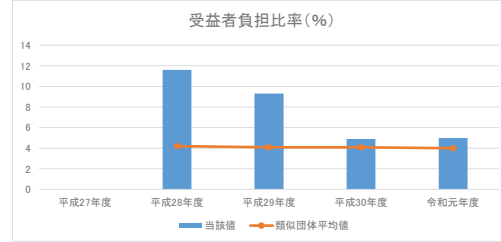
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 608 | 506 | 284 | 267 |
| 経常費用 | | 5,257 | 5,419 | 5,380 | 5,388 |
| 当該値 | | 11.6 | 9.3 | 4.9 | 5.0 |
| 類似団体平均値 | | 4.2 | 4.1 | 4.1 | 4.0 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額(歳入額対資産比率)は、類似団体平均をやや上回っている。また、有形固定資産減価償却率も類似団体と比較して高い状況である。これは、図書館、体育館、保健センター、庁舎等の老朽化が要因である。令和2年度に個別施設計画を策定したところであり、同計画に基づいて、令和4年度には体育館の大規模改修、庁舎においても令和3年度から令和7年度まで屋内外や空調設備などの改修を予定している。また、保健・福祉分野のほか子育て支援などの機能を付加し、幅広い世代の市民が利用できる複合施設の建設を令和8～9年度に予定しており、その建設に伴い令和10年度には現保健センターの解体を予定している。図書館においても、令和4年度には設備の改修を予定している。今後も、公共施設等の集約化・複合化を進めるなどにより、施設保有量の適正化に取り組み。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均と同程度からやや高い状況にある。税込等の財源が純行政コストを上回ったことから純資産が昨年度から増加している。将来世代負担比率については、類似団体の平均と比較して大きく下回っている状況である。今後も、長期的な将来負担を考慮した計画的な地方債の新規発行により、将来世代負担率の上昇を抑えていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たり行政コストは類似団体平均を下回っているが、年々増加傾向が続いている。長期総合計画等の各種長期計画に基づき、効率的な財政運営に努め、住民一人当たり行政コストの増大の抑制に努めていく。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は類似団体平均を下回っており、近年で見ても微減傾向を示している。今後も、長期的な将来負担を考慮した計画的な地方債の新規発行により、負債が過度に大きくならないよう努めていく。基礎的財政収支は、業務活動収支の黒字分が、投資活動収支の赤字分を上回ったため419百万円となっている。類似団体平均と比較しても良好な値となっている。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均をやや上回っているが、近年で見ると減少傾向となっている。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

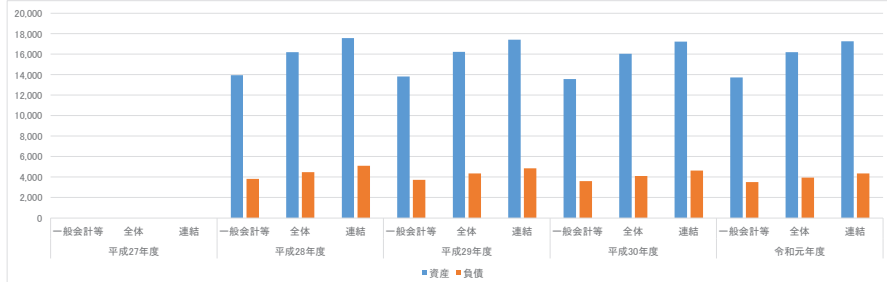
団体名 長野県小布施町
団体コード 205419

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------|
| 人口 | 11,030人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 89人 |
| 面積 | 19.12 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,984.764千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-0 | 実質公債費率 | 7.0% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

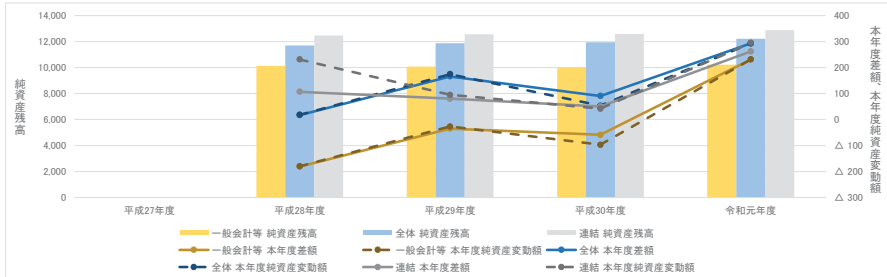
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 13,940 | 13,824 | 13,580 | 13,725 |
| | 負債 | | 3,826 | 3,738 | 3,601 | 3,504 |
| 全体 | 資産 | | 16,204 | 16,229 | 16,059 | 16,188 |
| | 負債 | | 4,496 | 4,347 | 4,124 | 3,960 |
| 連結 | 資産 | | 17,574 | 17,417 | 17,233 | 17,253 |
| | 負債 | | 5,114 | 4,863 | 4,637 | 4,362 |



分析:
一般会計等においては、資産総額は前年度末から135百万円増加し13,725百万円となった。金額の変動が大きいものは有形固定資産と現金預金であり、有形固定資産は建設投資が少なく減価償却により329百万円減少した。現金預金はふるさと納税の増加や地方交付税の増加により収入が増加したことに加えて公共施設等整備支出の減少や基金の取崩収入があったことにより、収支差額が大きくなり488百万円増加した。
全体会計では、水道事業会計や国民健康保険特別会計等が合算されることで、資産総額は16,188百万円、負債総額は3,960百万円となった。合算される会計のうち資産額が比較的多額なのは水道事業会計のインフラ資産971百万円、現金預金783百万円、国民健康保険特別会計の基金348百万円などである。合算される負債で比較的多額なのは水道事業の地方債等204百万円及びその他固定負債228百万円である。
連結会計では、一部事務組合や広域連合、3セク等が合算されることで資産総額は17,253百万円、負債総額は4,362百万円となった。合算される連結団体のうち資産額が比較的多額なのは北信保健衛生施設組合の事業用資産437百万円、須高行政事務組合の事業用資産126百万円などである。合算される負債で比較的多額なのは、北信保健衛生施設組合の地方債等143百万円、市町村総合事務組合109百万円などである。

3. 純資産変動の状況

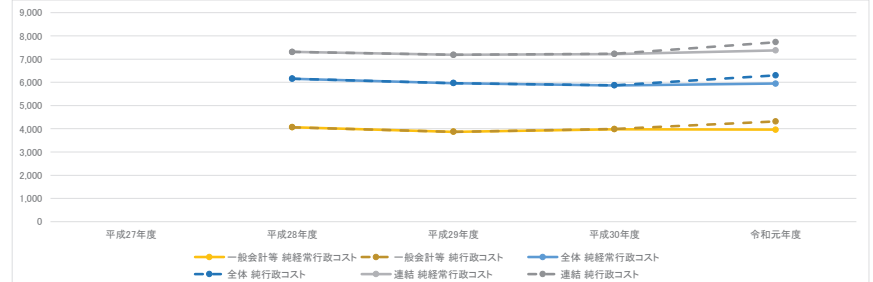
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △181 | △35 | △59 | 231 |
| | 本年度純資産変動額 | | △180 | △27 | △97 | 231 |
| 全体 | 本年度差額 | | 17 | 166 | 91 | 293 |
| | 本年度純資産変動額 | | 18 | 174 | 53 | 293 |
| 連結 | 本年度差額 | | 107 | 80 | 50 | 262 |
| | 本年度純資産変動額 | | 231 | 95 | 42 | 295 |
| | 純資産残高 | | 12,459 | 12,554 | 12,596 | 12,891 |



分析:
一般会計等においては、税収等の財源(4,549百万円)が純行政コスト(4,317百万円)を上回っており本年度差額は231百万円となり、純資産残高は231百万円増加し、10,221百万円となった。
全体会計では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収支等に合算され、同様に各会計の純行政コストも合算されることで、本年度差額は293百万円となり、純資産残高は12,228百万円となった。合算される会計のなかで本年度差額が大きいのは水道事業の63百万円である。
連結では、一部事務組合や広域連合、3セク等が合算されることで、本年度差額は262百万円となり、純資産残高は12,891百万円となった。

2. 行政コストの状況

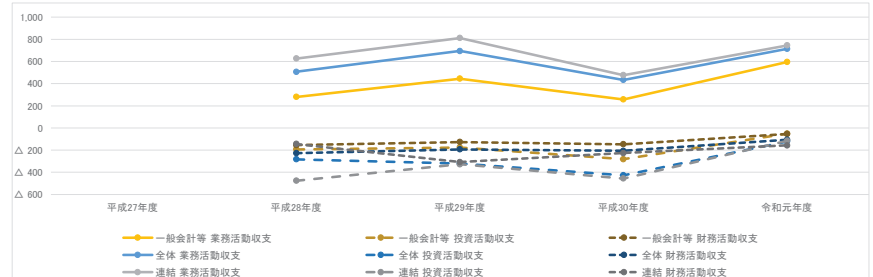
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 4,066 | 3,867 | 3,980 | 3,960 |
| | 純行政コスト | | 4,066 | 3,867 | 3,986 | 4,317 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 6,153 | 5,967 | 5,865 | 5,942 |
| | 純行政コスト | | 6,154 | 5,968 | 5,872 | 6,300 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 7,306 | 7,186 | 7,220 | 7,374 |
| | 純行政コスト | | 7,307 | 7,186 | 7,227 | 7,725 |



分析:
一般会計等においては、純行政コストは4,317百万円となり、前年度比331百万円の増加となった。増加要因は、ふるさと納税関連の費用の増加で物件費等が153百万円増加しているほか、台風19号による災害復旧費用が219百万円発生し、災害見舞金などの災害関連費用も145百万円発生していることによる。
全体会計では、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計等が合算されることで純行政コストは6,300百万円となっている。合算される会計で行政コストが比較的多額であるのは国民健康保険特別会計の1,185百万円、介護保険特別会計の954百万円などである。水道事業会計は、純利益を計上しているため行政コストはマイナス50百万円である。
連結会計では、一部事務組合や広域連合、3セク等が合算されることで純行政コストは7,725百万円となっている。合算される連結団体で行政コストが比較的多額であるのは長野県後期高齢者医療広域連合の1,651百万円、北信保健衛生施設組合96百万円などである。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 280 | 444 | 257 | 595 |
| | 投資活動収支 | | △193 | △175 | △281 | △51 |
| | 財務活動収支 | | △154 | △126 | △148 | △54 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 507 | 694 | 433 | 714 |
| | 投資活動収支 | | △282 | △320 | △427 | △122 |
| | 財務活動収支 | | △227 | △193 | △206 | △106 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 627 | 811 | 476 | 744 |
| | 投資活動収支 | | △476 | △327 | △456 | △116 |
| | 財務活動収支 | | △145 | △307 | △226 | △157 |



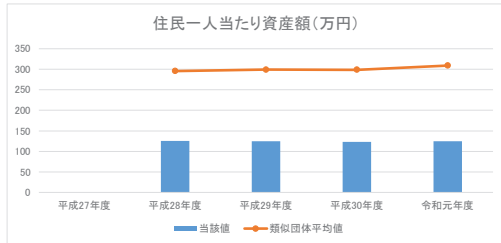
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は災害復旧に関する支出やふるさと納税関連費用の増加などがあって一方で、地方交付税の増加やふるさと納税による収入増があり、前年度に比べ338百万円改善して595百万円となった。投資活動収支は公共施設等整備支出が減少したことにより前年に比べ230百万円改善して△51百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行収入が105百万円増加したことにより、収支は94百万円改善して△54百万円となっている。
全体会計では、水道事業会計や国民健康保険特別会計の収支が合算されることで、業務活動収支は714百万円、投資活動収支は△122百万円、財務活動収支は△106百万円となっている。合算される特別会計のうち収支差額が比較的多額になるのは水道事業会計の業務活動収支118百万円、財務活動収支△52百万円、国民健康保険特別会計の投資活動収支△41百万円などである。
連結会計では、一部事務組合や広域連合、3セク等の収支差額が合算されることで業務活動収支は744百万円、投資活動収支は△116百万円、財務活動収支は△157百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

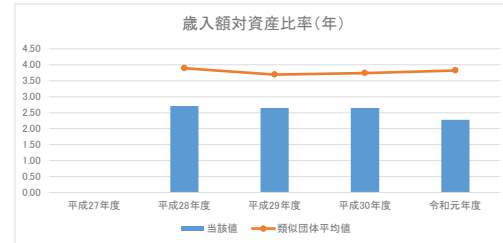
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,393,989 | 1,382,415 | 1,359,019 | 1,372,504 |
| 人口 | | 11,111 | 11,063 | 11,005 | 11,030 |
| 当該値 | | 125.5 | 125.0 | 123.5 | 124.4 |
| 類似団体平均値 | | 295.6 | 299.2 | 298.9 | 309.0 |



②歳入額対資産比率(年)

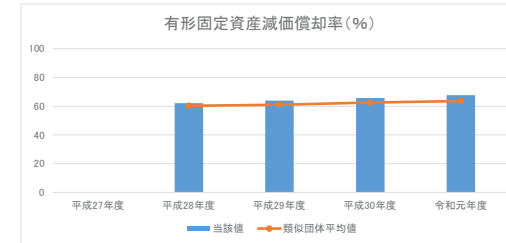
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 13,940 | 13,824 | 13,590 | 13,725 |
| 歳入総額 | | 5,140 | 5,211 | 5,128 | 6,042 |
| 当該値 | | 2.71 | 2.65 | 2.65 | 2.27 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 3.69 | 3.74 | 3.82 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 11,883 | 12,341 | 12,787 | 13,219 |
| 有形固定資産 ※1 | | 19,121 | 19,282 | 19,487 | 19,552 |
| 当該値 | | 62.1 | 64.0 | 65.6 | 67.6 |
| 類似団体平均値 | | 60.3 | 61.0 | 62.5 | 63.6 |

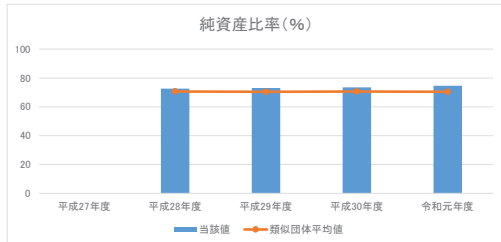
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

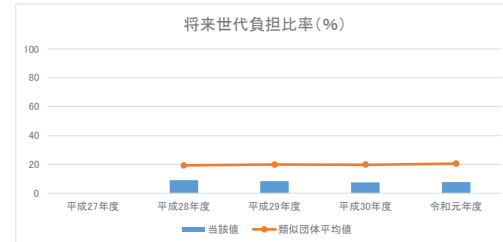
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 10,114 | 10,086 | 9,989 | 10,221 |
| 資産合計 | | 13,940 | 13,824 | 13,590 | 13,725 |
| 当該値 | | 72.6 | 73.0 | 73.5 | 74.5 |
| 類似団体平均値 | | 70.6 | 70.4 | 70.5 | 70.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,123 | 1,016 | 896 | 912 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 12,325 | 12,201 | 11,987 | 11,658 |
| 当該値 | | 9.1 | 8.3 | 7.5 | 7.8 |
| 類似団体平均値 | | 19.3 | 19.9 | 19.8 | 20.5 |

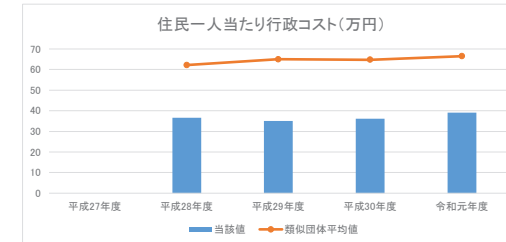
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

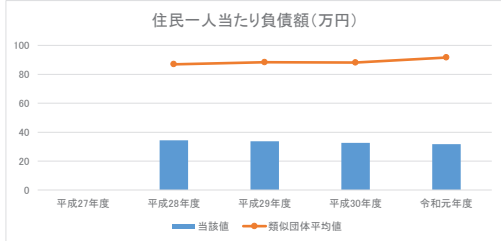
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 406,578 | 386,714 | 398,609 | 431,747 |
| 人口 | | 11,111 | 11,063 | 11,005 | 11,030 |
| 当該値 | | 36.6 | 35.0 | 36.2 | 39.1 |
| 類似団体平均値 | | 62.2 | 65.0 | 64.8 | 66.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

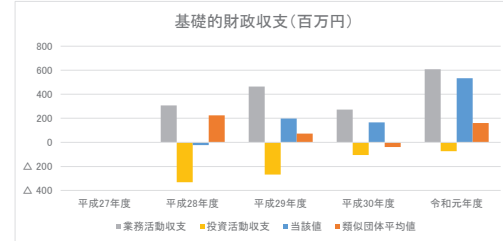
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 382,615 | 373,773 | 360,075 | 350,438 |
| 人口 | | 11,111 | 11,063 | 11,005 | 11,030 |
| 当該値 | | 34.4 | 33.8 | 32.7 | 31.8 |
| 類似団体平均値 | | 86.9 | 88.4 | 88.2 | 91.6 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 308 | 465 | 273 | 607 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 331 | △ 267 | △ 106 | △ 73 |
| 当該値 | | △ 23 | 198 | 167 | 534 |
| 類似団体平均値 | | 226.0 | 72.6 | △ 37.6 | 160.4 |

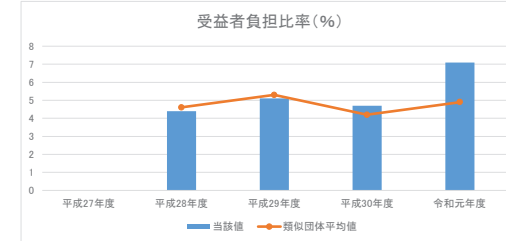
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 185 | 209 | 195 | 302 |
| 経常費用 | | 4,251 | 4,076 | 4,174 | 4,262 |
| 当該値 | | 4.4 | 5.1 | 4.7 | 7.1 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 5.3 | 4.2 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

類似団体との比較では、住民一人あたり資産額及び歳入額対資産比率ともに類似団体平均値を下回っている。町内の道路延長が長く、また橋やトンネルも少ないためインフラ資産の投資額が少なくなっていることが要因である。有形固定資産減価償却率は類似団体平均値とほぼ同水準である。

経年比較では、歳入額対資産比率が減少しているが、資産が減少しているわけではなく、資産の増加割合以上に歳入の増加割合が大きかったためである。有形固定資産減価償却率は増加傾向が続いている。

2. 資産と負債の比率

類似団体との比較では、純資産比率は類似団体平均値とほぼ同水準であり、将来世代負担比率は下回っている。地方債残高は類似団体平均値より少なくなっているため将来負担比率は低くなっているが、資産総額も類似団体平均値より少ないため、純資産比率は類似団体平均値と同水準で推移している。

経年比較では、純資産比率は増加傾向、将来負担比率は概ね減少傾向にあり、財政的に問題となる点はない。

3. 行政コストの状況

類似団体との比較では、住民一人あたり行政コストは類似団体平均値を下回っている。要因としては有形固定資産残高が少ないことにより減価償却費が少なく抑えられていると考えられる。経年比較では、過去3期では増加傾向にあるが、令和元年度の増加については台風19号による災害復旧関連費用の発生による一時的な要因が大きい。

4. 負債の状況

類似団体との比較では、住民一人あたり負債額は類似団体平均値を下回り、基礎的財政収支は上回っている。経年比較では、負債額は減少してきており住民一人あたり負債額も減少傾向にある。基礎的財政収支は、3期連続でプラスを維持し、令和元年度では地方交付税の増加やふるさと納税の増加などにより改善している。

5. 受益者負担の状況

類似団体との比較では、受益者負担比率は過去3期は類似団体平均値と同水準だったところ、令和元年度で大きく上回った。経年比較でも、令和元年度で改善しているように見えるが、福祉基金収入100万円による影響が大きく、この効果は単年度にとどまる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

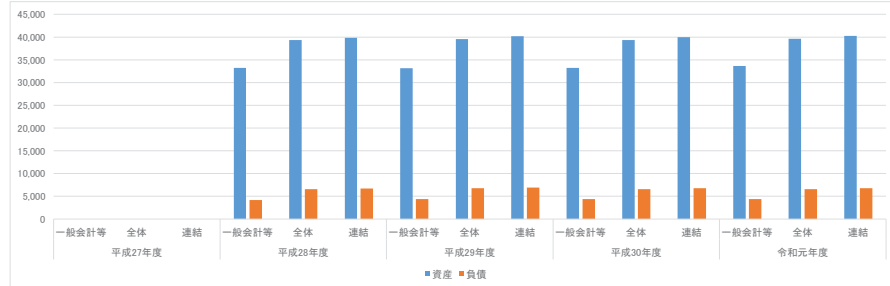
団体名 長野県高山村
団体コード 205435

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 7,014 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 79 人 |
| 面積 | 98.56 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 2,660.177 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-0 | 実質公債比率 | 7.2 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

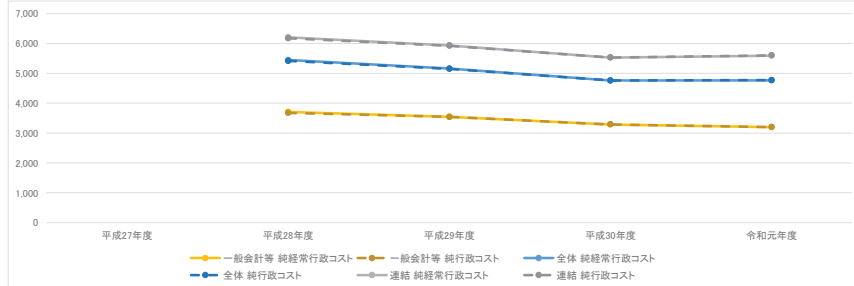
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 33,188 | 33,162 | 33,224 | 33,644 |
| | 負債 | | 4,213 | 4,387 | 4,382 | 4,395 |
| 全体 | 資産 | | 39,306 | 39,541 | 39,322 | 39,612 |
| | 負債 | | 6,550 | 6,752 | 6,550 | 6,544 |
| 連結 | 資産 | | 39,822 | 40,193 | 39,956 | 40,260 |
| | 負債 | | 6,712 | 6,958 | 6,795 | 6,790 |



分析: 一般会計等の資産総額(33,644百万円)のうち、建物占める割合が約40%(13,199百万円)と多くを占めており、残存簿価は前年度から105百万円減少していることから、資産が老朽化してきていることを示している。今後老朽化等による支出の増額が想定されるため、公共施設総合管理計画等に基づき適正な配置・管理に努める。農業集落排水や下水道事業等を加えた全体では、資産総額は前年度末から290万円増加したが、下水処理場等のインフラ資産を計上していることなどにより、一般会計等と比べて6,968百万円多くなっている。負債総額については地方債の償還等により前年度末から6百万円減少した。

2. 行政コストの状況

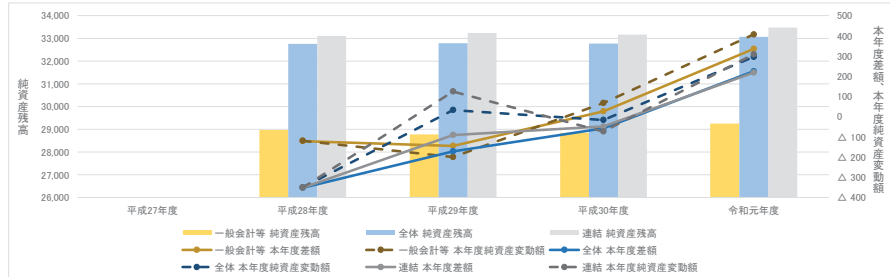
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,708 | 3,544 | 3,291 | 3,199 |
| | 純行政コスト | | 3,675 | 3,541 | 3,291 | 3,201 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 5,448 | 5,160 | 4,762 | 4,767 |
| | 純行政コスト | | 5,417 | 5,153 | 4,762 | 4,775 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 6,207 | 5,933 | 5,528 | 5,593 |
| | 純行政コスト | | 6,175 | 5,926 | 5,529 | 5,601 |



分析: 一般会計等の経常費用(3,386百万円)のうち、業務費用(2,231百万円)が移転費用(1,155百万円)より多く、最も金額が多いのが公共施設の維持補修費や減価償却費を含む物件費等(1,623百万円)であることから、今後は公共施設総合管理計画等に基づき適正な配置・管理に努め、経費の縮減に努める。連結では、一般会計等に比べて国民健康保険や介護保険などの社会保障給付を含む移転費用が1,973百万円多くなるなど、経常費用が2,747百万円多くなり、純行政コストも2,400百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

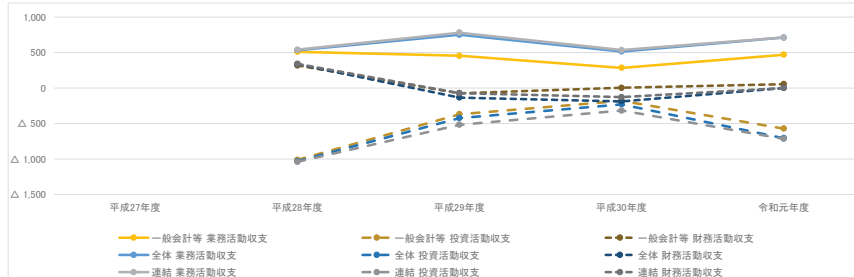
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 121 | △ 145 | 26 | 335 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 119 | △ 200 | 67 | 407 |
| | 純資産残高 | | 28,975 | 28,775 | 28,842 | 29,249 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 352 | △ 172 | △ 58 | 225 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 350 | 33 | △ 17 | 296 |
| | 純資産残高 | | 32,756 | 32,789 | 32,772 | 33,068 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 352 | △ 91 | △ 49 | 218 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 351 | 124 | △ 74 | 309 |
| | 純資産残高 | | 33,110 | 33,235 | 33,161 | 33,470 |



分析: 一般会計等では、税収等の財源(3,536百万円)が純行政コスト(3,201百万円)を上回ったことから、本年度差額は335百万円(前年度比+309百万円)となり、純資産残高は309百万円の増加となった。関係機関と連携した税収確保や公共施設等適正管理推進事業債の活用等により財源確保とコストの減に努める。全体では、国民健康保険特別会計等の保険収入が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が589百万円多くなるなどにより、純資産残高も3,819百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 511 | 455 | 284 | 471 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,012 | △ 367 | △ 180 | △ 571 |
| | 財務活動収支 | | 319 | △ 74 | 3 | 56 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 532 | 752 | 515 | 712 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,031 | △ 424 | △ 230 | △ 706 |
| | 財務活動収支 | | 337 | △ 135 | △ 188 | 2 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 540 | 780 | 536 | 711 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,039 | △ 517 | △ 316 | △ 715 |
| | 財務活動収支 | | 341 | △ 71 | △ 127 | 1 |



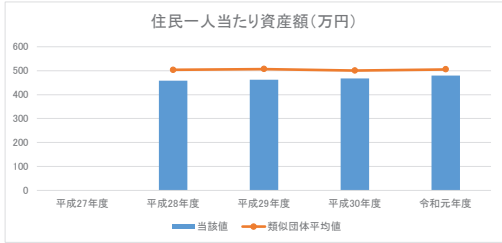
分析: 一般会計等においては、業務活動収支は471百万円であったが、投資活動収支については村道新設改良事業等を行ったことから△571百万円となっている。財務活動収支については、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから、56百万円となっており、本年度末資金残高は45百万円減少し、287百万円となった。しかし、行政活動に必要な資金を地方債の発行収入によって確保している状況であり、行財政改革を更に推進する必要がある。全体・連結ともに、業務活動収支はプラス、投資活動収支はマイナス、財務活動収支はプラスとなっている。財務活動収支に関しては、施設を建設する時代から維持管理の時代へと移行しているが、本年度は新たな地方債の発行等と比べて償還支出の方が少なくなり、それぞれ2百万円、1百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

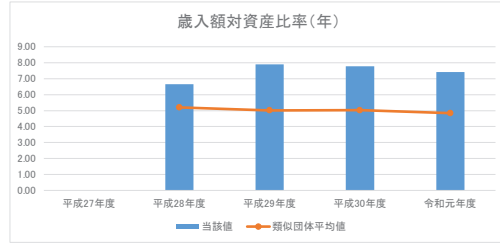
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,318,785 | 3,316,180 | 3,322,350 | 3,364,402 |
| 人口 | | 7,240 | 7,182 | 7,109 | 7,014 |
| 当該値 | | 458.4 | 461.7 | 467.3 | 479.7 |
| 類似団体平均値 | | 503.4 | 506.6 | 500.6 | 505.5 |



②歳入額対資産比率(年)

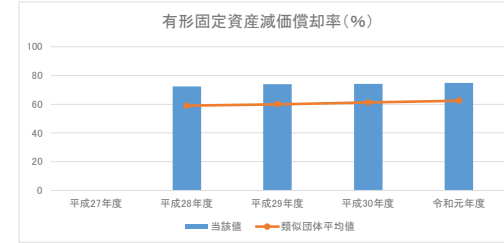
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 33,188 | 33,162 | 33,224 | 33,644 |
| 歳入総額 | | 4,991 | 4,197 | 4,269 | 4,537 |
| 当該値 | | 6.65 | 7.90 | 7.78 | 7.42 |
| 類似団体平均値 | | 5.20 | 5.02 | 5.03 | 4.84 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 24,914 | 25,631 | 26,027 | 26,430 |
| 有形固定資産 ※1 | | 34,474 | 34,672 | 35,077 | 35,334 |
| 当該値 | | 72.3 | 73.9 | 74.2 | 74.8 |
| 類似団体平均値 | | 59.0 | 60.0 | 61.2 | 62.4 |

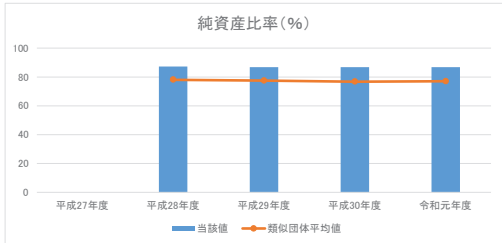
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

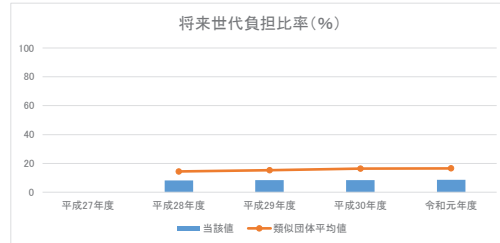
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 28,975 | 28,775 | 28,842 | 29,249 |
| 資産合計 | | 33,188 | 33,162 | 33,224 | 33,644 |
| 当該値 | | 87.3 | 86.8 | 86.8 | 86.9 |
| 類似団体平均値 | | 78.0 | 77.5 | 76.7 | 77.0 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,434 | 2,459 | 2,464 | 2,549 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 29,781 | 29,467 | 29,418 | 29,733 |
| 当該値 | | 8.2 | 8.3 | 8.4 | 8.6 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.3 | 16.4 | 16.5 |

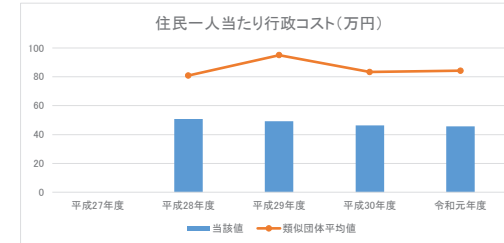
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

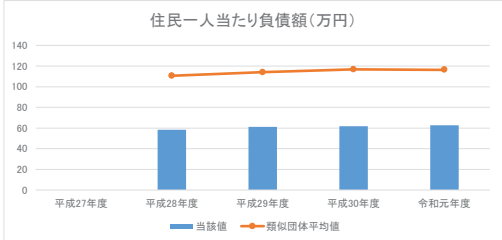
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 367,525 | 354,113 | 329,127 | 320,097 |
| 人口 | | 7,240 | 7,182 | 7,109 | 7,014 |
| 当該値 | | 50.8 | 49.3 | 46.3 | 45.6 |
| 類似団体平均値 | | 80.9 | 95.0 | 83.3 | 84.3 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

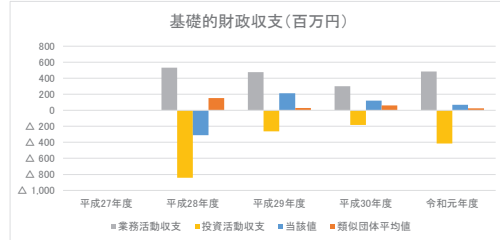
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 421,261 | 438,697 | 438,195 | 439,542 |
| 人口 | | 7,240 | 7,182 | 7,109 | 7,014 |
| 当該値 | | 58.2 | 61.1 | 61.6 | 62.7 |
| 類似団体平均値 | | 110.6 | 114.1 | 116.8 | 116.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 534 | 476 | 301 | 484 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 843 | △ 263 | △ 181 | △ 416 |
| 当該値 | | △ 309 | 213 | 120 | 68 |
| 類似団体平均値 | | 152.0 | 28.1 | 61.7 | 23.0 |

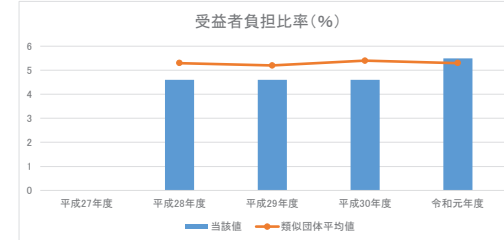
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 180 | 172 | 158 | 186 |
| 経常費用 | | 3,887 | 3,715 | 3,449 | 3,386 |
| 当該値 | | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 5.5 |
| 類似団体平均値 | | 5.3 | 5.2 | 5.4 | 5.3 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たり資産額が類似団体平均と比較して5%程度下回っているが、これは道路等の敷地のうち取得価格が不明なものを備忘価格1円で評価しているためである。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は、類似団体平均より若干上回っているが、今後とも利用可能な資産の恩恵を将来世代が享受できるよう、行政コストの削減により現役世代と将来世代の負担の均衡を図っていく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは、類似団体平均を大きく下回っているが、今後は公共施設の老朽化等による物件費等(維持補修費、減価償却費)の増加が見込まれることから、引き続き事務事業の見直しなど経費節減に努める。

4. 負債の状況

住民一人当たり負債額は地総債の償還終了などにより類似団体平均を下回っているが、学校教育施設等整備事業債(学校給食センター整備事業)や辺地対策事業債(七味温泉橋橋梁整備事業)など今後償還の大部分を占める地方債もあることから、新規事業の実施にあたっては慎重に検討を行うこととする。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を若干上回っており、行政サービス提供に対する受益者の負担が昨年度より増加している。今後も物件費等の経常費用が増加していくことが見込まれることから、公共施設等の使用料や管理方法の見直しを行うなど、経常費用の抑制に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県山ノ内町
団体コード 205613

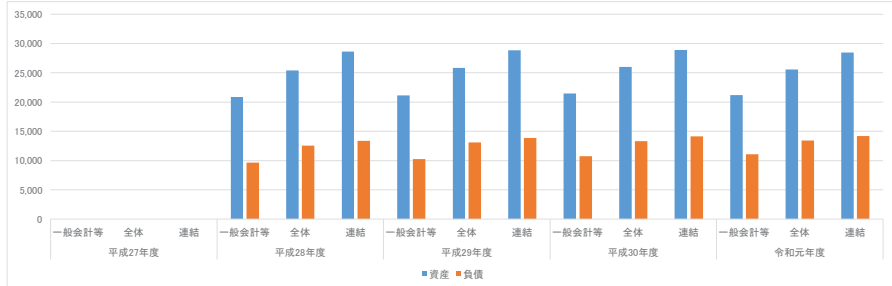
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 12,346人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 143人 |
| 面積 | 265.90km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 4,348.991千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-0 | 実質公債費率 | 8.4% |
| | | 将来負担比率 | 80.5% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 20,845 | 21,132 | 21,451 | 21,167 |
| | 負債 | | 9,669 | 10,272 | 10,764 | 11,060 |
| 全体 | 資産 | | 25,420 | 25,828 | 26,002 | 25,583 |
| | 負債 | | 12,544 | 13,075 | 13,337 | 13,416 |
| 連結 | 資産 | | 28,625 | 28,844 | 28,892 | 28,464 |
| | 負債 | | 13,390 | 13,887 | 14,128 | 14,168 |

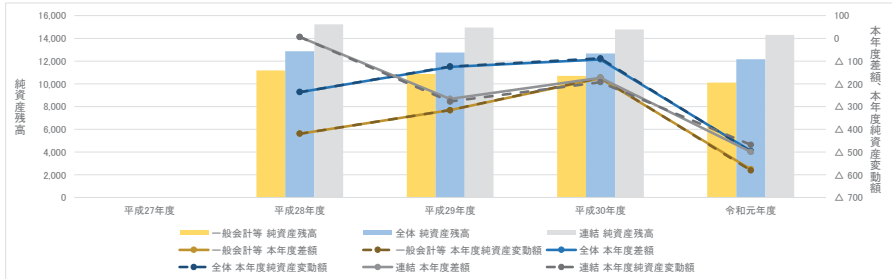


分析:
 ・一般会計等においては、資産総額が前年度末から284百万円の増加(-1.3%)となった。建物は中学校の長寿命化工事完了等による資産取得額319百万円の増、物品は小学校のエアコン設置工事等により資産取得額が270百万円の増となったが、旧北小学校の解体及び減価償却に伴う資産の減少により、有形固定資産が132百万円の減となった。負債総額は前年度末から189百万円の増加(+1.9%)となり、金額の変動が最も大きいものは地方債(固定負債)であり、過疎対策事業債や臨時財政対策債の借入が要因である。今後も地方債償還額が増加することが予想されるため、地方債の発行を抑制し公共施設の適正管理に努める必要がある。
 ・全体については資産関係で一般会計等及び水道事業会計で占めている。下水道事業及び農業集落排水事業会計は法非適用から法適化に移行準備中であり、連結は行っていない(令和2年度より法適用となる)。資産総額は下水道管等のインフラ資産が計上されていること、一般会計等に比べ4,416百万円多くなり、負債総額についても、浄水場改修工事に地方債(固定負債)を充当したこと等から2,656百万円多くなった。
 ・一部事務組合や広域連合等を加えた連結では、資産総額が前年度末から428百万円減少(-1.5%)し、負債総額は前年度末から40百万円増加(+0.3%)した。資産総額は北信広域連合等が保有している資産を計上しているため、一般会計より7,297百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 420 | △ 316 | △ 176 | △ 576 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 420 | △ 316 | △ 173 | △ 581 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 237 | △ 126 | △ 93 | △ 495 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 237 | △ 124 | △ 88 | △ 498 |
| 連結 | 本年度差額 | | 6 | △ 266 | △ 173 | △ 499 |
| | 本年度純資産変動額 | | 6 | △ 278 | △ 193 | △ 468 |
| | 純資産残高 | | 15,235 | 14,957 | 14,764 | 14,297 |

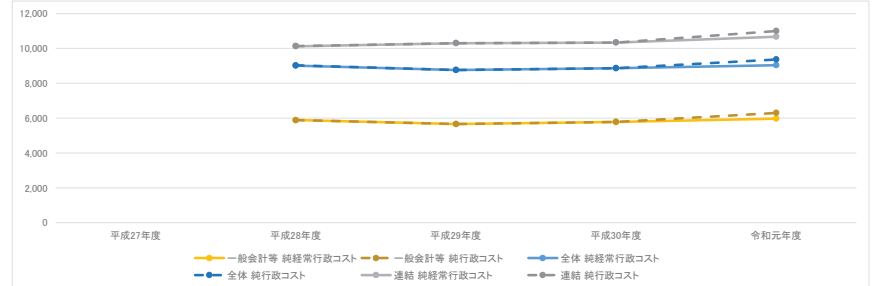


分析:
 ・一般会計において、収収等の財源(5,724百万円)が、純行政コスト(6,299百万円)を下回っており、本年度差額は▲576百万円となり、純資産残高は10,107百万円となった。地方税等が前年度と比べ大きな変動がないことから、町税の徴収率の向上やふるさと納税のPRにより寄付金額の増加に努めた。
 ・全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の国民健康保険税や介護保険料が収収に含まれることから、一般会計等と比べて収収等の財源が3,148百万円多くなっており、本年度差額は▲495百万円となり、純資産残高は12,167百万円となった。
 ・連結では、後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計と比べ4,778百万円多くなっており、本年度差額は▲499百万円となり、純資産残高は14,297百万円となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 5,884 | 5,664 | 5,779 | 5,972 |
| | 純行政コスト | | 5,883 | 5,662 | 5,783 | 6,299 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 9,020 | 8,764 | 8,861 | 9,039 |
| | 純行政コスト | | 9,030 | 8,763 | 8,868 | 9,367 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 10,124 | 10,304 | 10,338 | 10,674 |
| | 純行政コスト | | 10,137 | 10,303 | 10,344 | 11,001 |

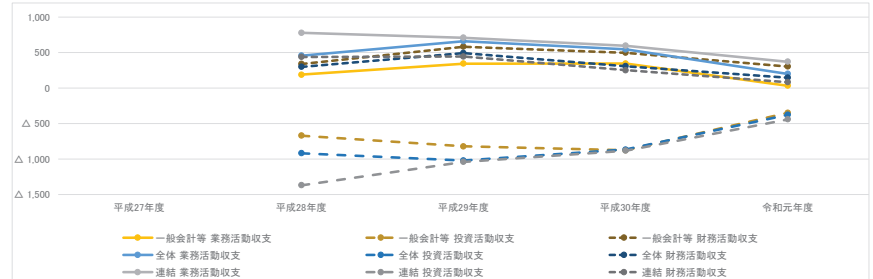


分析:
 ・一般会計等において、経常費用は5,972百万円となり、前年対比で193百万円の増加(+3.3%)となった。これは業務費用のうち維持補修費が資産形成とならない修繕費等が高くなることにより139百万円の増となった。物件費については、冬の天候により除雪費が大きく変動するため、前年度対比については難しい部分もあるが、経費節減の工夫に努める。
 ・全体では、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているが、人口減少等の影響により経常収益は前年対比で17百万円減となっている。また、移転費用の補助金等が前年対比で215百万円増、社会保障給付が60百万円減少しており、純行政コストは499百万円多くなっている。
 ・連結では、連結対象団体の事業収益を計上し、経常収益が前年より54百万円増加しているが、北信保健衛生施設組合のし尿処理施設解体に伴い、臨時損失の資産売却損が300百万円と前年より大きく増加したことにより、行政コストは290百万円と多くなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 189 | 343 | 346 | 32 |
| | 投資活動収支 | | △ 671 | △ 821 | △ 876 | △ 348 |
| | 財務活動収支 | | 340 | 582 | 497 | 303 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 456 | 660 | 545 | 199 |
| | 投資活動収支 | | △ 920 | △ 1,021 | △ 867 | △ 377 |
| | 財務活動収支 | | 299 | 493 | 308 | 146 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 779 | 710 | 597 | 370 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,371 | △ 1,039 | △ 881 | △ 442 |
| | 財務活動収支 | | 439 | 445 | 251 | 82 |



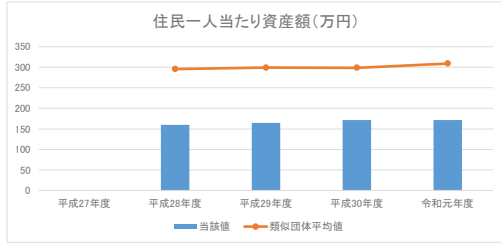
分析:
 ・一般会計においては、業務活動収支は32百万円であったが、投資活動収支では中学校の長寿命化及び道路新設改良事業等を行ったことにより▲348百万円となった。財務活動収支については、投資活動支出が多かったために、地方債の発行額が地方債償還支出額を上回り、303百万円となり、本年度末資金残高は前年度から12百万円減額し、324百万円となった。しかし、行政活動に必要な資金を基金の取崩しや地方債の発行等によって確保している状況であり、行財政改革をさらに推進し、歳出の抑制を図る必要がある。
 ・全体では国民健康保険税や介護保険料が収収等が収入に含まれること、水道料等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より167百万円多い199百万円となっている。投資活動収支では、▲377百万円となり、財務活動収支は、地方債発行額が地方債償還支出額を上回り146百万円となり、本年度末資金残高は前年度から32百万円減少し、642百万円となった。
 ・連結では、広域連合等の使用料や国庫補助金等が業務収入に含まれることから、業務活動収支は一般会計等より338百万円多い370百万円となっている。投資活動収支は▲442百万円となり前年より439百万円の減少。財務活動収支は地方債発行が財務活動支出を上回ったことから82百万円となり、本年度末資金残高は、前年度から10百万円増加し、931百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

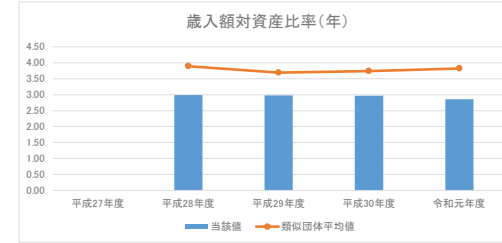
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,084,504 | 2,113,215 | 2,145,147 | 2,116,668 |
| 人口 | | 13,064 | 12,826 | 12,516 | 12,346 |
| 当該値 | | 159.6 | 164.8 | 171.4 | 171.4 |
| 類似団体平均値 | | 295.6 | 299.2 | 298.9 | 309.0 |



②歳入額対資産比率(年)

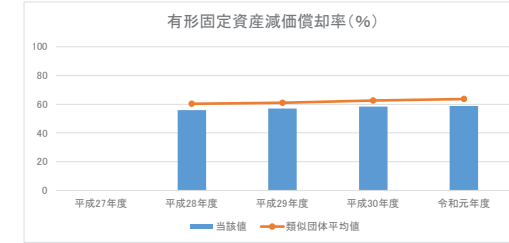
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 20,845 | 21,132 | 21,451 | 21,167 |
| 歳入総額 | | 6,978 | 7,090 | 7,232 | 7,400 |
| 当該値 | | 2.99 | 2.98 | 2.97 | 2.86 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 3.69 | 3.74 | 3.82 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 18,105 | 18,731 | 19,334 | 19,697 |
| 有形固定資産 ※1 | | 32,368 | 32,807 | 33,098 | 33,579 |
| 当該値 | | 55.9 | 57.1 | 58.4 | 58.7 |
| 類似団体平均値 | | 60.3 | 61.0 | 62.5 | 63.6 |

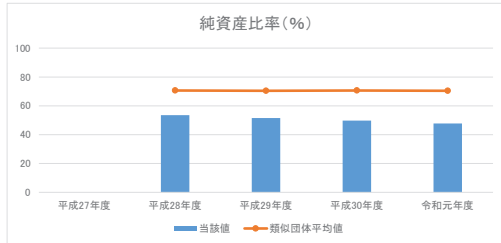
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

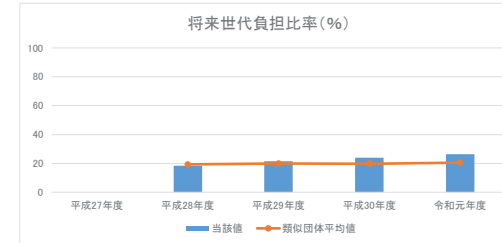
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 11,176 | 10,860 | 10,688 | 10,107 |
| 資産合計 | | 20,845 | 21,132 | 21,451 | 21,167 |
| 当該値 | | 53.6 | 51.4 | 49.8 | 47.7 |
| 類似団体平均値 | | 70.6 | 70.4 | 70.5 | 70.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,162 | 3,748 | 4,263 | 4,658 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 17,270 | 17,456 | 17,847 | 17,709 |
| 当該値 | | 18.3 | 21.5 | 23.9 | 26.3 |
| 類似団体平均値 | | 19.3 | 19.9 | 19.8 | 20.5 |

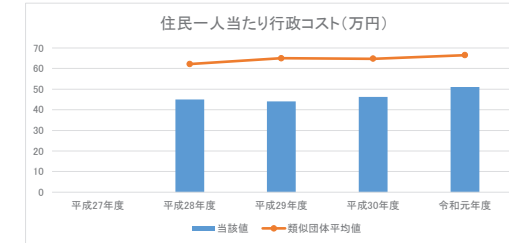
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

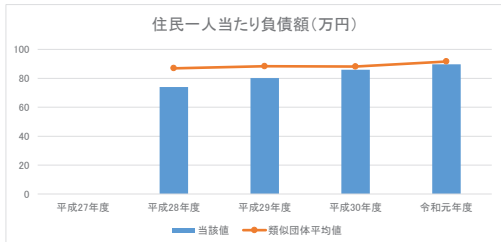
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 588,348 | 566,200 | 578,269 | 629,939 |
| 人口 | | 13,064 | 12,826 | 12,516 | 12,346 |
| 当該値 | | 45.0 | 44.1 | 46.2 | 51.0 |
| 類似団体平均値 | | 62.2 | 65.0 | 64.8 | 66.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

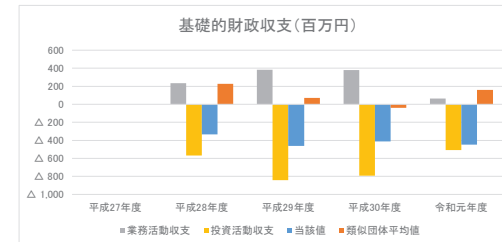
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 負債合計 | | 966,875 | 1,027,165 | 1,076,377 | 1,105,971 |
| 人口 | | 13,064 | 12,826 | 12,516 | 12,346 |
| 当該値 | | 74.0 | 80.1 | 86.0 | 89.6 |
| 類似団体平均値 | | 86.9 | 88.4 | 88.2 | 91.6 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 業務活動収支 ※1 | | 234 | 382 | 381 | 62 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 568 | △ 843 | △ 792 | △ 508 |
| 当該値 | | △ 334 | △ 461 | △ 411 | △ 446 |
| 類似団体平均値 | | 226.0 | 72.6 | △ 37.6 | 160.4 |

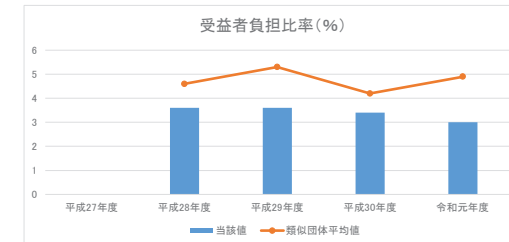
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 221 | 214 | 201 | 186 |
| 経常費用 | | 6,104 | 5,878 | 5,980 | 6,158 |
| 当該値 | | 3.6 | 3.6 | 3.4 | 3.0 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 5.3 | 4.2 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

- ・住民一人当たり資産額が類似団体平均を大きく下回っているが、当団体は道路や河川敷地の取得価格が不明なものについて、備忘価額を円で評価しているものが大半である。資産合計は公共施設の除却や減価償却による資産の減少額が大きく、前年対比で284百万円の減となり、人口も前年対比で170人減の12,346人となったことで、住民一人当たりの資産額が前年と同額の171.4万円となった。
- ・歳入額対資産比率については、当団体は資産合計が前年対比で284百万円減となり、歳入総額が168百万円増加しているため、歳入額対資産比率は前年対比で0.111の減となった。
- ・有形固定資産減価償却率については、30年以上経過した施設が多く老朽化が進んでいるが、長寿命化や改修等により前年度から0.3%の上昇にとどまっている。公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に長寿命化や統廃合による公共施設等の適正管理に努めていく。

2. 資産と負債の比率

- ・純資産比率は類似団体平均を大幅に下回っているが、純行政コストが収支等の財源を大幅に上回っているため、純資産が減少し、前年度から2.1%減少していることから、今後は行政コストの削減に努めていく。
- ・将来世代負担比率は、前年と比べて2.4%増加し、類似団体平均を上回っている。公共施設の長寿命化による大型事業等が今後控えており、新規に発行する地方債の抑制を行うとともに、国県補助金等を有効に活用した事業の推進を行うなど、地方債残高を抑制し、将来世代の負担減少に努める。

3. 行政コストの状況

- ・住民一人当たり行政コストは類似団体平均を大きく下回っている。前年度に比べて4.8万円増加したのは、主に維持補修費や補助金等が増加及び資産除却損の増によるものである。今後も行政改革への取組を通じて、行政コストの削減、見直し等に努める。

4. 負債の状況

- ・住民一人当たりの負債額は類似団体平均とほぼ同じであり、年々上昇傾向にある。要因として、大型事業等により地方債の発行額が償還額を大きく上回っている状況であり、今後も住民一人当たりの負債額が増加していく見込みであるが、国県補助金等の活用を積極的に行い、地方債残高の縮小に努める。
- ・基礎的財政収支は、基金の取崩収入及び基金積立支出を除いた投資活動収支の赤字分が業務活動収支の黒字分を上回ったため、△446百万円となっている。類似団体平均より大きく下回っているが、地方債を発行して、公共施設の長寿命化や道路新設改良など必要な施設整備を行っているためである。

5. 受益者負担の状況

- ・受益者負担率は類似団体平均を下回っており、行政サービス提供に対する直接的な負担割合は比較的低くなっている。前年より経常収益が減少し経常費用が増加しているが、受益者負担率は前年より0.4%下がった経常収益の使用率は10月より採育面の無償化により減少となったが、減収分については収支等の財源に補填されている。今後は施設の老朽化による維持補修費の増加が見込まれるため、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の統廃合や長寿命化等により施設の適正管理に努め、経常費用の削減を図る。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県木島平村
団体コード 205621

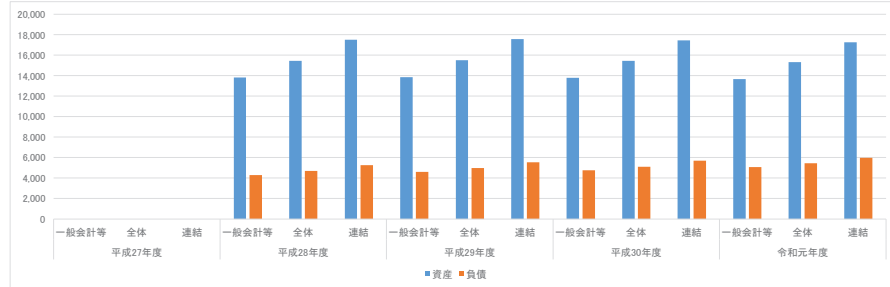
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 4,669人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 69人 |
| 面積 | 99.32 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 2,261.521千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | 13.3% |
| | | 将来負担比率 | 14.7% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 13,823 | 13,857 | 13,802 | 13,667 |
| | 負債 | | 4,296 | 4,599 | 4,758 | 5,069 |
| 全体 | 資産 | | 15,442 | 15,523 | 15,450 | 15,313 |
| | 負債 | | 4,688 | 4,988 | 5,124 | 5,454 |
| 連結 | 資産 | | 17,508 | 17,573 | 17,452 | 17,250 |
| | 負債 | | 5,258 | 5,550 | 5,693 | 5,987 |

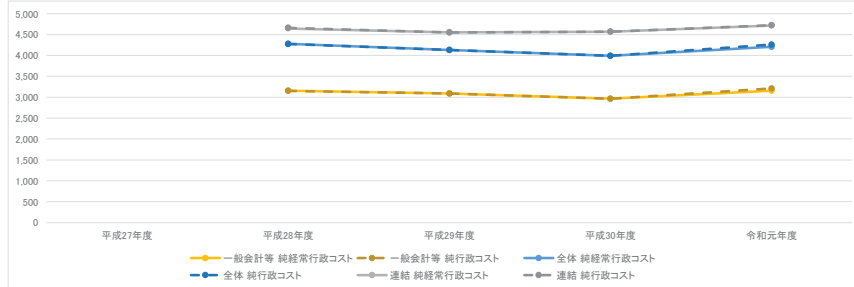


分析:
一般会計等においては、資産総額は前年度末から135百万円減少し13,667百万円となった。新庁舎の建築などによる事業用資産の増加の一方で、基金残高や元元資金の減少などにより資産総額は減少した。負債総額は前年度末から310百万円増加し5,069百万円となった。増加の主な要因は新庁舎の財源として発行した地方債である。全体会計では、水道事業のインフラ資産や観光事業の事業用資産等を合算することにより、資産総額は15,313百万円となっている。負債総額は水道事業の企業債等を合算することで5,454百万円となっている。前年度末からは、資産総額は137百万円減少し、負債総額は331百万円増加している。連結会計では、岳北広域行政組合が保有している廃棄物処理施設や消防施設に係る資産などを連結割合で合算することにより、資産総額は17,250百万円となっている。負債総額は岳北広域行政組合の地方債等を合算することで5,987百万円となっている。前年度末からは、資産総額は202百万円減少し、負債総額は294百万円増加した。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,157 | 3,094 | 2,966 | 3,157 |
| | 純行政コスト | | 3,154 | 3,089 | 2,965 | 3,212 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 4,278 | 4,134 | 3,992 | 4,205 |
| | 純行政コスト | | 4,275 | 4,129 | 3,992 | 4,260 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,646 | 4,552 | 4,564 | 4,716 |
| | 純行政コスト | | 4,662 | 4,550 | 4,568 | 4,723 |

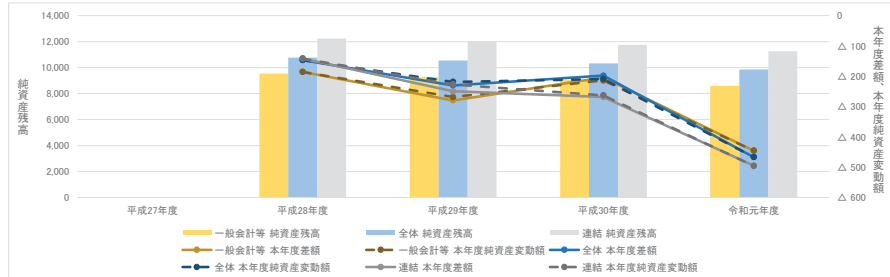


分析:
一般会計等においては、純行政コストは前年度から246百万円増加し3,212百万円となった。新庁舎建設に伴い移設工事費などの資産計上されない工事費が多く物件費が増加したほか、会計上の費用である退職手当引当金繰入額や投資損失引当金繰入額が増加している。なお投資損失引当金は3セク等の木島平村観光振興に対する出資金に対して計上したものである。全体会計では、特別会計を合算することで純行政コストは4,260百万円となっている。特別会計ごとの純行政コストは、国民健康保険特別会計542百万円、介護保険特別会計568百万円、後期高齢者医療特別会計57百万円、観光施設特別会計70百万円となっている。水道事業会計は利用料収入などにより純利益を計上しているため行政コストはマイナス8百万円となっている。連結会計では、岳北広域行政組合や長野県後期高齢者医療広域連合等を合算することにより、純行政コストは4,723百万円となっている。連結団体のなかで比較的純行政コストが大きいのは、長野県後期高齢者医療広域連合520百万円、岳北広域行政組合168百万円、木島平観光振興97百万円などである。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 186 | △ 280 | △ 204 | △ 446 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 186 | △ 269 | △ 214 | △ 446 |
| | 純資産残高 | | 9,528 | 9,259 | 9,045 | 8,598 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 147 | △ 230 | △ 198 | △ 467 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 147 | △ 219 | △ 209 | △ 467 |
| | 純資産残高 | | 10,754 | 10,535 | 10,326 | 9,859 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 142 | △ 250 | △ 269 | △ 495 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 142 | △ 227 | △ 263 | △ 496 |
| | 純資産残高 | | 12,249 | 12,022 | 11,760 | 11,263 |

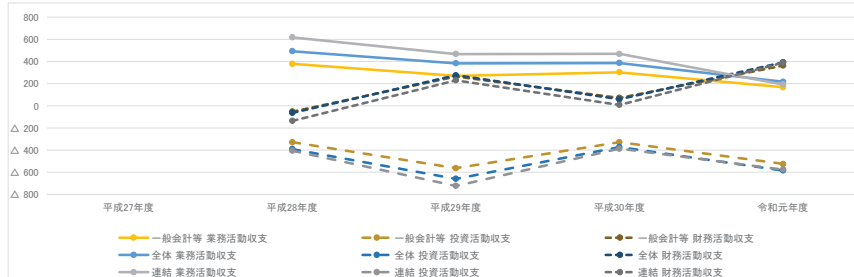


分析:
一般会計等においては、税収等の財源(2,765百万円)が純行政コスト(3,212百万円)を下回っており、本年度差額は△446百万円となり、純資産残高は8,598百万円となった。全体会計では、国民健康保険特別会計の保険料収入や保険給付費など特別会計の財源や行政コストが合算されて本年度差額は△467百万円、純資産残高は9,859百万円となった。連結会計では、岳北広域行政組合などの一部事務組合や広域連合、木島平観光振興などの3セク等が合算されて本年度差額は△495百万円、純資産残高は11,263百万円となった。一般会計等、全体会計、連結会計ともに4期連続で本年度差額がマイナスであることに加えて、マイナス幅が拡大傾向にある。財源と行政コストのバランスを保つことができるか注意する必要がある。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 379 | 269 | 303 | 168 |
| | 投資活動収支 | | △ 328 | △ 562 | △ 328 | △ 525 |
| | 財務活動収支 | | 53 | 265 | 71 | 363 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 492 | 384 | 386 | 217 |
| | 投資活動収支 | | △ 390 | △ 659 | △ 372 | △ 584 |
| | 財務活動収支 | | 64 | 275 | 58 | 392 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 617 | 466 | 468 | 192 |
| | 投資活動収支 | | △ 405 | △ 723 | △ 386 | △ 576 |
| | 財務活動収支 | | 136 | 230 | 8 | 389 |



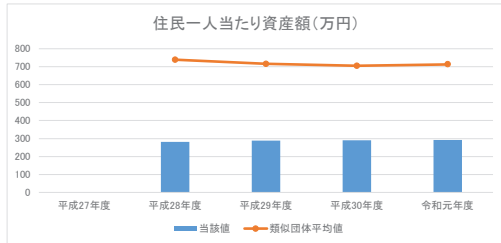
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は物件費等支出の増加などにより前年度より減少して167百万円である。投資活動収支は新庁舎建築などの公共施設等整備費支出が増加したことなどにより前年度に比べマイナス幅が拡大して△525百万円となっている。財務活動収支は、地方債の発行額が地方債償還支出を上回ったことから363百万円となっている。全体会計では、業務活動収支は特別会計の業務収支が合算され217百万円となっている。投資活動収支では、水道事業会計の公共施設等整備支出などが合算され△584百万円となっている。財務活動収支は、水道事業会計の企業債の発行収入などが合算され392百万円となっている。連結会計では、業務活動収支は連結団体の業務収支が合算され192百万円となっている。連結団体の中で比較的業務収支の金額が大きいのは木島平観光振興102百万円、岳北広域行政組合54百万円である。投資活動収支は全体会計からの大きな増減はなく△576百万円となっている。財務活動収支も全体会計から大きな増減はなく389百万円となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

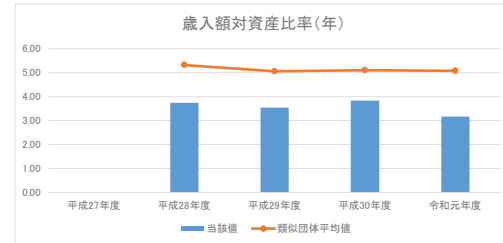
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,382,300 | 1,385,714 | 1,380,241 | 1,366,729 |
| 人口 | | 4,897 | 4,807 | 4,766 | 4,669 |
| 当該値 | | 282.3 | 288.3 | 289.6 | 292.7 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

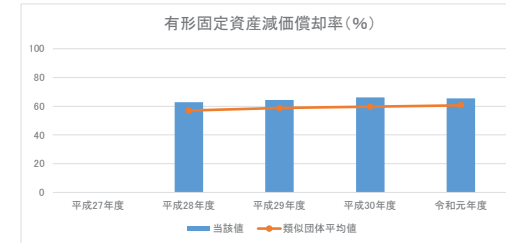
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 13,823 | 13,857 | 13,802 | 13,667 |
| 歳入総額 | | 3,698 | 3,914 | 3,607 | 4,307 |
| 当該値 | | 3.74 | 3.54 | 3.83 | 3.17 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 15,359 | 15,869 | 16,338 | 16,799 |
| 有形固定資産 ※1 | | 24,462 | 24,653 | 24,708 | 25,686 |
| 当該値 | | 62.8 | 64.4 | 66.1 | 65.4 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

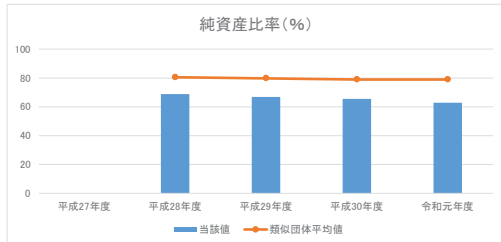
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

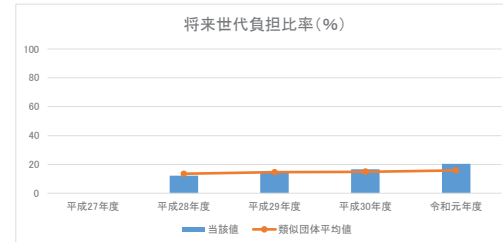
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 9,528 | 9,259 | 9,045 | 8,598 |
| 資産合計 | | 13,823 | 13,857 | 13,802 | 13,667 |
| 当該値 | | 68.9 | 66.8 | 65.5 | 62.9 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,280 | 1,578 | 1,690 | 2,127 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 10,488 | 10,460 | 10,218 | 10,488 |
| 当該値 | | 12.2 | 15.1 | 16.5 | 20.3 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

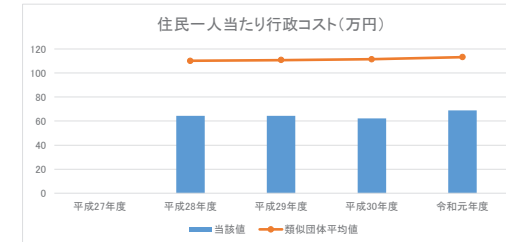
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

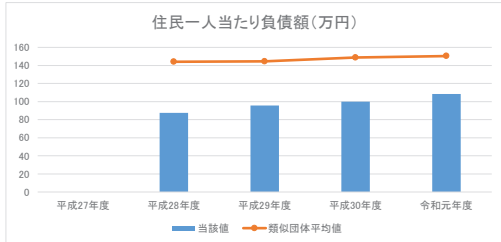
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 総行政コスト | | 315,400 | 308,924 | 296,525 | 321,156 |
| 人口 | | 4,897 | 4,807 | 4,766 | 4,669 |
| 当該値 | | 64.4 | 64.3 | 62.2 | 68.8 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

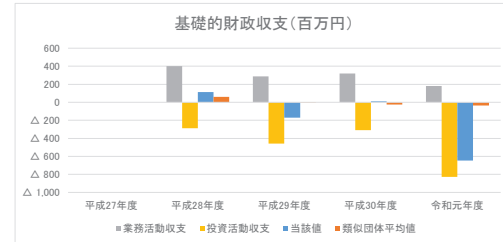
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 429,600 | 459,861 | 475,786 | 506,883 |
| 人口 | | 4,897 | 4,807 | 4,766 | 4,669 |
| 当該値 | | 87.7 | 95.7 | 99.8 | 108.6 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 401 | 287 | 318 | 181 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 289 | △ 459 | △ 308 | △ 827 |
| 当該値 | | 112 | △ 172 | 10 | △ 646 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

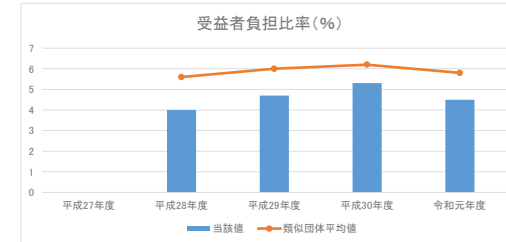
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 133 | 152 | 165 | 148 |
| 経常費用 | | 3,290 | 3,246 | 3,131 | 3,304 |
| 当該値 | | 4.0 | 4.7 | 5.3 | 4.5 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

類似団体と比較すると、一人当たり資産額は類似団体平均値の4割程度、歳入額対資産比率も7割程度と資産計上額が少なくなっている。
両指標が低くなっている要因としては、会計開始時の資産評価において、取得価額が不明であるため備忘価額1円で評価している資産が多いこと、村には大きな橋やトンネルがなく、道路延長も比較的短いなど、インフラ資産が少なことが考えられる。

有形固定資産減価償却率は65%であり、類似団体平均値を約5ポイント上回っている。
前年度から0.7ポイント減少しているが、過去4期を比較すると大きな増減はなく目立った傾向も見られない。

2. 資産と負債の比率

類似団体と比較すると、純資産比率は類似団体平均値に比べ16ポイント程度低く、将来世代負担比率は5ポイント程度高い。経年比較では、純資産比率は減少傾向にあり、純資産残高も減少している。
将来負担世代比率は増加しており、地方債残高も増加傾向にあり、いずれの指標も悪化傾向にあり、類似団体との差も広がっているため今後も注意が必要な指標である。

3. 行政コストの状況

類似団体と比較すると、住民一人当たり行政コストは類似団体平均値の約6割程度の水準であり、比較的低コストで行政運営が行われているといえる。
経年比較では、平成30年度までは減少傾向にあったが、令和元年度では増加に転じている。令和元年度の増加は、退職手当引当金繰入額や投資損失引当金繰入額の増加による一時的な要因が大きい。

4. 負債の状況

類似団体と比較すると、住民一人当たり負債額は類似団体平均値の約7割程度の水準であり、地方債残高は比較的少ないと言える。
しかし、近年地方債残高が増加しており、当該指標は悪化傾向にある。
また、基礎的財政収支も前年度はプラスであったところ、今年度はマイナスに転じている。過去4期の平均値もマイナスとなっている。
投資活動収支が業務活動収支を超えている年度が続いており、この状況が続く場合は投資額が適正な規模になっているか注意が必要である。

5. 受益者負担の状況

類似団体と比較すると、受益者負担比率は類似団体平均値の約8割程度の水準にあり、行政サービス提供に対する直接的な住民負担の割合は比較的低くなっている。
経年比較では、前年度より経常収益が減少している上に経常費用は増加しているため0.9ポイント低下している。
今後も減少傾向が続く場合は、公共施設等の使用料が適正な水準になっているか検討することや、公共施設等の利用頻度を上げるための取組を行うことなどにより、受益者負担割合の適正化が求められる。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

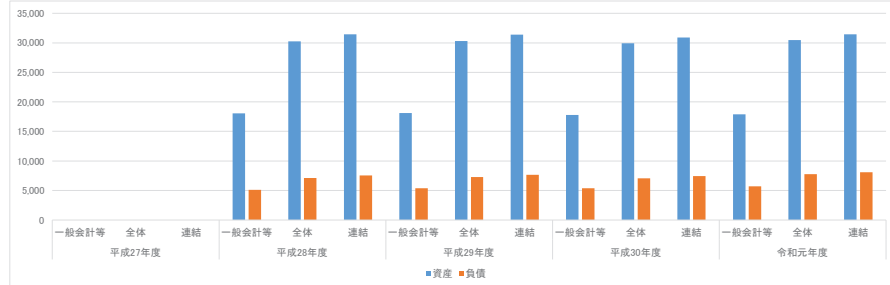
団体名 長野県野沢温泉村
団体コード 205630

| | | | |
|--------|-------------------|------------|--------|
| 人口 | 3,746 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 55 人 |
| 面積 | 57.96 ㎦ | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 2,179.425 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村1-2 | 実質公債比率 | 11.7 % |
| | | 将来負担比率 | 1.8 % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

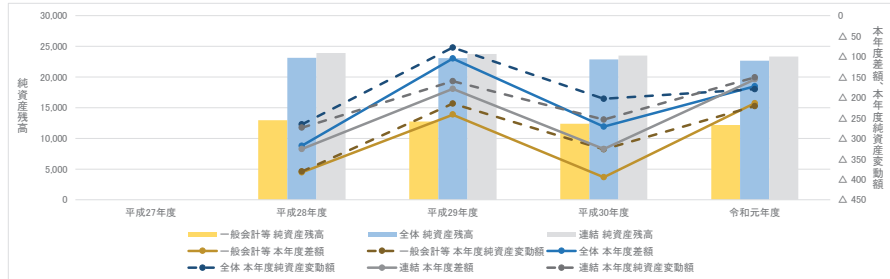
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 18,042 | 18,123 | 17,779 | 17,892 |
| | 負債 | | 5,092 | 5,389 | 5,371 | 5,705 |
| 全体 | 資産 | | 30,282 | 30,319 | 29,905 | 30,448 |
| | 負債 | | 7,130 | 7,265 | 7,055 | 7,777 |
| 連結 | 資産 | | 31,471 | 31,399 | 30,919 | 31,437 |
| | 負債 | | 7,572 | 7,660 | 7,433 | 8,103 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から113百万円の増加(+0.6%)となった。金額の変動が大きいものは事業用資産と基金であり、事業用資産は、村民住宅の建設等による資産の取得額(437百万円)が、減価償却による資産の減少を上回ったこと等から335百万円増加し、基金は、観光施設事業会計貸付事業のために取り崩したこと等により、基金(固定資産)が292百万円減少した。また、負債総額は前年度末から334百万円の増加(+6.2%)しているが、負債の増加額のうち最も金額が大きいものは、過疎対策事業債の増加(261百万円)である。
観光施設事業会計、下水道特別会計等を加えた全体では、資産総額が前年度末から543百万円増加(+1.8%)し、負債総額は前年度末から722百万円増加(+10.2%)した。資産総額は、スキー場施設や上下水道施設等の資産を計上していることから、一般会計等に対して12,556百万円多くなるが、負債総額もスキー場施設・設備の整備事業や下水道施設・設備の長寿命化対策事業に地方債(固定負債)を充当したこと等から、2,072百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

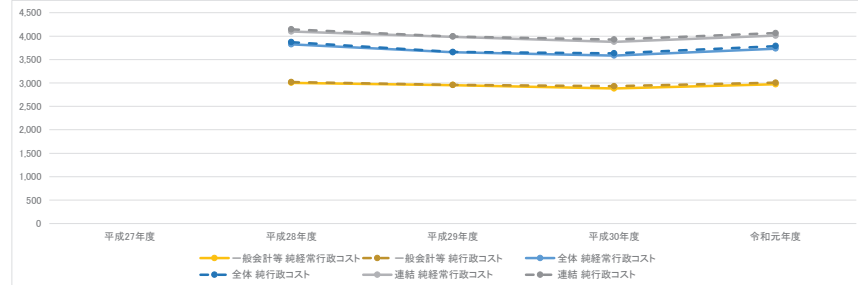
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 383 | △ 242 | △ 395 | △ 214 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 381 | △ 215 | △ 327 | △ 221 |
| | 純資産残高 | 12,949 | 12,734 | 12,408 | 12,186 | 12,186 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 318 | △ 105 | △ 271 | △ 173 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 266 | △ 78 | △ 203 | △ 180 |
| | 純資産残高 | 23,132 | 23,054 | 22,851 | 22,671 | 22,671 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 326 | △ 179 | △ 326 | △ 156 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 274 | △ 160 | △ 254 | △ 151 |
| | 純資産残高 | 23,899 | 23,739 | 23,485 | 23,334 | 23,334 |



分析:
一般会計等においては、収支等の財源(2,487百万円)が純行政コスト(3,006百万円)を下回っており、本年度差額は▲214百万円となり、純資産残高は221百万円の減少となった。引き続き、職員一丸となって滞納整理に取り組み、収支等の増加に努める。
全体会計では、国民健康保険特別会計の国民健康保険税や、介護保険特別会計等の介護保険料が収支等に含まれることから、一般会計等と比べて収支等が325百万円多くなっており、本年度差額は▲173百万円となり、純資産残高は180百万円の減少となった。
連結会計では、長野県後期高齢者医療広域連合への国庫等補助金等が財源に含まれることから、一般会計等と比べて財源が1,117百万円多くなっており、本年度差額は▲156百万円となり、純資産残高は151百万円の減少となった。

2. 行政コストの状況

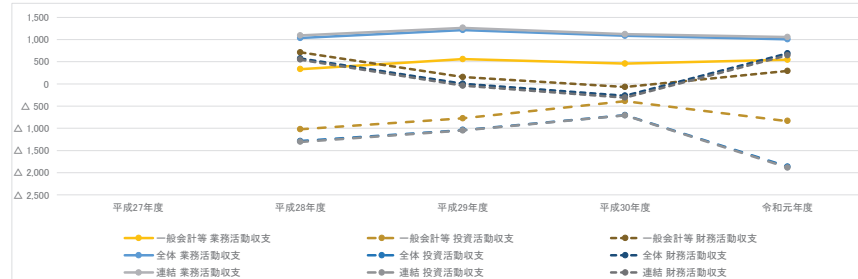
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,002 | 2,954 | 2,883 | 2,973 |
| | 純行政コスト | | 3,020 | 2,960 | 2,932 | 3,006 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 3,824 | 3,656 | 3,584 | 3,734 |
| | 純行政コスト | | 3,870 | 3,663 | 3,632 | 3,788 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 4,098 | 3,986 | 3,877 | 4,011 |
| | 純行政コスト | | 4,144 | 3,993 | 3,926 | 4,065 |



分析:
一般会計等においては、経常費用が3,152百万円となり、前年度比90百万円の増加(+3.1%)となった。そのうち、人件費等の業務費用は2,257百万円、補助金や社会保障給付等の移転費用は895百万円であり、業務費用の方が移転費用よりも多い。最も金額が大きいのは減価償却費や物件費を含む物件費等(1,840百万円、前年度比+40百万円)であり、純行政コストの54.6%となっている。公共施設総合管理計画等に基づき適正な管理を行い、経費の縮減に努める。
全体会計では一般会計等と比べて、上下水道料やスキー場施設貸付料等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が626百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が580百万円多くなり、純行政コストは782百万円多くなっている。
連結会計では一般会計等と比べて、連結対象団体の事業収益を計上し、経常収益が789百万円多くなっている一方、人件費が330百万円多くなっているなど、経常費用が1,827百万円多くなり、純行政コストは1,059百万円多くなっている。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|---------|--------|---------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 333 | 561 | 459 | 546 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,021 | △ 777 | △ 388 | △ 836 |
| | 財務活動収支 | | 714 | 159 | △ 68 | 293 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 1,039 | 1,215 | 1,086 | 1,007 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,284 | △ 1,038 | △ 703 | △ 1,862 |
| | 財務活動収支 | | 573 | 3 | △ 266 | 689 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 1,093 | 1,264 | 1,125 | 1,058 |
| | 投資活動収支 | | △ 1,305 | △ 1,051 | △ 708 | △ 1,885 |
| | 財務活動収支 | | 550 | △ 39 | △ 309 | 646 |



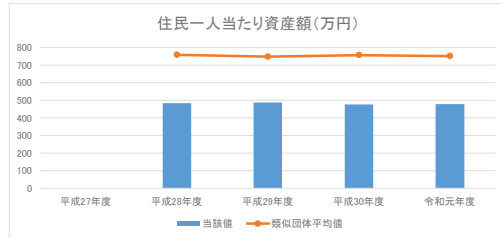
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は546百万円であったが、投資活動収支については、村民住宅(集合住宅、若者住宅)の建設工事を行ったことから、▲836百万円となった。財務活動収支については、地方債発行収入が地方債償還支出を上回ったことから、293百万円となっており、本年度末資金残高は前年度から3百万円増加し、90百万円となった。過疎対策事業債の終了年度である令和2年度まで大型の投資的事業が計画されており、財務活動収支はプラスで推移すると考えられる。
全体会計では、国民健康保険税や介護保険料が収支等に含まれること、上下水道料やスキー場施設貸付料等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より461百万円多い1,007百万円となっている。投資活動収支では、スキー場施設・設備の整備事業や下水道施設・設備の長寿命化事業を行ったため、▲1,862百万円となっている。財務活動収支は、地方債発行収入が地方債償還支出を上回ったことから、689百万円となり、本年度末資金残高は前年度から167百万円減少し、1,545百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

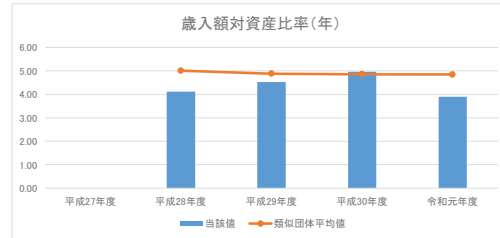
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | 1,804,180 | 1,812,314 | 1,777,857 | 1,789,193 | 1,789,193 |
| 人口 | 3,736 | 3,720 | 3,730 | 3,746 | 3,746 |
| 当該値 | 482.9 | 487.2 | 476.6 | 477.6 | 477.6 |
| 類似団体平均値 | 758.3 | 747.9 | 757.0 | 750.2 | 750.2 |



②歳入額対資産比率(年)

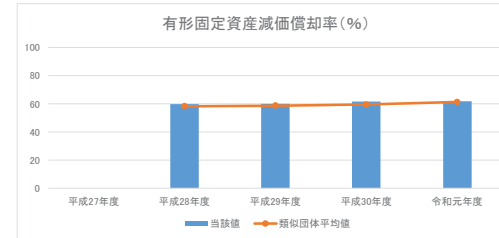
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | 18,042 | 18,123 | 17,779 | 17,892 | 17,892 |
| 歳入総額 | 4,390 | 4,006 | 3,587 | 4,593 | 4,593 |
| 当該値 | 4.11 | 4.52 | 4.96 | 3.90 | 3.90 |
| 類似団体平均値 | 5.01 | 4.88 | 4.86 | 4.85 | 4.85 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | 18,679 | 19,375 | 20,107 | 20,801 | 20,801 |
| 有形固定資産 ※1 | 31,313 | 32,367 | 32,648 | 33,640 | 33,640 |
| 当該値 | 59.7 | 59.9 | 61.6 | 61.8 | 61.8 |
| 類似団体平均値 | 58.2 | 58.6 | 59.5 | 61.3 | 61.3 |

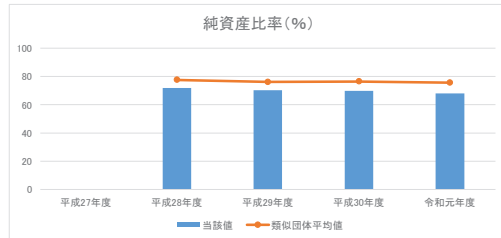
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

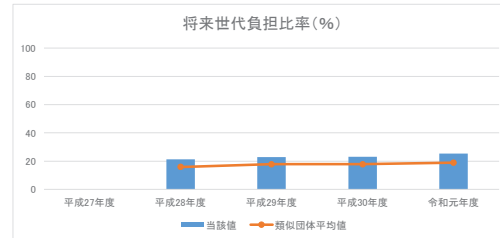
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | 12,949 | 12,734 | 12,408 | 12,186 | 12,186 |
| 資産合計 | 18,042 | 18,123 | 17,779 | 17,892 | 17,892 |
| 当該値 | 71.8 | 70.3 | 69.8 | 68.1 | 68.1 |
| 類似団体平均値 | 77.5 | 76.1 | 76.4 | 75.6 | 75.6 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | 3,197 | 3,460 | 3,416 | 3,817 | 3,817 |
| 有形・無形固定資産合計 | 15,061 | 15,109 | 14,760 | 15,093 | 15,093 |
| 当該値 | 21.2 | 22.9 | 23.1 | 25.3 | 25.3 |
| 類似団体平均値 | 15.8 | 17.8 | 17.8 | 18.9 | 18.9 |

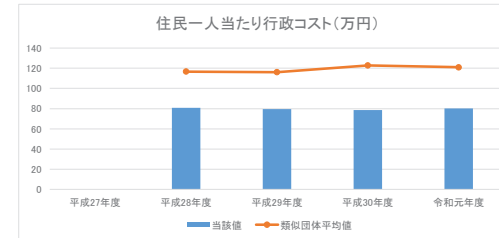
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

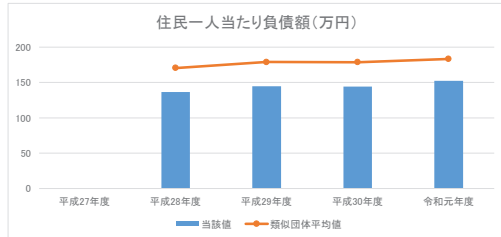
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | 302,007 | 295,996 | 293,154 | 300,600 | 300,600 |
| 人口 | 3,736 | 3,720 | 3,730 | 3,746 | 3,746 |
| 当該値 | 80.8 | 79.6 | 78.6 | 80.2 | 80.2 |
| 類似団体平均値 | 116.6 | 116.1 | 122.8 | 121.0 | 121.0 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

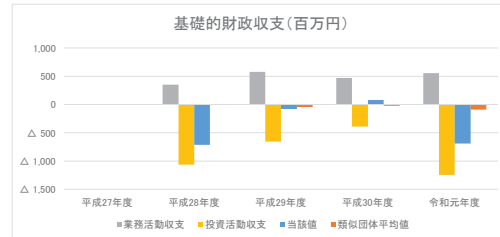
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | 509,241 | 538,875 | 537,085 | 570,547 | 570,547 |
| 人口 | 3,736 | 3,720 | 3,730 | 3,746 | 3,746 |
| 当該値 | 136.3 | 144.9 | 144.0 | 152.3 | 152.3 |
| 類似団体平均値 | 170.4 | 178.9 | 178.7 | 183.3 | 183.3 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | 351 | 576 | 471 | 555 | 555 |
| 投資活動収支 ※2 | △1,063 | △657 | △389 | △1,243 | △1,243 |
| 当該値 | △712 | △81 | 82 | △688 | △688 |
| 類似団体平均値 | △3.0 | △47.9 | △22.9 | △89.0 | △89.0 |

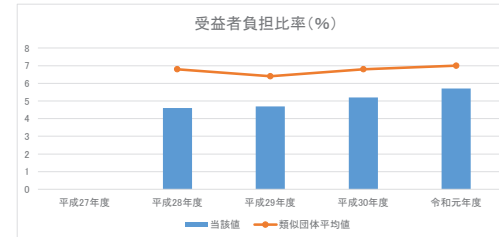
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | 146 | 146 | 158 | 179 | 179 |
| 経常費用 | 3,148 | 3,098 | 3,041 | 3,152 | 3,152 |
| 当該値 | 4.6 | 4.7 | 5.2 | 5.7 | 5.7 |
| 類似団体平均値 | 6.8 | 6.4 | 6.8 | 7.0 | 7.0 |



※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

分析欄:

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額は477.6万円であり、類似団体平均値から大きく下回っているが、当団体では、大きな橋やトンネルがなく、また道路等の資産の評価額が備忘価格1円で評価しているものが大半を占めているためである。
②歳入額対資産比率は3.90年であり、類似団体平均値を下回る結果となった。令和元年度は村民住宅(集合住宅・若者住宅)の建設等により歳入総額が増加したことで、前年度から1.06%減少し3.90%となった。
③有形固定資産減価償却率は61.8%であり、類似団体平均値と同程度の数値になっている。60%を超えているため、公共施設総合管理計画に基づき、長寿命化改修工事や統合による解体・建設工事が今後予定されている。

2. 資産と負債の比率

④純資産比率は68.1%であり、類似団体平均値を下回っているが、資産合計が類似団体平均値より低いこと、近年過疎対策事業費等を活用して施設整備等を行っているため、低くなっていると考えられる。
⑤将来負担比率は25.3%となり、類似団体平均値を上回っている。また、数値が年々増加しているが、地方債の借入は長期的な見直しをもって計画的に行っている。

3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コストは80.2万円であり、類似団体平均値を大きく下回っている。インフラ資産等の計上が少ないことから減価償却費が抑えられていることが考えられる。

4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額は152.3万円であり、類似団体平均値を下回っている。地方債については交付税措置のある過疎対策事業債や辺地対策事業債を借入れており、負債額悪化の抑制に努めている。

⑧基礎的財政収支は△688百万円であり、類似団体平均値を大きく下回っている。近年は観光施設や村民住宅等の大型投資的事業を行っており、またその財源を過疎対策事業債等に依存しているため投資活動収支は大きくマイナスになっている。

5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率は5.7%であり、類似団体平均値を下回っているが、観光施設等を指定管理委託しているため受益者負担率が低いと考えられる。また、近年は村民住宅(若者住宅・集合住宅)を整備しているため、受益者負担比率が増加傾向にある。

令和元年度 財務書類に関する情報①

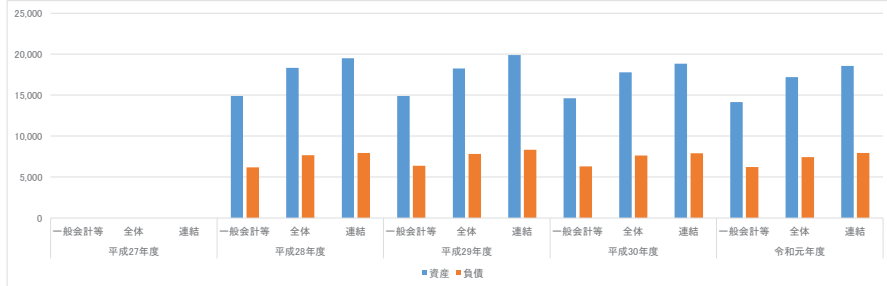
団体名 長野県信濃町
団体コード 205834

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 8,210人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 103人 |
| 面積 | 149.30km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 3,635,585千円 | 連結実質赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村Ⅱ-1 | 実質公債費率 | 10.9% |
| | | 将来負担比率 | 25.2% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | ○ |

1. 資産・負債の状況

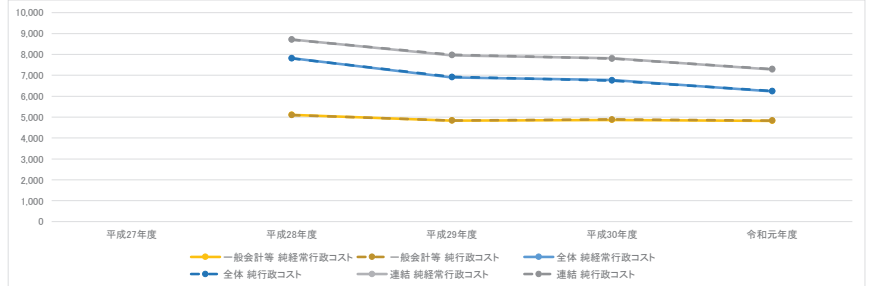
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 14,899 | 14,906 | 14,638 | 14,163 | 14,163 |
| | 負債 | 6,181 | 6,369 | 6,306 | 6,209 | 6,209 |
| 全体 | 資産 | 18,340 | 18,259 | 17,795 | 17,197 | 17,197 |
| | 負債 | 7,667 | 7,838 | 7,620 | 7,421 | 7,421 |
| 連結 | 資産 | 19,523 | 19,893 | 18,844 | 18,576 | 18,576 |
| | 負債 | 7,960 | 8,322 | 7,924 | 7,951 | 7,951 |



分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から475百万円の減少(△3.2%)となった。金額の変動が大きいものは事業用資産であり、建物減価償却による資産の減少により327百万円減少した。負債総額は前年度末から97百万円減少(1.5%)となった。負債の増加額のうち最も金額が大きいものは、退職手当引当金の減少(△29百万円)である。
全体では資産総額が前年度末から998百万円減少(△3.4%)し、負債総額が前年度末から199百万円減少(△2.6%)した。資産総額は、一般会計等と比べて下水道等のインフラ資産を計上していること等により3,034百万円多くなるが、負債総額も下水道事業の長寿命化対策事業に地方債(固定負債)を充当したこと等から、1,212百万円多くなっている。
長野広域連合等を加えた連結では、一般会計等と比べて資産総額は4,413百万円増加しているが、負債総額は1,742百万円増加となっている。

2. 行政コストの状況

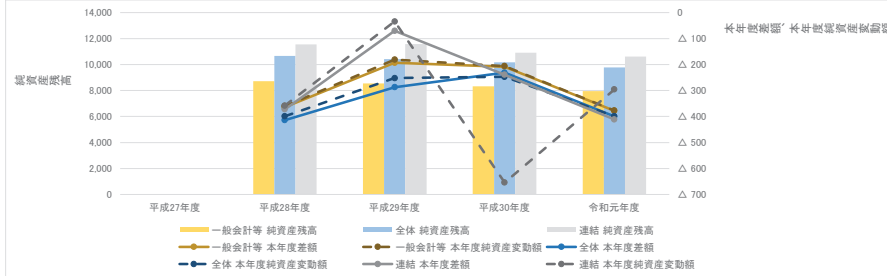
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 5,108 | 4,832 | 4,869 | 4,819 |
| | 純行政コスト | | 5,097 | 4,836 | 4,891 | 4,838 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 7,820 | 6,898 | 6,772 | 6,231 |
| | 純行政コスト | | 7,809 | 6,925 | 6,748 | 6,251 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 8,715 | 7,961 | 7,822 | 7,278 |
| | 純行政コスト | | 8,705 | 7,984 | 7,798 | 7,298 |



分析:
一般会計等においては、経常費用は5,066百万円となり、前年度比32百万円の減少(△0.6%)となった。業務費用が移転費用よりも多く、金額が大きいのは維持補修費を含む物件費等1,814百万円である。今後も道路橋りょうや公共施設の老朽化が進むことにより維持修繕費が今後も見込まれるため、公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の縮減に努める。
全体では、一般会計等と比べて、水道料金・下水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が1,722百万円多くなっている一方、病院や国民健康保険等の負担金を補助金等に計上しているため、移転費用が1,490百万円多くなり、純行政コストは1,412百万円多くなっている。また、連結では、一般会計等と比べて、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が2,154百万円多くなっている一方、人件費が1,218百万円多くなっているなど、経常費用が4,613百万円、純行政コストが4,260百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

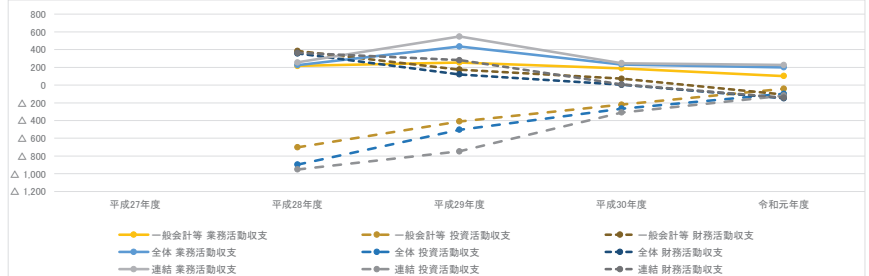
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 364 | △ 193 | △ 208 | △ 378 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 360 | △ 181 | △ 206 | △ 377 |
| | 純資産残高 | 8,719 | 8,537 | 8,332 | 7,954 | 7,954 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 414 | △ 287 | △ 231 | △ 400 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 399 | △ 252 | △ 247 | △ 399 |
| | 純資産残高 | 10,673 | 10,422 | 10,175 | 9,776 | 9,776 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 372 | △ 70 | △ 239 | △ 411 |
| | 本年度純資産変動額 | | △ 358 | △ 34 | △ 654 | △ 296 |
| | 純資産残高 | 11,562 | 11,570 | 10,920 | 10,625 | 10,625 |



分析:
一般会計等においては、税金等の財源(3,880百万円)が純行政コスト(4,838百万円)を下回っており、本年度差額は△378百万円となり、純資産残高は378百万円の減少となった。人口減少等により住民税・固定資産税の減少が続く中で、地方税の徴収業務の強化等により税金等の維持に努める。
全体では、国民健康保険特別会計・介護保険特別会計等の保険料が税金等に含まれることから、一般会計等と比べて税金等が215百万円多くなっているが、本年度差額は△400百万円となり、純資産残高は9,776百万円となった。連結では、長野県後期高齢者医療広域連合の税金等が含まれることから、一般会計等と比べて税金等が788百万円多くなっており、本年度差額は△411百万円となり、純資産残高は10,625百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 216 | 254 | 189 | 101 |
| | 投資活動収支 | | △ 702 | △ 410 | △ 221 | △ 42 |
| | 財務活動収支 | | 385 | 175 | 72 | △ 107 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 225 | 435 | 231 | 199 |
| | 投資活動収支 | | △ 897 | △ 504 | △ 266 | △ 98 |
| | 財務活動収支 | | 357 | 119 | 3 | △ 149 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 256 | 548 | 246 | 227 |
| | 投資活動収支 | | △ 952 | △ 748 | △ 309 | △ 119 |
| | 財務活動収支 | | 364 | 281 | 7 | △ 142 |



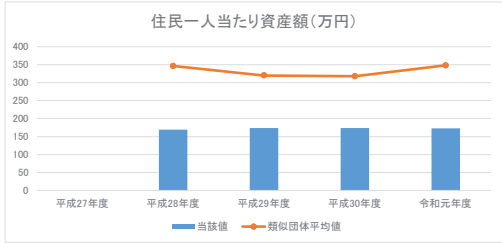
分析:
一般会計等においては、業務活動収支は101百万円であったが、投資活動収支は、公民館整備事業の減等により公共施設等整備支出が減少したことから、△42百万円となった。財務活動収支については、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△107百万円となった。
全体では、国民健康保険税や介護保険料が税金等に含まれることから、水道料金等の使用料及び手数料収入があることなどから、業務活動収支は一般会計等より98百万円多い199百万円となっている。
連結では、長野広域連合等の業務収入が含まれることなどから、業務活動収支は一般会計等より126百万円多い227百万円となっている。財務活動収支は、地方債の償還額が地方債発行収入を上回ったことから、△142百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

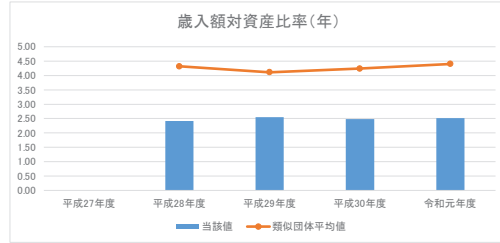
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,489,932 | 1,490,616 | 1,463,790 | 1,416,294 |
| 人口 | | 8,804 | 8,597 | 8,432 | 8,210 |
| 当該値 | | 169.2 | 173.4 | 173.6 | 172.5 |
| 類似団体平均値 | | 346.1 | 320.1 | 317.9 | 348.2 |



②歳入額対資産比率(年)

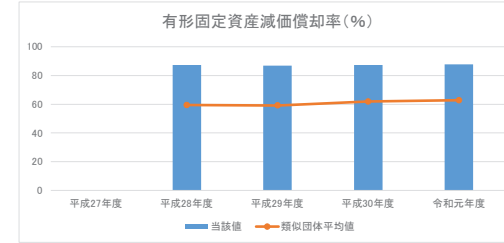
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 14,899 | 14,906 | 14,638 | 14,163 |
| 歳入総額 | | 6,166 | 5,840 | 5,905 | 5,612 |
| 当該値 | | 2.42 | 2.55 | 2.48 | 2.52 |
| 類似団体平均値 | | 4.32 | 4.11 | 4.24 | 4.40 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 54,167 | 54,637 | 55,140 | 55,625 |
| 有形固定資産 ※1 | | 62,048 | 62,859 | 63,212 | 63,393 |
| 当該値 | | 87.3 | 86.9 | 87.2 | 87.7 |
| 類似団体平均値 | | 59.4 | 59.1 | 61.8 | 62.8 |

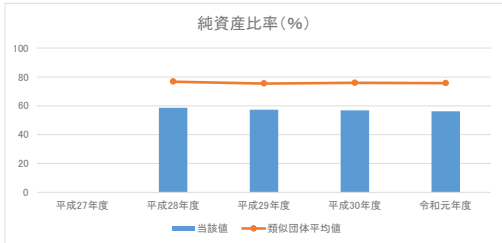
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

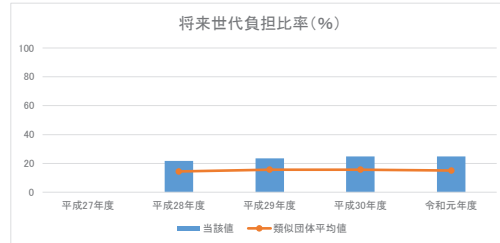
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 8,719 | 8,537 | 8,332 | 7,954 |
| 資産合計 | | 14,899 | 14,906 | 14,638 | 14,163 |
| 当該値 | | 58.5 | 57.3 | 56.9 | 56.2 |
| 類似団体平均値 | | 76.7 | 75.4 | 75.9 | 75.7 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 地方債残高 ※1 | | 2,284 | 2,455 | 2,535 | 2,481 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 10,466 | 10,461 | 10,267 | 9,985 |
| 当該値 | | 21.8 | 23.5 | 24.7 | 24.8 |
| 類似団体平均値 | | 14.4 | 15.6 | 15.6 | 15.0 |

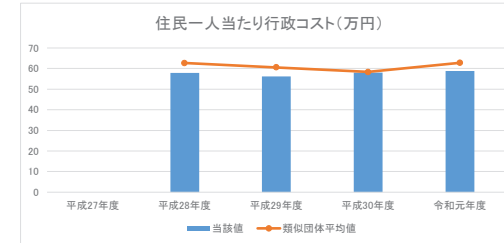
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

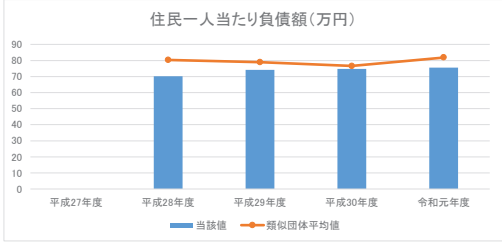
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 509,741 | 483,570 | 489,073 | 483,819 |
| 人口 | | 8,804 | 8,597 | 8,432 | 8,210 |
| 当該値 | | 57.9 | 56.2 | 58.0 | 58.9 |
| 類似団体平均値 | | 62.7 | 60.6 | 58.4 | 62.8 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

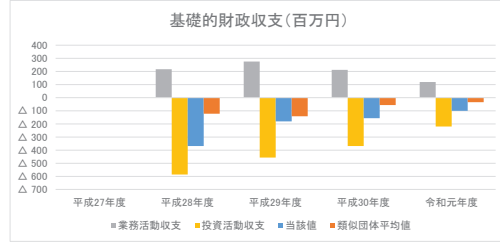
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 618,079 | 636,877 | 630,609 | 620,856 |
| 人口 | | 8,804 | 8,597 | 8,432 | 8,210 |
| 当該値 | | 70.2 | 74.1 | 74.8 | 75.6 |
| 類似団体平均値 | | 80.3 | 78.9 | 76.6 | 81.8 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 216 | 276 | 211 | 119 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 586 | △ 456 | △ 368 | △ 219 |
| 当該値 | | △ 370 | △ 180 | △ 157 | △ 100 |
| 類似団体平均値 | | △ 121.8 | △ 141.6 | △ 57.5 | △ 34.7 |

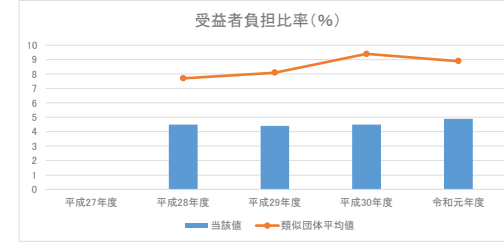
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 238 | 225 | 228 | 247 |
| 経常費用 | | 5,346 | 5,057 | 5,098 | 5,066 |
| 当該値 | | 4.5 | 4.4 | 4.5 | 4.9 |
| 類似団体平均値 | | 7.7 | 8.1 | 9.4 | 8.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

有形固定資産減価償却率が87.7ポイントと類似団体平均の82.8ポイントを上回っている。整備した公共施設の減価償却が進み更新時期を迎えていることなどから、類似団体より高い水準にある。令和2年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づいた個別施設設計により、施設の統廃合や計画的な保全による長寿命化を進めていくなど公共施設等の適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

将来世代負担率が24.8ポイントと、類似団体平均の15.0ポイントを上回っている。近年、地方債残高の増加傾向が続いているため、新規に発行する地方債を抑制することにより地方債残高を圧縮し、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

住民一人あたり行政コストは類似団体平均を下回っているが、人口減少やインフラの維持管理・更新費用の増加が見込まれることから、公共施設等総合管理計画に基づいた公共施設等の統廃合や長寿命化を進めることで費用の削減に努める。

4. 負債の状況

住民一人あたり負債額は、類似団体平均を下回っており、負債合計も前年度から9,753万円と減少している。これは地方債の発行額が償還額を下回ったためである。今後も地方債の新規発行の抑制に努めるなど、地方債残高の縮小に努める。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は4.9ポイントと類似団体平均を下回っており、経常費用も前年度から32百万円減少した。経常費用のうち維持補修費を含む物件費の増加が多いことから、公共施設等の統廃合や長寿命化を進めることで経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県小川村
団体コード 205885

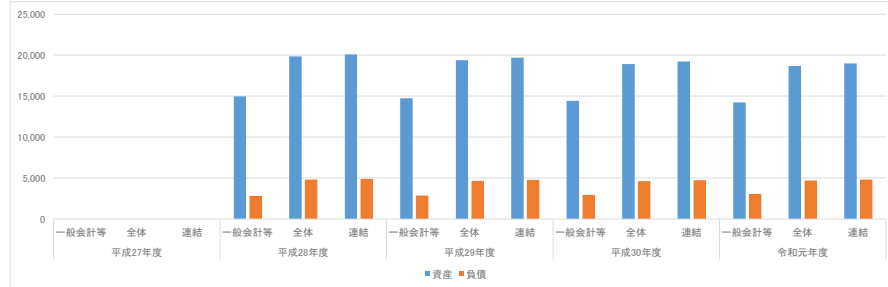
| | | | |
|--------|----------------------|------------|------|
| 人口 | 2,438人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 40人 |
| 面積 | 58.11km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,818.716千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-O | 実質公債費率 | 8.7% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| × | × | ○ |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 14,986 | 14,747 | 14,446 | 14,218 |
| | 負債 | | 2,830 | 2,871 | 2,942 | 3,064 |
| 全体 | 資産 | | 19,853 | 19,390 | 18,932 | 18,691 |
| | 負債 | | 4,807 | 4,686 | 4,618 | 4,710 |
| 連結 | 資産 | | 20,099 | 19,691 | 19,236 | 18,988 |
| | 負債 | | 4,903 | 4,803 | 4,752 | 4,838 |

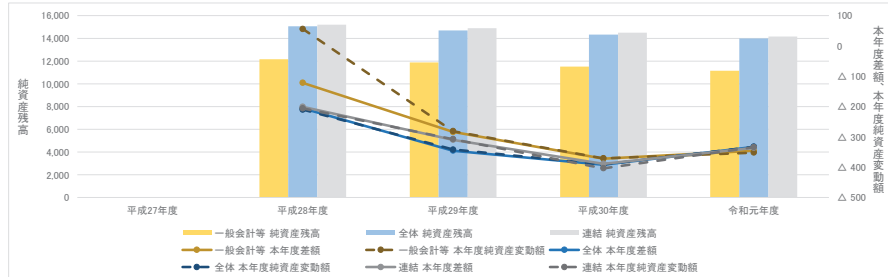


分析:
一般会計等においては、資産総額が前年度末から△228百万円の減少となった。ただし、資産総額のうち有形固定資産の割合が78%となっており、これらの資産は将来の(維持管理・更新等の)支出を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画に基づき、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
全体では、資産総額は前年度末から241百万円減少し、負債総額は前年度末から92百万円増加した。資産総額は、水道管、下水道管等のインフラ資産を計上していること等により、一般会計等にくらべて4,473百万円多くなっているが、負債総額も下水道事業に地方債(固定負債)を充当したこと等から、1,646百万円多くなっている。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △122 | △284 | △372 | △346 |
| | 本年度純資産変動額 | | 56 | △281 | △371 | △352 |
| 全体 | 本年度差額 | | △206 | △346 | △392 | △333 |
| | 本年度純資産変動額 | | △210 | △342 | △391 | △333 |
| 連結 | 本年度差額 | | △201 | △310 | △389 | △336 |
| | 本年度純資産変動額 | | △206 | △308 | △404 | △334 |
| 純資産残高 | | | 15,196 | 14,887 | 14,484 | 14,150 |

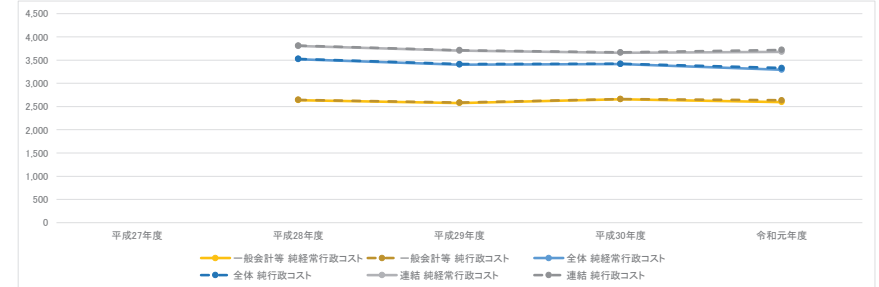


分析:
一般会計等においては、税収等の財源(2,289百万円)が純行政コスト(2,635百万円)を下回っており、本年度差額は△346百万円となっている。純資産残高は△352百万円の減少となった。地方税の徴収率の向上と行政コストの抑制に努める。
全体では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計の保険税・保険料が税収等に含まれ、一般会計等と比べて税収等が461百万円多くなっており、本年度差額は△333百万円となり、純資産残高は13,981百万円となった。
連結では、一般会計等と比べて税収等が602百万円多くなっており、本年度差額は△336百万円となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 2,639 | 2,575 | 2,657 | 2,597 |
| | 純行政コスト | | 2,645 | 2,586 | 2,661 | 2,635 |
| 全体 | 純経常行政コスト | | 3,518 | 3,402 | 3,416 | 3,292 |
| | 純行政コスト | | 3,525 | 3,413 | 3,420 | 3,331 |
| 連結 | 純経常行政コスト | | 3,804 | 3,703 | 3,657 | 3,679 |
| | 純行政コスト | | 3,812 | 3,714 | 3,667 | 3,718 |

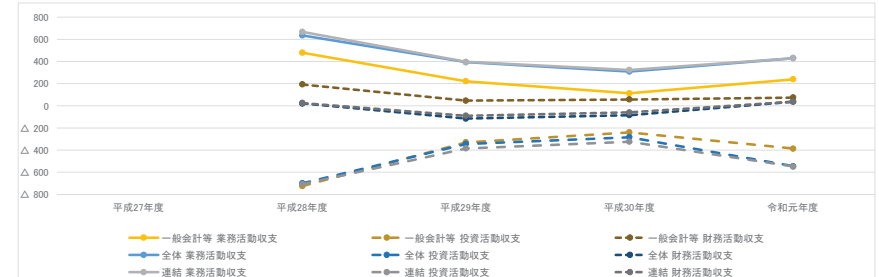


分析:
一般会計等においては、経常費用は2,750百万円となり、前年度から57百万円の減少となった。
全体では、一般会計に比べて、水道料金等を使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が156百万円多くなっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を補助金等に計上しているため、純行政コストは696百万円多くなっている。
連結では、一般会計等にくらべて、連結対象企業等の事業収益を計上しているため、経常収益が253百万円多くなっているが、経常費用は1,336百万円多くなり、純行政コストは1,083百万円多くなっている。
経常収支比率が近年高水準となっており、本村の財政運営の課題である。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 479 | 221 | 113 | 239 |
| | 投資活動収支 | | △724 | △329 | △240 | △386 |
| | 財務活動収支 | | 192 | 47 | 57 | 74 |
| 全体 | 業務活動収支 | | 635 | 393 | 309 | 429 |
| | 投資活動収支 | | △699 | △345 | △284 | △545 |
| | 財務活動収支 | | 21 | △115 | △84 | 37 |
| 連結 | 業務活動収支 | | 667 | 396 | 323 | 430 |
| | 投資活動収支 | | △707 | △384 | △324 | △548 |
| | 財務活動収支 | | 25 | △90 | △60 | 37 |

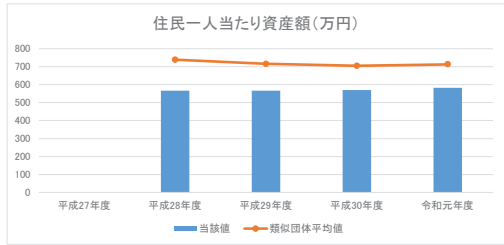


分析:
一般会計等において、業務活動収支は239百万円であった。財務活動収支については、地方債発行額が地方債償還額を上回ったことから74百万円となった。
全体では、国保税や介護保険料、下水道料金収入があることから、業務活動収支は一般会計等より190百万円多い429百万円となっている。

1. 資産の状況

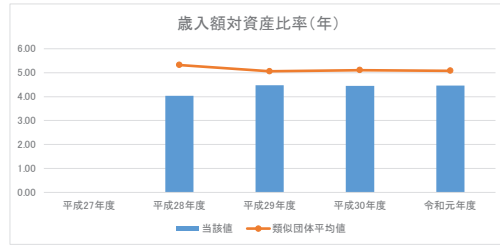
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 1,498,604 | 1,474,686 | 1,444,619 | 1,421,750 |
| 人口 | | 2,643 | 2,607 | 2,537 | 2,438 |
| 当該値 | | 567.0 | 565.7 | 569.4 | 583.2 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

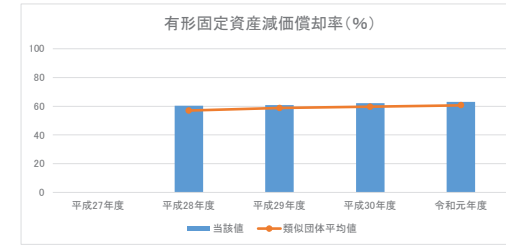
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 14,986 | 14,747 | 14,446 | 14,218 |
| 歳入総額 | | 3,718 | 3,295 | 3,244 | 3,187 |
| 当該値 | | 4.03 | 4.48 | 4.45 | 4.46 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 15,755 | 16,321 | 16,883 | 17,397 |
| 有形固定資産 ※1 | | 26,107 | 26,861 | 27,137 | 27,551 |
| 当該値 | | 60.3 | 60.8 | 62.2 | 63.1 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

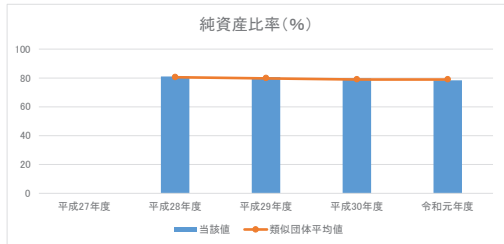
※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

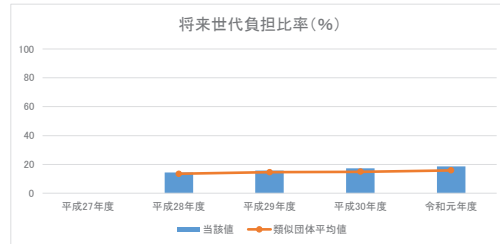
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 12,156 | 11,876 | 11,505 | 11,153 |
| 資産合計 | | 14,986 | 14,747 | 14,446 | 14,218 |
| 当該値 | | 81.1 | 80.5 | 79.6 | 78.4 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,634 | 1,786 | 1,929 | 2,040 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 11,453 | 11,315 | 11,156 | 11,025 |
| 当該値 | | 14.3 | 15.8 | 17.3 | 18.5 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

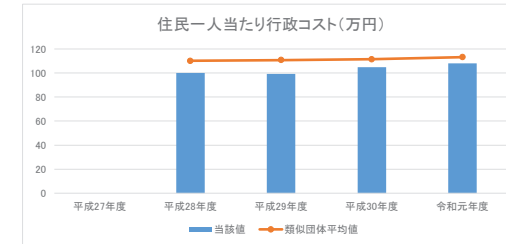
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

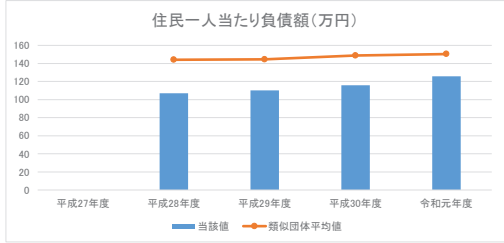
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 264,478 | 258,573 | 266,122 | 263,511 |
| 人口 | | 2,643 | 2,607 | 2,537 | 2,438 |
| 当該値 | | 100.1 | 99.2 | 104.9 | 108.1 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

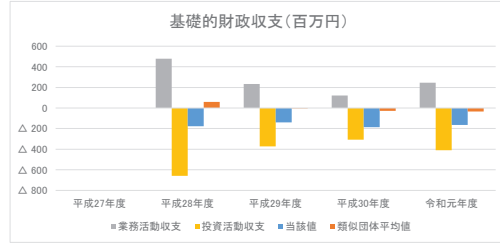
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 282,961 | 287,122 | 294,161 | 306,449 |
| 人口 | | 2,643 | 2,607 | 2,537 | 2,438 |
| 当該値 | | 107.1 | 110.1 | 115.9 | 125.7 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 479 | 233 | 122 | 246 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 657 | △ 372 | △ 308 | △ 410 |
| 当該値 | | △ 178 | △ 139 | △ 186 | △ 164 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

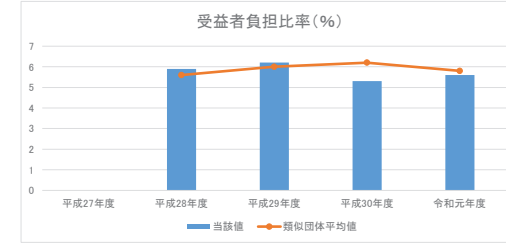
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 164 | 169 | 150 | 154 |
| 経常費用 | | 2,803 | 2,744 | 2,807 | 2,750 |
| 当該値 | | 5.9 | 6.2 | 5.3 | 5.6 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

有形固定資産減価償却率が類似団体平均を上回っている。建設から長期間経過し、更新時期を迎える施設が多いため、類似団体より高水準にある。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めるなど、適正管理に努める。

2. 資産と負債の比率

将来世代負担比率が類似団体平均を上回っている。保有する固定資産合計が少ないことも率を高める原因となっているが、今後将来世代への負担を減らすべく、新規に発行する地方債の抑制と、繰上償還の実行を検討していく。

3. 行政コストの状況

住民一人当たりの行政コストは、年々増加傾向にある。全体の行政コスト自体は横ばいであるが、人口減少が進む中で、それに併せて住民一人当たりのコストが増加している。今後は人口減少にあわせ、規模に見合った行政サービスの提供について検討していく。

4. 負債の状況

基礎的財政収支は、投資活動収支の赤字分が基金の取崩収入及び基金積立金支出を除いた業務活動収支の黒字分を上回ったため、△164百万円となっている。投資活動収支が赤字となっているのは、地方債を発行して公共施設等の必要な整備を行ったためである。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は、類似団体平均をやや下回る。経常費用のうち維持補修費の増加が顕著であることから、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設の薬物化や長寿命化を行うことにより、経常費用の削減に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

団体名 長野県飯綱町
団体コード 205907

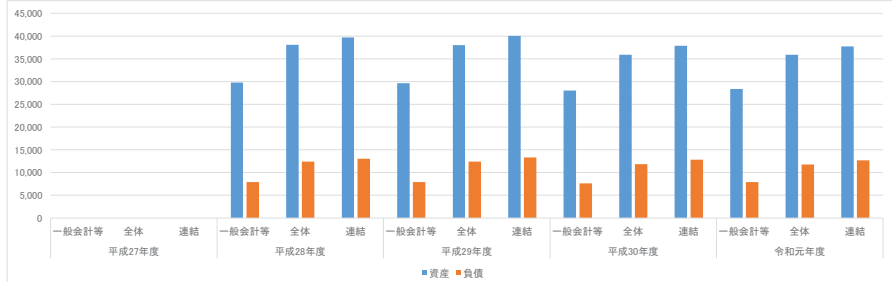
| | | | |
|--------|-----------------------|------------|-------|
| 人口 | 11,016 人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 127 人 |
| 面積 | 75.00 km ² | 実質赤字比率 | - % |
| 標準財政規模 | 4,748.811 千円 | 連結実質赤字比率 | - % |
| 類似団体区分 | 町村Ⅲ-0 | 実質公債費率 | 9.1 % |
| | | 将来負担比率 | - % |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | 29,810 | 29,810 | 29,667 | 28,050 | 28,352 |
| | 負債 | 7,918 | 7,883 | 7,883 | 7,653 | 7,935 |
| 全体 | 資産 | 38,107 | 38,107 | 38,011 | 35,880 | 35,866 |
| | 負債 | 12,378 | 12,378 | 12,388 | 11,818 | 11,779 |
| 連結 | 資産 | 39,683 | 40,050 | 40,050 | 37,849 | 37,693 |
| | 負債 | 13,075 | 13,075 | 13,328 | 12,812 | 12,710 |

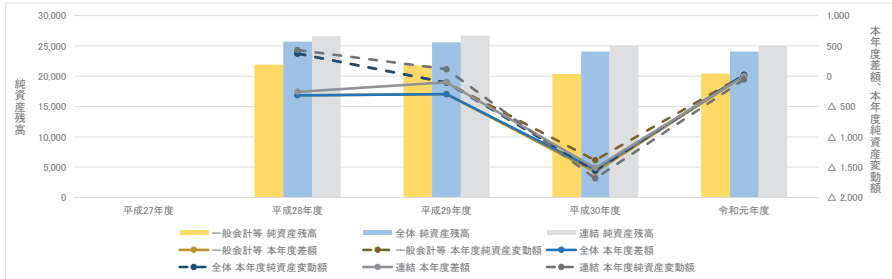


分析:
一般会計において、資産総額が前年度末から302百万円の増加となった。金額の変動が最も大きいものは有形固定資産である。有形固定資産は庁舎の建て替えに伴い事業用資産の建設仮勘定が増加となった。
資産合計のうち有形固定資産の割合が約80%となっており、これらの資産は将来の支出(維持管理・更新等)を伴うものであることから、公共施設等総合管理計画を適切に見直し、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努める。
負債総額は前年度末から282百万円増加となった。これは、主に庁舎建替えに伴い地方債が増加したことによるものである。
公営企業会計等を加えた全体では、病院事業会計で事業用資産の建物及び水道事業会計でインフラ資産の工作物で減価償却が進んだことに伴い減価償却累計額が増加したことにより14百万円の減少となった。
一部事務組合等を加えた連結では、長野広域連合、北部衛生施設組合、北信保健衛生施設組合の事業用資産の建物及び工作物が減少したため、156百万円の減少となった。

3. 純資産変動の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|---------|--------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 315 | △ 295 | △ 1,580 | 8 |
| | 本年度純資産変動額 | 372 | △ 107 | △ 1,387 | △ 1,387 | 20 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 315 | △ 297 | △ 1,539 | 12 |
| | 本年度純資産変動額 | 374 | △ 106 | △ 1,561 | △ 1,561 | 25 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 256 | △ 98 | △ 1,514 | 3 |
| | 本年度純資産変動額 | 432 | 115 | △ 1,686 | △ 1,686 | △ 54 |
| | 純資産残高 | 26,608 | 26,723 | 25,037 | 23,037 | 24,983 |

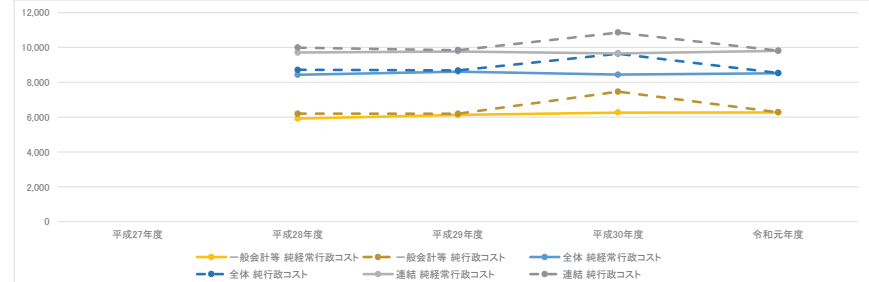


分析:
一般会計においては、収支等の財源(5,141百万円)が純行政コスト(6,282百万円)を下回っているが、国県等補助金(1,148百万円)の要因により本年度差額は7百万円となった。個人所得は横ばい状態であり、今後も大幅な増収は見込めない。事業量の適正化を図り、行政コストの削減に努める。
公営企業会計等を加えた全体においては、国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計等の国民健康保険料や介護保険料等が収支等に含まれることから、一般会計と比べて収支等が645百万円多くとなり、本年度差額は12百万円となり、純資産残高は前年度末から25百万円の増加となった。
一部事務組合等を加えた連結においては、後期高齢者医療広域連合等を通じたことにより、一般会計等と比べて収支等が1,912百万円多く、本年度差額は3百万円となった。その一方で、北部衛生施設組合で純資産変動計算書のその他において純資産のマイナスが多額に計上されたことにより、純資産残高は前年度末から54百万円の減少となった。

2. 行政コストの状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | 5,919 | 6,128 | 6,128 | 6,268 | 6,270 |
| | 純行政コスト | 6,201 | 6,197 | 6,197 | 7,466 | 6,281 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 8,434 | 8,611 | 8,611 | 8,444 | 8,524 |
| | 純行政コスト | 8,717 | 8,681 | 8,681 | 9,640 | 8,535 |
| 連結 | 純経常行政コスト | 9,707 | 9,776 | 9,776 | 9,659 | 9,807 |
| | 純行政コスト | 9,991 | 9,844 | 9,844 | 10,855 | 9,817 |

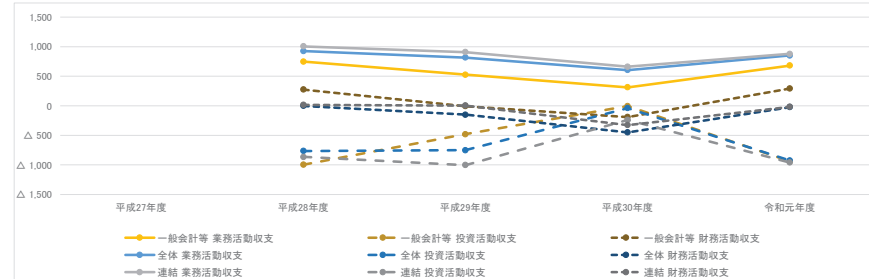


分析:
一般会計等においては、物件費(1,584百万円)、減価償却費(1,028百万円)、補助金等(1,449百万円)が1,000百万円を超えており、それらの合計が4,061百万円と経常費用(6,581百万円)の約62%を占めている。物件費はH29・H30年度に引き続き地方創生推進交付金を活用した総合戦略事業に積極的に取り組んでいる風中であり数値が高いが、交付金事業終了後には、事業評価等を行い、事業の適正化を図ることにより経費の縮減に努める。減価償却費は、施設の集約化・複合化を進めるなど公共施設等の適正管理に努めることにより、経費の削減に努める。補助金等は、町立病院への補助金と後期高齢者医療広域連合への負担金で費用の30%超を占めており、今後も大幅な減少は見込めない。純行政コストが1,185百万円減少しているのは、前年度にスキー場及びゴルフ場の土地売却による資産除却損の計上があったが当年度にはそのような事象が生じなかったことが要因となっている。公営企業会計等を加えた全体においては、経常費用が一般会計に比べ4,351百万円多くとなっている一方、経常収益が2,096百万円多くとなっている。経常費用の増加の主な要因は、国民健康保険事業特別会計及び介護保険事業特別会計の補助金等である。一部事務組合等を加えた連結においては、一般会計等と比べ、連結対象企業等の事業収益を計上し、経常収益が2,407百万円多くとなっている一方、人件費が1,625百万円多くなど、経常費用が5,944百万円多く、純行政コストは3,537百万円多くとなっている。

4. 資金収支の状況

(単位:百万円)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | 748 | 526 | 311 | 682 | |
| | 投資活動収支 | △ 996 | △ 481 | △ 4 | △ 941 | |
| | 財務活動収支 | 275 | △ 191 | △ 4 | 292 | |
| 全体 | 業務活動収支 | 926 | 817 | 603 | 850 | |
| | 投資活動収支 | △ 763 | △ 750 | △ 40 | △ 925 | |
| | 財務活動収支 | △ 3 | △ 151 | △ 450 | △ 23 | |
| 連結 | 業務活動収支 | 1,004 | 908 | 662 | 878 | |
| | 投資活動収支 | △ 864 | △ 1,004 | △ 239 | △ 961 | |
| | 財務活動収支 | 16 | 3 | △ 327 | △ 16 | |



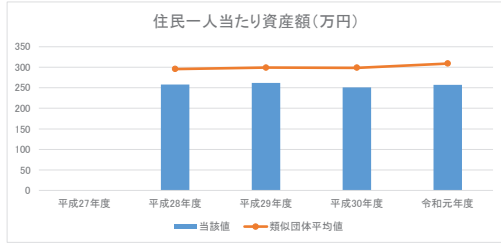
分析:
一般会計等においては、投資活動収支は、新庁舎建設による公共施設等整備費支出が高額となったため前年度と比較して937百万円増加となった。財務活動収支は、新庁舎建設に伴い地方債の償還を上回る発行を行ったため483百万円の増加となった。新庁舎建設に伴い公共施設等整備費支出が増加していることに伴い業務活動収支を上回る投資活動収支の赤字が発生しているが、過年度は業務活動収支の範囲内での投資を行っており、当年度はあくまで一時的な赤字であることから問題ないものと判断している。
公営企業会計等を加えた全体においては、国民健康保険税等が収支等に含まれることや病院事業の影響から、業務活動収支は一般会計等より168百万円多い。
一部事務組合等を加えた連結においては、長野広域連合等の業務収支の影響から、業務活動収支は一般会計等より196百万円多い。投資活動収支では、長野広域連合等の公共施設等整備費支出の影響により支出が増えているものの、国県等補助金や基金取崩収入を計上しており、△961百万円となった。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

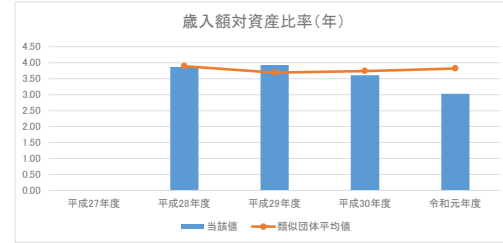
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 2,981,000 | 2,966,700 | 2,804,974 | 2,835,188 |
| 人口 | | 11,551 | 11,326 | 11,179 | 11,016 |
| 当該値 | | 258.1 | 261.9 | 250.9 | 257.4 |
| 類似団体平均値 | | 295.6 | 299.2 | 298.9 | 309.0 |



②歳入額対資産比率(年)

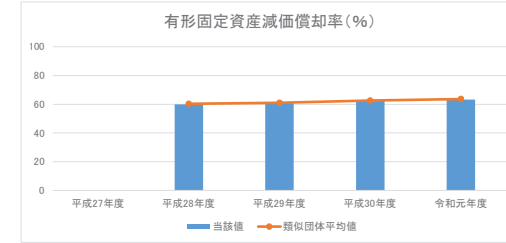
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 29,810 | 29,667 | 28,050 | 28,352 |
| 歳入総額 | | 7,707 | 7,554 | 7,775 | 9,360 |
| 当該値 | | 3.87 | 3.93 | 3.61 | 3.03 |
| 類似団体平均値 | | 3.89 | 3.69 | 3.74 | 3.82 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 26,965 | 27,795 | 28,435 | 29,384 |
| 有形固定資産 ※1 | | 45,067 | 45,735 | 45,431 | 46,419 |
| 当該値 | | 59.8 | 60.8 | 62.6 | 63.3 |
| 類似団体平均値 | | 60.3 | 61.0 | 62.5 | 63.6 |

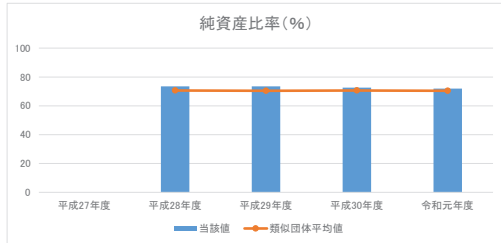
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

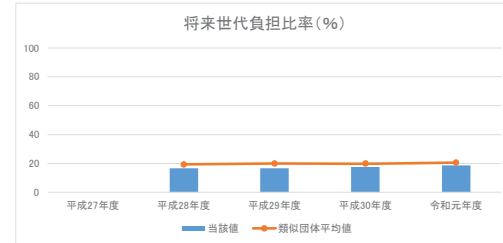
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 21,892 | 21,784 | 20,397 | 20,417 |
| 資産合計 | | 29,810 | 29,667 | 28,050 | 28,352 |
| 当該値 | | 73.4 | 73.4 | 72.7 | 72.0 |
| 類似団体平均値 | | 70.6 | 70.4 | 70.5 | 70.4 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 3,928 | 3,947 | 3,796 | 4,193 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 23,745 | 23,610 | 21,874 | 22,587 |
| 当該値 | | 16.5 | 16.7 | 17.4 | 18.6 |
| 類似団体平均値 | | 19.3 | 19.9 | 19.8 | 20.5 |

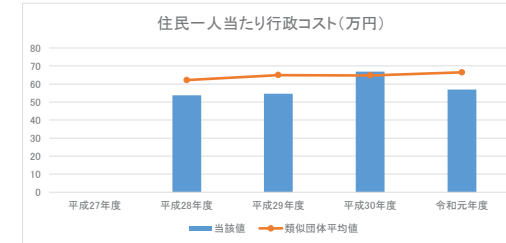
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

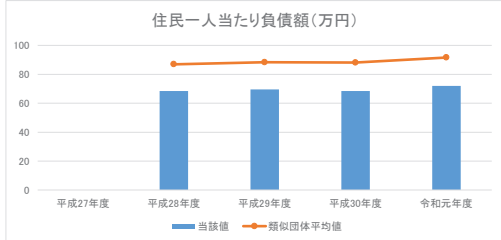
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 620,100 | 619,700 | 746,602 | 628,128 |
| 人口 | | 11,551 | 11,326 | 11,179 | 11,016 |
| 当該値 | | 53.7 | 54.7 | 66.8 | 57.0 |
| 類似団体平均値 | | 62.2 | 65.0 | 64.8 | 66.5 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

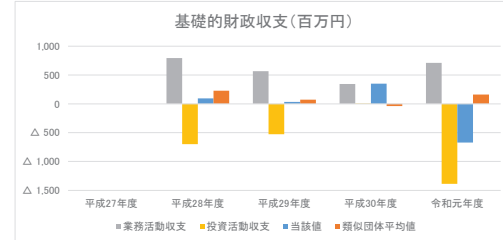
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 791,800 | 788,300 | 765,277 | 793,497 |
| 人口 | | 11,551 | 11,326 | 11,179 | 11,016 |
| 当該値 | | 68.5 | 69.6 | 68.5 | 72.0 |
| 類似団体平均値 | | 86.9 | 88.4 | 88.2 | 91.6 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 業務活動収支 ※1 | | 793 | 565 | 346 | 714 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 698 | △ 528 | 3 | △ 1,384 |
| 当該値 | | 95 | 37 | 349 | △ 670 |
| 類似団体平均値 | | 226.0 | 72.6 | △ 37.6 | 160.4 |

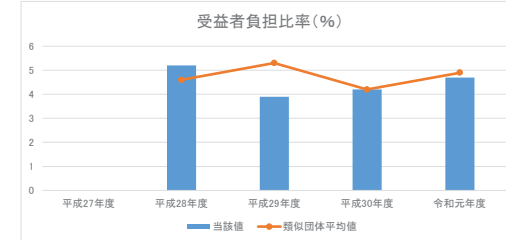
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取前収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 326 | 250 | 278 | 311 |
| 経常費用 | | 6,245 | 6,377 | 6,546 | 6,581 |
| 当該値 | | 5.2 | 3.9 | 4.2 | 4.7 |
| 類似団体平均値 | | 4.6 | 5.3 | 4.2 | 4.9 |



分析欄:

1. 資産の状況

住民一人当たりの試算額は類似団体平均を下回っているが、地方創生交付金を活用した公共施設整備を引続き予定しており、増加が見込まれる。将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、公共施設等総合管理計画を適切に見直し、施設の集約化・複合化を進めるなど施設保有量の適正化に取り組む。

歳入額対資産比率は、資産合計が横ばいであるのに対して歳入額が地方債発行の増額により増加していることから、前年度よりさらに減少したため、類似団体平均を下回った。有形固定資産減価償却率は、類似団体平均とほぼ同じ水準である。今後複数の新しい公共施設の完成が控えていることから、有形固定資産減価償却率は減少することが考えられる。

2. 資産と負債の比率

純資産比率は類似団体平均値を若干上回っているが、負債の90%超は地方債であり、庁舎の建替え等により地方債残高の増加が見込まれるため、引き続き比率の低下には注意する。将来世代負担比率は類似団体平均を若干下回っているが、今後地方債の新規発行が見込まれるため、高利率の地方債の借換えを行うなど、将来世代の負担の減少に努める。

3. 行政コストの状況

H30年度は、スキー場及びゴルフ場の売却により臨時損失の資産売却損が計上されたことにより住民一人当たりの行政コストは類似団体平均値とほぼ同じ数値となったが、R元年度はそのような事象は発生していないため、H29年度と同じ水準となり類似団体平均値を下回っている。

4. 負債の状況

住民一人当たりの負債額は、類似団体平均値を下回っている。しかし、負債のうち約90%超は地方債であり、今後も地方債の新規発行が見込まれているため、住民一人当たりの負債額も増加する見込みである。

基礎的財政収支は類似団体平均値を大きく下回った。業務活動収支が、収支等や国庫当補助金の増加により業務収入が増加した。一方で、投資活動収支が、庁舎の建て替えによる公共施設等整備支出の増加の影響により大きくマイナスに転じている。過年度はプラスで継続しており、住民一人当たり負債額や将来世代負担比率が類似団体よりも低い数値であることから地方債の発行残高について異常ではないと考えられることから、一時的な基礎的財政収支のマイナスも許容範囲内であると判断している。今後も適切な地方債の発行残高を維持し、基礎的財政収支がプラスになるような財政運営になるように注意する。

5. 受益者負担の状況

受益者負担比率は類似団体平均を若干下回っている。地方創生交付金を活用した総合戦略事業に積極的に取り組んでいることにより、物件費が高額となっている。交付金事業の終了後は、経費の削減に努める。また、今後予定している地方公会計のセグメント分析を活用し、受益者負担の適正化に努める。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

令和元年度 財務書類に関する情報①

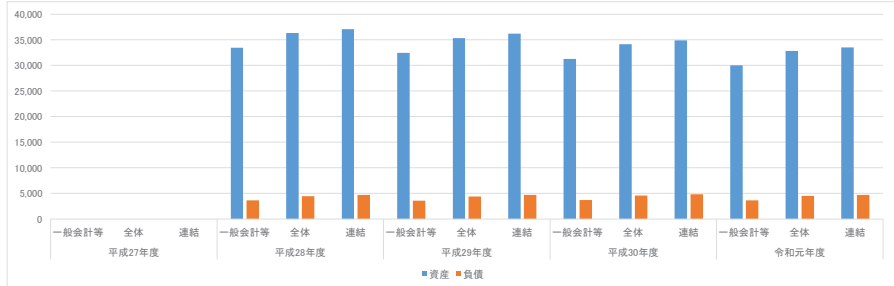
団体名 長野県栄村
団体コード 206024

| | | | |
|--------|------------------------|------------|------|
| 人口 | 1,798人(R2.1.1現在) | 職員数(一般職員等) | 60人 |
| 面積 | 271.66 km ² | 実質赤字比率 | -% |
| 標準財政規模 | 1,902,082千円 | 連結実赤字比率 | -% |
| 類似団体区分 | 町村I-0 | 実質公債費率 | 6.5% |
| | | 将来負担比率 | -% |

| 附属明細書・注記・固定資産台帳の公表状況 | | |
|----------------------|----|--------|
| 附属明細書 | 注記 | 固定資産台帳 |
| ○ | ○ | × |

1. 資産・負債の状況

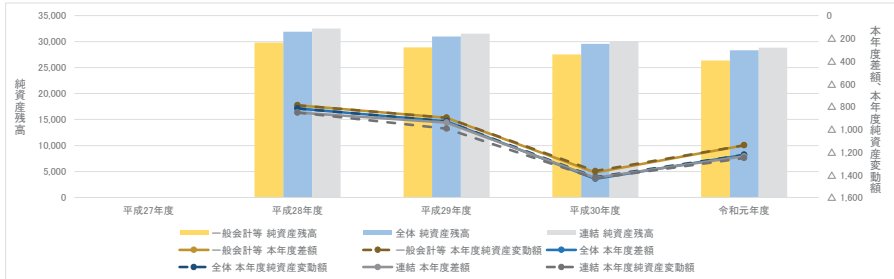
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般会計等 | 資産 | | 33,455 | 32,495 | 31,263 | 30,029 |
| | 負債 | | 3,675 | 3,613 | 3,747 | 3,653 |
| 全体 | 資産 | 36,384 | 35,361 | 34,158 | 32,831 | |
| | 負債 | 4,477 | 4,405 | 4,622 | 4,520 | |
| 連結 | 資産 | 37,076 | 36,234 | 34,923 | 33,548 | |
| | 負債 | 4,724 | 4,719 | 4,838 | 4,717 | |



分析:
一般会計等は、令和元年度末の資産総額が300億29百万円で、前年度末の資産総額から12億34百万円の減(△3.9%)となった。これは、道路等インフラ資産が1億47百万円増加(+0.3%)したのに対し、減価償却による資産減少が11億23百万円であったこと、財源不足による財政調整基金の取崩しが積立よりも大きく、令和元年度末残高が前年度末残高より1億28百万円減(△12.2%)となったことが主な要因である。令和元年度末の負債総額は36億53百万円で、前年度末から94百万円の減(△2.5%)となった。これは、地方債は償還額よりも新規発行が大きく17百万円の増(+0.6%)であったが、職員の年齢構成変化等に伴い退職手当引当金が1億12百万円の減(△15.3%)となったことが主な要因である。
全体会計は、前年度末との比較で資産総額が13億27百万円の減(△3.9%)となった。これは、簡易水道特別会計や生活排水・農業集落排水処理特別会計のインフラ資産は35百万円の増(+1.1%)となったが、その他特別会計における事業用資産が増加がなく、減価償却による資産減少の方が大きかったことから、要因である。負債総額は前年度末との比較で1億2百万円の減(△2.2%)となった。これは、簡易水道特別会計及び農業集落排水処理特別会計で新規の経費がなかったことなどから、地方債が1百万円の減(△0.5%)となったことが主な要因である。
連結会計は、前年度末との比較で資産総額が13億75百万円の減(△3.9%)、負債総額が1億21百万円の減(△2.5%)となった。資産及び負債総額は津南地域衛生施設組合等の一部事業組合、栄村物産センター等の村出資団体の決算分を含むことから、一般会計等と比べて資産が35億19百万円大きく、負債が10億64百万円大きくしている。

3. 純資産変動の状況

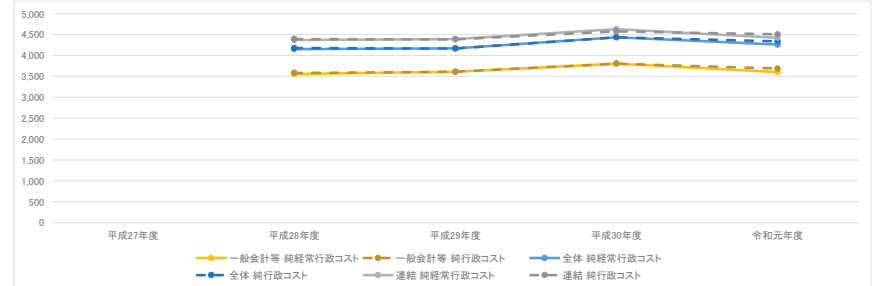
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|-----------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 一般会計等 | 本年度差額 | | △ 789 | △ 899 | △ 1,380 | △ 1,141 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 789 | △ 898 | △ 1,367 | △ 1,367 | △ 1,141 |
| 全体 | 本年度差額 | | △ 817 | △ 930 | △ 1,436 | △ 1,225 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 817 | △ 930 | △ 1,421 | △ 1,421 | △ 1,225 |
| 連結 | 本年度差額 | | △ 853 | △ 940 | △ 1,427 | △ 1,238 |
| | 本年度純資産変動額 | △ 853 | △ 995 | △ 1,431 | △ 1,431 | △ 1,253 |
| | 純資産残高 | | 32,510 | 31,515 | 30,085 | 28,832 |



分析:
一般会計等は、令和元年度末の純資産残高が263億75百万円で、前年度末残高と比較して11億41百万円の減(△4.1%)となっている。これは、経常的に発生する費用である純行政コストが、税収や国県補助金等の財源を上回るコスト過多の状況が依然として継続しているためである。両者の差額は平成30年度が△13億80百万円、令和元年度が△11億41百万円と若干の改善傾向が見られるものの、今後とも行政コストの削減と財源の適切な確保に努めていく必要がある。
全体会計は、国民健康保険特会、介護保険特会等の保険税や保険料が税収等に含まれることから、一般会計等と比べて税収等が1億93百万円増となり、国県等補助金も3億7百万円増となっているが、純行政コストも増加し、一般会計等同様コスト過多の状況となっていることから、純資産残高は前年度と比較して12億29百万円減(△4.1%)の28億11百万円となった。
連結会計は、後期高齢者医療広域連合等への補助金が財源に含まれることから、一般会計等と比べて国県等補助金が4億72百万円の増となっているが、行政コストも同様に増加しコスト過多の状況となっていることから、純資産残高は前年度と比較して12億53百万円減(△4.2%)の28億32百万円となった。

2. 行政コストの状況

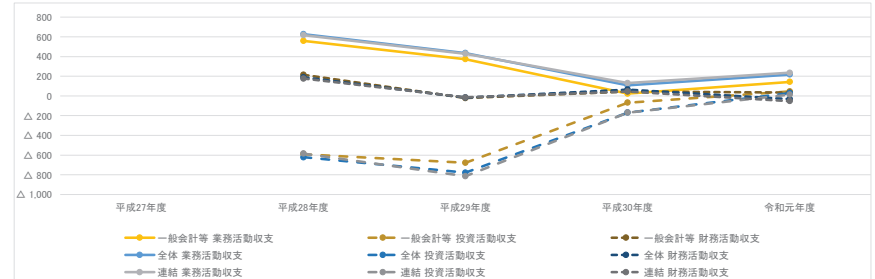
| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 純経常行政コスト | | 3,556 | 3,614 | 3,803 | 3,604 |
| | 純行政コスト | | 3,580 | 3,609 | 3,803 | 3,684 |
| 全体 | 純経常行政コスト | 4,151 | 4,170 | 4,170 | 4,434 | 4,259 |
| | 純行政コスト | 4,176 | 4,165 | 4,165 | 4,434 | 4,339 |
| 連結 | 純経常行政コスト | 4,368 | 4,389 | 4,389 | 4,630 | 4,423 |
| | 純行政コスト | 4,392 | 4,384 | 4,384 | 4,576 | 4,503 |



分析:
一般会計等は、純経常行政コストが36億4百万円となり、前年度と比較して1億99百万円の減(△5.2%)となった。これは、経常収益が前年度と同規模の1億2百万円であったのに対し、経常費用が37億6百万円で前年度と比較して2億4百万円の増(△5.2%)となったことが要因である。経常費用のうち、業務費用が3億11百万円の減(△10%)となっているが、これは退職手当引当金繰入額及び物件費の減少が大きいためである。対して移転費用は前年度から1億7百万円の増(+13.5%)となっているが、これは北信広域連合の老人ホーム建設に係る負担金の増など、各種団体への補助金等の増が要因である。また、純経常行政コストに臨時損益を増減した純行政コストは36億84百万円となった。これは、栄村振興公社解散に伴い、村の出捐金の80百万円を資産売却損として臨時損失に計上しているためである。
全体会計の純経常行政コストは、一般会計等と比べて、水道料金等使用料及び手数料に計上しているため、経常収益が一般会計等より1億56百万円増となっている一方、国民健康保険や介護保険の負担金を移転費用に計上していることから経常費用も1億1百万円増となり、純行政コストは43億39百万円となった。
連結会計の純経常行政コストは、連結対象団体の事業収益を計上していることから、経常収益は一般会計等と比べて3億94百万円の増となっている一方、北信広域連合や後期高齢者医療広域連合における社会保障給付費が移転費用に計上されていることから、経常費用は一般会計等と比べて12億13百万円の増となっており、純行政コストは45億3百万円となった。

4. 資金収支の状況

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 一般会計等 | 業務活動収支 | | 559 | 374 | 24 | 142 |
| | 投資活動収支 | △ 590 | △ 678 | △ 68 | △ 68 | 46 |
| | 財務活動収支 | 215 | △ 21 | 46 | 46 | 34 |
| 全体 | 業務活動収支 | 627 | 434 | 108 | 218 | |
| | 投資活動収支 | △ 622 | △ 778 | △ 169 | △ 169 | 29 |
| | 財務活動収支 | 190 | △ 17 | 65 | △ 32 | |
| 連結 | 業務活動収支 | 617 | 428 | 131 | 235 | |
| | 投資活動収支 | △ 584 | △ 814 | △ 169 | △ 169 | 14 |
| | 財務活動収支 | 177 | △ 15 | 45 | △ 53 | |



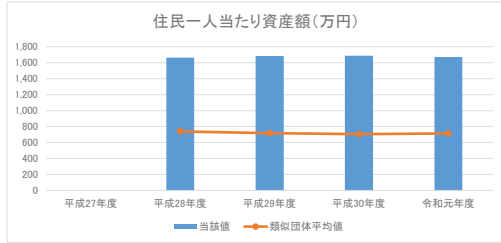
分析:
一般会計等は、業務活動収支が1億42百万円の赤字であった。業務収入25億38百万円のうち税収等収入が21億38百万円で85%を占めており、その大部分が地方交付税である。国県等補助金収入は2億81百万円で11%を占めている。他方、業務支出は23億96百万円で、そのうち人件費や物件費等の業務費用支出が14億96百万円で62%を占めており、補助金や社会保障給付費等の移転費用支出は9億円で38%を占めている。投資活動収支は46百万円の赤字で、投資活動収入4億93百万円のうち基金取崩収入が5億55百万円を占めている。他方、投資活動支出は4億48百万円でそのうち道路等のインフラ整備の支出が3億17百万円で70%を占めている。財務活動収支は34百万円の赤字で、財務活動収入は3億29百万円でその全てが地方債発行による収入である。財務活動支出は2億95百万円でその全てが地方債償還支出である。
全体会計は、国民健康保険や介護保険が税収等収入に含まれること、水道料金等使用料収入があることから、業務活動収支は一般会計等よりも76百万円増の2億18百万円の赤字となっている。投資活動収支は一般会計等以外の特別会計における補助金収入が少なく、一般会計等よりも17百万円減となっているものの29百万円の赤字となっている。
連結会計は、後期高齢者医療広域連合における保険料収入などがあることから、業務活動収支は一般会計よりも93百万円増となっている。逆に、財務活動収支は地方債発行による収入よりも償還に係る支出が多いことから一般会計等よりも87百万円減となり、53百万円の赤字となっている。

令和元年度 財務書類に関する情報②(一般会計等に係る指標)

1. 資産の状況

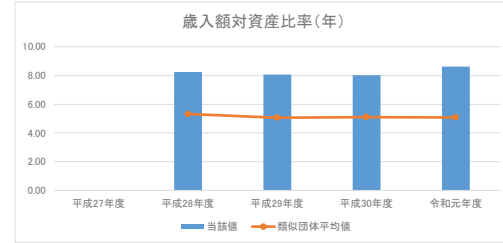
①住民一人当たり資産額(万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 資産合計 | | 3,345,517 | 3,249,531 | 3,126,300 | 3,002,900 |
| 人口 | | 2,010 | 1,931 | 1,854 | 1,798 |
| 当該値 | | 1,664.4 | 1,682.8 | 1,686.2 | 1,670.1 |
| 類似団体平均値 | | 739.1 | 715.9 | 705.3 | 712.9 |



②歳入額対資産比率(年)

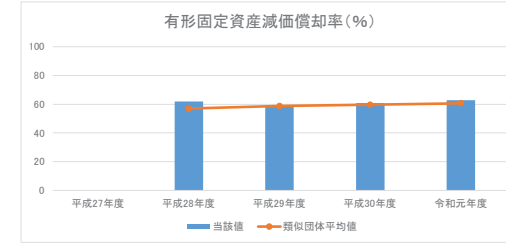
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 資産合計 | | 33,455 | 32,495 | 31,263 | 30,029 |
| 歳入総額 | | 4,065 | 4,026 | 3,900 | 3,486 |
| 当該値 | | 8.23 | 8.07 | 8.02 | 8.61 |
| 類似団体平均値 | | 5.32 | 5.06 | 5.11 | 5.08 |



③有形固定資産減価償却率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 減価償却累計額 | | 31,506 | 38,649 | 40,009 | 41,367 |
| 有形固定資産 ※1 | | 50,782 | 65,495 | 65,786 | 66,018 |
| 当該値 | | 62.0 | 59.0 | 60.8 | 62.7 |
| 類似団体平均値 | | 57.0 | 58.7 | 59.6 | 60.6 |

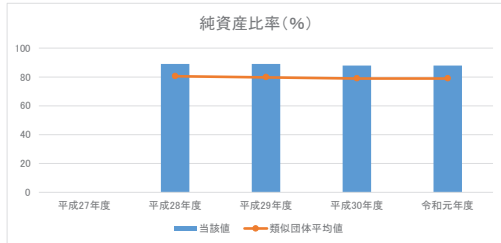
※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



2. 資産と負債の比率

④純資産比率(%)

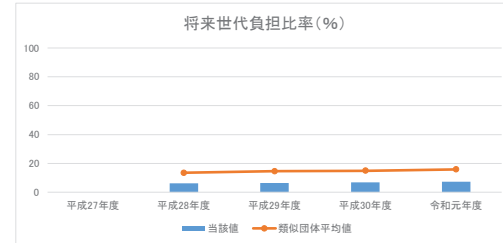
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 純資産 | | 29,780 | 28,883 | 27,516 | 26,375 |
| 資産合計 | | 33,455 | 32,495 | 31,263 | 30,029 |
| 当該値 | | 89.0 | 88.9 | 88.0 | 87.8 |
| 類似団体平均値 | | 80.5 | 79.8 | 78.9 | 78.9 |



⑤将来世代負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地方債残高 ※1 | | 1,862 | 1,867 | 1,933 | 2,003 |
| 有形・無形固定資産合計 | | 30,729 | 29,602 | 28,557 | 27,444 |
| 当該値 | | 6.1 | 6.3 | 6.8 | 7.3 |
| 類似団体平均値 | | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 15.8 |

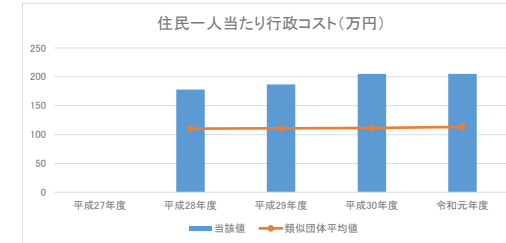
※1 特例地方債の残高を控除した後の額



3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コスト(万円)

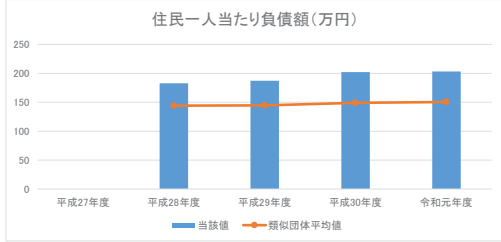
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 純行政コスト | | 358,049 | 360,903 | 380,300 | 368,400 |
| 人口 | | 2,010 | 1,931 | 1,854 | 1,798 |
| 当該値 | | 178.1 | 186.9 | 205.1 | 204.9 |
| 類似団体平均値 | | 110.2 | 110.8 | 111.5 | 113.2 |



4. 負債の状況

⑦住民一人当たり負債額(万円)

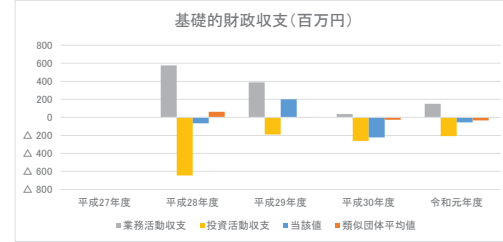
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 負債合計 | | 367,479 | 361,263 | 374,700 | 365,300 |
| 人口 | | 2,010 | 1,931 | 1,854 | 1,798 |
| 当該値 | | 182.8 | 187.1 | 202.1 | 203.2 |
| 類似団体平均値 | | 144.1 | 144.5 | 148.8 | 150.4 |



⑧基礎的財政収支(百万円)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 業務活動収支 ※1 | | 577 | 388 | 36 | 151 |
| 投資活動収支 ※2 | | △ 645 | △ 189 | △ 260 | △ 208 |
| 当該値 | | △ 68 | 199 | △ 224 | △ 57 |
| 類似団体平均値 | | 59.7 | △ 3.2 | △ 26.6 | △ 34.2 |

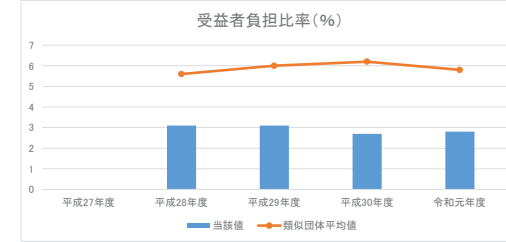
※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率(%)

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 経常収益 | | 115 | 114 | 107 | 102 |
| 経常費用 | | 3,670 | 3,728 | 3,910 | 3,706 |
| 当該値 | | 3.1 | 3.1 | 2.7 | 2.8 |
| 類似団体平均値 | | 5.6 | 6.0 | 6.2 | 5.8 |



分析欄:

1. 資産の状況

①住民一人当たり資産額は1,670.1万円で、前年度と比較して16.1万円の減(△1.0%)となった。若年の減少は見られるが、依然として類似団体平均値の2倍以上の数値であり、行政サービスに用いるための十分な資産が形成されていると考えられる。②歳入額対資産比率は8.61年で、前年度と比較して0.59年の増(+7.4%)となった。類似団体平均よりも高い数値であり、資産形成が進んでいると考えられるが、資産形成による維持管理コストの増という面にも注視しながら行政運営を行っていく必要がある。③有形固定資産減価償却率は62.7%で前年度と比較して1.9ポイントの増(+3.1%)となった。固定資産の老朽化が進んでいることを示し、特に道路橋梁等のインフラ資産の減価償却額が大きいことから、公共施設管理計画に基づき、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていく必要がある。

2. 資産と負債の比率

④純資産比率は87.8%で、前年度と比較して0.2ポイントの減(△0.2%)となったものの、類似団体平均よりも高い水準であり、過去及び現世代が将来に向かって資産を形成していることと捉えることができる。しかし、平成28年度から純行政コストに対する財源が少しずつ減少してきていることにより、純資産比率が減少傾向となっていることから、今後は職員採用計画に基づく人件費の抑制など、更なる行政コストの削減に努めていく必要がある。⑤将来世代負担比率は7.3%で、前年度と比較して0.5ポイントの増(+7.4%)となった。依然として類似団体平均よりも低い水準であり、将来世代へ大きな負担を強いる恐れは現状ではないが、純資産比率同様数値が悪化してきている状況であり、今後は地方債新規発行の抑制、資産の適正管理による健全な財政運営が必要である。

3. 行政コストの状況

⑥住民一人当たり行政コストは204.9万円で、前年度と比較して0.2ポイントの減(△0.1%)となった。わずかな減少が見られるものの、類似団体平均値と比較して2倍近くの数値となっている。本町の人口が少ないこと、面積が大きく道路等インフラ資産の維持管理費用が大きいこと、豪雪地帯であり雪害救助員などの冬期の人件費が大きいことが行政コスト増の要因と考えられる。今後は取組で運営している施設について指定管理者制度の導入を検討したり、職員の計画採用を進めたりするなど、行政コストの削減に努めていく必要がある。

4. 負債の状況

⑦住民一人当たりの負債額は203.2万円で、前年度と比較して1.1万円の増(+0.5%)となった。類似団体平均値と比較しても高い数値となっている。人口の減少により一人当たりの負債額は年々増加しており、今後も数値の悪化が進むものと思われる。事業の選択と集中により地方債の新規借入れを抑制していくことが必要である。⑧基礎的財政収支は△57百万円で、前年度と比較して1億67百万円の増となった。これは、業務活動収支において、税金等収入及び補助金収入が前年度より増加したことと赤字幅が大きくなり、投資活動収支において公共施設整備費支出が削減されたことから赤字幅が小さくなったため、数値の改善が見られた。しかし、依然としてマイナスの値となっており、地方債の発行により支出を賄っている状況であることから、地方債の新規発行を抑制していく必要がある。

5. 受益者負担の状況

⑨受益者負担比率は2.8%で、前年度と比較して0.1ポイントの増(+3.7%)となった。類似団体平均値と比較して低い水準であり、行政サービス提供に対する受益者の直接的な負担の割合が低い状況である。経常費用は人件費や物件費の削減により前年度から2億4百万円の減となっており、健全財政に踏み出しているが、経常収益が前年度から5百万円の減となっており、公共施設の使用料の見直しや使用機会の増加など受益者負担の適正化に取り組んでいく必要がある。

※各表に記載の類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。